項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第十五條　戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條　家督相續、廢絕家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條　第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十八條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名
二　戸主ノ本籍
三　戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱
四　家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱
五　戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日
六　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日
七　戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族ト實父母トノ續柄
八　戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子ト養親竝ニ實父母トノ續柄
九　戸主ト前戸主及ヒ家族トノ續柄
十　家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其家族トノ續柄
十一　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其續柄
十二　他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍、原籍ノ戸主ノ氏名及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
十三　後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ氏名、本籍及ヒ其就職竝ニ任務終了ノ年月日
十四　其他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十九條　戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一　戸主
第二　戸主ノ直系尊屬
第三　戸主ノ配偶者
第四　戸主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者
第五　戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者
第六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコトヲ要ス

第二十條　戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條　戸籍ニハ第十八條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名
二　報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報告者又ハ請求者ノ職氏名
三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ作製者竝ニ謄本發送者ノ職氏名
四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十二條　市町村長カ届書、報告書其他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

本籍地ノ市町村長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條　家督相續、家督相續回復其他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付キ届出、申請又ハ請求アリタルトキハ其届出、申請又ハ請求及ヒ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スルコトヲ要ス

家督相續人カ胎兒ナルトキハ其出生ノ記載ヲ爲スマテハ前二項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス此場合ニ於テハ前戸主ノ戸籍中戸主ニ關スル部分ヲ抹消シ家督相續人カ胎兒ナル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條　復籍拒絕ノ届出アリタルトキハ復籍拒絕者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後新戸籍ヲ編製スルトキハ之ニ復籍拒絕ニ關スル事項ヲ移記スルコトヲ要ス

復籍ヲ拒絕セラレタル者カ死亡シ其他復籍スルコトナキニ至リタルトキハ復籍拒絕ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條　家督相續人指定ノ届出アリタルトキハ其指定ヲ爲シタル者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條　離籍又ハ廢家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立又ハ廢家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用ヰス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ市町村長之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス每ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヰ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條　届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條　前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ遲滯ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出ヲ受理シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其届書及ヒ前ニ受理シタル届書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條　前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條　届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條　前條第一項ノ書類ハ一个月每ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條　第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滯ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條　同一ノ事件ニ付キ數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クコトヲ要ス

第四十二條ノ二　第三十一條乃至第三十四條及ヒ第三十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ内地ノ家ヲ去リテ内地ノ家ニ入リタル者及ヒ他ノ地域ノ家ヲ去リテ内地ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付キ之ヲ準用ス

第四章　届出

第一節　通則

第四十三條　届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條　日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第四十六條　届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一　届出事件
二　届出ノ年月日
三　届出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

届出事件ニ因リ届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條　届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條　届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治產者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　無能力ノ原因
三　届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條　無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ツルコトヲ要ス

禁治產者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條　證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第五十二條　届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條　届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條　届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條　第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第五十六條　二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ル外尙ホ一通ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第五十七條　口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其書面ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　届出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ届書ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附シ又ハ同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條　届書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第六十條　外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一个月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出

スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一个月内ニ本籍地ノ市町村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス

第六十二條　大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一个月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條　届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條　市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ届出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條　市町村長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條　届出期間經過後ノ届出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條　届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第三十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條　届出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第二節　出生

第六十九條　出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名及ヒ男女ノ別
二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨
三　出生ノ年月日時及ヒ場所
四　父母ノ氏名、本籍及ヒ職業
五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所
七　日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條　出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　嫡出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一　戸主
第二　同居者
第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆
第四　分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條　民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十五條　航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ掲ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十六條　病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條　出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

前項ノ申出アリタルトキハ市町村長ハ氏名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品、發見ノ場所、年月日時其他ノ狀況及ヒ氏名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝ニ本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做ス

第七十九條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十九條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條　第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　認知

第八十一條　私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名及ヒ本籍
四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條　胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其旨、母ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十三條　父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ從ヒ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條　第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第八十八條　緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ緣組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條　配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條　民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ緣組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十一條　民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ緣組ノ届出ヲ爲ストキハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條　緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條　緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名及ヒ本籍
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　養子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所
五　裁判確定ノ日

第九十四條　第五十七條第三項ノ規定ハ緣組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第九十五條　離緣ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第九十六條　民法第八百六十二條第二項ノ規定ニ依リ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スコトヲ得

第九十七條　民法第八百六十二條第三項ノ規定ニ依リ離緣ヲ爲ス場合ニ於テハ養子其届出ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第九十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條　第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五條乃至第九十七條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第百條　婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄
四　入夫婚姻又ハ壻養子緣組ナルトキハ其旨
五　入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨

當事者ノ一方カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百一條　婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ壻養子緣組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二條　第九十三條ノ規定ハ婚姻取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滯ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第百三條　第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第百四條　離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　當事者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　父母ノ氏名及ヒ本籍
三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
五　婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因竝ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第百五條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六條　第五十七條第三項ノ規定ハ第百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及ヒ後見

第百七條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八條　第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百九條　後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍
三　後見開始ノ原因及ヒ年月日
四　後見人就職ノ年月日

第百十條　後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第百十一條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百十二條　後見終了ノ届出ハ後見人十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　被後見人ノ氏名及ヒ本籍
二　後見終了ノ原因及ヒ年月日

第百十三條　前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第百十四條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

第九節　隱居

第百十五條　隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍
二　家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日竝ニ本籍及ヒ家督相續人ト隱居者トノ續柄
三　隱居ノ原因

第十節　死亡及ヒ失踪

第百十六條　死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日内ニ診斷書若クハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ

之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　死亡者ノ氏名、本籍及ヒ職業
二　死亡ノ年月日時及ヒ場所
三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第百十七條　左ニ揭ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス但順序ニ拘ハラス屆出ヲ爲スコトヲ得

第一　戸主
第二　同居者
第三　家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第百十八條　死亡ノ屆出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條　水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條　前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ揭ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ揭ケタル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日內ニ死亡ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條　第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ屆出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條　失踪宣告ノ屆出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　失踪者ノ氏名及ヒ本籍
二　民法第三十條ニ定メタル期間滿了ノ日
三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節　家督相續

第百二十五條　家督相續ノ屆出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一个月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日
二　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト戸主トノ續柄

第百二十六條　選定ニ因ル家督相續人カ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ選定ヲ證スル書面ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條　家督相續人カ胎兒ナルトキハ母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一个月內ニ診斷書ヲ添附シ家督相續ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　家督相續ノ原因及ヒ相續開始ノ年月日
二　家督相續人カ胎兒ナルコト
三　前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄

第百二十五條第三項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ之ヲ準用ス

第百二十八條　前條ノ屆出ヲ爲シタル後胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ一个月內ニ醫師又ハ產婆ノ檢案書ヲ添附シ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

母カ前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一个月內ニ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十九條　家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第百二十五條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十條　第百二十五條及ヒ前三條ノ屆出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二節　推定家督相續人ノ廢除

第百三十一條　推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　廢除ノ原因
三　裁判確定ノ日

第百三十二條　廢除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
二　裁判確定ノ日

第十三節　家督相續人ノ指定

第百三十三條　家督相續人指定ノ屆書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十四條　家督相續人指定取消ノ屆書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十五條　遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス

第百三十六條　指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第十四節　入籍、離籍及ヒ復籍拒絕

第百三十七條　民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラント欲スル者ハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

一　入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄
三　原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第百三十八條　民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サント欲スル者ハ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ前條ニ揭ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百三十九條　戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

一　離籍セラルヘキ者ノ氏名
二　離籍ノ原因

第百四十條　離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　離籍者ノ氏名及ヒ本籍
二　離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄
三　離籍ノ原因及ヒ年月日

第百四十一條　戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

一　復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍
二　復籍ヲ拒マルヘキ者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名
三　復籍拒絕ノ原因

第百四十二條　復籍拒絕又ハ復籍スヘキ家ノ廢絕ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ緣組若クハ婚姻ノ取消又ハ離緣若クハ離婚ノ屆書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ其屆出ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　復籍拒絕者又ハ廢絕家ノ戸主ノ氏名

及ヒ本籍
二　復籍拒絕ノ原因及ヒ年月日又ハ廢絕ノ年月日

第十五節　廢家及ヒ絕家

第百四十三條　廢家ヲ爲サント欲スル者ハ其者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス但家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルトキハ其旨ヲ屆書ニ記載スルコトヲ要ス

第百四十四條　絕家ノ家族ハ絕家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ一家創立ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　絕家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　絕家ノ原因及ヒ年月日

第十六節　分家及ヒ廢絕家再興

第百四十五條　分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

一　本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄
二　民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其氏名及ヒ出生ノ年月日
三　分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

第百四十六條　廢絕家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

一　廢絕家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍
二　廢絕ノ年月日
三　廢絕家ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄
四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節　國籍ノ得喪

第百四十七條　外國人カ養子緣組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ緣組又ハ婚姻ノ屆書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十八條　外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知ノ屆書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

認知者カ父ナルトキハ屆書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十九條　歸化ノ屆出ハ許可ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍
二　父母ノ氏名及ヒ國籍
三　許可ノ年月日
四　歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルトキハ屆書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十條　國籍喪失ノ屆出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍
二　國籍喪失ノ原因及ヒ年月日
三　新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第百五十一條　國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス但國籍法第二十條ノ二又ハ第二十條ノ三ノ規定ニ依ル國籍喪失者ニ付テハ此限ニ在ラス

國籍喪失者カ日本ノ官職ヲ帶ヒタル者ナルトキハ其官職ヲ失ヒタルコトヲ證スヘキ書面ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十二條　國籍回復ノ屆出ハ許可ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日
二　國籍回復前ニ有セシ國籍
三　許可ノ年月日
四　國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アルトキハ其氏名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ之ヲ準用ス

第十八節　氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

第百五十三條　氏名變更ノ屆出ハ許可ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　變更前ノ氏名
二　變更シタル氏名
三　許可ノ年月日

第百五十四條　新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日內ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　新舊族稱
二　族稱變更ノ原因
三　辭令又ハ許可ノ年月日

第百五十五條　爵ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ其謄本ヲ添附シ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十六條　華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日內ニ其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百五十七條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第十九節　轉籍及ヒ就籍

第百五十八條　轉籍セント欲スルトキハ新本籍ヲ屆書ニ記載シ戸主其旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス

第百五十九條　轉籍ノ屆出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十條　本籍ヲ有セサル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日內ニ就籍ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ第十八條ニ揭ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第百六十一條　就籍ノ屆出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百六十二條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ屆出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第百六十三條　第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ屆出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ屆書ニ添附スルコトヲ要ス

第五章　戸籍ノ訂正

第百六十四條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十五條　屆出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ屆出人又ハ屆出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第百六十六條　前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一个月內ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第百六十七條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一个月內ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滯ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第百六十八條　第四十三條、第四十六條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十九條及ヒ第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

第六章　抗告

第百六十九條　戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第百七十條　抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲ス

抗告狀ニハ屆書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第百七十一條　抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第百七十二條　市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第百七十三條　裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第百七十四條　裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限リ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第百七十五條　抗告ノ費用ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第七章　罰則

第百七十六條　正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ屆出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十七條　第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ屆出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ屆出又ハ申請ヲ爲ササル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第百七十八條　市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ屆出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二　戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三　正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條ノ書類ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

四　正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五　其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第百七十九條　過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

第百八十條　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚僞ノ屆出ヲ爲シタル者亦同シ

附則

第百八十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百八十二條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第百八十三條　本法ノ規定ハ本法施行前ノ屆出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第百八十四條　舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第百八十五條　舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省クコトヲ得

第百八十六條　身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム（大正三年勅令第百二十一號ヲ以テ大正四年一月一日ヨリ施行）

附　則（大正十三年法律第二十號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十三年勅令第二百六十三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行）

●戸籍法施行細則

（大正三年十月三日司法省令第七號）

（改正　大正四年第六號、五年第一號、第六號、九年第二號、一三年第三號）

戸籍法施行細則左ノ通相定ム

戸籍法施行細則

第一條　戸籍用紙ハ強靱ナル美濃紙ヲ用ヰ附錄第一號樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　戸籍カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ

舊法ノ規定ニ依ル戸籍ノ用紙ヲ用ヰ盡シタルトキハ前條ノ戸籍用紙ヲ用ヰテ其記載ヲ繼續スヘシ

第三條　戸籍簿ニハ附錄第二號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

戸籍簿ハ之ヲ分冊スルコトヲ得此場合ニ於テハ其表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分冊シタルトキハ其地區ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第四條　除籍簿ハ年毎ニ之ヲ別冊トシ其表紙ニ「大正何年除籍簿」ト記載スヘシ

前條ノ規定ハ各年度ノ除籍簿ニ之ヲ準用ス

市町村長ハ相當ト認ムルトキハ數年度ノ除籍簿ヲ合綴スルコトヲ得此場合ニ於テハ更ニ表紙ヲ附シ「（自大正何年至大正何年）除籍簿綴」ト記載スヘシ

第五條　戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其戸籍ノ副本ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

區裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ハラス何時ニテモ戸籍ノ副本ヲ徵スルコトヲ得戸籍法施行前戸籍簿ヨリ除カレタル戸籍ノ副本亦同シ

第六條　區裁判所カ前條第一項ノ規定ニ依リテ送付ヲ受ケタル副本及ヒ同條第二項ノ規定ニ依リテ徵シタル除籍ノ副本ハ市町村ノ區別ニ從ヒ之ヲ編綴シ除籍簿ノ副本トシテ之ヲ保存スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ帳簿ニ之ヲ準用ス

第七條　市町村長ハ戸籍簿及ヒ除籍簿ニ付キ各別ニ見出帳ヲ調製シ之ニ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スヘシ

前項ノ記載ハ戸主ノ氏ノ（イ）（ロ）（ハ）順ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

第八條　市町村長カ屆書其他ノ書類ヲ受理シ又ハ其送付ヲ受ケタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ノ外本籍人及ヒ非本籍人ノ區別ニ從ヒ受附ノ順序ニ依リ種類番號ヲ記載スヘシ

市町村長カ戸籍法第三十九條第二項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正又ハ記載ヲ爲ストキハ前項ニ掲ケタル事項ハ許可書ニ之ヲ記載スヘシ

第九條　事件ノ種類ハ戸籍法第四章第二節乃至第十九節ニ掲ケタル事件ノ區別ニ從ヒテ之ヲ定ムヘシ

屆出ノ追完、戸籍ノ訂正及ヒ戸籍法第百四十二條ニ依ル一家創立ノ屆出ニ關スル書類ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ハラス別ニ一ノ種目ヲ定ムヘシ

第十條　市町村長ハ附錄第三號樣式ニ依リ毎年受附帳ヲ調製シ其年度内ニ受理シタル事件ニ付キ受附ノ順序ニ從ヒ件名、屆出事件ノ本人ノ氏名竝ニ本籍、受附ノ番號竝ニ年月日及ヒ種類番號ヲ記載スヘシ

受附番號及ヒ種類番號ハ毎年之ヲ更新スヘシ

第十一條　戸籍ノ副本又ハ屆書其他ノ書類若クハ其謄本ノ送付ハ送付スヘキ書類ニ發送ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名ヲ記載シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條　戸籍ノ記載ハ附錄第一號樣式附屬雛形ニ定メタル相當欄ニ之ヲ爲スヘシ

直系尊屬、直系卑屬若クハ傍系親ノ間ニ在リテ親等ノ同シキ者又ハ戸主ノ親族ニ非サル者ハ親族順位ニ依リ親族順位ノ同シキ者ハ出生ノ前後ニ依リテ之ヲ記載スヘシ

事項欄ノ記載ハ附錄第四號記載例ニ從ヒ事件毎ニ行ヲ更メテ之ヲ爲スヘシ

第十三條　婚姻及ヒ離婚ニ關スル事項ハ夫及ヒ妻ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第十四條　復籍拒絶及ヒ家督相續人ノ指定ニ關スル事項ハ戸主ノ事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

新ニ戸籍ヲ編製スルトキハ戸主及ヒ家族ノ身分ニ關スル事項ニシテ基本タル戸籍ニ記載シタルモノハ之ヲ新戸籍ニ記載スヘシ

第十五條　戸籍法第百五十八條第二項ノ場合ニ於テハ屆書ニ添附シタル戸籍ノ謄本ニ記載シタル事項ハ婚姻其他ノ事由ニ因リ除籍者ニ關スルモノヲ除ク外之ヲ轉籍地ノ戸籍ニ記載スヘシ

第十六條　本籍地變更ノ後原籍地ノ市町村長カ受理シタル屆書其他ノ書類ハ之ヲ新本籍地ノ市町村長ニ送付シ其書類ニ依リテ爲シタル戸籍ノ記載ハ之ヲ抹消シ且其事由ヲ戸籍ニ記載スヘシ

新本籍地ノ市町村長カ前項ノ書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十七條　離緣又ハ離婚ニ因リ實家ニ復籍シタル者ニ付テハ戸籍ニ離緣又ハ離婚ニ關スル事項ノ外實家ノ戸籍又ハ除カレタル戸籍ニ基キ其者ニ關スル一切ノ事項ヲ記載スヘシ但實家ノ本籍地ノ市役所又ハ町村役場ニ保存スル戸籍及ヒ除カレタル戸籍ニ記載ナキ事項ハ此限ニ在ラス

第十八條　前條ノ規定ハ緣組又ハ婚姻ノ無效又ハ取消其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載ヲ回復スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　復籍拒絶ニ關スル記載ヲ抹消スルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

指定家督相續人ニ付キ死亡、指定ノ取消又ハ指定ノ效力ヲ失フヘキ事由ノ屆出アリタル場合ニ於テハ事由ヲ記載シテ家督相續人ノ指定ニ關スル戸籍ノ記載ヲ抹消スヘシ

第二十條　戸籍ノ全部若クハ一部又ハ其記載ヲ抹消スルニハ附錄第五號樣式ニ依リ之ヲ朱抹スヘシ

第二十一條　戸籍ノ訂正ヲ爲スニハ訂正ノ趣旨及ヒ事由ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ訂正スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第二十二條　行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ更正ヲ爲スニハ事項欄ニ更正ノ事由ヲ記載シ附錄第七號樣式ニ依リ更正スヘキ事項ノ記載ヲ訂正スヘシ

行政區畫又ハ土地ノ名稱ヲ更正スル場合ニ於テハ戸籍簿ノ表紙ニ記載シタル名稱ヲ更正シ表紙ノ裏面ニ其事由ヲ記載スヘシ

第二十三條　戸籍法第百八十四條第一項但書ノ規定ニ依リ身分登記ニ依リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

第二十四條　戸籍法第百八十五條但書ノ規定ニ依リ戸籍ノ記載ヲ省クトキハ其事由ヲ記載スヘシ

第二十五條　市町村長ノ代理者カ戸籍ノ記載ヲ爲ストキハ其文末ニ代理資格ヲ記載シテ認印スヘシ

第二十六條　戸籍法第三十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノハ其書類ヲ受理シタル市役所又ハ町村役場ノ區別ニ從ヒ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但分綴スルコトヲ妨ケス

第二十七條　戸籍法第三十六條第二項ノ書類ハ年毎ニ各別ニ之ヲ編綴スヘシ但分綴スルコトヲ妨ケス

第二十八條　區裁判所カ新戸籍ノ副本及ヒ第五條第一項ノ戸籍ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキ又ハ第五條第二項ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ヲ徵シタルトキハ前ニ送付ヲ受ケタル戸籍ノ副本ハ其戸籍ニ關スル屆書其他ノ書類ト共ニ別ニ編綴シ之ヲ廢書簿ト爲スヘシ但第六條ノ帳簿ニ編綴スヘキモノハ此限ニ在ラス

第二十九條　區裁判所カ戸籍法施行前ノ戸籍ノ副本ノ引繼ヲ受ケサル場合ニ於テ第五條第一項又ハ第二項ニ依リ戸籍ノ副本ノ送付ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

第三十條　市町村ノ區域ノ變更アリタル場合ニ於テ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ノ引繼ヲ完了シタルトキハ引繼ヲ受ケタル市町村長ヨリ其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

市町村ノ區域ノ變更ニ因リ區裁判所ノ管轄ニ變更ヲ生シタルトキハ舊管轄區域内ノ本籍人ノ戸籍竝ニ除カレタル戸籍ノ副本及ヒ之ニ關スル書類ハ新管轄區裁判所ニ之ヲ引繼クヘシ

第三十一條　戸籍簿及ヒ屆書其他ノ書類ハ鎖鑰アル書箱ニ藏メ其保存ヲ嚴ニシ倘ホ倉庫アルトキハ倉庫ニ藏置クヘシ

第三十二條　事變ヲ避クル爲メ戸籍簿又ハ除籍簿ヲ市役所又ハ町村役場外ニ持出シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第三十三條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其事由、年月日、帳簿ノ名稱、冊數其他必要ナル事項ヲ記載シ監督區裁判所ニ申報スヘシ

監督區裁判所前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ必要ノ調査ヲ爲シタル後其再製又ハ補完ノ方法ヲ具シ之ヲ管轄地方裁判所長及ヒ司法大臣ニ具申スヘシ

第三十四條　戸籍簿又ハ除籍簿ノ全部又ハ一部カ滅失スル虞アルトキハ前條ノ例ニ準シ申報及ヒ具申ヲ爲スヘシ

第三十五條　戸籍簿、除籍簿又ハ屆書其他ノ書類ノ閲覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第三十六條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其記載ニ接續シテ附錄第八號書式ニ依ル附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本カ數葉ニ渉ルトキハ職印ヲ以テ毎葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　前條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ市町村長ノ作ルヘキ屆書其他ノ書類ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十八條　戸籍法第十四條第三項ニ依ル告知ノ書面ハ附錄第九號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三十九條　屆出又ハ申請ノ受理又ハ不受理ノ證明書ハ附錄第十號書式ニ依リ屆書、申請書其他ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書其他法令ノ規定ニ依リテ交付スヘキ戸籍ニ關スル證明書ハ附錄第十一號書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ但市町村長ハ證明ヲ求ムル事項ヲ記載シタル書面又ハ其符箋ニ證明ノ趣旨及ヒ年月日ヲ記載シテ署名、捺印シ之ヲ以テ證明書ニ代フルコトヲ得

符箋ニ依リテ前項ノ證明ヲ爲ス場合ニ於テハ職印ヲ以テ接目ニ契印スヘシ

第四十條　身分登記簿ノ閲覽及ヒ身分登記ノ謄本竝ニ抄本ノ交付ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

第四十一條　市町村長カ屆出、申請又ハ其追完ヲ怠リタル者ニ對シ戸籍法第六十四條又ハ第六十五條ニ依リ爲スヘキ催告ハ附錄第十二號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十二條　市町村長カ屆出、申請又ハ其追完ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ屆出事件ヲ具シ其旨ヲ管轄區裁判所ニ通知スヘシ

第四十三條　屆出地カ屆出事件ノ本人ノ寄留地ナルトキハ屆出人ハ屆書ニ其旨ヲ記載スヘシ

戸籍法第四十四條第一項ノ規定ニ依リ日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ屆出人ノ所在地ニ於テ屆出ヲ爲ストキハ屆書ニ本人ノ寄留地ヲ記載スヘシ

第四十三條ノ二　同一市町村ニ於テ二以上ノ戸籍ニ記載ヲ爲スヘキ事項ニ付テハ監督區裁判所ハ其戸籍ノ數ト同數ノ屆書又ハ申請書ヲ提出セシムヘキコトヲ市町村長ニ命スルコトヲ得但市町村長ハ受理シタル屆書又ハ申請書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ屆書又ハ申請書ニ代フルコトヲ得

前項ノ書類ハ戸籍法第三十七條ノ規定ニ從ヒ之ヲ監督區裁判所ニ送付スヘシ

第四十四條　戸籍及ヒ之ニ關スル帳簿竝ニ書類ノ保存期間ハ後四條ノ定ムル所ニ依ル

第四十五條　除籍簿及ヒ除籍簿ノ副本ノ保存期間ハ五十年トス

戸籍法第三十六條第二項ノ書類ノ保存期間ハ十年戸籍法第三十七條ノ書類ニシテ非本籍人ニ關スルモノノ保存期間ハ三年トス

前二項ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第四十六條　受附帳ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ五年トス

第四十七條　廢書簿ノ保存期間ハ第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ戸籍ノ副本ノ送付アリタル翌年ヨリ三年トス

第四十八條　戸籍法第百八十四條第二項又ハ第百八十五條ニ依リテ戸籍ヲ改製シタル場合ニ於テハ原戸籍ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ五十年トス

第四十九條　本籍人身分登記簿ノ正本、非本籍人身分登記簿ノ正本竝ニ副本及ヒ非本籍人ノ身分ニ關スル屆書竝ニ附屬書類ノ保存期間ハ戸籍法施行ノ日ヨリ三年トス但第五十一條第一項第三號ニ掲ケタルモノハ此限ニ在ラス

本籍人身分登記簿ノ副本ノ保存期間ハ戸籍法施行ノ日ヨリ五十年トス但區裁判所カ第五條第二項ノ規定ニ依リ市町村毎ニ戸籍及ヒ戸籍法施行前戸籍簿ヨリ除カレタル戸籍ノ副本ノ全部ノ送付ヲ受ケタル翌年ヨリ三年間之ヲ保存スルヲ以テ足ル

第五十條　戸籍法施行前ノ戸籍ノ副本ハ新戸籍ノ副本ノ送付アルマテ又ハ戸籍法第百八十四條第二項若クハ第百八十五條ノ規定ニ依リ戸籍ノ改製ヲ爲スマテ之ヲ保存スヘシ

第五十一條　前二條ニ掲ケタルモノヲ除ク外戸籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ左ノ區別ニ依ル

一　除籍簿　五十年
二　舊戸籍法第二百二十一條第一項ニ依リ戸籍ヲ改製シタル場合ニ於ケル原戸籍　五十年
三　戸籍ノ記載ヲ要セサル事項竝ニ日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付テノ屆書及ヒ附屬書類　十年
四　戸籍及ヒ本籍人ノ身分ニ關スル屆書及ヒ附屬書類　十年
五　受附帳　三年

前項第一號及ヒ第三號乃至第五號ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ第二號ノ原戸籍ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條　前條第一項第二號ニ掲ケタルモノノ外舊戸籍法施行前ノ帳簿及ヒ書類ノ保存期間ハ從前ノ規定ニ依ル

第五十三條　市町村長カ保存期間ヲ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ目錄ヲ作リ監督區裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條　戸籍事務ノ取扱ニ關シ疑義ヲ生シタルトキハ市町村長ハ監督區裁判所ヲ經由シテ司法大臣ニ稟伺スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄目錄

第一號　戸籍ノ樣式
　附屬雛形
第二號　戸籍簿表紙ノ樣式
第三號　受附帳ノ樣式
第四號　戸籍記載例
第五號　戸籍ノ抹消ノ樣式
　第一　全部抹消
　第二　一部抹消
第六號　戸籍ノ訂正ノ樣式
　第一　全部ノ訂正
　第二　一部ノ訂正
第七號　本籍地ノ更正ノ樣式
第八號　謄本又ハ抄本ノ附記ノ書式
第九號　告知書ノ書式
第十號　受理又ハ不受理ノ證明書ノ書式
第十一號　記載事項證明書ノ書式
第十二號　催告狀ノ書式
　第一　屆出又ハ申請ノ催告狀ノ書式
　第二　同追完ノ催告狀ノ書式
　第三　同第二回以後ノ催告狀ノ書式

附錄第一號樣式

横五寸
竪八寸
二寸二分

表
本籍
前戸主
戸主
族稱
前戸主トノ續柄
父
母
出生

裏

表
父
母
出生
父
母
出生

裏
父
母
出生
父
母
出生

附錄第一號樣式附屬雛形

注意（本雛形ハ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ相當欄及ヒ特殊ノ記載例ヲ示スニ止マリ必要アル記載事項ヲ網羅セス）

本籍
東京市麹町（朱）區元園町一丁目三番地
麹町四丁目六番地

前戸主
甲野仁吉

大正参年拾貳月參拾壹日前戸主仁吉死亡ニ因リ家督相續屆出大正四年壹月拾日受附㊞

大正四年八月拾日附辭令ヲ以テ華族ニ列セラル右屆出同月拾七日受附㊞

麹町區麹町四丁目六番地ニ轉籍屆出大正四年拾月六日受附㊞

乙野梅子ト婚姻屆出大正四年拾壹月七日受附㊞

姪萩子戸主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川俤八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絶屆出大正参拾参年拾貳月拾日受附㊞

戸主
族稱　（朱）華族　士族
前戸主トノ續柄　亡甲野仁吉長男
父　亡甲野仁吉
母　松子
長男
甲野義太郎
出生　明治拾八年六月貳拾壹日

大正拾年拾壹月壹日午後八時本籍ニ於テ死亡戸主甲野義太郎屆出同月貳日受附㊞

母
父　乙山孝吉
母　春子
三女
（朱）（朱）
松子
出生　明治貳年參月四日

職

千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠藏二女大正四年拾壹月七日甲野義太郎ト婚姻屆出同日入籍㊞

妻
父　乙野忠藏
母　夏子
二女
梅子
出生　明治貳拾六年七月四日

印

長男

千葉縣千葉郡千葉町四番地ニ於テ出生父甲野義太郎届出大正五年九月拾八日千葉町長波川保吉受附同月貳拾日送付入籍㊞

疾病ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルニ因リ推定家督相續人廢除大正貳拾年七月六日裁判確定戸主甲野義太郎届出同月八日受附㊞

父　甲野義太郎
母　梅子
長男
禮太郎
出生　大正五年九月拾壹日

長女

千葉縣千葉郡千葉町四番地ニ於テ出生母甲野梅子届出大正六年九月六日受附入籍㊞

父　甲野義太郎
母　梅子
長女
櫻子
出生　大正六年九月參日

二男

本籍ニ於テ出生父甲野義太郎届出大正八年貳月拾日受附入籍㊞

乙原藤子ト婚姻届出大正參拾參年七月五日受附㊞

父　甲野義太郎
母　梅子
二男
禮二郎
出生　大正八年貳月參日

弟

養父麴町區元園町一丁目四番地戸主丙川信太郎弟信二郎及養母鶴子ト協議離緣届出大正九年拾月壹日受附復籍㊞

大正拾年拾月拾日東京地方裁判所ニ於テ懲役ノ刑ニ處セラレ華族ノ族稱喪失右同裁判所ノ報告同月拾六日受附㊞

千葉縣千葉郡千葉町三番地ニ分家届出大正拾五年拾月拾五日千葉町長波川保吉受附同月拾六日送付除籍㊞

父　甲野仁吉
母　松子
二男
族稱　平民
朱　朱
~~義二郎~~
出生　明治參拾四年五月七日

職

印

婦

千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信藏二女大正參拾參年七月五日甲野禮二郎ト婚姻届出同日入籍㊞

父　乙原信藏
母　秋子
二女
家族トノ續柄　二男禮二郎妻
藤子
出生　大正拾貳年五月六日

姪

麴町區元園町一丁目六番地戸主丙山忠吉二女戸主甲野義太郎姪入籍届出大正參拾參年九月七日受附㊞

神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川悌八ト婚姻届出大正參拾參年拾月壹日橘村長山邊熊藏受附同月參日送付除籍㊞

父　丙山忠吉
母　冬子
二女
朱　朱
~~萩子~~
出生　大正元年拾月五日

孫

麴町區平河町一丁目四番地戸主丙野悌三長女杉子本籍ニ於テ庶子出生父甲野禮太郎届出大正參拾參年拾月四日受附入籍㊞

父　甲野禮太郎
母　丙野杉子
庶子男
智太郎
出生　大正貳拾貳年八月壹日

千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠藏曾孫入籍戸主妻梅子届出大正參拾參年拾壹月拾日受附㊞

父　乙野忠兵衞
母　竹子
三男
家族トノ續柄　妻梅子姪孫
忠之助
出生　大正貳拾年五月八日

職

印

孫

本籍ニ於テ出生父甲野禮二郎届出大正參拾四年七月拾日受附入籍㊞

乙川孝之丞ト壻養子緣組婚姻届出大正五拾五年參月四日受附㊞

父　甲野禮二郎
母　藤子
長女
百合子
出生　大正參拾四年七月七日

孫

千葉縣千葉郡千葉町六番地戸主乙川孝輔孫大正五拾五年參月四日甲野義太郎孫百合子ト壻養子緣組婚姻届出同日入籍㊞

父　乙川孝二郎
母　龜子
二男
養父　甲野禮二郎
養母　藤子
壻養子
孝之丞
出生　大正參拾年五月五日

父
母
出生

父
母
出生

附錄第二號樣式　戸籍簿表紙

（何冊ノ內第一）

戸籍簿（副本）

（地區ノ名稱）

東京市麴町區役所

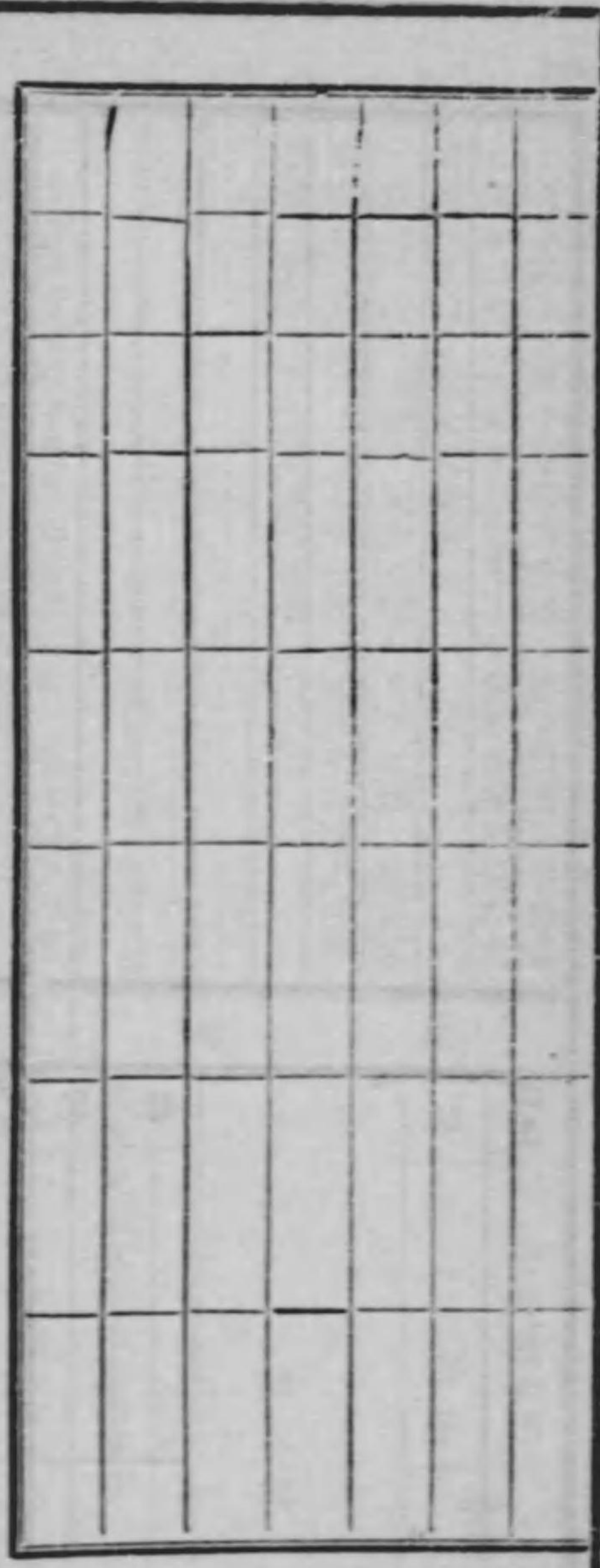
附錄第三號樣式　受附帳（用紙美濃紙）

大正何年

戸籍受附帳

何町村役場

受附番號	種類番號 本籍人 非本籍人	件名	受附年月日	届出事件本人ノ氏名	本籍	備考
受附番號	種類番號 本籍人 非本籍人	件名	受附年月日	届出事件本人ノ氏名	本籍	備考



附錄第四號　戶籍記載例（括弧內ノ記載ハ戶籍ノ記載ヲ爲スヘキ事項欄ヲ示ス）

目次

戶籍記載例

出生

一　子ノ本籍地ニ於テ屆出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（子ノ事項欄）
二　出生地ニ於テ同居者ヨリ屆出テタル私生子出生ニ關スル記載（同上）
三　庶子カ一家ヲ創立スル場合ニ於テ子ノ本籍地ニ於テ後見人ヨリ屆出テタル庶子出生ニ關スル記載（同上）
四　父未定ノ子ノ出生ニ關スル記載（後夫ノ戶籍中子ノ事項欄）
五　非本籍市長ノ送付ニ係カル航海日誌ノ謄本ニ依ル嫡出子出生ニ關スル記載（子ノ事項欄）
六　名未定ノ子ノ出生ニ關スル記載（同上）
七　前例ニ付キ子ノ名ノ追完ニ關スル記載（同上）
八　棄兒發見ニ關スル記載（同上）
九　棄兒ノ引取ニ因ル戶籍ノ訂正（同上）
十　私生子認知ノ效力ヲ生セシムル目的ヲ以テ父母共ニ屆出テタル嫡出子出生ニ關スル記載（同上）

認知

十一　私生子認知ノ屆出ニ因リ子カ父ノ家ニ入ル場合ニ於ケル認知ニ付テノ記載（父ノ戶籍中子ノ事項欄）
十二　除籍地ノ市町村長カ他ノ市町村ニ在ル父ノ家ニ入ルヘキ私生子ノ認知ニ付テノ記載及ヒ入籍通知ニ因リテ爲ス除籍（原籍戶籍中子ノ事項欄）
十三　裁判ニ依ル認知ニ關スル記載（父ノ戶籍中子ノ事項欄）
十四　遺言ニ依ル認知ニ關スル記載（同上）

養子緣組

十五　本籍地ヲ同シクスル當事者カ本籍地ニ於テ屆出テタル養子緣組ニ因ル入籍（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
十六　同上除籍（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
十七　本籍地ヲ異ニスル當事者カ養親ノ所在地ニ於テ屆出テタル養子緣組ニ因ル入籍（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
十八　同上除籍（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
十九　婚家又ハ養家ヨリ更ニ他家ニ緣組ヲ爲シタル場合ニ於ケル入籍（新ニ緣組ヲ爲シタル養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
二十　夫ト共ニスル緣組ニ因ル妻ノ入籍（養家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
二十一　同上除籍（養子ノ實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
二十二　養子ニ代ハリ父母カ承諾ヲ爲ス養子緣組ニ關スル記載（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
二十三　夫カ夫婦ノ名義ヲ以テスル緣組ニ關スル記載（養家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
二十四　遺言ニ依ル養子緣組ニ關スル記載（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
二十五　緣組屆出ノ不受理ニ對スル抗告ニ付テノ裁判ニ依ル記載（同上）
二十六　養子緣組取消ノ裁判ニ因ル除籍（括弧內ノ記載ハ婚家ヨリ緣組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ緣組ノ取消ノ場合ニ於テ婚家ノ廢家ノ爲メ其實家ニ復籍スル場合ニ關ス）（同上）

離緣

二十七　實家ト養家ト本籍地ヲ同シクスル場合ニ於ケル協議離緣ニ因ル養子ノ除籍（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
二十八　同上復籍（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
二十九　養子ト共ニ妻ノ除籍（養家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
三十　同上入（復）籍（養子ノ實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
三十一　實家ノ本籍地外ニ於テ屆出テタル協議離緣ニ因ル復籍（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
三十二　養親ノ死亡後養子カ戶主ノ同意ヲ得テ爲ス離緣ニ因ル除籍（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
三十三　裁判上ノ離緣ニ因ル養子ノ除籍（同上）
三十四　同上一家創立ニ關スル記載（創立シタル家ノ戶籍中戶主ノ事項欄）
三十五　離緣及ヒ離緣ノ後養家ノ本籍地ニ於テ屆出テタル一家創立ニ關スル記載（同上）
三十六　同上實家ノ本籍地ニ於テ屆出テタル一家創立ニ關スル記載（同上）
三十七　離緣及ヒ一家創立ニ因ル除籍（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
三十八　離緣及ヒ實家再興ニ因ル除籍（同上）

婚姻

三十九　夫ニ付キ婚姻ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
四十　婚姻ニ因ル妻ノ入籍（婚家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
四十一　同上除籍（實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
四十二　婚姻證書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
四十三　妻ニ付キ壻養子緣組ニ關スル記載（妻ノ事項欄）
四十四　壻養子緣組ニ因ル夫ノ入籍（養家ノ戶籍中壻養子ノ事項欄）
四十五　同上夫ノ除籍（壻養子ノ實家ノ戶籍中壻養子ノ事項欄）
四十六　入夫婚姻ニ因ル夫ノ入籍（新戶籍中入夫戶主ノ事項欄）
四十七　妻ニ付キ入夫婚姻ニ關スル記載（同妻ノ事項欄）
四十八　父母ノ婚姻ニ因ル嫡出子ノ身分取得ニ關スル記載（嫡出子ノ身分ヲ取得シタル者ノ事項欄）
四十九　檢事ノ請求ニ因ル婚姻取消ノ裁判ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
五十　同上妻ノ除籍（婚家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
五十一　本籍不明ノ夫カ婚姻ヲ爲シタル後本籍分明ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於ケル夫ニ付テノ記載（夫ノ事項欄）
五十二　同上妻ノ入籍（婚家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
五十三　同上除籍（實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）

離婚

五十四　夫ニ付キ協議離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
五十五　協議離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
五十六　同上復籍（實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）
五十七　夫ニ付キ裁判上ノ離婚ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
五十八　裁判上ノ離婚ニ因ル妻ノ除籍（妻ノ事項欄）
五十九　同上復籍（實家ノ戶籍中妻ノ事項欄）

親權及ヒ後見

六十　親權（管理權）ノ喪失ニ關スル記載（子ノ事項欄）

六十一　失權宣告ノ取消ニ關スル記載（同上）
六十二　後見ノ開始ニ關スル記載（無能力者ノ事項欄）
六十三　後見人ノ更迭ニ關スル記載（同上）
六十四　後見ノ終了ニ關スル記載（同上）
六十五　保佐人ニ關スル記載（同上）

隱居

六十六　隱居ニ關スル記載（隱居者ノ事項欄）
六十七　裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス隱居ニ關スル記載（同上）
六十八　婚姻ニ因リ隱居ヲ爲シタルモノト看做ス場合ニ關スル記載（實家ノ戶籍中戶主ノ事項欄）

死亡及ヒ失踪

六十九　本籍地ニ於テ屆出テタル死亡ニ關スル記載（死亡者ノ事項欄）
七十　水難ニ付キ取調官廳ノ報告ヲ受ケタル場合ニ關スル記載（同上）
七十一　在監中ノ死亡ニ關スル記載（同上）
七十二　本籍氏名不明ノ死亡者ニ付キ本籍氏名ノ報告アリタル場合ニ關スル記載（同上）
七十三　死亡ニ關シ職權ヲ以テ爲ス記載（同上）
七十四　失踪ニ關スル記載（失踪者ノ事項欄）

家督相續

七十五　選定家督相續人ノ相續ニ關スル記載（新戶籍中戶主ノ事項欄）
七十六　前戶主ノ戶籍ノ抹消（前戶主ノ事項欄）
七十七　入夫婚姻ニ因ル前戶主ノ戶籍ノ抹消（同上）
七十八　胎兒ノ家督相續ニ付キ前戶主ノ戶籍ノ記載（前戶主ノ事項欄）
七十九　家督相續人タル胎兒ノ死體分娩ニ關スル記載（同上）
八十　胎兒ノ家督相續ニ付キ新戶籍ノ記載（新戶籍中戶主ノ事項欄）
八十一　家督相續人タル胎兒ノ出生ノ屆出ニ因ル前戶主ノ戶籍ノ抹消（前戶主ノ事項欄）
八十二　家督相續ノ回復ニ付キ新戶籍ノ記載（新戶籍中戶主ノ事項欄）
八十三　家督相續ノ回復ノ場合ニ於テ戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ戶籍ノ抹消（戶主ノ名義ヲ有セシ者ノ事項欄）

推定家督相續人ノ廢除

八十四　廢除ニ關スル記載（推定家督相續人ノ事項欄）
八十五　廢除取消ニ關スル記載（廢除セラレタル者ノ事項欄）

家督相續人ノ指定

八十六　指定ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）
八十七　指定ノ取消ニ關スル記載（同上）
八十八　指定家督相續人ノ死亡ニ關スル記載（同上）
八十九　家督相續人ノ指定ノ失效ニ關スル記載（同上）

入籍、離籍及ヒ復籍拒絕

九十　民法第七百三十七條ノ規定ニ依ル入籍（入リタル家ノ戶籍中入籍者ノ事項欄）
九十一　同上除籍（去リタル家ノ戶籍中入籍者ノ事項欄）
九十二　民法第七百三十八條ノ規定ニ依ル入籍（入リタル家ノ戶籍中入籍者ノ事項欄）
九十三　離籍ニ關スル記載（離籍者ノ戶籍中離籍セラレタル者ノ事項欄）
九十四　離籍ニ因ル除籍（同上）
九十五　離籍セラレタル者ノ妻ノ除籍（同妻ノ事項欄）
九十六　離籍ニ因ル一家創立ニ關スル記載（新戶籍中戶主ノ事項欄）
九十七　離籍セラレタル者ノ妻ノ入籍（同妻ノ事項欄）
九十八　復籍拒絕ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）
九十九　新戶籍ニ於ケル復籍拒絕ニ關スル事項ノ移記（新戶籍中戶主ノ事項欄）
百　復籍ヲ拒絕セラレタル者ノ一家創立ニ因ル復籍拒絕ノ記載抹消（戶主ノ事項欄）
百一　復籍ヲ拒絕セラレタル者ノ死亡ニ付キ職權ヲ以テスル記載（同上）

廢家及ヒ絕家

百二　廢家ニ關スル記載（廢家戶主ノ事項欄）
百三　裁判所ノ許可ヲ得テ爲ス廢家ニ關スル記載（同上）
百四　廢家ニ因ル除籍（同上）
百五　絕家ニ關スル記載（最終戶主ノ事項欄）
百六　絕家ニ因ル一家創立ニ關スル記載（一家創立者ノ事項欄）
百七　絕家ノ家族ノ一家創立ニ因ル除籍（絕家ノ戶籍中家族ノ事項欄）
百八　職權ヲ以テスル絕家ノ戶籍ノ抹消（最終戶主ノ事項欄）

分家

百九　分家ニ因ル新戶籍ノ記載（戶主ノ事項欄）
百十　分家ノ戶主ニ隨ヒテ其家ニ入ル直系卑屬ノ入籍（新戶籍中直系卑屬ノ事項欄）
百十一　分家者ノ除籍（本家戶籍中分家戶主ノ事項欄）
百十二　分家ノ戶主ニ隨ヒテ其家ニ入ル直系卑屬ノ除籍（同直系卑屬ノ事項欄）

廢絕家再興

百十三　廢絕家再興ニ因ル新戶籍ノ記載（戶主ノ事項欄）
百十四　廢絕家再興者ノ除籍（去リタル家ノ戶籍中再興者ノ事項欄）

國籍ノ得喪

百十五　外國人タル女トノ婚姻ニ關スル記載（夫ノ事項欄）
百十六　婚姻及ヒ之ニ因ル國籍取得ニ關スル記載（妻ノ事項欄）
百十七　認知及ヒ之ニ因ル國籍取得ニ關スル記載（子ノ事項欄）
百十八　歸化ニ關スル記載（一家創立者ノ事項欄）
百十九　婚姻及ヒ之ニ因ル國籍喪失ニ關スル記載（國籍喪失者ノ事項欄）
百二十　國籍回復ニ關スル記載（國籍回復者ノ事項欄）

氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

百二十一　名ノ變更ニ關スル記載（名ヲ變更シタル者ノ事項欄）
百二十二　族稱ノ變更ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）
百二十三　襲爵ニ關スル記載（同上）
百二十四　處刑ニ因ル族稱喪失ニ關スル記載（族稱喪失者ノ事項欄）

轉籍

百二十五　他ノ市町村ヨリノ轉籍ニ關スル記載（新戶籍中戶主ノ事項欄）
百二十六　他ノ市町村ニ轉籍ノ場合ニ關スル記載（原戶籍中戶主ノ事項欄）
百二十七　同一市町村內ニ於ケル轉籍ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）
百二十八　本籍地ニ於ケル土地ノ名稱ノ更正ニ關スル記載（戶主ノ事項欄）

就籍

百二十九　就籍ニ關スル記載（入籍者ノ事項欄）

戶籍ノ訂正

百三十　許可ノ裁判ニ依ル出生ノ日ノ訂正（子ノ事項欄）
百三十一　戶籍法第四十條ノ規定ニ依ル出生ノ日ノ訂正（子ノ事項欄）
百三十二　嫡出子否認ノ裁判ニ因ル戶籍ノ訂正（同上）
百三十三　父確定ノ裁判ニ因ル戶籍ノ訂正及ヒ除籍（同上）
百三十四　養子緣組無效ノ確定判決ニ因ル戶籍ノ訂正（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
百三十五　同上（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
百三十六　緣組無效ニ付キ許可ノ裁判ニ依ル戶籍ノ訂正（養家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
百三十七　同上（實家ノ戶籍中養子ノ事項欄）
百三十八　隱居取消ノ確定判決ニ因ル戶籍ノ訂正（戶主ノ名義ヲ有シタル者ノ戶籍中戶主ノ事項欄）
百三十九　失踪宣告取消ノ確定判決ニ因ル戶籍ノ訂正（同上）
百四十　職權ヲ以テスル戶籍ノ訂正（訂正スヘキ記載アル者ノ事項欄）

戶籍記載例

出生

一　麴町區平河町一丁目四番地ニ於テ出生父

甲野義太郎届出大正五年九月貳拾日受附入籍㊞

二　神奈川縣橘樹郡橘村四番地ニ於テ私生子出生同居者丙原猪吉届出大正五年九月拾八日橘村長山邊熊藏受附同月貳拾日送付入籍㊞

三　神奈川縣橘樹郡橘村五番地戸主丙野晋吉長女梧子麹町區平河町一丁目四番地ニ於テ庶子出生父甲野義太郎後見人乙野忠太郎届出大正五年九月五日受附父母ノ家ニ入ルコトヲ得サルニ因リ一家創立㊞

四　麹町區平河町一丁目四番地ニ於テ出生父未定母甲野藤子届出大正參拾參年拾貳月貳拾壹日受附入籍㊞

五　神戸港ヨリ横濱港ニ向ケ航海中ノ船舶日本丸内ニ於テ出生船長丙原鮫吉ノ作製發送ニ係カル航海日誌ノ謄本大正五年九月拾九日横濱市長船崎安守受附同月貳拾日送付入籍㊞

六　麹町區平河町一丁目四番地ニ於テ出生名未定產婆丙原鳥子届出大正五年九月貳拾日受附入籍㊞

七　父甲野義太郎子ノ名追完届出大正五年九月貳拾貳日受附㊞

八　大正五年九月貳拾日一家創立同日附麹町區長雲井高輔調書ニ依リ記載㊞

九　大正五年拾月拾八日父麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎引取戸籍訂正申請同月貳拾日受附戸籍抹消㊞

十　麹町區平河町一丁目四番地ニ於テ出生父甲野義太郎母梅子届出大正五年九月貳拾日受附入籍㊞

認知

十一　神奈川縣橘樹郡橘村五番地戸主丙野晋吉長女裕子私生子父甲野義太郎認知届出大正五年九月貳拾日受附入籍㊞

十二　父東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎認知届出大正五年九月貳拾日受附㊞

同月貳拾壹日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十三　神奈川縣橘樹郡橘村四番地戸主丙野杉子私生子大正貳拾五年拾貳月拾日私生子認知ノ裁判確定親權ヲ行フ母杉子届出同月拾參日受附入籍㊞

十四　麹町區平河町一丁目四番地戸主丙野杉子私生子父亡甲野證太郎認知遺言執行者丙原龍藏届出大正五拾年拾月拾八日受附入籍㊞

養子縁組

十五　麹町區元園町一丁目三番地戸主乙川孝輔二男甲野義太郎同人妻梅子ト養子縁組届出大正五年七月四日受附入籍㊞

十六　麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎同人妻梅子ト養子縁組届出大正五年七月四日受附除籍㊞

十七　千葉縣千葉郡千葉町六番地戸主乙川孝輔二男甲野義太郎同人妻梅子ト養子縁組届出大正四年七月四日横濱市長舟崎安守受附同月五日送付入籍㊞

十八　東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎同人妻梅子ト養子縁組届出大正五年七月四日横濱市長舟崎安守受附同月五日送付㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

十九　麹町區麹町四丁目六番地戸主甲野義太郎甥（實家戸主麹町區元園町一丁目三番地乙川孝輔養父甲野義二郎養母菊子）丙川信助同人妻雪子ト養子縁組届出大正拾年拾月七日受附入籍㊞

二十　夫孝二郎ト共ニ養子縁組届出大正五年七月四日受附入籍㊞

二十一　夫孝二郎ト共ニ養子縁組届出大正五年七月四日受附除籍㊞

二十二　麹町區元園町一丁目三番地戸主乙川孝輔二男甲野義二郎ト養子縁組同人及縁組承諾者乙川孝輔竝妻鋼子届出大正拾貳年拾月七日受附入籍㊞

二十三　夫孝二郎ト共ニ養子縁組本人所在不明ニ付キ夫ヨリ雙方ノ名義ヲ以テ届出大正五年七月四日受附入籍㊞

二十四　麹町區元園町一丁目三番地戸主乙川孝輔二男亡甲野義太郎ト養子縁組遺言執行者丙原龍藏届出大正貳拾年七月七日受附入籍㊞

二十五　千葉縣千葉郡千葉町六番地戸主乙川孝輔孫甲野證二郎同人妻藤子ト養子縁組大正五年七月四日届出右不受理ニ對スル抗告ニ付キ同月貳拾參日附東京區裁判所ノ裁判ニ基キ同月貳拾四日受附入籍㊞

二十六　大正四年拾月拾四日養子縁組取消ノ裁判確定養父甲野義太郎養母梅子届出同月拾八日受附㊞同月貳拾日（婚家廢家ニ付キ實家麹町區元園町一丁目三番地乙川孝輔家籍ニ）入籍通知ニ因リ除籍㊞

離縁

二十七　養父丙川信二郎養母鶴子ト協議離縁届出大正九年拾月壹日受附除籍㊞

二十八　養父麹町區元園町一丁目四番地戸主丙川信太郎弟信二郎及養母鶴子ト協議離縁届出大正九年拾月壹日受附復籍㊞

二十九　大正九年拾月壹日夫義二郎離縁ニ付キ共ニ除籍㊞

三十　大正九年拾月壹日夫義二郎復籍シタルニ付キ共ニ入（復）籍㊞

三十一　養父千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙川信太郎弟信二郎養母鶴子ト協議離縁届出大正九年拾月壹日千葉町長波川保吉受附同月貳日送付復籍㊞

三十二　養父丙川信二郎養母鶴子死亡後戸主丙川信太郎ノ同意ヲ得テ離縁届出大正拾年拾月壹日受附除籍㊞

三十三　大正九年九月貳拾七日離縁ノ裁判確定養父丙川信二郎養母鶴子届出同年拾月壹日受附㊞同月六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

三十四　大正九年九月貳拾七日離縁ノ裁判確定養父千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙川信太郎弟丙川信二郎養母鶴子届出同年拾月壹日千葉町長波川保吉受附同月參日送付實家廢家ニ付キ一家創立㊞

三十五　養父千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙川信二郎養母鶴子ト協議離縁届出實家廢家（絶家）ニ付キ（縁組ニ付キ東京市麹町區麹町四丁目六番地實家戸主甲野義太郎ノ同意ヲ得サリシ爲メ大正參拾參年拾月壹日復籍ヲ拒絶セラレタルニ付キ）一家創立届出大正五拾年拾貳月拾七日千葉町長波川保吉受附同月貳拾日送付㊞

三十六　養父千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主丙川信二郎養母鶴子ト協議離縁届出大正五拾年拾貳月拾七日千葉町長波川保吉受附同月貳拾日送付實家廢家（絶家）ニ付キ（縁組ニ付キ東京市麹町區麹町四丁目六番地實家戸主甲野義太郎ノ同意ヲ得サリシ爲メ大正參拾參年拾月壹日復籍ヲ拒絶セラレタルニ付キ）一家創立届出同月拾八日麹町區長雲井高輔受附同月貳拾日送付㊞

三十七　養父丙川信二郎養母鶴子ト協議離縁届出大正九年拾月壹日受附實家廢家（絶家）ニ付キ神奈川縣橘樹郡橘村百番地ニ一家創立㊞同月拾六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

三十八　養父丙川信二郎養母鶴子ト協議離縁届出大正九年拾月壹日受附實家廢家（絶家）ニ付キ神奈川縣橘樹郡橘村百番地ニ再興㊞

同月拾日入籍通知ニ因リ除籍㊞

婚姻

三十九　乙原藤子ト婚姻届出大正參拾參年七月五日受附㊞

四十　千葉縣千葉郡千葉町四番地戸主乙原信藏二女大正參拾參年七月五日甲野證二郎ト婚姻届出同日入籍㊞

四十一　東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野證二郎ト婚姻届出大正參拾參年七月五日麹町區長雲井高輔受附同月七日送付除籍㊞

四十二　マリヤ、ベルナールト婚姻大正參拾參年五月六日イ國何職何某婚姻證書作製右謄本提出同月拾日同國駐在大使大和武雄受附同年六月五日送付㊞

四十三　乙川忠二郎ト壻養子縁組婚姻届出大正貳拾年八月拾日受附㊞

四十四　千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙川忠吉二男大正貳拾年八月拾日甲野義太郎長女櫻子ト壻養子縁組婚姻届出同日入籍㊞

四十五　東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎長女櫻子ト壻養子縁組婚姻届出大正貳拾年八月拾日麹町區長雲井高輔受附同月拾壹日送付除籍㊞

四十六　千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙川忠吉二男大正四拾年五月五日藤子ト入夫婚姻届出同日入籍戸主ト爲ル㊞

四十七　乙川忠二郎ト入夫婚姻届出大正四拾年五月五日受附㊞

四十八　大正四年拾壹月七日父甲野義太郎母梅子ノ婚姻ニ因リ嫡出子ト爲ル㊞

四十九　大正拾年六月拾四日梅子トノ婚姻取消ノ裁判確定東京地方裁判所檢事戊野賢二記載請求同月拾八日受附㊞

五十　大正拾年六月拾四日甲野義太郎トノ婚姻取消ノ裁判確定東京地方裁判所檢事戊野賢二記載請求同月拾八日受附㊞同月貳拾日入籍通知ニ因リ除籍㊞

五十一　丙川山子ト婚姻届出大正拾貳年七月參日橘村長山邊熊藏受附甲野義二郎本籍分明届出同年八月參拾日同村長山崎寅藏受附同年九月貳日送付㊞

五十二　神奈川縣橘樹郡橘村四番地戸主丙川悌八姉大正拾貳年七月參日甲野義二郎ト婚姻届出同年九月貳日入籍㊞

五十三　本籍不明甲野義二郎ト婚姻届出大正拾貳年七月參日受附㊞甲野義二郎本籍東京市麹町區麹町四丁目六番地分明届出同年八月參拾日受附㊞同年九月參日入籍通知ニ因リ除籍㊞

離婚

五十四　妻藤子ト協議離婚届出大正四拾年六月五日受附㊞

五十五　大正四拾年六月五日夫證二郎ト協議離婚届出㊞同月七日入籍通知ニ因リ除籍㊞

五十六　夫東京市麹町區麹町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男證二郎ト協議離婚届出大正四拾年六月五日麹町區長雲井高輔受附同月六日送付復籍㊞

五十七　大正四拾年六月五日離婚ノ裁判確定夫證二郎届出同日受附㊞

五十八　大正四拾年六月五日離婚ノ裁判確定㊞同月七日入籍通知ニ因リ除籍㊞

五十九　大正四拾年六月五日離婚ノ裁判確定夫東京市麹町區麹町四丁目六番地戸主甲野義太郎二男證二郎届出同月五日麹町區長雲井高輔受附同月六日送付復籍㊞

親權及ヒ後見

六十　大正拾年七月參日父義太郎親權（管理權）喪失ノ裁判確定ニ因リ母梅子親權（管理權）ヲ行フ旨届出同月七日受附㊞

六十一　大正拾八年八月五日失權宣告取消ノ裁判確定義太郎弟乙山義三郎届出同月九日受附㊞

六十二　大正拾五年七月拾日親權ヲ行フ母財產ノ管理ヲ辭シタルニ因リ後見開始同月參拾日後見人千葉縣千葉郡千葉町五番地乙野忠太郎就職ニ付キ届出八月七日受附㊞

六十三　大正拾六年七月七日後見人乙野忠太郎辭任同月拾日千葉縣千葉郡千葉町五番地乙野乙二郎就職ニ付キ更迭届出同月拾五日受附㊞

六十四　大正拾八年八月五日被後見人成年ニ達シタルニ付キ後見終了届出同月八日受附㊞

六十五　大正拾九年五月四日準禁治產宣告同月拾日保佐人千葉縣千葉郡千葉町五番地乙野忠二郎就職ニ付キ届出同月拾五日受附㊞

隱居

六十六　隱居届出大正四年拾壹月六日受附㊞

六十七　大正四年拾月拾日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ隱居届出同年拾壹月六日受附㊞

六十八　東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎ト婚姻届出大正四年拾壹月七日麹町區長雲井高輔受附同月八日送付㊞隱居ノ上除籍㊞

死亡及ヒ失踪

六十九　大正拾年六月壹日午後八時麹町區平河町一丁目四番地ニ於テ死亡戸主甲野義太郎届出同月參日受附㊞

七十　大正拾年五月五日神奈川縣足柄下郡酒匂村沖ニ於テ水難ニ因リ死亡酒匂村長海邊浪吉報告同月六日受附㊞

七十一　大正拾壹年九月拾日午前拾時東京市牛込區市ヶ谷富久町東京監獄ニ於テ死亡典獄鬼頭鐵造報告同月拾貳日牛込區長天津晴風受附報告書謄本同月拾四日送付㊞

七十二　大正拾壹年九月拾日午前拾時横濱市加賀町五番地先道路ニ於テ本籍氏名不詳ノ者死亡ニ付キ加賀町警察署長警視刑部律造ノ報告書同日横濱市長舟崎安守受附同警察署長警視法本三章ノ死亡者ノ本籍氏名ノ報告書同月拾五日同市長鶴崎一義受附兩報告書謄本同月拾七日送付㊞

七十三　明治參拾五年參月日及ヒ場所不詳死亡届出ヲ爲ス者ナキニ付キ大正四年貳月壹日附東京區裁判所ノ許可ニ依リ同月五日除籍㊞

七十四　大正四拾五年拾貳月五日失踪宣告大正四拾年參月拾日死亡ト看做サル右本人弟甲野證二郎届出同月七日受附㊞

家督相續

七十五　大正參年拾貳月參拾壹日前戸主仁吉死亡ニ因リ選定家督相續人千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠藏四男忠四郎相續届出大正四年壹月拾日受附㊞

七十六　大正四年壹月拾日甲野義太郎ノ家督相續届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

七十七　大正四拾年五月五日乙川忠二郎ト入夫婚姻届出忠二郎戸主ト爲リタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

七十八　大正參年拾貳月參拾壹日前戸主仁吉死亡ニ因リ母甲野松子胎兒ノ爲メ家督相續届出大正四年壹月拾日受附㊞

七十九　大正四年貳月拾六日家督相續人タル胎兒死體ニテ分娩母甲野松子届出同月貳拾日受附家督相續ノ記載抹消㊞

八十　大正參年拾貳月參拾壹日前戸主仁吉死亡ニ因リ母甲野松子胎兒ノ爲メ家督相續届出大正四年壹月拾日受附前戸主ノ戸籍ヨリ移記㊞

八十一　大正四年壹月拾日家督相續人義太郎ノ出生届出アリタルニ付キ本戸籍ヲ抹消ス㊞

八十二　大正參年拾貳月參拾壹日前戸主仁吉死亡ニ因リ家督相續大正四年拾月拾貳日家督相續回復ノ裁判確定届出同月貳拾日受附㊞

八十三　大正四年拾月貳拾日義太郎ノ家督相續回復届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス㊞

推定家督相續人ノ廢除

八十四　大正貳拾年七月六日疾病ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルニ因リ推定家督相續人廢除ノ裁判確定戸主甲野義太郎届出同月八日受附㊞

八十五　大正貳拾四年八月拾參日家督相續人廢除取消ノ裁判確定戸主甲野義太郎届出同月拾八日受附㊞

家督相續人ノ指定

八十六　千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠藏四男忠四郎ヲ家督相續人ニ指定届出大正四拾五年五月四日受附㊞

八十七　家督相續人乙野忠四郎指定取消届出大正四拾六年拾月六日受附指定ノ記載抹消㊞

八十八　大正四拾六年拾月六日指定家督相續人乙野忠四郎死亡甲野義太郎届出同月八日受附家督相續指定ノ記載抹消㊞

八十九　大正四拾六年拾月六日三郎出生ニ因リ家督相續人ノ指定失效ニ付キ其記載抹消㊞

入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

九十　神奈川縣橘樹郡橘村五番地戸主丙山忠吉二女戸主甲野義太郎姪入籍届出大正參拾參年九月七日受附入籍㊞

九十一　東京市麹町區麹町四丁目六番地甲野義太郎家籍ニ入籍届出大正參拾參年九月七日麹町區長雲井高輔受附同月九日送付除籍㊞

九十二　千葉縣千葉郡千葉町五番地戸主乙野忠藏曾孫入籍戸主妻梅子届出大正參拾參年拾壹月拾日受附入籍㊞

九十三　戸主ノ同意ヲ得スシテ鳥子ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ離籍届出大正參拾參年拾壹月五日受附㊞

九十四　麹町區平河町一丁目四番地ニ一家創立届出大正參拾參年拾壹月拾日受附除籍㊞

九十五　大正參拾參年拾壹月五日夫證太郎一家ヲ創立シタルニ因リ共ニ除籍㊞

九十六　麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎長男戶主ノ同意ヲ得スシテ烏子ト婚姻ヲ爲シ大正參拾參年拾壹月五日離籍ニ因リ一家創立屆出同月拾日受附㊞

九十七　大正參拾參年拾壹月拾日夫禮太郎一家ヲ創立シタルニ因リ共ニ入籍㊞

九十八　姪萩子戶主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絕屆出大正參拾參年拾貳月拾日受附㊞

九十九　姪萩子戶主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絕屆出大正參拾參年拾貳月拾日受附右前戶主義太郎ノ戶籍ヨリ移記㊞

百　大正五拾年拾貳月拾九日神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川悌八妻萩子離婚ニ因リ同村一番地ニ一家創立屆出同月貳拾日橘村長山邊熊藏受附同月貳拾壹日送付右萩子ノ復籍拒絕ノ記載抹消㊞

百一　大正五拾年拾貳月拾九日神奈川縣橘樹郡橘村十番地丙川悌八妻萩子死亡屆出ヲ爲ス者ナキニ付キ大正五拾壹年參月拾日附東京區裁判所ノ許可ニ因リ同月拾壹日右萩子ノ復籍拒絕ノ記載抹消㊞

廢家及ヒ絕家

百二　廢家屆出大正六拾五年五月五日受附㊞

百三　大正六拾五年五月四日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ依リ廢家屆出同月五日受附㊞

百四　千葉縣千葉郡千葉町五番地乙野忠二郎家籍ニ親族入籍戶主甲野義太郎屆出大正六拾五年五月拾日受附㊞同月拾五日入籍通知ニ因リ全戶除籍㊞

百五　家督相續人ナキニ因リ絕家甲野菊子屆出大正六拾五年五月五日受附㊞

百六　麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎妹大正六拾五年五月壹日義太郎死亡家督相續人ナキニ付キ絕家ニ因リ一家創立屆出同月五日受附㊞

百七　麴町區平河町一丁目五番地ニ於テ一家創立屆出大正六拾五年五月五日受附除籍㊞

百八　相續人ナキニ因リ絕家大正六拾六年九月六日附東京區裁判所ノ許可ニ依リ同月七日本戶籍抹消㊞

分家

百九　麴町區麴町四丁目六番地戶主甲野義太郎弟分家屆出大正拾五年拾月拾五日受附㊞

百十　大正拾五年拾月拾五日父義二郎分家ニ付キ共ニ入籍㊞

百十一　麴町區平河町一丁目百十番地ニ分家屆出大正拾五年拾月拾五日受附除籍㊞

百十二　大正拾五年拾月拾五日父義二郎分家ニ付キ共ニ除籍㊞

廢絕家再興

百十三　千葉縣千葉郡千葉町五番地戶主乙野忠二郎弟廢家（絕家）甲野氏再興屆出大正六拾六年拾壹月拾壹日受附㊞

百十四　東京市麴町區麴町四丁目六番地ニ於テ廢家（絕家）甲野氏再興屆出大正六拾六年拾壹月拾壹日麴町區長雲井高輔受附同月拾五日送付除籍㊞

國籍ノ得喪

百十五　マリヤ、ベルナールト婚姻屆出大正參拾參年五月六日受附㊞

百十六　イ國ロ府ハ街十番地カールベルナール二女大正參拾參年五月六日甲野禮太郎ト婚姻屆出同日國籍取得入籍㊞

百十七　イ國ロ府ハ街十番地マリヤ、ベルナール私生子父甲野禮太郎認知屆出大正貳拾五年拾貳月拾日受附國籍取得入籍㊞

百十八　イ國ロ府ハ街十番地フリードリツヒ、ベルナール弟大正四年拾貳月拾壹日附許可ニ因リ歸化屆出同月拾五日受附一家創立㊞

百十九　大正貳拾四年拾貳月拾參日イ國ロ府ハ街フリードリツヒ、ベルナールト婚姻ヲ爲シタルニ因リ國籍喪失戶主甲野義太郎屆出同月貳拾日受附除籍㊞

百二十　大正貳拾四年拾貳月拾參日イ國ロ府ハ街フリードリツヒ、ベルナールト婚姻ヲ爲シ國籍喪失ノ處大正貳拾六年拾月五日附許可ニ因リ國籍回復屆出同月拾日受附一家創立㊞

氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

百二十一　大正四年八月拾六日附許可ニ因リ其名義太郎ヲ義敬ト變更屆出同月拾八日受附㊞

百二十二　大正四年八月拾日附辭令ヲ以テ華族ニ列セラル右屆出同月拾七日受附㊞

百二十三　大正四年八月拾日附辭令ニ因リ襲爵屆出同月拾七日受附㊞

百二十四　大正拾年拾月拾日東京地方裁判所ニ於テ懲役ノ刑ニ處セラレ華族ノ族稱喪失右同裁判所ノ報告同月拾六日受附㊞

轉籍

百二十五　千葉縣千葉郡千葉町五番地ヨリ轉籍屆出大正四年七月貳拾日受附入籍㊞

百二十六　東京市麴町區元園町一丁目三番地ニ轉籍屆出大正四年七月貳拾日麴町區長雲井高輔受附同月貳拾壹日送付全戶除籍㊞

百二十七　麴町區麴町四丁目六番地ニ轉籍屆出大正四年拾月六日受附㊞

百二十八　大正六拾七年五月八日土地ノ名稱變更ニ付キ本籍欄中「麴町四丁目」ヲ「元町四丁目」ニ更正㊞

就籍

百二十九　大正四年八月壹日附東京區裁判所ノ就籍許可ノ裁判ニ因リ戶主甲野義太郎屆出同月五日受附就籍㊞

戶籍ノ訂正

百三十　大正六年九月六日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ因リ父甲野義太郎戶籍訂正申請同月拾日受附出生ノ日ヲ「六日」ト訂正ス㊞

百三十一　父甲野義太郎出生屆出大正五年九月拾八日受附出生ノ日ヲ「拾五日」ト訂正ス㊞

百三十二　大正貳拾五年五月壹日確定東京地方裁判所ノ嫡出子否認ノ判決ニ因リ甲野義太郎戶籍訂正申請同月參日受附㊞同月拾日入籍通知ニ因リ除籍㊞

百三十三　大正參拾四年壹月拾日確定東京地方裁判所ノ判決ニ因リ父丙山信兵衞ト確定ニ付キ同人ヨリ戶籍訂正申請同月拾五日受附㊞同月貳拾日入籍通知ニ因リ除籍㊞

百三十四　大正四年拾月拾四日確定東京地方裁判所ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父甲野義太郎戶籍訂正申請同月拾八日受附㊞同月貳拾日入籍通知ニ因リ除籍㊞

百三十五　大正四年拾月拾四日確定東京地方裁判所ノ養子緣組無效ノ判決ニ因リ養父甲野義太郎戶籍訂正申請麴町區長雲井高輔受附同月拾六日送付入籍㊞

百三十六　緣組無效ニ付キ大正四年拾月拾四日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ因リ甲野義太郎戶籍訂正申請同月拾五日受附㊞同月拾六日入籍通知ニ因リ除籍㊞

百三十七　緣組無效ニ付キ大正四年拾月拾四日附東京區裁判所ノ許可ノ裁判ニ因リ甲野義太郎戶籍訂正申請麴町區長雲井高輔受附同月十六日送付入籍㊞

百三十八　大正五年五月壹日確定東京地方裁判所ノ隱居取消ノ判決ニ因リ東京地方裁判所檢事戊野賢二戶籍訂正請求同月參日受附本戶籍抹消㊞

百三十九　大正四拾七年五月壹日確定東京地方裁判所ノ失踪宣告取消ノ判決ニ因リ妻梅子戶籍訂正申請同月參日受附本戶籍抹消㊞

百四十　戶主トノ續柄ノ記載ニ錯誤アルモ戶籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキニ付キ大正六年九月六日附東京區裁判所ノ許可ニ因リ同月八日其續柄ヲ「弟」ト訂正ス㊞

附錄第五號　戶籍ノ抹消

第一　全部抹消

朱印　除籍

本籍	~~東京市麴町區麴町四丁目六番地~~
前戶主	~~甲野仁吉~~
	~~（略）~~
戶主	~~甲野義太郎~~
族稱	~~華族~~
前戶主トノ續柄	~~亡甲野仁吉長男~~
父	~~亡甲野仁吉~~
母	~~亡松子~~
	~~長男~~
出生	~~明治拾八年六月貳拾壹日~~

	~~（略）~~
妻	~~梅子~~
父	~~乙野忠藏~~
母	~~夏子~~
	~~二女~~
出生	~~明治貳拾六年七月四日~~

	~~（略）~~
男	~~禮太郎~~
父	~~甲野義太郎~~
母	~~梅子~~
	~~長男~~
出生	~~大正五年九月拾壹日~~

第二　一部抹消

本籍	東京市麴町區麴町四丁目六番地
前戶主	甲野仁吉
	（略）
	~~姪萩子戶主義太郎ノ同意ヲ得スシテ神奈川縣橘樹郡橘村十番地戶主丙川悌八ト婚姻ヲ爲シタルニ因リ復籍拒絕屆出大正參拾參年拾貳月拾日受附㊞~~
戶主	甲野義太郎
族稱	華族
前戶主トノ續柄	亡甲野仁吉長男
父	亡甲野仁吉
母	松子
	長男
出生	明治拾八年六月貳拾壹日

	（略）
母	~~松子~~
父	乙山孝吉
母	春子
	三女
出生	明治貳年參月四日

	（略）
姪	~~萩子~~
父	丙山忠吉
母	冬子
	二女
出生	明治貳拾四年九月八日

附錄第六號　戸籍ノ訂正

第一　全部ノ訂正

本籍
東京市麹町區平河町一丁目三番地
（朱）抹消

前戸主

~~（朱）麹町區麹町四丁目六番地戸主甲野義太郎弟分家~~
~~届出大正拾五年拾月拾五日受附㊞~~
~~丙川山子ト婚姻届出大正拾六年七月参日橋村長~~
~~（朱）山邊熊藏受附同月四日送付㊞~~

戸主
族稱
前戸主トノ續柄
父　亡甲野仁吉
母　亡　松子
二男
出生　明治参拾四年五月七日
~~甲野義二郎~~

~~（略）~~

妻
父　丙川悌助
母　川子
長女
出生　明治参拾五年四月八日
~~山子~~

~~（略）~~

長男
父　甲野義二郎
母　山子
長男
出生　大正拾七年七月八日
~~義兵衛~~

第二　一部ノ訂正

本籍
東京市麹町區平河町一丁目三番地

前戸主

（略）
~~（朱）丙川山子ト婚姻届出大正拾六年七月参日橋村長~~
~~山邊熊藏受附同月四日送付㊞~~

戸主
族稱
前戸主トノ續柄
父　亡甲野仁吉
母　亡　松子
二男
出生　明治参拾四年五月七日
甲野義二郎

~~（朱）神奈川縣橘樹郡橘村四番地戸主丙川悌八妹大正~~
~~拾六年七月参日甲野義二郎ト婚姻届出同月四日入~~
~~籍㊞~~

妻
父　丙川悌助
母　川子
長女
出生　明治参拾五年四月八日
~~山子~~

（略）

長男
父　甲野義二郎
母　山子
長男
出生　大正拾七年七月八日
（朱）義左衛門
義兵衛

附錄第七號　本籍地ノ更正

本籍
東京市麹町區麹町四丁目六番地
（朱）元町四丁目

前戸主
甲野仁吉

（略）

戸主
族稱　華族
前戸主トノ續柄　亡甲野仁吉長男
父　亡甲野仁吉
母　松子
長男
出生　明治拾八年六月貳拾壹日
甲野義太郎

父
母
出生

父
母
出生

附錄第八號

右謄（抄）本ハ戸籍（除籍）ノ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

附錄第九號

告知書

大正何年何月何日ノ請求ニ係ル戸籍簿（除籍簿）ノ閲覽（戸籍又ハ除籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付）ハ左ノ理由ニ依リ許可難致候

一、、、、、、、、

右及告知候也

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

氏　名殿

附錄第十號

一　何何届書（申請書）　何通

届出（申請）事項ノ要旨

事件本人　本籍　氏　名

右年月日附届出（申請）ハ年月日受理シタルコト（左ノ事由ニ依リ受理セサリシコト）ヲ證明ス

（一、、、、、、、、、、）

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

附錄第十一號

何何届書（申請書其他ノ書類）

事件本人　本籍　氏　名

證明ヲ求ムル事項　何何

右ノ事項ハ届書（申請書其他ノ書類）ニ記載アルコトヲ證明ス（右相違ナキコトヲ證明ス）

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

附錄第十二號

第一

催告狀

何何ノ届出（申請）可相成之處未タ其手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）可相成此段及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

本籍（所在）

氏　名殿

第二

追完催告狀

大正何年何月何日何何届ハ何何ノ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルニ付何月何日迄ニ追完可相成此段及催告候也

追テ右期間内ニ追完ノ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

本籍（所在）

氏　名殿

第三

催告狀（第二回以後）

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何何届（申請）（又ハ其追完）ヲ爲スヘキ旨及催告候處未タ其手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右届出（申請）（又ハ其追完）可相成更ニ及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

本籍（所在）

氏　名殿

●戸籍手數料規則

（大正三年九月五日勅令第百八十三號）
（改正　大正九年第一三七號）

朕戸籍手數料規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、司法大臣副署）

戶籍手數料規則

第一條　戶籍簿、除籍簿又ハ戶籍法第三十六條ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十五錢トス

第二條　戶籍又ハ除カレタル戶籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十五錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條　屆出若ハ申請ノ受理又ハ戶籍法第三十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手數料ハ一件ニ付十五錢トス

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ皇族ト爲リタル者ノ戶籍ニ關スル法律

（明治四十三年四月六日 法律第三十九號）

改正　大正三年第二九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者及婚嫁ニ因リ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者ノ戶籍ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　華族ノ養子ト爲リタル皇族男子離緣ノ場合又ハ華族ニ嫁シタル皇族女子離婚ノ場合ニ於テ直系尊屬ノ臣籍ニ入リ創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入リ其ノ家ナキトキハ一家ヲ創立ス

第二條　前條、皇室親族令第三十二條若ハ第三十三條又ハ皇族身位令第三十四條ノ規定ニ依リ直系尊屬ノ家ニ入リ又ハ實家ニ復籍シタル者ハ十日內ニ左ノ諸件ヲ具シ入籍又ハ復籍ノ原因ヲ證スル書面ヲ添ヘテ之ヲ市町村長ニ屆出ツヘシ

一　入籍又ハ復籍シタル者ノ父母及其ノ者ト父母トノ續柄

二　入籍又ハ復籍ノ原因及年月日

第三條　第一條、皇室親族令第三十三條又ハ皇族身位令第二十六條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立シタル者ハ十日內ニ左ノ諸件ヲ具シ一家創立ノ原因ヲ證スル書面ヲ添ヘテ之ヲ市町村長ニ屆出ツヘシ

一　一家創立ノ場所

二　屆出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ名、出生ノ年月日及其ノ者ト屆出人トノ續柄

三　屆出人及其ノ家ニ入ルヘキ者ノ父母竝其ノ者ト父母トノ續柄

四　一家創立ノ原因及年月日

第四條　養子緣組又ハ婚嫁ニ因リテ皇族ヨリ臣籍ニ入リタル者又ハ婚嫁ニ因リテ臣籍ヨリ出テ皇族ト爲リタル者アル場合ニ於テハ其ノ入リ又ハ出テタル家ノ戶主ハ十日內ニ其ノ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍又ハ原籍、父母及其ノ者ト父母トノ續柄竝入籍又ハ除籍ノ原因及年月日ヲ具シテ之ヲ市町村長ニ屆出ツヘシ

第五條　市町村長前三條ノ屆出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戶籍記載ノ手續ヲ爲スヘシ

●王公族ヨリ內地ノ家ニ入リタル者及內地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ノ戶籍等ニ關スル法律

（昭和二年四月十九日 法律第五十一號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル王公族ヨリ內地ノ家ニ入リタル者及內地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ノ戶籍等ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　養子緣組又ハ婚嫁ニ因リ內地ノ家ニ入リタル王公族離緣又ハ離婚ノ場合ニ於テハ其ノ直系尊屬ガ王公家軌範ニ依リ一般臣民ト爲リタル爲創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入リ其ノ家ナキトキハ一家ヲ創立ス

第二條　王公家軌範第六十八條又ハ第百二十六條ノ規定ニ依リ實家ニ復籍シタル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ復籍ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨市町村長ニ屆出ヅルコトヲ要ス

一　復籍シタル者ノ父母及其ノ者ト父母トノ續柄

二　復籍ノ原因及年月日

第三條　王公家軌範第百二十六條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立シタル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ一家創立ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨市町村長ニ屆出ヅルコトヲ要ス

一　一家ヲ創立シタル者ノ父母及其ノ者ト父母トノ續柄

二　一家創立ノ原因及年月日

三　一家創立ノ場所

第四條　實家ヲ再興セント欲スル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ其ノ旨市町村長ニ屆出ヅルコトヲ要ス

一　廢絕シタル實家ノ戶主ノ氏名及本籍

二　廢絕ノ年月日

三　再興ノ場所

第五條　養子緣組若ハ婚嫁ニ因リ內地ノ家ニ入リタル王公族又ハ婚嫁ニ因リ內地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者アル場合ニ於テハ其ノ入リ又ハ去リタル內地ノ家ノ戶主ハ一月內ニ其ノ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍又ハ原籍、父母及其ノ者ト父母トノ續柄竝入籍又ハ除籍ノ原因及年月日ヲ具シ其ノ旨市町村長ニ屆出ヅルコトヲ要ス

第六條　前條ニ揭グル場合ヲ除クノ外王公家軌範ニ依リ內地ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者アルトキハ宮內大臣ハ左ノ事項ヲ具シ其ノ旨市町村長ニ通知スベシ

一　王公家ニ入リタル者ノ氏名、出生ノ年月日及原籍竝戶主トノ續柄

二　除籍ノ原因及年月日

前項ノ場合ニ於テ戶主ガ王公家ニ入リタルトキハ家督相續ハ之ニ因リ開始ス

第七條　市町村長第二條乃至第五條ノ屆出ヲ受理シ又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ戶籍記載ノ手續ヲ爲スベシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和二年勅令第百三號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行）

●兵役法第六十九條ノ兵役略符號記入方ノ件

（昭和二年九月二十三日 司法省令第二十二號）

兵役法第六十九條ノ兵役略符號記入方ノ件左ノ通相定ム

第一條　兵役法第六十九條第一項ノ規定ニ依ル兵役ノ略符號ハ聯隊區司令官又ハ海軍省人事局長若ハ海軍人事部長ノ通知ニ依リ之ヲ附スベシ其ノ抹消ニ付亦同ジ

第二條　前條ノ略符號又ハ其ノ抹消ノ記入ハ左ノ樣式ニ從ヒ當該軍人ノ戶籍ノ欄外氏名ノ下ニ之ヲ爲スベシ

兵　~~兵~~

方八ミリメートル

附　則

本令ハ昭和二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ兵役ニ在リテ略符號ヲ附スルコトヲ要スル者陸軍軍人ナルトキハ在鄕軍人名簿及第一國民兵役名簿ニ、海軍軍人ナルトキハ在鄕軍人名簿、充員名簿及海軍豫備員名簿竝海軍省人事局長及海軍人事部長ノ通知ニ依リ略符號記入ノ手續ヲ爲スベシ

●死亡診斷書死體檢案書竝死產證書死胎檢案書記載事項

（明治三十三年九月三日 內務省令第四十一號）

死亡診斷書死體檢案書竝死產證書死胎檢案書記載事項ノ件左ノ通相定ム

第一條　醫師ハ其ノ作爲スヘキ死亡診斷書又ハ死體檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　死亡者ノ氏名、其ノ職業及其ノ出生ノ年月日

二　病死者ニ在テハ其ノ病名、自殺者ニ在テハ其ノ手段、自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其ノ種類

三　發病ノ年月日

四　死亡ノ年月日時及其ノ場所

第二條　醫師及產婆ハ其ノ作爲スヘキ死產證書又ハ死胎檢案書ニ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　父ノ氏名、職業、私生子ニ在テハ母ノ氏名、職業及父母ノ出生ノ年月日

二　死胎ノ嫡出子庶子私生子別及男女別

三　姙娠ノ月數

四　分娩ノ年月日時及其ノ場所

附　則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

（明治三十三年十月九日 內務省訓令第二十八號）

廳府縣

本年九月當省令第四十一號ヲ以テ規定シタル醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書、死體檢案書及醫師又ハ產婆ノ作爲スヘキ死產證書、死胎檢案書ノ樣式竝ニ其記載方ハ左ノ各項ニ準據セシメラルヘシ

樣式

第一　死亡診斷書、死體檢案書

死亡診斷書（死體檢案書）

一　氏名

二　男女ノ別

三　出生ノ年月日

四　職業（死亡者ノ職業　家計ノ主ナル職業）

五　病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別

六　病名（自殺者ニ在テハ）手段（自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ）種類

七　發病ノ年月日（變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク）

八　死亡ノ年月日時

九　死亡ノ場所

右證明（檢案）候也

年　月　日

住所

醫師　何　某　印

記載方

一　戶籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

二　經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三　自殺者變死者等ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歲ト記シ若シ推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四　死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ、死亡者若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五　病死ナルヤ自殺ナルヤ若クハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六　病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若クハ胎後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刃傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七　病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八　病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九　死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戶、番屋敷）ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂著ト記スルヲ要ス

樣式

第二　死產證書、死胎檢案書

死產證書（死胎檢案書）

一　父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名）

二　父ノ出生ノ年月日（私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク）

三　母ノ出生ノ年月日

四　父ノ職業（私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業）

五　姙娠ノ月數

六　分娩ノ年月日時

七　分娩ノ場所

八　死胎ノ男女ノ別

九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明（檢案）候也

年　月　日

住所

醫師（產婆）　何　某　印

記載方

一　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

二　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三　死胎ノ何タルニ拘ハラス其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記スヘシ

五　姙娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル姙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記スヘシ

六　分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ

此場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七　分娩ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戶、番屋敷）ヲ記スヘシ

八　死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九　死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

●陸軍軍醫作爲ノ死亡診斷書死體檢案書記載事項樣式及交付手續

（明治三十四年三月五日陸軍省令第二號）

陸軍軍醫ノ職務上作爲シテ死亡屆出義務者ニ交付スヘキ死亡診斷書、死體檢案書ノ記載事項其ノ樣式及交付手續左ノ通定ム

一　死亡診斷書、死體檢案書ノ記載事項及其ノ樣式ハ明治三十三年內務省令第四十一號及同年內務省令第二十八號ノ規定ヲ準用スヘシ但シ職業ノ項ニハ死者ノ屬スル部隊名及兵種等級ヲ記載シ家計ノ主ナル職業ハ記載ヲ要セス

戰時若ハ事變ノ際動員シタル部隊ニ於テハ前項ノ規定ニ據ラス明治二十三年陸軍省令第二十二號陸軍軍人恩給取扱手續第六書式ニ據ル

二　前號ノ死亡診斷書、死體檢案書ハ陸軍病院入院者ニ在リテハ陸軍病院長其ノ他ノ者ニ在リテハ死者ノ所屬部隊長若ハ附近兵站官衙ノ長ヨリ其ノ在籍地ノ市（區）町村長若ハ之ニ準スヘキ者ヲ經テ死亡屆出義務者ニ送付スヘシ但シ動員シタル部隊ニ係ル者ハ其ノ在籍地所管ノ師團司令部若ハ留守師團司令部（臺灣島及澎湖島在籍ノ者ニ在リテハ臺灣總督府）ニ送付シ該司令部ニ於テ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

●監獄醫ノ作爲ノ死亡診斷書死體檢案書並死產證書死胎檢案書記載事項及其樣式準據方

（明治三十四年一月十八日司法省訓令第一號）

【集治監】　廳府縣（東京府ヲ除ク）

監獄醫ノ作爲スヘキ死亡診斷書死體檢案書並監獄醫又ハ產婆ノ在監人ニ對シ作爲スヘキ死產證書死胎檢案書ノ記載事項及其樣式ハ明治三十三年九月內務省令第四十一號同年十月內務省令第二十八號ノ規定ニ準據セシメラルヘシ

但死亡者ノ職業及死產ニ於ケル母ノ職業ハ囚人、刑事被告人、別房留置人、懲治人、携帶乳兒ノ別及就役者ハ其死前ニ執リタル作業ノ名ヲ非就役者ハ其非就役ナル旨ヲ記載シ死亡者家計ノ主ナル職業ハ之ヲ記載スルニ及ハス

●外國ニ於テ婚姻ニ要スル證明書本籍地ヘ請求方

（明治三十三年七月十六日司法省令第二十五號）

帝國臣民外國ニ於テ婚姻ヲ爲サントスルニ方リ帝國ノ法律ニ依リ其婚姻ノ障碍ト爲ルヘキ事項ノ存セサル旨又ハ婚姻ヲ爲ス男カ其婚姻ニ因リ日本ノ國籍ヲ喪失スルコトナク之ヲ其妻及ヒ嫡出子ニ取得セシムルコトヲ得ル旨ヲ證スル當該吏員ノ證明書ヲ差出スコトヲ要スル場合ニ於テハ本籍地ノ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ニ證明書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得但婚姻ニ付キ戶主、父母、後見人又ハ親族會ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ申請書ニ同意ノ證書ヲ添附スルコトヲ要ス

市區町村長又ハ之ニ準スヘキ吏員ハ證明書下付ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シタル證明書ヲ下付スルコトヲ要ス（內務大臣連署）

●亞米利加合衆國ニ在住スル本邦人ト婚姻シタル者同國ニ渡航ニ關スル件

（大正六年五月三十日司法省訓令第一號）

控訴院　地方裁判所
區裁判所　市役所、町村役場

亞米利加合衆國ニ在住スル本邦人ト婚姻シタル者カ同國ニ渡航スル爲婚姻屆書ノ認證謄本ノ交付ヲ市町村長ニ請求シタルトキハ市町村長ハ戶籍法施行細則第三十九條ニ定メタル書式ノ證明書ニ代ヘ屆出ノ認證謄本ヲ交付スヘシ但シ監督區裁判所ニ於テ保存スル屆書ニ付テハ請求書ヲ區裁判所ニ送付シ區裁判所ニ於テ屆書ノ認證謄本ヲ作リ之ヲ市町村長ニ廻送スヘシ

●本籍人犯罪人名簿整備方

（大正六年四月十二日內務省訓令第一號）

北海道廳　府縣

市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者以下同シ）ヲシテ裁判所檢事局、軍法會議又ハ他ノ市町村長ノ通知ニ依リテ本籍人ノ犯罪人名簿ヲ整備セシムヘシ但シ裁判所檢事局、軍法會議又ハ市町村長ノ通知書ヲ編綴シテ犯罪人名簿ニ代用セシムルモ妨ケナシ

本籍ヲ他ノ市町村長ノ管轄內ニ轉シタル者アルトキハ除籍地ノ市町村長ヲシテ入籍地ノ市町村長ニ轉籍者ノ刑罰（拘留、科料ヲ除ク）、身代限、破產、家資分散、兵役、種痘ニ關スル事項ヲ遲滯ナク通知セシムヘシ

●入寄留者犯罪人名簿整備方

（昭和二年一月二十九日內務省訓令第三號）

北海道廳　府縣

市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者以下同シ）ヲシテ他ノ市町村長ノ通知ニ依リ大正六年四月內務省訓令第一號ニ準シ入寄留者犯罪人名簿ヲ整備セシムヘシ

出寄留者アルトキハ本籍地ノ市町村長ヲシテ入寄留地ノ市町村長ニ寄留者ノ犯罪事項ヲ遲滯ナク通知セシムヘシ

●本籍人及入寄留者ノ禁治產者、準禁治產者名簿及破產者名簿整備方

（昭和二年一月二十九日內務省訓令第四號）

北海道廳　府縣

市町村長（市制第六條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區長、市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ者以下同シ）ヲシテ裁判所ノ公告又ハ他ノ市町村長ノ通知ニ依リ本籍人及入寄留者ニ付各別ニ禁治產者、準禁治產者名簿及破產者名簿ヲ整備セシムヘシ

轉籍者又ハ出寄留者アルトキハ原籍地又ハ本籍地ノ市町村長ヲシテ新本籍地又ハ入寄留地ノ市町村長ニ當該者ノ禁治產又ハ準禁治產若ハ破產ニ關スル事項ヲ遲滯ナク通知セシムヘシ

●寄留法

（大正三年三月三十一日法律第二十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル寄留法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

寄留法

第一條　九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ハ之ヲ寄留者トス本籍ナキ者、本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ

第二條　寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

戶籍法第三條、第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ準用ス

第三條　寄留ニ關スル屆出、屆出義務者、屆出期間、寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　寄留ニ關スル屆出ヲ怠リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス

戶籍法第百七十九條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正三年勅令第百二十一號ヲ以テ大正四年一月一日ヨリ施行）

●寄留手續令

（大正三年十二月二十八日勅令第二百二十六號）

改正　大正九年第一三八號、一三年第八九號

朕寄留手續令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

寄留手續令

第一條　本令ニ於テ住所又ハ居所ト稱スルハ九十日以上同一ノ場所ニ於テ居住スル目的ヲ以テ定メタル住所又ハ居所ヲ謂フ

第二條　寄留簿ハ住所寄留簿及居所寄留簿ノ二種トス

第三條　寄留簿ハ市町村內ノ寄留者ニ付寄留ノ場所ノ地番號ノ順序ニ從ヒ世帶ヲ同クスル者ニ付テハ世帶每ニ區別シテ之ヲ編綴ス

一ノ市町村內ニ各別ニ地番號ヲ附シタル二以上ノ區畫アル場合ニ於テハ其ノ區畫ノ順序ハ寄留簿編綴ノ順序ニ從フ

第四條　寄留簿ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

寄留簿ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢、寄留簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第五條　住所寄留簿ニハ市町村內ニ住所ヲ有スル者、居所寄留簿ニハ市町村內ニ居所ヲ有スル者ニ付左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　寄留者ノ氏名及職業

二　世帶主ノ氏名及世帶主ト寄留者トノ續柄

三　寄留者ノ本籍、華士族ノ稱及出生ノ年月日

四　寄留者カ家族ナルトキハ戶主ノ氏名及戶主ト寄留者トノ續柄

五　配偶者アル者ニ付テハ其ノ配偶者ノ氏名

六　本籍ナキ者及本籍分明ナラサル者ニ付テハ其ノ事由

七　日本ノ國籍ヲ有セサル寄留者ニ付テハ其ノ者ノ國籍又ハ其ノ者カ國籍ヲ有セサルコト

八　寄留ノ年月日及場所

九　寄留地ノ變更ヲ爲シタル者ニ付テハ原寄留地

住所外ニ寄留スル者ニ付テハ住所寄留簿ニハ其ノ住所外ノ居所、居所寄留簿ニハ居所外ノ住所ヲ記載スルコトヲ要ス

第六條　寄留簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ年月日ヲ記載シテ其ノ事項ニ關スル記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第七條　寄留者カ其ノ住所ヲ居所ニ又ハ居所ヲ住所ニ變更シタルトキハ住所寄留簿又ハ居所寄留簿ノ記載ヲ居所寄留簿又ハ住所寄留簿ニ移記スルコトヲ要ス

第八條　市町村長屆出ニ因リテ寄留簿ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ旨ヲ記載シ職權ヲ以テ寄留簿ノ記載又ハ更正ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第九條　寄留地ノ市町村長寄留ニ關スル屆出ヲ受ケタル場合ニ於テ原寄留地又ハ住所地外ノ寄留地 [illegible]

第十條　前條ノ規定ニ依リ [illegible]

第十一條　寄留者ノ本籍地ノ市町村長ハ其ノ者ノ戶籍ニ用紙ヲ添附シ之ニ其ノ氏名、寄留ノ場所及年月日並寄留場所ノ住所又ハ居所ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス但シ住所外ノ寄留ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ用紙ハ別ニ之ヲ編綴スルコトヲ得

第十二條　第四條及第六條ノ規定ハ前條ノ用紙ニ付之ヲ準用ス

第十三條　第四條及前條ノ規定ニ依ル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス

第十四條　戶籍ニ記載シタル事項ノ變更ニ因リ寄留簿ノ記載ヲ更正スヘキ場合ニ於テハ本籍地ノ市町村長ハ第十一條ノ用紙ニ記載シタル寄留地ノ市町村長ニ通知スルコトヲ要ス

第十五條　前條第一項ノ規定ハ寄留地ノ市町村長カ [illegible]

第十六條　寄留者寄留地ヲ去リタルトキハ [illegible]

前項ノ規定ハ同一市町村內ニ於テ住所又ハ居所ヲ有スル寄留者本籍ニ復歸シ又ハ住所若ハ居所ヲ去リタル場合ニ之ヲ準用ス

シタル場合ニ之ヲ準用ス寄留者カ寄留ノ場所ニ本籍ヲ定メタル場合、第七條ノ規定ニ依リ寄留簿ノ記載ヲ移記シタル場合其ノ他寄留者ヲ寄留簿ヨリ除クヘキ場合亦同シ

第十七條　前條ノ規定ハ第十一條ノ用紙ニ之ヲ準用ス但シ寄留者カ住所外ノ寄留所ヲ退去シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　市町村長職權ヲ以テ寄留簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ屆出義務者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ第十五條第二項ノ規定ニ準シ寄留簿ニ記載シタル事項ヲ通知スルコトヲ要ス

第一項ノ場合ニ於テ寄留ノ場所及年月日ニ關スル記載ヲ爲シタルトキハ本籍地ノ市町村長ニモ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ要ス但シ住所外ノ寄留ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　市町村長第十四條、第十五條又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク寄留ニ關スル記載ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條　寄留者カ其ノ本籍ヲ他ノ市町村ニ轉シタルトキハ原籍地ノ市町村長ハ第十一條ノ用紙ヲ新本籍地ノ市町村長ニ送付シ新本籍地ノ市町村長ハ寄留者ノ新戶籍ニ之ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十一條　市町村長ハ地方裁判所長ノ許可ヲ得テ何時ニテモ寄留簿及第十一條ノ用紙ヲ改製スルコトヲ得

第二十二條　寄留者寄留ノ場所ヲ退去シタル場合ニ於テ原寄留地ノ市町村長寄留簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ世帶ニ屬シタル者ニ付テハ世帶主、第二十五條ノ寄留者ニ付テハ場屋ノ管理者、其ノ他ノ寄留者ニ付テハ原寄留所ノ家主又ハ家屋ノ管理人ニ遲滯ナク其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス但シ世帶ニ屬スル者又ハ第二十五條ノ寄留者ニ付第三十四條ノ屆出ヲ爲スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　寄留ニ關スル帳簿及書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第二十四條　寄留ニ關スル屆出ハ寄留者、世帶ヲ同クスル者ニ付テハ世帶主之ヲ爲スコトヲ要ス

寄留者屆出ヲ爲スコト能ハサルトキハ同居者、世帶主屆出ヲ爲スコト能ハサルトキハ之ニ代リテ世帶ヲ管理スル者其ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第二十五條　寄宿所、宿舍其ノ他ノ多數同居ヲ目的トスル場屋ノ寄留者ニ付テハ其ノ場屋ノ管理ヲ爲ス者寄留ニ關スル屆出ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條　寄留ニ關スル屆出ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本人ノ寄留地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條　寄留ニ關スル屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　屆書ニハ本人ノ氏名及屆出ノ年月日ヲ記載シ屆出人又ハ其ノ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

第二十九條　口頭ヲ以テ屆出ヲ爲スニハ屆出人又ハ其ノ代理人市役所又ハ町村役場ニ出頭シ屆書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ前項ノ陳述ヲ筆記シ屆出ノ年月日ヲ記載シテ屆出人又ハ其ノ代理人ニ讀ミ聞カセ且之ヲシテ其ノ書面ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

屆書ニ關スル規定ハ前項ノ書面ニ之ヲ準用ス

第三十條　前二條ノ場合ニ於テ署名スルコト能ハサル者ハ氏名ヲ代署セシメ印ヲ有セサル者ハ拇印スルヲ以テ足ル但シ自ラ署名スル者ハ拇印スルコトヲ要セス

第三十一條　寄留ノ屆出ハ住所又ハ居所ヲ定メタル日ヨリ十四日內ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

屆書ニハ第五條ニ揭ケタル事項及寄留ノ場所ノ住所又ハ居所ナルコトヲ記載スルコトヲ要ス

屆書ニハ家主若ハ家屋ノ管理人ノ承諾書ヲ添附シ又ハ其ノ者ヲシテ承諾ヲ爲シタル旨ヲ記載シ署名捺印セシムルコトヲ要ス但シ世帶ニ屬スル者ニ關スル屆出及第二十五條ノ屆出ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條　寄留者同一市町村內ニ於テ寄留ノ場所ヲ變更シタルトキハ十日內ニ之ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ原寄留所、新寄留所及變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前項ノ屆書ニ之ヲ準用ス

第三十三條　寄留者本籍又ハ住所ニ復歸シタルトキハ復歸ノ日ヨリ十日內ニ本籍地又ハ住所地ニ於テ其ノ旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ本籍又ハ住所及復歸ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條　前條ノ場合ヲ除クノ外寄留者カ新ニ寄留ノ場所ヲ定メスシテ寄留地ヲ退去シ又ハ朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島若ハ外國ニ居住スル目的ヲ以テ寄留地ヲ退去スルトキハ豫メ其ノ旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第三十五條　寄留者カ其ノ住所ヲ居所ニ又ハ居所ヲ住所ニ變更シタルトキハ十日內ニ其ノ旨ヲ屆出ツルコトヲ要ス

屆書ニハ變更ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十六條　第十四條第一項及前四條ノ場合竝行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタル場合ヲ除クノ外寄留簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日內ニ之ヲ屆出ツルコトヲ要ス

第三十七條　第二十二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者カ寄留者ノ退去ノ後二十日內ニ其ノ通知ヲ受ケサルトキハ爾後十日內ニ原寄留地ニ於テ退去ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

寄留ノ場所ヲ退去シタル寄留者ノ原寄留地又ハ退去先カ樺太ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ屆出ハ寄留者ノ退去ノ後四十日內ニ第二十二條ノ通知ヲ受ケサルトキニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

屆書ニハ退去ノ年月日及知レタル退去先ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條　屆書ニハ前數條ニ定メタル事項ノ外寄留簿ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノヲ記載スルコトヲ要ス

第三十九條　市町村長カ屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ屆出義務者ニ對シ其ノ期間內ニ屆出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

屆出義務者カ前項ノ期間內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第四十條　本令ニ規定スル屆出ヲ爲スヘキ期間ハ樺太ニ在リテハ之ヲ二倍トス

第四十一條　本令ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ寄留スル者ニシテ從前ノ規定ニ依リ寄留ノ屆出ヲ爲ササルモノハ本令ニ從ヒ本令施行ノ日ヨリ十四日內ニ寄留ノ屆出ヲ爲スコトヲ要ス

市町村長ハ本令施行前寄留ノ屆出ヲ爲シタル者ニ付第三十九條ノ規定ニ準シ本令ニ依リテ寄留簿ノ記載ヲ爲ス爲必要ナル事項ノ屆出ヲ爲サシムルコトヲ得

●寄留手續細則（大正三年十月二十九日司法省令第十號）

寄留手續細則左ノ通相定ム

寄留手續細則

第一條　寄留簿ノ用紙ハ附錄第一號樣式ニ依リ寄留手續令第十一條ノ用紙ハ附錄第二號樣式ニ依リテ之ヲ調製スヘシ但シ市町村長ハ地方裁判所長ノ許可ヲ得テ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

第二條　寄留簿ハ世帶ヲ同クスル者ニ付テハ一世帶每ニ一用紙ヲ備フヘシ

前項ノ寄留者ヲ除クノ外同一番地ニ寄留スル者ハ之ヲ一用紙ニ列記スヘシ但シ其ノ一人又ハ數人ニ付一用紙ヲ備フルコトヲ得

第三條　寄留簿ニハ附錄第三號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

寄留簿ヲ分冊シタル場合ニ於テハ其ノ表紙ニ番號ヲ記載シ地區ニ依リテ分冊シタルトキハ其ノ地區ノ名稱ヲモ記載スヘシ

第四條　寄留手續令第十一條ノ用紙ヲ編綴スルニハ戶主ノ氏ノ（イ）（ロ）（ハ）順ニ依ルヘシ

前項ノ用紙綴ニハ附錄第四號樣式ニ依ル表紙ヲ附スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ用紙綴ニ付之ヲ準用ス

第五條　市町村長ハ寄留簿ニ付見出帳ヲ備フヘシ但シ地方裁判所長ノ許可ヲ得タルトキハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

第六條　寄留簿ノ記載ハ附錄第五號記載例ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

寄留簿ノ記載ハ附錄第一號樣式附屬雛形、寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ハ附錄第二號樣式附屬雛形ニ定メタル相當欄ニ之ヲ爲シ其ノ欄ヲ用井盡シタルトキハ掛紙ニ之ヲ爲スヘシ

掛紙ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スヘシ

第七條　世帶ヲ同クスル寄留者又ハ同一用紙ニ列記シタル寄留者ノ一人又ハ數人同一市町村內ニ於テ寄留ノ場所ヲ變更シタルトキハ其ノ者又ハ他ノ寄留者ニ關スル記載ヲ抹消シ新ナル用紙ニ之ヲ移記スヘシ

退去其ノ他ノ事由ニ因リ同一用紙ニ列記シタル寄留者ノ全員ヲ寄留簿ヨリ除クヘキ場合ニ於テハ其ノ用紙ヲ閉鎖シ之ヲ寄留簿ヨリ除クヘシ

第八條　寄留簿ノ用紙又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ヲ更正又ハ抹消スルニハ其ノ事由及年月日ヲ記載シ附錄第六號樣式ニ依リ更正又ハ抹消スヘキ記載ヲ朱抹スヘシ

第九條　第七條第二項又ハ寄留手續令第十六條若ハ第十七條ノ規定ニ依リテ用紙ヲ閉鎖スルトキハ之ニ其ノ事由及年月日ヲ記載スヘシ

第十條　市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ寄留簿及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クヘシ

前項ノ引繼ヲ完了シタルトキハ引繼ヲ受ケタル市町村長ハ其ノ旨ヲ監督區裁判所ニ報告スヘシ

第十一條　寄留簿ノ記載ヲ爲ス每ニ市町村長ハ其ノ文末ニ認印スヘシ

市町村長ノ代理者寄留簿ノ記載ヲ爲ストキハ其ノ文末ニ代理資格ヲ記載シテ認印スヘシ

第十二條　寄留簿及寄留手續令第十一條ノ用紙ノ閱覽ハ吏員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

第十三條　寄留簿又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ謄本又ハ抄本ハ原本ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

謄本又ハ抄本ニハ其ノ記載ニ接續シテ附錄第七號書式ニ依ル附記ヲ爲スヘシ

謄本又ハ抄本數葉ニ涉ルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

前項ノ規定ハ謄本又ハ抄本ニ掛紙ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　前條第二項及第三項ノ規定ハ市町村長ノ作ルヘキ屆書ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第十五條　市町村長屆出ヲ怠リタル者ニ對シ寄留手續令第三十九條ニ依リ爲スヘキ催告ハ附錄第八號書式ニ依リ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十六條　市町村長屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ屆出事件ヲ具シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所ニ通知スヘシ

第十七條　第七條第二項又ハ寄留手續令第十六條若ハ第十七條ノ規定ニ依リ閉鎖シタル用紙ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ三年トス

第十八條　寄留手續令第二十一條ニ依リ寄留簿ノ全部又ハ一部ヲ改製シタル場合ニ於テハ原寄留簿又ハ改製セラレタル用紙ノ保存期間ハ改製ノ翌年ヨリ三年トス

前項ノ規定ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ヲ改製シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　寄留ニ關スル屆書其ノ他ノ附屬書類ノ保存期間ハ當該年度ノ翌年ヨリ二年トス

第二十條　從前ノ規定ニ依ル入寄留簿又ハ出寄留簿ニ記載シタル寄留者ニ付寄留簿又ハ寄留手續令第十一條ノ用紙ノ記載ヲ爲シタルトキハ原寄留簿ノ保存期間ハ其ノ記載ヲ爲シタル翌年ヨリ三年トス

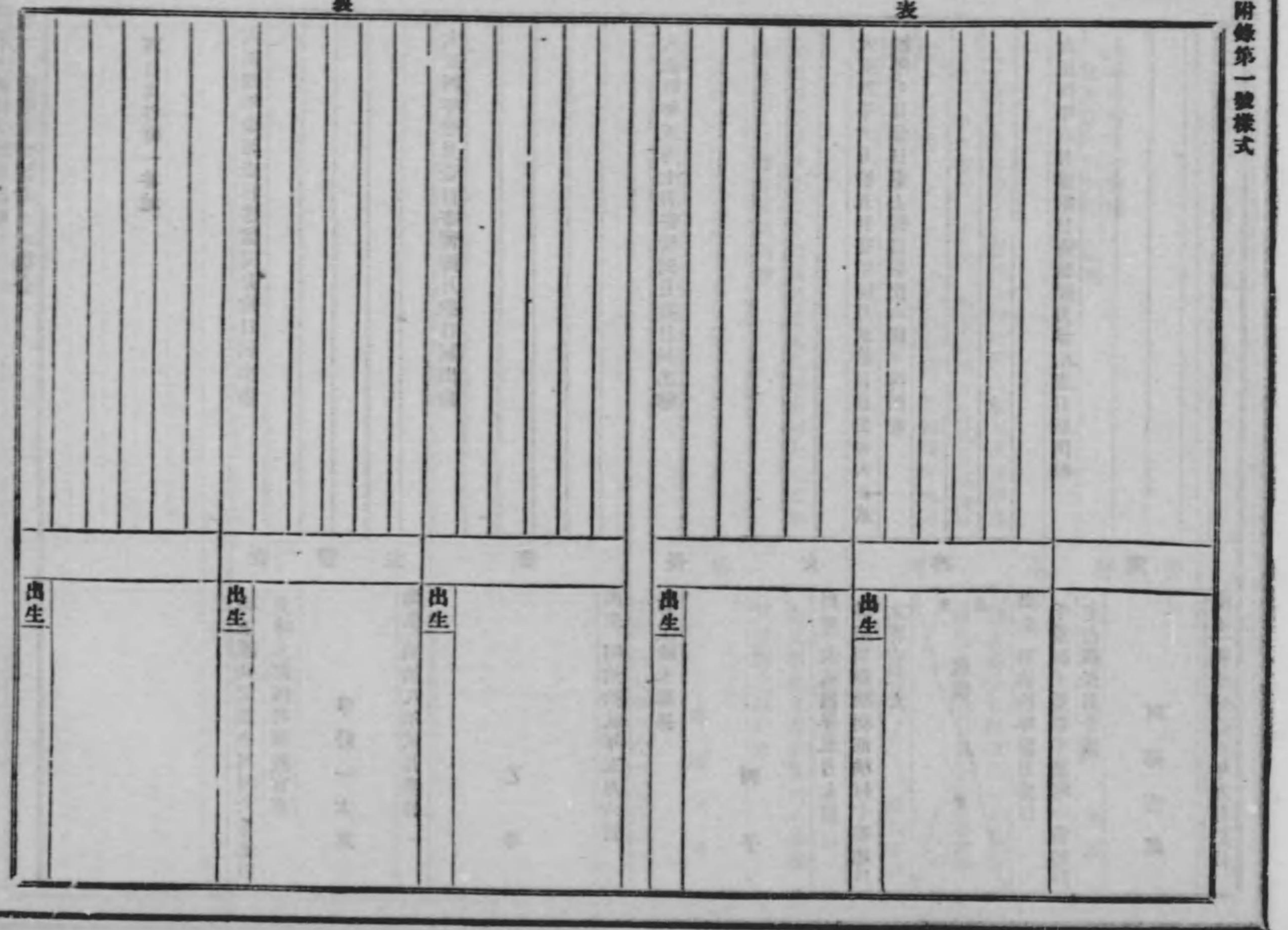
第二十一條　前條ニ揭ケタルモノヲ除クノ外從前ノ帳簿及書類ノ保存期間ハ從前ノ規定ニ依ル

第二十二條　市町村長保存期間ノ經過シタル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セムトスルトキハ目錄ヲ作リ監督區裁判所ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第一號樣式



裏　表

出生

出生

出生

出生

出生

出生

附錄第一號樣式附屬雛形

第一　世帶主寄留者ナル場合

西日比谷町一番地

世帶主

大正四年壹月壹日寄留同月拾日届出㊞

埼玉縣秩父郡中川村六番地戸主峰太郎四男華族官吏

甲野一太郎

出生　明治八年貳月參日

妻

大正四年壹月壹日寄留同月拾日届出㊞

乙子

出生　明治拾貳年五月六日

長女

大正四年五月七日寄留同月拾日届出㊞

戸主峰太郎孫

丙子

出生　大正四年五月七日

婢

大正四年六月拾五日寄留同月貳拾日届出㊞大正貳拾年七月參日退去同日届出ニ因リ抹消㊞

神奈川縣橘樹郡橘村十番地戸主春吉二女

家　家　~~筑波タマ~~

出生　明治拾年參月參日

僕

大正四年八月參拾日寄留同月參拾壹日届出㊞

千葉縣千葉郡千葉町一番地戸主吉藏長男士族

阿蘇吉郎

出生　明治貳拾五年九月拾日

大正四年拾月拾日寄留同月拾五日届出㊞

本籍不明

原ツネ

出生　明治參拾參年參月參日

出生

出生

出生

出生

出生

第二　世帶主ノ本籍ニ寄留スル場合

家　~~中六番町一番地~~

富士見町六丁目一番地

世帶主

甲野一太郎

甥

大正四年參月七日寄留同月拾日届出㊞大正五年九月拾日中六番町一番地ニ轉寄留同月拾貳日届出ニ因リ更正㊞大正六年八月拾日本籍ニ復歸同年九月五日届出ニ因リ抹消㊞

群馬縣碓氷郡磯部村十五番地戸主銀造二男士族寫眞業

家　家　~~金山銀二郎~~

出生　明治參拾年八月五日

婢

大正四年參月拾日寄留同月拾貳日届出㊞大正五年九月拾貳日轉寄留届出㊞

群馬縣碓氷郡秋間村六番地戸主猪之助三女

赤城ツル

出生　明治參拾貳年九月四日

出生

出生

出生

第三　世帶ヲ同クセサル者ニ關スル場合（管理者ノ記載ヲ爲スハ寄留手續令第二十五條ノ場合ニ限ル）

森川町一番地彌生館

大正四年參月貳拾五日寄留同月參拾日屆出㊞大正五年九月拾日東片町八番地ニ轉寄留同月拾貳日屆出ニ因リ抹消㊞

大正四年五月五日寄留同日屆出㊞

管理者

乙野二太郎

長野縣諏訪郡湖東村三番地
戶主竹藏長男學生

出生　明治貳拾年七月五日

朱　朱
~~甲野乙雄~~

富山縣婦負郡細入村二番地
戶主伊太郎二男會社員

丙川伊作

出生　明治貳拾八年拾壹月八日

出生

出生

出生

附錄第二號樣式

表

住所居所ノ別	寄留ノ場所	寄留ノ年月日	更正抹消ノ事由及年月日	氏名

裏

住所居所ノ別	寄留ノ場所	寄留ノ年月日	更正抹消ノ事由及年月日	氏名

附錄第二號樣式附屬雛形

住所居所ノ別	寄留ノ場所	寄留ノ年月日	更正抹消ノ事由及年月日	氏名
住所 朱	東京市麴町區西日比谷町一番地	朱 大正四年壹月壹日	轉寄留大正貳拾壹年四月拾五日更正	甲野一太郎
	東京市麴町區麴町一丁目一番地	大正貳拾壹年四月八日		
朱 住所	東京市麴町區西日比谷町一番地	朱 大正四年壹月壹日	居所ニ變更大正貳拾壹年四月拾五日更正	乙子
居所		大正貳拾壹年四月八日		
住所	東京市麴町區西日比谷町一番地	大正四年七月七日	大正貳拾壹年四月八日復歸ニ付同月拾五日抹消	朱　朱 ~~丙子~~

附錄第三號樣式　寄留簿表紙

（何冊ノ內第一）

住（居）所寄留簿

（地區ノ名稱）

東京市麴町區役所

附錄第四號樣式　出寄留用紙綴表紙

（何冊ノ內第一）

出寄留用紙綴

（地區ノ名稱）

何町村役場

附錄第五號記載例

一　新ナル寄留
大正四年壹月壹日寄留同月拾日屆出㊞

二　住所外寄留
大正貳拾年參月貳拾日麴町區西日比谷町一番地ヨリ住所外寄留同月貳拾壹日屆出㊞（居所寄留簿ノ記載）

三　大正貳拾年參月貳拾日本鄕區追分町十番地ニ住所外寄留同月貳拾壹日屆出㊞（住所寄留簿ノ記載）

四　寄留地變更
大正四年五月五日神田區ヨリ轉寄留同月七日屆出㊞（新寄留地ノ寄留簿ノ記載）

五　大正四年五月五日麴町區ニ轉寄留同月九日屆出ニ因リ抹消㊞（原寄留地ノ寄留簿ノ記載）

六　寄留所變更（括弧內ノ記載ハ同一用紙ニ寄留者ヲ列記シタル場合ニ限ル）
大正五年九月拾日東片町八番地ニ轉寄留同月拾貳日屆出ニ因リ更正（抹消）㊞

七　大正五年九月拾日追分町十番地ヨリ轉寄留同月拾貳日屆出㊞（新寄留所ノ寄留簿ノ記載）

八　住所居所ノ變更
大正四年五月五日住所（居所）ヲ居所（住所）ニ變更同月六日屆出ニ因リ移記㊞（住所（居所）寄留簿ノ記載）

九　大正四年五月六日住所（居所）ヲ居所（住所）ニ變更同月六日屆出ニ因リ抹消㊞（住所（居所）寄留簿ノ記載）

十　復歸
大正四年八月參拾壹日本籍（住所）ニ復歸同年九月拾日屆出ニ因リ抹消㊞

十一　退去（寄留手續令第三十七條ノ場合）
大正四年八月參拾壹日退去同年九月參拾日屆出ニ因リ抹消㊞

十二　同（同第三十四條ノ場合）
大正四年八月參拾壹日退去ノ旨同月貳拾八日屆出抹消㊞

附錄第六號樣式

第一　更正又ハ抹消

朱平河町二丁目六番地
元園町一丁目三番地

略

略

略

世帶主
埼玉縣秩父郡中川村六番地
戸主峰太郎四男華族官吏
甲野一太郎
出生　明治八年貳月參日

妻
乙子
出生　明治拾貳年五月六日

長女
戸主峰太郎孫
丙子
出生　大正四年五月七日

出生

出生

第二　除クヘキ寄留者ノ抹消

森川町一番地彌生館

管理者
乙野二太郎

略

略

長野縣諏訪郡湖東村三番地
戸主竹藏長男學生
朱　朱
~~甲野乙雄~~
出生　明治貳拾貳年七月五日

富山縣婦負郡細入村三番地戸主伊太郎三男クス子夫士族會社員
朱　朱
~~立山伊作~~
出生　明治貳拾八年拾壹月八日

出生

出生

出生

附錄第七號

右謄(抄)本ノ記載ハ寄留簿ノ記載ニ相違ナキコトヲ認證ス

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

附錄第八號

第一

催告狀

來ル何月何日迄ニ何何ノ屆出可相成此段及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

住所(居所)
氏名　殿

第二

催告狀(第二回以後)

何年何月何日附ヲ以テ何月何日迄ニ何何ノ屆出ヲ爲スヘキ旨及催告候處未タ其手續無之ニ付來ル何月何日迄ニ右屆出可相成更ニ及催告候也

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

住所(居所)
氏名　殿

第三

催告狀(手續令附則末項ノ場合)

寄留簿ノ整理上必要有之候條左記ノ事項ニ付來ル何年何月何日迄ニ屆出可相成此段及催告候也

一　何何
一　何何

追テ右期間内ニ手續無之ニ於テハ過料ニ處セラルルコトアルヘキニ付及注意候

大正何年何月何日

何市町村長氏名　職印

寄留ノ場所
氏名　殿

●御諱御名ノ文字熟字ノ外人民一般相名乘ルヲ許ス

（明治六年三月二十八日太政官布告第百十八號）

御歷代御諱並御名ノ文字自今人民一般相名乘候儀不及憚候事

但熟字ノ儀相用候儀ハ不相成候事

●國名並舊官名ヲ通稱ニ用フルヲ停ム

（明治三年十一月十九日太政官布告）

自今舊官人元諸大夫侍並元中大夫等位階總テ被廢候事

一國名並ニ舊官名ヲ以テ通稱ニ相用候儀被停候事

●苗字名改稱ヲ禁ス

（明治五年八月二十四日太政官布告第二百三十五號　改正　明治九年第五號）

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並【屋號】共改稱不相成候事

但同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳ヘ改名可願出事

●朝鮮戸籍令

（大正十一年十二月十八日朝鮮總督府令第百五十四號）

朝鮮戸籍令左ノ通定ム

朝鮮戸籍令

第一章　總則

第一條　朝鮮人ノ戸籍ニ關シテハ朝鮮民事令ノ規定ニ依ルノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　地方法院支廳ノ一人ノ判事又ハ上席判事ハ地方法院長ノ命ヲ承ケ其ノ事務取扱區域内ニ於ケル戸籍事務ヲ監督ス

第二章　戸籍簿

第三條　戸籍ハ府又ハ面ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付戸主ヲ本トシテ一戸毎ニ之ヲ編製ス

第四條　戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス

一ノ府又ハ面内ニ於ケル各區畫ノ順序ハ府尹又ハ面長之ヲ定ム

第五條　戸籍ハ正副二本ヲ設ク

正本ハ之ヲ府廳又ハ面事務所ニ備ヘ副本ハ監督裁判所之ヲ保存ス

第六條　新ニ戸籍ヲ編製シタルトキハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク其ノ副本ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第七條　戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除クノ外府廳又ハ面事務所外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第八條　戸籍簿ヲ閲覽シ又ハ戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

府尹又ハ面長ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ請求書ニ告知スヘシ

謄本又ハ抄本ハ府尹又ハ面長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スヘシ

第九條　戸主相續、絕家其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其ノ戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

第十條　第七條及第八條ノ規定ハ除籍簿及除カレタル戸籍ニ付之ヲ準用ス

第三章　戸籍ノ記載手續

第十一條　戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　戸主及家族ノ姓名及本貫並前戸主ノ姓名
二　戸主ノ本籍
三　戸主又ハ家族カ朝鮮貴族ナルトキハ其ノ旨
四　戸主及家族ノ出生ノ年月日
五　戸主又ハ家族ト爲リタル原因及年月日
六　戸主及家族ノ實父母ノ姓名並戸主及家族ト實父母トノ續柄
七　戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其ノ養親及實父母ノ姓名並養子ト養親及實父母トノ續柄
八　戸主ト前戸主及家族トノ續柄
九　家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ其ノ家族トノ續柄
十　他家ヨリ入リテ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ有スルトキハ其ノ續柄
十一　他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其ノ原籍、原籍ノ戸主ノ姓名及其ノ戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄
十二　後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ姓名、本籍並其ノ就職及任務終了ノ年月日
十三　其ノ他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十二條　戸主及家族ノ姓名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一　戸主
第二　戸主ノ直系尊屬
第三　戸主ノ配偶者
第四　戸主ノ直系卑屬及其ノ配偶者
第五　戸主ノ傍系親及其ノ配偶者
第六　戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ編製シタル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ之ヲ記載スヘシ

第十三條　戸籍ノ記載ハ屆出、報告若ハ申請、證書若ハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第十四條　戸籍ニハ第十一條ニ揭クルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　屆出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ屆出又ハ申請ニ係ル場合ニ於テハ屆出人又ハ申請人ノ資格及姓名、他ノ府尹、面長又ハ官廳ヨリ屆書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ受附ノ年月日及發送者ノ職氏名

二　報告ノ受附ノ年月日及報告者ノ職氏名

三　證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及證書又ハ航海日誌ノ作製者竝謄本ノ發送者ノ職氏名

四　戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及裁判所ノ名稱

第十五條　府尹又ハ面長カ屆書、報告書其ノ他ノ書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ受附ノ番號及年月日ヲ記載スヘシ

本籍地ノ府尹又ハ面長ハ前項ノ手續ヲ爲シタル後遲滯ナク戸籍ノ記載ヲ爲スヘシ

第十六條　戸主相續、戸主相續回復其ノ他戸主ノ變更ヲ生スヘキ事項ニ付屆出又ハ申請アリタルトキハ其ノ屆出又ハ申請及前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ依リテ新戸籍ヲ編製スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前戸主又ハ戸主ノ名義ヲ有セシ者ノ戸籍ニ事由ヲ記載シテ之ヲ抹消スヘシ

第十七條　一戸ノ全員又ハ一戸內ノ一人若ハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スヘシ

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ屆出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ屆出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條　戸籍ノ記載ヲ爲スニハ字畫ヲ明瞭ニシ略字又ハ符號ヲ用ウヘカラス年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウヘシ

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若訂正挿入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ府尹又ハ面長之ニ認印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ尚明カニ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第十九條　戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ府尹又ハ面長ハ其ノ文末ニ認印スヘシ

第二十條　戸籍用紙中ノ一部分ヲ用ヰ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スヘシ

第二十一條　屆出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ府又ハ面ヨリ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ屆出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滯ナク屆書ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十二條　前條ノ場合ヲ除クノ外他ノ府尹又ハ面長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必要アル場合ニ於テハ屆出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ハ遲滯ナク屆書ノ一通ヲ他ノ府尹又ハ面長ニ送付スヘシ

第二十三條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付屆出ヲ受理シタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ屆出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其ノ屆書及前ニ受理シタル屆書ニ之ヲ適用ス

第二十四條　前三條ノ規定ハ屆書ニ非サル書面ニ依リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ其ノ受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ之ヲ送付スヘシ

第二十五條　屆出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ府又ハ面ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ府尹又ハ面長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ府尹又ハ面長ニ入籍ノ通知ヲ爲スヘシ但シ入籍地ノ府尹又ハ面長カ屆出ヲ受理シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ府尹又ハ面長カ一家創立ノ屆出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ屆書其ノ他受理シタル書類ハ本籍人及非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目錄ヲ附スヘシ

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目錄ヲ附スヘシ

第二十七條　前條第一項ノ書類ハ一月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

第二十八條　戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノ又ハ其ノ記載ニ錯誤若ハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ府尹又ハ面長ハ遲滯ナク屆出人又ハ屆出事件ノ本人ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ其ノ錯誤又ハ遺漏カ府尹又ハ面長ノ過誤ニ出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前記ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ府尹又ハ面長ハ監督裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其ノ職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク屆出事件ノ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二十九條　同一ノ事件ニ付數人ノ屆出義務者ヨリ各別ニ屆出アリタル場合ニ於テ後ニ受理シタル屆出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル屆出ニ基キ其ノ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘシ

第三十條　行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但シ其ノ記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スヘシ

第三十一條　府又ハ面ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及之ニ關スル書類ハ之ヲ當該府又ハ面ニ引繼クヘシ

第三十二條　第二十一條乃至第二十四條及第二十五條第一項ノ規定ハ共通法第三條ノ規定ニ依リテ朝鮮ノ家ヲ去リタル者及他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル者ノ戸籍ノ記載手續ニ付之ヲ準用ス

第四章　屆出

第一節　通則

第三十三條　屆出ハ屆出事件ノ本人ノ本籍地又ハ屆出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十四條　本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付屆出アリタル後其ノ者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其ノ者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ屆出人又ハ屆出事件ノ本人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ屆出事件ヲ表示シテ屆出ヲ受理シタル府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三十五條　屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ屆出人之ニ署名、捺印スヘシ

一　屆出事件
二　屆出ノ年月日
三　屆出人ノ出生ノ年月日及本籍

屆出事件ニ因リ屆出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入リ其ノ他身分ニ變更ヲ生スル者アル場合ニ於テハ屆書ニ其ノ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍竝身分變更ノ事由ヲ記載スヘシ

第三十七條　屆出人ト屆出事件ノ本人ト異ルトキハ屆書ニ其ノ續柄ヲ記載スヘシ

屆出人カ家族ナルトキハ屆書ニ戸主ノ姓名及屆出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ

第三十八條　屆出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ屆出義務者トス但シ出生、死亡其ノ他單純ノ事實ニ關スル屆出ハ未成年者又ハ禁治產者亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ屆書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　屆出ヲ爲スヘキ者ノ姓名、出生ノ年月日及本籍
二　無能力ノ原因
三　屆出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第三十九條　無能力者カ其ノ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ屆出ツヘシ

禁治產者カ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ屆書ニ屆出事件ノ性質及效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スヘシ

第四十條　屆出ニ證人ヲ要スル場合ニ於テハ證人ハ屆書ニ出生ノ年月日及本籍ヲ記載シテ署名、捺印スヘシ

第四十一條　屆出人、屆出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ屆書ニ其ノ所在ヲ記載スヘシ

第四十二條　屆書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ府尹又ハ面長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル屆書ヲ受理スルコトヲ得ス

第四十三條　屆書ニハ本令其ノ他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナルモノハ之ヲ記載スヘシ

第四十四條　第十八條第一項及第三項ノ規定ハ屆書ニ付之ヲ準用ス

第四十五條　二以上ノ府廳又ハ面事務所ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ府廳又ハ面事務所ノ數ト同數ノ屆書ヲ提出スヘシ

本籍地外ニ於テ屆出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙一通ノ屆書ヲ提出スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ府尹又ハ面長ハ屆書ノ謄本ヲ作リ之ヲ以テ屆書ニ代フルコトヲ得

第四十六條　口頭ヲ以テ屆出ヲ爲スニハ屆出人ハ府廳又ハ面事務所ニ出頭シ屆書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スヘシ

府尹又ハ面長ハ屆出人ノ陳述ヲ筆記シ屆出ノ年月日ヲ記載シテ屆出人ニ讀聞カセ且屆出人ヲシテ其ノ書面ニ署名、捺印セシムヘシ

屆出人カ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ屆出ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　屆出事件ニ付戸主、父母、後見人、親族會其ノ他ノ者ノ同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ屆書ニ其ノ同意又ハ承諾ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ同意又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ屆書ニ其ノ旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

屆出事件ニ付官廳ノ許可ヲ要スルトキハ屆書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十八條　屆書ニ關スル規定ハ第四十六條第二項及前條第一項ノ書面ニ付之ヲ準用ス

第四十九條　外國ニ在ル朝鮮人カ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ本令ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲シタルトキハ府尹又ハ面長ニ屆出ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十條　外國ニ在ル朝鮮人ハ其ノ國ノ方式ニ從ヒ屆出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一月內ニ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其ノ證書ノ謄本ヲ提出スヘシ

前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ一月內ニ本籍地府尹又ハ面長ニ證書ノ謄本ヲ發送スヘシ

第五十一條　屆出期間ハ屆出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其ノ送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五十二條　府尹又ハ面長カ屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ屆出義務者ニ對シ其ノ期間內ニ屆出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スヘシ

屆出義務者カ前項ノ期間內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ府尹又ハ面長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及催告ヲ爲スモ屆出ヲ爲ササル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其ノ他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ屆出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　府尹又ハ面長カ屆出ヲ受理シタル場合ニ於テ屆書ニ欠缺アル爲戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ屆出義務者ヲシテ其ノ追完ヲ爲サシムヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條　屆出期間經過後ノ屆出ト雖府尹又ハ面長ハ之ヲ受理スヘシ

第五十五條　屆出人ハ屆出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但シ受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スヘシ

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第二十六條ノ書類ノ閲覽ヲ請求シ又ハ其ノ書類ニ記載シタル事項ニ付證明書ヲ請求スルコトヲ得

第八條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限リ第二十七條ノ書類ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條　屆出人其ノ他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ姓名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名ヲ代署セシメ捺印スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ姓名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

第二節　出生

第五十七條　出生ノ屆出ハ十四日內ニ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　子ノ姓名、本貫及男女ノ別
二　子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其ノ旨
三　出生ノ年月日時及場所
四　父母ノ姓名、本籍及職業
五　子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍
六　子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨竝創立ノ原因及場所

第五十八條　出生ノ屆出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十九條　汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ屆出ヲ爲スコトヲ得

第六十條　嫡出子出生ノ屆出ハ父之ヲ爲シ父カ屆出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ母之ヲ爲スヘシ

庶子出生ノ屆出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ屆出ハ母之ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ屆出ヲ爲スヘキ者カ屆出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ揭クル者ハ其ノ順序ニ從ヒ屆出ヲ爲スヘシ

第一　戸主
第二　同居者
第三　分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ產婆
第四　分娩ヲ介抱シタル者

第六十一條　嫡出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖出生ノ屆出ヲ爲スヘシ

第六十二條　航海中ニ出生アリタルトキハ船長ハ二十四時內ニ第五十七條第二項ニ揭ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタル後船舶カ朝鮮ノ港ニ著シタルトキハ船長ハ遲滯ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其ノ地ノ府尹又ハ面長ニ發送スヘシ

第六十三條　病院、監獄其ノ他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母共ニ屆出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人屆出ヲ爲スヘシ

第六十四條　出生ノ屆出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ屆出ト共ニ出生ノ屆出ヲ爲スヘシ

第六十五條　棄兒ヲ發見シタル者又ハ棄兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時內ニ其ノ旨ヲ府尹又ハ面長ニ申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ府尹又ハ面長ハ姓名ヲ命シ本籍ヲ定メ且附屬品發見ノ場所、年月日時其ノ他ノ狀況及姓名、男女ノ別、出生ノ推定年月日竝本籍ヲ調書ニ記載スヘシ其ノ調書ハ之ヲ屆書ト看做ス

第六十六條　父又ハ母カ棄兒ヲ引取ルトキハ一月內ニ第五十七條第二項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スヘシ

第六十七條　第六十五條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ棄兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ屆出ト共ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三節　認知

第六十八條　私生子認知ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　子ノ姓名、男女ノ別、出生ノ年月日及本籍
二　死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ

死亡ノ年月日

三　父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ姓名及本籍並父ノ職業

四　子カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主ト子トノ續柄

第六十九條　胎內ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ屆書ニ其ノ旨、母ノ姓名及本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ屆出ツヘシ

第七十條　父カ庶子出生ノ屆出ヲ爲シタルトキハ其ノ屆出ハ認知屆出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫡出子タルヘキ者ニ付父母カ嫡出子出生ノ屆出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第七十一條　認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第六十八條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘシ其ノ屆書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第七十二條　遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其ノ就職ノ日ヨリ十日內ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ添附シ第六十八條又ハ第六十九條ノ規定ニ從ヒテ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

第七十三條　認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生屆出義務者ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十四日內ニ認知ノ屆出地ニ於テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ但シ遺言執行者カ前條ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者其ノ屆出ヲ爲スヘシ

第七十四條　第四十六條第三項ノ規定ハ第六十八條及第六十九條ノ屆出ニハ之ヲ適用セス

第四節　養子緣組

第七十五條　緣組ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業

二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄

四　新ニ家ヲ立テタル者カ養子ト爲ルトキハ其ノ旨

前項ノ屆出ハ當事者雙方及成年ノ證人二人以上ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七十六條　父母其ノ他ノ者カ養子ト爲ルヘキ者ニ代リテ緣組ノ意思ヲ表示シタル場合又ハ死後養子ノ場合ニ於テハ屆出ハ其ノ意思表示ヲ爲シタル者又ハ養子ノ選定ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ

第七十七條　遺言ニ依ル緣組ニ付テハ遺言執行者及養子ト爲ルヘキ者ハ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク緣組ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ緣組ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ屆書ニ添附スヘシ

第七十八條　緣組ノ屆出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第七十九條　第四十六條第三項ノ規定ハ緣組ノ屆出ニハ之ヲ適用セス

第五節　養子離緣

第八十條　離緣ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業

二　養子ノ實父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

四　養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍

五　養子カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨並創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ屆出ヲ爲シタル後養子カ復籍スヘキ家ノ絕家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日內ニ絕家ノ戸主ノ姓名、本籍及絕家ノ年月日ヲ屆書ニ記載シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第八十一條　父母其ノ他ノ者カ養子ニ代リテ離緣ノ協議ヲ爲シタル場合ニ於テハ屆出ハ其ノ協議ヲ爲シタル者之ヲ爲スヘシ養親カ死亡シタル後離緣ヲ爲ス場合ニ於ケル屆出ニ付亦同シ

第八十二條　離緣ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘシ其ノ屆書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十三條　第四十六條第三項ノ規定ハ第八十條第一項及第八十一條ノ屆出ニハ之ヲ適用セス

第六節　婚姻

第八十四條　婚姻ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、出生ノ年月日、本籍及職業

二　父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名、本籍及戸主トノ續柄

四　招婿ナルトキハ其ノ旨

當事者ノ一方カ婚家ヨリ更ニ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ揭クル事項ノ外實家ノ戸主ノ姓名及本籍ヲ記載スヘシ

第七十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ屆出ニ付之ヲ準用ス

第八十五條　婚姻ノ屆出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ招婿ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ屆出ヲ爲スヘシ

第八十六條　第四十六條第三項ノ規定ハ婚姻ノ屆出ニハ之ヲ適用セス

第七節　離婚

第八十七條　離婚ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者ノ姓名、本貫、本籍及職業

二　父母ノ姓名及本籍

三　當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

四　婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ姓名及本籍

五　婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其ノ旨並創立ノ原因及場所但シ實家ヲ再興スルトキハ其ノ旨及再興ノ場所

第七十五條第二項ノ規定ハ前項ノ屆出ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ屆出ヲ爲シタル後婚家ヲ去リタル者カ復籍スヘキ家ノ絕家ニ因リ一家ヲ創立シタルコトヲ知リタルトキハ十日內ニ絕家ノ戸主ノ姓名、本籍及絕家ノ年月日ヲ屆書ニ記載シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第八十八條　離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘシ其ノ屆書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第八十九條　第四十六條第三項ノ規定ハ第八十七條第一項ノ屆出ニハ之ヲ適用セス

第八節　親權及後見

第九十條　父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其ノ權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ其ノ屆書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十一條　失權宣告取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ其ノ屆書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スヘシ

第九十二條　後見開始ノ屆出ハ後見人其ノ就職ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　後見人及被後見人ノ姓名、出生ノ年月日及本籍

二　被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

三　後見開始ノ原因及年月日

四　後見人就職ノ年月日

第九十三條　後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日內ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九十四條　遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本又ハ遺言アリタルコトヲ證スル書面ヲ屆書ニ添附スヘシ

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書

面ヲ屆書ニ添附スヘシ

第九十五條　後見終了ノ屆出ハ後見人十日內ニ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被後見人ノ姓名及本籍

二　後見終了ノ原因及年月日

第九十六條　前四條ノ屆出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十七條　後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ付之ヲ準用ス

第九節　死亡及失踪

第九十八條　死亡ノ屆出ハ屆出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ七日內ニ診斷書若ハ檢案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　死亡者ノ姓名、本籍及職業

二　死亡ノ年月日時及場所

三　死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及戸主ト死亡者トノ續柄

第九十九條　左ニ揭クル者ハ其ノ順序ニ從ヒ死亡ノ屆出ヲ爲スヘシ但シ順序ニ拘ラス屆出ヲ爲スコトヲ得

第一　戸主

第二　同居者

第三　家主、地主又ハ家屋若ハ土地ノ管理人

第百條　死亡ノ屆出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百一條　水難、火災其ノ他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其ノ取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

第百二條　死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遲滯ナク監獄所在地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ檢案書ヲ添附スヘシ

第百三條　前二條ノ報告書ニハ第九十八條第二項ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

第百四條　死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遲滯ナク死亡地ノ府尹又ハ面長ニ死亡ノ報告ヲ爲スヘシ

死亡者ノ本籍地分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ報告スヘシ

第一項ノ報告アリタル後第九十九條第一號及第二號ニ揭クル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日內ニ死亡ノ屆出ヲ爲スヘシ

第百五條　第五十九條、第六十二條及第六十三條ノ規定ハ死亡ノ屆出ニ付之ヲ準用ス

第百六條　失踪宣告ノ屆出ハ其ノ宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　失踪者ノ姓名及本籍

二　民法第三十條ニ定ムル期間滿了ノ日

三　失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及戸主ト失踪者トノ續柄

第十節　戸主相續

第百七條　戸主相續ノ屆出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一月內ニ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　戸主相續ノ原因及戸主ト爲リタル年月日

二　前戸主ノ姓名及前戸主ト戸主トノ續柄

戸主ト爲リタル者カ外國ニ在ル場合ニ於テハ三月內ニ屆書ヲ發送スルヲ以テ足ル

第百八條　戸主相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一月內ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘシ

第百九條　前二條ノ屆出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第十一節　親族入籍

第百十條　戸主カ他家ニ在ル自己又ハ家族ノ親族ヲ家族ト爲サムト欲スルトキハ左ノ事項ヲ屆書ニ記載シテ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　入籍スヘキ者ノ姓名、本貫及出生ノ年月日

二　入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ續柄

三　入籍スヘキ者ノ原籍ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第十二節　分家及絕家

第百十一條　分家ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　本家ノ戸主ノ姓名、本籍及其ノ戸主ト分家ノ戸主トノ續柄

二　分家ノ戸主及家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ姓名及本籍

第百十二條　絕家ノ家族ハ絕家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ一家創立ノ屆出ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　絕家ノ戸主ノ姓名及本籍

二　絕家ノ原因及年月日

第百十三條　絕家再興ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　絕家ノ戸主ノ姓名及本籍

二　絕家ノ年月日

三　絕家ノ戸主ト再興ヲ爲ス者トノ續柄

四　再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ姓名及本籍

第十三節　改名、族稱ノ得喪及襲爵

第百十四條　改名ノ屆出ハ許可ノ日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　變更前ノ名

二　變更シタル名

三　許可ノ年月日

第百十五條　新ニ朝鮮貴族ニ列セラレタル者ハ十日內ニ辭令書ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　族稱

二　族稱取得ノ原因

三　辭令ノ年月日

第百十六條　爵ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ其ノ謄本ヲ添附シ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

屆書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百十七條　朝鮮貴族ノ族稱喪失シタル場合ニ於テハ戸主十日內ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

屆書ニハ族稱喪失ノ原因及年月日ヲ記載スヘシ

第百十八條　前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ本人ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十四節　轉籍及就籍

第百十九條　轉籍セムトスルトキハ新本籍ヲ屆書ニ記載シ戸主其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

他ノ府又ハ面ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ屆書ニ添附スヘシ

第百二十條　轉籍ノ屆出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十一條　本籍ヲ有セサル者ハ其ノ就籍セムト欲スル地ヲ管轄スル裁判所ノ許可ヲ得テ十日內ニ就籍ノ屆出ヲ爲スヘシ

屆書ニハ第十一條ニ揭クル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第百二十二條　就籍ノ屆出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十三條　就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ屆出ヲ爲ササルトキハ戸主之ヲ爲スヘシ

第百二十四條　第百二十一條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ屆出ヲ爲スヘキ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ屆書ニ添附スヘシ

第五章　戸籍ノ訂正

第百二十五條　戸籍ノ訂正ニ付許可ノ裁判アリタルトキハ一月內ニ其ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第百二十六條　確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一月內ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スヘシ

第百二十七條　第三十三條、第三十五條乃至第三十九條、第四十一條乃至第四十八條及第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ付之ヲ準用ス

附　則

第百二十八條　本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

民籍法、明治四十四年朝鮮總督府令第百四十八號及大正十年朝鮮總督府令第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第百二十九條　本令施行前生シタル事項ノ申告又ハ屆出ニ關シテハ從前ノ規定ニ依ル

第百三十條　本令ノ規定ハ前條ノ申告又ハ屆出及本令施行前ノ申告又ハ屆出其ノ他ノ事由ニ因リ戸籍ノ記載手續ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ編製スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第百三十一條　本令施行前共通法第三條ノ規定ニ依リ朝鮮ノ家ヲ去リ又ハ他ノ地域ノ家ヲ去リテ朝鮮ノ家ニ入リタル場合ニ於テ民籍法又ハ戸籍法ニ從ヒ申告又ハ屆出アリタルモノニ付テハ府尹又ハ面長ハ本令ノ定ムル所ニ準シ入籍、除籍其ノ他ノ手續ヲ爲スヘシ

當事者、戸主其ノ他ノ利害關係人ハ當事者ノ本籍地ノ府尹又ハ面長ニ其ノ申告又ハ屆出アリタル旨ヲ申出ツヘシ

第百三十二條　從前ノ規定ニ依ル民籍ハ本令ニ依ル戸籍トシテ其ノ效力ヲ有ス

第百三十三條　府尹又ハ面長ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ從前ノ規定ニ依リ全戸除籍シタルモノヲ除クノ外前條ノ規定ニ依ル民籍ノ副本ヲ作リ之ヲ監督裁判所ニ送付スヘシ

（大正十二年七月一日ヨリ施行（大正十二年朝鮮總督府令第六十四號））

●朝鮮戸籍令ニ依ル警察官ノ職務ニ關スル件

（大正十三年九月十七日朝鮮總督府令第五十三號）

朝鮮戸籍令ニ依ル警察官ノ職務ニ關スル件左ノ通定ム

朝鮮戸籍令第六十五條及第百四條ノ規定ニ依ル警察官ノ職務ハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ巡査ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮戸籍手數料規則

（大正十一年十二月二十七日朝鮮總督府令第百五十六號）

朝鮮戸籍手數料規則左ノ通定ム

朝鮮戸籍手數料規則

第一條　戸籍簿、除籍簿又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ノ閲覽ニ付テノ手數料ハ一回ニ付十錢トス

第二條　戸籍又ハ除カレタル戸籍ノ謄本又ハ抄本ノ交付ニ付テノ手數料ハ一枚ニ付十錢トス一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

第三條　屆出若ハ申請ノ受理又ハ朝鮮戸籍令第二十六條ノ書類ニ記載シタル事項ノ證明書ノ交付ニ付テノ手數料ハ一件ニ付十錢トス

第四條　官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ以テ戸籍簿若ハ除籍簿ノ閲覽又ハ戸籍若ハ除カレタル戸籍ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料及郵送料ヲ要セス

第五條　第一條乃至第三條ノ手數料ハ之ヲ府又ハ面ノ收入トス

附　則

本令ハ大正十一年制令第十三號中朝鮮民事令第十一條乃至第十一條ノ九ノ改正ニ關スル規定施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●王公族ヨリ朝鮮ノ家ニ入リタル者及朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ニ關スル件

（昭和二年四月十九日制令第十二號）

王公族ヨリ朝鮮ノ家ニ入リタル者及朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　養子緣組又ハ婚姻ニ因リ朝鮮ノ家ニ入リタル王公族ハ離緣又ハ離婚ノ場合ニ於テハ其ノ直系尊屬カ王公家軌範ニ依リ一般臣民ト爲リ創立シタル家アルトキハ其ノ家ニ入リ其ノ家ナキトキハ一家ヲ創立ス

第二條　戸主カ王公家軌範ニ依リ朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタルトキハ家ノ相續ハ之ニ因リ開始ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（昭和二年朝鮮總督府令第四十三號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行）

●王公族ヨリ朝鮮ノ家ニ入リタル者及朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ニ關スル件

（昭和二年四月十九日朝鮮總督府令第三十九號）

王公族ヨリ朝鮮ノ家ニ入リタル者及朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　昭和二年法律第五十一號第一條、昭和二年制令第十二號第一條又ハ王公家軌範第六十八條若ハ第百二十六條ノ規定ニ依リ直系尊屬ノ家ニ入リ又ハ實家ニ復籍シタル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ入籍又ハ復籍ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨府尹又ハ面長ニ屆出ツルコトヲ要ス

一　入籍又ハ復籍シタル者ノ父母ノ氏名又ハ姓名、本貫、本籍及其ノ者ト父母トノ續柄

二　入籍又ハ復籍ノ原因及年月日

三　入籍又ハ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名又ハ姓名及本籍

第二條　昭和二年法律第五十一號第一條、昭和二年制令第十二號第一條又ハ王公家軌範第二十條第一項、第六十二條、第六十七條若ハ第百二十六條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立シタル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ一家創立ノ原因ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ旨府尹又ハ面長ニ屆出ツルコトヲ要ス但シ王公家軌範第二十條第一項ノ場合ニ於テ屆出ヲ爲スヘキ者ハ李王職長官トス

一　一家創立ノ場所

二　本人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ氏名又ハ姓名、出生年月日及其ノ者ト本人トノ續柄

三　本人及其ノ家ニ入ルヘキ者ノ父母ノ氏名又ハ姓名及本貫並其ノ者ト父母トノ續柄

四　一家創立ノ原因及年月日

五　王公家軌範第二十條ノ規定ニ依リ一家創立ト同時ニ朝鮮貴族ニ列セシメラレタル場合及王公家軌範第六十二條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立スル場合ニ在リテハ族稱及族稱ニ關スル辭令ノ年月日

前項第五號ノ場合ニ於テハ朝鮮戸籍令第百十五條ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セス

第三條　王公家軌範第百二十六條ノ規定ニ依リ實家ヲ再興セント欲スル者ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ其ノ旨府尹又ハ面長ニ屆出ツルコトヲ要ス

一　廢絶シタル實家ノ戸主ノ氏名又ハ姓名、本貫及本籍

二　廢絶ノ年月日

三　再興ノ場所

第四條　養子緣組若ハ婚姻ニ因リ朝鮮ノ家ニ入リタル王公族又ハ婚姻ニ因リ朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者アル場合ニ於テハ其ノ入リ又ハ去リタル家ノ戸主ハ一月內ニ左ノ事項ヲ具シ其ノ旨本籍地又ハ原籍地ノ府尹又ハ面長ニ屆出ツルコトヲ要ス

一　本人ノ氏名又ハ姓名、本貫、出生ノ年月日及本籍又ハ原籍

二　父母ノ氏名又ハ姓名及其ノ者ト父母トノ續柄

三　入籍又ハ除籍ノ原因及年月日

第五條　昭和二年制令第十二號第二條ノ場合ニ於テハ李王職長官ハ左ノ事項ヲ具シ其ノ旨原籍地ノ府尹又ハ面長ニ通知スヘシ

一　本人ノ氏名又ハ姓名、出生ノ年月日及原因

二　本人ト共ニ王公家ニ入ルヘキ者アルトキハ其ノ者ノ氏名又ハ姓名、出生ノ年月日及其ノ者ト本人トノ續柄

三　除籍ノ原因及年月日

婚姻ニ因リ朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル場合ヲ除クノ外王公家軌範ニ依リ朝鮮ノ家ヲ去リ王公家ニ入リタル者他家ノ家族ナリシ場合亦前項ニ同シ

第六條　府尹又ハ面長第一條乃至第四條ノ屆出ヲ受理シ又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ戸籍記載ノ手續ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年制令第十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟等ニ關スル戸籍證明ノ件

（大正七年八月十四日朝鮮總督府令第八十號）

府尹又ハ面長ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人ヨリ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ【民籍】ニ關シ證明ヲ願出タルトキハ無償ニテ證明ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮人姓名改稱ニ關スル件

（明治四十四年十月二十六日朝鮮總督府令第百二十四號　改正　大正四年第一九號）

朝鮮人ノ姓名改稱ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　朝鮮人ニシテ姓名ヲ改稱セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ民籍謄本ヲ添ヘ所轄面長又ハ府尹ヲ經由シ道【長官】ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　本籍、住所、姓名、職業、年齡

二　改稱セムトスル姓名

三　改稱ノ理由

第二條　前條ノ願書ニハ妻又ハ妾ニ在リテハ其ノ夫ノ承諾書、滿二十歳以下ノ者ニ在リテハ戸主ノ承諾書ヲ添附スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ承諾ヲ與フヘキ者ナキトキハ願書ニ其ノ事實ヲ記載スヘシ

第三條　第一條ニ依リ姓名改稱ノ出願ヲ爲ス者ハ手數料トシテ五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●戸口規則

（明治三十八年十二月二十六日臺灣總督府令第九十三號　改正　明治四三年第八三號　大正九年第七八號、一三年第五七號、一五年第三號）

戸口規則左ノ通相定ム

戸口規則

第一條　戸口ニ關スル事項ヲ記載スル爲郡役所、警察署、警察分署、支廳ニ戸口調査簿ヲ備フ

知事又ハ廳長ハ必要ト認メタルトキハ警部又ハ警部補駐在所（警部又ハ警部補ノ駐在スル警察官吏派出所、駐在所又ハ警戒所ヲ謂フ以下同シ）ニ戸口調査簿ヲ備フルコトヲ得

戸口調査簿ヨリ除キタルモノハ除戸簿ニ編綴シテ永久之ヲ保存ス

第二條　戸口ニハ地名及地番號ヲ附ス但シ當分ノ內戸番號ヲ附スルコトヲ得

第三條　此ノ規則ニ於テハ本島人ノ主タル住所ハ之ヲ本居トシ本居外ノ住所ヲ寄留トス

本島人ニシテ本島內ニ主タル住所ヲ有セサル者ト雖本島內ニ本居地ヲ定メ屆出タルトキハ之ヲ本居ト看做ス

內地人、朝鮮人、支那人ノ住所ハ之ヲ寄留トス

第四條　本居、寄留ヲ問ハス戸主ハ其ノ住家ノ門戸ニ市、街、庄、社、土名、地番號及姓名ヲ記シタル標札ヲ揭出スヘシ但シ本島人ニ在テハ保甲ノ規定ニ依ルコトヲ得

第五條　何人ト雖手數料ヲ納付シテ戸口調査簿、除戸簿ノ抄本ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ手數料ハ一枚ニ付金二十錢ヲ納ムヘシ但シ其ノ一枚ニ滿タサルモノト雖亦同シ枚數ハ原本ニ依リ之ヲ計算ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ事實發生ノ日ヨリ十日內ニ書面ヲ以テ所轄警察官吏派出所、駐在所又ハ警戒所ヲ經由シテ廳長、郡守、警察署長ニ屆出ヘシ但シ本島外ニ轉居又ハ寄留退去スルトキハ其ノ際屆出ヘシ

本島人ニ在テハ所轄警察官吏派出所駐在所又ハ警戒所ノ外保正ヲ經由スヘシ

期限內ニ屆出ヲ爲ササル者ニ對シ警察官吏ハ之カ催告ヲ爲シ尚七日內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ戸口實査ヲ以テ屆出ニ代フルコトヲ得

一　出生
二　嫡出子否認
三　私生子認知
四　養子緣組（過房子、螟蛉子、媳婦仔ノ類ヲモ含ム）
五　養子離緣（過房子、螟蛉子、媳婦仔ノ類ヲモ含ム）
六　婚姻（婿養子緣組、入夫、招夫婚姻ノ類ヲモ含ム）
七　離婚（婿養子離緣、入夫、招夫離婚ノ類ヲモ含ム）
八　後見及保佐（就職、更迭、終了）
九　隱居
十　失踪
十一　死產（姙娠四箇月以上）
十二　死亡
十三　戸主相續
十四　推定戸主相續人ノ廢除
十五　戸主相續人ノ指定
十六　入戸、離戸及復戸拒絶
十七　廢戸及絶戸
十八　一戸創立、分戸及廢、絶戸再興
十九　國籍ノ得喪
二十　姓名及族稱ノ變更
二十一　棄兒發見
二十二　轉居
二十三　寄留、寄留退去（寄留ヲ得シタルトキ、寄留ノ目的ニアラスト雖同一ノ場所ニ六十日以上滯留スル者ハ寄留ト看做ス）
二十四　以上各號ノ內屆出事項ニ相違又ハ變更アリタルトキ

前各號中第四號乃至第七號、第九號ノ屆出期限ハ内地人ニ在テハ其ノ本籍地【戸籍吏】ニ於テ屆出ヲ受理シタル日ヨリ起算ス

第七條　前條ノ屆出ハ戸主ヨリ之ヲ爲スヘシ

戸主ヨリ屆出ヲ爲ス能ハサルトキハ其ノ家屬、土地ノ管理ヲ爲ス者之ヲ爲スヘシ但シ棄兒發見ノ場合ニ在テハ發見者又ハ其ノ家屬、土地ノ管理ヲ爲ス者之ニ姓名ヲ附シ屆書ニ其ノ姓名、推定出生年月日ヲ記載シ屆出ヘシ

醫院、監獄其ノ他ノ官署、公設所、汽車、船舶等ニシテ屆出義務者ナキトキハ其ノ長ヨリ之ヲ爲スヘシ但シ汽車、船舶ニ在テハ最近到着地ノ所轄警察官吏派出所駐在所又ハ警戒所ヲ經由シ屆出ヘシ

道路、河川其ノ他ノ場所ニシテ屆出義務者ナキトキハ其ノ地ノ保正又ハ所轄警察官吏ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八條　此ノ規則ニ於テ戸主ト稱スルハ之ニ代ルヘキ者ヲ包含ス

戸主ニ非サル者住家ヲ構ヘテ寄留スルトキハ主宰者ヲ以テ戸主ト看做ス

第九條　養子緣組屆、婚姻屆、養子離緣屆、離婚屆ハ實戸（之ニ準スヘキ養戸、婚戸）ノ戸主ノ連署ヲ得テ養戸、婚戸ノ所轄警察官吏派出所駐在所又ハ警戒所ニ差出スヘシ但シ連署ヲ得ル能ハサルトキハ屆書ニ其ノ旨記載スヘシ

分戸屆ハ本戸、入戸屆ハ實戸ノ戸主ノ連署ヲ得テ差出スヘシ但シ連署ヲ得ル能ハサルトキハ同意證書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

嫡出子否認屆、私生子認知屆、隱居屆ハ否認者、認知者又ハ隱居者ノ連署ヲ得テ差出スヘシ

轉居屆、寄留屆、寄留退去屆ハ轉居地、寄留地、本居地ノ所轄警察官吏派出所駐在所又ハ警戒所ニ差出スヘシ

第十條　此ノ規則ニ依ル屆出ニシテ其ノ事項二個以上ノ郡役所、警察署、警察分署、支廳又ハ戸口調査簿ヲ備フル警部又ハ警部補駐在所所轄ニ屬スルトキハ屆書各通ヲ作リ屆出義務者ノ所轄警察官吏派出所、駐在所、警戒所ニ差出スヘシ

第十一條　本島人ニシテ姓、名ヲ變更シ又ハ生年月日ノ訂正ヲ爲サントスルトキハ其ノ戸主ニ於テ本居地知事又ハ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　此ノ規則ニ依ル屆出ハ警察官吏派出所、駐在所又ハ警戒所ノ所轄ニ屬セサル郡役所、警察署、警察分署又ハ支廳ノ直轄ニ在リテハ郡役所、警察署、警察分署、支廳ニ差出スヘシ

第十三條　此ノ規則ニ依ル屆出ニシテ期限ヲ經過シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シタル書面ヲ屆書ニ添附スヘシ

第十四條　警察官吏ハ住家ニ臨ミ戸口實査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ戸口實査ヲ受クル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　此ノ規則ニ依ル屆出ハ別記樣式ニ準據スヘシ但シ養子緣組、婚姻、轉居、寄留ノ屆出ハ其ノ屆書ニ戸籍、戸口調査簿ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シ樣式中ノ記載ニ代フルコトヲ得

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　此ノ規則ニ依ル警察官吏ノ催告ヲ受ケ七日内ニ屆出ヲ爲ササル者

二　此ノ規則ニ依ル警察官吏ノ戸口實査ヲ拒ミ又ハ忌避シタル者

三　此ノ規則ニ依ル警察官吏ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルモ實ヲ以テセサル者若ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者

第十七條　此ノ規則ニ依リ正當ノ事由ナク期限内ニ屆出ヲ爲ササル者第九條第一項ノ連署ヲ拒ミタル者又ハ住家ニ標札ヲ揭出セサル者ハ科料ニ處ス

第十八條　前二條ノ場合ニ於テ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十九年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年（八月）府令第六十三號同三十八年（九月）府令第七十號人口異動ニ關スル屆出規則ハ之ヲ廢止ス

從前廳ニ備ヘアル戸籍ハ之ヲ廢止ス

（別記）

（第一號樣式）用紙半紙（以下之ニ倣フ）

出生屆

（一）	姓名、出生年月日、嫡、庶、私生子ノ別及出生別	
（二）	父母ノ本居地、寄留地、族稱、種族	
（三）	父母ノ姓名、職業及其ノ地位	
（四）	出生ノ場所	
（五）	戸主ト出生子トノ續柄	
（六）	記事	

右及御屆候也

年　月　日

本居地
寄留地

屆出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第二號樣式）

嫡出子否認屆

（一）	姓名、出生年月日及否認前ノ出生別	
（二）	否認者ノ本居地、寄留地、族稱	
（三）	否認者ノ姓名、職業及其ノ地位	
（四）	母ノ姓名	
（五）	否認ノ年月日又ハ裁判確定ノ年月日	
（六）	戸主ト被否認者トノ續柄	
（七）	記事	

右及御屆候也

年　月　日

連署人否認者　姓　名印

本居地
寄留地

屆出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第三號樣式）

私生子認知屆

（一）	私生子	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	
		男女ノ別	
（二）	認知者	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	
（三）	私生子ノ母ノ姓名、職業及其ノ地位		
（四）	認知ノ年月日		
（五）	戸主ト被認知者トノ續柄		
（六）	記事		

右及御屆候也

年　月　日

連署人認知者　姓　名印

本居地
寄留地

屆出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第四號樣式）

養子緣組屆

（一）	養子（緣組前ノ）	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	
		出生別	
（二）	養父（母）	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	
（三）	養子ノ父母ノ姓名、職業		
（四）	緣組ノ種別（普通養子、過房子、螟蛉子、媳婦仔等ノ別）		
（五）	緣組ノ年月日		
（六）	戸主ト養子トノ續柄		
（七）	記事		

右及御屆候也

年　月　日

本居地
寄留地

連署人實戸戸主（之ニ準スヘキ養戸、婚戸ノ戸主）　姓　名印

本居地
寄留地

屆出人養戸戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第五號樣式）

養子離緣屆

（一）	養子（離緣後ノ）	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	
		出生別	
（二）	養父（母）	姓名、出生年月日、職業及其ノ地位	
		本居地、寄留地、族稱、種族	

（三）養子ノ父母ノ姓名、職業

（四）離縁ニ因リ入ルヘキ戸ノ戸主ノ姓名

（五）離縁ノ原因（協議上／裁判上（訴ヲ提起シタル者民法第八百六十六條第　號（内地人ニ限ル）））

（六）縁組ノ種別（普通縁組、過房子、螟蛉子、媳婦仔等ノ別）

（七）離縁ノ年月日（裁判上ノ離縁ナルトキハ裁判確定ノ年月日）

（八）縁組ノ年月日

（九）戸主ト離縁セラレタル養子トノ續柄

（十）記事

右及御届候也

年月日

本居地
寄留地
連署人實戸戸主（之ニ準スヘキ養戸、婚戸ノ戸主）姓　名印

本居地
寄留地
届出人養戸戸主姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第六號様式）

婚姻届

	夫（婚姻前ノ）	妻（婚姻前ノ）
（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位、出生別		
（二）本居地、寄留地、族稱、種族		
（三）父母ノ姓名、職業		
（四）縁事上ノ有様（初婚、再婚ノ別及再婚以上ニ在テハ婚姻解消ノ最近ノ事實）		

（五）婚姻ノ種別（普通婚姻、壻養子縁組、入夫、招夫等ノ別）

（六）婚姻ノ年月日

（七）戸主ト夫（壻養子、入夫、招夫等ニ在テハ妻）トノ續柄

（八）記事

右及御届候也

年月日

本居地
寄留地
連署人實戸戸主（之ニ準スヘキ養戸、婚戸ノ戸主）姓　名印

本居地
寄留地
届出人婚戸戸主姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第七號様式）

離婚届

	夫（離婚後ノ）	妻（離婚後ノ）
（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位、出生別		
（二）本居地、寄留地、族稱、種族		
（三）父母ノ姓名、職業		
（四）離婚ニ因リ入ルヘキ戸ノ戸主ノ姓名		

（五）離婚ノ原因（協議上／裁判上（訴ヲ提起シタル者民法第八百十三條第　號（内地人ニ限ル）））

（六）離婚ノ年月日（裁判上ノ離婚ニ在テハ裁判確定ノ年月日）

（七）婚姻ノ年月日

（八）戸主ト夫（壻養子、入夫、招夫等ニ在テハ妻）トノ續柄

（九）記事

右及御届候也

年月日

本居地
寄留地
連署人實戸戸主（之ニ準スヘキ養戸、婚戸ノ戸主）姓　名印

本居地
寄留地
届出人婚戸戸主姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

（第八號様式）

後見（保佐）就職届

（一）後見人（保佐人）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

（二）被後見人（被保佐人）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

（三）後見人（保佐人）ト被後見人（被保佐人）トノ續柄

（四）後見（保佐）開始ノ原因

（五）後見（保佐）開始ノ年月日

（六）後見人（保佐人）就職ノ年月日

（七）戸主ト被後見人（被保佐人）トノ續柄

（八）記事

右及御届候也

年月日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

本居地
寄留地
後見人（保佐人）姓　名印

宛

（第九號様式）

後見（保佐）更迭届

（一）後任後見人（後任保佐人）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

（二）被後見人（被保佐人）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

（三）後任後見人（後任保佐人）ト被後見人（被保佐人）トノ續柄

（四）前任後見人（前任保佐人）ノ姓名

（五）更迭ノ事由

（六）更迭ノ年月日

（七）戸主ト被後見人（被保佐人）トノ續柄

（八）記事

右及御届候也

年月日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

本居地
寄留地
後見人（保佐人）姓　名印

宛

（第十號様式）

後見（保佐）終了届

（一）後見（保佐）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

人（人）　本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 被後見人（被保佐人）　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 終了ノ原因

(四) 終了ノ年月日

(五) 戸主ト被後見人（被保佐人）トノ續柄

(六) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
寄留地
屆出人　戸主　姓　名印
宛

(第十一號様式)

隱居屆

(一) 隱居者　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 戸主相續人　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 相續人ト隱居者トノ續柄

(四) 隱居ノ原因

(五) 隱居ノ年月日

(六) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
連署人隱居者　姓　名印

寄留地
屆出人　戸主　姓　名印
廳長
郡守
警察署長　宛

(第十二號様式)

失踪宣告屆

(一) 失踪者　姓名、出生年月日、職業及其ノ他位　本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 失踪宣告請求者　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族　失踪者トノ續柄

(三) 戸主ト失踪者トノ續柄

(四) 失踪宣告ノ年月日

(五) 失踪ノ年月日（民法第三十條ニ定メタル期間滿了ノ日）

(六) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
寄留地
屆出人　戸主　姓　名印
宛

(第十三號様式)

死産屆

(一) 男、女、死胎分娩ノ年月日、嫡、庶、私生子ノ別

(二) 父母ノ本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 父母ノ姓名、職業及其ノ地位

(四) 姙娠月數

(五) 死胎分娩ノ場所

(六) 戸主ト死兒トノ續柄

(七) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
寄留地
屆出人戸主　姓　名印
廳長
郡守
警察署長　宛

(第十四號様式)

死亡屆

(一) 姓名、出生年月日、男女ノ別、職業及其ノ地位（六歳未滿ノ死者ニ限リ嫡、庶、私生子ノ別）

(二) 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 死亡ノ場所

(四) 死因及其ノ細別、主治醫（官廳奉職醫、公醫、開業醫、醫生ノ別）

(五) 死亡ノ年月日

(六) 戸主ト死亡者トノ續柄

(七) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
寄留地
屆出人戸主　姓　名印
廳長
郡守
警察署長　宛

(第十五號様式)

戸主相續屆

(一) 相續人　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族　出生別、父母ノ姓名

(二) 被相續人　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 相續人ト被相續人トノ續柄

(四) 相續ノ原因

(五) 相續ノ年月日

(六) 記事

右及御屆候也
年　月　日
本居地
寄留地
屆出人戸主　姓　名印
廳長
郡守
警察署長　宛

(第十六號様式)

推定戸主相續人廢除屆

(一) 推定戸主相續人　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 被相續人　姓名、出生年月日、職業及其ノ地位　本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 相續人ト被相續人トノ續柄

(四) 廢除ノ原因

(五) 廢除ノ年月日（內地人ニ在テハ裁判確定ノ年月日）

(六) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第十七號樣式)

戸主相續人指定届

(一) 指定戸主相續人

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 被相續人

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 相續人ト被相續人トノ續柄

(四) 指定ノ原因

(五) 指定ノ年月日

(六) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第十八號樣式)

入戸届

(一) 入戸者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族
- 出生別、父母ノ姓名

(二) 入戸セシメタル者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱

(三) 入戸ノ事由

(四) 入戸ノ年月日

(五) 戸主ト入戸者トノ續柄

(六) 入戸者ノ家族

入戸者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(七) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第十九號樣式)

離戸届

(一) 離戸セラレシ者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族
- 出生別、父母ノ姓名

(二) 離戸シタル者

- 姓名、職業
- 本居地、寄留地

(三) 離戸ノ事由

(四) 離戸ノ年月日

(五) 戸主ト離戸セラレシ者トノ續柄

(六) 離戸セラレシ者ノ家族

離戸セラレシ者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(七) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十號樣式)

復戸拒絶届

(一) 復戸ヲ拒絶セラレシ者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 復戸ヲ拒絶シタル者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 拒絶セラレシ者ト拒絶シタル者トノ續柄

(四) 拒絶ノ原因

(五) 拒絶ノ年月日

(六) 戸主ト拒絶セラレシ者トノ續柄

(七) 拒絶セラレシ者ノ家族

拒絶セラレシ者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	寄留地

(八) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十一號樣式)

廢戸届

(一) 廢戸者

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 廢戸者ノ入ルヘキ戸ノ戸主

- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 廢戸ノ事由

(四) 廢戸ノ年月日

(五) 廢戸者ト入ルヘキ戸ノ戸主トノ續柄

(六) 廢戸者ノ家族

廢戸者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	寄留地

(七) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地

寄留地

届出人前戸主　姓　名　印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十二號樣式)

絶戸届

(一) 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

(二) 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 絶戸者ノ家族ノ一戸チ創立スヘキ場所又ハ入ルヘキ戸ノ戸主ノ姓名、本居地、寄留地

(四) 絶戸ノ原因

(五) 絶戸ノ年月日

(六) 絶戸者ノ家族

絶戸者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	舊寄留地

(七) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十三號様式)

一戸創立届

(一) 創立者
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族、前戸主トノ續柄
- 出生別、父母ノ姓名

(二) 復戸チ拒ミタル（離戸シタル）廢（絶）シタル戸ノ戸主
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱

(三) 創立ノ事由

(四) 創立ノ年月日

(五) 創立者ノ家族

創立者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(六) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十四號様式)

分戸届

(一) 分戸ノ戸主
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族、本家ノ戸主トノ續柄
- 出生別、父母ノ姓名

(二) 本戸ノ戸主
- 姓名、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱

(三) 分戸ノ年月日

(四) 分戸者ノ家族

分戸者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(五) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十五號様式)

廢(絶)戸再興届

(一) 再興者
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族
- 出生別、父母ノ姓名

(二) 廢(絶)戸ノ最終戸主
- 姓名、職業
- 本居地、寄留地

(三) 廢(絶)シタル戸ト再興ヲ爲ス者ノ戸トノ續柄

(四) 再興ノ年月日

(五) 廢(絶)シタル年月日

(六) 再興者ノ家族

再興者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(七) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十六號様式)

國籍取得届

(一) 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

(二) 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 出生別、父母ノ姓名及國籍

(四) 戸主ト取得者トノ續柄

(五) 舊國籍

(六) 取得ノ原因

(七) 取得ノ年月日

(八) 取得者ノ家族

取得者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

(九) 記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守
警察署長　宛

(第二十七號様式)

國籍喪失届

(一) 喪失者
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(二) 戸主相續人（戸主相續人アルトキ）
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族

(三) 新ニ取得シタル國籍

(四) 喪失ノ原因

（五）喪失ノ年月日

（六）戸主ト喪失者トノ續柄

一

（七）喪失者ノ家族

喪失者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	寄留地

（八）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第二十八號樣式）

姓名（族稱）變更届

（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

（二）本居地、寄留地、族稱、種族

（三）變更前ノ姓名（族稱）

（四）變更ノ原因

（五）許可又ハ認可年月日、辭令年月日

（六）戸主ト變更者トノ續柄

二

（七）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第二十九號樣式）

棄見發見届

（一）姓名、男女ノ別、推定出生年月日及種族

（二）發見者ノ本居地、寄留地、族稱、種族

（三）發見者ノ姓名

（四）發見ノ場所

（五）發見ノ年月日

二

（六）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第三十號樣式）

轉居届

（一）戸主
- 姓名、出生年月日、職業及其ノ地位
- 本居地、寄留地、族稱、種族
- 出生別、父母ノ姓名
- 前戸主ノ姓名及其ノ續柄
- 戸主トナリタル年月日及事由

（二）舊本居地

（三）轉居ノ事由

（四）轉居ノ年月日

一

（五）家族

戸主トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	寄留地

（六）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第三十一號樣式）

寄留届

（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

（二）本居地、寄留地、族稱、種族

（三）出生別、父母ノ姓名

（四）戸主ニ在テハ前戸主ノ姓名及其ノ續柄、戸主ニ非サルトキハ戸主ノ姓名及其ノ續柄

（五）戸主トナリタル年月日

（六）舊寄留地（寄留地ヲ轉セシトキニ限ル）

（七）寄留ノ事由

（八）寄留ノ年月日

二

（九）寄留者ノ家族

寄留戸主（主宰者）トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位	出生別	父母ノ姓名	舊寄留地

（十）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第三十二號樣式）

寄留退去届

（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

（二）本居地、族稱、種族

（三）行先地又ハ入ルヘキ戸ノ戸主ノ姓名、本居地、寄留地

（四）退去ノ事由

（五）退去ノ年月日

二

（六）退去者ノ家族

退去者トノ續柄、種族	姓名	出生年月日	職業及其ノ地位

（七）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名印

廳長
郡守　宛
警察署長

（第三十三號樣式）

届出事項變更（訂正）届

（一）姓名、出生年月日、職業及其ノ地位

（二）本居地、寄留地、族稱、種族

（三）前届出事件名及其ノ年月日

（四）變更（訂正）スヘキ事項
（五）變更（訂正）ノ事由
（六）認可年月日
（七）戸主ト變更（訂正）者トノ續柄
（八）記事

右及御届候也

年　月　日

本居地
寄留地
届出人戸主　姓　名　印

廳長
郡守　宛
警察署長

樣式記入心得

一　欄内記載ノ事項中事實ノ存在セサルモノハ記入ヲ要セス但シ職業ナキ者ハ無職業ト記スヘシ

二　位、勳、爵、學位、進士、擧人、秀才等ノ榮稱ヲ有スル者ナルトキハ姓名ノ頭ニ其ノ稱號ヲ記スヘシ

三　本島人及支那人ノ女ハ姓ノ下ニ氏ノ字ヲ附スヘシ例ヘハ林氏鮑トスルカ如シ

四　出生別欄ニハ出生ノ順序ヲ記スヘシ例ヘハ長男、次男、長女、次女トスルカ如シ

五　本居地トアルハ内地人ニ在テハ本籍地ヲ云フ

六　戸主相續、推定戸主相續人ノ廢除、戸主相續人ノ指定、入戸、離戸、復戸拒絶、廢戸、絶戸、一戸創立、分戸、廢絶戸再興、轉居トアルハ内地人ニ在テハ家督相續、推定家督相續人ノ廢除、家督相續人ノ指定、入籍、離籍、復籍拒絶、廢家、絶家、一家創立、分家、廢絶家再興、轉籍ヲ云フ

七　父母ハ族稱、本居地、寄留地ヲ同フスルヲ常例トセルニ依リ之ヲ異ニスル場合ノ外母ニ付テハ之カ記載ヲ省クモ妨ケナシ母ノ職業ニ付テモ亦同シ

八　各欄ニ父母トアルハ實父母ヲ云フ

九　職業名ハ農、工、商等ノ概括的名稱ヲ用ヰス實際稱呼ノ細別ヲ掲ケ其ノ地位ハ業主、家族、被傭人ニ分ツテ記スヘシ例ヘハ農ナレハ田、畑作業主、商ナレハ呉服商家族、工ナレハ大工職被傭人トスルカ如シ

十　種族欄ニハ父ノ種族ニ依リ内地人、本島人（福建人、廣東人、其ノ他ノ漢人、熟蕃人、生蕃人）支那人ノ區別ヲ記スヘシ但シ父不明ナルトキハ母ノ種族ニ依ルヘシ

十一　戸主ニアラサル者届出ヲ爲ス場合ハ戸主及届出人ノ本居地、寄留地及姓名ヲ記シ其ノ事由ヲ附記スヘシ

十二　記事欄ニハ各指定事項ノ補充其ノ他必要ノ事項アルトキハ之ヲ記スヘシ

（明治三十八年十二月二十六日　臺灣總督府告諭第三號）

明治二十九年八月一般住民ニ告諭シ新ニ戸籍ヲ編製シ本島住民確認ノ證憑タラシムヘキヲ以テセリ然ルニ本島現下ノ趨勢ニ鑑ミルニ戸口ノ異動ヲ詳ニシ其ノ實體ヲ明ニスルハ却テ警察ノ戸口調査ニ依ルノ機宜ニ適スルヲ認ム仍テ本總督ハ玆ニ戸口規則ヲ發布シ同時ニ地方廳ニ備ヘタル戸籍ハ之ヲ廢止シ警察ノ戸口調査簿ヲ以テ戸口ノ異動ヲ明カニスルノ制ト爲セリ自今本島在住ノ帝國臣民及【清國】人ハ戸口規則ニ明示スル一定ノ事項發生シタルトキハ速ニ届出ヲ爲スコトニ留意シ之ヲ怠リ違犯ノ行爲ナカランコトヲ期スヘシ

●樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱竝樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル件

（大正十三年十一月二十八日　閣令第七號）
改正　昭和四年拓務省令第一號

樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱竝樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル件左ノ通定ム

樺太ニ本籍ヲ有スル者ノ國籍ノ留保及離脱竝樺太ニ住所ヲ有スル者ノ歸化及國籍ノ回復ニ關スル手續ニ付テハ大正十三年内務省令第二十六號國籍法施行規則ニ依ル但シ同令中地方廳トアルハ樺太廳、内務大臣トアルハ拓務大臣、三十日トアルハ六十日トス

附則

本令ハ大正十三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年閣令第五號ハ之ヲ廢止ス

大正十三年勅令第二百六十二號ニ依リ指定セラレタル外國ニ於テ生レタルニ因リテ其ノ國ノ國籍ヲ取得シタル日本人ニ關シ本令施行前大正十三年閣令第五號ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ許可ノ申請ハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リテ爲シタル國籍ノ離脱ノ届出ト看做ス

●樺太ニ本籍ヲ有スル者ニシテ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サムトスル者出願方ノ件

（大正十三年七月二十八日　閣令第六號）
改正　大正一三年第八號　昭和四年拓務省令第一號

樺太ニ本籍ヲ有シ【又ハ住所】ヲ有スル者ニシテ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サムトスル者【及歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セムトスル者】出願方ノ件左ノ通定ム

樺太ニ本籍ヲ有スル者明治三十一年法律第二十一號ノ規定ニ依リ外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サムトスルトキハ樺太廳ヲ經由シ拓務大臣ニ願出ツヘシ

附則

本令ハ大正十三年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●樺太在住内地人ノ戸籍法ニ依ル届出ノ件

（大正九年三月三十日　樺太廳告示第三十八號）

樺太ニ在住スル内地人ノ戸籍法ニ依ル届出ニ關スル件

自今樺太ニ在住スル内地人ノ戸籍法ニ依ル届出ニ付テハ便宜所轄支廳又ハ支廳出張所ニ於テ届書ヲ受理シ本籍地市町村長ニ送付ス

●土人戸口届出規則

（大正十年九月二十五日　樺太廳令第三十五號）
改正　大正一一年第四〇號、一二年第五三號、一三年第二七號

土人戸口届出規則左ノ通定ム

土人戸口届出規則

第一條　本島ニ居住スルアイヌ、ニクブン、オロッコ、キーリン、サンダー等ノ土人ニシテ本籍ヲ有セサル者左記ノ場合ニ該當スルトキハ速ニ之ヲ届出ツヘシ

一　出生
二　死亡又ハ所在不明
三　結婚、離婚、養子緣組又ハ離緣
四　家長相續
五　轉居
六　同居
七　一家創立
八　改氏名

第二條　前條ノ届出ハ家長ヨリ書面又ハ口頭

ヲ以テ町村長ニ之ヲ爲スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス樺太土人戸口規則ハ之ヲ廢止ス

●死亡診斷書死體檢按書及死産證書死胎檢按書ノ樣式竝記載例

（明治四十年五月　樺太廳令第四十八號）

醫師ノ作成スヘキ死亡診斷書、死體檢按書及醫師又ハ産婆ノ作成スヘキ死産證書、死胎檢按書ノ樣式竝其ノ記載方ハ左ノ各項ニ據ルヘシ

（樣式）

死亡診斷書（死體檢按書）

一　氏　名
二　男女ノ別
三　出生ノ年月日
四　職　業（死亡者ノ職業、家計ノ主ナル職業）
五　病死、自殺其他ノ變死、中毒ノ別
六　病　名（自殺者ニ在リテハ）手段（自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在リテハ種類）
七　發病ノ年月日（變死者、自殺者等ニ在リテハ之ヲ略ク）
八　死亡ノ年月日時
九　死亡ノ場所

右證明（檢按）候也

年　月　日

住所
醫師　何　某印

記載方

一　戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ但シ自殺者、變死者等ニシテ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

二　經久ノ死體ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三　自殺者、變死者ニシテ出生ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齡何歲ト記シ若推定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

四　死亡者家計上ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ若シ幼者、老者、婦女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト記スヘシ又死亡者ニ一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ農商工業ノ汎稱ニ據ラスシテ小作業、呉服商又ハ大工職等成ルヘク細密ニ記スヘシ

自殺者、變死者等ニシテ其ノ職業明ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

五　病死ナルヤ自殺ナルヤ若ハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ

六　病死ノ場合ニ於テハ其ノ死因ト爲リタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリ他ハ續發病若ハ胎發病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因ト爲リタル病名ノミヲ記スヘシ若以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併記スヘシ死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記ス自殺者ニ在リテハ其ノ自殺ノ手段例之縊死、刄傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在リテハ其ノ種類例之溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七　病死者ニ在リテハ死因ト爲リタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若明瞭ナラサルトキハ推定何年何月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

八　病死、自殺、變死、中毒ニ拘ラス死亡ノ年月日ヲ記スヘシ若自殺者、變死者等ニシテ死亡ノ年月日明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此ノ場合ニ於テハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

九　死亡ノ場所ハ其ノ地名ヲ詳記スヘシ若自殺者、變死者等ニシテ漂著セル死體ナルトキハ其漂著シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其ノ下ニ漂著ト記スルヲ要ス

（樣式）

死産證書（死胎檢按書）

一　父ノ氏名（私生子ノ場合ニ在リテハ母ノ氏名）
二　父ノ出生ノ年月日
三　母ノ出生ノ年月日
四　父ノ職業（私生子ノ場合ニ在リテハ母ノ職業）
五　姙娠ノ月數
六　分娩ノ年月日時
七　分娩ノ場所
八　死胎ノ男女ノ別
九　死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右證明（檢按）候也

年　月　日

住所
醫師（産婆）何　某印

記載方

一　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ氏名ヲ記スヘシ若私生子ナルトキハ其ノ母ノ氏名ヲ記スヘシ

二　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三　死胎ノ何タルニ拘ハラス其ノ母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四　死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其ノ父ノ職業ヲ記スヘシ若私生子ナルトキハ其ノ母ノ職業ヲ記スヘシ總テ職業名ハ農商工等ノ汎稱ニ據ラスシテ小作業、呉服商又ハ大工職等成ルヘク細密ニ記スヘシ

五　姙娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル姙娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一箇月ト看做シ何箇月目ニ該當セルカヲ記スヘシ

六　分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此ノ場合ニ於テハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七　分娩ノ場所ハ其ノ地名ヲ詳記スヘシ

八　死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スヘシ若鬼胎等ニ在テ男女ノ別ヲ爲シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ添ヘ不詳ト記スヘシ

九　死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若ハ私生子ナルカヲ記スヘシ

●南洋群島在住内地人ノ戸籍法ニ依ル届出ノ件

（大正十四年五月三十日　南洋廳告示第八號）

南洋群島ニ在住スル内地人ニシテ戸籍法ニ依リ本籍地市町村長ニ届出ヲ爲サントスル者ハ所轄支廳ニ其ノ届書ヲ提出スルコトヲ得

前項ノ届書ノ提出ハ戸籍法ニ定ムル期間内ニ之ヲ爲スヘシ但シ支廳所在地以外ノ島嶼ニ在住シ右期間内ニ所轄支廳ニ其ノ届書ヲ提出スルコト能ハサル者ハ最寄警部補派出所又ハ巡査駐在所ニ之ヲ提出スルコトヲ得

第十款　華士族

●華族授爵ノ詔

（明治十七年七月七日　詔）

朕惟フニ華族勳冑ハ國ノ瞻望ナリ宜シク授クルニ榮爵ヲ以テシ用テ寵光ヲ示スヘシ文武諸臣中興ノ偉業ヲ翼賛シ國ニ大勞アル者宜シク均シク優列ニ陞シ用テ殊典ヲ昭ニスヘシ玆ニ五爵ヲ叙テ其有禮ヲ秩ス卿等益ス爾ノ忠貞ヲ篤クシ爾ノ子孫ヲシテ世々其美ヲ濟サシメヨ

●華族令（明治四十年五月八日皇室令第二號）

改正　明治四三年第一七號

朕華族令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

華族令

第一條　凡ソ有爵者ヲ華族トス

有爵者ノ家族ハ華族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第三條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮內大臣之ヲ奉行ス

第四條　有爵者ハ其ノ爵ニ相當スル禮遇ヲ享ク

第五條　有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシメ其ノ家ノ戶主トナリタルトキ又ハ襲爵者ナクシテ其ノ家ニ在ルトキハ其ノ者ニ限リ特ニ華族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第六條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ掲ケタル者ハ華族ノ禮遇ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ法定ノ推定家督相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　戶主タリシ者

四　前三號ニ掲ケタル者ノ配偶者

第七條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

一　禁治產者及準禁治產者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋中ニ在ル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第八條　有爵者ハ法律命令及華族ニ關スル規程ノ範圍內ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第九條　爵ハ男子ノ家督相續人ヲシテ之ヲ襲カシム

第十條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ開始ヲ知リタル時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ家督相續ノ届出ヲ爲スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十一條　襲爵ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ家督相續人ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス

一　國籍喪失ニ因リ家督相續開始シタルトキ

二　第十條第一項ノ期間內又ハ家督相續開始ノ時ヨリ三箇年內ニ家督相續ノ届出ヲ爲ササルトキ

三　第二十二條又ハ第二十四條ニ依リ華族ノ族稱ヲ享ケサルトキ又ハ之ヲ失ヒ若ハ之ヲ除カレタルトキ

第十三條　有爵者及其ノ家族ノ身分ニ關シ監督上必要ナル事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十四條　有爵者婚姻、養子緣組、隱居、協議上ノ離婚若ハ離緣又ハ家督相續人ノ指定若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ【戶籍吏】ニ其ノ届出ヲ爲ス前、隱居ヲ爲スニ付キ裁判所ノ許可ヲ要スル場合ハ其ノ許可ヲ請求スル前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

有爵者遺言ヲ以テ養子緣組ヲ爲シ又ハ家督相續人ノ指定ヲ爲スノ意思ヲ表示シタルトキハ養子トナル者又ハ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ニ在リテハ其ノ承諾ヲ爲ス前、被指定者又ハ其ノ法定代理人ニ在リテハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ハ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十五條　有爵者法定ノ推定家督相續人ノ廢除若ハ其ノ取消ヲ爲サムトスルトキ又ハ被廢除者廢除ノ取消ヲ爲サムトスルトキハ裁判所ニ請求スル前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ但シ有爵者遺言ヲ以テ家督相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ヲ爲スノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　有爵者ノ家督相續人ニ選定セラレタル者又ハ其ノ法定代理人ハ相續ノ承認ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ被選定者皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十七條　有爵者ノ家族婚姻、養子緣組、分家、廢絕家再興又ハ他家相續ヲ爲シ若ハ他家ノ家族トナラムトスルトキハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ハ之ニ同意ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ婚姻ノ當事者ノ一方皇族ナルトキハ之ヲ適用セス

第十八條　有爵者又ハ其ノ法定代理人其ノ家ニ入ル者ノ入籍ニ同意ヲ爲サムトスルトキハ其ノ同意ヲ爲ス前宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第十九條　有爵者又ハ其ノ推定家督相續人養子緣組ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ養子、家督相續人ノ指定又ハ選定ノ場合ニ於テハ其ノ家督相續人左ノ各號ノ一ニ該當セサルトキハ宮內大臣ノ認許ヲ受クルコトヲ得ス

一　養父又ハ被相續人ノ男系ノ六親等內ノ血族但シ他家ヨリ入リタル者ノ實方ノ親族ヲ除ク

二　本家又ハ同家ノ家族若ハ分家ノ戶主又ハ家族

三　華族ノ族稱ヲ享クル者

第二十條　宮內大臣ノ認許ヲ受クヘキ者認許ヲ受ケスシテ第十四條乃至第十八條ノ行爲ヲ爲シタルトキハ情狀ニ依リ華族ノ禮遇ヲ停止シ又ハ爵ヲ襲カシメサルコトアルヘシ

第十八條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ入籍者ハ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十一條　有爵者死刑又ハ懲役ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

有爵者ノ婦前項ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ禁止ス

第二十二條　第五條第二項ノ禮遇ヲ享クヘキ者又ハ有爵者ノ家族前條ノ場合ニ該當スルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ失フ

新ニ爵ヲ授ケラレタル者ノ家族ニシテ前條ノ場合ニ該當スル者アルトキハ其ノ者ニ限リ華族ノ族稱ヲ享クルコトヲ得ス

第二十三條　有爵者又ハ第五條、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ禮遇ヲ停止ス

一　華族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

二　宮內大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第二十四條　前三條ニ規定シタル場合ノ外華族ノ體面ヲ汚辱スル失行アリタル者ハ情狀ニ依リ爵ヲ返上セシメ、華族ノ族稱ヲ除キ又ハ其ノ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第五條、第六條ノ禮遇ヲ享ケサル家族ニシテ前項ノ失行アリタル者ハ華族ノ族稱ヲ除ク

第二十五條　有爵者其ノ禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第五條第一項、第六條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十六條　有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮內大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十七條　第二十條第一項、第二十三條、第二十四條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

前項ノ處分及解除ニ付テハ宗秩寮審議會ノ審議ヲ經タル後勅裁ヲ經ヘシ

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

附　則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治十七年奉勅達華族令及明治三年九月十日太政官布告宮竝ニ華族家人職員ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

●華族令施行規則（明治四十年五月八日宮內省令第三號）

華族令施行規則左ノ通定ム

華族令施行規則

第一條　華族令及本令ニ依ル出願又ハ届出ハ總テ書面ヲ以テシ宮內大臣ニ宛テ之ヲ差出スヘシ

第二條　願書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ出願者又ハ届出者之ニ署名捺印スヘシ

一　出願事件又ハ届出事件

二　出願又ハ届出ノ年月日

三　出願者又ハ届出者ノ氏名

第三條　出願者又ハ届出者ト出願事件又ハ届出事件ノ本人ト異ナルトキハ願書又ハ届書ニ其ノ間ノ關係及本人ノ氏名ヲ記載スヘシ

第四條　法定代理人ニ於テ出願又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　本人ノ氏名

二　無能力ノ原因

三　後見人ナルコト

第五條　出願者、届出者又ハ出願事件、届出事件ノ本人有爵者ナルトキハ前三條ニ定メタル記載事項ノ外爵、其ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及其ノ者ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル戶主ナルトキハ其ノ族籍、住所及職業其ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業及其ノ者ト戶主トノ續柄竝其ノ者ノ住所ヲ記載スヘシ

第六條　願書又ハ届書ノ宛名ニハ宮內大臣ノ爵、氏名ヲ記載スヘシ

第七條　禁治產者後見人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付キ出願又ハ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ願書又ハ届書ニ本人ニ於テ出願事件又ハ届出事件ノ性質及效果ヲ理會スルニ足ル能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第八條　華族令第八條ニ依リ家範ノ認許ヲ請フニハ願書ニ家範ノ草案ヲ添ヘ其ノ廢止變更ノ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ理由ヲ具スヘシ

第九條　華族令第十四條第一項ニ依リ婚姻、養子緣組又ハ家督相續人ノ指定ニ付キ認許ヲ請フニハ配偶者、養子又ハ家督相續人トナルヘキ者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　氏名及出生ノ年月日

二　父母ノ氏名

三　出願者ト本人トノ續柄

四　本人ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及本人ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戶主トノ續柄

第十條　華族令第十四條第一項ニ依リ隱居、協議上ノ離婚若ハ離緣又ハ家督相續人指定ノ取消ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ理由ヲ具シ隱居ニ付テハ家督相續人ノ承認アリタルコト、離婚若ハ離緣ニ付テハ相手方ノ承諾アリタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ

第十一條　華族令第十四條第二項ニ依リ養子緣組ノ承諾又ハ相續ノ承認ニ付キ認許ヲ請フニハ養子トナル者又ハ被指定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日

二　父母ノ氏名

三　遺言者ノ爵、氏名

四　本人ト遺言者トノ續柄

五　本人ニシテ遺言者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及本人ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及本人ト戶主トノ續柄

第十二條　華族令第十五條ニ依リ法定ノ推定家督相續人ノ廢除又ハ其ノ取消ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ理由ヲ具スヘシ

第十三條　華族令第十六條ニ依リ相續ノ承認ニ付キ認許ヲ請フニハ被選定者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日

二　父母ノ氏名

三　被選定者ト被相續人トノ續柄

四　被選定者ニシテ被相續人以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及被選定者ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及被選定者ト戶主トノ續柄

第十四條　華族令第十七條ニ依リ婚姻又ハ養子緣組ノ認許ヲ請フニハ各當事者ニ關シ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　出生ノ年月日

二　父母ノ氏名

三　各當事者間ノ續柄

四　當事者ノ一方ニシテ出願者以外ノ有爵者ノ家族ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及其ノ當事者ノ一方ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ當事者ノ一方ト戶主トノ續柄

第十五條　華族令第十七條ニ依リ分家ノ認許ヲ請フニハ願書ニ分家ノ家族ト爲サムトスル者ノ氏名ヲ具スヘシ

第十六條　華族令第十七條ニ依リ廢絕家再興ノ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　再興セムトスル家ノ最後ノ戶主ノ族籍、職業及氏名

二　再興ヲ爲サムトスル本人ト再興セムトスル家トノ關係

三　再興ノ理由

第十七條　華族令第十七條ニ依リ他家相續ノ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　本人他家ノ相續人トナル原因

二　被相續人有爵者ナリシトキハ其ノ爵、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナリシトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及相續人ト被相續人トノ續柄

第十八條　華族令第十七條又ハ第十八條ニ依リ家族カ他家ニ入リ又ハ他家ヨリ入ルニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　入籍セムトスル家ノ戶主有爵者ナルトキハ戶主ノ爵、氏名及入籍セムトスル者ト戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及入籍セムトスル者ト戶主トノ續柄

二　入籍セムトスル者戶主ナルトキハ其ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戶主トノ續柄、有爵者ニ非サル者ノ家族ナルトキハ戶主ノ族籍、住所、職業、氏名及其ノ者ト入籍セムトスル家ノ戶主トノ續柄

三　入籍ノ理由

第十九條　民法ノ規定ニ依リ同意ヲ得ルコトヲ要スル行爲ニ付キ認許ヲ請フニハ願書ニ其ノ同意ヲ得タルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ添フヘシ

第二十條　華族令第二十六條ニ依リ爵ノ返上ヲ請願スルニハ願書ニ返上ノ理由ヲ具スヘシ

第二十一條　新ニ爵ヲ授ケラレタル者ハ三十日內ニ戶籍ノ謄本ヲ添ヘ住所ノ届書ヲ差出スヘシ

第二十二條　有爵者又ハ其ノ家族ニ付キ左ノ事實アリタルトキハ遲滯ナク其ノ届出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ届書ニ事實ノ生シタル年月日及其ノ事由ヲ具スヘシ

一　戶籍ノ異動アリタルトキ

二　身分登記ノ變更アリタルトキ

三　轉籍又ハ轉居シタルトキ

四　私生子ノ認知ヲ爲シタルトキ

五　禁治產若ハ準禁治產ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

六　親權ノ全部若ハ一部ノ喪失ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

七　家資分散若ハ破產ノ宣告又ハ其ノ取消アリタルトキ

八　身代限ノ處分ヲ受ケタル者債務ノ辨濟ヲ終ヘタルトキ

九　行方知レサルトキ

第二十三條　前條ノ届出ニ付テハ有爵者又ハ其ノ法定代理人ヲ以テ届出義務者トス

有爵者又ハ其ノ法定代理人届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其ノ順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ但シ成年者ニ限ル

第一　家督相續人

第二　同居ノ家族

第三　届出事件ノ本人ノ三親等內ノ親族

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其ノ中ノ一人ヨリ届出ヲ爲スヲ以テ足ル

第二十四條　有爵者死亡シタルトキハ遲滯ナク其ノ届出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ死亡ノ年月日及原因ヲ具スヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ

之ヲ準用ス

第二十五條　華族令第十條第一項ニ依リ家督相續ノ屆出ヲ爲スニハ屆書ニ左ノ諸件ヲ具スヘシ

一　相續人ノ出生ノ年月日
二　被相續人ノ爵、氏名
三　相續開始ノ原因及其ノ年月日
四　相續人トナリタル原因

爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ家督相續人又ハ其ノ法定代理人屆出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ本人ノ三親等內ノ親族タル成年者一人ヨリ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第二十六條　有爵者ノ爲ニ後見開始シタルトキハ後見人ハ自己其ノ後見人タルコトヲ知リタル後遲滯ナク後見開始ノ原因及後見監督人ノ氏名ヲ屆出ツヘシ

第二十七條　有爵者ニ保佐人ヲ附シタルトキハ保佐人ハ自己其ノ保佐人タルコトヲ知リタル後遲滯ナク其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十八條　有爵者無能力者ナル場合ニ於テ親族會ヲ設ケタルトキハ其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク親族會員ノ族籍、住所、職業及氏名ヲ屆出ツヘシ

附　則

本令ハ明治四十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●華族戒飭令 （明治四十四年十二月二十八日皇室令第六號）

朕華族戒飭令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム （宮內大臣副署）

華族戒飭令

第一條　華族ニシテ華族令ノ懲戒ニ該ラサル失行アルトキハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ戒飭ス

第二條　戒飭ハ左ノ如シ

一　譴責
二　訓誡

第三條　譴責ハ宗秩寮審議會ノ審議ヲ經テ宮內大臣之ヲ行ヒ訓誡ハ宮內大臣之ヲ專行ス

第四條　戒飭ヲ爲スヘキ場合左ノ如シ

一　華族ノ體面ニ關スル失行アリト認メタルトキ
二　不謹愼ノ言行アリト認メタルトキ
三　家產ヲ傾ケ又ハ傾クヘキ虞アリト認メタルトキ
四　家政ヲ紊シ又ハ紊スヘキ虞アリト認メタルトキ
五　宮內大臣ノ認許ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認許ヲ受ケスシテ華族令第十四條乃至第十八條ノ行爲ヲ爲シ其ノ情狀華族令第二十條ニ該當セサルトキ
六　宮內大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ其ノ情狀華族令第二十三條ニ該當セサルトキ

第五條　譴責ハ失行ヲ糺シ且將來ヲ戒飭スルモノトス

譴責ハ辭令書ヲ以テス

第六條　訓誡ハ過去ニ照シ主トシテ將來ヲ戒飭スルモノトス

訓誡ハ口頭ヲ以テス但シ必要ナル場合ニハ書面ヲ以テスルコトヲ得

第七條　宮內大臣ハ戒飭ニ關シ必要アリト認メタルトキハ本人ヲ召喚シ辯明ヲ求メ又ハ始末書ヲ徵スルコトヲ得

●華族內國旅行及寄留屆出方 （明治二十二年五月十六日宮內省達第八號）

華族（麝香間祗候及[illegible]ヲ除ク）

自今內國旅行及寄留ハ願ニ及ハス出發歸著ノ都度【爵位局長官】ヘ屆出ヘシ

●華族世襲財產法 （大正五年九月二十日法律第四十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル華族世襲財產法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム （總理、司法大臣副署）

華族世襲財產法

第一條　有爵者ハ其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍內ニ於テ世襲財產ヲ設定スルコトヲ得

第二條　世襲財產ノ設定ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　世襲財產ハ家寶、不動產、登錄國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル

第四條　世襲財產ヲ設定セムトスルトキハ其ノ財產ノ目錄ヲ添ヘ宮內大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第五條　有爵者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人、準禁治產者ナルトキハ其ノ保佐人ハ豫メ家政協議員會ノ決議ヲ經テ世襲財產設定ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

有爵者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家產ヲ治ムルニ堪ヘス又ハ之ヲ傾クルノ虞アルトキハ家政協議員會ハ本人ニ代リテ前項ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

家政協議員會ニ關スル規程ハ宮內大臣之ヲ定ム

第六條　世襲財產設定ノ認可ノ申請アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ當否ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮內大臣ハ本人ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七條　宮內大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ヲ相當ナリト認ムルトキハ其ノ申請アリタル旨ヲ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ揭クヘシ

第八條　前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者及債權者ハ前條第一項ノ公告期間內又ハ其ノ期間滿了後二月內ニ之ヲ宮內大臣ニ申出ツヘシ

世襲財產設定ノ認可ハ前項ニ定メタル期間滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　宮內大臣ハ世襲財產設定ノ認可ノ申請ノ全部又ハ一部ヲ認可スヘカラサル理由アリト認ムルトキハ華族世襲財產審議會ニ諮詢スヘシ

華族世襲財產審議會ニ關スル規程ハ宮內大臣之ヲ定ム

第十條　宮內大臣ハ世襲財產ノ設定ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ揭クル事項ヲ公告スヘシ

第十一條　前十條ノ規定ハ世襲財產ヲ增加スル場合ニ亦之ヲ適用ス

第十二條　宮內大臣ハ華族世襲財產臺帳ヲ設ケ世襲財產ニ關スル事項ヲ登錄スヘシ

第十三條　世襲財產タル登錄國債ニ付テハ國債登錄簿ニ世襲財產タル旨ヲ登錄シ有價證券ニ付テハ宮內大臣之ニ世襲財產タル旨ヲ記入スヘシ

株券及社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財產タル旨ヲ記入スヘシ

登錄國債又ハ有價證券ノ世襲財產タル效力ハ前二項ノ手續ヲ踐ミタル後ニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條　世襲財產ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因ニ基キ世襲財產ニ付所有權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ確定判決又ハ確定日附アル證書ニ依リテノミ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ權利ヲ主張セムトスル者ハ其ノ旨ヲ宮內大臣ニ申出ツヘシ

第十五條　世襲財產ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第十六條　世襲財產及其ノ法定果實ヲ收取スル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス株券カ世襲財產タル場合ニ於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦同シ

第十七條　土地カ世襲財產タル場合ニ於テ地上權又ハ永小作權ノ設定又ハ變更ハ宮內大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十八條　世襲財產及第十六條ニ揭クル權利ハ世襲財產ノ管理ニ因リテ生シタル權利及不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基ク場合ヲ除クノ外民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

世襲財產ノ果實及第十六條ノ利益又ハ利息カ他ノ財產ト混合セサル間其ノ三分ノ二ニ付亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ハ世襲財產ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル假差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ着手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ケス

第十九條　世襲財產ハ重大ナル事由アルトキニ限リ其ノ一部ヲ廢止スルコトヲ得

世襲財產ハ他ノ世襲財產ニ換フル爲其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第四條、第五條第一項及第六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　宮內大臣ハ世襲財產ノ廢止ヲ認可スヘキヤ否ヤニ付華族世襲財產審議會ニ諮詢スヘシ

第二十一條　第十九條第二項ノ規定ニ依リ世襲財產ヲ廢止シタル場合ニ於テハ廢止ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ家督相續人ハ認可アリタル日ヨリ六月內ニ世襲財產設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ期間內ニ申請ヲ爲サヽルトキハ宮內大臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　世襲財產カ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ他ノ財產ニ代リタルトキハ所有者ハ其ノ財產ヲ以テ世襲財產ヲ補充スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

世襲財產ニ代リタル財產ニシテ他ノ財產ト混合セサルモノニ付テハ第十八條第一項ノ規定ヲ準用ス

宮內大臣ハ相當ノ事由アリト認ムルトキハ前條第一項ノ認可ノ申請ヲ免除スルコトヲ得

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テ宮內大臣ハ必要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財產タリシ財產又ハ前條ノ財產及其ノ財產ノ處分ニ因リテ得タル財產ヲ管理セシムルコトヲ得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシテ管理財產ト混合シタルモノニ付亦同シ

宮內大臣ハ管理人ヲ改任シ其ノ他財產ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　管理人ノ選任アリタル場合ニ於テ本人、其ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財產設定ノ認可ヲ申請セサルトキハ管理人ハ遲滯ナク管理財產ニ付其ノ申請ヲ爲スヘシ

第二十五條　管理財產ハ管理人ニ於テノミ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利若ハ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ基キテノミ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得

第十六條及第十八條第二項ノ規定ハ管理財產ノ果實ニ之ヲ準用ス管理財產中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十六條　有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財產ハ失爵又ハ家督相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第二十七條　世襲財產ニ付第十四條第二項ノ申出アリタル後二月內ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ其ノ財產ハ初ヨリ世襲財產タル效力ヲ失フ

前項ノ期間內ハ主張ニ係ル權利ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　第二十三條乃至第二十五條ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リテ世襲財產タル效力ヲ失ヒタル財產アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財產ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財產アル場合ニ於テハ第二十二條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條　世襲財產ノ廢止、失效其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮內大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ管理人ヲ選任又ハ改任シタルトキ亦同シ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第三十條　管理財產中登錄國債アルトキハ國債登錄簿ニ管理財產タル旨ヲ登錄シ管理終了シタルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

登錄國債又ハ有價證券ニ付世襲財產ノ廢止又ハ失效アリタルトキハ第十三條ノ登錄又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　世襲財產ニ關スル公告、登記又ハ登錄ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第三十二條　宮內大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財產ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

宮內大臣ハ世襲財產ノ管理ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮內大臣之ヲ定ム

附　則

從前ノ規定ニ依ル世襲財產及其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財產ト看做ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ世襲財產ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス本法施行前著手シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動產登記法第百四條中「創設」ヲ「設定」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加ヘ同法第百四十三條中「解除ヲ認可シタルトキ」ヲ「廢止又ハ失效アリタルトキ」ニ、「創設」ヲ「設定」ニ改ム（左記二項ハ本法中訂正濟ニ付略ス）

●華族世襲財產法施行規則 （大正五年九月二十日宮內省令第七號）

華族世襲財產法施行規則勅裁ヲ經テ左ノ通定ム

華族世襲財產法施行規則

第一章　世襲財產

第一條　世襲財產ト爲スコトヲ得ヘキ家寶ハ所有者ノ家ニ由緖アルモノタルコトヲ要ス

第二條　世襲財產ト爲スコトヲ得ヘキ土地ハ相當ノ收益ヲ生スルモノ、所有者ノ家ニ由緖アルモノ又ハ所有者ノ邸地タルコトヲ要ス

第三條　世襲財產ト爲スコトヲ得ヘキ建物其ノ他土地ノ定著物ハ所有者ノ家ニ由緖アルモノ又ハ其ノ所有ニ屬スル世襲財產タル土地ノ上ニ存スルモノタルコトヲ要ス

第四條　家寶又ハ不動產ニシテ特ニ歷史ノ證徵又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ世襲財產ト爲スコトヲ得

第五條　世襲財產ト爲スコトヲ得ヘキ有價證券ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

一　國債證券又ハ地方債證券
二　政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮內大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ株券ニシテ拂込濟ノモノ
三　政府ノ特別保護若ハ特別監督ヲ受クル會社又ハ宮內大臣ニ於テ確實ト認ムル會社ノ社債券

第二章　世襲財產ノ設定

第六條　世襲財產設定ノ認可ノ申請書ニハ家寶ニ付テハ其ノ品目、種類及箇數、土地ニ付テハ其ノ所在、地目及面積、建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ所在、種類、構造及建坪、登錄國債及有價證券ニ付テハ其ノ種類、名稱、記號番號、金額及箇數ヲ記載シタル財產目錄ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　世襲財產ト爲スコトヲ得ヘキ理由ヲ詳記シタル書類
二　家寶ニ付テハ其ノ內容、構造其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シタル書類
三　土地ニ付テハ其ノ位置、形狀ヲ示スヘキ圖面及土地臺帳ノ謄本
四　建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ位置、構造ヲ示スヘキ圖面及建物臺帳アルトキハ其ノ謄本
五　土地又ハ建物ニ付テハ登記簿ノ謄本
六　家寶又ハ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ契約ノ要旨ヲ記載シタル書類
七　申請ニ係ル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ謄本
八　登錄國債ニ付テハ國債登錄簿ノ謄本及登錄所管國債事務取扱店ノ名稱ヲ記載シタル書類
九　當該財產ニ對スル權利者ノ有無、其ノ氏名及權利ノ種類、內容ヲ證スヘキ書類
十　民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ノ財產ニ付テハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書竝權利者ノ氏名及權利ノ種類、內容ヲ證スヘキ書類
十一　土地收用法、森林法、鑛業法其ノ他公益ノ爲ニスル財產ノ收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ノ適用ヲ受ケタル財產及滯納處分其ノ他公法上ノ執行處分ニ依リ差押アリタル財產ニ付テハ其ノ事實ヲ示スヘキ書類
十二　收益ヲ生スル財產ニ付テハ總收益及純收益ノ年額竝其ノ算出ノ基礎

ヲ示スヘキ書類

第七條　世襲財産設定ノ遺言アルコトヲ知リタル相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遺言カ其ノ效力ヲ生シタル後遲滯ナク遺言者ノ氏名、遺言ノ趣旨竝遺言執行者ノ有無及之アルトキハ其ノ氏名ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ遺言執行者ナキニ至リタルトキ又ハ遺言執行者ノ更迭アリタルトキ亦同シ

第八條　遺言ニ基キ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘキ場合ニ於テ遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ相續人、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク遺言執行者ノ選任ヲ裁判所ニ申請スヘシ

第九條　遺言執行者ハ其ノ資格ヲ證スヘキ書類ヲ添ヘ遲滯ナク世襲財産設定ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ世襲財産ノ設定ニ關スル遺言書又ハ其ノ謄本及遺言書ノ檢認書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ但シ公正證書ニ依ル遺言ニ在リテハ其ノ正本又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第十條　華族世襲財産法第五條第一項ノ規定ニ依リ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ資格ヲ證スヘキ書類及家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ家政協議員會カ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ理由ヲ詳記シ家政協議員會ノ決議書ヲ添附スヘシ

第十一條　世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ有價證券ハ申請ト同時ニ之ヲ宮内大臣ニ提出スヘシ

前項ノ證券利札付ナルトキハ支拂期ノ到來セサル利札モ提出スヘシ但シ其ノ利札完備セサルトキハ財産目錄ニ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第十二條　華族世襲財産法第六條第一項ノ規定ニ依リ調査ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ家寶及不動産ニ付テハ其ノ所在ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ家寶ハ之ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十三條　華族世襲財産法第六條第二項ノ規定ニ依リ財産ノ狀況ヲ調査スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ申請者ヲシテ書面ヲ以テ其ノ狀況ヲ申告セシメ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲サシムヘシ

前項ノ申告書ニハ動産、不動産、債權、債務其ノ他一切ノ財産ニ付申告書調製ノ時ニ於ケル價額ヲ附記スヘシ

第十四條　前二條ノ規定ニ依リ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲ストキハ其ノ所有者、法定代理人、保佐人、家政協議員又ハ同居ノ成年家族ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十五條　世襲財産設定ノ認可アリタルトキハ登錄國債ニ付テハ登錄所管國債事務取扱店ニ於テ、株券又ハ社債券ニ付テハ當該會社ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ世襲財産設定ノ認可アリタル旨及其ノ年月日ノ登錄又ハ記入ヲ爲スヘシ

第十六條　宮内大臣世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ有價證券ニハ世襲財産タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺シ且認可ノ年月日ヲ記入シ其ノ利札ニハ各葉ニ世襲財産タル有價證券ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ヲ押捺スヘシ

第十七條　第十一條及第十二條ノ規定ニ依リ提出シタル物件ハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタルトキハ之ヲ還付スヘシ其ノ設定ヲ認可セサルトキ亦同シ但シ時宜ニ依リ其ノ前ニ還付スルコトアルヘシ

第十八條　宮内大臣華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ付世襲財産ノ設定ヲ認可セサルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ申請者其ノ申請ヲ取下ケタルトキ亦同シ

第十九條　華族世襲財産法及本令ノ規定ニ依ル公告ハ官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ新聞紙ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第二十條　世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタル後其ノ財産ニ付異動アル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ此ノ場合ニハ第七章ノ規定ヲ準用ス

華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依ル公告アリタル後前項ノ異動ヲ生シタルトキハ宮内大臣ハ之ヲ公告スヘシ

第三章　家政協議員會

第二十一條　華族世襲財産法第五條ノ規定ニ依リ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ本人、親族、後見人、後見監督人、保佐人其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中五人以上ニ於テ家政協議員ヲ選定シ連署ヲ以テ其ノ選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ

第二十二條　世襲財産ヲ有スル有爵者カ無能力者トナリタル場合又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘス若ハ之ヲ傾クルノ虞アルニ至リタル場合ニ於テハ家政協議員ヲ選定スヘシ此ノ場合ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條　家政協議員ハ有爵者遺言ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ遲滯ナク家政協議員選定ノ認可ヲ宮内大臣ニ申請スヘシ此ノ場合ニハ第九條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十四條　家政協議員ハ三人以上七人以下ノ範圍内ニ於テ其ノ數ヲ定メ親族其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ要ス但シ次ニ揭クル者ハ家政協議員タルコトヲ得ス

一　未成年者、禁治産者及準禁治産者
二　後見人、後見監督人及保佐人
三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
五　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留、保釋又ハ責付中ニ在ル者
六　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
七　裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人及保佐人
八　華族令第二十條第一項、第二十三條、第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ爵ヲ襲カシメサル者、爵ヲ返上シタル者、華族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止セラレタル者及華族ノ族稱ヲ除カレタル者但シ華族ノ禮遇ノ禁止又ハ停止ヲ解除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

家政協議員前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第二十五條　宮内大臣ハ重要ナル事由アルトキハ家政協議員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條　家政協議員ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

家政協議員其ノ職ヲ辭セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　家政協議員ニ闕員アルトキハ有爵者、其ノ法定代理人又ハ保佐人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ

第二十一條ノ規定ハ補闕員ノ選定ニ之ヲ準用ス

第二十八條　家政協議員會ハ華族世襲財産法及本章ニ於テ定ムル任務ヲ有スルノ外世襲財産ニ關スル事項ヲ協議スルモノトス

華族世襲財産法第五條第二項ニ揭クル事實アル場合ニ於テハ家政協議員會ハ遲滯ナク世襲財産ノ管理方法ヲ定メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財産ニ關シ家政協議員會ノ決議ヲ經ヘキ事項ヲ指定スルコトヲ得

第二十九條　家政協議員會ハ本人、其ノ法定代理人若ハ保佐人又ハ各協議員之ヲ招集ス

家政協議員會ヲ招集スル者ハ會日ヨリ一週間前ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ屆出テ且各協議員及第三十三條ニ揭クル者ニ通知スルコトヲ要ス

第三十條　家政協議員會ハ協議員定數ノ過半出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第三十一條　家政協議員會ノ議事ハ出席協議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

家政協議員會ノ議事ハ之ヲ議事錄ニ記載シ其ノ會議ニ出席シタル協議員及第三十三條ノ規定ニ依リ出席シタル者之ニ署名捺印スヘシ

第三十二條　華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依ル申請ハ家政協議員定數ノ全員出席シ同意スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三十三條　本人、家ニ在ル父母、配偶者、法定ノ推定家督相續人、本家、分家及同家ノ戸主、後見人、後見監督人、保佐人竝親族會員ハ家政協議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條　宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ家政協議員會ニ出席セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏ハ議事錄ニ署名捺印スヘシ

第三十五條　家政協議員會ノ存續スヘキ事由止ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ華族世襲財産法第五條第二項ノ場合ニ於テハ家政協議員會終了ノ認可ヲ申請スヘシ

第四章　華族世襲財産審議會

第三十六條　華族世襲財産審議會會員ハ七人トシ左ノ區分ニ依ル

一　宮内勅任官及同待遇職員　二人
二　有爵者　五人

第四十二條ノ規定ニ該當スル會員アルニ因リ會議ヲ開クコト能ハサル場合ニ於テハ當該事件ノ審議ニ參加セシムル爲其ノ會員數以内ニ於テ前項ノ例ニ從ヒ臨時會員ノ數ヲ增加スルコトヲ得

第三十七條　華族世襲財産審議會會員ハ勅任待遇トス但シ官職アル者其ノ官職ニ付享クル待遇高キトキハ其ノ待遇ニ依ル

第三十八條　華族世襲財産審議會ノ議長ハ會員中ヨリ勅命セラルヘシ

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス

第三十九條　華族世襲財産審議會ハ宮内大臣之ヲ招集ス

第四十條　華族世襲財産審議會ハ會員四人以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條　華族世襲財産審議會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條　華族世襲財産審議會會員ニシテ會議ノ事項ニ付特別ノ關係ヲ有スル者ハ會議ニ出席スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル特別關係ノ有無ハ審議會之ヲ決ス

第四十三條　宮内大臣ハ華族世襲財産審議會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ宮内高等官ヲシテ之ヲ陳述セシムルコトヲ得

第四十四條　華族世襲財産審議會ハ其ノ決議ニ依リ宮内大臣ヲ經テ本人、其ノ法定代理人、保佐人又ハ家政協議員ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　華族世襲財産審議會ノ議事ハ之ヲ議事錄ニ記載シ出席會員之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條　華族世襲財産審議會ノ議長ハ審議會ノ決議書ニ議事錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ答申スヘシ

第五章　權利ノ申出

第四十七條　華族世襲財産法第八條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ヲ爲スニハ申出書ニ左ニ揭クル書類其ノ他權利ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

一　申出ツル權利ニ關スル登錄簿又ハ登錄簿ノ抄本
二　建物ノ所有ヲ目的トスル登記ナキ地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ公告ニ揭ケタル土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ建物登記簿ノ抄本
三　公告ニ揭ケタル土地ニ生立スル立木ニ付テハ立木登記簿ノ抄本
四　公告ニ揭ケタル財産カ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ニ在ルトキハ其ノ事實ヲ證スヘキ公正ノ證明書

第四十八條　前條ノ申出アリタルトキハ宮内大臣ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請者ニ其ノ申出ノ要旨ヲ通達スヘシ

申請者前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ申出ヲ承認スルヤ否ヤヲ遲滯ナク宮内大臣ニ申出ツヘシ

第四十九條　前二條ノ規定ハ華族世襲財産法第十四條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ニ之ヲ準用ス

第六章　臺帳

第五十條　世襲財産ニ關スル臺帳ハ華族世襲財産臺帳及管理財産臺帳ノ二種トス

臺帳ハ財産所有者每ニ別冊トス但シ登錄事項夥多ナルトキハ更ニ之ヲ分冊ト爲スコトヲ得

第五十一條　臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ紙數及調製ノ年月日ヲ記入シ主管部局長官之ニ捺印スヘシ前條第二項ノ規定ニ依リ分冊ト爲シタルトキハ其ノ各冊ニ付亦同シ

第五十二條　臺帳ニ登錄スヘキ事項及登錄ノ方式ハ附錄樣式ノ定ムル所ニ依ル

第五十三條　世襲財産設定ノ登錄ハ認可ノ當日之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　臺帳ノ登錄事項ニ異動アリタルトキハ異動ニ係ル既登錄ノ事項ハ之ヲ抹消シ新ニ登錄スヘキ事項ハ之ヲ別欄ニ登錄スヘシ

第五十五條　世襲財産ノ廢止アリタルトキハ廢止ノ認可ノ當日、其ノ失效アリタルトキハ遲滯ナク其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十六條　華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ命シタル管理終了シタルトキハ終了ノ認可ノ當日其ノ登錄ヲ抹消スヘシ

第五十七條　臺帳ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ更正シ且年月日ヲ記シテ主管部局長官捺印スヘシ

第五十八條　抹消ハ朱線ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七章　世襲財産ノ異動

第五十九條　世襲財産ニ付相續ノ開始アリタルトキハ家督相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ

第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ於ケル名義變更ノ登錄及記入ニ付之ヲ準用ス

第六十條　土地收用法ニ依リ世襲財産タル土地ヲ收用スル場合ニ於テ協議ニ依リ補償金ヲ定メ得ヘキトキハ起業者ハ協議成立前其ノ協議ノ要旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

地方長官ハ收用審査會ヨリ裁決ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代リテ裁決ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ裁決ノ要旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ土地收用法第三十四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ公告又ハ通知カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ及土地收用法第七十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ取消サレタルトキ其ノ事實ニ付亦同シ

土地所有者ハ土地收用法第六十二條ノ規定ニ依リ收用審査會ノ裁決カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ

第六十一條　收用審査會ノ裁決ニ對シ訴願又ハ訴訟ノ提起アリタルトキハ土地所有者ハ遲滯ナク左ニ揭クル事項ヲ宮内大臣ニ屆出ツヘシ

一　訴願又ハ訴訟ニ係ル事項
二　訴願ノ裁決若ハ却下アリタルトキ又ハ裁判所ノ判決若ハ裁決アリタルトキハ其ノ要旨
三　訴願又ハ訴ノ取下アリタルトキハ其ノ旨
四　通常裁判所ノ判決ニ對シ上訴アリタルトキハ其ノ旨及上訴判決ノ要旨

第六十二條　前二條ノ規定ハ世襲財産カ公益ノ爲ニスル收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ニシテ土地收用法以外ノモノノ適用ヲ受ク他ノ財産ニ代ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第六十三條　世襲財産ニ對シ假差押若ハ假處分ヲ爲シ又ハ強制執行若ハ競賣手續ニ著手シタルトキハ當該官署又ハ執達吏ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ手續ノ停止、變更又ハ消滅アリタルトキ亦同シ

第六十四條　滯納處分ニ依リ世襲財産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セムトスルトキハ當該官公署ハ

賣却手續ノ開始前其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

前項ノ報告後ニ於テ差押ノ解除アリタルトキハ當該官公署ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

第六十五條　前二條ノ場合ニ於テ世襲財産ヲ換價シ賣得金ニ剩餘アルコト確定シタルトキハ當該官公署又ハ執達吏ハ直ニ其ノ金額ヲ宮内大臣ニ報告スヘシ

第六十六條　世襲財産タル國債ノ償還アルヘキコト確定シタルトキハ國債事務取扱店ハ直ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

前項ノ規定ハ世襲財産タル地方債證券若ハ社債券ノ償還アルヘキコト確定シタルトキ又ハ株券ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スヘキ財産アルトキ其ノ發行者ニ之ヲ準用ス

第六十七條　世襲財産ノ保險者ハ保險金ヲ支拂フヘキコト確定シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第六十八條　世襲財産ノ所有者ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ世襲財産ニ代リテ自己ニ歸スヘキ財産アルトキハ豫メ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十條第二項及第六十二條乃至第六十四條ノ規定ニ依リ前項ニ揭ケタル事由ノ變更又ハ消滅アリタル場合ニ於テモ所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第六十九條　世襲財産ニ付左ニ揭クル事實アリタルトキハ所有者ハ遲滯ナク其ノ時期、事由其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ

一　第六條ノ規定ニ依リ提出シタル財産目錄其ノ他ノ添附書類ノ記載事項ニ異動アリタルトキ

二　世襲財産ノ全部又ハ一部カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三　世襲財産ノ全部又ハ一部カ滅失若ハ紛失シタルトキ又ハ之ヲ發見シタルトキ

四　收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸シタル財産アルトキ

第七十條　世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代證券ノ交付ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク宮内大臣ニ其ノ證券ヲ提出スヘシ此ノ場合ニハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

有價證券ノ利札カ滅失又ハ毀損シタル等ノ爲代利札ノ交付ヲ受ケ又ハ利札ノ盡了ニ因リ繼足利札ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル其ノ代利札又ハ繼足利札ノ提出及印章ノ押捺亦前項ノ例ニ依ル

第七十一條　世襲財産廢止ノ認可ノ申請書ニハ廢止セムトスル財産ノ目錄及廢止ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ添附スヘシ

他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ代ルヘキ財産ニ關スル詳細ナル說明書ヲ添附スヘシ

第七十二條　第十條第一項ノ規定ハ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人カ前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

家政協議員會アルヘキ場合ニ於テ有爵者カ世襲財産廢止ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ家政協議員定數ノ全員ノ同意書ヲ添附スヘシ

第七十三條　第十二條乃至第十四條ノ規定ハ世襲財産廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十四條　世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ其ノ財産ニ關スル登錄及記入ノ抹消ニ付テハ第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十五條　世襲財産ノ廢止又ハ失效アリタル場合ニ於テ宮内大臣ハ有價證券及其ノ利札ニ押捺シタル世襲財産及其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章竝記入シタル年月日ヲ抹消スヘシ

第七十六條　第十五條ノ規定ハ世襲財産ノ異動ノ場合ニ於ケル登錄及記入ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八章　管理財産

第七十七條　他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セムトスル者華族世襲財産法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スルトキハ廢止ノ認可ノ申請ト共ニ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第七十八條　前條ノ規定ハ收用、滯納處分、償還、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十三條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合ニ之ヲ準用ス華族世襲財産法第二十七條ノ規定ニ依リ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者カ華族世襲財産法第二十八條ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレムコトヲ欲スル場合亦同シ

前項ノ申出ハ所有者カ第六十八條又ハ第六十九條ノ届出ヲ爲ス際之ヲ爲スヘシ

第七十九條　宮内大臣管理人ヲ選任スルトキハ管理スヘキ財産ヲ指定スヘシ

管理人ハ世襲財産設定ノ認可アル迄前項ノ財産ヲ管理スヘシ

第八十條　第六十條、第六十二條乃至第六十四條及第六十六條乃至第六十八條ノ規定ニ依ル報告、届出又ハ申出アリタル場合ニ於テハ宮内大臣ハ豫メ管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル管理人ノ選任ハ之ヲ報告、届出又ハ申出ヲ爲シタル者ニ通知スヘシ

第八十一條　管理人ハ遲滯ナク財産目錄ヲ調製シ之ニ署名捺印スヘシ

財産目錄ハ二通ヲ調製シ之ヲ宮内大臣ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケ其ノ一通ハ管理人之ヲ保管スヘシ

宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ目錄ノ調製ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ立會官吏ハ財産目錄ニ署名捺印スヘシ

第八十二條　管理人民法第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ爲サムトスルトキハ豫メ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十三條　宮内大臣ハ管理財産ノ所有者ニ對シ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ命スルコトヲ得

第八十四條　管理財産中登錄國債ニ付テハ登錄所管國債事務取扱店ニ於テ宮内大臣ノ通知ニ依リ管理財産タル旨、管理ヲ命セラレタル年月日及管理人ノ氏名、住所ノ登錄ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ管理ノ終了シタル場合ニ於ケル登錄ノ抹消及管理人ノ改任アリタル場合ニ於ケル登錄ノ變更ニ付之ヲ準用ス

第八十五條　管理財産ニ異動アリタルトキハ管理人ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニハ第五十九條及第六十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ届出書ニハ異動ニ係ル財産ノ目錄ヲ添附スヘシ此ノ場合ニハ第八十一條ノ規定ヲ準用ス

管理財産ノ異動ニ關スル登錄及其ノ變更、抹消ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條　管理人ハ管理ヲ繼續スヘキ事由止ミタルトキハ遲滯ナク管理調書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ具申シ管理終了ノ認可ヲ申請スヘシ管理人ノ改任アリタルトキ前任管理人ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テ管理調書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ宮内大臣ハ特ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第八十一條ノ規定ハ管理調書ノ調製及其ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第九章　雜則

第八十七條　本令中世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ其ノ增加ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十八條　宮内大臣ハ華族世襲財産法第三十一條ノ規定ニ依ル費用ヲ算定シ名義人ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ

第八十九條　第十四條ノ規定ハ華族世襲財産法第三十二條ノ規定ニ依リ世襲財産ノ檢查ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第九十條　世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ノ樣式竝押捺及抹消ノ方法ハ別ニ之ヲ告示ス

附　則

本令ハ大正五年法律第四十五號華族世襲財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華族世襲財産法附則第一項ノ規定ニ依リ世襲財産タル有價證券ノ利札ニハ第十一條及第十六條ノ規定ヲ準用ス

從前ノ華族世襲財産臺帳ハ當分ノ內之ヲ使用スルコトヲ得

「附錄樣式」

華族世襲財産臺帳

氏名表示部

所有者			設定、增加、廢止申請者			
氏名	設定認可相續開始年月日	備考	所有者	申請者	認可年月日	備考

華族世襲財産臺帳

宮内省

氏名表示部

法定代理人、保佐人				家政協議員			
所有者	氏名	就職退職年月日	備考	所有者	氏名	就職退職年月日	備考

華族世襲財産臺帳

宮内省

財産表示部　甲（家寶）

設定增加認可年月日	番號	品目種類	箇數	内容構造等	事由	備考

華族世襲財産臺帳

宮内省

財産表示部　乙（土地）

設定增加認可年月日	番號	所在	地目	面積 段別 坪	地價 圓	純收益年額 圓	事由	備考

華族世襲財産臺帳

宮内省

財産表示部　丙（建物）

設定增加認可年月日	番號	所在	種類構造	建坪 坪	純收益年額 圓	事由	備考

華族世襲財産臺帳

宮內省

華族世襲財産臺帳

財産表示部　丁（登錄國債、有價證券）

設定增加認可年月日

番號

種類

株數

額面金額　圓

記號番號

純收益年額　圓

事由

備考

宮內省

管理財産臺帳

氏名表示部

所有者

氏名

管理開始年月日

管理人

住所

氏名

就職退職年月日

備考

管理財産臺帳

宮內省

財産表示部　甲（家寶）

管理開始年月日

番號

品目種類

箇數

內容構造等

事由

備考

管理財産臺帳

宮內省

財産表示部　乙（土地）

管理開始年月日

番號

所在

地目

面積

地價　圓

事由

備考

管理財産臺帳

宮內省

財産表示部　丙（建物）

管理開始年月日

番號

所在

種類

構造

建坪　坪

事由

備考

管理財産臺帳

宮內省

財産表示部　丁（登錄國債、有價證券）

管理開始年月日

番號

種類

株數

額面金額　圓

記號番號

事由

備考

財産表示部　戊（現金、債權等）

管理開始年月日

番號

種類

金額　圓

事由

備考

管理財産臺帳

宮內省

管理財産臺帳

宮內省

大正五年九月二十日宮內省告示第十七號

華族世襲財産法施行規則第九十條ノ規定ニ依リ世襲財産タル有價證券又ハ其ノ利札タルコトヲ證スヘキ印章ノ樣式竝押捺及抹消ノ方法左ノ通定ム

第一條　世襲財産タル有價證券ニ押捺スヘキ印章ハ左記第一號樣式、其ノ利札ニ押捺スヘキ印章ハ左記第二號樣式ニ依ル

第一號

第　　號
華族世襲財産
大正　年　月　日

長方形
縱一寸七分
橫　八分
朱色

第二號

世
財

長方形
縱四分
橫二分
朱色

前項ノ規定ニ依ル第一號樣式中「第號」ニハ世襲財産臺帳登錄ノ番號ヲ同「年月日」ニハ世襲財産ノ設定ヲ認可シタル日附ヲ記入ス

第二條　前條ノ規定ニ依ル印章ハ有價證券又ハ其ノ利札ノ表面右側上部ニ之ヲ押捺ス

第三條　有價證券ニ付世襲財産タルコトヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ證券ニ押捺スヘキ印章ハ左記第一號樣式、其ノ利札ニ押捺スヘキ印章ハ左記第二號樣式ニ依ル

第一號

華族世襲財産
大正　年　月　日
廢止

橢圓形
長徑一寸
短徑六分
黑色

第二號

世財
廢止

橢圓形
長徑四分
短徑二分
黑色

前項ノ規定ニ依ル第一號樣式中「年月日」ニハ世襲財産ノ廢止ヲ認可シタル日附ヲ記入ス

第四條　前條ノ規定ニ依ル印章ハ第一條ノ規定ニ依ル既捺印面ノ一部ヲ覆ヒ之ヲ押捺ス

第五條　世襲財産タル有價證券カ償還、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ其ノ證券ニ押捺スヘキ印章ハ左記第一號樣式、其ノ利札ニ押捺スヘキ印章ハ左記第二號樣式ニ依ル

第一號

華族世襲財産
大正　年　月　日
失效

橢圓形
長徑一寸
短徑六分
黑色

第二號

世　財
失效

楕圓形
長徑四分
短徑二分
黑色

前項ノ規定ニ依ル第一號樣式中「年月日」ニハ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル日附ヲ記入ス

第一項ノ規定ニ依ル印章ノ押捺ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

●十五銀行株式ヲ華族世襲財産ト爲スノ件（明治三十年四月一日 法律第四十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル株式會社十五銀行株式ヲ華族世襲財産ト爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第十五國立銀行明治二十九年法律第七號營業滿期國立銀行處分法第一條ニ依リ營業ヲ繼續シタル後ニ於テ仍ホ其ノ株式ハ華族世襲財産法第三條第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

●舊堂上華族保護資金令（明治四十五年七月十日 皇室令第三號）

改正　大正元年第一八號、七年第六號、八年第二號、一三年第一三號、一四年第八號

朕舊堂上華族保護資金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（宮內大臣副署）

舊堂上華族保護資金令

第一條　舊堂上華族ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ保護金ヲ賜フ

舊堂上華族トハ從前公卿ノ稱ヲ有セシ家ニシテ明治十七年七月、明治二十年四月及明治三十一年三月公侯伯子爵ヲ授ケラレタル家ノ戶主タル有爵者ヲ謂フ

第二條　保護資金ノ元資ニハ從前ノ舊堂上華族恩賜金會計中惠恤部ニ於テ管理シタル現金、登錄國債及有價證券ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　保護資金ノ元資中明治二十七年三月九日ノ勅旨ニ由リ御資ヨリ分置シタルモノハ之ヲ其ノ元資ノ原額トス

第四條　保護資金ノ管理及出納ハ內藏頭之ヲ主管ス

保護資金ノ元資ニ屬スル登錄國債及有價證券ノ記名者ハ內藏頭トス

第五條　保護資金ノ元資ニ屬スル現金ハ之ヲ登錄國債若ハ有價證券ニ換ヘ又ハ銀行ニ預ケ入ルヘシ

前項ノ外元資ニ屬スル現金ハ之ヲ舊堂上華族ニ貸付スルコトヲ得

保護資金ノ元資ニ屬スル登錄國債又ハ有價證券ハ之ヲ信託業者ニ信託スルコトヲ得

第六條　保護資金ノ元資ヨリ生スル收入ハ每年ノ保護金及經費ニ充ツ

每年賜フヘキ保護金ノ總額ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　每年ノ保護金ハ六月及十二月ニ之ヲ賜フ

保護金ハ公侯爵者ニ在リテハ各三、伯爵者ニ在リテハ各二、子爵者ニ在リテハ各一ノ率ニ依リ之ヲ賜フ

第八條　每年ノ支出ニ對シ收入ニ剩餘アリタルトキハ之ヲ保護資金ノ元資ニ組入ルヘシ

第九條　保護資金ノ元資ヨリ生スル收入ハ之ヲ銀行ニ預ケ入ルヘシ

第十條　保護資金ノ元資ニ屬スル登錄國債及有價證券ハ購入ニ係ルモノハ其ノ價格ニ依リ引受ニ係ルモノハ拂込金額ニ依リ之ヲ計算ス

第十一條　保護資金ノ元資ハ本令ノ有效期間滿了ノ時ニ於テ之ヲ分賜ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ分賜ニ之ヲ準用ス

第十二條　每年賜フヘキ保護金及前條ノ分賜ニ付テハ保護資金ノ原額ヲ御資ヨリ分置セラレタル當時ノ爵ニ依ル

第十三條　華族ノ禮遇ヲ停止セラレタル者ニハ其ノ停止中每年ノ保護金ヲ賜フコトナシ

第十四條　華族ノ禮遇ヲ禁止セラレタル者ニハ每年ノ保護金ヲ賜フコトナシ但シ禮遇ノ禁止ヲ解除セラレタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　本令ノ有效期間滿了ノ時華族ノ禮遇ノ停止中ニ在ルトキハ保護資金ノ元資ノ分賜ヲ停止ス

前項ノ場合ニ於テ分賜スヘキ金額ハ內藏寮ニ留保シ禮遇ノ停止ヲ解除セラレタル時ニ於テ之ヲ賜フ但シ禮遇ノ停止中家督相續開始シタルトキハ之ヲ其ノ家督相續人ニ賜フ

第十六條　第十三條及前條ノ規定ハ華族令第七條第三號及第四號ニ該當スル者ニ之ヲ準用ス

第十七條　本令ノ有效期間滿了ノ時華族ノ禮遇ノ禁止中ニ在ル者ニハ保護資金ノ元資ヲ分賜スルコトナシ

第十八條　宮內省ニ舊堂上華族保護資金調査委員會ヲ置ク

第十九條　舊堂上華族保護資金調査委員會ハ委員長一人委員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員ハ宮內高等官二人舊堂上華族八人トス

委員長及委員ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ命ス

第二十條　調査委員會ハ宮內大臣ノ諮問シタル事項ヲ調査議定ス

第二十一條　宗秩寮總裁及內藏頭ハ調査委員會ニ列シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十二條　調査委員會ハ保護資金ノ管理及出納ノ狀況ニ付キ內藏頭ニ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條　調査委員會ノ庶務ハ宗秩寮ニ於テ之ヲ主管ス

第二十四條　保護資金ニ關スル會計ハ帝室會計審査局ノ審査ニ付ス

第二十五條　宮內大臣ハ每年末ニ於テ保護資金ニ關スル會計ノ狀況ヲ上奏スヘシ

第二十六條　本令ノ施行ニ關スル規程ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

第二十七條　皇室財産令及皇室會計令ノ規定ハ保護資金ニ之ヲ適用セス但シ皇室會計令第六章ノ規定ハ保護資金ノ出納ヲ掌ル官吏ニ之ヲ準用ス

第二十八條　本令ノ有效期間ハ大正三十五年十二月三十一日マテトス但シ事情ニ依リ期間ヲ延長スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ舊堂上華族恩賜金會計中保護部ニ於テ管理シタル現金及有價證券ハ本令施行ノ際御資會計財本部ニ移入スヘシ

●華士族分家者ハ平民籍ニ編入（明治七年七月十日 太政官布告第七十三號）

自今華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入候條此旨布告候事

【但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事】

●士族ノ稱（明治二年六月二十五日 行政官達抄錄）

一　一門以下平士ニ至ル迄總テ士族ト可稱事

●世襲ノ卒士族ニ編入伺出方（明治五年正月二十九日 太政官布告第二十九號）

各府縣貫屬卒ノ內從前番代ノ節抱替等ノ稱ヲ以テ其俸等ヘ祿高ヲ給與シ自然世襲ノ姿ニ相成居候分ハ自今士族ニ可被　仰付候條調書ヲ以大藏省ヘ可伺出尤家祿ノ儀ハ從前ノ通可相心得事

但新規一代限抱ノ輩ハ平民ニ復籍セシメ【給祿ハ是迄ノ通可遣事】

●鄉士士族ニ編入伺出方（明治五年二月十四日 太政官布告第四十四號）

府縣ヘ

舊來鄉士ト稱シ家筋由緒有之候者ハ士族ニ入籍可被　仰付候條取調書ヲ以【大藏省】ヘ可伺出事

●士族戶主死亡後ニ於ケル族稱廢絕ニ關スル件（明治十三年一月二十九日 太政官布告第三號）

【華】士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳ヘ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ屆出サル件ハ其族稱ハ廢絕候儀ト可相心得此旨布告候事

第十一款　朝鮮貴族

●朝鮮貴族令（明治四十三年八月二十九日 皇室令第十四號）

朕惟フニ李家ノ懿親及其ノ邦家ニ大勞アリタル者ハ宜ク之ヲ優列ニ陞シ敍シテ朝鮮貴族ト爲シ用テ寵光ヲ示スヘシ玆ニ其ノ舊德前功ヲ秩シ世爵ノ典ヲ定メテ朝鮮貴族令トシ之ヲ裁可シ公布セシム（宮內大臣副署）

朝鮮貴族令

第一條　本令ニ依リ爵ヲ授ケラレ又ハ爵ヲ襲キタル者ヲ朝鮮貴族トス

有爵者ノ婦ハ朝鮮貴族ノ族稱ヲ享ク

第二條　爵ハ李王ノ現在ノ血族ニシテ皇族ノ禮遇ヲ享ケサル者及門地又ハ功勞アリタル朝鮮人ニ之ヲ授ク

第三條　爵ハ公侯伯子男ノ五等トス

第四條　爵ヲ授クルハ勅旨ヲ以テシ宮內大臣之ヲ奉行ス

第五條　有爵者ハ其ノ爵ニ應シ華族令ニ依ル有爵者ト同一ノ禮遇ヲ享ク

第六條　有爵者ノ婦ハ其ノ夫ノ爵ニ相當スル禮遇及名稱ヲ享ク

有爵者ノ寡婦其ノ家ニ在ルトキハ特ニ貴族ノ族稱ヲ保有セシメ從前ノ禮遇及名稱ヲ享ケシム

第七條　有爵者ノ家族ニシテ左ニ揭ケタル者ハ華族ト同一ノ禮遇及貴族ノ族稱ヲ享ク

一　曾祖父、祖父、父

二　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人及其ノ嫡長男子、嫡出ノ男子ナキトキハ其ノ庶長男子

三　前二號ニ揭ケタル者ノ配偶者

第八條　有爵者又ハ前二條ノ禮遇ヲ享クヘキ者身體若ハ精神ニ重患アリ又ハ貴族ノ體面ニ關スル事故アルトキハ其ノ重患又ハ事故ノ止ムマテ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

前項ノ重患又ハ事故ノ有無ハ宮內高等官中ヨリ勅命シタル審査委員ヲシテ審査セシメタル後宮內大臣ノ上奏ニ依リ之ヲ勅裁ス

第九條　有爵者ハ家範ヲ定ムルコトヲ得

家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ受クヘシ之ヲ廢止變更スルトキ亦同シ

有爵者二十年未滿ナルトキ又ハ前條ノ場合ニ該當スル者ナルトキハ家範ヲ定メ又ハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得ス

第十條　爵ハ家ノ相續人タル男子ヲシテ之ヲ襲カシム

第十一條　爵ヲ襲クコトヲ得ヘキ相續人ハ相續開始ノ時ヨリ六箇月內ニ宮內大臣ニ相續ノ屆出ヲ爲スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ宮內大臣ハ勅許ヲ經テ襲爵ノ辭令書ヲ交付ス

第十二條　襲爵ハ相續開始ノ時ヨリ其ノ效力ヲ生ス

第十三條　左ノ場合ニ於テハ相續人ハ襲爵ノ特權ヲ失フ

一　第十一條第一項ノ期間內ニ相續ノ屆出ヲ爲ササルトキ

二　第十六條第二項又ハ第十八條ノ規定ニ依リ貴族ノ族稱ヲ除カレタルトキ

第十四條　相續人忠順ヲ缺クノ行爲アリタルトキハ襲爵ヲ勅許セラルルコトナシ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　有爵者及第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者ノ身分ニ關シ監督上必要ノ事項ハ宮內大臣之ヲ管掌ス

第十六條　有爵者國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ禁錮若ハ禁獄以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定シタルトキハ其ノ爵ヲ失フ

第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前項ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ禁止ス

第十七條　有爵者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ爵ヲ返上セシメ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

一　貴族ノ體面ヲ汚辱スル失行アル者

二　貴族ノ品位ヲ保ツコト能ハサル者

三　忠順ヲ缺クノ行爲アル者

四　宮內大臣ノ命令又ハ家範ニ違反シ情狀重キ者

第十八條　第六條又ハ第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者前條ノ場合ニ該當スルトキハ貴族ノ族稱ヲ除キ又ハ禮遇ヲ停止若ハ禁止ス

第十九條　有爵者禮遇ノ停止又ハ禁止中ニ在ルトキハ第六條第一項及第七條ノ禮遇ヲ享クヘキ者モ共ニ其ノ禮遇ヲ享クルコトヲ得ス

第二十條　有爵者其ノ品位ヲ保ツコト能ハサルトキハ宮內大臣ヲ經テ爵ノ返上ヲ請願スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第二項、第十七條及第十八條ノ處分ハ勅裁ヲ經テ宮內大臣之ヲ行フ禮遇ノ停止ヲ解除スルトキ亦同シ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ處分及解除ニ之ヲ準用ス

禮遇ノ禁止ヲ解除スルハ特旨ニ由ル

第二十二條　審査委員ニ關スル規程ハ宮內大臣勅裁ヲ經テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件（明治四十三年八月二十九日 皇室令第十五號）

朕朝鮮ニ在住スル貴族ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（宮內、總理大臣副署）

第一條　朝鮮貴族令第八條、第十四條及第二十一條ノ場合ニ於テハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ內朝鮮總督ニ於テ審査委員ヲシテ審査セシメタル後之ヲ宮內大臣ニ移牒スヘシ

前項ノ審査委員ハ朝鮮總督府高等官ノ內ヨリ朝鮮總督之ヲ命ス

審査委員ニ關スル規程ハ朝鮮總督宮內大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二條　朝鮮貴族令第九條第二項、第十一條第一項及第二十條ノ規定ニ依リ屆出、認許ノ申請又ハ請願ヲ爲スニハ朝鮮ニ在住スル貴族ニ限リ當分ノ內朝鮮總督ヲ經由スヘシ

第三條　朝鮮貴族令第十五條ノ規定ニ依リ朝鮮ニ在住スル貴族ノ監督上必要ノ事項ハ當分ノ內朝鮮總督之ヲ管掌ス但シ主要ノ事項ニ付テハ宮內大臣ニ協議スヘシ

第四條　朝鮮ニ在住スル貴族朝鮮總督ノ命令ニ違反シ情狀重キトキハ朝鮮貴族令第十七條ヲ適用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮貴族世襲財産令（昭和二年二月十日 制令第三號）

朝鮮貴族世襲財産令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮貴族世襲財産令

第一條　朝鮮貴族タル有爵者ハ其ノ家格ヲ維持スルニ必要ナル範圍內ニ於テ世襲財産ヲ設定スルコトヲ得

第二條　世襲財産ノ設定ハ民法第五編第六章ノ規定ニ依リ遺言ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　世襲財産ハ朝鮮ニ於ケル不動産ニ限ル

第四條　世襲財産ハ家ノ相續人タル男子ノ特權ニ屬ス

第五條　世襲財産ニ關シテハ華族世襲財産法第四條乃至第十條、第十二條、第十四條、第十六條乃至第二十九條第一項及第二項、第三十一條竝第三十二條ノ規定ヲ準用ス但シ同法第四條乃至第十條、第十二條、第十四條、第十七條、第二十條乃至第二十三條、第二十九條第一項及第三十二條中宮內大臣トアルハ朝鮮總督、第九條及第二十條中華族世襲財産審議會トアルハ朝鮮貴族世襲財産審議會、第十二條中華族世襲財産臺帳トアルハ朝鮮貴族世襲財産臺帳、第十四條中質權又ハ抵當權トアルハ質權、抵當權又ハ朝鮮不動産證明令ニ依リ證明ヲ受ケタル典當權、第二十一條中家督相續人トアルハ家ノ相續人、第二十六條中家督相續トアルハ家ノ相續トス

第六條　世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ世襲財産ヲ增加スル場合ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

（昭和二年朝鮮總督府令第百二十九號ヲ以テ同三年一月一日ヨリ施行）

●朝鮮貴族世襲財産令施行規則（昭和二年七月二十五日 朝鮮總督府令第七十四號）

朝鮮貴族世襲財産令施行規則左ノ通定ム

朝鮮貴族世襲財産令施行規則

第一章　世襲財産

第一條　世襲財産ト爲スコトヲ得ベキ土地ハ

相當ノ收益ヲ生ズルモノ、所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ所有者ノ邸地タルコトヲ要ス

第二條　世襲財産ト爲スコトヲ得ベキ建物其ノ他土地ノ定著物ハ所有者ノ家ニ由緒アルモノ又ハ其ノ所有ニ屬スル世襲財産タル土地ノ上ニ存スルモノタルコトヲ要ス

第三條　不動産ニシテ特ニ歷史ノ證徵又ハ美術ノ模範ト爲ルベキモノハ前二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ世襲財産ト爲スコトヲ得

第二章　世襲財産ノ設定

第四條　世襲財産設定ノ認可ノ申請書ニハ土地ニ付テハ其ノ所在、地番、地目及面積、建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ所在、種類、構造建造ノ年月日及建坪ヲ記載シタル財産目錄ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ

一　世襲財産ト爲スコトヲ得ベキ理由ヲ詳記シタル書類

二　土地ニ付テハ其ノ位置及形狀ヲ示スベキ圖面竝土地臺帳又ハ林野臺帳ノ謄本

三　建物其ノ他土地ノ定著物ニ付テハ其ノ位置及構造ヲ示スベキ圖面

四　土地又ハ建物ニ付テハ登記簿ノ謄本

五　建物ヲ保險ニ付シタルトキハ其ノ契約ノ要旨ヲ記載シタル書類

六　當該財産ニ對シ權利者アルトキハ其ノ氏名又ハ姓名竝權利ノ種類及內容ヲ證スベキ書類

七　民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ノ財産ニ付テハ其ノ事實ヲ證スベキ公正ノ證明書竝權利者ノ氏名又ハ姓名及權利ノ種類、內容ヲ證スベキ書類

八　土地收用令、森林令、朝鮮鑛業令其ノ他公益ノ爲ニスル財産ノ收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ノ適用ヲ受ケタル財産及滯納處分其ノ他公法上ノ執行處分ニ依リ差押アリタル財産ニ付テハ其ノ事實ヲ示スベキ書類

九　收益ヲ生ズル財産ニ付テハ總收益及純收益ノ年額竝其ノ算出ノ基礎ヲ示スベキ書類

第五條　世襲財産設定ノ遺言アルコトヲ知リタル相續人又ハ其ノ法定代理人若ハ保佐人ハ遺言ガ其ノ效力ヲ生ジタル後遲滯ナク遺言者ノ姓名、遺言ノ趣旨竝遺言執行者ノ有無及之アルトキハ其ノ氏名又ハ姓名ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ遺言執行者ナキニ至リタルトキ又ハ遺言執行者ノ更迭アリタルトキ亦同ジ

第六條　遺言ニ基キ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スベキ場合ニ於テ遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ相續人又ハ其ノ法定代理人若ハ保佐人ハ遲滯ナク遺言執行者ノ選任ヲ裁判所ニ申請スベシ

第七條　遺言執行者ハ其ノ資格ヲ證スベキ書類ヲ添ヘ遲滯ナク世襲財産設定ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ世襲財産ノ設定ニ關スル遺言書又ハ其ノ謄本及遺言書ノ檢認書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スベシ但シ公正證書ニ依ル遺言ニ在リテハ其ノ正本又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　朝鮮貴族世襲財産令第五條ノ規定ニ依リ準用スル華族世襲財産法（以下華族世襲財産法ト略稱ス）第五條第一項ノ規定ニ依リ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人ガ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ資格ヲ證スベキ書類及家政協議員會ノ決議書ヲ添附スベシ

華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依リ家政協議員會ガ世襲財産設定ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ理由ヲ詳記シ家政協議員會ノ決議書ヲ添附スベシ

第九條　華族世襲財産法第六條第一項ノ規定ニ依リ調査ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ爲スベシ

第十條　華族世襲財産法第六條第二項ノ規定ニ依リ財産ノ狀況ヲ調査スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ申請者ヲシテ書面ヲ以テ其ノ狀況ヲ申告セシメ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲サシムベシ

前項ノ申告書ニハ動産、不動産、債權、債務其ノ他一切ノ財産ニ付申告書調製ノ時ニ於ケル價額ヲ附記スベシ

第十一條　前二條ノ規定ニ依リ財産ノ所在ニ就キ調査ヲ爲ストキハ其ノ所有者、法定代理人、保佐人、家政協議員又ハ同居ノ成年家族ヲシテ之ニ立會ハシムベシ

第十二條　朝鮮總督華族世襲財産法第七條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ付世襲財産ノ設定ヲ認可セザルトキハ其ノ旨ヲ公告スベシ申請者其ノ申請ヲ取下ゲタルトキ亦同ジ

第十三條　本令及華族世襲財産法ノ規定ニ依ル公告ハ朝鮮總督府官報及新聞紙ヲ以テ之ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スベキ新聞紙ハ豫メ朝鮮總督府官報ヲ以テ之ヲ指定スベシ

第十四條　世襲財産設定ノ認可ノ申請アリタル後其ノ財産ニ付異動アル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ此ノ場合ニハ第七章ノ規定ヲ準用ス

華族世襲財産法第七條第一項ノ規定ニ依ル公告アリタル後前項ノ異動ヲ生ジタルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ公告スベシ

第三章　家政協議員會

第十五條　華族世襲財産法第五條ノ規定ニ依リ世襲財産設定ノ認可ヲ申請セントスルトキハ本人、親族、後見人、後見監督人、保佐人其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中五人以上ニ於テ家政協議員ヲ選定シ連署ヲ以テ其ノ選定ノ認可ヲ朝鮮總督ニ申請スベシ

第十六條　世襲財産ヲ有スル有爵者ガ無能力者ト爲リタル場合又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ家産ヲ治ムルニ堪ヘズ若ハ之ヲ傾クルノ虞アルニ至リタル場合ニ於テハ家政協議員ヲ選定スベシ此ノ場合ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十七條　家政協議員ハ有爵者遺言ヲ以テモ之ヲ選定スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ遲滯ナク家政協議員選定ノ認可ヲ朝鮮總督ニ申請スベシ

第十八條　家政協議員ハ三人以上七人以下ノ範圍內ニ於テ其ノ數ヲ定メ親族其ノ他本人ノ家ニ特別ノ緣故アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ要ス但シ左ニ揭グル者ハ家政協議員タルコトヲ得ズ

一　未成年者、禁治産者及準禁治産者

二　後見人、後見監督人及保佐人

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

五　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留、保釋、責付又ハ刑事訴訟法第百十八條ノ規定ニ依ル勾留ノ執行停止中ニ在ル者

六　破産者ニシテ復權ヲ得ザルモノ

七　裁判所ニ於テ免黜セラレタル法定代理人及保佐人

八　朝鮮貴族令第八條、第十三條、第十四條及第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依リ爵ヲ返上シタル者、爵ヲ襲ガシメザル者、朝鮮貴族ノ禮遇ヲ禁止又ハ停止セラレタル者及朝鮮貴族ノ族稱ヲ除カレタル者但シ朝鮮貴族ノ禮遇ノ禁止又ハ停止ヲ解除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

家政協議員前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第十九條　朝鮮總督ハ重要ナル事由アルトキハ家政協議員ヲ解任スルコトヲ得

第二十條　家政協議員ハ已ムコトヲ得ザル事由アルニ非ザレバ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

家政協議員其ノ職ヲ辭セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シテ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第二十一條　家政協議員ニ闕員アルトキハ有爵者又ハ其ノ法定代理人若ハ保佐人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第十五條ノ規定ハ補闕員ノ選定ニ之ヲ準用ス

第二十二條　家政協議員會ハ本令及朝鮮貴族世襲財産令ニ於テ定ムル任務ヲ有スルノ外世襲財産ニ關スル事項ヲ協議スルモノトス

華族世襲財産法第五條第二項ニ揭グル事實アル場合ニ於テハ家政協議員會ハ遲滯ナク世襲財産ノ管理方法ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財産ニ關シ家政協議員會ノ決議ヲ經ベキ事項ヲ指定スルコトヲ得

第二十三條　家政協議員會ハ本人、其ノ法定代理人若ハ保佐人又ハ各協議員之ヲ招集ス

家政協議員會ヲ招集スル者ハ會日ヨリ一週間前迄ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出デ且各協議員及第二十七條ニ揭グル者ニ通知スルコトヲ要ス

第二十四條　家政協議員會ハ協議員定數ノ過半出席スルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ

第二十五條　家政協議員會ノ議事ハ出席協議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

家政協議員會ノ議事ハ之ヲ議事錄ニ記載シ其ノ會議ニ出席シタル協議員及第二十七條ノ規定ニ依リ出席シタル者之ニ署名捺印スベシ

第二十六條　華族世襲財産法第五條第二項ノ規定ニ依ル申請ハ家政協議員定數ノ全員出席シテ同意スルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條　本人、家ニ在ル父母、配偶者、家ノ相續人、本家、分家及同家ノ戶主、後見人、後見監督人、保佐人竝親族會員ハ家政協議員會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第二十八條　朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ家政協議員會ニ出席セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出席シタル官吏ハ議事錄ニ署名捺印スベシ

第二十九條　家政協議員會ノ存續スベキ事由止ミタルトキハ協議員ハ連署シテ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申シ家政協議員會終了ノ認可ヲ申請スベシ

第四章　朝鮮貴族世襲財産審議會

第三十條　朝鮮貴族世襲財産審議會會員ハ五人トシ左ノ區分ニ依リ朝鮮總督之ヲ命ズ

一　朝鮮總督府高等官　二人

二　有爵者　三人

第三十五條第一項ノ規定ニ該當スル會員アルニ因リ會議ヲ開クコト能ハザル場合ニ於テハ當該事件ノ審議ニ參加セシムル爲其ノ會員數以內ニ於テ前項ノ例ニ從ヒ臨時會員ノ數ヲ增加スルコトヲ得

第三十一條　朝鮮貴族世襲財産審議會ノ議長ハ會員中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ズ

議長事故アルトキハ會員中ノ上席者其ノ事務ヲ代理ス

第三十二條　朝鮮貴族世襲財産審議會ハ朝鮮總督之ヲ招集ス

第三十三條　朝鮮貴族世襲財産審議會ハ會員三人以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ

第三十四條　朝鮮貴族世襲財産審議會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十五條　朝鮮貴族世襲財産審議會會員ニシテ會議ノ事項ニ付特別ノ關係ヲ有スル者ハ會議ニ出席スルコトヲ得ズ

前項ニ規定スル特別關係ノ有無ハ審議會之ヲ決ス

第三十六條　朝鮮總督ハ朝鮮貴族世襲財産審議會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ又ハ朝鮮總督府高等官ヲシテ之ヲ陳述セシムルコトヲ得

第三十七條　朝鮮貴族世襲財産審議會ハ其ノ決議ニ依リ朝鮮總督ヲ經テ本人、其ノ法定代理人若ハ保佐人又ハ家政協議員ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第三十八條　朝鮮貴族世襲財産審議會ノ議事ハ之ヲ議事錄ニ記載シ出席會員之ニ署名捺印スベシ

第三十九條　朝鮮貴族世襲財産審議會ノ議長ハ審議會ノ決議書ニ議事錄ヲ添ヘ朝鮮總督ニ答申スベシ

第五章　權利ノ申出

第四十條　華族世襲財産法第八條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ヲ爲スニハ申出書ニ左ニ揭グル書類其ノ他權利ヲ證スベキ書類ヲ添附スベシ

一　申出ヅル權利ニ關スル登記簿ノ抄本

二　公告ニ揭グル財産ガ民事上ノ強制執行、假差押若ハ假處分又ハ競賣ノ手續中ニ在ルトキハ其ノ事實ヲ證スベキ公正ノ證明書

第四十一條　前條ノ申出アリタルトキハ朝鮮總督ハ世襲財産設定ノ認可ノ申請者ニ其ノ申出ノ要旨ヲ通達スベシ

申請者前項ノ通達ヲ受ケタルトキハ申出ヲ承認スルヤ否ヤヲ遲滯ナク朝鮮總督ニ申出ヅベシ

第四十二條　前二條ノ規定ハ華族世襲財産法第十四條ノ規定ニ依ル權利ノ申出ニ之ヲ準用ス

第六章　臺帳

第四十三條　世襲財産ニ關スル臺帳ハ朝鮮貴族世襲財産臺帳及管理財産臺帳ノ二種トス

臺帳ハ財産所有者每ニ別冊トス但シ登錄事項夥多ナルトキハ更ニ之ヲ分冊ト爲スコトヲ得

第四十四條　臺帳ニハ表紙ノ裏面ニ紙數及調製ノ年月日ヲ記入シ朝鮮總督官房祕書課長之ニ捺印スベシ前條第二項ノ規定ニ依リ分冊ト爲シタルトキハ其ノ各冊ニ付亦同ジ

第四十五條　臺帳ニ登錄スベキ事項及登錄ノ方式ハ附錄樣式ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條　世襲財産設定ノ登錄ハ認可ノ當日之ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ管理ヲ命ジタル場合ニ於テ其ノ登錄ニ付之ヲ準用ス

第四十七條　臺帳ノ登錄事項ニ異動アリタルトキハ異動ニ係ル既登錄ノ事項ハ之ヲ抹消シ新ニ登錄スベキ事項ハ之ヲ別欄ニ登錄スベシ

第四十八條　世襲財産ノ廢止アリタルトキハ廢止ノ認可ノ當日、其ノ失效アリタルトキハ遲滯ナク其ノ登錄ヲ抹消スベシ

第四十九條　華族世襲財産法第二十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ命ジタル管理終了シタルトキハ其ノ認可ノ當日其ノ登錄ヲ抹消スベシ

第五十條　臺帳ノ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク之ヲ更正シ且年月日ヲ記シテ朝鮮總督官房祕書課長之ニ捺印スベシ

第五十一條　抹消ハ朱線ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第七章　世襲財産ノ異動

第五十二條　世襲財産ニ付相續ノ開始アリタルトキハ家ノ相續人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第五十三條　土地收用令ニ依リ世襲財産タル土地ヲ收用スル場合ニ於テ協議ニ依リ補償金ヲ定メ得ベキトキハ起業者ハ協議成立前其ノ協議ノ要旨ヲ朝鮮總督ニ申出ヅベシ

地方長官裁決ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ裁決ノ要旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

土地所有者ハ土地收用令第二十條ノ規定ニ依リ地方長官ノ裁決ガ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第五十四條　前條ノ規定ハ世襲財産ヲ公益ノ爲ニスル收用、徵發又ハ制限ニ關スル法令ニシテ土地收用令以外ノモノノ適用ヲ受ケ他ノ財産ニ代ルベキ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條　世襲財産ニ對シ假差押若ハ假處分ヲ爲シ又ハ強制執行若ハ競賣手續ニ著手シタルトキハ當該官署ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ手續ノ停止、變更又ハ消滅アリタルトキ亦同ジ

第五十六條　滯納處分ニ依リ世襲財産ヲ差押ヘ之ヲ賣却セントスルトキハ當該官公署ハ賣却手續ノ開始前其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

前項ノ報告ニ於テ差押ノ解除アリタルトキハ當該官公署ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

第五十七條　前二條ノ場合ニ於テ世襲財産ヲ換價シ賣得金ニ剩餘アルコト確定シタルトキハ當該官公署ハ遲滯ナク其ノ金額ヲ朝鮮總督ニ報告スベシ

第五十八條　世襲財産ノ保險者ハ保險金ヲ支拂フベキコト確定シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申出ヅベシ

第五十九條　世襲財産ノ所有者ハ收用、滯納處分、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ世襲財産ニ代リテ自己ニ歸スベキ財産アルトキハ豫メ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第五十三條第二項及第五十四條乃至第五十六條ノ規定ニ依リ前項ニ揭グル事由ノ變更又ハ消滅アリタル場合ニ於テモ所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

第六十條　世襲財産ニ付左ニ揭グル事實アリタルトキハ所有者ハ遲滯ナク其ノ時期、事由其ノ他必要ナル事項ヲ詳記シテ之ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ

一　第四條ノ規定ニ依リ提出シタル財産目錄其ノ他ノ添附書類ノ記載事項ニ異動アリタルトキ

二　世襲財産ノ全部又ハ一部ガ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

三　世襲財産ノ全部又ハ一部ガ滅失シタルトキ

四　收用、滯納處分、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸シタル財産アルトキ

第六十一條　世襲財産廢止ノ認可ノ申請書ニハ廢止セントスル財産ノ目錄及廢止ノ事由ヲ詳記シタル書類ヲ添附スベシ

他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セントスル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ代ルベキ財産ニ關スル詳細ナル說明書ヲ添附スベシ

第六十二條　第八條第一項ノ規定ハ有爵者ノ法定代理人又ハ保佐人ガ前條ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

家政協議員會アルベキ場合ニ於テ有爵者ガ世襲財産廢止ノ認可ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ家政協議員定數ノ全員ノ同意書ヲ添附スベシ

第六十三條　第九條乃至第十一條ノ規定ハ世襲財産廢止ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八章　管理財産

第六十四條　他ノ世襲財産ニ換フル爲世襲財産ヲ廢止セントスル者華族世襲財産法第二十三條第一項ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレンコトヲ欲スルトキハ廢止ノ認可ノ申請ト共ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申出ヅベシ

第六十五條　前條ノ規定ハ收用、滯納處分、滅失、競賣其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リテ其ノ所有者ニ歸スル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者ガ華族世襲財産法第二十三條第一項ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレンコトヲ欲スル場合ニ之ヲ準用ス華族世襲財産法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ世襲財産タル效力ヲ失ヒタル財産アルトキ其ノ財産ノ所有者ガ華族世襲財産法第二十八條第一項ノ規定ニ依ル管理ノ開始セラレンコトヲ欲スル場合亦同ジ

前項ノ申出ハ所有者ガ第五十九條第一項又ハ第六十條第三項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲ス際之ヲ爲スベシ

第六十六條　朝鮮總督管理人ヲ選任スルトキハ管理スベキ財産ヲ指定スベシ

管理人ハ世襲財産設定ノ認可アル迄前項ノ財産ヲ管理スベシ

第六十七條　第五十三條乃至第五十六條、第五十八條及第五十九條ノ規定ニ依ル報告、屆出又ハ申出アリタル場合ニ於テハ朝鮮總督ハ豫メ管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル管理人ノ選任ハ之ヲ報告、屆出又ハ申出ヲ爲シタル者ニ通知スベシ

第六十八條　管理人ハ遲滯ナク財産目錄ヲ調製シ之ニ署名捺印スベシ

財産目錄ハ二通ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケ其ノ一通ハ管理人之ヲ保管スベシ

朝鮮總督ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ目錄ノ調製ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ立會官吏ハ財産目錄ニ署名捺印スベシ

第六十九條　管理人民法第百三條ニ定メタル權限ヲ超ユル行爲ヲ爲サントスルトキハ豫メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第七十條　朝鮮總督ハ管理財産ノ所有者ニ對シ相當ノ報酬ヲ管理人ニ與フルコトヲ命ズルコトヲ得

第七十一條　管理財産ニ異動アリタルトキハ管理人ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ屆出ヅベシ此ノ場合ニハ第五十二條及第六十條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ屆出書ニハ異動ニ係ル財産ノ目錄ヲ添附スベシ此ノ場合ニハ第六十八條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條　管理ヲ繼續スベキ事由止ミタルトキハ管理人ハ遲滯ナク管理調書ヲ添ヘ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申シ管理終了ノ認可ヲ申請スベシ管理人ノ改任アリタルトキ前任管理人ニ付亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ管理調書ヲ調製スルコト能ハザルトキハ朝鮮總督ハ特ニ指定シタル者ヲシテ之ヲ調製セシムベシ

第六十八條ノ規定ハ管理調書ノ調製及其ノ提出ニ付之ヲ準用ス

第九章　雜則

第七十三條　本令中世襲財産ノ設定ニ關スル規定ハ其ノ增加ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第七十四條　朝鮮總督ハ華族世襲財産法第三十一條ノ規定ニ依ル費用ヲ算定シ名義人ニ對シ納入告知書ヲ發スベシ

第七十五條　第十一條ノ規定ハ華族世襲財産法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ世襲財産ノ檢査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ朝鮮貴族世襲財産令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄樣式）

朝鮮貴族世襲財産臺帳

氏（姓）名表示部

所有者			設定、增加、廢止、申請者			
姓名	設定認可 相續開始年月日	備考	所有者	申請者	認可年月日	備考

朝鮮貴族世襲財産臺帳

朝鮮總督府

氏（姓）名表示部

法定代理人、保佐人				家政協議員			
所有者	氏（姓）名	就職退職年月日	備考	所有者	氏（姓）名	就職退職年月日	備考

朝鮮貴族世襲財産臺帳

朝鮮總督府

財産表示部（土地）

設定、增加認可年月日	番號	所在	地番	地目	面積	地價	純收益年額	事由	備考

朝鮮貴族世襲財産臺帳

朝鮮總督府

財産表示部（建物、土地ノ定著物）

設定、增加認可年月日	番號	所在	種類	構造	建造ノ年月日	建坪	純收益年額	事由	備考

朝鮮貴族世襲財産臺帳

朝鮮總督府

管理財産臺帳

氏名表示部

	所有者		管理人		
	姓名	管理開始 相續開始 年月日	住所	氏（姓）名	就職 退職 年月日	備考

管理財産臺帳

朝鮮總督府

財産表示部　土地

管理開始年月日	番號	所在	地番	地目	面積	地價	事由	備考
					段　坪	圓		

管理財産臺帳

朝鮮總督府

財産表示部（建物、土地ノ定著物）

管理開始年月日	番號	所在	種類	構造	建造ノ年月日	建坪	事由	備考
						坪		

管理財産臺帳

朝鮮總督府

●朝鮮貴族ニ關スル審査委員會規程

（明治四十五年三月一日朝鮮總督府令第十七號）

朝鮮貴族ニ關スル審査委員會規程左ノ通定ム

朝鮮貴族ニ關スル審査委員會規程

第一條　審査委員會ハ委員長及委員五名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　委員長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　審査委員會ハ委員長之ヲ招集ス

第四條　審査委員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第五條　委員長事故アルトキハ朝鮮總督ノ指定シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條　審査委員會ノ議事ハ之ヲ祕密トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　刑事

第一款　刑法

●刑法

（明治四十年四月二十四日法律第四十五號　改正　大正一〇年第七七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

刑法別册ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別册）

刑法

第一編　總則
第一章　法例
第二章　刑
第三章　期間計算
第四章　刑ノ執行猶豫
第五章　假出獄
第六章　時效
第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免
第八章　未遂罪
第九章　併合罪
第十章　累犯
第十一章　共犯
第十二章　酌量減輕
第十三章　加減例
第二編　罪
第一章　皇室ニ對スル罪
第二章　内亂ニ關スル罪
第三章　外患ニ關スル罪
第四章　國交ニ關スル罪
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪
第六章　逃走ノ罪
第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪
第八章　騷擾ノ罪
第九章　放火及ヒ失火ノ罪
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪
第十一章　往來ヲ妨害スル罪
第十二章　住居ヲ侵ス罪
第十三章　祕密ヲ侵ス罪
第十四章　阿片煙ニ關スル罪
第十五章　飮料水ニ關スル罪
第十六章　通貨僞造ノ罪
第十七章　文書僞造ノ罪
第十八章　有價證券僞造ノ罪
第十九章　印章僞造ノ罪
第二十章　僞證ノ罪
第二十一章　誣告ノ罪
第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪
第二十五章　瀆職ノ罪
第二十六章　殺人ノ罪
第二十七章　傷害ノ罪
第二十八章　過失傷害ノ罪
第二十九章　墮胎ノ罪
第三十章　遺棄ノ罪
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪
第三十二章　脅迫ノ罪
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪
第三十四章　名譽ニ對スル罪
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪
第三十八章　橫領ノ罪
第三十九章　贓物ニ關スル罪
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

刑法

第一編　總則

第一章　法例

第一條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪
二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪
三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪
四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪
五　第百五十四條、第百五十五條、第百五十七條及ヒ第百五十八條ノ罪
六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪
七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス
一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪
二　第百十九條ノ罪
三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪
四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪
六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
七　第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
十二　第二百三十條ノ罪
十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
十五　第二百五十三條ノ罪
十六　第二百五十六條第二項ノ罪

第四條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス
一　第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪
二　第百五十六條ノ罪
三　第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條　外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條　犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條　本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條　本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章　刑

第九條　死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條　主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依

リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄內ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間內罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物
三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第三章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間內其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以內ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間內更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 假出獄前犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ
四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時效

第三十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條 時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間內其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年
四 罰金ハ三年
五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條 時效ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ停止シタル期間內ハ進行セス

第三十四條 時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間內ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ敎唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

敎唆者ヲ敎唆シタル者亦同シ

第六十二條 正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ敎唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ敎唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス
三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス
四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス
五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス
六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重
二 法律上ノ減輕
三 併合罪ノ加重
四 酌量減輕

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 內亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第三章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章　國交ニ關スル罪

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效タラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章　逃走ノ罪

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條　既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第百三條　罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四條　他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ僞造、變造シ若クハ僞造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五條　本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三　附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章　放火及ヒ失火ノ罪

第百八條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百九條　火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第百十條　火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　第百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第百八條又ハ第百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百十二條　第百八條及ヒ第百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百十三條　第百八條又ハ第百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第百十四條　火災ノ際鎭火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎭火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百十五條　第百九條第一項及ヒ第百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第百十六條　火ヲ失シテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百十七條　火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第百九條ニ記載シタル物又ハ第百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第百十八條　瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第百十九條　溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百二十條　溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限リ前項ノ例ニ依ル

第百二十一條　水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ防水ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百二十二條　過失ニ因リ溢水セシメテ第百十九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第百二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百二十三條　堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章　往來ヲ妨害スル罪

第百二十四條　陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百二十五條　鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第百二十六條　人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顚覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第百二十七條　第百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第百二十八條　第百二十四條第一項、第百二十五條及ヒ第百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百二十九條　過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顚覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十一條　故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第百三十二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章　祕密ヲ侵ス罪

第百三十三條　故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三十四條　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗敎若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第百三十五條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章　阿片煙ニ關スル罪

第百三十六條　阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十七條　阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十八條　稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百三十九條　阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十條　阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十一條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十五章　飲料水ニ關スル罪

第百四十二條　人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百四十三條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第百四十七條　公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章　通貨僞造ノ罪

第百四十八條　行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第百四十九條　行使ノ目的ヲ以テ內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

僞造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第百五十條　行使ノ目的ヲ以テ僞造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十一條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十二條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第百五十三條　貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章　文書僞造ノ罪

第百五十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シ又ハ僞造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ僞造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第百五十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條　公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百五十七條　公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛僞ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條　前四條ニ記載シタル文書又ハ

圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虚僞ノ文書若クハ圖畫ヲ作リ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シ又ハ僞造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十條　醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百六十一條　前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ僞造若クハ變造シ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章　有價證券僞造ノ罪

第百六十二條　行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虚僞ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百六十三條　僞造、變造ノ有價證券又ハ虚僞ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章　印章僞造ノ罪

第百六十四條　行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ僞造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十五條　行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十六條　行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十七條　行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ僞造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ僞造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條　第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章　僞證ノ罪

第百六十九條　法律ニ依リ宣誓シタル證人虚僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條　前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百七十一條　法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虚僞ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章　誣告ノ罪

第百七十二條　人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條　前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章　猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條　十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歲以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歲ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條　人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條　前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十條　前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條　第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條　營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條　有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第百八十四條　配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條　偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娯樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條　常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條　富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條　神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條　墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條　死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條　第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條　檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章　瀆職ノ罪

第百九十三條　公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十五條　裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百九十六條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第百九十七條　公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第百九十八條　公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章　殺人ノ罪

第百九十九條　人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百條　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百一條　前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第二百二條　人ヲ敎唆若クハ幇助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三條　第百九十九條、第二百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

第二十八章　過失傷害ノ罪

第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章　墮胎ノ罪

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケス又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章　遺棄ノ罪

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百二十條　不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章　脅迫ノ罪

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財產ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條　未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條　營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十六條　帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百二十七條　前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幇助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條　第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幇助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章　名譽ニ對スル罪

第二百三十條　公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

第二百三十一條　事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百三十二條　本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百三十三條　虚僞ノ風說ヲ流布シ又ハ僞計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ

妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章　竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條　他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十六條　暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條　強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十八條　竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百三十九條　人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百四十條　強盜人ヲ負傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十一條　強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百四十二條　自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

第二百四十三條　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百四十四條　直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第二百四十五條　本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條　人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條　他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條　未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財產上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條　人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十一條　本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

第三十八章　横領ノ罪

第二百五十二條　自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條　業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十四條　遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五十五條　本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

第三十九章　贓物ニ關スル罪

第二百五十六條　贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條　直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條　權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條　自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條　他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條　第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

（明治四十一年勅令第百六十三號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●刑法施行法

（明治四十一年三月二十八日法律第二十九號　改正明治四二年第四號、第三九號、四三年第五三號、大正五年第一五號、第一七號、一〇年第六八號、一一年第七一號、昭和二年第四七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑	舊刑法ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

第三條　法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪倶發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪倶發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條　刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條　刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條　刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪倶發ニ關スル規定ニ依ル

第七條　左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二　舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪倶發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條　刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條　刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪倶發ニ關スル規定ニ依リ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條　刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條　第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及ヒ時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　刑法施行後ハ舊刑法ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條　刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條　開席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時效期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條　剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條　他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條　他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條　他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條　他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ揭ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條　前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

第二十四條　明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條　左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一　第二編第四章第九節

二　【第二編第五章第三節】

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

一　軍機保護法ニ揭ケタル罪

二　削除

三　明治三十八年法律第六十六號ニ揭ケタル罪

四　通貨及證券模造取締法ニ揭ケタル罪

五　船舶法ニ揭ケタル罪

六　船員法ニ揭ケタル罪

七　船舶職員法ニ揭ケタル罪

八　船舶檢査法ニ揭ケタル罪

九　戶籍法ニ揭ケタル罪

第二十七條　左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

一　著作權法ニ揭ケタル罪

二　削除

三　移民保護法ニ揭ケタル罪

第二十八條　人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

第二十九條　死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

第三十條　前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

第三十一條　拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條　他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十四條　前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條　六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條　他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有

ス

第三十八條　刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條　公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
二　無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
三　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
四　長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
五　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
六　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條　刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三　區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條　刑事訴訟法第百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二　醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默祕ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條　刑事訴訟法第百二十六條第一項中「刑法第百八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百三十八條中「刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條　刑事訴訟法第百六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條　刑事訴訟法第百七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第百七十二條　檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條　刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條　裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條　刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條　刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二　死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其全癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ
二　刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
三　受胎後七月以上ナルトキ
四　分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第五十條　刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條　刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第百六十八條、第百七十三條及ヒ第百七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條　刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條　第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條　明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條　明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條　私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條　贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

●刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

（明治四十一年九月二十四日勅令第二百十七號）

朕刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第百五十五號ハ之ヲ廢止ス

●刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件

（明治四十二年五月一日勅令第百二十號）

朕刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑名ヲ包含ス

刑法ノ刑	舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑
死刑	死刑
懲役	無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
禁錮	無期流刑、有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勳章褫奪令附則第三項ハ之ヲ廢止ス

●刑法

（明治十三年七月十七日太政官布告第三十六號）

（明治四十年法律第四十五號ヲ以テ廢ス、明治四十一年法律第二十九號ニ依リ尚ホ有効ノ條項ヲ存ス）

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事

（別冊）

刑法〔抄錄〕

刑法目錄

第一編　總則
第二章　刑例
第三節　附加刑處分
第二編　公益ニ關スル重罪輕罪
第四章　信用ヲ害スル罪
第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪
第五章　健康ヲ害スル罪
第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪
第三編　【身體】財產ニ關スル重罪輕罪
第二章　財產ニ對スル罪
第四節　家資分散ニ關スル罪

刑法

第一編　總則

第二章　刑例

第三節　附加刑處分

第三十一條　剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一　國民ノ特權
二　官吏ト爲ルノ權
三　勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權
四　外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
五　兵籍ニ入ルノ權
六　裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
七　後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
八　分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財產ヲ管理スルノ權
九　學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第三十三條　禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヿヲ停止ス

第二編　公益ニ關スル重罪輕罪

第四章　信用ヲ害スル罪

第九節　公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百三十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ【二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第二百三十四條　賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ【三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ【四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第二百三十六條　調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ【輕禁錮】ニ處シ【五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第五章　健康ヲ害スル罪

第三節　傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條　【傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス】

第二百四十七條　【船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヿヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ】

第二百四十八條　【傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス】

第二百四十九條　獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ【輕禁錮】ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三編　【身體】財產ニ對スル重罪輕罪

第二章　財產ニ對スル罪

第四節　家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條　家資分散ノ際其財產ヲ藏匿脫漏シ又ハ虛僞ノ負債ヲ增加シタル者ハ二月以上四年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

情ヲ知テ虛僞ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條　家資分散ノ際帳簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

●暴力行爲等處罰ニ關スル法律

（大正十五年四月十日法律第六十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル暴力行爲等處罰ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、司法大臣副署）

第一條　團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ、團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項、第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ前項ニ掲クル刑法各條ノ罪ヲ犯シタル者ノ罪亦前項ニ同シ

第二條　財產上不正ノ利益ヲ得又ハ得シムル目的ヲ以テ前條第一項ノ方法ニ依リ面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

常習トシテ故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行爲ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第三條　第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第百九十九條、第二百四條、第二百八條第一項、第二百二十二條、第二百二十三條、第二百三十四條、第二百六十條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ職務ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者及情ヲ知リテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第一項ノ方法ニ依リ刑法第九十五條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行前刑法第二百八條第一項又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ本法ニ該當スルモノハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

●決鬪罪ニ關スル件

（明治二十二年十二月三十日法律第三十四號）

朕決鬪罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　決鬪ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第二條　決鬪ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

第三條　決鬪ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條　決鬪ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

情ヲ知テ決鬪ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條　決鬪ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ【誹毀】ノ罪ヲ以テ論ス

第六條　前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

●爆發物取締罰則

（明治十七年十二月二十七日太政官布告第三十二號）

爆發物取締罰則別册ノ通制定ス（内務、司法兩大臣副署）（改正　明治四一年法律第二九號　大正七年第三四號）

右奉　勅旨布告候事

（別册）

爆發物取締罰則

第一條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條　前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條　第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條　第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條　第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六條　爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條　爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條　第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條　廢止

第十一條　第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條　本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

●印紙犯罪處罰法

（明治四十二年四月二十八日　法律第三十九號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル印紙犯罪處罰法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、大藏、外務、内務、司法大臣副署）

印紙犯罪處罰法

第一條　行使ノ目的ヲ以テ帝國政府ノ發行スル印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス行使ノ目的ヲ以テ印紙ノ消印ヲ除去シタル者亦同シ

第二條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章若ハ消印ヲ除去シタル印紙ヲ使用シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ、輸入シ若ハ移入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ヲ不正ニ使用シタル者亦同シ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條　帝國政府ノ發行スル印紙其ノ他印紙金額ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第一條又ハ第二條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第五條　僞造、變造ノ印紙、印紙金額ヲ表彰スヘキ印章又ハ消印ヲ除去シタル印紙ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

刑法施行法第二十五條第一項第二號及第二十六條第十一號ハ之ヲ削ル

（明治四十二年四月二十八日　外務省令第二號）

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ帝國領事官カ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ル地域ニ於テハ帝國領事官ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

（明治四十二年四月二十八日　内務省令第十三號）

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

【前項警察署長若ハ警察分署長ノ職務ハ樺太ニ在テハ樺太廳支廳長若ハ支廳出張所長之ヲ行フ】

（明治四十二年四月二十八日　大藏省令第二十八號）

明治四十二年法律第三十九號第五條ノ官沒ハ稅務署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

（明治四十二年四月二十八日　關東都督府令第八號）

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ民政署長又ハ民政支署長ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

附　則

本令ハ明治四十二年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十二年五月二十二日　統監府令第十一號）

印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ【理事官】ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

（明治四十四年七月二十二日　閣令第十號）

印紙犯罪處罰法第五條第一項ノ官沒處分ハ樺太ニ在リテハ樺太廳支廳長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律

（明治三十八年三月二十日　法律第六十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、内務、大藏、外務、司法大臣副署）

第一條　流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ【重懲役】又ハ【輕懲役】ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ僞造シ又ハ變造シタル者ハ【輕懲役】又ハ二年以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第二條　流通セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ照シ

第三條　情ヲ知テ僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ【輕懲役】又ハ六月以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

收得シタル後其ノ僞造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ名價三倍以下ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條　第一條ノ僞造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五條　販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ二年以下ノ【重禁錮】又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條　前數條ニ規定シタル【輕罪】ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條　【本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス】

第八條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未タ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條　本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　僞造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附　則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第百七十七號ハ之ヲ廢止ス

（明治三十八年三月二十日　外務省令第一號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ領事官ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

（明治三十八年三月二十日　内務省令第二號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

（大正五年四月二十四日　朝鮮總督府令第三十四號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ規定又ハ印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ警察署長【又ハ警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊若ハ憲兵分遣所ノ長】ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十一年二月十日　臺灣總督府令第五號）

明治三十八年法律第六十六號第十條ノ官沒ハ廳長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

●朝鮮刑事令

（明治四十五年三月十八日　制令第十一號）

（改正　大正六年第三號、八年第一六號、九年第二號、一〇年第三號、第八號、一一年第一四號）

朝鮮刑事令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮刑事令

第一條　刑事ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ法律ニ依ル

一　刑法
二　刑法施行法
三　爆發物取締罰則
四　明治二十二年法律第三十四號
五　通貨及證券模造取締法
六　明治三十八年法律第六十六號
七　印紙犯罪處罰法
八　海底電信線保護萬國聯合條約罰則
九　刑事訴訟法
十　外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法
十一　刑事訴訟費用法

第二條　前條ノ法律中大審院ノ職務ハ高等法院、大審院長ノ職務ハ高等法院長、檢事總長ノ職務ハ高等法院檢事長、檢事長ノ職務ハ覆審法院檢事長、控訴院檢事ノ職務ハ覆審法院檢事、地方裁判所檢事及區裁判所檢事ノ職務ハ地方法院檢事之ヲ行フ

第三條　刑法第七十五條、第七十六條及朝鮮總督府裁判所令第三條第三項ノ規定ハ王族ニ付之ヲ準用ス

第四條　朝鮮總督府道知事ハ各其ノ管轄地内ニ於テハ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付地方法院檢事ト同一ノ職權ヲ有ス

第五條　左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スヘシ

一　警察部長タル朝鮮總督府道事務官
二　朝鮮總督府道警視、道警部、道警部補
三　憲兵將校、准士官、下士

前項ノ司法警察官ハ檢事ノ職務上發シタル命令ニ從フ

第六條　裁判所ハ被告人カ其ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ラサルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ被告人ノ所在地ヲ管轄スル同等ノ裁判所ニ移送スルコトヲ得

第七條　官吏、公吏ノ作リタル書類ニシテ形式ニ瑕疵アルモノハ當該官吏、公吏之ヲ補正スルコトヲ得

前項ノ補正ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日、場所及補正ノ事項ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第八條　削除

第九條　刑事訴訟法第八十二條中二十里トアルハ八里、五里トアルハ三里トス

第十條　刑事訴訟法ニ依リ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘキ場合ニ於テハ府官吏、府面吏員又ハ二人以上ノ相當ナル者ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一條　削除

第十二條　檢事ハ刑事訴訟法ニ規定スル場合ノ外事件禁錮以上ノ刑ニ該リ急速ノ處分ヲ要スルモノト思料スルトキハ公訴ノ提起前ニ限リ押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾引、被疑者若ハ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ翻譯ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ檢事ニ許シタル處分ハ司法警察官亦之ヲ爲スコトヲ得

刑事訴訟法第八十七條第一項、第八十八條及第百三十一條ノ規定ハ前二項ノ被疑者ノ勾引ニ、刑事訴訟法第一編第十三章乃至第十五章中檢事又ハ司法警察官ノ爲ス處分ニ關スル規定ハ前二項ノ證人ノ訊問、鑑定、通譯又ハ翻譯ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第十三條　司法警察官ハ前條第二項ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アリト思料スルトキハ十日ヲ超エサル期間之ヲ留置スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ留置期間内ニ書類及證據物ト共ニ被疑者ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ司法警察官カ刑事訴訟法第百二十七條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料スル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ第十二條ニ規定スル處分ヲ他ノ檢事又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ處分ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官他ノ司法警察官ノ命令又ハ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ刑事訴訟法第百二十八條ノ規定ニ準シ之ヲ命令シ又ハ囑託シタル司法警察官ニ被疑者ヲ送致スヘシ

第十五條　檢事ハ第十二條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ訊問シタル後刑事訴訟法第九十條第一項ニ規定スル原由アリト思料スルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ刑事訴訟法第九十一條及第百三十一條ノ規定ヲ準用ス

檢事前項ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル場合ニ於テ十日内ニ公訴ヲ提起セサルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事被疑者ヲ勾留シタルトキハ更ニ刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ勾留ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條　刑事訴訟法第百十三條中二月トアルハ三月トス

第十七條　裁判所又ハ豫審判事ハ必要ト認ムルトキハ司法警察官ヲシテ檢證ヲ爲サシメ又ハ鑑定ヲ命セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑑定ニ付テハ刑事訴訟法第一編第十四章中司法警察官ノ爲ス處分ニ關スル規定ヲ準用ス

第十八條　削除

第十九條　削除

第二十條　削除

第二十一條　削除

第二十二條　削除

第二十三條　通譯官、通譯生又ハ書記ヲ通事又ハ翻譯人ト爲ス場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要セス

第二十四條　職權ヲ以テ附スヘキ辯護人ハ辯護士又ハ司法官試補ニ非サル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十五條　刑事訴訟法第三百三十四條ノ規定ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ限リ之ヲ適用ス

第二十六條　判事單獨ニテ有罪ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ付テハ證據ニ關スル理由ヲ省略スルコトヲ得

刑事訴訟法第三百六十一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

第二十七條　檢事又ハ辯護人ハ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ必要トスルトキハ其ノ訊問ヲ裁判長ニ請求スヘシ

第二十八條　削除

第二十九條　削除

第三十條　削除

第三十一條　刑事訴訟法第四百二十二條中五十日トアルハ三十五日トス

第三十二條　削除

第三十三條　削除

第三十四條　削除

第三十五條　削除

第三十六條　削除

第三十七條　略式命令ヲ受ケタル者ハ正式裁判ノ請求ヲ拋棄スルコトヲ得

第三十八條　刑事訴訟法第五百四十五條中市町村長トアルハ府尹又ハ面長トス

第三十九條　朝鮮民事令第二條乃至第四條、第六條、第九條、第十六條、第十七條、第三十二條及第四十一條ノ規定ハ刑事ニ付之ヲ準用ス但シ朝鮮民事令第二條中前條並同令第三條、第四條、第六條及第十六條中第一條トアルハ本令第一條ニ該當ス

附　則

第四十條　本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條　左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一　刑法大全
二　鐵道事項犯罪人處斷例
三　刑事裁判費用規則

第四十二條　本令施行後仍效力ヲ有スル舊韓國法規ノ刑ハ左ノ例ニ從ヒ本令ノ刑名ニ變更ス但シ刑ノ期間又ハ金額ハ此ノ限ニ在ラス

舊韓國法規ノ刑	本令ノ刑
死刑	死刑
終身役刑	無期懲役
終身流刑	無期禁錮
十五年以下ノ役刑	有期懲役
十五年以下ノ流刑又ハ禁獄	有期禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料
沒入	沒收
笞刑	二十日以下ノ拘留又ハ科料

第四十三條　本令施行前舊韓國法規ノ刑ニ處セラレタル者ハ前條ノ例ニ照シ之ヲ本令ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ笞刑ニ處セラレタル者ニ付テハ笞五ヲ以テ拘留一日ニ換フ

第四十四條　舊韓國法規ニ依リ許シタル假放ハ之ヲ假出獄ト看做ス

第四十五條　本令施行前ニ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ付テハ本令ニ依リ之ヲ處斷ス

第四十六條　本令施行前既ニ爲シタル上告ハ從前ノ手續ニ依リ之ヲ完結ス

第四十七條　朝鮮民事令第七十九條及第八十二條ノ規定ハ刑事ニ之ヲ準用ス

附　則（大正六年制令第三號）

本令ハ大正六年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ朝鮮刑事令第四十一條第二項ノ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ付テハ朝鮮刑事令ニ依リ之ヲ處斷ス

附　則（大正十一年制令第十四號）

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行前言渡シタル闕席判決ニ對スル故障ハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ拋棄シ又ハ之ヲ取下クルコトヲ得

本令施行前申立アリタル上告ニ付テハ仍從前ノ第三十一條乃至第三十七條ノ規定ニ依ル

（大正十二年朝鮮總督府令第八十五號ヲ以テ大正十三年一月一日ヨリ施行）

（昭和四年五月七日　制令第七號）

朝鮮刑事令中改正ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮刑事令中左ノ通改正ス

第三十九條中「第十七條、第三十二條及第四十一條」ヲ「第十七條及第三十二條」ニ改ム

第四十七條中「及第八十二條」ヲ削ル

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

●政治ニ關スル犯罪處罰ノ件

（大正八年四月十五日　制令第七號）

政治ニ關スル犯罪處罰ノ件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條　政治ノ變革ヲ目的トシテ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ妨害セムトシタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス但シ刑法第二編第二章ノ規定ニ該當スルトキハ本令ヲ適用セス

前項ノ行爲ヲ爲サシムル目的ヲ以テ煽動ヲ爲シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第二條　前條ノ罪ヲ犯シタル者發覺前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第三條　本令ハ帝國外ニ於テ第一條ノ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ亦之ヲ適用ス

●臺灣刑事令

（明治四十一年八月二十八日　律令第九號）改正　大正九年第一四號、一二年第八號

臺灣刑事令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣刑事令

第一條　刑事ニ關スル事項ハ刑法及刑法施行法ニ依ル

第二條　本令施行前ニ公布シタル律令及律令ト同一ノ效力ヲ有スル日令ハ刑法施行法第一條ノ他ノ法律ト看做ス

第三條　刑法施行法第二十六條ニ記載シタル罪ニ付律令ヲ以テ規定シタルモノハ刑法第二條ノ例ニ從フ

第四條　削除

第五條　削除

第六條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第七條　匪徒刑罰令、臺灣阿片令、犯罪卽決例、明治三十二年律令第二十七號ハ仍其ノ效力ヲ有ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣刑事令施行規則

（明治四十一年十月一日　臺灣總督府令第六十四號）改正　大正二年第四九號

臺灣刑事令施行規則左ノ通相定ム

臺灣刑事令施行規則

第一條　罰金、科料ノ受刑者無資力ナルコト明ナル場合ニ於テハ強制執行ヲ爲サスシテ直ニ勞役場若ハ獄舍ニ留置シ又ハ笞刑ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條　卽決官署ニ於テ言渡シタル罰金、科料及追徵金ノ徵收ニ付テハ臺灣國稅徵收規則及臺灣國稅徵收規則施行規則中滯納處分ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●印紙犯罪處罰ニ關スル件

（明治四十二年五月四日　律令第二號）

印紙犯罪處罰ニ關スル件明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

印紙ニ關スル犯罪ノ處罰ハ印紙犯罪處罰法ニ依ル但シ同法第五條中印紙ノ官沒ニ關スル手續ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ印紙犯罪處罰法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十二年六月九日　臺灣總督府令第四十七號）

明治四十二年律令第二號ニ依リ行政ノ處分ヲ以テスル印紙ノ官沒ハ廳長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ明治四十二年律令第二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●匪徒刑罰令

（明治三十一年十一月五日　律令第二十四號）

臺灣總督ハ茲ニ緊急ノ必要アリト認メ明治二十九年法律第六十三號第三條ニ依リ匪徒刑罰令ヲ發布ス

匪徒刑罰令

第一條　何等ノ目的ヲ問ハス暴行又ハ脅迫ヲ以テ其目的ヲ達スル爲多衆結合スルヲ匪徒ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁及教唆者ハ死刑ニ處ス
二　謀議ニ參與シ又ハ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
三　附和隨從シ又ハ雜役ニ服シタル者ハ【有期徒刑】又ハ【重懲役】ニ處ス

第二條　前條第三號ニ記載シタル匪徒左ノ所爲アルトキハ死刑ニ處ス

一　官吏又ハ軍隊ニ抗敵シタルトキ
二　火ヲ放テ建造物汽車船舶橋梁ヲ燒燬シ若ハ毀壞シタルトキ
三　火ヲ放テ山林田野ノ竹木穀麥又ハ露積シタル柴草其他ノ物件ヲ燒燬シタルトキ
四　鐵道又ハ其標識燈臺又ハ浮標ヲ毀壞シ汽車船舶往來ノ危險ヲ生セシメタルトキ
五　郵便電信及電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ其交通ノ妨害ヲ生セシメタルトキ
六　人ヲ殺傷シ又ハ婦女ヲ強姦シタルトキ
七　人ヲ略取シ又ハ財物ヲ掠奪シタルトキ

第三條　前條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ仍本刑ヲ科ス

第四條　兵器彈藥船舶金穀其他ノ物件ヲ資給シ若ハ會合ノ場所ヲ給與シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ匪徒ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ【無期徒刑】ニ處ス

第五條　匪徒ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメ又ハ匪徒ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リタル者ハ【有期徒刑】又ハ【重懲役】ニ處ス

第六條　本令ノ罪ヲ犯シタル者官ニ自首シタルトキハ情狀ニ依リ其刑ヲ輕減シ又ハ全免ス

本刑ヲ免シタルトキハ五年以下ノ【監視】ニ付ス

第七條　本令ニ於テ罰スヘキ行爲ハ其本令施行前ニ係ルモノモ仍本令ニ依テ之ヲ處斷ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●關東州ニ於ケル刑事ニ關スル件

（明治四十一年十月十三日　勅令第二百五十七號）

朕關東州ニ於ケル刑事ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、外務、海軍大臣副署）

關東州ニ於ケル刑事ニ關シテハ別ニ定ムルモノノ外陸軍刑法、海軍刑法、陸軍刑法施行法及海軍刑法施行法ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ於テ財物劫掠ノ目的ヲ以テ多衆結合スル者ノ處罰ニ關スル件

（大正十三年十一月十五日　勅令第二百五十九號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州ニ於テ財物劫掠ノ目的ヲ以テ多衆結合スル者ノ處罰ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

第一條　關東州ニ於テ財物劫掠ノ目的ヲ以テ多衆結合シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二條　前條ノ罪ヲ犯ス者左ノ各號ノ一ニ該當スル所爲アリタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

一　公務員又ハ軍ニ抗敵シタルトキ
二　人ヲ殺傷シ又ハ婦女ヲ強姦シタルトキ
三　人ヲ略取シ若ハ監禁シ又ハ財物ヲ劫掠シタルトキ
四　道路、橋梁、鐵道、鐵道標識、燈臺若ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ汽車、電車、自動車又ハ艦船ノ往來ニ危險ヲ生セシメタルトキ
五　郵便、電信、電話其ノ他通信ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ通信ヲ妨害シタルトキ
六　建造物、汽車、電車、自動車又ハ艦船ヲ燒燬シ又ハ損壞シタルトキ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三條　第一條ノ罪若ハ前條第一項ノ未遂罪ヲ犯シタル者又ハ前二條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ若ハ隱避セシメタル者官ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

●關東州罰金及笞刑處分令

（明治四十一年九月二十八日　勅令第二百三十六號）改正　大正一〇年第二四七號、一四年第一二四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ關東州罰金及笞刑處分令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務大臣副署）

關東州罰金及笞刑處分令

第一條　三月以下ノ懲役ノ刑ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ罰金又ハ笞刑ニ處スルコトヲ得

第二條　百圓以下ノ罰金ノ刑ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ被告人左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ處スルコトヲ得

一　關東州內ニ一定ノ住所ヲ有セサルトキ
二　無資產ナリト認メタルトキ

第三條　拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ支那人ノ犯罪ニ付テハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ處スルコトヲ得

第四條　百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處セラレタル支那人ニシテ之ヲ完納セサル者ハ其ノ情狀ニ依リ笞刑ニ換フルコトヲ得但シ笞刑ノ執行中未タ執行セサル笞數ニ相當スル罰金又ハ科料ヲ納メタルトキハ笞刑ヲ免ス

第五條　本令ニ依リ罰金若ハ笞刑ニ處シ又ハ罰金若ハ科料ヲ笞刑ニ換フル場合ニ於テハ一日ヲ一圓ニ、一日若ハ一圓ヲ笞一ニ折算ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖笞一ニ計算ス但シ笞ハ五ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　笞刑ハ臀ニ鞭ス

第七條　笞刑ハ十六歲以上六十歲以下ノ男子ニ非サレハ之ヲ科スルコトヲ得ス

第八條　笞刑ハ笞三十以下ニ在リテハ之ヲ一回ニ執行シ笞數三十ヲ增ス每ニ一回ヲ加フ

笞刑ハ一日一回ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　笞刑ノ言渡確定シタル者ハ其ノ執行ヲ終ル迄之ヲ監獄、民政支署、警察署又ハ警察支署ニ拘置ス

執行ノ猶豫ヲ得タル者ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條　笞刑ノ言渡確定シタルトキハ速ニ之ヲ執行スヘシ但シ笞刑ニ處セラレタル者身體ノ健康之ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ三月以內猶豫スルコトヲ得其ノ猶豫三月ヲ超エ猶執行ニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ笞刑ヲ免ス

第十一條　笞刑ハ監獄、民政支署、警察署又ハ警察支署內ニ於テ祕密ニ之ヲ執行ス

第十二條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル規定ハ關東長官之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州罰金及笞刑處分令施行細則

（明治四十一年九月三十日　關東都督府令第五十七號）改正　大正一四年關東廳令第七號

關東州罰金及笞刑處分令施行細則左ノ通相定ム

關東州罰金及笞刑處分令施行細則

第一條　笞刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人關東州內ニ一定ノ住居ヲ有セス又ハ逃走ノ虞アルトキハ勾留狀ヲ發シテ監獄又ハ民政支署、警察署若ハ警察支署ニ拘置スルコトヲ得

第二條　笞刑ヲ執行セムトスルトキハ醫師ヲシテ每回受刑者ノ身體ヲ診査セシメ其ノ健康笞刑ノ執行ヲ受クルニ堪ヘ難キモノト認ムルトキハ執行ヲ猶豫スヘシ但シ醫師ヲシテ診査セシムルコト能ハサルトキハ立會官吏ノ認定ニ依リ[illegible]

第三條　[illegible]

第四條　[illegible]

第五條　[illegible]

第六條　[illegible]

第七條　[illegible]

第八條　[illegible]

第九條　[illegible]

第十條　[illegible]

第十一條　[illegible]

第十二條　[illegible]

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　刑事訴訟法

●刑事訴訟法

（大正十一年五月五日　法律第七十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（[illegible]）

刑事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所ノ管轄

第一條　[illegible]

第二條　[illegible]

第三條　[illegible]

第四條　[illegible]

屬スルトキハ上級裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ以テ下級裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第五條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

第六條　土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ公判ニ繫屬スル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ其ノ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ裁判所ニ之ヲ移送スルコトヲ得

土地管轄ヲ異ニスル數個ノ牽連事件同一裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

第七條　事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ繫屬スルトキハ各裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

事物管轄ヲ同シクスル數個ノ牽連事件各別ニ數個ノ裁判所ノ豫審ニ繫屬スルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テ各裁判所ノ決定一致セサルトキハ各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ事件ヲ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得

第八條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ

二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ

三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第九條　同一事件事物管轄ヲ異ニスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ上級裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル下級裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十條　同一事件事物管轄ヲ同シクスル數個ノ裁判所ノ豫審又ハ公判ニ繫屬スルトキハ最初ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

各裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル裁判所ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第十一條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ職務ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十二條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第十三條　裁判所ハ管轄權ヲ有セサルトキト雖急速ヲ要スル場合ニ於テハ事實發見ノ爲必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ豫審判事及受命判事ニ之ヲ準用ス

第十四條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ關係アル第一審裁判所ニ共通スル直近上級裁判所ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

一　裁判所ノ管轄區域明確ナラサル爲管轄裁判所定ラサルトキ

二　管轄違ヲ言渡シタル確定裁判アリタル事件ニ付他ニ管轄裁判所ナキトキ

第十五條　法律ニ依ル管轄裁判所ナキトキ又ハ之ヲ知ルコト能ハサルトキハ檢事總長ハ大審院ニ管轄指定ノ請求ヲ爲スヘシ

第十六條　檢事ハ左ノ場合ニ於テ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

一　管轄裁判所又ハ裁判所構成法第十三條第二項ノ規定ニ依リ定メタル裁判所ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキ

二　被告人ノ地位、地方ノ民心、訴訟ノ狀況其ノ他ノ事情ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル虞アルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ被告人亦管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十七條　犯罪ノ性質、被告人ノ地位、地方ノ民心其ノ他ノ事情ニ因リ管轄裁判所ニ於テ審判ヲ爲ストキハ公安ヲ害スル虞アリト認ムル場合ニ於テハ檢事總長ハ大審院ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スヘシ

第十八條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

檢事前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十九條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ

第二十條　檢事豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付第十六條第一項第二號ニ規定スル事由ノ爲管轄移轉ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ速ニ請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ管轄裁判所ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十一條　被告人管轄移轉ノ請求書ヲ差出スニハ事件ノ繫屬スル裁判所ヲ經由スヘシ

前項ノ裁判所請求書ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

檢事ハ請求書ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二十二條　豫審又ハ公判ニ繫屬スル事件ニ付管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求アリタルトキハ決定アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　管轄ノ指定又ハ移轉ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第二章　裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

第二十四條　判事ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　判事被害者ナルトキ

二　判事私訴當事者ナルトキ

三　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ配偶者、四親等內ノ血族、三親等內ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ親族關係ノ止ミタル後亦同シ

四　判事被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

五　判事事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六　判事事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ

七　判事事件ニ付檢事又ハ司法警察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

八　判事事件ニ付豫審終結決定若ハ前審ノ裁判又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタルトキ但シ受託判事トシテ關與シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　判事職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキトキ又ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アルトキハ檢事、被告人又ハ私訴當事者之ヲ忌避スルコトヲ得

辯護人ハ被告人ノ爲忌避ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二十六條　事件ニ付請求又ハ陳述ヲ爲シタル後ハ偏頗ノ裁判ヲ爲ス虞アリトシテ判事ヲ忌避スルコトヲ得ス但シ忌避ノ原由アリシコトヲ知ラサリシトキ又ハ忌避ノ原由其ノ後ニ發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　合議裁判所ノ判事ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ判事所屬ノ裁判所ニ之ヲ爲シ豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ニ對スル忌避ノ申立ハ忌避スヘキ判事ニ之ヲ爲スヘシ

忌避ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ原由ヲ示スヘシ

忌避ノ原由及前條但書ノ事實ハ申立ヲ爲シタル日ヨリ三日內ニ書面ヲ以テ之ヲ疏明スヘシ

忌避セラレタル判事ハ第二十八條第四項但書及第二十九條ノ場合ヲ除クノ外忌避ノ申立ニ對シ意見書ヲ差出スヘシ

第二十八條　合議裁判所ノ判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所決定ヲ爲スヘシ

忌避セラレタル判事ハ前項ノ決定ニ關與スルコトヲ得ス

第一項ノ裁判所忌避セラレタル判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級裁判所決定ヲ爲スヘシ

豫審判事忌避セラレタルトキハ其ノ判事所屬ノ裁判所、區裁判所判事忌避セラレタルトキハ管轄地方裁判所決定ヲ爲スヘシ但シ忌避セラレタル判事忌避ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ其ノ決定アリタルモノト看做ス

第二十九條　訴訟ヲ遲延セシムル目的ノミヲ以テ爲シタルコト明白ナル忌避ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ適用セス第二十六條又ハ第二十七條第二項第三項ノ規定ニ違反シテ爲シタル忌避ノ申立ヲ却下スル場合亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ忌避セラレタル豫審判事、受命判事又ハ區裁判所判事ハ忌避ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ爲スコトヲ得

第三十條　忌避ノ申立アリタルトキハ前條ノ場合ヲ除クノ外訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條　忌避ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　忌避ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ第二十四條各號ノ一ニ該當スル者アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ除斥ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十七條第四項及第二十八條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　判事忌避セラルヘキ原由アリト思料スルトキハ回避スヘシ

回避ノ申立ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ規定ハ回避ニ付之ヲ準用ス

第三十四條　前二條ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三十五條　本章ノ規定ハ第二十四條第八號ノ規定ヲ除クノ外裁判所書記ニ之ヲ準用ス

豫審判事又ハ受命判事ニ附屬スル裁判所書記ニ對スル忌避ノ申立ハ其ノ附屬スル判事ニ之ヲ爲スヘシ

決定ハ裁判所書記所屬ノ裁判所之ヲ爲スヘシ但シ第二十九條第二項ノ裁判ハ裁判所書記ノ附屬スル判事之ヲ爲スコトヲ得

第三章　訴訟能力

第三十六條　被告人法人ナルトキハ其ノ代表者訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

數人共同シテ法人ヲ代表スル場合ト雖訴訟行爲ニ付テハ各自之ヲ代表ス

第三十七條　刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用ヰサル罪ニ該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行爲ニ付之ヲ代表ス

第三十八條　前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ

特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

第四章　辯護及輔佐

第三十九條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及配偶者竝被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第四十條　辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

第四十一條　辯護人ノ選任ハ審級每ニ之ヲ爲スヘシ

豫審中爲シタル辯護人ノ選任ハ第一審ノ公判ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第四十二條　辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四十三條　第三百三十四條又ハ第三百三十五條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ裁判所所在地ニ在ル辯護士又ハ司法官試補ノ中ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十四條　辯護人ハ被告事件公判ニ付セラレタル後裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

豫審ニ於テハ辯護人ノ立會フコトヲ得ヘキ豫審處分ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

辯護人ハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ證據物ヲ謄寫スルコトヲ得

第四十五條　被告事件公判ニ付セラレタル後ニ於テハ辯護人ハ勾留ヲ受ケタル被告人トノ接見及信書ノ往復ヲ禁スルコトヲ得ス

第四十六條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　被告人ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬及夫竝被告人ノ屬スル家ノ戶主ハ被告事件公判ニ付セラレタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラントスル者ハ審級每ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

輔佐人ハ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ獨立シテ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　裁判

第四十八條　判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テ申立ニ因リ之ヲ爲ストキハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽クヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四十九條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ

上訴ヲ許ササル決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

第五十條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第五十二條　檢事ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條　被告人其ノ他訴訟關係人ハ其ノ費用ヲ以テ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章　書類

第五十四條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判所書記之ヲ作成スヘシ

第五十五條　訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テハ之ヲ公ニスルコトヲ得ス

第五十六條　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第五十七條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第五十八條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第五十九條　裁判所書記ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第六十條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他一切ノ訴訟手

讀ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル裁判所及年月日

二　判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述及公判開廷中口頭ノ起訴アリタルトキハ其ノ要旨

六　辯論ノ要旨

七　第五十六條第二項ニ揭クル事項

八　朗讀シ又ハ要旨ヲ告ケタル書類

九　被告人ニ示シタル書類及證據物

十　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十一　裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十二　被告人若ハ辯護人最終ニ陳述シタルコト又ハ被告人若ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘタルコト

十三　判決其ノ他ノ裁判ノ宣告ヲ爲シタルコト

第六十一條　公判調書ニ付テハ第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

供述者ノ請求アルトキハ裁判所書記ヲシテ其ノ供述ニ關スル部分ヲ讀聞カサシメ增減變更ノ申立アリタルトキハ其ノ供述ヲ記載セシムヘシ

第六十二條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第六十三條　公判調書ニハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

裁判長差支アルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

區裁判所判事差支アルトキハ裁判所書記其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十四條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第六十五條　辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ速記者ヲシテ公判ニ於ケル被告人又ハ證人ノ供述ヲ筆記セシムルコトヲ得

第六十六條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第六十七條　裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

第六十八條　裁判書ニハ裁判ヲ爲シタル判事署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ判事其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ判事署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第六十九條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ裁判ヲ受クル者法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ規定スル事項ノ外公判ニ關與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第七十條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第七十一條　官吏又ハ公吏ノ作ルべキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

第七十二條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ但シ削除シタル部分ハ之ヲ讀得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第七十三條　官吏又ハ公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七十四條　官吏又ハ公吏ニ非サル者署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代書セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代書セシメタル場合ニ於テハ代書シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第七章　送達

第七十五條　被告人、私訴當事者、代理人、辯護人又ハ輔佐人ハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ裁判所ニ届出ツヘシ裁判所所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ者ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出ハ同一ノ地ニ在ル各審級ノ裁判所ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ適用セス

送達ニ付テハ送達受取人ハ之ヲ本人ト看做シ其ノ住居又ハ事務所ハ之ヲ本人ノ住居ト看做ス

第七十六條　住居、事務所又ハ送達受取人ヲ届出ツヘキ者其ノ届出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記ハ書類ヲ郵便ニ付シテ其ノ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七十七條　檢事ニ對スル送達ハ書類ヲ檢事局ニ送付シテ之ヲ爲スヘシ

第七十八條　被告人ノ住居、事務所及現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル場合ニ於テ他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條　公示送達ハ裁判所ノ命シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ裁判所ノ掲示場ニ公示シテ之ヲ爲スヘシ

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ裁判所書記召喚狀ヲ裁判所ノ掲示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル日ヨリ三十日、其ノ他ノ公示送達ハ掲示場ニ公示ヲ始メタル日ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第八十條　書類ノ送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス但シ司法警察官ノ發スル書類ノ送達ニ付テハ裁判所書記ニ屬スル職務ハ司法警察官之ヲ行ヒ執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察吏之ヲ行フ

第八章　期間

第八十一條　期間ノ計算ニ付テハ時ヲ以テ計算スルモノハ卽時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テ計算スルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里每ニ一日ヲ加フ其ノ距離又ハ端數二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキハ一日ヲ加フ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

前項ノ規定ハ宣告シタル裁判ニ對スル上訴ノ提起期間ニハ之ヲ適用セス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第九章　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十三條　裁判所公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第八十四條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ヨリ期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出頭シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

受訴裁判所ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ニ對シテハ監獄官吏ニ通知シテ之ヲ召喚スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人監獄官吏ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

第八十五條　召喚ニ因リ出頭シタル被告人ハ速ニ之ヲ訊問スヘシ

被告人裁判所構內ニ在ルトキハ召喚ヲ爲ササル場合ニ於テモ之ヲ訊問スルコトヲ得

第八十六條　被告人再度ノ召喚ヲ受ケ故ナク出頭セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三　被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ヲ除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス但シ前條及第百六條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第八十八條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第八十九條　勾引シタル被告人ハ裁判所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第九十條　第八十七條ノ規定ニ依リ被告人ヲ勾引スルコトヲ得ヘキ原由アルトキハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被告人ノ勾留ハ第八十五條又ハ前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ被告人逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

被告人監獄ニ在ルトキハ第一項ノ原由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

第九十一條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第九十二條　被告人ヲ勾留シタル場合ニ於テハ其ノ身體及名譽ヲ保全スルコトニ注意スヘシ

第九十三條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第八十三條乃至第九十一條ニ規定スル處分ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條　裁判長ハ被告人ノ現在地ノ豫審判事若ハ區裁判所判事、法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事又ハ司法警察官ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第九十五條　被告人ノ現在地ヲ豫知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長ニ被告人ノ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ記載シタル書面ヲ送付シ其ノ搜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第九十六條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル裁判所ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第九十七條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件、被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命判事之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時、場所及召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

裁判長第九十三條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第九十八條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第九十九條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ檢事ノ指揮ニ依リ監獄官吏之ヲ執行ス

檢事ノ指揮ニ依リ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テハ之ヲ發シタル官署ハ其ノ原本ヲ檢事ニ送付スヘシ

第百一條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百二條　司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百三條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル裁判所ニ引致スヘシ第九十四條第四項及第九十五條第二項ノ勾引狀ニ付テハ之ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百四條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ハ其ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第百五條　軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ外ニ在リテ現ニ勤務ニ從事スル軍人、軍屬又ハ陸軍海軍所屬ノ學生生徒ニ對シテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六條　裁判長ハ必要アルトキハ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第八十九條ノ期間ハ其ノ場所ニ引致シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百七條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第百八條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百九條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事其ノ他ノ官署ニ之ヲ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢事其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百十條　檢事ハ裁判所ノ同意ヲ得テ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百十一條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百十二條　裁判所ハ罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ヲ圖ル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類其ノ他ノ物ヲ檢閱シ、其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得但シ糧食ハ其ノ授受ヲ禁シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

裁判所檢閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢事之ヲ爲スコトヲ得

第百十三條　勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

第百十四條　勾留ノ原由消滅シタルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百十五條　勾留セラレタル被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人、直系尊屬、直系卑屬、配

偶者、被告人ノ屬スル家ノ戶主若ハ辯護人ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百十六條　保釋ノ請求アリタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百十七條　保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ納メシメタル後之ヲ執行スヘシ

檢事ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ納メシムルコトヲ得

檢事ハ有價證券又ハ裁判所ノ管轄地內ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資產ヲ有スル者ノ差出シタル保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

保證書ニハ保證金額及何時ニテモ其ノ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百十八條　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ親族其ノ他ノ者ニ責付シ又ハ被告人ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ被告人ノ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百十九條　被告人逃亡シタルトキ、逃亡スル虞アルトキ、召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ、罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ又ハ住居ノ制限ニ違反シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スルコトヲ得

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃亡シタルトキハ檢事ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百二十條　勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢事ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百二十一條　上訴提起期間內又ハ上訴中ノ事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シ、勾留ヲ取消シ又ハ保釋ヲ爲シ、責付ヲ爲シ、勾留ノ執行停止ヲ爲シ若ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ原裁判所其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百二十二條　豫審判事ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百二十三條　左ノ場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢事ハ勾引狀ヲ發シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

一　被疑者定リタル住居ヲ有セサルトキ
二　現行犯人其ノ場所ニ在ラサルトキ
三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
四　既決ノ囚人又ハ本法ニ依リ拘禁セラレタル者逃亡シタルトキ
五　死體ノ檢證ニ因リ犯人ヲ發見シタルトキ
六　被疑者常習トシテ強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

第百二十四條　檢事又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得
二　司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ司法警察吏ニ命スヘシ
三　司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

第百二十五條　現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條　司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百二十七條　司法警察官現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ即時訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ四十八時間內ニ書類及證據物ト共ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百二十八條　司法警察官吏檢事若ハ司法警察官ノ命令ニ因リ現行犯人ヲ逮捕シ又ハ司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス速ニ之ヲ命令シタル檢事又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

第百二十九條　檢事現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リ又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被疑者ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ勾留狀ヲ發シ速ニ公訴ヲ提起シ又ハ書類及證據物ト共ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢事他ノ檢事ヨリ被疑者ヲ受取リタルトキハ前項ノ手續ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

檢事他ノ檢事ノ囑託ニ因リ被疑者ニ對シ勾引狀ヲ發シタル場合ニ於テハ第一項ノ手續ニ依ラス速ニ之ヲ囑託シタル檢事ニ送致スヘシ

第百三十條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百三十一條　第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百十條ノ規定ハ第百二十三條及第百二十九條ノ勾引又ハ勾留ニ付之ヲ準用ス

第百三十二條　五百圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ該ル罪ノ現行犯ニ付テハ犯人ノ住居若ハ氏名分明ナラサル場合又ハ犯人逃亡スル虞アル場合ニ限リ第百二十四條乃至前條ノ規定ヲ適用ス

第十章　被告人訊問

第百三十三條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百三十四條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問フヘシ

第百三十五條　被告人ニ對シテハ丁寧深切ヲ旨トシ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百三十六條　被告人ヲ訊問スルトキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百三十七條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百三十八條　被告人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第百三十九條　本章ノ規定ハ被疑者ヲ訊問スル場合ニ之ヲ準用ス但シ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第十一章　押收及搜索

第百四十條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノアルトキハ之ヲ差押フヘシ

裁判所ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百四十一條　裁判所ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當セサル郵便物又ハ電信ニ關スル書類ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限リ之ヲ差押ヘ又ハ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十二條　被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ハ之ヲ領置スルコトヲ得

第百四十三條　裁判所ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ搜索ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ノ搜索ニ付テハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　搜索ニ付テハ祕密ヲ保チ且搜索ヲ受クル者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第百四十五條　搜索ヲ爲シタル場合ニ於テ證據物又ハ沒收スヘキ物ナキトキハ搜索ヲ受ケタル者ノ請求ニ因リ其ノ旨ノ證明書ヲ交付スヘシ

第百四十六條　押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百四十七條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十八條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢查院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、敎育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十九條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗敎若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲保管又ハ所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付差押ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百五十條　裁判所ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第百五十一條　司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第百五十二條　司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢事ヲ經由シテ之ニ關スル書類及押收物ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第百五十三條　裁判所押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢事ニ送付スルコトヲ得

檢事前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第百五十四條　押收又ハ搜索ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ爲スヘキ地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ裁判所ノ爲ス押收又ハ搜索ニ關スル規定ヲ準用ス但シ第百四十一條第三項ノ通知ハ裁判所之ヲ爲スヘシ

第百五十五條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス

猶豫スヘカラサル場合ニ於テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調書ニ記載スヘシ

日沒前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條　左ノ場所ニ於テ爲ス押收又ハ搜索ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所
二　旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第百五十七條　公務所又ハ軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ鄰人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第百五十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第百五十九條　押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百六十條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第百六十一條　押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第百六十三條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スヘシ

第百六十四條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危險ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第百六十五條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ賣却シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第百六十六條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第百六十七條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第百六十八條　押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ裁判所書記ヲシテ立會ハシムヘシ

第百六十九條　豫審判事ハ押收及搜索ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百七十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢事ニ送付スヘシ但シ第百六十四條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ報告スヘシ

第百七十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十二條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯人アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ犯人ヲ逮捕スル爲搜索ヲ爲スコトヲ得檢事又ハ司法警察官吏現行犯人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ犯人人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ逃入リタルトキ亦同シ

第百七十三條　司法警察官吏勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ入リ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百七十四條　第百四十條乃至第百四十九條、第百五十三條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條乃至第百六十七條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外檢事又ハ司法警察官ノ爲ス押收又ハ搜索ニ付之ヲ準用ス

第百四十六條、第百四十七條、第百五十五條乃至第百五十七條及第百六十一條ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付之ヲ準用ス

第百七十二條ノ搜索ヲ爲ス場合及第百二十三條第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル爲前條ノ搜索ヲ爲ス場合ニ於テハ第百五十七條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

第十二章　檢證

第百七十五條　裁判所ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第百七十六條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘、物ノ毀壞其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニ於テハ醫師又ハ成年ノ婦女ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

死體ヲ解剖シ又ハ墳墓ヲ發掘スル場合ニ於テハ禮意ヲ失ハサルコトニ注意シ遺族アルトキハ之ニ通知スヘシ

第百七十七條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ看守者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第百五十六條ニ規定スル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第百七十八條　第百四十七條、第百五十四條、第百五十七條乃至第百六十二條及第百六十八條ノ規定ハ檢證ニ付之ヲ準用ス

第百七十九條　豫審判事ハ檢證ニ關シ裁判所ト同一ノ權ヲ有ス

第百八十條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第百八十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ内ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

第百八十二條　變死者又ハ變死ノ疑アル死體アルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事檢視ヲ爲スヘシ

前項ノ處分ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ司法警察官ヲシテ前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第百八十三條　第百四十七條、第百五十七條、第百六十一條、第百六十二條、第百七十六條及第百七十七條ノ規定ハ檢事又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付之ヲ準用ス

第十三章　證人訊問

第百八十四條　裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第百八十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立テタルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者前項ノ申立ヲ爲シタルトキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第百八十六條　左ニ揭クル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　被告人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第百八十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、辨理士、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リタル者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百八十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第百八十九條　證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト

能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第百九十條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且出頭セサルニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百九十二條　第八十四條及第九十九條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

第百九十三條　第八十八條、第百條乃至第百五條及第百九條ノ規定ハ證人ノ勾引ニ付之ヲ準用ス

第百九十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ其ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝出頭セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十五條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第百九十六條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十七條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百九十八條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ但シ訊問後宣誓ヲ爲ス場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第百九十九條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前僞證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百條　證人ノ宣誓ハ各別ニ之ヲ爲サシムヘシ

第二百一條　證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一　十六歳未滿ノ者

二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

四　第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ

五　第百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六　被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ揭クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百二條　證人ノ供述證人若ハ之ト第百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三條　證人ハ各別ニ之ヲ訊問スヘシ後ニ訊問スヘキ證人在廷スルトキハ退廷ヲ命スヘシ

第二百四條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百六條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百七條　第八十五條、第百三十六條及第百三十八條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百八條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ裁判所外ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百九條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開會中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百十條　證人正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處ス第百八十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百十一條　裁判所ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百十二條　裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人ノ現在地ノ豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百十三條　豫審判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十四條　檢事ハ第百二十三條各號ノ場合又ハ現行犯人ヲ逮捕シ若ハ之ヲ受取リタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ前項ノ場合ニ於テハ公訴提起前ニ限リ第百八十四條乃至第二百十一條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百十五條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百十六條　檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察官吏ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十七條　第二百十四條ノ場合ニ於テ證人ヲ過料ニ處シ又ハ之ヲ勾引スル必要アルトキハ證人ノ現在地ノ區裁判所判事ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第二百十八條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四章　鑑定

第二百十九條　裁判所ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百二十條　鑑定人ニハ鑑定前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百二十一條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書又ハ口頭ヲ以テ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十二條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ裁判所外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ裁判所ハ期間ヲ定メ病院其ノ他ノ相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百二十三條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第百七十六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十四條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百二十五條　裁判所ハ部員ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條　裁判所ハ鑑定ヲ十分ナラストスルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十七條　檢事及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條　第十三章ノ規定ハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外鑑定ニ付之ヲ準用ス但シ檢事及司法警察官ハ第二百二十二條第三項ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十九條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

第二百二十一條乃至第二百二十三條及第二百二十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百二十一條第三項ノ規定ニ依ル鑑定書ノ說明ハ官署又ハ公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百三十一條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本章ノ規定ニ依ラス第十三章ノ規定ヲ適用ス

第十五章　通譯

第二百三十二條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百三十三條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百三十四條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百三十五條　裁判所ハ官署又ハ公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百三十六條　第十四章ノ規定ハ通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第十六章　訴訟費用

第二百三十七條　刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ被告人ヲシテ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムヘシ

被告人ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ生シタル費用ハ刑ノ言渡ヲ爲ササル場合ト雖被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十八條　共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百三十九條　告訴又ハ告發ニ因リ公訴ノ提起アリタル事件ニ付被告人無罪又ハ免訴ノ裁判ヲ受ケタル場合ニ於テ告訴人又ハ告發人ニ故意又ハ重大ナル過失アルトキハ其ノ者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十條　親告罪ニ付告訴ノ取消アリタル場合ニ於テハ告訴人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十一條　檢事ニ非サル者上訴ノ取下ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ上訴ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ取下ケタル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ再審ニ關スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得

第二百四十二條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ其ノ裁判ヲ爲スヘシ此ノ裁判ニ對シテハ本案ノ裁判ニ付上訴アリタルトキニ限リ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第二百四十三條　裁判ニ因リ訴訟手續終了スル場合ニ於テ被告人ニ非サル者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ職權ヲ以テ別ニ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十四條　裁判ニ因ラスシテ訴訟手續終了スル場合ニ於テ訴訟費用ヲ負擔セシムルトキハ最終ニ事件ノ繫屬シタル裁判所職權ヲ以テ其ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二百四十五條　訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ執行ノ指揮ヲ爲スヘキ檢事之ヲ定ム

第二編　第一審

第一章　搜査

第二百四十六條　檢事犯罪アリト思料スルトキハ犯人及證據ヲ搜査スヘシ

第二百四十七條　警視總監、地方長官及憲兵司令官ハ各其ノ管轄區域內ニ於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スルニ付地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但シ東京府知事ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條　左ニ揭クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ヲ搜査スヘシ

一　廳府縣ノ警察官
二　憲兵ノ將校、准士官及下士

第二百四十九條　左ニ揭クル者ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ司法警察吏トシテ搜查ノ補助ヲ爲スヘシ

一　巡査
二　憲兵卒

第二百五十條　前三條ニ規定スル者ノ外勅令ヲ以テ司法警察官吏ヲ定ムルコトヲ得

第二百五十一條　森林、鐵道其ノ他特別ノ事項ニ付司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二百五十二條　第十一條第一項ノ規定ハ檢事及司法警察官吏ノ爲ス搜查ニ付之ヲ準用ス

第二百五十三條　搜查ニ付テハ祕密ヲ保チ被疑者其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百五十四條　搜查ニ付テハ其ノ目的ヲ達スル爲必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ强制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜查ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二百五十五條　檢事搜查ヲ爲スニ付强制ノ處分ヲ必要トスルトキハ公訴ノ提起前ト雖押收、搜索、檢證及被疑者ノ勾留、被疑者若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ其ノ所屬地方裁判所ノ豫審判事又ハ所屬區裁判所ノ判事ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求ヲ受ケタル判事ハ其ノ處分ニ關シ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

第二百五十六條　判事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ

第二百五十七條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ被疑者ヲ勾留シタル事件ニ付十日內ニ公訴ヲ提起セサルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放スヘシ

第二百五十八條　第二百五十五條ノ規定ニ依リ押收ヲ爲シタル事件ニ付公訴ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ檢事ハ速ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二百五十九條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百五十九條　祖父母又ハ父母ニ對シテハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十條　被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族又ハ兄弟姉妹ハ告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ之ヲ適用セス

第二百六十一條　被害者ノ法定代理人被疑者ナルトキ、被疑者ノ配偶者ナルトキ又ハ被疑者ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百六十二條　死者ノ名譽ヲ毀損シタル罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

名譽ヲ毀損シタル罪ニ付被害者告訴ヲ爲サスシテ死亡シタルトキ亦前項ニ同シ但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第二百六十三條　親告罪ニ付告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得

第二百六十四條　刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ婚姻解消シ又ハ離婚ノ訴ヲ提起シタル後ニ非サレハ告訴ヲ爲スコトヲ得ス再ヒ婚姻ヲ爲シ又ハ離婚ノ訴ヲ取下ケタルトキハ告訴ヲ取消シタルモノト看做ス

第二百六十五條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル日ヨリ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル日ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ナシ

第二百六十六條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ對シ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百六十七條　告訴ハ第二審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百六十八條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シテ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ者ニ對シ亦其ノ效力ヲ生ス

第二百六十九條　何人ト雖犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料スルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百七十條　第二百五十九條ノ規定ハ告發ニ付之ヲ準用ス

第二百七十一條　告訴ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得告訴ノ取消ニ付亦同シ

第二百七十二條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘシ

第二百七十三條　檢事又ハ司法警察官口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第五十六條第三項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第二百七十四條　司法警察官告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

第二百七十五條　第二百七十二條、第二百七十三條及前條ノ規定ハ告訴又ハ告發ノ取消ニ付之ヲ準用ス

第二百七十六條　第二百七十二條、第二百七十三條及第二百七十四條ノ規定ハ自首ニ付之ヲ準用ス

第二百七十七條　犯罪ニ關シ匿名ノ申告又ハ風說アル場合ニ於テハ特ニ其ノ出所ニ注意シ虛實ヲ探查スヘシ

第二章　公訴

第二百七十八條　公訴ハ檢事之ヲ行フ

第二百七十九條　犯人ノ性格、年齡及境遇並犯罪ノ情狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要トセサルトキハ公訴ヲ提起セサルコトヲ得

第二百八十條　公訴ハ檢事ノ指定シタル被告人以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第二百八十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年
五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
六　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月
七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第二百八十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ニ付テハ其ノ重キ刑ニ從ヒ前條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ加重又ハ減輕セサル刑ニ從ヒ第二百八十一條ノ規定ヲ適用ス

第二百八十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲ノ終リタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

第二百八十五條　時效ハ公訴ノ提起、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ爲シタル判事ノ處分ニ因リ中斷ス但シ其ノ手續規定ニ違反シタル爲無效ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第二百八十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第二百八十七條　時效ハ第三百五條第一項第二號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百五十二條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

第二百八十八條　公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リ之ヲ爲ス

第二百八十九條　拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ罰金以上ノ刑ニ該ル事件ト同時ニ取調ヲ爲スヘキ場合[illegible]豫審ヲ請求スルコトヲ得[illegible]

第二百九十條　公訴ノ提起ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審判事裁判所書記共ニ署名捺印スヘシ

公判開廷中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ公判ヲ請求スル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テ之ヲ爲ス氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ之ヲ[illegible]シ

第二百九十二條　公訴ハ豫審終結決定又ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二百九十三條　檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場[illegible]スル必要[illegible]ヘシ

第二百九十四條　[illegible]提起シ又ハ之ヲ提起セサル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ[illegible]訴ヲ取消[illegible]ハ相當官[illegible]

第三章　豫審

第二百九十五條　豫審ハ被告事件ヲ公判ニ付スヘキカ否ヲ決スル爲必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ其ノ目的トス

豫審判事ハ公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦取調ヲ爲スヘシ

第二百九十六條　豫審ニ於テハ取調ノ祕密ヲ保チ被告人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セサルコトニ注意スヘシ

第二百九十七條　豫審判事豫審中共犯アルコト又ハ他ノ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス豫審ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第二百九十八條　檢事前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ豫審ヲ請求スヘキモノト思料スルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

豫審判事檢事ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間內ニ豫審ノ請求ナキトキハ前條ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス被疑者ヲ勾留シタルトキハ釋放ノ決定ヲ爲シ押收シタル物アルトキハ還付ノ決定ヲ爲スヘシ

第二百九十九條　豫審判事ハ豫審處分ニ付其ノ裁判所ノ豫審判事ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百條　豫審判事ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審判事ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百一條　豫審判事ハ豫審終結前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二條　豫審判事公判ニ於テ召喚シ難シト思料スル證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ檢事及辯護人ハ其ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第百五十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百三條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ豫審中何時ニテモ必要トスル處分ヲ豫審判事ニ請求スルコトヲ得

檢事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限リ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

辯護人ハ豫審判事ノ許可ヲ受ケ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

第三百四條　豫審判事ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百五條　豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人ノ所在分明ナラサルトキ
二　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ送達セス

第三百六條　豫審判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ書類及證據物ヲ檢事ニ送付シテ其ノ意見ヲ求ムヘシ

第三百七條　檢事豫審判事ノ取調十分ナラスト思料スルトキハ事項ヲ指示シテ取調ヲ請求スルコトヲ得

豫審判事檢事ノ請求ニ應シタルトキハ更ニ其ノ取調ニ關スル書類及證據物ヲ檢事ニ送付スヘシ請求ニ應セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第三百八條　檢事前二條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ意見ヲ付シテ之ヲ豫審判事ニ還付スヘシ

第三百九條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十條　豫審判事ハ其ノ所屬裁判所ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十一條　豫審判事ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十二條　公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ被告事件ヲ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ

第三百十三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑ナキトキハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百十四條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ
二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ
三　大赦アリタルトキ
四　時效完成シタルトキ
五　法令ニ於テ刑ヲ免除スルトキ

第三百十五條　左ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
五　告訴又ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ
六　公訴ノ取消アリタルトキ
七　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ
八　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ
九　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百十六條　第三百九條及第三百十三條乃至前條ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十七條　免訴ノ決定確定シタルトキハ左ノ場合ニ限リ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得

一　新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキ
二　決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜查ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ決定ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對スル公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ決定ヲ爲シタル豫審判事其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三百十八條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ豫審判事ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百十九條　免訴、公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付押收物アルトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス但シ必要アル場合ニ於テハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四章　公判

第一節　公判準備

第三百二十條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

公判期日ニハ被告人、辯護人及輔佐人ヲ召喚スヘシ

第八十四條及第九十九條ノ規定ハ辯護人及輔佐人ノ召喚ニ付之ヲ準用ス

公判期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三百二十一條　第一回ノ公判期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百二十二條　裁判長ハ公判期日ヲ變更スルコトヲ得

公判期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百二十三條　裁判所ハ第一回ノ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

檢事及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

訊問ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ之ヲ檢事及辯護人ニ通知スヘシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十四條　裁判所ハ公判期日ニ於ケル取調準備ノ爲公判期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚狀ヲ發シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢事、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第三百二十五條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ公判期日前證據物又ハ證據書類ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ得

第三百二十六條　裁判所ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ公判期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ公判期日前之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十三條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十七條　裁判所ハ公判期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百二十八條　裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第二節　公判手續

第三百二十九條　公判期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲スヘシ

公判廷ハ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ開ク

第三百三十條　被告人公判期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百三十一條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ裁判所ハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

第三百三十二條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百三十三條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百三十五條　左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人二十歲未滿又ハ七十歲以上ナルトキ
二　被告人婦女ナルトキ
三　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
四　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ
五　其ノ他必要ト認ムルトキ

第三百三十六條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百三十七條　證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百三十八條　被告人訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事又ハ辯護人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

被告人ハ必要トスル事項ニ付共同被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百三十九條　裁判長ハ證人其ノ他ノ者被告人又ハ或傍聽人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中之ヲ退廷セシムルコトヲ得被告人他ノ被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ被告人ヲ退廷セシメタル場合ニ於テ共同被告人、證人其ノ他ノ者ノ供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風說又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限リ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十一條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

證據物中書面ノ意義證據ト爲ルモノニ付テハ被告人文字ヲ解セサルトキハ其ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百四十二條　公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十三條　被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　供述者死亡シタルトキ
二　疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ
三　訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第三百四十四條　證據調ノ請求ノ却下ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十五條　裁判長被告人ニ對シ第百三十三條ノ訊問ヲ爲シタル後檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百四十六條　區裁判所ニ於テ被告人自白シタルトキハ訴訟關係人異議ナキトキニ限リ他ノ證據ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百四十七條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル每ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百四十八條　檢事、被告人又ハ辯護人ハ裁判長ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ前項ノ申立ニ付決定ヲ爲スヘシ

第三百四十九條　證據調終リタル後檢事ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第三百五十條　裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百五十一條　裁判所ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ部員ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ハ前項ノ取調ニ立會フコトヲ得

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百五十二條　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タス直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルト

キハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百五十三條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

第三百五十四條　開廷後判事ノ更迭アリタルトキハ公判手續ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　公判ノ裁判

第三百五十五條　被告事件裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十六條　地方裁判所ハ其ノ管內ニ在ル區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル區裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第三百五十七條　裁判所ハ被告人ノ申立ニ因ルニ非サレハ土地管轄ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ被告事件ニ付供述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

管轄違ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十八條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ第三百五十九條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百五十九條　被告事件ニ付刑ヲ免除スルトキハ判決ヲ以テ其ノ旨ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十條　有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ

法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

第三百六十一條　區裁判所ニ在リテハ上訴ノ申立ナキ場合又ハ判決宣告ノ日ヨリ七日內ニ判決書ノ謄本ノ請求ナキ場合ニ於テ判決主文竝罪ト爲ルヘキ事實ノ要旨及適用シタル罰條ヲ公判調書ニ記載セシメ之ヲ以テ判決書ニ代フルコトヲ得

第三百六十二條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三百六十三條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ
二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ
三　大赦アリタルトキ
四　時效完成シタルトキ

第三百六十四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ
二　第三百十七條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ
三　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタル事件ニ付更ニ公訴ヲ提起シタルトキ
四　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一裁判所ニ公訴ヲ提起シタルトキ
五　告訴又ハ請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ
六　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違反シタル爲無效ナルトキ

第三百六十五條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ
二　被告人死亡シ又ハ被告人タル法人存續セサルニ至リタルトキ
三　第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

前項ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百六十六條　被告人陳述ヲ肯セス、許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出頭セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三百六十八條　辯論終結ノ後ハ被告人出頭セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第三百六十九條　有罪ノ判決ヲ告知スル場合ニハ被告人ニ對シ上訴期間及上訴申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ告知スヘシ

第三百七十條　裁判長ハ判決ノ告知ヲ爲シタル後被告人ニ對シ將來ヲ戒ムル爲適當ナル訓諭ヲ爲スコトヲ得

第三百七十一條　無罪、免訴、刑ノ免除、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違、罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十二條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日內ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄裁判所ノ檢事ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢事ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢事五日內ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第三百七十三條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ノ請求アリタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

前三項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百七十四條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル區裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十五條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三編　上訴

第一章　通則

第三百七十六條　上訴ハ檢事又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十七條　檢事又ハ被告人ニ非サル者ニシテ決定ヲ受ケタルモノハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七十八條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

第三百七十九條　原審ニ於ケル代理人又ハ辯護人ハ被告人ノ爲上訴ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第三百八十條　上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ

裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第三百八十一條　上訴ノ提起期間ハ裁判告知ノ日ヨリ進行ス

第三百八十二條　檢事、被告人又ハ第三百七十七條ニ規定スル者ハ上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第三百七十八條ニ規定スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ拋棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十三條　第三百七十八條ニ規定スル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第三百八十四條　上訴拋棄ノ申立ハ原裁判所ニ之ヲ爲スヘシ

上訴取下ノ申立ハ上訴裁判所ニ之ヲ爲スヘシ訴訟記錄ヲ上訴裁判所又ハ上訴裁判所檢事ニ送付スル前上訴ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原裁判所ニ差出スコトヲ得

第三百八十五條　上訴ノ拋棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ調書ニ記載スヘシ

第三百八十六條　上訴ノ拋棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ其ノ事件ニ付更ニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三百八十七條　第三百七十六條乃至第三百七十九條ノ規定ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得ル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原裁判所ニ上訴權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百八十八條　上訴權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル日ヨリ上訴ノ提起期間ニ相當スル期間內ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上訴權回復ノ原由タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上訴權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原裁判所ニ上訴ノ申立書ヲ差出スヘシ

第三百八十九條　原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ上訴權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十條　上訴權回復ノ請求アリタルトキハ原裁判所ハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第三百九十一條　監獄ニ在ル被告人上訴ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上訴ノ提起期間內ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上訴ノ提起期間內ニ上訴ヲ爲シタルモノト看做ス

被告人自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬吏員ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原裁判所ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第三百九十二條　前條ノ規定ハ監獄ニ在ル被告人上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第三百九十三條　上訴、上訴ノ拋棄若ハ取下又ハ上訴權回復ノ請求アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第二章　控訴

第三百九十四條　控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條　控訴ノ提起期間ハ七日トス

第三百九十六條　控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシ

第三百九十七條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ第一審裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百九十八條　前條ノ場合ヲ除クノ外第一審裁判所ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

控訴裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄及證據物ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

被告人監獄ニ在ルトキハ第一審裁判所ノ檢事ハ被告人ヲ控訴裁判所所在地ノ監獄ニ移スヘシ

第三百九十九條　控訴裁判所ノ檢事ハ辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

第四百條　控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシ

第四百一條　控訴裁判所ハ前條及第四百二條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百二條　第一審裁判所不法ニ管轄ヲ認メタル場合ニ於テ控訴裁判所其ノ事件ニ付第一審ノ管轄權ヲ有スルトキハ第一審ノ判決ヲ爲スヘシ

第一審裁判所不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戾スコトヲ得

第四百三條　被告人控訴ヲ爲シタル事件及被告人ノ爲ニ控訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百四條　被告人出頭セサルトキハ更ニ期日ヲ定ムヘシ被告人正當ノ事由ナクシテ其ノ期日ニ出頭セサルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百五條　控訴裁判所ノ判決ニハ第一審ノ判決ニ示シタル事實及證據ヲ引用スルコトヲ得

第四百六條　第三百六十五條ノ規定ニ該當スル事件ニ付第一審裁判所公訴ヲ棄却セサリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

第三章　上告

第四百八條　上告ハ第二審ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九條　上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ
二　職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ判事審判ニ關與シタルトキ
三　判事偏頗ノ虞アリトシテ忌避セラレ其ノ忌避ノ申立理由アリト認メラレタルニ拘ラス審判ニ關與シタルトキ
四　審理ニ關與セサリシ判事判決ニ關與シタルトキ
五　不法ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ
六　不法ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ
七　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違反シタルトキ
八　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人出頭スルコトナクシテ審判ヲ爲シタルトキ
九　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ
十　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付辯護人出頭スルコトナクシテ審理ヲ爲シタルトキ
十一　不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタルトキ
十二　檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ
十三　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ
十四　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ
十五　公判ニ於テ爲シタル異議ノ申立ニ付決定ヲ爲ササリシトキ
十六　法律ニ依リ公判手續ヲ停止シ又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ更新セサリシトキ
十七　被告人又ハ辯護人ニ最終ニ陳述スル機會ヲ與ヘサリシトキ
十八　審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十九　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

二十　判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ

二十一　判決書ニ判事ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百十二條　刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十三條　再審ノ請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ該ル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十四條　重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十五條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百十六條　左ノ場合ニ於テハ區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　判決ニ依リ定リタル被告事件ノ事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

二　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トスルトキ

第四百十七條　第一審ノ判決ニ對スル上告ハ控訴ノ申立アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ取下又ハ控訴棄却ノ裁判アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百十八條　上告ノ提起期間ハ五日トス

第四百十九條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條　前條ノ場合ヲ除クノ外原裁判所ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ノ檢事ニ送付シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送付スヘシ

上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記錄ヲ其ノ裁判所ニ送付スヘシ

第四百二十二條　上告裁判所ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ五十日前ニ其ノ期日ヲ上告申立人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ前項ノ通知ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十三條　上告申立人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ニ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出スヘシ

第四百二十四條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前迄附帶上告ヲ爲スコトヲ得

附帶上告ハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヘシ

第四百二十五條　上告趣意書ニハ上告ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ノ法令ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

第四百十三條ノ場合ニ於テハ事實ヲ表示シ其ノ證據ヲ差出スヘシ

第四百二十六條　上告裁判所上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百二十七條　上告申立人期間內ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百二十八條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日內ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得

檢事對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告申立人ニ送達スヘシ上告申立人辯護人ヲ選任シタルトキハ其ノ送達ハ辯護人ニ之ヲ爲スヘシ

第四百二十九條　裁判長ハ部員ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ檢閱シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百三十條　上告審ニ於テハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得ス

第四百三十一條　上告審ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百四十四條第一項ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百三十二條　公判期日ニハ受命判事ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢事及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百三十三條　辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢事ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十四條　上告裁判所ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第二審判決ニ對スル上告事件ニ於テハ第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告裁判所ハ裁判所ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續竝第四百十三條ニ規定スル事由ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百三十六條　第一審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ第四百三十四條第一項及第二項ノ調査ヲ爲シタルトキハ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十七條　第二審判決ニ對スル上告事件ニ付テハ先ツ上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反及第四百十五條ニ規定スル事由ニ付調査ヲ爲スヘシ

第四百三十八條　不法ニ管轄若ハ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ受理シ若ハ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキ場合ニ於テハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百三十九條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササル法令ノ違反又ハ判決アリタル後刑ノ廢止若ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀シ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第四百十三條又ハ第四百十四條ニ規定スル事由ニ因ル檢事ノ上告ナキトキハ他ノ事項ヲ調査セスシテ直ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十條　事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法令ノ違反ヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十一條　前三條ノ場合ヲ除クノ外上告裁判所ハ第四百三十七條ノ調査ヲ終ヘタル後第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ニ付調査スヘシ

第四百四十二條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由ナキコト明白ナリト認ムルトキハ其ノ點ニ付辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百四十三條　上告裁判所第四百十二條乃至第四百十四條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ事實

ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第四百四十四條　上告裁判所事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ヲ言渡シタルトキハ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲スヘシ

公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスル事項ノ取調ハ部員ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ之ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事又ハ受託判事必要ト認ムルトキハ檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百四十五條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百四十六條　上告理由ナキトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十七條　上告理由アルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百四十八條　前條ノ規定ニ依リ原判決ヲ破毀スルトキハ第四百四十九條及第四百五十條ノ場合ヲ除クノ外被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第四百四十九條　不法ニ管轄違ヲ言渡シ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ原裁判所ニ差戻スヘシ但シ必要アルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得

第四百五十條　不法ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄控訴裁判所又ハ管轄第一審裁判所ニ移送スヘシ

第四百五十一條　被告人ノ利益ノ爲ニ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ破毀ノ理由上告ヲ爲シタル共同被告人ニ共通ナルトキハ其ノ共同被告人ノ爲ニモ原判決ヲ破毀スヘシ

第四百五十二條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ爲ニ上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百五十三條　判決書ニハ上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ヲ記載スヘシ

第四百五十四條　原裁判所不法ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百五十五條　第二編中公判ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告ノ審判ニ付之ヲ準用シ第四百四十四條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付更ニ審理ヲ爲ス場合ニ於テハ尙本編第二章ノ規定ヲ準用ス

第四章　抗告

第四百五十六條　抗告ハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ノ外裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十七條　裁判所ノ管轄又ハ訴訟手續ニ關シ判決前ニ爲シタル決定ニ對シテハ特ニ卽時抗告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタル場合ヲ除クノ外抗告ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル決定及鑑定ノ爲ニスル被告人ノ留置ニ關スル決定ニ付之ヲ適用セス

第四百五十八條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得但シ原決定ヲ取消スモ實益ナキニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百五十九條　卽時抗告ノ提起期間ハ三日トス

第四百六十條　抗告ヲ爲スニハ申立書ヲ原裁判所ニ差出スヘシ

原裁判所抗告ヲ理由アリトスルトキハ決定ヲ更正スヘシ抗告ノ全部又ハ一部ヲ理由ナシトスルトキハ申立書ヲ受取リタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ附シテ之ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

第四百六十一條　抗告ハ卽時抗告ヲ除クノ外裁判ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ原裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ抗告ノ裁判アルマテ執行ヲ停止スルコトヲ得

抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ裁判ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六十二條　卽時抗告ノ提起期間內及其ノ申立アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百六十三條　原裁判所必要ト認ムルトキハ訴訟記錄及證據物ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ

抗告裁判所ハ訴訟記錄及證據物ノ送付ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十四條　抗告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百六十五條　抗告裁判所ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ事實ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

受命判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第四百六十六條　抗告ノ手續其ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ抗告理由ナキトキハ抗告ヲ棄却スヘシ

抗告理由アルトキハ原決定ヲ取消シ必要アル場合ニ於テハ更ニ裁判ヲ爲スヘシ

第四百六十七條　抗告裁判所ノ決定ハ之ヲ原裁判所ニ通知スヘシ

第四百六十八條　第四百六十條、第四百六十三條及前條ノ規定ハ豫審終結決定ニ對スル抗告ニ付之ヲ準用ス

第四百六十九條　抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル抗告ニ付テノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

一　公判ニ於ケル公訴棄却ノ決定ニ對スル抗告

二　控訴ノ申立ヲ棄却スル決定又ハ上訴權回復ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

三　再審ノ請求ニ付テノ決定ニ對スル抗告

四　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムル決定ニ對スル抗告

五　裁判ノ疑義又ハ刑ノ執行ノ異議ニ付テノ決定ニ對スル抗告

六　證人、鑑定人、通事、翻譯人其ノ他ノ者ノ受ケタル決定ニ對スル抗告

第四百七十條　裁判長、受命判事又ハ豫審判事左ニ揭クル裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ不服アル者ハ判事所屬ノ裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

一　忌避ノ申立ヲ却下スル裁判

二　勾留、保釋、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル裁判

三　鑑定ノ爲被告人ノ留置ヲ命スル裁判

四　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對シテ過料又ハ費用ノ賠償ヲ命スル裁判

區裁判所判事前項第一號ノ裁判ヲ爲シ又ハ受託判事トシテ前項第二號乃至第四號ノ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ其ノ裁判ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第一項第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ハ其ノ裁判アリタル日ヨリ三日內ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求期間內及其ノ請求アリタルトキハ裁判ノ執行ヲ停止ス

第四百七十一條　檢事ノ爲シタル勾留、押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ檢事所屬ノ裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

司法警察官ノ爲シタル押收又ハ押收物ノ還付ニ關スル處分ニ不服アル者ハ司法警察官ノ職務執行地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ請求スルコトヲ得

第四百七十二條　前二條ニ規定スル請求ヲ爲スニハ請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百七十三條　第四百六十一條、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百六十六條及第四百六十七條ノ規定ハ第四百七十條又ハ第四百七十一條ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百七十四條　第四百七十條及第四百七十一條ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス但シ第四百七十條第四號ノ裁判ノ取消又ハ變更ノ請求ニ付爲シタル決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四編　大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續

第四百七十五條　裁判所構成法第五十條第二號ニ揭クル大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付テハ檢事總長搜査ヲ爲スヘシ

第四百七十六條　控訴院、地方裁判所又ハ區

裁判所ノ檢事ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第四百七十七條 第二百四十七條、第二百四十八條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察官ハ檢事總長ノ指揮ヲ受ケ大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ニ付搜查ヲ爲スヘシ

第二百四十九條又ハ第二百五十條ニ規定スル司法警察吏ハ檢事又ハ司法警察官ノ命令ヲ受ケ搜查ノ補助ヲ爲スヘシ

第四百七十八條 檢事又ハ司法警察官大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ直ニ檢事總長ニ報告スヘシ急速ヲ要スル場合ニ於テハ報告前搜查ニ付必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四百七十九條 檢事總長搜查ヲ爲シタル後大審院ノ特別權限ニ屬スル罪アリト思料スルトキハ豫審ヲ請求スヘシ

第四百八十條 檢事總長ハ大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ト牽連スル他ノ事件ニ付併セテ豫審ヲ請求スルコトヲ得

第四百八十一條 大審院ハ檢事總長ノ請求ニ因リ前條ノ規定ニ依リ豫審ヲ請求シタル事件ヲ管轄地方裁判所ノ豫審判事ニ移送スルコトヲ得

第四百八十二條 大審院長ヨリ豫審ヲ命セラレタル判事被告事件ニ付取調ヲ終ヘタルトキハ意見書ヲ添ヘ書類及證據物ヲ大審院ニ送付スヘシ

第四百八十三條 大審院ハ檢事總長ノ意見ヲ聽キ左ノ區別ニ從ヒ決定ヲ爲スヘシ

一 被告事件公判ニ付スヘキモノト認ムルトキハ公判ヲ開始スル決定

二 被告事件下級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキハ管轄權ヲ有スル裁判所ニ之ヲ移送スル決定

三 被告事件前二號ノ規定ニ該當セサル場合ニ於テハ第三百十三條乃至第三百十五條ノ規定ニ準シ免訴シ又ハ公訴ヲ棄却スル決定

第四百八十四條 第二編ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ付之ヲ準用ス

第五編 再審

第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

一 原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ僞造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二 原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虛僞ナリシコト證明セラレタルトキ

三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ證據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無效ノ審決確定シタルトキ又ハ無效ノ判決アリタルトキ

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事、公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル搜查ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百八十六條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付無罪若ハ免訴ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、刑ノ言渡ヲ爲スヘキ事件ニ付刑ノ免除ノ言渡ヲ爲シタル確定判決、相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ爲シタル確定判決又ハ不法ニ公訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 前條第一號、第二號、第四號又ハ第七號ニ規定スル原由アルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付有罪ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ事實ヲ陳述シタルトキ

三 死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ヲ犯シタル者刑ノ免除若ハ免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル後裁判上又ハ裁判外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百八十七條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ控訴ヲ棄却シタル確定判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十八條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一 第四百三十五條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百八十五條第一號又ハ第二號ニ規定スル原由アルトキ

二 原判決又ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事ニ付第四百八十五條第七號ニ規定スル原由アルトキ

第一審又ハ第二審ノ確定判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十九條 第四百八十五條乃至前條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ證據ナキノ理由ニ因リ確定判決ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四百九十條 再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十一條 判決ノ一部第二審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ控訴裁判所之ヲ管轄ス

判決ノ一部上告審ニ於テ確定シ其ノ部分ニ對スル再審ノ請求ニ付再審開始ノ決定アリタルトキハ第一審又ハ第二審ニ於テ確定シタル部分ニ對スル再審ノ請求ハ上告裁判所之ヲ管轄ス

第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲クル者之ヲ爲スコトヲ得

一 管轄裁判所ノ檢事

二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者

三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫

四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹

第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定スル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十三條 檢事ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百九十四條 再審ノ請求ハ刑ノ執行終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十五條 第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效期間ニ相當スル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第四百九十六條 再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄裁判所ノ檢事ハ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百九十七條 再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本、證據書類及證據物ヲ添ヘ之ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

第四百九十八條 再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

再審ノ請求ヲ取下ケタル者ハ同一ノ原由ニ因リ更ニ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十九條 第三百九十三條、第三百九十一條及第三百八十五條ノ規定ハ再審ノ請求又ハ其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百條 第四百九十一條第一項ノ場合ニ於テ第一審裁判所控訴裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ控訴裁判所ニ送致スヘシ

第四百九十一條第二項ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所上告裁判所ノ再審開始ノ決定前再審ノ請求ヲ受ケタルトキハ決定ヲ以テ事件ヲ上告裁判所ニ送致スヘシ

第五百一條 第一審ノ確定判決ト控訴ヲ棄却シタル確定判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百二條 第一審又ハ第二審ノ確定判決ト上告ヲ棄却シタル判決トニ對シテ再審ノ請求アリタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ノ訴訟手續終了スルニ至ル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ

第五百三條 再審ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ必要アル場合ニ於テハ部員ヲシテ再審ノ原由ニ付事實ノ取調ヲ爲サシメ又ハ豫審判事若ハ區裁判所判事ニ其ノ取調ヲ囑託スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受命判事及受託判事ハ豫審判事ト同一ノ權ヲ有ス

檢事及辯護人ヲシテ前項ノ取調ニ立會ハシムルコトヲ得

受命判事又ハ受託判事ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百五條 再審ノ請求ヲ理由ナシトスルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ同一ノ原由ニ因リ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六條 再審ノ請求ヲ理由アリトスルトキハ再審開始ノ決定ヲ爲スヘシ

再審開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定ヲ以テ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第五百七條 第五百一條ノ場合ニ於テ第一審裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百八條 第五百二條ノ場合ニ於テ第一審裁判所又ハ控訴裁判所再審ノ判決ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ決定ヲ以テ再審ノ請求ヲ棄却スヘシ

第五百九條 再審ノ請求ニ付決定ヲ爲ス場合ニ於テハ請求ヲ爲シタル者及其ノ對手人ノ意見ヲ聽クヘシ第四百九十二條第一項第三號ニ掲クル者請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ尙有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ意見ヲ聽クヘシ

第五百十條 第五百四條、第五百五條、第五百六條第一項、第五百七條又ハ第五百八條ノ決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 裁判所ハ再審開始ノ決定確定シタル事件ニ付テハ第五百條、第五百七條及第五百八條ノ場合ヲ除クノ外其ノ審級ニ從ヒ更ニ審判ヲ爲スヘシ

第五百十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢事及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條ノ規定ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ辯護人ヲ附スル場合ニ之ヲ準用ス

第五百十三條 第四百八十六條ノ規定ニ依リ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前有罪ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第四百九十二條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

第五百十四條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テハ原判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第五百十五條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ爲シタル再審ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルトキハ官報及新聞紙ニ掲載シテ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第六編 非常上告

第五百十六條 判決確定後其ノ事件ノ審判法令ニ違反シタルコトヲ發見シタルトキハ檢事總長ハ大審院ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條 非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ大審院ニ差出スヘシ

第五百十八條 公判期日ニハ檢事ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第五百十九條 非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第五百二十條 非常上告ヲ理由アリトスルトキハ左ノ區別ニ從ヒ判決ヲ爲スヘシ

一 原判決法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル部分ヲ破毀ス但シ原判決被告人ノ爲不利益ナルトキハ之ヲ破毀シ被告事件ニ付判決ヲ爲ス

二 訴訟手續法令ニ違反シタルトキハ其ノ違反シタル手續ヲ破毀ス

第五百二十一條 非常上告ノ判決ハ前條第一號但書ノ規定ニ依リ爲シタルモノヲ除クノ外其ノ效力ヲ被告人ニ及ホサス

第五百二十二條 第四百三十四條第一項及第四百三十五條ノ規定ハ非常上告ニ付之ヲ準用ス

第七編 略式手續

第五百二十三條 區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ其ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公判前略式命令ヲ以テ罰金又ハ科料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ沒收ヲ科シ其ノ他附隨ノ處分ヲ爲スコトヲ得

略式命令ハ被告人ニ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲ス

裁判所書記本人ニ謄本ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百二十四條 略式命令ノ請求ハ公訴ノ提起ト同時ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五百二十五條 前條ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件略式命令ヲ爲スコトヲ得ス又ハ之ヲ爲スコトヲ相當ナラスト思料スルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

第五百二十六條 裁判書ニハ罪ト爲ルヘキ事實、適用シタル法令、科スヘキ刑及附隨ノ處分竝謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日内ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ示スヘシ

第五百二十七條　略式命令ヲ爲シタルトキハ檢事ニ裁判書ノ謄本ヲ送達スヘシ

第五百二十八條　略式命令ヲ受ケタル者ハ謄本ノ送達アリタル日ヨリ七日內ニ正式裁判ノ請求ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ハ略式命令ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ正式裁判ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通知スヘシ

第五百二十九條　第三百八十七條乃至第三百九十條ノ規定ハ正式裁判ノ請求ニ付之ヲ準用ス

第五百三十條　正式裁判ノ請求ハ第一審ノ判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

第五百三十一條　正式裁判ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

正式裁判ノ請求ヲ適法トスルトキハ通常ノ規定ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ略式命令ニ拘束セラルルコトナシ

第五百三十二條　正式裁判ノ請求ニ因リ判決ヲ爲シタルトキハ略式命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第五百三十三條　略式命令ハ正式裁判ノ請求期間ノ經過又ハ其ノ請求ノ取下ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス正式裁判ノ請求ヲ棄却スル裁判確定シタルトキ亦同シ

第八編　裁判ノ執行

第五百三十四條　裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五百三十五條　裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上裁判所又ハ裁判長、受命判事、豫審判事又ハ區裁判所判事ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上訴ノ裁判又ハ上訴ノ取下ニ因リ下級裁判所ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ檢事其ノ執行ヲ指揮ス但シ訴訟記錄下級裁判所ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事之ヲ指揮ス

第五百三十六條　裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ之ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百三十七條　二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百三十八條　死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ニ依ル

第五百三十九條　死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢事ハ速ニ訴訟記錄ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第五百四十條　司法大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百四十一條　死刑ノ執行ハ檢事及裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スヘシ

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ニ非サレハ刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百四十二條　死刑ノ執行ニ立會ヒタル裁判所書記ハ執行始末書ヲ作リ檢事及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百四十三條　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊癒又ハ分娩ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百四十四條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百四十五條　前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ市町村長ニ引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百四十六條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付左ニ揭クル事由アルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　刑ノ執行ニ因リ著シク健康ヲ害スルトキ又ハ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
二　七十歲以上ナルトキ
三　受胎後百五十日以上ナルトキ
四　分娩後六十日ヲ經過セサルトキ
五　刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ
六　祖父母又ハ父母七十歲以上又ハ癈疾ニシテ侍養ノ子孫ナキトキ
七　其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百四十七條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢事ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百四十八條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキハ檢事ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百四十九條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事ハ檢事長ニ人相書ヲ送付シ其ノ逮捕ヲ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル檢事長ハ其ノ管內ノ檢事ヲシテ逮捕狀ヲ發シ逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百五十條　逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢事又ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

必要アル場合ニ於テハ逮捕狀ニ人相書ヲ添附スヘシ

第五百五十一條　逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百五十二條　逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百五十三條　罰金、科料、沒收、追徵、過料、沒取、訴訟費用又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢事ノ命令ニ因リ之ヲ執行ス此ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ裁判ノ執行ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百五十四條　沒收又ハ租稅其ノ他ノ公課若ハ專賣ニ關スル法令ノ規定ニ依リ言渡シタル罰金若ハ追徵ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者判決確定後死亡シタル場合ニ於テハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ死亡ニ非サル事由ニ因リ相續開始シタルトキハ罰金、沒收又ハ追徵ハ相續財產ニ就キ之ヲ執行スルコトヲ得

第五百五十五條　法人ニ對シ罰金、科料、沒收又ハ追徵ヲ言渡シタル場合ニ於テ其ノ判決確定後合併ニ因リ法人消滅シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ニ對シテ執行ヲ爲スコトヲ得

第五百五十六條　上訴申立後ノ未決勾留ノ日數ハ左ノ例ニ依リ之ヲ本刑ニ通算ス

一　檢事ノ上訴ナルトキハ勾留日數ノ全部
二　檢事ニ非サル者ノ上訴ニシテ其ノ理由アルトキハ勾留日數ノ全部

前項ノ規定ニ依ル通算ニ付テハ未決勾留一日ヲ刑期ノ一日又ハ金額ノ一圓ニ折算ス

上告裁判所原判決ヲ破毀シタル後ノ未決勾留ハ上告中ノ未決勾留日數ニ準シ之ヲ通算ス

第五百五十七條　沒收物ハ檢事之ヲ處分スヘシ

第五百五十八條　沒收ノ執行後三月內ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢事ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢事ハ公賣ニ因リ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百五十九條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ニ規定スル手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百六十條　押收物ノ還付ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢事ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月內ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間內ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百六十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條　裁判ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢事ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百六十三條　疑義又ハ異議ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

疑義又ハ異議ノ申立ハ決定アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義又ハ異議ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三百九十一條ノ規定ハ疑義又ハ異議ノ申立及其ノ取下ニ付之ヲ準用ス

第五百六十四條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百六十五條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百六十六條　第五百五十三條第一項ノ裁判ノ執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第九編　私訴

第一章　通則

第五百六十七條　犯罪ニ因リ身體、自由、名譽又ハ財產ヲ害セラレタル者ハ其ノ損害ヲ原因トスル請求ニ付公訴ニ附帶シ公訴ノ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百六十八條　私訴ハ公訴ニ付第一審ノ辯論終結スルニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得但シ豫審中ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第五百六十九條　公訴ニ付第三條、第四條、第六條、第七條、第九條第二項、第十條第二項、第二十三條又ハ第三百五十六條但書ノ決定アリタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ決定アリタルモノト看做ス

公訴ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルトキハ私訴ニ付亦同一ノ言渡ヲ爲スヘシ

第五百七十條　私訴ノ判決ハ公訴ノ判決ニ於テ認メタル事實ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決ハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十一條　私訴ニ關スル書類ニハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス但シ民事部ニ差戾シ又ハ移送シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五百七十二條　民事訴訟法中左ニ揭クル事項ニ關スル規定ハ私訴ニ付之ヲ準用ス但シ即時抗告ノ提起期間ハ決定ノ告知アリタル日ヨリ三日トス

一　訴訟能力
二　共同訴訟人
三　第三者ノ訴訟參加
四　訴訟代理及輔佐
五　訴訟費用
六　保證
七　訴訟上ノ救助
八　訴訟手續ノ中斷及中止
九　當事者本人ノ出頭
十　訴訟上ノ和解
十一　請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決
十二　訴又ハ上訴ノ取下
十三　強制執行

第五百七十三條　當事者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ辯護士ニ非サル者ヲシテ訴訟ノ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百七十四條　辯護人ハ私訴ニ付被告人ノ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百七十五條　當事者及其ノ訴訟代理人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ訴訟ニ關スル書類及證據物ヲ閱覽シ且之ヲ謄寫スルコトヲ得

第五百七十六條　私訴ノ判決ニ對スル再審ノ訴ハ民事訴訟法ニ依リ原判決ヲ爲シタル裁判所ノ民事部ニ之ヲ爲スヘシ

第五百七十七條　私訴ニ付テハ審級ニ從ヒ公訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民事部ニ差戾シ又ハ移送シタルトキハ民事訴訟法ニ依ル

第二章　第一審

第五百七十八條　私訴ヲ提起スルニハ民事訴訟法ニ準シ訴狀ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第五百七十九條　訴狀其ノ他對手人ニ交付スヘキ書類ハ裁判所ニ差出スモノノ外對手人ノ數ニ應シテ之ヲ差出スヘシ

第五百八十條　裁判所訴狀ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ被告ニ送達スヘシ

公判期日ニ出頭シタル被告ニ對シ公判廷ニ於テ訴狀ヲ交付シタルトキハ送達アリタルモノト看做ス

第五百八十一條　公訴ノ公判期日ニハ私訴關係人ヲ召喚スヘシ

第五百八十二條　原告公判期日ニ出頭シ訴狀ヲ差出スコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ口頭ヲ以テ私訴ヲ提起スルコトヲ得但シ被告出頭セサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第五百八十三條　私訴ノ取調ハ公訴ノ審理ヲ終ヘタル後之ヲ爲スヘシ但シ裁判長ハ公訴ノ審理中ト雖職權ヲ以テ私訴ニ付取調ヲ爲スコトヲ得

第五百八十四條　原告ハ請求ノ原因タル事實ヲ陳述シ判決ヲ受クヘキ事項ヲ申立ツヘシ

被告ハ答辯ヲ爲スヘシ

第五百八十五條　裁判所ハ相當ノ陳述ヲ爲スコト能ハサル當事者、訴訟代理人又ハ輔佐人ニ對シ決定ヲ以テ其ノ後ノ陳述ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムヘキコトヲ命スヘシ

第五百八十六條　公訴ニ付取調ヘタル證據ハ私訴ニ付取調ヘタルモノト看做ス

第五百八十七條　裁判所ハ私訴判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ノ範圍內ニ於テハ請求ノ原因タル事實ニ關スル原告ノ陳述ニ拘束セラルルコトナシ

第五百八十八條　檢事ハ私訴ノ審判ニ立會フコトヲ要セス

第五百八十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス數多ノ日時ヲ費スニ非サレハ私訴ノ審判ヲ終結シ難キモノト認ムルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十條　公訴ニ付無罪、免訴又ハ公訴棄却ノ判決アリタルトキハ判決ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

公訴ニ付公訴棄却ノ決定アリタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ私訴ヲ却下シタル判決又ハ決定ニ對シテハ公訴ニ付上訴アリタルトキニ非サレハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十一條　略式命令確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルニ至リタルトキハ決定ヲ以テ私訴ヲ却下スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第五百九十二條　裁判所ハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲スヘシ

第五百九十三條　當事者召喚ヲ受ケテ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲サス若ハ

秩序維持ノ爲退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第三章　上訴

第五百九十四條　私訴ニ付區裁判所又ハ地方裁判所ニ於テ爲シタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得

第五百九十五條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル控訴ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ上告ノ取下アリタルトキ、第四百十七條ノ規定ニ依リ上告其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ第四百二十條、第四百二十七條若ハ第四百四十五條ノ規定ニ依リ上告ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第五百九十六條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ上告ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付控訴ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

控訴ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ上告ヲ爲スコトヲ得此ノ上告ハ控訴ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第五百九十七條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第二審ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ
二　法令ノ違反ヲ理由トスルトキ

第五百九十八條　左ノ場合ニ於テハ私訴ニ付爲シタル第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲サスシテ上告ヲ爲スコトヲ得

一　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタルトキ
二　判決ニ依リ定リタル事實ニ付法令ヲ適用セス又ハ不當ニ法令ヲ適用シタルコトヲ理由トスルトキ

第五百九十九條　公訴ノ第一審判決ニ對シ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ私訴ノ判決ニ對シテ爲シタル上告ハ其ノ效力ヲ失フ

前二項ノ規定ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ控訴ヲ棄却スル裁判アリタルトキハ之ヲ適用セス

第六百條　公訴ノ第一審判決ニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ私訴ニ付上告ヲ爲シタル當事者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

上告ヲ爲シタル當事者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此ノ控訴ハ上告ニ付前條第三項ノ規定ノ適用アル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第六百一條　公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

第六百二條　上告裁判所ニ於ケル辯論ハ辯護士ヨリ選任シタル訴訟代理人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六百三條　當事者訴訟代理人ヲ選任セサルトキ又ハ訴訟代理人出頭セサルトキハ辯論ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第六百四條　第四百四十條又ハ第四百四十二條ノ規定ニ依リ公訴ニ付事實ノ審理ヲ爲スヘキ旨ノ言渡アリタルトキハ私訴ニ付同一ノ言渡アリタルモノト看做ス

第六百五條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第六百六條　第四百四十六條ノ規定ニ依リ公訴ニ付上告棄却ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ第六百七條ノ場合ヲ除クノ外判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百七條　前條ノ場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百八條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ左ノ區別ニ從ヒ私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

一　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲シタルトキ又ハ私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反アルトキハ原判決ヲ破毀ス
二　公訴ノ判決私訴ニ影響ヲ及ホスヘキ變更ヲ爲サス且私訴ニ付上告ノ理由ト爲ルヘキ法令ノ違反ナキトキハ上告ヲ棄却ス

第六百九條　前條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第六百十條ノ場合ヲ除クノ外事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘシ

第六百十條　第六百八條ノ規定ニ依リ私訴ニ付原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件ニ付更ニ判決ヲ爲ス爲私訴ノミニ付事實ノ審理ヲ必要トスルトキハ事件ヲ原裁判所ノ民事部ニ差戻シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百十一條　公訴ニ付原判決ヲ破毀シ差戻又ハ移送ノ判決ヲ爲ス場合ニ於テハ私訴ニ付同一ノ判決ヲ爲スヘシ

第六百十二條　上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十三條　本編第二章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上訴ノ審判ニ付之ヲ準用ス

附　則

第六百十四條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六百十五條　明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法及刑事略式手續法ハ之ヲ廢止ス

第六百十六條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六百十七條　本法施行前裁判所構成法第十條第一號ノ規定ニ依リ爲シタル管轄指定ノ申請ハ之ヲ管轄移轉ノ請求ト看做ス

第六百十八條　本法施行前忌避ノ申請ヲ爲シ其ノ原由ノ疏明ヲ爲ササリシ者ハ本法施行ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ爲スヘシ

第六百十九條　本法施行前法人ヲ處罰スヘキモノトシテ其ノ代表者ヲ被告人ト爲シタル事件ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ法人ヲ被告人トス

第六百二十條　本法施行前始リタル法定期間ニ付訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居又ハ事務所ノ所在地ト裁判所所在地トノ距離ニ從ヒ加フヘキ期間ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第六百二十一條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ從前ノ規定ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第六百二十二條　本法施行前保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテ爲シタル異議ノ申立ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十三條　第二百六十五條ニ規定スル期間ハ本法施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六百二十四條　本法施行前免訴ノ決定確定シタル事件ニ付明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第百七十五條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル請求ニシテ未タ決定ナキモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十五條　本法施行前爲シタル本案前ノ判決ニシテ未タ確定セサルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第六百二十六條　本法施行前明治二十三年法律第九十六號刑事訴訟法第二百四十一條第二項又ハ同法第二百六十四條第一項ノ規定ニ依リ取調ヲ命セラレタル受命判事ハ事件ニ付第三百五十一條ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第六百二十七條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ控訴ノ申立アリタル場合ヲ除クノ外從前ノ規定ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得

本法施行前闕席判決ニ對シテ爲シタル故障申立ヲ不適法トスルトキハ從前ノ規定ニ依

リ裁判ヲ爲スヘシ

第六百二十八條　本法施行前爲シタル抗告ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル即時抗告ト看做ス

第六百二十九條　本法施行前爲シタル再審ノ訴ニシテ上告裁判所ノ判決ヲ經サルモノハ本法ニ依リ管轄裁判所ニ再審ノ請求ヲ爲シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ書類及證據物ヲ管轄裁判所ニ送付スヘシ

第六百三十條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第六百三十一條　本法施行前提起シタル要償ノ訴判決ヲ經サルモノナルトキハ民事訴訟法ニ從ヒ事件ヲ管轄スヘキ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ

第六百三十二條　本法中市町村吏員ニ關スル規定ハ北海道ノ區ニ於テハ區吏員ニ之ヲ適用ス

本法中市町村長ニ關スル規定ハ市制第六條ノ市又ハ北海道ノ區ニ於テハ區長ニ、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

（大正十一年法律第七十五號刑事訴訟法ハ大正十三年一月一日ヨリ施行（大正十二年勅令第二百十五號））

（大正十五年四月二十四日法律第七十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟法中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第五百七十條但書ヲ削ル

第五百七十二條中「保證」ヲ「擔保」ニ、「請求ノ拋棄ニ基キテ爲ス判決」ヲ「請求ノ拋棄」ニ改ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和四年勅令第百五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●刑事交渉法

（大正十年四月二十六日法律第九十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事交渉法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍、司法大臣副署）

刑事交渉法

第一條　通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ト軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ト牽連スルトキハ檢事及司法警察官ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸海軍ノ檢察官陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付搜査ヲ爲スコトヲ得

數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ
二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二條　陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官及海軍司法警察官ハ陸軍又ハ海軍ノ部隊內ノ犯罪事件ニシテ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スルモノニ付搜査ヲ爲スコトヲ得

第三條　檢事及陸海軍ノ檢察官ハ前二條ノ規定ニ依リ搜査ヲ爲スコトヲ得ヘキ事件ニ付豫審ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ豫審ノ請求ヲ受ケタル豫審判事又ハ豫審官ハ必要ナル處分ヲ爲シタル後豫審判事ハ檢事ニ、豫審官ハ陸海軍ノ檢察官ニ事件ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ豫審判事又ハ豫審官ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

第四條　陸軍軍法會議法第一條第一項第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一項第一號ニ記載シタル者ニ對シ通常裁判所又ハ豫審判事ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ現行犯ニ關スルモノヲ除クノ外其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾ヲ求ムヘシ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ハ軍事上已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

陸軍軍法會議法第一條第一項第一號又ハ海軍軍法會議法第一條第一項第一號ニ記載シタル者ニ對シ現行犯ニ關シ通常裁判所、豫審判事、檢事又ハ司法警察官ノ發シタル勾引狀又ハ勾留狀ノ執行アリタルトキハ之ヲ發シタル者速ニ其ノ旨ヲ執行ヲ受ケタル者ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知スヘシ

第五條　通常裁判所ノ裁判權及軍法會議ノ裁判權ニ屬スル同一事件ニ付雙方ニ公訴ノ提起アリタルトキハ最初ニ公訴ノ提起アリタル官署之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ通常裁判所及軍法會議共ニ便宜ト認ムルトキハ後ニ公訴ノ提起アリタル官署ニ於テ事件ノ審判ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六條　通常裁判所、豫審判事又ハ檢事ト軍法會議、豫審官又ハ陸海軍ノ檢察官トハ相互ニ牽連事件ニ關スル調書其ノ他ノ書類又ハ證據物ノ送付又ハ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

檢事ハ豫審官、陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ニ對シ第二條ニ揭クル犯罪事件ノ豫審又ハ搜査ニ關スル書類又ハ證據物ノ送付又ハ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第七條　檢事軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付搜査ヲ爲シ又ハ通常裁判所若ハ豫審判事ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ陸海軍ノ檢察官ニ送致スヘシ

陸海軍ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ海軍司法警察官通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付搜査ヲ爲シ又ハ軍法會議若ハ豫審官ヨリ事件ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ送致スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ送致前ニ發シタル勾留狀ハ送致後ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ勾留狀ハ送致ヲ受ケタル官署五日內ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起セサルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第八條　豫審判事ノ爲シタル免訴ノ決定確定シタルトキハ陸海軍ノ檢察官ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

陸海軍ノ檢察官豫審ノ取調終了後不起訴處分ヲ爲シ又ハ豫審ノ請求ヲ取消シタルトキハ檢事ハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

軍法會議公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定ヲ爲シタルトキハ檢事ハ同一事件ニ付公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第九條　前條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起シタルトキハ豫審官又ハ軍法會議ハ豫審ノ請求ヲ却下シ又ハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十條　刑事訴訟法ニ依ル時效ノ中斷ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付、陸軍軍法會議法又ハ海軍軍法會議法ニ依ル時效ノ中斷ハ通常裁判所ノ裁判權ニ屬スル事件ニ付其ノ效力ヲ有ス

第十一條　本法ハ陸海軍官憲ト朝鮮、臺灣、關東州ノ司法官憲其ノ他ノ特別司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項並陸軍司法官憲ト海軍司法官憲トノ間ニ於ケル刑事交渉事項ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十八年第十二號布告ハ之ヲ廢止ス

（大正十一年勅令第七十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行）

●刑事訴訟費用法

（大正十年四月十二日法律第六十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑事訴訟費用法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍、陸軍、司法大臣副署）

刑事訴訟費用法

第一條　左ニ揭クルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一　豫審又ハ公判ニ付呼出シタル證人、鑑定人及通事ニ給スヘキ日當、旅費及止宿料
二　第三條第二項ニ規定スル費用

第二條　證人ノ日當ハ出頭一度ニ付一圓以內ニ於テ豫審判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第三條　鑑定人及通事ノ日當ハ出頭一度ニ付二圓以內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

鑑定又ハ通譯ニ付特別ノ技能若ハ費用又ハ長時間ヲ要スルトキハ日當ノ外豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムル金額ヲ給スルコトヲ得

第四條　證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ鐵道又ハ汽船ノ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里毎ニ五錢

其ノ他ニ在リテハ一里每ニ三十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第五條　證人、鑑定人及通事ノ止宿料ハ一日五圓以內ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

第六條　證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費及止宿料ハ豫審ニ付テハ其ノ終結前公判ニ付テハ判決前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第七條　共犯人ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合ニ於テハ連帶負擔トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

刑法施行法第六十二條乃至第六十七條ヲ削ル

陸軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

海軍刑法施行法第三十一條中「刑法施行法第六十三條乃至第六十六條ノ規定」ヲ「刑事訴訟費用法」ニ改ム

本法施行前要シタル費用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（大正十年勅令第百七十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

●司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件

（大正十二年十二月二十九日勅令第五百二十八號）

改正　昭和三年第二三八號

朕司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者ノ指定等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、農商務、遞信、司法、鐵道、外務大臣副署）

第一條　外務省ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス外務省ノ巡查ハ之ヲ司法警察吏トス

第二條　地方裁判所檢事局又ハ其ノ管內區裁判所檢事局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第三條　監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第三條ノ二　警務官タル內務事務官及警務官補タル內務屬ハ特別高等警察事務又ハ外事警察事務ニ關係アル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第四條　左ニ揭クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ官廳所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第八號ニ揭クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第九號乃至第十三號ニ揭クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　帝室林野管理局ノ事務官、事務官補、屬、技師及技手
二　獵場監守長
三　監獄又ハ分監ノ長タラサル典獄、典獄補及看守長
四　林區署勤務ノ山林事務官、山林技師、山林副事務官、山林屬、山林技手及森林主事
五　國有鐵道ノ驛長又ハ車掌監督タル鐵道局ノ副參事及書記
六　北海道廳ノ營林區署勤務ノ技師竝營林區署又ハ營林區分署勤務ノ屬、技手及森林主事
七　公有林野ノ事務ヲ擔當スル北海道廳產業技手
八　狩獵取締ノ事務ヲ擔當スル廳府縣技手
九　帝室林野管理局技手補
十　獵場監守
十一　看守
十二　國有鐵道ノ助役又ハ車掌監督助手タル鐵道局書記竝國有鐵道ノ車掌タル鐵道局ノ書記、鐵道手及雇員
十三　北海道廳河川監守

第五條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ揭クル罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第九號ニ揭クル者ニ在リテハ御料林野又ハ其ノ產物ニ關スル罪
二　前條第二號及第十號ニ揭クル者ニ在リテハ御獵場ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
三　前條第三號及第十一號ニ揭クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪
四　前條第四號ニ揭クル者ニ在リテハ國有林野、部分林、公有林野官行造林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
五　前條第五號及第十二號ニ揭クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯
六　前條第六號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル國有林野、部分林、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
七　前條第七號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル公有林野、其ノ林野ノ產物又ハ其ノ林野ニ於ケル狩獵ニ關スル罪
八　前條第八號ニ揭クル者ニ在リテハ狩獵ニ關スル罪
九　前條第十三號ニ揭クル者ニ在リテハ北海道ニ於ケル河川又ハ其ノ附屬物ニ關スル罪

第六條　警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制ヲ施行セサル地ニ於ケル犯罪ニ付テハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ハ町村長ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ司法警察吏ノ職務ハ町村吏員ニ準スヘキ者之ヲ行フ

警察官吏ノ駐在セサル島嶼ニシテ町村制第六十八條ノ規定ニ依リ區長ヲ置ク地ニ於ケル犯罪ニ付テハ司法警察吏ノ職務ハ區長之ヲ行フ

第七條　海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船內ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船內ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事事件ニ關シ判事又ハ檢事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人等ニ旅費、日當及止宿料等給與ノ件

（大正十三年五月二十九日司法省令第十一號）

第一條　左ニ揭クル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

一、刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ檢事ノ請求シタル强制ノ處分ニ付豫審判事又ハ區裁判所判事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人

二、刑事訴訟法第二百十四條第一項、第二百二十八條又ハ第二百三十六條ノ規定ニ依リ檢事又ハ檢事ノ命令ヲ受ケ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人

三、犯罪搜查ニ付檢事ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者

第二條　鑑定、通譯又ハ翻譯ニ付數多ノ時間、特別ノ技能又ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第三條　刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ハ前二條ニ揭クル給與ノ金額ニ付之ヲ準用ス

前項ノ金額ハ第一條第一號ノ場合ニ在リテハ豫審判事又ハ區裁判所判事、第二號、第三號ノ場合ニ在リテハ檢事之ヲ定ム

附　則

大正十年司法省令第十二號ハ之ヲ廢止ス

●司法官吏ヨリ巡查及兵員要求使用手續

（明治十四年九月二十日太政官達第八十二號）

【官】省院【使】廳府縣

司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條　裁判官檢察官及ヒ司法警察官【治罪法】ニ從ヒ撿證及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵【卒】ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條　前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ【鎭臺】又ハ【分營】ニ照會シテ兵

力ヲ要求スルコトヲ得

●逃亡犯罪人引渡條例

（明治二十年八月十日勅令第四十二號）

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、司法大臣副署）

逃亡犯罪人引渡條例

第一條　本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ揭クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄內ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄內ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一　帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ

二　犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同樣ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條　締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條　左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一　引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二　引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條　逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國內ニ於テ告訴告發ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條　帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條　引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條　本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國內何レノ地ニ於テモ効力アルモノトス

第八條　一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル締約國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國ノ間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯罪人ヲ假逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條　假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期限內ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附錄第二號書式ノ逮捕狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條　第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書若クハ陳述書ノ公寫

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條　外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條　上席檢事前條ニ揭ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條　請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキハ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條　上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條　逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラル、コトナカルヘシ

第十八條　司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一　引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條　闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴告發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條　逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條　引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限內ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條　逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國內海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

附録

第一號書式

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日
檢事局ノ印
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
執行ノ年月日時
執行ノ場所
執行ノ手續
家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
【明治】年月日
巡査又ハ憲兵署名捺印

割印

（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）

（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日
檢事局ノ印
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
執行ノ年月日時
執行ノ場所
執行ノ手續
家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
【明治】年月日
巡査又ハ憲兵署名捺印

第二號書式

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日
檢事局ノ印
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
執行ノ年月日時
執行ノ場所
執行ノ手續
家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
【明治】年月日
巡査又ハ憲兵署名捺印

割印

（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）

（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、、ニ於テ、、、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日
檢事局ノ印
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
執行ノ年月日時
執行ノ場所
執行ノ手續
家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也
【明治】年月日
巡査又ハ憲兵署名捺印

第三號書式

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ【明治】、、年、、月、、日附ノ（逮捕狀 假逮捕狀）ニ據リ、、國ニ於テ、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル逃亡犯罪人トシテ【明治】、、年、、月、、日逮捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタル、、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受取人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日　司法大臣、、、印

執行ノ年月日時
執行シタル場所
受取人ノ署名

右ノ通執行候也
【明治】年月日
引渡サルヘキ者ヲ留置シタル監獄ノ典獄ノ署名捺印

割印

（此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ）

（英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ）

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ【明治】、、年、、月、、日附ノ（逮捕狀 假逮捕狀）ニ據リ、、國ニ於テ、、ノ犯罪ニ付（告訴 告發 有罪ノ宣告）ヲ受タル逃亡犯罪人トシテ【明治】、、年、、月、、日逮捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタル、、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受取人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也

【明治】年月日　司法大臣、、、印

執行ノ年月日時
執行シタル場所
受取人ノ署名

右ノ通執行候也
【明治】年月日
引渡サルヘキ者ヲ留置シタル監獄ノ典獄ノ署名捺印

●外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

（明治三十二年三月十六日法律第六十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、司法大臣副署）

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

第一條　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關シ締盟各國トノ通商航海條約又ハ領事職務條約ニ依リテ爲スヘキ援助ハ當該領事官ノ請求ニ依リ檢事之ヲ行フ

第二條　左ノ場合ニ於テハ檢事ハ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ニ應スルコトヲ得ス

第一　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國臣民ナルトキ

第二　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付訴追ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキ

第三　第八條ニ依リ放免シタル艦船乘組員ニ對シ更ニ同一ノ事件ニ付請求アリタルトキ

第四　領事官カ援助ノ請求書ニ船舶登錄簿及艦船乘組員名簿ノ正當ナル拔萃又ハ乘組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文書ヲ添付セサリシトキ

第五　領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保證セサリシトキ

第三條　檢事カ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢事カ艦船乘組員ノ逮捕ヲ命スヘキ場合ニ於テハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五條　逮捕狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ其ノ指定シタル者ヲ逮捕シタルトキハ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ引致スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ直ニ之ヲ訊問シ人違ナシト認メタルトキハ速ニ當該領事官ニ引渡スヘシ

第七條　逮捕シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ留置ノ請求アリタルトキハ檢事ハ之ヲ監獄ニ留置セシムヘシ

第八條　留置シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ放免ノ請求アリタルトキ又ハ逮捕ノ日ヨリ六箇月以内ニ於テ引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ放免スヘシ

第九條　逮捕狀ノ發付及其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　援助ニ關スル費用ハ檢事ニ於テ當該領事官ニ對シ其ノ實費額ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　檢事ハ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ司法大臣ニ報告スヘシ其ノ援助ヲ爲スヘキモノニ非スト認メタルトキ又ハ援助ノ手續ヲ終リタルトキ亦同シ

●犯罪犯則ニ依リ沒收ノ物件處分方

（明治十八年十一月二十六日太政官達第六十三號）

府　縣

裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

●違警罪即決例

（明治十八年九月二十四日太政官布告第三十一號）

明治十四年九月第四拾四號布告及ヒ同年十二月第八拾號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事（司法卿連署）

（別紙）

違警罪卽決例

第一條　警察署長及ヒ分【署】長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル【違警罪】ヲ卽決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條　卽決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　卽決ノ言渡ニ對シテハ【違警罪裁判所】ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　卽決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齡身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限竝ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ卽決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ

但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條　警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ【違警罪裁判所】檢察官ニ送致スヘシ

第七條　第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ卽決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條　科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條　科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ【一圓】ヲ【一日】ニ折算シテ之ヲ留置ス其【一圓】ニ滿サル者ト雖モ仍ホ【一日】ニ計算ス

第十條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ【一日ヲ一圓】ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サヽル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條　保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ沒入シテ本刑ニ換フ

第十二條　留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條　留置ノ日數ハ【一日ヲ一圓】ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●恩赦令　大正元年九月二十六日勅令第二十三號　改正　昭和二年第一〇號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ恩赦令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（各大臣副署）

恩赦令

第一條　大赦、特赦、減刑及復權ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　大赦ハ勅令ヲ以テ罪ノ種類ヲ定メ之ヲ行フ

第三條　大赦ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外大赦アリタル罪ニ付左ノ效力ヲ有ス

一　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ言渡ハ將來ニ向テ效力ヲ失フ
二　未タ刑ノ言渡ヲ受ケサル者ニ付テハ公訴權ハ消滅ス

第四條　特赦ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第五條　特赦ハ刑ノ執行ヲ免除ス但シ特別ノ事情アルトキハ將來ニ向テ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムルコトヲ得

第六條　減刑ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シ勅令ヲ以テ罪若ハ刑ノ種類ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル特定ノ者ニ對シ之ヲ行フ

第七條　勅令ニ依ル減刑ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外將來ニ向テ刑ヲ變更ス

特定ノ者ニ對スル減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス但シ特別ノ事情アルトキハ刑ヲ變更スルコトヲ得

第八條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシムル特赦若ハ刑ヲ變更スル減刑ヲ行ヒ又ハ其ノ減刑ト共ニ猶豫ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第九條　復權ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲法令ノ定ムル所ニ依リ資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニ對シ勅令ヲ以テ要件ヲ定メ之ヲ行ヒ又ハ特定ノ者ニ付之ヲ行フ但シ刑ノ執行ヲ終ラサル者又ハ執行ノ免除ヲ得サル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十條　復權ハ將來ニ向テ資格ヲ回復ス

復權ハ特定ノ資格ニ付之ヲ行フコトヲ得

第十一條　刑ノ言渡ニ基ク既成ノ效果ハ大赦、特赦、減刑又ハ復權ニ因リ變更セラルルコトナシ

第十二條　特赦又ハ特定ノ者ニ對スル減刑若ハ復權ハ司法大臣之ヲ上奏ス

第十三條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ受刑者ノ在監スル監獄ノ長ハ司法大臣ニ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲スコトヲ得

監獄ノ長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十四條　特赦又ハ減刑ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本
二　刑期計算書
三　犯罪ノ情狀、本人ノ性行、受刑中ノ行狀、將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

第十五條　刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ職權ヲ以テ又ハ本人ノ出願ニ依リ司法大臣ニ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得

復權ノ出願ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條　復權ノ申立書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　判決ノ謄本又ハ抄本
二　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ證スル書類
三　刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル後ニ於ケル本人ノ行狀、現在及將來ノ生計其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ニ關スル調査書類

本人ノ出願ニ依リ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類ノ外其ノ願書ヲ添附スヘシ

第十七條　特赦、減刑又ハ復權ノ裁可アリタルトキハ司法大臣ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ニ特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ送付シ之ヲ本人ニ下付セシムヘシ

第十八條　大赦、特赦、減刑又ハ復權アリタルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ハ判決ノ原本ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第十九條　本令中司法大臣ノ職務ハ軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣、朝鮮臺灣關東州南洋群島又ハ帝國カ治外法權ヲ行使スル地域ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ朝鮮總督臺灣總督關東長官內閣總理大臣又ハ外務大臣之ヲ行ヒ檢事ノ職務ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官、法院ノ檢察官、領事官又ハ犯罪卽決官廳之ヲ行フ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年勅令第二百十五號、第二百十六號及第二百三十號ハ之ヲ廢止ス

●恩赦令施行規則　大正元年九月二十六日司法省令第三號

恩赦令施行規則左ノ通相定ム

恩赦令施行規則

第一條　恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條　恩赦令第十條第二項ニ依ル復權ノ申立書ニハ回復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條　特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ本人在監中ナル

トキハ監獄ノ長ヲ經由スヘシ

檢事假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、監獄ノ長及監督警察官署ニ通知スヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域內ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ恩赦狀ノ下付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

第六條　恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍ニ於ケル恩赦施行手續　大正元年九月二十六日陸軍省令第三號　改正　昭和二年第四號

陸軍ニ於ケル恩赦施行手續左ノ通定ム

陸軍ニ於ケル恩赦施行手續

第一條　恩赦令ノ規定ニ依リ檢察官又ハ監獄ノ長軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ヲ經由スヘシ

陸軍監獄長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官所屬長官ニ非サルトキハ豫メ所屬長官ヲ經由スヘシ

檢察官復權ノ申立ヲ爲ストキ亦同シ

第二條　刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官特赦、減刑又ハ復權ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ檢察官ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條　陸軍大臣特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ第一條ノ長官ヲ經由シテ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス

第四條　特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ送付シ長官ハ檢察官ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由シテ本人ニ下付セシムヘシ

第五條　檢察官又ハ監獄ノ長特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第一條第二項ノ規定ハ陸軍監獄長前項ノ報告ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第六條　刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官判決ノ原本ニ恩赦アリタル旨ヲ附記シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ軍法會議ニ在ルトキハ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●恩赦施行手續　大正元年九月二十六日海軍省令第二號　改正　大正一二年第五號

恩赦施行手續左ノ通相定ム

恩赦施行手續

第一條　海軍檢察官又ハ監獄ノ長海軍軍法會議ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ストキハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ヲ經由スヘシ海軍檢察官復權ノ申立ヲ爲ストキ亦同シ

海軍監獄長前項ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官所屬長官ニ非サルトキハ先ツ所屬長官ヲ經由スヘシ

第二條　刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官特赦、減刑又ハ復權ノ申立書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルトキハ海軍檢察官ノ意見ヲ徵シ申立書ニ添附スヘシ

第三條　海軍大臣特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ順序ヲ經テ其ノ旨ヲ申立ヲ爲シタル諸官ニ通知ス

第四條　特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ長官ニ送付シ長官ハ海軍檢察官ヲシテ之ヲ本人ニ下付セシム但シ本人在監中又ハ假出獄中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スルモノトス

第五條　海軍檢察官特赦狀、減刑狀又ハ復權狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ前條ノ長官ニ報告シ長官ハ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條　恩赦令第十八條ノ判決原本ノ附記ハ刑ノ宣告ヲ爲シタル軍法會議ノ海軍檢察官之ヲ爲ス

附　則

本令ハ恩赦令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大禮恩赦ノ詔　昭和三年十一月十日詔書

朕大統ヲ承ケ玆ニ大禮ヲ行フニ方リ有衆ト共ニ其ノ慶ヲ同クセムコトヲ欲シ遍ク仁澤ヲ及ホシ特ニ有司ニ命シテ恩赦ヲ行ハシム百僚有衆其レ克ク朕カ意ヲ體セヨ（國務各大臣副署）

●減刑令　昭和三年十一月十日勅令第二百七十號

朕減刑令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

減刑令

第一條　昭和三年十一月十日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ逋ルル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　死刑ハ之ヲ無期懲役トス

第三條　無期懲役ハ之ヲ二十年ノ有期懲役トシ無期禁錮ハ之ヲ二十年ノ有期禁錮トス但シ昭和三年十一月十日ニ於テ七十歲以上ノ者及犯時十六歲未滿ノ者ニ付テハ之ヲ十五年ノ懲役又ハ禁錮トス

第四條　有期ノ懲役又ハ禁錮ニ付テハ左ノ例ニ依リ刑期ヲ變更ス

一　刑ノ執行ヲ始メザル者ニ付テハ刑期ノ四分ノ一ヲ減ズ
二　刑ノ執行ヲ始メタル者ニ付テハ殘刑期ノ二分ノ一ヲ減ズ但シ刑ノ執行ガ刑期ノ二分ノ一ニ至ラザル者ニ付テハ前號ノ例ニ依ル
三　昭和三年十一月十日ニ於テ七十歲以上ノ者及犯時十六歲未滿ノ者ニ付テハ前二號ノ例ニ依ラズ刑期ノ三分ノ一ヲ減ズ

短期ト長期トヲ定メテ言渡シタル刑ニ付テハ短期及長期ニ付前項ノ例ニ依ル但シ犯時十六歲以上ノ者ニシテ短期ヲ經過シタルモノニ付テハ長期ニ付前項第二號ノ例ニ依ル

前二項ノ計算ヲ爲スニ當リ年、月又ハ日ノ端數ヲ生ズルトキハ一年ハ之ヲ十二月、一月ハ之ヲ三十日トシ日ノ端數ハ之ヲ除棄ス

第五條　舊法ノ刑ハ之ニ相當スル刑法ノ刑ノ例ニ依リ之ヲ減輕ス

舊法ノ刑ヲ減輕シタルトキハ其ノ刑名ハ之ニ相當スル刑法ノ刑名ニ變更ス

第六條　左ニ揭グル罪ニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セズ

一　刑法第七十三條及第七十五條ノ罪
二　刑法第百八條ノ罪及其ノ未遂罪
三　刑法第百四十八條ノ罪及其ノ未遂罪
四　刑法第百八十一條ノ罪
五　刑法第二百條ノ罪及其ノ未遂罪
六　自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル刑法第二百四條ノ罪

七　刑法第二百五條第二項ノ罪

八　刑法第二百十八條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

九　刑法第二百二十條第二項ノ罪及其ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十　刑法第二百三十六條、第二百三十八條若ハ第二百三十九條ノ罪又ハ其ノ未遂罪（但シ前ニ強盜又ハ竊盜ノ行爲ニ因リ刑ニ處セラレタル者ニ限ル）

十一　刑法第二百四十條ノ罪及第二百四十一條ノ罪竝ニ其ノ未遂罪

十二　前各號ニ揭グル罪ト性質ヲ同ジクスル舊法ノ罪

十三　軍機保護法第一條乃至第三條ノ罪及其ノ未遂罪

十四　朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ行ハルル法令ノ罪ニシテ前各號ニ揭グル罪ト性質ヲ同ジクスルモノ

第七條　併合罪ニ付併合シテ一個ノ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テ其ノ併合罪中前條ニ揭グル罪アルトキハ減刑ヲ爲サズ

前條ニ揭ゲザル罪名ニ觸ルル行爲ニシテ同時ニ前條ニ揭グル罪名ニ觸ルルトキ又ハ前條ニ揭グル罪ノ手段若ハ結果タルトキ亦前項ニ同ジ

第八條　前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和三年十一月十日前十五年以內ニ恩赦ヲ得其ノ後七年以內ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付テハ其ノ刑ヲ減輕セズ

第九條　前數條ノ規定ニ依リ減刑ヲ爲サザル者ト雖特別ノ事情アルトキハ減刑ヲ行フコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●復權令（昭和三年十一月十日勅令第二百七十一號）

朕復權令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（國務各大臣副署）

復權令

第一條　罰金以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル爲資格ヲ喪失シ又ハ停止セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ昭和三年十一月十日ノ前日迄ニ十年以上ヲ經過シタルモノハ復權ス但シ大正七年十一月十日以後ニ再ビ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　十八歲未滿ノ時罪ヲ犯シ死刑又ハ無期刑ニ非ザル刑ニ處セラレタル者ニシテ昭和三年十一月十日ノ前日迄ニ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除ヲ得タルモノハ其ノ刑ニ處セラレタル爲喪失シ又ハ停止セラレタル資格ニ付復權ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍（大正十三年五月三十一日朝鮮總督府令第三十三號　改正　大正一五年第五三號　昭和二年第七一號）

司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者及其ノ職務ノ範圍左ノ通定ム

第一條　地方法院檢事局又ハ其ノ管內地方法院支廳檢査分局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ檢事正ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第二條　朝鮮ニ於ケル監獄又ハ分監ノ長ハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第三條　左ニ揭クル者ニシテ其ノ所屬長官其ノ者ノ勤務地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事正ト協議シテ指命シタルモノハ第一號乃至第四號ニ揭クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第五號乃至第八號ニ揭クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　朝鮮ニ於ケル監獄又ハ分監ノ長タラサル朝鮮總督府典獄補及看守長

二　朝鮮總督府營林署山林事務官、技師、屬、技手及森林主事

三　朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林保護ノ事務ニ從事スル朝鮮總督府林業試驗場技師、屬及技手

四　朝鮮總督府府郡島森林主事

五　朝鮮總督府看守

六　朝鮮總督府營林署雇員

七　朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林保護ノ事務ニ從事スル雇員

八　朝鮮總督府府郡島ニ勤務シ林業事務ニ從事スル產業技手及雇員

第四條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ揭クル罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第五號ニ揭クル者ニ在リテハ監獄又ハ分監ニ於ケル犯罪

二　前條第二號及第六號ニ揭クル者ニ在リテハ朝鮮總督府營林署所管ノ國有林野、第四號及第八號ニ揭クル者ニ在リテハ國有林野以外ノ林野ニ於ケル森林若ハ其ノ產物又ハ狩獵ニ關スル罪

三　前條第三號及第七號ニ揭クル者ニ在リテハ朝鮮總督府林業試驗場ノ試驗林ニ於ケル森林又ハ其ノ產物ニ關スル罪

第五條　海船（沿海航路以上ノ航路ヲ航路定限トスル總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ノモノ）ノ船長ハ其ノ船內ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船內ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

●刑事事件ノ證人、鑑定人、通事、飜譯人等ニ日當、旅費、止宿料等支給方ノ件（大正十五年六月三日朝鮮總督府令第四十七號）

刑事事件ノ證人、鑑定人、通事、飜譯人等ニ日當、旅費、止宿料等支給方ノ件左ノ通定ム

第一條　左ニ揭クル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ日當、旅費及止宿料ヲ支給ス但シ證言、鑑定、通譯又ハ飜譯ノ終リタル日ヨリ二十日以內ニ請求ヲ爲サルトキハ之ヲ支給セス

一　刑事訴訟法第二百五十五條ノ規定ニ依リ檢事ノ請求シタル强制處分ニ付豫審判事又ハ地方法院若ハ其ノ支廳ノ判事ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人

二　刑事訴訟法第二百十四條第一項、第二百二十八條、第二百三十六條、朝鮮刑事令第十二條第一項又ハ第十四條第一項ノ規定ニ依リ檢事又ハ檢事ノ命ヲ受ケ司法警察官若ハ其ノ職務ヲ行フ者ノ召喚シタル證人、鑑定人、通事又ハ飜譯人

三　犯罪搜査ニ付檢事ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者

前項第三號ニ該當スル者被疑者ナルトキハ日當、旅費及止宿料ヲ支給セサルコトアルヘシ

第二條　鑑定、通譯又ハ飜譯ニ付數多ノ時間、特別ノ技能又ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外相當金額ヲ支給スルコトヲ得

第三條　刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ノ規定ハ前二條ニ揭クル支給額ニ付之ヲ準用ス

前二條ノ支給額ハ第一條第一項第一號ノ場合ニ在リテハ豫審判事又ハ地方法院若ハ其ノ支廳ノ判事、同條同項第二號及第三號ノ場合ニ在リテハ檢事之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年統監府令第二號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ關スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（大正六年十一月三日朝鮮總督府令第八十五號　改正　大正一〇年第七五號）

刑事事件ニ付司法警察官カ呼出シタル鑑定人及通事ノ給與ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　刑事事件ニ付司法警察官カ呼出シタル鑑定人及通事ニハ日當、旅費及止宿料ヲ支給ス

前項ノ日當、旅費及止宿料ノ範圍及支給ニ關シテハ刑事訴訟費用法第三條第一項及第四條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス

第二條　鑑定通譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ支給スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事判決ノ正本謄本及抄本手數料額（大正元年八月五日朝鮮總督府令第三號）

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ヲ求ムル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手數料トシテ三錢ヲ納付スヘシ其ノ一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程（大正四年二月二十三日朝鮮總督府訓令第四號　改正　大正一二年第五四號）

刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程左ノ通定ム

刑ノ執行指揮ニ關スル取扱規程

第一條　拘禁中ノ被告人ニ對シ自由刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事（檢事事務取扱者ヲ含ム以下同シ）ハ直ニ樣式第一號ノ書面ヲ以テ監獄ノ長ニ刑ノ執行ヲ指揮スヘシ

檢事ハ裁判確定前ト雖樣式第二號ノ書面ヲ以テ刑ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

第二條　拘禁セラレサル被告人ニ對シ自由刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事ハ速ニ之ヲ檢事局ニ召喚シ樣式第一號ノ執行指揮書ヲ附シテ監獄ニ護送セシムヘシ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ逮捕シテ引致シタルトキ亦前項ニ同シ此ノ場合ニ於テハ刑期ハ逮捕狀執行ノ日ヨリ起算ス

第三條　削除

第四條　第一條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル刑ノ執行指揮ハ法定ノ期間內ニ上訴ノ申立アリタルニ因リ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ上訴申立カ被告人以外ノ者ニ依リ爲サレタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ申立アリタルコトヲ監獄ノ長ニ通知スヘシ

第五條　削除

第六條　上訴取下アリタル場合ニ於テ訴訟記錄原裁判所ニ在ルトキハ上訴裁判所ノ檢事ハ速ニ上訴ノ取下アリタルコト及其ノ日ヲ原裁判所ノ檢事ニ通知スヘシ

第七條　上訴ノ拋棄又ハ取下アリタルトキハ刑期ハ裁判所ニ於テ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ起算ス但シ拘禁中ノ被告人監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ上訴ノ拋棄又ハ取下アリタルトキハ其ノ監獄ニ於テ申立書ヲ受理シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條　刑事訴訟法第五百三十七條但書ノ規定ニ依ルノ必要アルトキハ檢事ハ各刑ニ付執行スヘキ順序ヲ定メ指揮スヘシ

前項ノ規定ハ勞役場留置ト他ノ有期刑トヲ併セテ執行スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　刑法第五十一條但書末段ノ適用アル場合ニ於テハ檢事ハ各刑ニ付執行スヘキ期間ヲ定メ其ノ執行ヲ指揮スヘシ

第十條　拘禁中ノ受刑者ニ對シ刑ノ執行ヲ停止シタルトキハ檢事ハ樣式第三號ノ書面ヲ以テ出監ノ指揮ヲ爲スヘシ

檢事前項ニ規定スル處分ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ受刑者他廳檢事ノ指揮ニ係ルモノナルトキハ其ノ旨ヲ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及刑ノ執行ヲ指揮シタル檢事ニ通知スヘシ

第十一條　刑ノ執行停止ノ事由止ミタル者、刑ノ執行中逃走シタル者又ハ假出獄ノ許可ヲ取消サレタル者ニ對シ殘刑ノ執行ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ檢事ハ第二條ノ例ニ準シ樣式第四號ノ書面ヲ以テ之ヲ指揮スヘシ

第十二條　刑事訴訟法第三百七十四條又ハ第三百七十五條ニ定メタル裁判確定シタルトキハ檢事ハ第一條第一項又ハ第二條ノ例ニ依リ刑ノ執行ヲ指揮スヘシ

刑ノ執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所以外ノ裁判所ニ於テ刑事訴訟法第三百七十四條ニ定メタル裁判アリタルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ハ刑ノ執行指揮ニ付執行猶豫ヲ言渡シタル裁判所ノ檢事ノ囑託ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條　再審又ハ非常上告ニ依リ言渡シタル刑ノ執行ヲ爲スヘキトキハ前ノ執行日數ヲ其ノ刑期ニ通算スヘシ

第十四條　削除

第十五條　削除

第十六條　勞役場留置ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ檢事ハ樣式第五號ノ書面ヲ以テ之ヲ指揮スヘシ

第十七條　檢事刑ノ執行ヲ指揮スルニハ裁判書ノ謄本又ハ抄本（樣式第六號）ヲ添附スヘシ

檢事ハ監獄ノ長ノ請求アルトキハ裁判書ノ謄本ヲ送付スヘシ

第十八條　裁判書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附シテ刑ノ執行ヲ指揮シタル後更ニ其ノ謄本又ハ抄本ニ揭ケタル刑ニ付執行ヲ指揮スルトキハ裁判書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スルヲ要セス

第十九條　拘禁中ノ被告人ニ對シ死刑ノ裁判確定シタルトキハ檢事ハ直ニ裁判書ノ謄本ヲ監獄ノ長ニ送付スヘシ死刑ノ裁判確定後拘禁シタルトキ亦同シ

第二十條　無罪、免訴其ノ他ノ事由ニ因リ被告人又ハ被疑者ヲ出監セシムル場合ニ於テハ檢事ハ樣式第七號ノ書面ヲ以テ之ヲ指揮スヘシ

第二十條ノ二　勞役場留置ノ執行ニ付テハ第十六條ニ依ルノ外本規程ヲ準用ス

第二十一條　警察官署ノ長ニ對スル刑ノ執行ニ關スル指揮ハ本規程ニ準シテ之ヲ爲スヘシ

（樣式略ス）

附　則（大正十二年朝鮮總督府訓令第五十四號）

本規程ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

闕席判決ニ依リ言渡シタル刑ノ執行指揮ニ關スル取扱ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

●犯罪卽決例（明治四十三年十二月十五日制令第十號　改正　明治四五年第一一號）

犯罪卽決例明治四十三年勅令第三百二十四號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

犯罪卽決例

第一條　警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ其ノ管轄區域內ニ於ケル左ノ犯罪ヲ卽決スルコトヲ得

一　拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪

二　三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪

三　三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政法規違反ノ罪

第二條　卽決ハ裁判ノ正式ヲ用ヰス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　卽決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ管轄地方法院ニ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得

第四條　卽決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名、年齡、身分、職業、住所、犯罪ノ事實、適用シタル法條、言渡シタル刑、正式裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期間竝言渡ヲ爲シタル官吏ノ官職氏名及年月日ヲ記載スヘシ

第五條　正式裁判ヲ請求スル者ハ卽決ノ言渡ヲ爲シタル官署ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ三日同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書謄本ノ送達アリタル日ヨリ五日トス

前項ノ期間内ニ正式裁判ヲ請求セサルトキハ卽決ノ言渡ハ確定シタルモノトス

第六條　前條ノ申立ヲ受ケタル官署ハ速ニ關係書類ヲ管轄地方法院檢事ニ送致スヘシ

第七條　懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ警察署長又ハ其ノ職務ヲ取扱フ者ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第八條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ必要ナルトキハ第五條ニ定メタル期間内被告人ヲ留置スルコトヲ得但シ言渡シタル刑期ニ相當スル日數ヲ過クルコトヲ得ス

第九條　罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ被告人ヲ留置ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖尙一日ニ計算ス

第十條　留置セラレタル者正式裁判ヲ請求シ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

第十一條　第八條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ之ヲ拘留ノ刑期ニ算入シ第九條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ之ヲ罰金又ハ科料ノ金額ニ算入ス

附則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪卽決例施行手續

（明治四十三年十二月三十日朝鮮總督府訓令第七十二號）
改正　大正一〇年第六八號

警察署長
警察分署長
憲兵分隊長

犯罪卽決例施行手續左ノ通定ム

犯罪卽決例施行手續

第一條　犯罪卽決ヲ爲スヘキ官吏事件ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ事件卽決スヘカラス又ハ卽決セサルヲ相當ト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ卽決シ得ヘキ事件ト雖他ノ卽決スヘカラサル事件ト併發シタルトキ亦同シ

第二條　被告人ヲ引致シ又ハ呼出シタル場合ニ於テハ其ノ陳述ヲ錄取シ又ハ便宜始末書ヲ徵シ證憑ヲ取調ヘ犯罪ノ事實明確ナルトキハ直ニ卽決ノ言渡ヲ爲スヘシ但シ拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付テハ聽取書又ハ始末書ヲ省略スルコトヲ得

第三條　書類ノ送達ハ巡査ヲシテ之ヲ爲シ送達書（第一號樣式）ヲ作ラシムヘシ若本人ニ送達スルコト能ハサルトキハ其ノ住所ニ於テ同居ノ家族又ハ雇主、雇人ニ之ヲ爲シ送達書ニ其ノ事由ヲ記載セシムヘシ但シ拘留又ハ科料ノ言渡書謄本若ハ呼出狀ノ送達ハ便宜使丁ヲシテ之ヲ爲シ受領書ヲ徵セシメ又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　卽決ノ言渡確定シ監獄ニ於テ其ノ執行ヲ爲サシムヘキトキハ受刑者ト共ニ執行囑託書（第二號樣式）及言渡書謄本ヲ送致スヘシ

第五條　書類ノ送達、證憑ノ取調及令狀竝刑ノ執行ニ付テハ各警察署間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

第六條　刑ノ執行ヲ他ノ官署ニ囑託スルトキハ執行囑託書（第二號樣式）ト共ニ言渡書謄本ヲ送付スヘシ

前項ノ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テハ犯罪卽決事件受託簿（第十號樣式）ノ記入ヲ爲シ刑ノ執行ヲ終リタルトキハ執行濟通知書（第三號樣式）ヲ發送スヘシ

第七條　犯罪卽決ヲ爲スヘキ官署ニハ左ノ書類、簿册ヲ備フヘシ

一　犯罪卽決事務ニ關スル例規綴
二　懲役禁錮禁獄罰金卽決事件簿
三　懲役禁錮罰金卽決事件言渡書及記錄綴
四　拘留科料卽決事件簿
五　拘留科料卽決事件言渡書及記錄綴
六　犯罪卽決事件受託簿

第一號樣式（用紙ハ半紙判）

送達書

一　卽決言渡書（呼出狀）一通

道　郡　面　洞　里
番地某ヘ送達スヘキモノナリ

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

受取人署名捺印	送達月日場所	事由

右之通取扱候也

巡査　氏　名印

第二號樣式（用紙ハ半紙判）

第　號

執行囑託書

執行スヘキ刑名刑期	確定年月日	通算期間
	大正　年　月　日	

氏名年齡	前科	備考

右者別紙卽決言渡書謄本ノ通確定候條（言渡候條確定ノ上ハ）直ニ執行相成度候也

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

何監獄（分監）典獄（看守長）氏　名殿

第三號樣式（用紙ハ半紙判）

執行濟通知書

來書番號	受刑者氏名	卽決言渡年月日	罪名	刑名刑期（金額）	刑 初日	刑 滿期日
		大正　年　月　日				

執行ノ				備考
監獄ヘ送致年月日	完納年月日	現金送付年月日	右送付先官署名	
大正　年　月　日	大正　年　月　日	大正　年　月　日		

右及通知候也

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名殿

第四號樣式（用紙ハ半紙判）

卽決言渡書

被告人	住所 身分職業 氏　名 年　齡 （共犯ハ連名ニテ言渡スモ差支ナシ）
件名	賭博(1) 寄附金品募集取締規則違反(2)
言渡主文	懲役二月ニ處ス 但シ此ノ言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スル期間ハ三日トス(1) 罰金十圓ニ處ス 但シ此ノ言渡ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求スル期間ハ此ノ言渡書ノ送達アリタル日ヨリ五日トス(2)
適用法條	刑法第百八十六條第一項(1) 明治四十四年朝鮮總督府令第百三十八號第一條第十二條(2)
犯罪事實	被告ハ綽號ヲ何々ト稱シ賭博ヲ常習トスル者ニシテ大正　年　月　日午　時ヨリ何處某方ニ於テ某、某ト共ニ金錢ヲ賭シ丁半ト稱スル博奕ヲ爲シ居ル現場ニ於テ巡査某ニ逮捕セラレタルモノナリ(1) 被告ハ大正　年　月　日頃ヨリ　月　日迄何處某外何名ヨリ何々ノ名義ニテ金何圓ヲ募集シタルモノナリ(2)

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

第五號樣式（用紙ハ半紙判）

勾留狀正本

道　郡　面　洞　里
番地
身分職業
氏　名
年　齡

罪名
刑名
刑期
言渡年月日　大正　年　月　日
右ニ勾留スヘキモノ也
但シ本人潛匿シタルトキハ家宅ヲ搜索スヘシ

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

執行シタル年月日時	執行シタル場所	執行手續	家宅搜索ヲ爲シタルトキハ其ノ事由	勾留スルコト能ハサルトキハ其ノ事由	執行者ノ署名捺印
大正　年　月　日午　時					

第六號樣式（用紙ハ半紙判）

留置命令書

道　郡　面　洞　里　番地
身分職業
通稱何何事　氏　名
年　齡

右ハ拘留　日ノ言渡ヲ爲シタル處留置ノ必要アルニ付犯罪卽決例第八條ニ依リ　日間ニ留置ス

大正　年　月　日　官署印

何警察署長
朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

第七號樣式（用紙ハ半紙判）

留置命令書

道　郡　面　洞　里　番地

身分職業

通稱何何事　氏　名

年　齡

右ハ罰金（科料）ヲ假納セサルニ付犯罪即決例第九條ニ依リ　日間　ニ留置ス

大正　年　月　日

官署印

何警察署長

朝鮮總督府道警視（部）氏　名印

第八號樣式（用紙ハ美濃判）

進行番號　甲第　號

懲役禁錮禁獄罰金即決事件簿

接受年月日		大正　年　月　日
主任官		
發覺原因		
現行非現行ノ別		
罪名		
犯罪年月日時場所事實ノ概要		
被告人ノ本籍住所出生地身分職業氏名年齡		
刑名刑期（金額）		
適用法條		
言渡年月日對、缺席ノ別		大正　年　月　日　席
確定年月日		大正　年　月　日
前科		
正式裁判	申立年月日	大正　年　月　日
	言渡年月日	大正　年　月　日
	終局要旨	
沒收金品處分	沒收金額	
	沒收物件	
	賣却代金	
	現金送付年月日	大正　年　月　日
	右送付先官署名	
勾留狀	發布年月日	大正　年　月　日
	執行年月日	大正　年　月　日
	釋放年月日及其ノ事由	大正　年　月　日
執行	初日	大正　年　月　日
	滿期日	大正　年　月　日
罰金	假納金額	
	假納年月日	大正　年　月　日
	完納年月日	大正　年　月　日
	現金送付年月日	大正　年　月　日
	右送付先官署名	
	留置期間	
備考		

第九號樣式（用紙ハ美濃判）

進行番號　乙第　號

拘留科料即決事件簿

接受年月日		大正　年　月　日
主任官		
發覺原因		
現行非現行ノ別		
罪名		
犯罪年月日時場所事實ノ概要		
被告人ノ本籍住所出生地身分職業氏名年齡		
刑名刑期（金額）		
適用法條		
言渡年月日對、缺席ノ別		大正　年　月　日　席
確定年月日		大正　年　月　日
前科		
正式裁判	申立年月日	大正　年　月　日
	言渡年月日	大正　年　月　日
	終局要旨	
拘留科料ノ執行	留置年月日	大正　年　月　日
	釋放年月日	大正　年　月　日
	執行初日	大正　年　月　日
	滿期日	大正　年　月　日
	假納金額	
	假納年月日	大正　年　月　日
	完納年月日	大正　年　月　日
	現金送付年月日	大正　年　月　日
	右送付先官署名	
	留置期間	
沒收金品處分	沒收金額	
	沒收物件	
	賣却代金	
	現金送付年月日	大正　年　月　日
	右送付先官署名	
備考		

第十號樣式（用紙ハ美濃判）

犯罪即決事件受託簿

受刑者住所身分職業氏名年齡		
囑託官署名		
即決官吏氏名		
受託官署ノ主任官		
犯罪年月日		大正　年　月　日
罪名		
刑名刑期（金額）		
適用法條		
言渡年月日對、缺席ノ別		大正　年　月　日　席
確定年月日		大正　年　月　日
勾留狀	發布年月日	大正　年　月　日
	執行年月日	大正　年　月　日
刑ノ執行	初日	大正　年　月　日
	滿期日	大正　年　月　日
	完納年月日	大正　年　月　日
	現金送付年月日	大正　年　月　日
	右送付先官署名	
囑託官署ヘ通報年月日		大正　年　月　日
備考		

裏面ハ表面ニ同シ

● 恩赦令施行規則

（大正元年十月二日朝鮮總督府令第二十號）

恩赦令施行規則左ノ通定ム

恩赦令施行規則

第一條　恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條　恩赦令第十條第二項ニ依ル復權ノ申立書ニハ回復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條　特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢事又ハ檢事ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ本人在監中ナルトキハ監獄ノ長ヲ經由スヘシ

檢事假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事、監獄ノ長及監督警察官署ニ通知スヘシ

本人他ノ裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ恩赦狀ノ下付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢事恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル場合ニ於テハ訴訟記錄他ノ裁判所ノ檢事局ニ在ルトキハ其ノ裁判所ノ檢事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

第六條　恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢事ハ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者等ニ關スル件

（大正十三年一月十三日臺灣總督府令第六號）
（改正　昭和二年第六號）

司法警察官吏及司法警察官吏ノ職務ヲ行フヘキ者等ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　臺灣總督府ノ警察官ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス

臺灣總督府ノ巡査ハ之ヲ司法警察吏トス

第二條　郡守ハ之ヲ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官トス

第三條　地方法院檢察局又ハ其ノ管内地方法院支部檢察局勤務ノ書記又ハ雇員ニシテ地方法院檢察官長ノ指命シタル者ハ其ノ局ニ於テ受理シタル事件ニ付書記ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、雇員ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

第四條　刑務所又ハ其ノ支所ノ長ハ刑務所又ハ其ノ支所ニ於ケル犯罪ニ付刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

第五條　左ニ掲クル者ニシテ其ノ所屬長官高等法院檢察官長ト協議シテ指命シタル者ハ第一號乃至第四號ニ掲クル者ニ在リテハ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ、第五號乃至第八號ニ掲クル者ニ在リテハ司法警察吏ノ職務ヲ行フ

一　營林所勤務ノ事務官、屬、技師及技手
二　典獄補及看守長
三　林野取締又ハ腦務ノ職務ヲ擔當スル地方屬若ハ專賣局ノ屬、書記、技師、技手及森林主事
四　驛長又ハ車長監督タル交通局ノ副參事及書記
五　營林所勤務ノ雇員
六　看守
七　腦務ノ職務ヲ擔當スル專賣局雇員
八　助役、車長タル交通局書記又ハ驛長、助役、車長監督若ハ車長タル交通局雇員

第六條　前條ノ規定ニ依リ司法警察官吏ノ職務ヲ行フ者ノ職務ノ範圍ハ左ニ掲クル罪ニ關スルモノニ限ル

一　前條第一號及第五號ニ掲クル者ニ在リテハ指定國有林野及其ノ產物ニ關スル

罪

二　前條第二號及第六號ニ掲クル者ニ在リテハ刑務所又ハ其ノ支所ニ於ケル罪

三　前條第三號及第七號ニ掲クル者ニ在リテハ國有又ハ公有ノ森林原野竝其ノ產物ニ關スル罪

四　前條第四號及第八號ニ掲クル者ニ在リテハ停車場又ハ列車ニ於ケル現行犯

第七條　海船ノ船長ハ其ノ船内ニ於テ刑事訴訟法第二百四十八條ニ規定スル司法警察官ノ職務ヲ行フ

前項ノ海船内ニ於ケル司法警察吏ノ職務ハ甲板部、機關部又ハ事務部ノ海員中其ノ各部ニ於テ職掌ノ上位ニ在ル者之ヲ行フ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪搜査ノ爲法院檢察官ノ呼出シタル者ニ日當、旅費及止宿料給與ノ件（大正十二年一月一日臺灣總督府令第二十二號）

第一條　犯罪搜査ノ爲臺灣總督府法院檢察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニハ日當、旅費及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

刑事訴訟費用法第二條第三條第一項第四條乃至第六條ノ規定ハ前項ノ日當、旅費及止宿料ニ付之ヲ準用ス

第二條　鑑定又ハ通譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年府令第八十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行前ニ要シタル費用ハ從前ノ規定ニ依ル

●刑事事件ニ付司法警察官カ呼出シタル者ノ給與ニ關スル件（大正十四年十月二十七日臺灣總督府令第六十號）

刑事事件ニ付司法警察官ノ呼出シタル者ノ給與ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　刑事事件ニ付司法警察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニハ日當、旅費及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

前項ノ日當、旅費及止宿料ニ關シテハ刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第二條　鑑定又ハ通譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第三條　第一條ノ日當、旅費及止宿料ハ出頭シタル日又ハ鑑定書ヲ提出シタル日ヨリ五日内ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●刑事判決ノ正本謄本又ハ抄本請求手數料（明治三十一年三月二十九日律令第二號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル刑事ニ關スル判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキノ手數料ノ件勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

刑事ニ關スル判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムル者ハ一枚ニ付金三錢ノ手數料ヲ納ムヘシ但無資力ニシテ手數料ヲ納ムル能ハサル者ハ法院ニ於テ之ヲ免スルコトヲ得

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●臺灣總督府臨時法院ノ判決ニ對スル再審及非常上告ニ關スル律令（明治三十二年八月三十日律令第二十七號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣總督府臨時法院ノ判決ニ對スル再審及非常上告ニ關スル律令勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣總督府臨時法院ノ判決ニ對シテハ【覆審法院】ニ再審ノ訴及非常上告ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ再審ノ訴及非常上告ニ關スル上告裁判所ノ訴訟手續ヲ準用ス

【覆審法院】ハ再審ノ訴ニシテ其原由アリト認ムルトキハ原判決ヲ破毀シ直ニ其事件ノ公訴及私訴ニ付判決ヲ爲スヘシ

●犯罪即決例（明治三十七年三月十二日律令第四號）（改正　明治四二年第四號　大正九年第一九號　昭和二年第三號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル犯罪即決例勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

犯罪即決例

第一條　郡守、支廳長又ハ警察署長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得

一　拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪

二　三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪

三　三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政諸規則違反ノ罪

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヰス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ若ハ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ法院ニ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名、年齡、身分、職業、住所、犯罪ノ事實、適用シタル法條、言渡シタル刑、正式裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期間竝言渡ヲ爲シタル官吏ノ官氏名及年月日ヲ記載スヘシ

第五條　正式裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル官署ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル日ヨリ三日同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書謄本ノ送達アリタル日ヨリ五日トス

前項ノ期間内ニ正式裁判ヲ請求セサルトキハ即決言渡ハ確定シタルモノトス

第六條　前條ノ申立ヲ受ケタル官署ハ速ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ法院檢察官ニ送致スヘシ

第七條　懲役ノ即決言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ郡守、支廳長又ハ警察署長ハ勾留狀ヲ發シ監獄ニ引致スルコトヲ得

即決ノ言渡確定シタルトキハ拘留セラレサル被告人ニ對シテハ郡守、支廳長又ハ警察署長ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ監獄ニ引致スヘシ此ノ場合ニ於ケル逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第八條　削除

第九條　拘留ノ言渡ヲ爲シタルトキハ必要ノ場合ニ於テハ第五條ニ定メタル期間内之ヲ留置ス但シ刑期五日以内ナルトキハ其ノ日數ヲ過クルコトヲ得ス

第十條　科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖仍一日ニ計算ス

第十一條　留置セラレタル者正式裁判ヲ請求シ依テ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

第十二條　第九條及第十條ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

第十三條　臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ地方警視、州警部、廳警部、州警部補又ハ廳警部補ニ本令ニ掲ケタル郡守、支廳長又ハ警察署長ノ職務代理ヲ命スルコトヲ得但シ州警部補又ハ廳警部補ニ對シテハ拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪ニ限ル

附　則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ犯罪即決例ハ之ヲ廢止ス

●犯罪即決例ニ依リ懲役又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ニ關スル件（大正六年六月七日臺灣總督府令第二十五號）（改正　大正一二年第八八號）

犯罪即決例ニ依リ懲役又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者刑事訴訟法第五百四十六條各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事故ノ止ムル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ刑ノ執行停止ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル即決官ノ通知ニ依リ之ヲ爲スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●即決言渡ニ係ル刑ノ執行囑託ニ關スル件（大正九年九月一日臺灣總督府令第六十九號）

即決言渡ニ係ル刑ノ執行囑託ニ關スル件左ノ通相定ム

即決言渡ニ係ル刑ノ執行ハ各即決官署間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得

前項囑託ニ因リ生シタル費用ハ受託官署ノ支辨トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年七月府令第五十五號ハ之ヲ廢止ス

●恩赦令施行規則（大正二年四月二十四日臺灣總督府令第四十四號）

恩赦令施行規則左ノ通相定ム（改正　大正九年第七五號　昭和二年第二二號）

恩赦令施行規則

第一條　恩赦令第十三條ニ依リ監獄ノ長特赦又ハ減刑ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ申立書ノ送付ヲ受ケタル警察官ハ必要ナル事項ニ付調査ヲ爲シタル上意見ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

第二條　恩赦令第十條第二項ニ依ル復權ノ申立書ニハ回復スヘキ資格ノ種類ヲ明記スヘシ

第三條　特赦、減刑又ハ復權ノ申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ檢察官又ハ檢察官ヲ經由シテ監獄ノ長ニ通知ス

第四條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢察官ハ直ニ之ヲ本人ニ下付スヘシ但シ監獄ノ長ノ申立ニ係ルモノハ其ノ長ヲ經由スヘシ

檢察官刑ノ執行猶豫中ノ者、執行停止中ノ者又ハ假出獄中ノ者ニ恩赦狀ヲ下付シタルトキハ其ノ旨ヲ住居地ヲ管轄スル地方法院ノ檢察官、監獄ノ長、郡守、支廳長及警察署長ニ通知スヘシ

本人他ノ法院ノ管轄區域内ニ在ルトキハ其ノ法院ノ檢察官ニ恩赦狀ノ下付及前項ノ通知ヲ囑託スルコトヲ得

第五條　恩赦狀ノ送付ヲ受ケタル檢察官恩赦令第十八條ニ依リ附記ヲ爲シタル場合ニ於テ訴訟記錄他ノ法院ノ檢察局ニ在ルトキハ其ノ法院ノ檢察官ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知書ハ之ヲ訴訟記錄ニ添附スヘシ

第六條　恩赦狀ヲ本人ニ下付シタルトキハ檢察官ハ速ニ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪搜査ノ爲檢事ノ呼出シタル者ニ日當、旅費及止宿料給與ノ件（大正十一年六月二十日關東廳令第四十三號）

犯罪搜査ノ爲檢事ノ職務ヲ行フ者ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニハ日當、旅費及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

鑑定又ハ通譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

刑事訴訟費用法第二條、第三條、第四條乃至第六條ノ規定ハ前二項ノ給與ニ付之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ要シタル費用ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

●關東州犯罪即決例（大正八年六月五日勅令第二百七十四號）（改正　大正一〇年第二四七號、一四年第一四號）

朕關東州犯罪即決例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州犯罪即決例

第一條　關東廳民政支署長、警察署長又ハ警察支署長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得

一　拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪

二　三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪

三　三月以下ノ懲役禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政法規違反ノ罪

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヰス被告人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ地方法院ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名、年齡、身分、職業、住所、犯罪ノ事實、適用シタル法條、言渡シタル刑、正式裁判ノ申立期間竝言渡ヲ爲シタル官吏ノ官職氏名及年月日ヲ記載シ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘシ

第五條　正式裁判ノ申立ヲ爲ス者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル官署ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡ノ即日ヨリ三日、同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書送達ノ即日ヨリ五日トス但シ被告人遠隔又ハ交通不便ノ地ニ在ルトキハ刑事訴訟法第八十二條第一項及第三項ノ規定ヲ準用ス

正式裁判ノ申立書ヲ受ケタル官署ハ速ニ關係書類ヲ地方法院檢察官ニ送致スヘシ

第六條　即決ノ言渡ハ正式裁判ノ申立期間ノ經過ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス

第七條　民政支署長、警察署長又ハ警察支署長ハ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ勾留狀ニ關シテハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アルトキハ第五條ニ定メタル期間内被告人ヲ留置スルコトヲ得但シ言渡シタル刑期ニ相當スル日數ヲ過クルコトヲ得ス

第九條　罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若納メサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ被告人ヲ留置ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖仍一日ニ計算ス

第十條　留置セラレタル者正式裁判ノ申立ヲ爲シ呼出狀ノ送達アリタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

第十一條　第八條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ之ヲ拘留ノ刑期ニ算入シ第九條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ之ヲ罰金又ハ科料ノ金額ニ算入ス

附　則

本令ハ大正八年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

●拘留科料處分規則（明治四十年四月二十七日關東都督府令第二十五號）（改正　大正八年關令第二〇號、一〇年第四〇號）

拘留科料處分規則左ノ通相定ム

拘留科料處分規則

第一條　警務署長、警務支署長又ハ其ノ代理タル官吏ハ其ノ所轄内ニ於テ拘留科料ニ該當スル所爲アル者ニ對シ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第二條　拘留科料ノ處分ハ本人ノ陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ其ノ言渡ヲ爲スヘシ但シ本人ヲ呼出スノ必要ナシト認ムルトキ又ハ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人若ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　處分言渡書ニハ本人ノ氏名、年齡、身分、職業、住所違犯ノ事實ハ適用シタル法條及言渡シタル拘留又ハ科料竝言渡ヲ爲シタル官署、年月日、官氏名ヲ記載シ所屬官署ノ印ヲ押捺スヘシ

第四條　處分言渡ヲ受ケタル者ハ其ノ言渡アリタル日又ハ言渡書謄本ノ送達アリタル日ヨリ三日以内ニ其ノ言渡ヲ爲シタル官署ヲ經由シ關東長官ニ不服ヲ申出ツルコトヲ得

但シ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ハ一日ヲ一圓ニ計算シタル金額科料ノ言渡ヲ受ケタル者ハ科料金ニ該當スル金額ヲ保證トシテ其ノ官署ニ供託スルコトヲ要ス

第五條　處分言渡ヲ爲シタル官署ニ於テ不服申立ヲ受ケタルトキハ前條ノ期間ヲ經過シタルモノハ之ヲ却下シ其ノ期間内ニ係ルモノハ意見ヲ付シ關係記錄ト共ニ速ニ關東長官ニ進達スヘシ

第六條　關東長官ハ不服申立ヲ理由ナシト認ムルトキハ其ノ申立ヲ却下シ理由アリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ其ノ變更ノ言渡ヲ爲スヘシ

前項ノ取調ニ必要ト認ムルトキハ本人又ハ關係人ヲ喚問スルコトアルヘシ

第七條　前條ノ不服ノ申立アリタルトキハ其ノ處分ノ執行ヲ停止ス

第八條　拘留處分ノ執行ハ之ヲ強制ス但シ一日ヲ一圓ニ折算シ保證金ヲ以テ之ニ換フルコトヲ得

科料處分ヲ受ケ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ換ヘ若ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ留置ス其ノ一圓ニ充タサルトキト雖一日ニ計算ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ關東州ニ之ヲ施行セス

●南洋群島犯罪即決例（大正十二年一月二十七日勅令第二十八號）

朕南洋群島犯罪即決例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

南洋群島犯罪即決例

第一條　南洋廳支廳長ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル左ノ犯罪ヲ即決スルコトヲ得

一　拘留又ハ科料ノ刑ニ該ルヘキ罪

二　三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ賭博ノ罪及拘留又ハ科料ノ刑ニ處スヘキ刑法第二百八條ノ罪

三　三月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ノ刑ニ處スヘキ行政法規違反ノ罪

第二條　即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヰス被告人ノ

陳述ヲ聽キ證憑ヲ取調ヘ直ニ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

被告人ヲ呼出スノ必要ナキトキ又ハ之ヲ呼出スモ出頭セサルトキハ直ニ其ノ言渡書ノ謄本ヲ本人又ハ其ノ住所ニ送達スルコトヲ得

第三條　即決ノ言渡ヲ受ケタル者之ニ服セサルトキハ管轄地方法院ニ正式裁判ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四條　即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名、年齡、職業、住所、犯罪ノ事實、適用シタル法條、言渡シタル刑、正式裁判ノ申立期間竝言渡ヲ爲シタル官吏ノ官職氏名及年月日ヲ記載シ所屬官廳ノ印ヲ押捺スヘシ

第五條　正式裁判ノ申立ヲ爲ス者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル支廳ニ申立書ヲ差出スヘシ其ノ期間ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡ノ即日ヨリ三日、同條第二項ノ場合ニ於テハ言渡書送達ノ即日ヨリ五日トス但シ被告人遠隔又ハ交通不便ノ地ニ在ルトキハ刑事訴訟法第十六條ノ規定ヲ準用ス

第六條　正式裁判ノ申立書ヲ受ケタル支廳ハ速ニ關係書類ヲ管轄地方法院檢事ニ送致スヘシ

第七條　即決ノ言渡ハ正式裁判ノ申立期間ノ經過ニ因リ確定判決ト同一ノ效力ヲ生ス

第八條　支廳長ハ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ勾留狀ニ關シテハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條　拘留ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アルトキハ第五條ニ定メタル期間內被告人ヲ留置スルコトヲ得但シ言渡シタル刑期ニ相當スル日數ヲ過クルコトヲ得ス

第十條　罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサルトキハ一圓ヲ一日ニ折算シテ被告人ヲ留置ス其ノ一圓ニ滿タサルモノト雖何一日ニ計算ス

第十一條　留置セラレタル者正式裁判ノ申立ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ留置ヲ釋クヘシ

第十二條　第九條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ之ヲ拘留ノ刑期ニ算入シ第十條ノ規定ニ依ル留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折算シテ之ヲ罰金又ハ科料ノ金額ニ算入ス

附　則

本令ハ大正十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三款　陪審法

●陪審法

（大正十二年四月十八日法律第五十號）
（改正　昭和四年第五一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國議會ノ協贊ヲ經タル陪審法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（御璽各大臣副署）

陪審法

第一章　總則
第二章　陪審員及陪審ノ構成
第三章　陪審手續
　第一節　公判準備
　第二節　公判手續及公判ノ裁判
　第三節　上訴
第四章　陪審費用
第五章　罰則
第六章　補則
附　則

陪審法

第一章　總則

第一條　裁判所ハ本法ノ定ムル所ニ依リ刑事事件ニ付陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

第二條　死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第三條　長期三年ヲ超ユル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル事件ニシテ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ付被告人ノ請求アリタルトキハ之ヲ陪審ノ評議ニ付ス

第四條　左ニ掲クル罪ニ該ル事件ハ前二條ノ規定ニ拘ラス之ヲ陪審ノ評議ニ付セス

一　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪
二　刑法第二編第一章乃至第四章及第八章ノ罪
三　治安維持法ノ罪
四　軍機保護法、陸軍刑法又ハ海軍刑法ノ罪其ノ他軍機ニ關シ犯シタル罪
五　法令ニ依リ行フ公選ニ關シ犯シタル罪

第五條　第三條ノ請求ハ第一回公判期日前ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ期日前ト雖最初ニ定メタル公判期日ノ召喚ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　被告人ハ檢事ノ被告事件陳述前ハ何時ニテモ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第七條　被告人公判又ハ公判準備ニ於ケル取調ニ於テ公訴事實ヲ認メタルトキハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス但シ共同被告人中公訴事實ヲ認メサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條　地方ノ情況ニ由リ陪審ノ評議公平ヲ失スル虞アルトキハ檢事ハ直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ請求ヲ爲スコトヲ得

公判ニ繋屬スル事件ニ付前項ノ請求アリタルトキハ訴訟手續ヲ停止スヘシ

第九條　前條第一項ノ請求ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル請求書ヲ管轄裁判所ニ差出スヘシ

前項ノ請求書ヲ差出スニハ管轄裁判所ノ檢事ヲ經由スヘシ

公判ニ繋屬スル事件ニ付管轄移轉ノ請求ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知シ且請求書ノ謄本ヲ被告人ニ交付スヘシ

被告人ハ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三日內ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

管轄裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第十條　管轄移轉ノ請求アリタルトキハ被告人ハ檢事ノ被告事件陳述後ト雖其ノ決定アル迄事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下クルコトヲ得

被告人事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタルニ因リ事件陪審ノ評議ニ付スヘカラサルニ至リタルトキハ檢事ノ管轄移轉ノ請求ハ之ヲ取下ケタルモノト看做ス

共同被告人中事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ辭シ又ハ請求ヲ取下ケタル者アルトキハ其ノ被告人ニ關スル管轄移轉ノ請求ニ付亦前項ニ同シ

第十一條　上訴裁判所ニ於テハ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得ス

第二章　陪審員及陪審ノ構成

第十二條　陪審員ハ左ノ各號ニ該當スル者タルコトヲ要ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ三十歲以上タルコト
二　引續キ二年以上同一市町村內ニ住居スルコト
三　引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト
四　讀ミ書キヲ爲シ得ルコト

前項第二號及第三號ノ要件ハ其ノ年九月一日ノ現在ニ依ル

第十三條　左ニ掲クル者ハ陪審員タルコトヲ得ス

一　禁治產者、準禁治產者
二　破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ
三　聾者、啞者、盲者
四　懲役、六年以上ノ禁錮、舊刑法ノ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

第十四條　左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　國務大臣
二　在職ノ判事、檢事、陸軍法務官、海軍法務官
三　在職ノ行政裁判所長官、行政裁判所評定官
四　在職ノ宮內官吏
五　現役ノ陸軍軍人、海軍軍人
六　在職ノ廳府縣長官、郡長、島司、廳支廳長
七　在職ノ警察官吏
八　在職ノ監獄官吏
九　在職ノ裁判所書記長、裁判所書記
十　在職ノ收稅官吏、稅關官吏、專賣官吏
十一　在職ノ郵便電信電話鐵道及軌道ノ現業ニ從事スル者竝船員
十二　市町村長
十三　辯護士、辨理士
十四　公證人、執達吏、代書人
十五　在職ノ小學校教員
十六　神官、神職、僧侶、諸宗教師
十七　醫師、齒科醫師、藥劑師
十八　學生、生徒

第十五條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘシ

一　陪審員被害者ナルトキ
二　陪審員私訴當事者ナルトキ
三　陪審員被告人、被害者若ハ私訴當事者ノ親族ナルトキ又ハ親族タリシトキ
四　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ屬スル家ノ戶主又ハ家族ナルトキ
五　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
六　陪審員被告人、被害者又ハ私訴當事者

ノ同居人又ハ雇人ナルトキ
七　陪審員事件ニ付告發ヲ爲シタルトキ
八　陪審員事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
九　陪審員事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人、輔佐人又ハ私訴當事者ノ代理人ト爲リタルトキ
十　陪審員事件ニ付判事、檢事、司法警察官又ハ陪審員トシテ職務ヲ行ヒタルトキ

第十六條　左ニ掲クル者ハ陪審員ノ職務ヲ辭スルコトヲ得

一　六十歲以上ノ者
二　在職ノ官吏、公吏、敎員
三　貴族院議員、衆議院議員及法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員但シ會期中ニ限ル

第十七條　市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ市町村內ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ登載スヘシ

陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納稅額ヲ記載スヘシ

第十八條　市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

市町村長ハ十月一日ヨリ七日間其ノ廳ニ於テ陪審員資格者名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第十九條　法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレタル者ハ縱覽期間內及其ノ後七日內ニ市町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

法律ニ違反シテ陪審員資格者名簿ニ登載セラレサル者ハ前項ノ規定ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立ハ書面ヲ以テシ其ノ理由ヲ疏明スヘシ

第二十條　市町村長異議ノ申立ヲ正當トスルトキハ遲滯ナク陪審員資格者名簿ヲ修正シ其ノ旨ヲ管轄區裁判所判事及異議申立人ニ通知スヘシ

市町村長異議ノ申立ヲ不當トスルトキハ遲滯ナク意見ヲ附シ申立書ヲ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第二十一條　前條第二項ノ場合ニ於テ區裁判所判事異議ノ申立ヲ理由ナシトスルトキハ其ノ旨ヲ市町村長及異議申立人ニ通知スヘシ異議ノ申立ヲ理由アリトスルトキハ陪審員資格者名簿ヲ修正スヘキコトヲ命シ其ノ旨ヲ異議申立人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ハ異議ノ申立書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　地方裁判所長ハ毎年九月一日迄ニ翌年所要ノ陪審員ノ員數ヲ定メ管轄區域內ノ市町村ニ割當テ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

第二十三條　市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス

第二十四條　區裁判所判事ハ陪審員候補者ノ選定ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ監督ス

區裁判所判事ハ前項ノ事務ニ付市町村長ニ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ十一月三十日迄ニ陪審員候補者名簿ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ

市町村長ハ陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ニ其ノ旨ヲ通知シ且其ノ氏名ヲ告示スヘシ

第二十六條　市町村長前條ノ規定ニ依リ陪審員候補者名簿ヲ送付シタル後其ノ候補者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク之ヲ管轄地方裁判所長ニ通知スヘシ

第二十七條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ハ其ノ市町村ニ於ケル陪審員候補者名簿ニ登載セラレタル者ノ四分ノ三呼出ニ應シタル後ニ非サレハ其ノ年內再ヒ陪審員ニ選定セラルルコトナシ

第二十九條　陪審ハ十二人ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成ス

第三十條　陪審ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄同一ノ陪審員ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ要ス

第三十一條　裁判長ハ事件二日以上引續キ開廷ヲ要スト思料スルトキハ十二人ノ陪審員ノ外一人又ハ數人ノ補充陪審員ヲ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充陪審員ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ之ニ代ルモノトス

補充陪審員數人アル場合ニ於テ前項ノ職務ヲ行フハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ依ル

第三十二條　同日ニ數個ノ事件ノ公判ヲ開ク場合ニ於テハ數個ノ事件ニ付同一ノ陪審員ヲ以テ陪審ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ最初ノ事件ノ取調前其ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條　檢事及被告人異議ナキトキハ一ノ事件ノ爲構成セラレタル陪審ヲシテ同日ニ審理スヘキ他ノ事件ノ爲其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十四條　陪審員ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費、日當及止宿料ヲ給與ス

第三章　陪審手續

第一節　公判準備

第三十五條　陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付テハ裁判長ハ公判準備期日ヲ定ムヘシ

第三十六條　被告人公判準備期日前辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ其ノ裁判所所在地ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

被告人數人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十七條　公判準備期日ニハ被告人及辯護人ヲ召喚スヘシ

公判準備期日ハ之ヲ檢事ニ通知スヘシ

第三十八條　召喚狀ノ送達ノ日ト公判準備期日トノ間ニハ少クトモ五日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ

第三十九條　公判期日ヲ定メタル後被告人ノ請求ニ因リ事件ヲ陪審ノ評議ニ付スヘキモノトシタルトキハ其ノ公判期日ヲ公判準備期日トス

第四十條　公判準備期日ニ於ケル取調ハ定數ノ判事、檢事及裁判所書記列席シテ之ヲ爲ス

公判準備期日ニ於テハ辯護人出頭スルニ非サレハ取調ヲ爲スコトヲ得ス辯護人數人アルトキハ其ノ一人出頭スルヲ以テ足ル

第四十一條　公判準備[illegible]ノ評議ニ付[illegible]シ事件ヲ[illegible]ヘキ旨ヲ[illegible]

第四十二條　公訴事實ニ付テハ裁判長ハ被告人ヲ訊問スヘシ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

檢事及辯[illegible]ヲ訊問スルコトヲ得

第四十三條　必要ナル[illegible]檢事、被[illegible]證又ハ證[illegible]ルコトヲ得

前項ノ[illegible]ヲ爲スヘシ

第四十四條　公判[illegible]リ公判[illegible]問及其ノ[illegible]判所ノ[illegible]ヘシ

第四十五條　[illegible]ル事項[illegible]辯護人[illegible]日及裁[illegible]名ヲ記[illegible]ヲ記載[illegible]

第四十六條　[illegible]理シ裁[illegible]シ裁判長[illegible]シ意見ア[illegible]

第四十七條　[illegible]備期日[illegible]トヲ得

第四十八條　第四十三[illegible]ヲ準用ス

[illegible]據決定ヲ[illegible]及辯護人[illegible]

第四十九條　公判準備期日外ニ於テ證人又ハ

鑑定人ノ訊問ヲ爲ストキハ被告人モ亦之ニ立會フコトヲ得

裁判所外ニ於テ前項ノ手續ヲ爲ストキハ拘禁セラレタル被告人ハ之ニ立會フコトヲ得ス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ之ニ立會ハシムルコトヲ得

第五十條　前條第一項ノ手續ヲ爲スヘキ日時及場所ハ被告人ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條　公判準備中陪審ノ評議ニ付スヘカラサル事由生シタルトキハ通常ノ手續ニ從ヒ審判ヲ爲スヘシ

公判準備期日ニ於テ前項ノ事由生シタルトキハ其ノ期日ヲ公判期日トス但シ訴訟關係人中出頭セサル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條　被告人ハ公判準備期日ニ管轄違ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ハ豫審ヲ經タル事件ニ付テハ豫審判事ニ對シテ其ノ申立ヲ爲シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　裁判所公判準備期日ニ公訴棄却又ハ管轄違ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

第五十四條　裁判所公判準備期日ニ免訴ノ原由アルコトヲ認メタルトキハ決定ヲ爲スヘシ

免訴ノ決定確定シタルトキハ同一ノ事件ニ付更ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第五十五條　前二條ノ決定ヲ爲スニハ訴訟關係人ノ意見ヲ聽クヘシ

決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　第五十一條又ハ第五十三條ノ場合ニ於テ公判準備中ニ爲シタル手續ハ其ノ效力ヲ失ハス

第五十七條　公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條　陪審員ニ對スル呼出狀ニハ出頭スヘキ日時、場所及呼出ニ應セサルトキハ過料ニ處スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五十九條　陪審員疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ職務ヲ辭スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第二節　公判手續及公判ノ裁判

第六十條　陪審構成ノ手續ハ判事、檢事、裁判所書記、被告人、辯護人及陪審員列席シ公判廷ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ手續ハ之ヲ公行セス

第六十一條　前條第一項ノ手續ハ陪審員二十四人以上出頭スルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

出頭シタル陪審員二十四人ニ達セサルトキハ裁判長ハ之ヲ補充スル爲裁判所所在地又ハ其ノ附近ノ市町村ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ必要ナル員數ノ陪審員ヲ選定シ便宜ノ方法ニ依リ之ヲ呼出スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六十二條　陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名、職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名、職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事、被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十三條　出頭シタル陪審員中第十二條乃至第十四條ノ規定ニ依リ陪審員タル資格ヲ有セサル者アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第六十四條　檢事及被告人ハ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ員數ヲ超過スル員數ニ付各其ノ半數ヲ忌避スルコトヲ得忌避スルコトヲ得ヘキ人員奇數ナルトキハ被告人ハ尚一人ヲ忌避スルコトヲ得

被告人數人アルトキハ忌避ハ共同シテ之ヲ行フ共同ノ方法ニ付協議整ハサルトキハ忌避ヲ行フ方法ハ裁判長之ヲ定ム

第六十五條　裁判長ハ陪審員ノ氏名票ヲ抽籤函ニ入レタル後檢事及被告人ノ忌避スルコトヲ得ル員數ヲ告知スヘシ

裁判長ハ氏名票ヲ一票宛抽籤函ヨリ抽出シ之ヲ讀上クヘシ

裁判長氏名ヲ讀上ケタルトキハ檢事及被告人ハ承認又ハ忌避スル旨ヲ陳述スヘシ其ノ順序ハ檢事ヲ先ニシ被告人ヲ後ニス

忌避ノ理由ハ之ヲ陳述スルコトヲ得ス

次ノ氏名票ヲ抽籤函ヨリ抽出ス迄ニ陳述ヲ爲サヽルトキハ承認ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言スル迄陳述ヲ爲サヽルトキ亦同シ

陳述ハ次ノ氏名票ヲ抽出シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ス裁判長抽籤終リタル旨ヲ宣言シタル後亦同シ

第六十六條　前條ノ手續ニ依リ陪審ヲ構成スヘキ陪審員及補充陪審員ノ數ヲ充シタルトキハ裁判長ハ抽籤終リタル旨ヲ宣言スヘシ

第六十七條　陪審ヲ構成スヘキ陪審員ハ初ニ當籤シタル十二人ヲ以テ之ニ充テ補充陪審員ハ其ノ他ノ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

第六十八條　陪審員ハ第六十五條ノ規定ニ依リ爲シタル抽籤ノ順序ニ從ヒ著席スヘシ

第六十九條　裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ諭告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ公平誠實ニ其ノ職務ヲ行フヘキコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ起立シテ宣誓書ヲ朗讀シ陪審員ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

第七十條　裁判長ハ陪席判事ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受ケ被告人、證人、鑑定人、通事及翻譯人ヲ訊問スルコトヲ得

第七十一條　證據ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外裁判所ノ直接ニ取調ヘタルモノニ限ル

第七十二條　左ニ揭クル書類圖畫ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　公判準備手續ニ於テ取調ヘタル證人ノ訊問調書

二　檢證、押收又ハ搜索ノ調書及之ヲ補充スル書類圖畫

三　公務員ノ職務ヲ以テ證明スルコトヲ得ヘキ事實ニ付公務員ノ作リタル書類

四　前號ノ事實ニ付外國ノ公務員ノ作リタル書類ニシテ其ノ眞正ナルコトノ證明アルモノ

五　鑑定書又ハ鑑定調書及之ヲ補充スル書類圖畫

第七十三條　裁判所、豫審判事、受命判事、受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署、檢事、司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調書及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

一　共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ

二　被告人又ハ證人公判外ノ訊問ニ對シテ爲シタル供述ノ重要ナル部分ヲ公判ニ於テ變更シタルトキ

三　被告人又ハ證人公判廷ニ於テ供述ヲ爲サヽルトキ

第七十四條　前二條ノ場合ノ外裁判外ニ於テ被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類又ハ裁判外ニ於テ作成シタル書類圖畫ハ供述者若ハ作成者死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ召喚シ難キトキニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十五條　證據ト爲スコトニ付訴訟關係人ノ異議ナキ書類圖畫ハ前三條ノ規定ニ拘ラス之ヲ證據ト爲スコトヲ得

第七十六條　證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ

辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第七十七條　前條ノ辯論終決後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス

第七十八條　裁判長ノ說示ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十九條　裁判長ノ問ハ主問ト補問トニ區別シ陪審ニ於テ然リ又ハ然ラスト答ヘ得ヘキ文言ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

主問ハ公判ニ付セラレタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル爲之ヲ爲スモノトス

補問ハ公判ニ付セラレタル事實ト異リタル犯罪構成事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス

犯罪ノ成立ヲ阻却スル原由ト爲ルヘキ事實ノ有無ヲ評議セシムル必要アリト認ムルトキハ其ノ問ハ他ノ問ト分別シテ之ヲ爲スヘシ

第八十條　陪審員、檢事、被告人及辯護人ハ問ノ變更ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

第八十一條　裁判長ハ問書ニ署名捺印シ之ヲ陪審ニ交付スヘシ

陪審員ハ問書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條　裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ

裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

第八十三條　陪審員ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議ヲ了ル前評議室ヲ出テ又ハ他人ト交通スルコトヲ得ス

陪審員ニ非サル者ハ裁判長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ評議室ニ入ルコトヲ得ス

第八十四條　陪審ノ答申前陪審員ヲシテ裁判所ヲ退出セシムル場合ニ於テハ裁判長ハ陪審員ニ對シ滯留ノ場所及他人トノ交通ニ關シ遵守スヘキ事項ヲ指示スヘシ

第八十五條　陪審員第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依リ指示セラレタル事項ヲ遵守セサルトキハ裁判所ハ其ノ陪審員ニ對シ職務ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得

第八十六條　陪審員ハ陪審長ヲ互選スヘシ

陪審長ハ議事ヲ整理ス

第八十七條　陪審ハ評議ヲ了ル前更ニ說示ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ公判廷ニ於テ其ノ申立ヲ爲スヘシ

第八十八條　答申ハ問ニ對シ然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ問ニ揭クル事實ノ一部ヲ肯定又ハ否定スルトキハ之ニ付然リ又ハ然ラスノ語ヲ以テ答申スヘシ

第八十九條　評議ハ先ツ主問ニ付之ヲ爲スヘシ

主問ヲ否定シタル場合ニ於テ補問アルトキハ之ニ付評議ヲ爲スヘシ

第九十條　陪審員ハ問ニ付各其ノ意見ヲ表示スヘシ

陪審長ハ最後ニ其ノ意見ヲ表示スヘシ

第九十一條　犯罪構成事實ヲ肯定スルニハ陪審員ノ過半數ノ意見ニ依ルコトヲ要ス

犯罪構成事實ヲ肯定スル陪審員ノ意見其ノ過半數ニ達セサルトキハ之ヲ否定シタルモノトス

第九十二條　答申ハ問書ニ記載シ陪審長署名捺印シテ之ヲ裁判長ニ提出スヘシ

答申ニ不備又ハ齟齬アルトキハ裁判長ハ問書ヲ返付シ更ニ評議ヲ爲シ答申ヲ訂正スヘキ旨ヲ命スヘシ

第九十三條　裁判長ハ公判廷ニ於テ裁判所書記ヲシテ問及之ニ對スル陪審ノ答申ヲ朗讀セシムヘシ

第九十四條　前條ノ手續終リタルトキハ裁判長ハ陪審員ヲ退廷セシムヘシ

第九十五條　裁判所陪審ノ答申ヲ不當ト認ムルトキハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス決定ヲ以テ事件ヲ更ニ他ノ陪審ノ評議ニ付スルコトヲ得

第九十六條　陪審犯罪構成事實ヲ肯定スルノ答申ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所前條ノ決定ヲ爲ササルトキハ檢事ハ適用スヘキ法令及刑ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第九十七條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ判決ノ言渡ヲ爲スニハ裁判所ハ陪審ノ評議ニ付シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル旨ヲ示スヘシ

有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及法令ノ適用ヲ示スヘシ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

無罪ノ言渡ヲ爲スニハ犯罪構成事實ヲ認メサルコト又ハ被告事件罪ト爲ラサルコトヲ示スヘシ

第九十八條　引續キ七日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

陪審ヲ構成スヘキ陪審員疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ補充陪審員ナキトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ新ニ陪審構成ノ手續ヲ爲スヘシ

第九十九條　裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス公訴棄却、管轄違又ハ免訴ノ裁判ヲ爲スヘキ原由アルコトヲ認メタル場合ニ於テハ陪審ノ評議ニ付セスシテ審判ヲ爲スヘシ

第百條　裁判所書記ハ陪審員ノ氏名、陪審ノ構成其ノ他陪審ニ關スル訴訟手續及裁判長ノ說示ノ要領ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三節　上訴

第百一條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス

第百二條　陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル事件ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告ヲ爲スコトヲ得

第百三條　上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得但シ事實ノ誤認ヲ理由トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサリシトキ

二　第十二條第一項第一號又ハ第十三條ノ規定ニ依リ陪審員タルコトヲ得サル者評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ第六十二條第三項ノ申立ヲ爲ササリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四　忌避セラレタル陪審員評議ニ關與シタルトキ但シ評議ヲ了ル前訴訟關係人異議ヲ述ヘサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五　裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキ

六　裁判長證據トシテ說示シタルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキ

七　裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ說示ヲ爲シタルトキ

第百五條　上告裁判所原判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ事實ノ審理ヲ爲サスシテ自ラ裁判ヲ爲ス場合ヲ除クノ外事件ヲ原裁判所ニ差戾シ又ハ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移送スヘシ

破毀ノ理由ト爲リタル事項陪審ノ評議ノ結果ニ影響ナキモノナルトキハ陪審ノ答申ハ其ノ效力ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ事件ノ差戾又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ答申以後ノ手續ノミヲ爲スヘシ

第四章　陪審費用

第百六條　左ニ揭クルモノヲ以テ陪審費用トシ訴訟費用ノ一部トス

一　陪審員ノ呼出ニ要スル費用

二　陪審員ニ給與スヘキ旅費、日當及止宿料

第百七條　陪審費用ハ第三條ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲ストキハ其ノ全部又ハ一部ヲ被告人ノ負擔トス

第五章　罰則

第百八條　陪審員ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　故ナク呼出ニ應セサルトキ

二　宣誓ヲ拒ミタルトキ

三　第八十三條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

四　故ナク退廷シタルトキ

五　第八十四條ノ指示ニ違反シタルトキ

第百九條　陪審員評議ノ顚末又ハ各員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ事項ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十條　裁判長ノ許可ヲ受ケスシテ陪審ノ評議室ニ入リ又ハ陪審ノ評議ヲ了ル前裁判所内ニ於テ陪審員ト交通シタル者ハ五百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第百十一條　陪審ノ評議ニ付セラレタル事件ニ付陪審員ニ對シ請託ヲ爲シ又ハ評議ヲ了ル前私ニ意見ヲ述ヘタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第百十二條　過料ノ裁判ハ陪審員ヲ呼出シタル裁判所檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

此ノ抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　補則

第百十三條　市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ之ヲ適用ス

第百十四條　第十二條ノ直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前公判期日ノ定リタル事件ニ付テハ本法ヲ適用セス

（昭和二年勅令第百四十四號ヲ以テ陪審法第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第二十六條、第百十三條及第百十四條ノ規定ハ昭和二年六月一日ヨリ施行）

（昭和三年勅令第百六十五號ヲ以テ昭和二年勅令第百四十四號ニ揭グル規定ヲ除クノ外昭和三年十月一日ヨリ施行）

附　則（昭和四年法律第五十一號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス

●陪審法施行規則

（昭和二年五月二十八日司法省令第十六號）
（改正　昭和三年第一八號）

陪審法施行規則

第一條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　前條ノ名簿ニハ丁數ヲ記入シ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印スヘシ

第三條　陪審員資格者名簿ノ副本ハ每年九月三十日迄ニ管轄區裁判所判事ニ送付スヘシ

第四條　陪審員資格者名簿ノ縱覽期間ニハ日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ヲ算入スルコトヲ得ス

異議ノ申立ノ期間ノ末日日曜日又ハ一般ノ休日トシテ指定セラレタル日ニ當ルトキ亦前項ニ同シ

第五條　陪審員資格者名簿縱覽ノ期間ハ其ノ初日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

第六條　陪審員資格者名簿ハ之ヲ縱覽ニ供シタル後ハ名簿中脫漏誤載等アルモ異議ノ申立又ハ區裁判所判事ノ命ニ依ル場合ノ外市町村長限リ之ヲ修正スルコトヲ得ス

第七條　市町村長陪審員資格者名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ年月日及陪審法第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ削除又ハ追加シタル旨ヲ欄外ニ朱書シ捺印スヘシ

第八條　陪審法第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ陪審員資格者名簿ヲ整理シタル後其ノ資格者中死亡シ若ハ國籍ヲ喪失シタル者アルトキ又ハ陪審法第十三條若ハ第十四條ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル者アルトキハ市町村長ハ名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入シ之ヲ管轄區裁判所判事ニ通知スヘシ

第九條　地方裁判所長ハ豫メ翌年一月乃至十二月ニ於ケル陪審事件ノ總數ヲ推算シ之ニ基キテ所要ノ陪審員ノ總數ヲ定メ各市町村ニ於ケル陪審員資格者ノ員數ニ之ヲ按分シテ各市町村ニ割當ツヘシ但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ標準ニ依リ割當ヲ爲スコトヲ得

第十條　市町村長地方裁判所長ヨリ割當テラレタル陪審員ノ員數ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者抽籤ノ場所及日時ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

市町村長ハ抽籤ノ立會人ヲ選定シ前項ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知スヘシ

立會人ハ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　陪審員候補者ノ抽籤ハ陪審員資格者名簿ニ揭クル資格者ノ番號ニ符合スル番號票ヲ作製シ之ヲ抽籤函ニ入レ攪拌シタル後一票宛抽籤函ヨリ所要員數ニ達スル迄抽出スヘシ

第十二條　第八條ニ揭クル者ハ之ヲ抽籤ヨリ除クヘシ

第十三條　抽籤函及番號票ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十四條　市町村長陪審員候補者ヲ選定シタルトキハ陪審員候補者選定錄ヲ作成スヘシ

陪審員候補者選定錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ市町村長抽籤ノ立會人ト共ニ署名捺印シ陪審員候補者名簿ノ副本ト併セテ之ヲ保存スヘシ

一　選定ノ日時及場所
二　抽籤ニ立會ヒタル立會人ノ住居氏名年齡
三　割當テラレタル陪審員候補者ノ員數
四　第十二條ニ依リ抽籤ヲ除キタル者アルトキハ其ノ氏名及事由
五　抽出シタル番號票ノ番號
六　其ノ他市町村長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十五條　市町村長ハ區裁判所判事ニ送付スルモノノ外陪審員候補者名簿ノ副本ヲ調製シ其ノ廳ニ保存スヘシ

第十六條　陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ノ原本ハ調製ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

第十七條　陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ニ付テハ第十三條ニ定ムル樣式ニ依ル抽籤函及番號票ヲ使用スヘシ

第十八條　陪審法第六十五條ノ氏名票及抽籤函ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十九條　地方裁判所長陪審法第二十六條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿ノ欄外ニ其ノ旨ヲ記入捺印シ當該陪審員候補者ハ之ヲ陪審法第二十七條及第六十一條第二項ノ抽籤ヨリ除クヘシ

第二十條　地方裁判所長陪審法第二十七條ノ規定ニ依リ陪審員ヲ選定シタルトキハ陪審員選定錄ヲ調製スヘシ

陪審員選定錄ハ每年之ヲ編綴シテ帳簿ト爲シ翌年一月一日ヨリ五年間保存スヘシ

第二十一條　地方裁判所長陪審員ノ選定手續ヲ終リタルトキハ陪審員氏名通知書ヲ作成シ之ヲ當該事件擔當ノ裁判長ニ送付スヘシ

第二十二條　陪審員選定錄及陪審員氏名通知書ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條　裁判長ハ陪審員トシテ呼出ニ應シタル者ノ氏名ヲ地方裁判所長ニ通知スヘシ

地方裁判所長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ陪審員候補者名簿中當該氏名欄ニ(出)ノ朱印ヲ押捺スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號　陪審員資格者名簿樣式（用紙美濃紙）

番號	納稅額	住居地	生年月日	職業	身分	氏名
一	圓	何郡（市）何町（村）大字何（町）何番地	何年何月何日	何々	族	何　某

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字每ニ區別シイロハ順其ノ他一定ノ順序ニ依リ記載スヘシ但シ一字若ハ數字每ニ分綴スルモ妨ナシ
二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ
三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

昭和何年九月一日現在調
陪審員資格者名簿
原（副）本
何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

此ノ名簿ハ何年何月何日ヨリ何日間何役所何町村役場ニ於テ縱覽セシメタリ
何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長何某印

第二號　陪審員候補者名簿樣式（用紙美濃紙）

陪審員資格者名簿樣式ニ同シ

備考

一　名簿ハ市ニ在リテハ町、町村ニ在リテハ大字若ハ小字每ニ區別シイロハ順其ノ他一定ノ順序ニ依リ記載スヘシ但シ一字又ハ數字每ニ分綴スルモ妨ナシ
二　番號ハ字區分ニ拘ラス之ヲ通シテ記入スヘシ
三　名簿ノ表紙及末尾ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

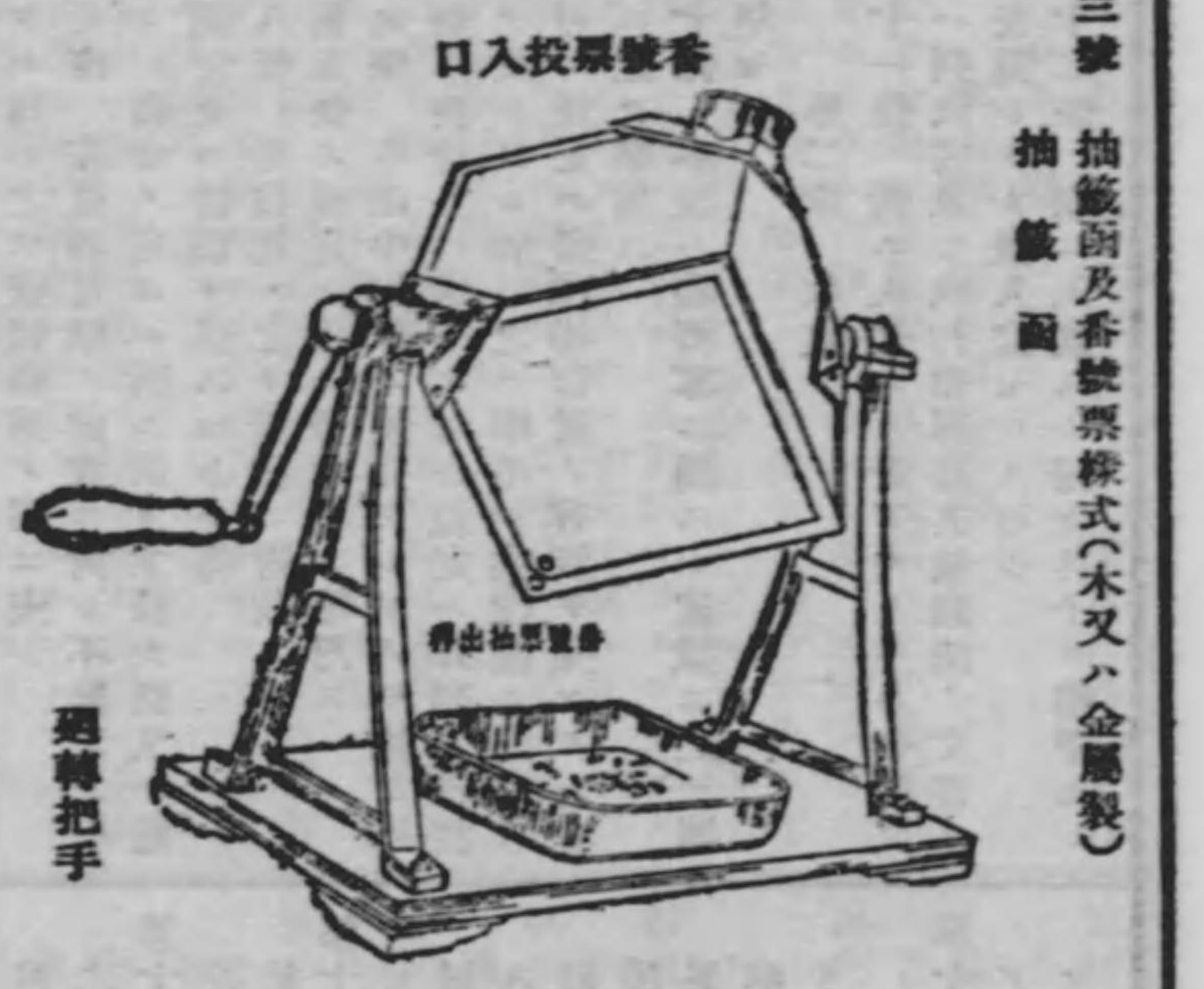
昭和何年何月何日調製
陪審員候補者名簿
原（副）本
何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）

（末尾）

何府縣（北海道）何郡（市）何町（村）長何某印

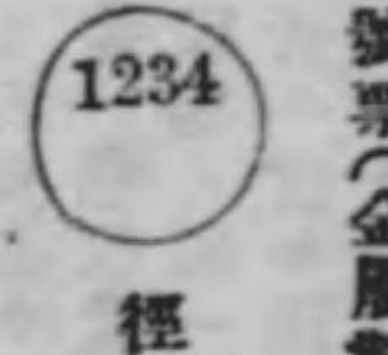
第三號　抽籤函及番號票樣式（木又ハ金屬製）

抽籤函



抽籤函ノ高、幅、横凡七寸
但大小ハ資格者ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ

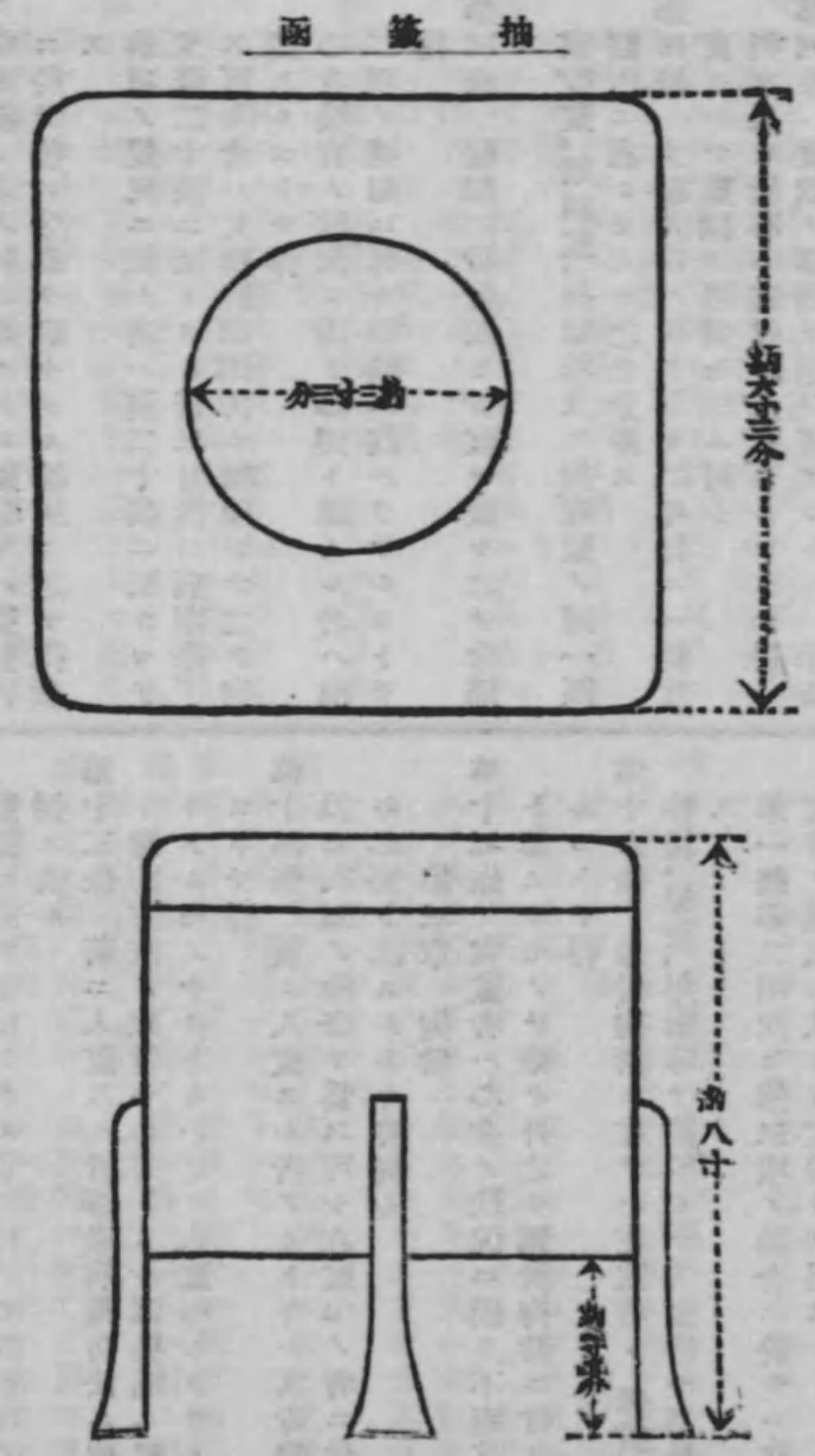
番號票（金屬製）



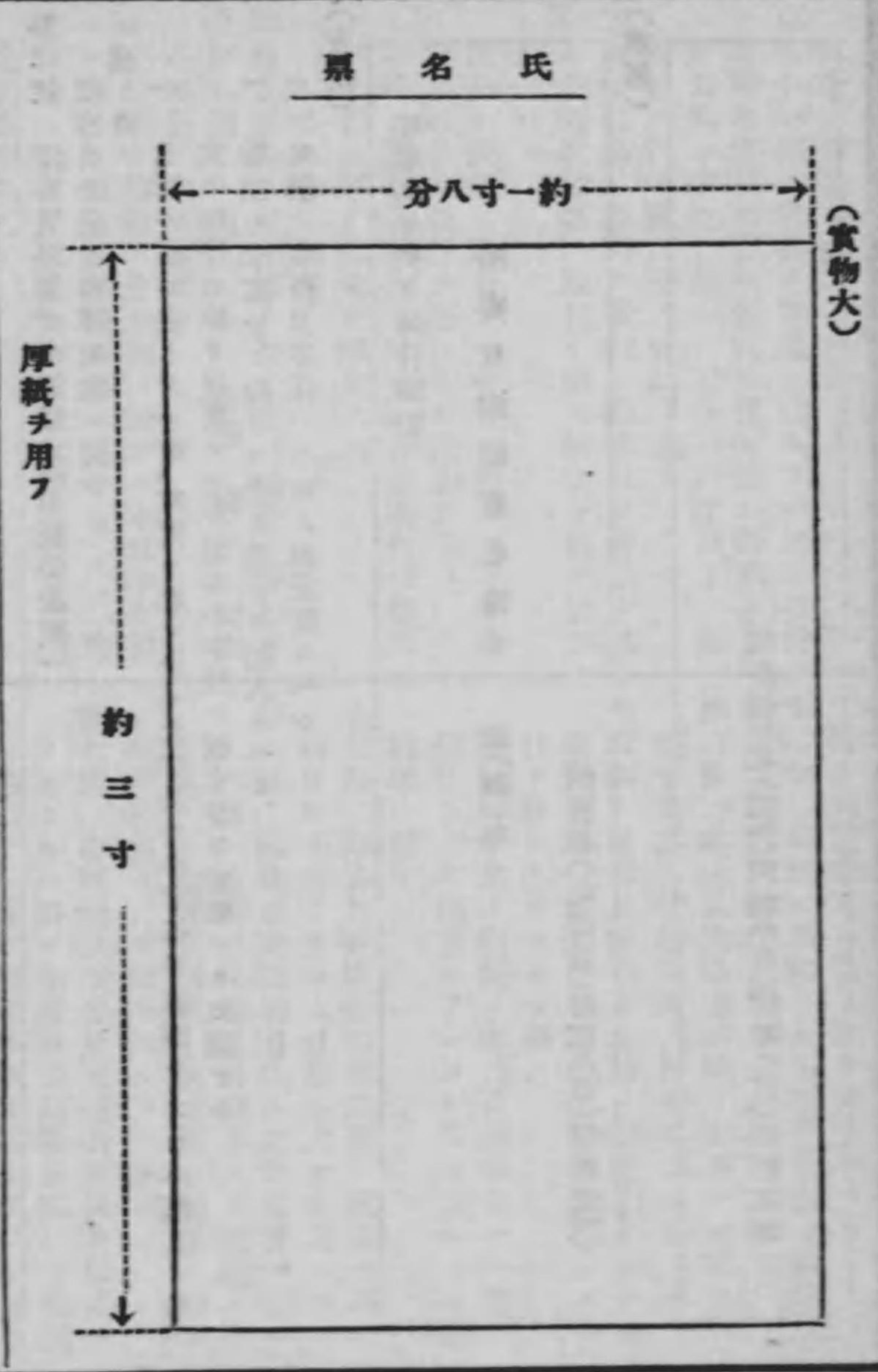
徑凡四分

第四號　氏名票及抽籤函樣式

木製タメ塗



（實物大）



厚紙ヲ用フ

●陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件（昭和二年五月二十八日勅令第百四十六號）

朕陪審法第十二條ノ直接國稅ノ種類ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

陪審法第十二條ノ規定ニ依ル內地又ハ樺太ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租
二　第三種所得稅
三　營業收益稅
四　砂鑛區稅
五　乙種資本利子稅
六　鑛業稅
七　市街宅地稅
八　漁業稅

附　則

本令ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

國稅營業稅ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ營業收益稅ト看做ス

第四章　監獄

第一款　監獄法

●監獄法（明治四十一年三月二十八日法律第二十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル監獄法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

監獄法

第一章　總則

第一條　監獄ハ之ヲ左ノ四種トス
一　懲役監　懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
二　禁錮監　禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
三　拘留場　拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
四　拘置監　刑事被告人及ヒ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ拘禁スル所トス

拘置監ニハ懲役、禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ヲ一時拘禁スルコトヲ得

警察官署ニ附屬スル留置場ハ之ヲ監獄ニ代用スルコトヲ得但懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ヲ一月以上繼續シテ拘禁スルコトヲ得ス

第二條　二月以上ノ懲役ニ處セラレタル十八歲未滿ノ者ハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄內ニ於テ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ之ヲ拘禁ス

前項ノ規定ニ依ル者ハ滿二十歲ニ至ルマテ又滿二十歲ニ至リタル後三月內ニ刑期終了ス可キ者ハ其殘刑期間仍ホ繼續シテ之ヲ拘禁スルコトヲ得

心身發育ノ狀況ニ因リ必要ト認ムル者ハ前二項ノ適用ニ付キ年齡ニ拘ハラサルコトヲ得

第三條　監獄ニ男監及ヒ女監ヲ設ケ之ヲ分隔ス

懲役監、禁錮監、拘留場及ヒ拘置監ノ同一區劃內ニ在ルモノハ之ヲ分界ス

第四條　主務大臣ハ少クトモ二年每ニ一回官吏ヲシテ監獄ヲ巡閱セシム可シ

判事及ヒ檢事ハ監獄ヲ巡視スルコトヲ得

第五條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限リ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

第六條　本法ニ依リ沒入シ又ハ國庫ニ歸屬シタル物ハ之ヲ監獄慈惠ノ用ニ充ツ

第七條　在監者監獄ノ處置ニ對シ不服アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣又ハ巡閱官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第八條　勞役場ハ之ヲ監獄ニ附設ス

前五條ノ規定ハ之ヲ勞役場ニ準用ス

第九條　本法中別段ノ規定アルモノヲ除ク外刑事被告人ニ適用ス可キ規定ハ死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用シ懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第十條　本法ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ之ヲ適用セス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者アルトキハ令狀又ハ判決書及ヒ執行指揮書其他適法ノ文書ヲ査閱シタル後入監セシム可シ

第十二條　新ニ入監スル婦女其子ヲ携帶センコトヲ請フトキハ必要ト認ムル場合ニ限リ滿一歲ニ至ルマテ之ヲ許スコトヲ得

監獄ニ於テ分娩シタル子ニ付テモ亦前項ノ例ニ依ル

第十三條　新ニ入監スル者傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹リタルモノナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

第十四條　新ニ入監スル者アルトキハ其身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ必要ト認ムルトキ亦同シ

第三章　拘禁

第十五條　在監者ハ心身ノ狀況ニ因リ不適當ト認ムルモノヲ除ク外之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第十六條　雜居拘禁ニ在テハ在監者ノ罪質、性格、犯數、年齡等ヲ斟酌シテ其監房ヲ別異ス

第一條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ依リ其監房ヲ別異ス

十八歲未滿ノ者ハ第二條第二項ノ場合ヲ除ク外十八歲以上ノ者ト其監房ヲ別異ス但心身發育ノ狀況ニ因リ其必要ナシト認ムルトキハ此限ニ在ラス

前三項ノ規定ハ工場ニ於ケル就業ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノハ互ニ其監房ヲ別異シ監房外ニ於テモ其交通ヲ遮斷ス

第十八條　懲役監、禁錮監、拘留場、拘置監及ヒ勞役場ノ同一區劃內ニ在ル場合ニ於テハ同性者ニ付キ同一ノ病監又ハ教誨堂ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ在監者ノ種類ニ因リ監房若クハ座席又ハ診察若クハ教誨ノ時間ヲ異ニス

病監ニ在テハ第二條及ヒ第十六條ヲ適用セサルコトヲ得

第四章　戒護

第十九條　在監者逃走、暴行若クハ自殺ノ虞アルトキ又ハ監外ニ在ルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

戒具ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　法令ニ依リ監獄官吏ノ携帶スル劍又ハ銃ハ左ノ各號ノ一ニ該ル場合ニ限リ在監者ニ對シ之ヲ使用スルコトヲ得
一　人ノ身體ニ對シテ危險ナル暴行ヲ爲シ又ハ爲ス可キ脅迫ヲ加フルトキ
二　危險ナル暴行ノ用ニ供シ得可キ物ヲ所持シ其放棄ヲ肯セサルトキ
三　逃走ノ目的ヲ以テ多衆騷擾スルトキ
四　逃走ヲ企テタル者暴行ヲ爲シテ捕拿ヲ免カレントシ又ハ制止ニ從ハスシテ逃走セントスルトキ

第二十一條　天災事變ニ際シ必要ト認ムルトキハ在監者ヲシテ應急ノ用務ニ就カシムルコトヲ得

前項ノ用務ニ就キタル者ニハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　天災事變ニ際シ監獄內ニ於テ避難ノ手段ナシト認ムルトキハ在監者ヲ他所ニ護送ス可シ若シ護送スルノ遑ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放セラレタル者ハ監獄又ハ警察官署ニ出頭ス可シ解放後二十四時間內ニ出頭セサルトキハ刑法第九十七條ニ依リ處斷ス

第二十三條　在監者逃走シタルトキハ監獄官吏ハ逃走後四十八時間內ニ限リ之ヲ逮捕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ刑事訴訟法第六十條ノ適用ヲ妨ケス

第五章　作業

第二十四條　作業ハ衞生、經濟及ヒ在監者ノ刑期、健康、技能、職業、將來ノ生計等ヲ斟酌シテ之ヲ課ス

十八歲未滿ノ者ニ課ス可キ作業ニ付テハ前項ノ外特ニ教養ニ關スル事項ヲ斟酌ス

第二十五條　大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ就業ヲ免ス

父母ノ訃ニ接シタル者ハ三日間其就業ヲ免ス

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時就業ヲ免スルコトヲ得

炊事、洒掃、看護其他監獄ノ經理ニ關シ必要ナル作業ニ就ク者ニ付テハ就業ヲ免セサルコトヲ得

第二十六條　刑事被告人、拘留囚又ハ禁錮囚作業ニ就カンコトヲ請フトキハ其選擇スルモノニ就キ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條　作業ノ收入ハ總テ國庫ノ所得トス

在監者ニシテ作業ニ就クモノニハ命令ノ定ムル所ニ依リ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

作業賞與金ハ行狀、作業ノ成績等ヲ斟酌シテ其額ヲ定ム

第二十八條　在監者就業ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲メニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ情狀ニ因リ手當金ヲ給スルコトヲ得

前項ノ手當金ハ釋放ノ際本人ニ之ヲ給シ死亡ノ場合ニ於テハ死亡者ノ父、母、配偶者又ハ子ニ之ヲ給ス

第六章　教誨及ヒ教育

第二十九條　受刑者ニハ教誨ヲ施ス可シ其他ノ在監者教誨ヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條　十八歲未滿ノ受刑者ニハ教育ヲ施ス可シ其他ノ受刑者ニシテ特ニ必要アリト認ムルモノニハ年齡ニ拘ハラス教育ヲ施スコトヲ得

第三十一條　在監者文書、圖畫ノ閱讀ヲ請フトキハ之ヲ許ス

文書、圖畫ノ閱讀ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　給養

第三十二條　受刑者ニハ一定ノ衣類臥具ヲ著用セシム但拘留囚ニハ自衣ノ著用ヲ許シ其他ノ者ニハ糧衣ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第三十三條　刑事被告人及ヒ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ノ衣類臥具ハ自辨トシ其自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

自辨ノ衣類臥具ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　在監者ニハ其體質、健康、年齡、作業等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及ヒ飲料ヲ給ス

第三十五條　刑事被告人ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

第八章　衞生及ヒ醫療

第三十六條　在監者ノ頭髮鬚髯ハ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得但刑事被告人ノ頭髮鬚髯ハ衞生上特ニ必要アリト認ムル場合ヲ除ク外其意思ニ反シテ之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第三十七條　在監者ハ其拘禁セラルル監房ノ清潔ヲ保ツニ必要ナル用務ニ服ス可シ

第三十八條　在監者ニハ其健康ヲ保ツニ必要ナル運動ヲ爲サシム

第三十九條　在監者ニハ種痘其他傳染病豫防ニ必要ト認ムル醫術ヲ行フコトヲ得

第四十條　在監者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療セシメ必要アルトキハ之ヲ病監ニ收容ス

第四十一條　傳染病者ハ嚴ニ之ヲ離隔シ健康者及ヒ他ノ病者ニ接近セシムルコトヲ得ス但懲役囚ヲシテ看護セシムルハ此限ニ在ラス

第四十二條　病者醫師ヲ指定シ自費ヲ以テ治療ヲ補助セシメンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第四十三條　精神病、傳染病其他ノ疾病ニ罹リ監獄ニ在テ適當ノ治療ヲ施スコト能ハスト認ムル病者ハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院ニ移送スルコトヲ得

前項ニ依リ病院ニ移送シタル者ハ之ヲ在監者ト看做ス

第四十四條　姙婦、産婦、老衰者及ヒ不具者ハ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第四十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト接見ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十六條　在監者ニハ信書ヲ發シ又ハ之ヲ受クルコトヲ許ス

受刑者ニハ其親族ニ非サル者ト信書ノ發受ヲ爲サシムルコトヲ得ス但特ニ必要アリト認ムル場合ハ此限ニ在ラス

第四十七條　受刑者ニ係ル信書ニシテ不適當ト認ムルモノハ其發受ヲ許サス

前項ニ依リ發受ヲ許サル信書ハ二年ヲ經過シタル後之ヲ廢棄スルコトヲ得

第四十八條　裁判所其他ノ公務所ヨリ在監者ニ宛テタル文書ハ披閱シテ之ヲ本人ニ交付ス

第四十九條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ前條ノ文書ハ本人閱讀ノ後之ヲ領置ス

第五十條　接見ノ立會、信書ノ檢閱其他接見及ヒ信書ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十章　領置

第五十一條　在監者ノ携有スル物ハ點檢シテ之ヲ領置ス

保存ノ價値ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解クコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ之ヲ解キタル物ニ付キ在監者相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第五十二條　在監者領置物ヲ以テ其父、母、配偶者又ハ子ノ扶助其他正當ノ用途ニ充テンコトヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第五十三條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ許スコトヲ得

在監者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ其差出人ノ氏名若クハ居所不明ナルトキ、其差入ヲ許ス可カラスト認ムルトキ又ハ在監者ニ於テ其受領ヲ拒ミタルトキハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十四條　在監者ノ私ニ所持スル物ハ之ヲ沒入又ハ廢棄スルコトヲ得

第五十五條　領置物ハ釋放ノ際之ヲ交付ス

第五十六條　死亡者ノ遺留物ハ請求ニ因リ相續人、家族又ハ親族ニ之ヲ交付ス

第五十七條　死亡者ノ遺留物ハ死亡ノ日ヨリ一年內ニ前條ニ掲ケタル者ノ請求ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

逃走者ノ遺留物ニシテ逃走ノ日ヨリ一年內

ニ居所分明セサルトキ亦同シ

第十一章　賞罰

第五十八條　受刑者改悛ノ狀アルトキハ賞遇ヲ爲スコトヲ得

賞遇ノ種類及ヒ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　在監者紀律ニ違ヒタルトキハ懲罰ニ處ス

第六十條　懲罰ハ左ノ如シ

一　叱責
二　賞遇ノ三月以内ノ停止
三　賞遇ノ廢止
四　文書、圖畫閲讀ノ三月以内ノ禁止
五　請願作業ノ十日以内ノ停止
六　自辨ニ係ル衣類臥具著用ノ十五日以内ノ停止
七　糧食自辨ノ十五日以内ノ停止
八　運動ノ五日以内ノ停止
九　作業賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削
十　七日以内ノ減食
十一　二月以内ノ輕屛禁
十二　七日以内ノ重屛禁

屛禁ハ受罰者ヲ罰室内ニ晝夜屛居セシメ情狀ニ因リ就業セシメサルコトヲ得重屛禁ニ在テハ仍ホ罰室ヲ暗クシ臥具ヲ禁ス

第一項各號ノ懲罰ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第六十一條　前條第一項第十號ノ懲罰ハ刑事被告人及ヒ十八歲未滿ノ在監者ニ之ヲ科セス

第六十二條　懲罰ニ處セラレタル者疾病其他特別ノ事由アルトキハ其懲罰ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

懲罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ其懲罰ヲ免除スルコトヲ得

第十二章　釋放

第六十三條　在監者ノ釋放ハ恩赦、職權アル者ノ命令又ハ刑期ノ終了ニ因リ關係文書ヲ査閲シテ其手續ヲ爲ス可シ

第六十四條　恩赦ヲ受ケ又ハ假出獄若クハ假出場ヲ許サレタル者ハ其裁可狀又ハ許可書ノ監獄ニ達シタル後二十四時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十五條　前條ノ場合ヲ除ク外命令ニ因リ釋放ヲ爲ス可キ者ハ命令書ノ監獄ニ達シタル後十時間内ニ之ヲ釋放ス

第六十六條　假出獄又ハ假出場ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ之ニ證票ヲ交付ス

第六十七條　假出獄ヲ許サレタル者ハ其期間左ノ規定ヲ遵守ス可シ

一　正業ニ就キ善行ヲ保ツコト
二　警察官署ノ監督ヲ受クルコト但警察官署ハ監獄ノ意見ヲ聽キ他ニ其監督ヲ委任スルコトヲ得
三　住居ヲ轉移シ又ハ十日以上旅行ヲ爲サントスルトキハ監督者ノ許可ヲ請フコト

主務大臣ハ假出獄ヲ許サレタル者ノ帝國外ニ旅行ヲ爲スヲ許スコトヲ得

第六十八條　滿期ノ者ハ其刑期終了ノ翌日午後六時マテニ之ヲ釋放ス

第六十九條　釋放セラル可キ者重キ疾病ニ罹リ監獄ニ於テ醫療中ナルトキハ其請求ニ因リ仍ホ在監セシムルコトヲ得

第七十條　釋放セラル可キ者歸住旅費若クハ相當ノ衣類ヲ有セサルトキ又ハ監獄行政ノ便宜ニ因リ移監セシメタルカ爲メ歸住旅費ノ增加ヲ要スルニ至リタルトキハ衣類又ハ旅費ヲ給與スルコトヲ得

第十三章　死亡

第七十一條　死刑ノ執行ハ監獄内ノ刑場ニ於テ之ヲ爲ス

大祭祝日、一月一日二日及ヒ十二月三十一日ニハ死刑ヲ執行セス

第七十二條　死刑ヲ執行スルトキハ絞首ノ後死相ヲ檢シ仍ホ五分時ヲ經ルニ非サレハ絞繩ヲ解クコトヲ得ス

第七十三條　在監者死亡シタルトキハ之ヲ假葬ス

死體ハ必要ト認ムルトキハ之ヲ火葬スルコトヲ得

死體又ハ遺骨ハ假葬後二年ヲ經テ之ヲ合葬スルコトヲ得

第七十四條　死亡者ノ親族故舊ニシテ死體又ハ遺骨ヲ請フ者アルトキハ何時ニテモ之ヲ交付スルコトヲ得但合葬後ハ此限ニ在ラス

第七十五條　受刑者ノ死體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ解剖ノ爲メ病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

附　則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

●監獄法施行規則

（明治四十一年六月十六日司法省令第十八號　改正　大正一〇年第一九號、一一年第一號、第一三號、第二四號、一三年第四號　昭和三年第四號）

監獄法施行規則左ノ通相定ム

監獄法施行規則

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁ス可キ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但司法大臣ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス

外國人監獄ヲ參觀スルニハ司法大臣ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其氏名、身分、職業、住所、年齡及ヒ參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知ス可シ

第四條　司法大臣ニ情願ヲ爲スニハ其旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スコトヲ要ス

情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閲スルコトヲ得ス

情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ司法大臣ニ進達ス可シ

第五條　巡閲官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得

巡閲官吏ニ情願ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其者ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置ク可シ

前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條　巡閲官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除クノ外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシム可カラス

第七條　巡閲官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ司法大臣ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閲官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其要旨ヲ記載ス可シ

第八條　情願ニ對スル裁決ハ典獄速ニ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第九條　典獄ハ毎週一回以上面接日ヲ定メ監獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付キ申立ヲ爲サンコトヲ請フ在監者ニ面接ス可シ

前項ノ申立ヲ爲サンコトヲ豫告スル者アルトキハ其氏名ヲ面會簿ニ記載シ置キ其順序ニ從ヒ面接シタル後本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ面會簿ニ記載ス可シ

第十條　本則中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用ス可キ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及ヒ領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付ス可シ

第十二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其子ヲ監獄所在地ノ市區町村役場ニ引渡ス可シ

携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許ス可カラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十三條　新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫其健康ヲ診査ス可シ

第十四條　監獄ニ於テ避病監其他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病豫防法ニ依リ豫防方法ノ施行ヲ必要トスル傳染病ニ罹ル者ト雖モ之ヲ入監セシム可シ

第十五條　監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及ヒ監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ仍ホ其事情ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第十六條　新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其旨ヲ檢事ニ通報ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ者ニ之ヲ準用ス

第十七條　新ニ入監スル者アルトキハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシム可シ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲ス可シ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及ヒ身體衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條　入監者ニハ番號ヲ付シ在監中其番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシム可シ但本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條　典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項並ニ刑期ノ起算及ヒ終了ノ日ヲ入監者ニ告知ス可シ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其結果ヲ身上票ニ記載ス可シ

前項ノ調査ヲ爲スニ付キ必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署、市區町村役場又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲ス可シ

第二十條　典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲ス可シ在監中ノ者ニ付キ亦同シ

第二十一條　新ニ入監シタル者ハ疾病其他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外三日以内之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閲讀ヲ許サス懲役囚ニハ作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十二條　入監者ノ身分帳簿、名籍原簿、在監人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以内ニ整理シ必要ナル事項ヲ記載ス可シ

在監者遵守事項ハ册子トシテ之ヲ監房内ニ備ヘ置ク可シ

第三章　拘禁

第二十三條　獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外常ニ一房ノ内ニ獨居セシム可シ

第二十四條　刑事被告人ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第二十五條　受刑者ハ本則ニ於テ特ニ規定アル場合ヲ除ク外左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

一　刑期二月未滿ノ者
二　二十五歲未滿ノ者
三　初犯ノ者
四　入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ル可ク之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖モ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條　在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ在監者ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月毎ニ其期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

第二十八條　十八歲未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十九條　典獄及ヒ監獄醫ハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノ監獄官吏ハ毎日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視ス可シ

第二十九條　典獄、監獄醫、教誨師及ヒ女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付キ亦同シ

第三十條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其觀察シタル事項ヲ典獄ニ報告ス可シ

第三十一條　第二十五條第一項及ヒ第二項ニ揭ケタル受刑者ニシテ監房不足ノ爲メ獨居拘禁ニ付スルコト能ハサルモノ及ヒ獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十二條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖モ仍ホ在房セシム可シ

第三十三條　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條　病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但看護ニ從事スルモノハ此限ニ在ラス

第三十五條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁ス可シ但療養其他已ムコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

第三十六條　雜居監房、工場、教場及ヒ教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止ス可シ

第三十七條　監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但拘置監、女監及病監ハ此限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　居房ノ前ニハ小札ヲ揭ケ在房者ノ番號ヲ記載ス可シ

第四十條　雜居監房ニハ其容積、定員及ヒ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ揭ク可シ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査ス可シ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及ヒ現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置ク可シ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其要所ヲ守衞ス可シ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニ非サレハ其授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但病監ニ在リテハ此限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構内ニ於テハ常ニ觀察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其他戒護ノ障礙ト爲ル可キ物ヲ置ク可カラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其他攀越ノ用ニ供シ得可キ物ヲ構内ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施ス可シ

第四十五條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ毎日一回監房ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十六條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及ヒ衣類ノ檢査ヲ爲サシム可シ

第四十七條　在監者ニシテ戒護ノ爲メ隔離ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付ス可シ

第四十八條　戒具ハ左ノ五種トス

一　鎭靜衣
二　防聲具
三　手錠
四　聯鎖
五　捕繩

戒具ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム

第四十九條　戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　鎭靜衣ハ暴行又ハ自殺ノ虞アル在監者、防聲具ハ制止ヲ肯ンセスシテ大聲ヲ發スル在監者、手錠及捕繩ハ暴行、逃走若クハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監外ノ作業ニ就ク受刑者ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

鎭靜衣ハ十二時間以上、防聲具ハ六時間以上之ヲ使用スルコトヲ得ス但特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後三時間毎ニ更新スルコトヲ妨ケス

護送中ノ者ニハ鎭靜衣ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條　監獄官吏在監者ニ對シテ劍又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第五十二條　典獄ハ懲役囚ニシテ受刑後三月ヲ經過シ逃走ノ虞ナキ者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシム可キモノヲ指定シ隨時消防演習ヲ爲サシム可シ

第五十三條　監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭ス可キ期間及ヒ場所ヲ告知ス可シ

第五十四條　在監者ヲ他所ニ護送ス可キ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其護送ヲ停止ス可シ

護送ヲ停止シタルトキハ其旨ヲ關係官廳ニ通報ス可シ

第五十五條　護送中ハ男女ヲ同行セシム可カラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

刑事被告人及ヒ十八歲未滿ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分ス可シ

第五十六條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及ヒ其附近ニ逃走者ノ立寄ル可キ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報ス可シ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其事實ヲ司法大臣ニ申報ス可シ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及ヒ逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報ス可シ

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ハ司法大臣之ヲ定ム

典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ作業時間ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以內短縮スルコトヲ得

教育、教誨及ヒ運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條　作業ノ種類ハ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條　在監者ニ課スル作業ハ其種類及ヒ一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知ス可シ

第六十一條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及ヒ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ム可シ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業科程トス

十八歲未滿ノ受刑者、老者、病弱者及ヒ不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付キ相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條　作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條　一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖モ作業時間內ハ繼續シテ作業ニ就カシム可シ

第六十四條　請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其作業ヲ中止シ若クハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條　典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條　刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ特別ノ事由アル場合ノ外監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但十八歲未滿ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシムルハ此限ニ在ラス

第六十七條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ每日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢査セシム可シ

第六十八條　仕上高ハ每月末日ニ其月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月每ニ其就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ム可シ

第六十九條　前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ス可シ

第七十條　左ニ揭クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一　入監シタル翌月ヨリ五月ヲ經過セサルモノ

二　釋放ノ月ニ該ルモノ

三　行狀不良ニシテ作業成績劣等ナルモノ

就業日數十五日ニ滿タサル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サヽルコトヲ得

第七十一條　作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成績、科程ノ了否ヲ斟酌シ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ計算ス可シ

第七十二條　監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ前條ニ依リ計算シタル額ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條　在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ內ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條　就業者ニハ每月十五日マテニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知ス可シ

第七十五條　作業賞與金ハ其計算高ヲ有スル者生計上必要ナキトキハ全部又ハ一部ヲ給與セサルコトヲ得

作業賞與金ハ釋放ノ際之ヲ給與ス

作業賞與金ヲ給與スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ條件ヲ指定スルコトヲ得

第七十六條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其父、母、妻若クハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求其他必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲メ特ニ必要アリト認ム可キ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其父、母、妻又ハ子ノ扶助其他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖モ之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月內ニ其居所分明セサルトキハ其計算高ヲ抹消ス可シ

第七十九條　監獄法第二十一條及ヒ第二十八條ニ依ル手當金ハ司法大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給與ス可シ

第六章　教誨及ヒ教育

第八十條　教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲ス可シ

必要アリト認ムルトキハ典獄ハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲ス可シ

第八十二條　受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ每日教誨ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條　恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲ス可シ

第八十四條　受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲ス可シ

第八十五條　監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ每日四時間以內小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應シ每日二時間以內相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十六條　文書圖畫ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條　雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三個以上ノ文書圖畫ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其册數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房內ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章　給養

第八十九條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具食器及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類

一　常衣

二　作業衣

三　襦衣

四　帶

五　褌

六　足袋

臥具

一　蒲團又ハ毛布

二　敷布

三　枕

四　蚊帳

食器

一　膳

二　飯櫃

三　椀

四　箸

五　皿

雜具

一　手巾

二　履物

三　雨具

四　冠物

前項ニ揭クル物品ノ製式ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム

足袋ハ作業又ハ衞生上必要アル者ニ限リ之ヲ交付ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

前項ニ依リ雜具ノ品目ヲ增加シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ

用紙、齒磨楊枝、齒磨粉、石鹼、妻楊枝等日常必需品ハ之ヲ給與ス

第九十條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一個トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ニ揭ケタル個數ヲ增減スルコトヲ得

前項ニ依リ個數ノ增減ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ具シ司法大臣ニ申報スヘシ

病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及ヒ雜具ノ數ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ增減スルコトヲ得

食器及ヒ日常必需品ノ數量ハ典獄ニ於テ之ヲ定ム

第九十條ノ二　監房又ハ工場內ニ備フル器具ノ品目ハ左ノ如シ

一　机

二　寢臺

三　箒

四　塵拂

五　塵取

六　布巾及ヒ雜巾

七　紙屑入レ

八　飲料水容器

九　雜用水容器

十　洗面器

十一　調髮用具

十二　唾壺

十三　便器

十四　履物箱

十五　團扇

前項ニ揭クル掃除用具ハ其用途ニ從ヒ區分ス可シ

机、寢臺、調髮用具及ヒ團扇ハ必要アル場合ニ限リ之ヲ備フ

監房及ヒ工場ニハ第一項ノ品目竝ニ數量ヲ記載シタル小札ヲ揭ク可シ

第九十一條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス

左ニ揭クル衣類臥具ハ淺葱色トス

一　刑事被告人ニ貸與スル衣類

二　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四　處遇上必要アリト認メタル受刑者ニ著用セシムル衣類

五　蒲團

第九十二條　自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衞生ニ害ナキ物ニ限ル

自辨ノ衣類臥具ノ品目及ヒ個數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條　自辨ノ衣類臥具ハ時々之ヲ交換補綴又ハ滌濯セシム可シ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ滌濯シタルトキハ其費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ

一　飯（下白米十分ノ四麥十分ノ六）　一人一回三合以下

二　菜　一人一日五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ增加スルコトヲ得

第九十五條　在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十五條ノ二　一月一日、紀元節、天長節、明治節其他特ニ司法大臣ノ指定シタル日ニ於テハ前二條ノ規定ニ拘ハラス特別ノ糧食又ハ飲料ヲ給スルコトヲ得

第九十六條　在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條　病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條　自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第百條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其檢査ヲ爲ス可シ

第百一條　雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用井シム可シ

第八章　衞生及ヒ醫療

第百二條　監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用井テ之ヲ清淨ナラシム可シ

第百三條　受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月每ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日每ニ一回之ヲ翦剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第百四條　頭髮鬚髯ヲ翦剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ

婦女ニハ香油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第百五條　在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日每ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日每ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百六條　在監者ニハ雨天ノ外每日三十分以內戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以內ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歲未滿ノモノハ少クトモ三十日每ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月每ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月每ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第百八條　十八歲未滿ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ異ニス可シ

第百九條　獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ル可ク病監內ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百十條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第百十一條　傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得

第百十二條　傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第百十三條　在監者傳染病ニ罹リタルトキハ

直ニ之ヲ隔離シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市區町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第百十四條　監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送シタル病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ニ申報ス可シ

第百十五條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ視察セシム可シ

第百十六條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第百十七條　治療ノ爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ産婆ヲ付スルコトヲ得

第百十八條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百十九條　姙婦ハ受胎後七月以上ノ者産婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及ヒ信書

第百二十條　十四歲未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以內トス

但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間內ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス但十八歲未滿ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇ヲ爲ス受刑者ノ接見度數ハ典獄ニ於テ教化上必要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ增加スルコトヲ得

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業、住所、年齡、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知ス可シ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其旨ヲ證明セシム可シ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十七條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ可シ

第百二十八條　外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス但十八歲未滿ノ受刑者又ハ之ニ準スル處遇ヲ爲ス受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ典獄ニ於テ教化上必要ト認ムル程度ヲ標準トシテ適宜之ヲ增加スルコトヲ得

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閱ス可シ

發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺ス可シ

第百三十一條　外國文ヲ用井タル信書ハ檢閱ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條　受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ休憩時間內ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ

第百三十四條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

書信用紙及ヒ封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百三十五條　在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以內本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條　信書ノ檢閱、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ

第百三十七條　信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第百三十八條　第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付ス可シ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄ス可キモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付ス可シ

第百三十九條　接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閱ノ際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第十章　領置

第百四十條　領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ

第百四十一條　金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十三條　受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢及ヒ教化上特ニ必要ト認ムル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス但自辨ヲ許シタル物ハ此限ニ在ラス

第百四十四條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類臥具、飲食物、手巾及ヒ履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ

第百四十七條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及ヒ差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査ス可シ

飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム可シ

第百四十八條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖モ携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲ス可シ

第百四十九條　飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セス

第百五十條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量竝ニ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印ス可シ

第百五十一條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遠地ニ在ルトキハ其請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百五十二條　賞遇ヲ爲ス可キ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第百五十三條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用井上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシム可シ

第百五十四條　賞遇ハ左ノ如シ

一　第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及ヒ第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛增加スルコト

二　襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三　作業ノ變更ヲ許スコト

四　第七十一條ニ依ル作業賞與金計算高ヲ賞表一箇毎ニ十分ノ二宛增加スルコト

五　特別ノ糧食及ヒ飲料ヲ給與スルコト

第百五十五條　賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ

第百五十六條　在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五圓以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一　在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二　人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿シタルトキ

三　天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百五十七條　減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十八條　懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第百五十九條　懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲ス可シ

第百六十條　懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ

戶外運動ノ停止、減食又ハ屛禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第百六十一條　減食又ハ屛禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其健康ヲ診斷セシム可シ

第百六十二條　減食又ハ屛禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

前項ニ揭ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十三條　戶外運動ノ停止、減食又ハ屛禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシム可シ

第百六十四條　懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以內ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十五條　在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第百六十六條　在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ

第十二章　釋放

第百六十七條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ハ釋放前三日以內獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲ス可シ

第百六十八條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査ス可シ

第百六十九條　典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可キ者ノ性格及ヒ行狀竝ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ

第百七十條　釋放セラル可キ者ノ領置物及ヒ作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第百七十一條　釋放ノ際著用ス可キ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若クハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ

第百七十二條　受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ

第百七十三條　受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本竝ニ行狀錄及ヒ身上調査書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ

受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲ス可シ

第百七十四條　假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ

第百七十五條　假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第百七十六條　第百七十三條及ヒ第百七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章　死亡

第百七十七條　在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視ス可シ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歷、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ

自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名竝ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第百七十八條　死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第百七十九條　受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シタル病院、學校又ハ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十條　死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ其旨ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第百八十一條　死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第百七十九條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬ス可シ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ

第百八十二條　死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ

墓標ニハ石ヲ用ウ可シ

附　則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ內仍ホ其效力ヲ有ス

●未決拘禁者ニ對スル自辨物品取扱規則

（昭和三年三月九日司法省令第一號）

未決拘禁者ニ對スル自辨物品取扱規則左ノ通定ム

未決拘禁者ニ對スル自辨物品取扱規則

第一條　刑務所長ハ營業トシテ自辨物品ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指定スルコトヲ得

第二條　刑務所長ハ必要ニ因リ司法大臣ノ認可ヲ受ケ刑務所內ニ於テ自辨物品ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指定スルコトヲ得

第三條　前條ノ場合ニ於テハ左ニ揭クル物品ニ限リ其ノ販賣又ハ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

一　菓子、果物、麵類、茶、珈琲、淸涼飲料水、仁丹其ノ他ノ淸涼劑

二　用紙、石鹼、齒磨用品、妻楊枝、文房具、書籍、郵便葉書（私製葉書及繪葉書ヲ含ム）、郵便切手、印紙、手拭、風呂敷、シヤツ類、食器及調髮用具

刑務所長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ品目ヲ增減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

第四條　刑務所長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ニ揭クル物ノ外机、座蒲團、卓子及椅子竝花卉ノ販賣又ハ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　第三條第一項第一號ニ揭ケタル物品ハ時々醫師ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ

第六條　刑務所長ハ刑務所ノ紀律又ハ衞生上必要アリト認ムルトキハ自辨物品ノ購入又ハ使用ヲ禁止シ若ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第七條　收容者第三條ニ揭ケタル自辨物品ノ購入又ハ使用ニ關シ紀律ニ違反シタルトキハ情狀ニ因リ十五日以內其ノ購入又ハ使用ヲ停止スルコトヲ得

第八條　自辨物品ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　自辨物品ノ販賣又ハ取扱ニ付テハ敏速且親切ヲ旨トスルコト

二　飲食物、食器等ハ消毒其ノ他適當ノ方法ニ依リ常ニ之ヲ淸潔ナラシムルコト

三　自家又ハ近隣ニ傳染病發生シ又ハ發生ノ疑アルトキハ速ニ其ノ旨ヲ刑務所長ニ通報スルコト

四　調理場其ノ他自辨物品ノ取扱ヲ爲ス場所ハ隨時刑務官吏ノ檢査ヲ受クルコト

五　自辨物品ノ種類、品目其ノ他ニ付テハ刑務所長ノ指示ニ從フコト

第九條　自辨物品ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ刑務所長ハ其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

●特赦免幽閉假出獄申渡方式

明治三十二年七月二十六日
內務省訓令第二十八號

【廳府縣（東京府ヲ除ク）集治監　假留監】

【監獄則施行細則第十七條】特赦免幽閉假出獄ノ申渡方式左ノ通定ム

特赦免幽閉假出獄申渡方式

第一條　特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ教誨堂又ハ多囚ヲ整列セシムルニ足ルヘキ場所ヲ以テ之ニ充テ典獄書記看守長教誨師監獄醫列席ノ上之ヲ行フヘシ但女囚ハ男囚ト之ヲ各別ニ行フヘシ

第二條　式場ニハ特赦免幽閉假出獄ヲ受クヘキ者及多囚ヲ整列セシメ典獄ヨリ一人毎ニ之ヲ言渡シ證票ヲ授與シ免幽閉假出獄者ニハ尙出獄後ノ心得方ヲ諭示スヘシ

●假出獄取締細則

明治四十一年九月十日
司法省令第二十五號（內務大臣連署）

假出獄取締細則左ノ通相定ム

假出獄取締細則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ク

第二條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ渉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

第四條　監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ監督警察官署ニ通報ス可シ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ屆出ツ可シ

第六條　假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ

住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ

但監督警察官署ノ管轄區域內ニ住居ヲ轉移スル場合ハ此限ニ在ラス

第二條及ヒ第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監獄竝ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報ス可シ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監督警察官署及ヒ監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ

第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス可シ

第十條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ屆出ツ可シ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受ケタル者アルトキハ前項ノ屆出ニハ連署ヲ要ス

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報ス可シ

第十三條　監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ發シタルトキハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十四條　監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十五條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ德望アル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察官署ニ通報ス可シ

第十六條　檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ

警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ヲ經由ス可シ

第十七條　司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若クハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシム可シ

第十八條　假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ刑事訴訟法第三百十九條第二項ニ依リ逮捕狀ヲ發ス可シ

第十九條　第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第二十條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

明治四十一年九月十八日
司法省訓令第七號
改正　明治四三年第四號
大正一二年第五號

監獄

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

第一條　假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齡、罪名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算竝ニ終了日、假出獄條件期間經過ノ日、假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態及ヒ保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ

不定期刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ刑ノ短期、長期竝ニ各其滿了ニ應當スル日ヲ記載ス可シ

第二條　假出場ノ具申書ニハ假出場ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齡、罪名、犯數、刑名、刑期、若クハ金額、刑期ノ起算及ヒ終了日、假出場ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ

第三條　監獄法施行規則第百七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附ス可キ行狀錄ハ身分帳簿乙號行狀錄最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ問答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第四條　刑期三分ノ一ヲ算出スルニハ左ノ例ニ依リ暦ニ從ヒ計算ス可シ

一　刑期三年以下ニシテ年ノミニ係ルトキハ年ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

二　刑期三年以上ニシテ年ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ其商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シテ之ヲ三分シ月ノ商ヲ得、年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

三　刑期三年以下ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先ツ年ヲ月ニ換算シ之ヲ刑期ノ月ニ加ヘテ其和ヲ三分シ因テ得タル商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

四　刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ先ツ年ヲ三分シテ年ノ商ヲ得、年ノ端數ハ之ヲ月ニ換算シ之ニ刑期ノ月ヲ加ヘ其和ヲ三分シテ月ノ商ヲ得、月ノ端數ハ次ノ方法ニ依リ計算ス

（イ）先ツ刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ暦ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

（ロ）次ニ（イ）號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ暦ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

（ハ）（ロ）號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ（イ）號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム但日ノ端數ヲ生スルトキハ商ヲ一日繰上クルモノトス

五　年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號（イ）（ロ）ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號（ハ）ノ例ニ依リ計算ス

六　月ト日トニ跨リ又ハ日ノミニ係ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前數號ノ例ニ準シ計算ス

七　刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先ツ全刑期ノ最終日ヨリ遡テ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條　假出獄ノ證票ハ別記第一號書式及ヒ第二號書式ニ依リ之ヲ作成シ假出場ノ證票ハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條　假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

少年法第十一條ノ適用ヲ受ク可キ者ニ付テハ前項ノ外尙ホ同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報ス可シ

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別記）
（第一號書式）　（用紙厚紙、紙質適宜）

（表面）

假出獄證票

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ證票記載住居ノ地）

氏　　名

年月日生

罪　名

刑名刑期

【明治】年　月　日ヨリ執行

【明治】年　月　日刑期終了

假出獄期間　年　月　日（自【明治】年月日　至【明治】年月日）

【明治】年　月　日ニ住居ノ地ニ到著ス可シ

假出獄ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

【明治】年　月　日

某監獄
典獄　氏　名　印

記事及警察官吏ノ認印

六寸五分

一尺

（裏面）

假出獄者心得事項

一　監獄ヨリ指定セラレタル日限ニ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シ此證票ニ認印ヲ受ク可シ若シ旅行數日ニ渉ルトキハ警察官署所在地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ認印ヲ受ク可シ

二　天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其虞アルトキハ遲滯ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受ク可シ此證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受ク可シ

三　正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ

四　假出獄中ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ

五　遲滯ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ屆出ツ可シ保護者アルトキハ連署ヲ要ス

六　毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前項ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ旅行ノ許可ヲ得テ同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ對シ此申述ヲ爲ス可シ

七　三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ屆出ツ可シ

八　住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請ヒ旅券ヲ受ク可シ第一第二ノ規定ハ此場合ニ之ヲ準用ス

九　帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ旅行許可ヲ請フ可シ第八ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

十　旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

右假出獄者心得事項ニ違背シタルトキ又ハ左ニ揭クル事由アルトキハ假出獄ノ處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假出獄ノ處分ヲ取消サレタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

（別記第二號書式）　（用紙厚紙、紙質適宜）

（表面）

少年假釋放證票

府縣郡市區町村番地（本籍地竝ニ證票記載住居ノ地）

氏　　名

年月日生

罪　名

刑名刑期「短期　長期」

大正　年　月　日ヨリ執行

大正　年　月　日期間滿了

假釋放期間　年　月　日（自大正年月日　至大正年月日）

大正　年　月　日ニ住居ノ地ニ到著ス可シ

假釋放ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

大正　年　月　日

何刑務所長　氏　名　㊞

記事及少年保護司又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ認印

六寸五分

一尺

少年假釋放者心得

一、表面ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到著ノ後遲滯ナク證票ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ呈示シテ認印ヲ受ク可シ

二、天災、疾病其他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ速ニ其事由ヲ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ開示シテ證票ニ認印ヲ受ク可シ

三、正業ニ就キ善行ヲ保ツ可シ

四、假釋放中ハ住居ノ地ノ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ觀察ヲ受ケ其指揮命令ニ從フ可シ

五、住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、旅行先地及ヒ旅行日數ヲ明カニシテ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ノ許可ヲ受ク可シ

六、外國ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、旅行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ少年審判所、少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ住居ノ地ノ少年刑務所、少年刑務所ナキ地ニ在リテハ住居ノ地ノ普通刑務所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受ク可シ

七、旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司、少年保護司ナキ地ニ在リテハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ニ屆出ツ可シ

右心得事項ニ違反シタルトキ又ハ左ニ揭クル事由アルトキハ假釋放處分ヲ取消サルルコトアル可シ

一　假釋放中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　假釋放前ニ犯シタル他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三　假釋放中他ノ罪ニ付罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

假釋放ノ處分ヲ取消サレタルトキハ釋放中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサルモノトス

假釋放ヲ許サレタル後其處分ヲ取消サルルコトナクシテ表記ノ假釋放期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行終リタルモノトス

（裏　面）

（第三號書式）　（用紙厚紙、紙質適宜）

假出場證票

府縣郡市區町村番地（本籍地又ハ假出場後住居ノ地）

氏　　名

年月日生

罪　名

拘留又ハ勞役場留置期間

【明治】年　月　日ヨリ執行

【明治】年　月　日滿期

假出場期間　年　月　日（ヨリ【明治】年月日　迄【明治】年月日）

假出場ヲ許サレタルヲ以テ此證票ヲ附與ス

【明治】年　月　日

某監獄

典獄　氏　　名　印

五寸五分

八寸

●警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件

（大正八年七月十七日勅令第三百五十四號）

朕警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、内務大臣副署）

警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ハ内地ニ於テハ内務大臣、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ關東長官ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年勅令第二百六十三號ハ之ヲ廢止ス

（明治三十年八月十七日内務省令第二十三號　改正　明治三二年第三三號）

警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ハ一食拾錢以下トス

（明治三十年十二月十七日内務省令第三十六號）

明治三十年省令第二十三號警察署警察分署ニ拘禁又ハ留置スル者ノ食料ニ關スル規程ハ北海道廳ニモ適用ス

（明治四十四年八月十九日朝鮮總督府訓令第六十九號　改正　大正七年第四五號、八年第三五號）

朝鮮總督府警察官署

【警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊】

【同　　分　遣　所】

留置中ノ囚人及刑事被告人ニ給與スル食料ハ一食二十錢以內ニ於テ一日三食トス但シ特別ノ事情アル場合ニハ一日一食分迄ヲ增加スルコトヲ得

（明治四十三年六月三十日總督府令第五十六號　改正　大正七年第二三號、一一年第一五二號）

警察官署ニ留置スル囚人、刑事被告人及其ノ他留置人ノ食費ハ一食八錢以內トシ知事又ハ廳長ニ於テ適宜其ノ額ヲ定ムルコトヲ得

附　則

本令ニ牴觸スル從來ノ規定ハ之ヲ廢止ス

（大正八年八月一日樺太廳令第二十二號）

警察官署ニ拘禁セラルル者ノ食料ハ一食二十五錢以下トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮監獄令

（明治四十五年三月十八日制令第十四號）

朝鮮監獄令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮監獄令

第一條　監獄ニ關スル事項ハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外監獄法ニ依ル

第二條　監獄法中主務大臣ノ職務ハ朝鮮總督之ヲ行フ

第三條　拘留監ニハ笞刑ノ執行ヲ受クヘキ者ヲ留置スルコトヲ得

第四條　新ニ入監スル者傳染病ニ罹リタル者ナルトキハ入監セシメサルコトヲ得

第五條　在監者ニハ糧食ノ自辨ヲ許スコトヲ得

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮監獄令施行規則

（明治四十五年三月三十日朝鮮總督府令第三十四號）

朝鮮監獄令施行規則左ノ通定ム

朝鮮監獄令施行規則

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁スヘキ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ男子ニハ男監、女子ニハ女監ニ限リ之ヲ許ス但シ朝鮮總督ヨリ特別ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

未成年者ニハ監獄ノ參觀ヲ許サス

外國人監獄ヲ參觀スルニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡及參觀ノ目的ヲ調査シ許可ヲ與ヘタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知スヘシ

第四條　朝鮮總督ニ情願ヲ爲スニハ其ノ旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閲スルコトヲ得ス

朝鮮總督ニ情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ進達スヘシ

第五條　巡閲官吏ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ情願ヲ爲スコトヲ得

巡閲官吏ニ情願ヲ爲サムコトヲ豫告スル者アルトキハ典獄ハ其ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置クヘシ

前條第二項ノ規定ハ本條ノ情願書ニ之ヲ適用ス

第六條　巡閲官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除クノ外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得ス

第七條　巡閲官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

第八條　巡閲官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其ノ要旨ヲ記載スヘシ

情願ニ對スル裁決ハ典獄ニ於テ速ニ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第九條　典獄ハ每週一回以上面接日ヲ定メ監

獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付申立ヲ爲サムコトヲ請フ在監者ニ面接スヘシ

前項ノ申立ヲ爲サムコトヲ豫告スル者アルトキハ其ノ氏名ヲ面會簿ニ記載シ其ノ順序ニ從ヒ面接シ本人ニ開示シタル意見ノ要旨ハ之ヲ面會簿ニ記載スヘシ

第十條　本令中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外懲役囚ニ適用スヘキ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十一條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年月日時及領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付スヘシ

第十二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其ノ子ヲ監獄所在地ノ警察官署ニ引渡スヘシ携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許スヘカラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十三條　新ニ入監スル者ハ監獄醫其ノ健康ヲ診査スヘシ

第十四條　監獄ニ於テ避病監其ノ他傳染病者ノ收容ニ適當ノ設備アルトキハ傳染病ニ罹リタル者ト雖之ヲ入監セシムヘシ

第十五條　監獄令第四條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及監獄所在地ノ警察官署ニ通報シ且其ノ事情ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第十六條　新ニ入監スル者刑事訴訟法第三百十九條第二項各號ニ該當スルモノト認ムルトキハ之ヲ入監セシメタル上監獄醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ檢事ニ通報スヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ之ヲ準用ス

第十七條　新ニ入監スル者ハ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外入浴ヲ爲サシムヘシ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及衣類ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及身體衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條　入監者ニハ番號ヲ附シ在監中其ノ番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシムヘシ但シ本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條　典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項及刑期ノ起算竝終了ノ日ヲ入監者ニ告知スヘシ

典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其ノ結果ヲ身上票ニ記載スヘシ

前項ノ調査ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ裁判所、警察官署、其ノ他ノ官廳、公署又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲スヘシ

第二十條　典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲スヘシ在監者ニ付亦同シ

第二十一條　新ニ入監シタル者ハ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外三日以內之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

前項ノ受刑者ニハ文書圖畫ノ閲讀ヲ許サス懲役囚ニハ作業ヲ課セサルコトヲ得

第二十二條　入監者ノ身分帳簿、名籍原簿、在監人人名簿及放免曆簿ハ收監後三日以內ニ之ヲ整理シ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

在監者遵守事項ハ册子トシテ之ヲ監房內ニ備ヘ置クヘシ

第三章　拘禁

第二十三條　獨居拘禁ニ付セラレタル者ハ他ノ在監者ト交通ヲ遮斷シ召喚、運動、入浴、接見、教誨、診療又ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外常ニ一房ノ內ニ獨居セシムヘシ

第二十四條　刑事被告人ハ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

第二十五條　受刑者ハ本令ニ規定スル場合ヲ除クノ外成ルヘク左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

一　刑期二月未滿ノ者

二　二十五歲未滿ノ者

三　初犯者

四　入監後二月ヲ經過セサル者

餘罪又ハ刑期限內ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ル受刑者ハ成ルヘク之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前二項ニ該當セサル受刑者ト雖之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十六條　在監者ノ精神又ハ身體ニ害アリト認ムルトキハ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月每ニ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

十八歲未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除クノ外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十八條　典獄及監獄醫ハ少クトモ三十日每ニ一回、其ノ他ノ監獄官吏ハ每日數次獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視スヘシ

第二十九條　典獄、監獄醫、教誨師及女監取締ヲ除クノ外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ノ巡視ニ付亦同シ

第三十條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其ノ視察シタル事項ヲ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條　獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムルモノハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁スヘシ

第三十二條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者作業ニ就カサルトキハ晝間ト雖仍在房セシムヘシ

第二十五條第三項ノ規定ハ夜間獨居監房ニ之ヲ準用ス

第三十三條　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ト受刑者トハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ同一ノ監房又ハ工場ニ雜居セシムルコトヲ得ス

第三十四條　病者又ハ不具者ト健康者トハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但シ看護ニ從事スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁スヘシ但シ療養其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　雜居監房、工場、教場及教誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止スヘシ

第三十七條　監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但シ拘置監、女監及病監ハ此ノ限ニ在ラス

第三十八條　雜居監房ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外之ヲ工場ニ代用スルコトヲ得ス

第三十九條　監房ノ前ニハ小札ヲ揭ケ其ノ上部ニ在房者ノ氏名、年齡、罪質、刑名、刑期、留置期間及犯數其ノ下部ニ番號及入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ蔽掩シ置クヘシ

第四十條　雜居監房ニハ其ノ容積、定員及現在人員ヲ記載シタル小札ヲ揭ケ置クヘシ

第四章　戒護

第四十一條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査スヘシ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可ヲ受クルニ非サレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第四十二條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置クヘシ若必要ニ因リ一時開放スルトキハ其ノ要所ヲ守衛スヘシ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ヲ除クノ外其ノ授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但シ病監ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其ノ他戒護ノ障礙ト爲ルヘキ物ヲ置クヘカラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其ノ他攀越ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ構內ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

第四十五條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クトモ每日一回監房ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第四十六條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及衣類ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第四十七條　在監者ニシテ戒護ノ爲離隔ノ必要アルモノハ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

第四十八條　戒具ハ左ノ六種トス

一　窄衣

二　鈦

三　手錠

四　足鎖

五　聯鎖

六　捕繩

鈦ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ纏帶セシメ纏帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ纏帶セシメ纏帶ノ所ニ下鍵シ二人每ニ連絆ス

第四十九條　戒具ハ典獄ノ命令アルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十條　窄衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、鈦ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠、足鎖及捕繩ハ暴行、逃走若ハ自殺ノ虞アル在監者、聯鎖ハ監房外ノ作業ニ就ク在監者

ニシテ必要アリト認ムルモノニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

窄衣ハ六時間以上、兩脚施鈇ハ六月以上、一脚施鈇ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣、鈇及足鎖ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條　監獄官吏在監者ニ對シ劍又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第五十二條　典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシムヘキモノヲ指定スルコトヲ得

第五十三條　監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭スヘキ時期及場所ヲ告知スヘシ

第五十四條　在監者ヲ他所ニ護送スヘキ場合ニ於テハ監獄醫ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其ノ護送ヲ停止スヘシ

護送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ關係官廳ニ通報スヘシ

第五十五條　護送中ハ男女ヲ同行セシムヘカラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スル者ニ付亦同シ

刑事被告人及十八歲未滿ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分スヘシ

第五十六條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及其ノ附近竝逃走者ノ立寄ルヘキ見込アル地方ノ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報スヘシ

第五十七條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其ノ事實ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ外逃走及逮捕ノ事實ヲ檢事ニ通報スヘシ

第五章　作業

第五十八條　在監者ノ作業時間ハ左ノ如シ

但シ典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以内之ヲ短縮スルコトヲ得

一月　十二月　七時間
二月　十一月　八時間
三月　九月　十月　九時間
四月　五月　八月　十時間
六月　七月　十一時間

教育、教誨及運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十九條　作業ノ種類ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條　在監者ニ課スル作業ハ其ノ種類及一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第六十一條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及第五十八條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ムヘシ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十八條第一項ノ作業時間ヲ以テ作業科程トス

十八歲未滿ノ受刑者、老者、病弱者及不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第六十二條　作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十三條　一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖作業時間內ハ繼續シテ作業ニ就カシムヘシ

第六十四條　請求ニ因リ作業ニ就ク者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ作業ヲ中止シ若ハ之ヲ廢止シ又ハ作業ノ種類ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十五條　典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ在監者ヲ受負作業ニ就カシムルコトヲ得

第六十六條　刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

第六十七條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢査セシムヘシ

第六十八條　仕上高ハ毎月末日ニ其ノ月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第六十一條第二項ノ作業ニ付テハ一月毎ニ其ノ就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第六十九條　前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲スヘシ

第七十條　左ニ揭クル期間ハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一　累犯ノ懲役囚ニ付テハ入監後三月間
二　監獄法第六十條第六號乃至第八號及第十號乃至第十二號ノ懲罰ニ處セラレタル者ニ付テハ其ノ執行中
三　初メテ業ニ就キタル日ヨリ現業日數三十日
四　釋放ノ日ヨリ前五日間

第七十一條　作業賞與金計算高ハ各就業者ノ成績ヲ普通ノ傭工錢ニ見積リ行狀、犯數及作業科程ノ了否ヲ斟酌シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

一　刑事被告人、拘留囚及禁錮囚ハ見積額ノ十分ノ四乃至十分ノ七
二　懲役囚ハ見積額ノ十分ノ一乃至十分ノ四

第七十二條　監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ就業ノ當日ニ限リ前條ニ揭ケタル割合ノ外見積額ノ十分ノ三以內ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條　在監者惡意又ハ重過失ニ因リ器具、製品、素品其ノ他ノ物ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ賠償ニ相當スル金額ヲ作業賞與金計算高ノ內ヨリ控除スルコトヲ得

第七十四條　就業者ニハ毎月十五日迄ニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知スヘシ

第七十五條　作業賞與金ハ就業者釋放ノ際之ヲ給與スヘシ

第七十六條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其ノ父、母、妻若ハ子ノ扶助、犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求ヲ爲ス必要アル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超エサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲特ニ必要アリト認ムヘキ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十七條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其ノ父、母、妻又ハ子ノ扶助其ノ他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十八條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走後六月內ニ其ノ居所分明セサルトキハ其ノ計算高ヲ抹消スヘシ

第七十九條　監獄法第二十一條及第二十八條ニ依リ手當金ヲ給スヘキ情狀アリト認ムルトキハ典獄ハ調査書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第六章　教誨及教育

第八十條　教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲スヘシ

典獄ハ必要アリト認ムルトキハ休業日又ハ日曜日以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及刑事被告人ニハ其ノ居所ニ就キ教誨ヲ爲スヘシ

第八十二條　受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其ノ亡父母ノ爲讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條　恩赦、假出獄若ハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其ノ式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲スヘシ

第八十四條　受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲スヘシ

第八十五條　監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以內其ノ教育ノ程度ニ應シ修身、讀書、算術、習字其ノ他必要ノ學科ヲ教授スヘシ

第八十六條　文書圖畫ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ

害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其ノ閱讀ヲ許サス

第八十七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三個以上ノ文書圖畫ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但シ字書ハ必要ニ因リ其ノ册數ヲ增加スルコトヲ得

第八十八條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其ノ監房內ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章　給與

第八十九條　在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及雜具ノ品目左ノ如シ

衣類
一　單衣
二　袷
三　綿入
四　襦衣
五　帶
六　褌
七　股引

婦女ニハ股引ニ代ヘ前垂ヲ用ヰシム

臥具
一　蒲團又ハ毛布
二　敷布
三　莚薦
四　枕
五　蚊幮

雜具
一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物

股引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限リ之ヲ交付ス

用紙ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

第九十條　在監者ノ使用ニ供スル衣類臥具及雜具ノ數ハ一人ニ付一個トス但シ蚊幮ハ此ノ限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ交付ス

用紙ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム病者ノ使用ニ供スル衣類臥具及雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ增減スルコトヲ得

已ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ第一項及第二項ニ定メタル個數ヲ增減スルコトヲ得

第九十一條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス

左ニ揭クル衣類臥具ハ淺葱色トス

一　刑事被告人ニ貸與スル衣類
二　勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類
三　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類
四　蒲團

第九十二條　自辨ノ衣類臥具ハ時季ニ適シ且監獄ノ紀律及衞生ニ害ナキ物ニ限ル

自辨ノ衣類臥具ノ品目及個數ハ典獄之ヲ定ム

第九十三條　自辨ノ衣類臥具ハ時時之ヲ交換、補綴又ハ滌濯セシムヘシ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類臥具ヲ補綴又ハ滌濯シタルトキハ其ノ費用ハ本人ノ負擔トス

第九十四條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及分量ハ左ノ如シ

一　飯（下白米十分ノ四　麥十分ノ六）　一人一回三合以下
二　菜　一人一回五錢以下

地方ノ狀況若ハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲必要アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ增加スルコトヲ得

第九十五條　在監者ニ給與スル飮料ハ白湯ヲ用ウ但シ必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條　在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條　病者ノ糧食及飮料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム

第九十八條　自辨糧食ノ種類及分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其ノ者ノ出入ヲ禁止スヘシ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第百條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其ノ檢査ヲ爲スヘシ

第百一條　雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ルヘク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用ヰシムヘシ

第八章　衞生及醫療

第百二條　監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類臥具及雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其ノ他適當ノ方法ヲ用ヰテ之ヲ清淨ナラシムヘシ

第百三條　受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ翦剃セシムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

第百四條　頭髮、鬚髯ヲ翦剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシムヘシ婦女ニハ香油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第百五條　在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及其ノ他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但シ六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月迄ハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百六條　在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以內戶外ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ但シ作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ムヘキ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以內ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百七條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歲未滿ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其ノ他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシムヘシ

第百八條　十八歲未滿ノ者ハ成ルヘク治療ノ時間及病監ニ於ケル居室ヲ其ノ他ノ者ト異ニスヘシ

第百九條　獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除クノ外其ノ監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ルヘク病監內ノ獨居監房ニ拘禁スヘシ

第百十條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其ノ地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其ノ携帶物ニハ消毒方法ヲ行フヘシ

第百十一條　傳染病豫防ノ爲必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血精注射ヲ施スコトヲ得

第百十二條　傳染病流行ノ際ニハ飮食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得

第百十三條　在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其ノ狀況ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ警察官署ニ其ノ事實ヲ通報スヘシ

第百十四條　監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送スヘキトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及移送スヘキ病院トノ協議書ヲ添ヘ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第百十五條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第百十六條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ朝鮮總督ニ其ノ旨ヲ申報スヘシ

第百十七條　治療ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ附スルコトヲ得

第百十八條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其ノ旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍檢事ニ通報スヘシ

第百十九條　姙婦ハ受胎後七月以上ノ者産婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章　接見及信書

第百二十條　十四歳未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百二十一條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但シ辯護人トノ接見ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十二條　接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第百二十三條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百二十四條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十五條　在監者ニ接見センコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齢、在監者トノ續柄及面談ノ要旨ヲ聞取リ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見者心得事項ヲ告知スヘシ

接見センコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其ノ氏名、職業及住所ノミヲ聞取リ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍其ノ旨ヲ證明セシムヘシ

第百二十六條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

在監者疾病ノ爲接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其ノ居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

第百二十七條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フヘシ

第百二十八條　外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十九條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百三十條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ

發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺スヘシ

第百三十一條　外國文ヲ用ヰタル信書ハ檢閲ノ爲在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百三十二條　受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除クノ外日曜日休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第百三十三條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書スヘシ

第百三十四條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其ノ他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

書信用紙及封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百三十五條　在監者ニ交付シタル信書及其ノ他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十六條　信書ノ檢閲、發送及交付ノ手續ハ成ルヘク速ニ之ヲ爲スヘシ

第百三十七條　信書ノ發送、交付及廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第百三十八條　第百二十九條ニ定メタル度數ヲ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其ノ受信ニ係ルモノハ假ニ身分帳簿ニ添附シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添附シ置キ廢棄スヘキモノヲ除クノ外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付スヘシ

第百三十九條　接見ノ立會及信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載スヘシ

第十章　領置

第百四十條　領置物ハ其ノ品目及數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印スヘシ

第百四十一條　金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百四十二條　在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及監獄ノ紀律ヲ害スヘキ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス

第百四十三條　受刑者ニハ法令其ノ他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢、飲食物及朝鮮總督ニ於テ認可シタル物ヲ除クノ外差入ヲ爲スコトヲ得ス但シ自辨ヲ許シタル物ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十四條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類臥具、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百四十五條　衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第百四十六條　在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業及住所ヲ調査スヘシ

第百四十七條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査スヘシ

飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシムヘシ

第百四十八條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲スヘシ

第百四十九條　飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セス

第百五十條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量竝處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

第百五十一條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受クヘキ者遠隔地ニ在ルトキハ其ノ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得

但シ遞送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百五十二條　賞遇ヲ爲スヘキ者ニ賞表ヲ付與スヘシ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第百五十三條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヰ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシムヘシ

第百五十四條　賞遇ハ左ノ如シ

一　第百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及第百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛増加スルコト

二　襯衣ノ自辨ヲ許スコト

三　作業ノ變更ヲ許スコト

四　第七十一條ニ定メタル作業賞與金計算高ノ割合ヲ賞表一箇毎ニ十分ノ一宛増加スルコト

五　賞表一箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ一回、賞表二箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ二回、賞表三箇ヲ有スル者ニハ一週間ニ三回菜ヲ増給スルコト但シ其ノ代價ハ一回三錢以下トス

第百五十五條　賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其ノ期間賞表ヲ除去スヘシ

第百五十六條　在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコトヲ得

一　在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二　人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕拿シタルトキ

三　天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百五十七條　減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十八條　懲罰事犯ニ付取調中ノ者ハ成ルヘク之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁スヘシ

第百五十九條　懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スヘシ

第百六十條　懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行スヘシ

戸外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ其ノ健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第百六十一條　減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時時其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第百六十二條　減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

前項ニ揭ケタル者ヲ移監ノ爲他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其ノ當日及護送中懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十三條　戸外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第百六十四條　懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以内ニ懲罰ノ執行ヲ開始スヘシ

收監後執行開始ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百六十五條　在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第百六十六條　在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及懲罰簿ニ記載スヘシ

第十二章　釋放

第百六十七條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ハ成ルヘク釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付諭告ヲ爲スヘシ

第百六十八條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前迄ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

第百六十九條　典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラルヘキ者ノ性格及行狀竝保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署又ハ本人ノ保護ヲ引受クヘキ者ニ通報スヘシ

第百七十條　釋放セラルヘキ者ノ領置物及作業賞與金ハ豫メ交付ノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第百七十一條　釋放ノ際著用スヘキ衣類ヲ有セサル者ニハ豫メ本人ノ領置金若ハ作業賞與金又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與スヘシ

第百七十二條　受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其ノ歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシムヘシ

第百七十三條　受刑者ニ付假出獄ヲ許スヘキ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及執行指揮書ノ謄本竝行狀錄及身上調査書類ヲ添ヘ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第百七十四條　假出獄ニ因リ釋放スヘキ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付スヘシ

第百七十五條　假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ申報スヘシ

第百七十六條　第百七十三條及第百七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章　死亡

第百七十七條　在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其ノ死體ヲ檢視スヘシ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歷、死因及死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名スヘシ

自殺其ノ他變死ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及立會者ノ官氏名竝檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百七十八條　死亡者ノ病名、死因及死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報スヘシ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍檢事ニ通報スヘシ

第百七十九條　受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲官公立ノ病院、學校又ハ其ノ他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖其ノ後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料スヘキトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百八十條　死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲送付シタルトキハ其ノ旨ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百八十一條　死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第百七十九條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬スヘシ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ遺骨ニ付亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツヘシ

第百八十二條　死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツヘシ

墓標ニハ石ヲ用ウヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄取締規則

（明治四十五年三月二十日朝鮮總督府令第三十三號）

假出獄取締規則左ノ通定ム

假出獄取締規則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察署（警察分署【及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊憲兵分遣所】ヲ含ム以下同シ）ノ監督ヲ受ク

第二條　典獄假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ其ノ旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及監督警察署ニ通報スヘシ

釋放セラルヘキ者ニ交付スル證票ニハ住居ノ地及監督警察署ニ到著スヘキ期限ヲ定メ之ヲ記載スヘシ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者ハ前條ニ依リ證票ニ記載セラレタル期限迄ニ監督警察署ニ出頭シ[illegible]

天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサル[illegible]キハ遲滯ナク其ノ事由ヲ[illegible]ニ具申シ[illegible]

前項ノ證[illegible]

第四條　假出獄ヲ[illegible]督警察署[illegible]立テ之ヲ[illegible]

假出獄ヲ[illegible]者アルト[illegible]

第五條　監督警察署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保持セシムル爲必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命[illegible]轄スル地[illegible]通報スヘシ

第六條　監督警察署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勤惰、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付キ調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第七條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ[illegible]シタル監[illegible]ニ之ヲ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日前條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者轉住又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ旅行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　轉住又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタ

ルトキハ監督警察署ハ旅券ヲ交付スヘシ但シ監督警察署ノ管轄區域内ニ轉住又ハ旅行スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條第二項及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　轉住ヲ許可シタルトキハ監督警察署ハ其ノ旨ヲ第二條第一項ノ檢事、釋放シタル監獄竝新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事及警察署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察署ニ送致スヘシ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ轉住又ハ旅行ヲ中止シタルトキ亦同シ

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察署及釋放シタル監獄ヲ經由シテ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

警察署及監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第十三條　朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察署ハ其ノ證明書ヲ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監督警察署ハ其ノ旨ヲ第二條第一項ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第十四條　朝鮮外ニ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタル者轉住又ハ旅行ヲ中止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第十五條　朝鮮外ニ旅行シタル者住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

朝鮮外ニ轉住シタル者再ヒ朝鮮ニ來リタルトキハ遲滯ナク住居ヲ定メ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條　前二條ノ屆出ヲ受ケタル警察署ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ且第二條第一項ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第十七條　檢事及警察署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ朝鮮總督ニ報告スヘシ

警察署ノ爲ス報告ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢事ヲ經由スヘシ

第十八條　朝鮮總督假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地又ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院若ハ地方法院支廳ノ檢事又ハ其ノ在監スル監獄ニ通報シテ其ノ執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシムヘシ

第十九條　假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ刑事訴訟法第三百十九條第三項ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第二十條　第十八條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其ノ旨ヲ第二條第一項ノ檢事、監督警察署及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

第二十一條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察署ハ之ヲ第二條第一項ノ檢事及釋放シタル監獄ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第二十二條　本令ニ依リ交付スヘキ證明書及旅券ハ別記樣式ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年統監府令第十九號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式（第三條及第九條ニ依リ交付スルモノ）用紙寸法適宜

假出獄者滯在證明書

本籍

住所（假出獄後住居ノ地）

氏名　年　月　日生

一滯在ノ事由
一滯在ノ場所
一滯在地ニ到著シタル　年　月　日
一滯在期間

假出獄取締規則第　條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

年　月　日

警察署名

官　氏　名　印

第二號樣式（第九條ニ依リ轉住者ニ交付スルモノ）用紙鳥ノ子竪五寸横七寸

假出獄者旅券

本籍

住所（假出獄後住居ノ地）

氏名　年　月　日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】　年　月　日　至【明治】　年　月　日
一轉住許可　年　月　日
一移轉先地名

【明治】　年　月　日迄ニ移轉先ニ到著スヘシ

假出獄取締規則第八條ニ依リ此ノ旅券ヲ交付ス

年　月　日

警察署名

官　氏　名　印

注意事項

一移轉先ニ到著シタルトキハ（何）日以内ニ監督警察署ニ出頭シ此ノ旅券ヲ納付スヘシ
一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受ケ移轉先ニ到著ノ上監督警察署ニ提出スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一轉住ヲ止メタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ

第三號樣式（第九條ニ依リ旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

假出獄者旅券

本籍

住所（假出獄後住居ノ地）

氏名　年　月　日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】　年　月　日　至【明治】　年　月　日
一旅行許可　年　月　日
一行先地名
一出發　年　月　日

【明治】　年　月　日迄ニ（行先地）ニ到著シ同　年　月　日迄ニ歸著スヘシ

假出獄取締規則第八條ニ依リ此ノ旅券ヲ交付ス

年　月　日

警察署名

官　氏　名　印

注意事項

一途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申シ證明書ヲ受ケ歸著ノ上監督警察署ニ提出スヘシ
一此ノ旅券ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察官署ニ具申スヘシ
一旅行ヲ止メ又ハ歸著シタルトキハ遲滯ナク此ノ旅券ヲ還納スヘシ

第四號樣式（第十三條ニ依リ朝鮮外轉住者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

證明書

本籍

住所（假出獄後住居ノ地）

氏名　年　月　日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】　年　月　日　至【明治】　年　月　日
一轉住許可　年　月　日
一移轉先地名
一出發　年　月　日

【明治】　年　月　日迄ニ（何地「最終地點」）ヲ出發スヘシ

假出獄取締規則第十二條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

年　月　日

警察署名

官　氏　名　印

注意事項

一朝鮮內旅行途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申スヘシ
一朝鮮內ニ於テ此ノ證明書ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一轉住ヲ止メタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ
一再ヒ朝鮮ニ來リタルトキハ遲滯ナク住居ヲ定メ其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

第五號樣式（第十三條ニ依リ朝鮮外旅行者ニ交付スルモノ）用紙寸法同上

證明書

本籍

住所（假出獄後住居ノ地）

氏名　年　月　日生

一罪名
一刑名刑期
一假出獄期間　年　月　日　自【明治】　年　月　日　至【明治】　年　月　日
一旅行許可　年　月　日
一旅行ノ事由
一行先地名
一旅行日數
一出發　年　月　日

【明治】　年　月　日迄ニ（何地「最終地點」）ヲ出發スヘシ

假出獄取締規則第十二條ニ依リ此ノ證明書ヲ交付ス

年　月　日

警察署名

官　氏　名　印

注意事項

一朝鮮內旅行途中天災、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ豫定ノ旅行ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ最寄ノ地ノ警察官ニ具申スヘシ
一朝鮮內ニ於テ此ノ證明書ヲ毀損亡失シタルトキハ速ニ所在地ノ警察署ニ具申スヘシ
一旅行ヲ止メ又ハ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ監督警察署ニ屆出ツヘシ

●臺灣監獄令（明治四十一年八月二十八日律令第十號）

改正　明治四三年第四號　大正九年第一六號、一五年第九號

臺灣監獄令明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

臺灣監獄令

第一條　監獄ニ關スル事項ハ監獄法ニ依ル

第二條　本島人又ハ支那人タル男在監者ノ頭髮ハ習慣ニ依リ辮髮セシム但シ衞生其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　臺東、花蓮港、澎湖ノ各廳及恆春郡ニ於テハ犯罪即決例ニ依リ刑ヲ言渡シタル者及勞役場留置ニ處シタル者ヲ其ノ即決官署ノ留置場ニ拘禁スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ懲役ト雖定役ニ服セシメサルコトヲ得

第四條　削除

第五條　監獄法中主務大臣ノ職務ハ臺灣總督之ヲ行フ

第六條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣監獄則ハ之ヲ廢止ス

●臺灣監獄令施行規則

（明治四十一年九月二日臺灣總督府令第四十七號　改正　大正六年第二六號、九年第七一號、一〇年第八二號、一一年第九七號、第一三六號、一三年第七號、一五年第四號）

臺灣監獄令施行規則左ノ通相定ム

臺灣監獄令施行規則

第一章　總則

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ニ依リ拘禁スヘキ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ニ依リ監獄ニ拘禁シタル者ハ刑事被告人ニ準ス

第二條　監獄ノ參觀ハ未成年者ニハ之ヲ許サス

女監ノ參觀ハ男子ニ、男監ノ參觀ハ女子ニハ之ヲ許サス

第三條　監獄ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ典獄ハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡及參觀ノ目的ヲ調査スヘシ

參觀ヲ許シタル者ニハ參觀者心得事項ヲ告知スヘシ

第四條　第二條及第三條第一項ノ規定ハ特ニ臺灣總督ヨリ監獄ノ參觀ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ適用セス

第五條　在監者ニシテ臺灣總督ニ情願ヲ爲サムトスル者アルトキハ其ノ旨趣ヲ記載シタル書面ヲ差出サシムヘシ

情願書ハ本人ヲシテ之ヲ封緘セシメ監獄官吏ハ之ヲ披閲スルコトヲ得ス

情願書ヲ差出シタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ臺灣總督ニ進達スヘシ

第六條　在監者ニシテ巡閲官吏ニ情願ヲ爲サムトスル者アルトキハ其ノ氏名ヲ情願簿ニ記載シ置クヘシ

前項ノ情願ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得書面ヲ以テ爲ス場合ニハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第七條　巡閲官吏情願ヲ聽クニハ必要アル場合ヲ除ク外監獄官吏ヲシテ之ニ立會ハシムヘカラス

第八條　巡閲官吏情願ヲ審査シタルトキハ自ラ裁決ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ裁決ヲ乞フコトヲ得

巡閲官吏自ラ裁決ヲ爲シタルトキハ情願簿ニ其ノ要旨ヲ記載スヘシ

第九條　情願ニ對シ裁決アリタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第十條　在監者ニシテ監獄ノ處置又ハ一身ノ事情ニ付申立ヲ爲サムコトヲ請フ者アルトキハ典獄ハ之ニ面接スヘシ

前項ノ申立者アルトキハ其ノ氏名ヲ面會簿ニ記載シ置キ面接後本人ニ開示シタル意見ノ要旨ヲ之ニ記入スヘシ

第十一條　本令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外懲役囚ニ適用スヘキ規定ハ勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

第二章　收監

第十二條　新ニ入監スル者ヲ領收シタルトキハ入監者ノ氏名、領收ノ年、月日時及領收官吏ノ氏名ヲ記載シタル領收書ヲ護送者ニ交付スヘシ

第十三條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其ノ子ヲ監獄所在地ノ廳支廳又ハ市、街、庄ニ引渡スヘシ

携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シ又ハ他ニ在監ヲ許スヘカラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第十四條　新ニ入監スル者アルトキハ監獄醫員其ノ健康ヲ診査シ之ヲ健康診斷簿ニ記入スヘシ

第十五條　監獄法第十三條ニ依リ入監セシメサル場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ入監ヲ指揮シタル官廳及監獄所在地ノ廳郡、支廳又ハ警察官署ニ通報シ仍其ノ事情ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

第十六條　新ニ入監スル者刑事訴訟法第五百四十四條及第五百四十六條各號ノ一ニ該當スルトキハ調査書類又ハ監獄醫員ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ檢察官若ハ卽決官ニ通知スヘシ

第十七條　新ニ入監スル者アルトキハ疾病其ノ他已ムコトヲ得サル場合ヲ除ク外入浴ヲ爲サシムヘシ

婦女ノ入浴ニハ女監取締之ニ立會ヒ婦女ノ身體及衣類ノ檢査ハ女監取締之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ在監中ノ婦女ノ入浴及身體、衣類ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第十八條　入監者ニハ番號ヲ附シ在監中其ノ番號票ヲ上衣ノ襟又ハ胸部ニ附著セシムヘシ但シ本人監外ニ在ル間ハ番號票ヲ除去セシムルコトヲ得

第十九條　典獄ハ在監者ノ遵守スヘキ事項竝刑期ノ起算及終了ノ日ヲ入監者ニ告知スヘシ

在監者遵守事項ハ冊子ト爲シ之ヲ監房内ニ備ヘ置クヘシ

第二十條　典獄ハ入監者ノ身上ニ關スル事情ヲ調査シ其ノ結果ヲ身上票ニ記載スヘシ

前項ノ調査ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ他ノ官署公署又ハ本人ニ緣故アル者ニ照會ヲ爲スヘシ

第二十一條　典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ入監者ノ撮影ヲ爲スヘシ在監中ノ者ニ付亦同シ

第二十二條　入監者ノ身分帳、在監者名簿及放免解簿ハ收監後三日以内ニ整理スヘシ

第三章　拘禁

第二十三條　刑事被告人ハ成ルヘク之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

受刑者ニシテ餘罪又ハ刑期限内ノ犯罪ニ因リ審問中ニ在ルトキ亦同シ

第二十四條　受刑者ハ本令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外成ルヘク左ノ順序ニ從ヒ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

一　刑期二月未滿ノ者
二　二十五歲未滿ノ者
三　初犯ノ者
四　入監後二月ヲ經過セサル者

獨居監房ニ殘餘アルトキハ前項ニ該當セサル受刑者ト雖之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得

第二十五條　精神又ハ身體ニ害アリト認ムル在監者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十六條　獨居拘禁ノ期間ハ二年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後六月每ニ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ妨ケス

十八歲未滿ノ者ハ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除ク外六月以上繼續シテ之ヲ獨居拘禁ニ付スルコトヲ得ス

第二十七條　典獄、監獄醫員及敎誨師ハ少クモ十日ニ一回其ノ他ノ監獄官吏ハ每日一回以上獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視スヘシ

第二十八條　典獄、監獄醫員、敎誨師及女監取締ヲ除ク外監獄官吏ハ單獨ニテ獨居拘禁ニ付セラレタル婦女ヲ巡視スルコトヲ得ス夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル婦女ヲ巡視ニ付亦同シ

第二十九條　獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ヲ巡視シタル監獄官吏ハ其ノ視察シタル事項ヲ典獄ニ報告スヘシ

第三十條　獨居拘禁ノ期間滿了後必要アリト認ムル者ハ之ヲ夜間獨居監房ニ拘禁スヘシ

第三十一條　夜間獨居監房ニ拘禁セラレタル者ニシテ作業ニ就カシメサルトキハ晝間ト雖仍在房セシムヘシ

第三十二條　病者又ハ不具者ト健康者トハ之ヲ同一監房ニ拘禁スルコトヲ得ス但シ看護ニ從事スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　雜居監房ニハ三人以上ヲ拘禁スヘシ但シ療養其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　雜居監房、工場、敎場及敎誨堂ニ於テハ在監者ノ席次ヲ定メ交談ヲ禁止スヘシ

第三十五條　監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但シ拘置監、女監及病監ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　監房ノ前ニハ小札ヲ揭ケ其ノ上部ニ在房者ノ氏名、年齡、罪質、刑名、刑期、留置期間及犯數其ノ下部ニ番號及入監ノ年月日ヲ記載シ上部ハ之ヲ蔽掩シ置クヘシ

第三十七條　雜居監房ニハ其ノ現在人員ヲ記載シタル小札ヲ揭クヘシ

第四章　戒護

第三十八條　監獄ニ於テハ出入ノ警戒ヲ嚴ニシ必要アリト認ムルトキハ出入者ノ携帶品ヲ檢査スヘシ

開監前閉監後ハ典獄ノ許可アルニアラサレハ監獄官吏以外ノ者ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第三十九條　監獄ノ外門、各出入口、監房、工場及現ニ在監者ヲ拘禁スル場所ハ之ヲ閉鎖シ置クヘシ若シ必要ニ因リ一時開放スルトキハ其ノ要所ヲ守衞スヘシ

鑰匙ハ一定ノ監獄官吏之ヲ保管シ必要アル場合ニアラサレハ其ノ授受ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條　監獄官吏ハ典獄ノ命令アルニアラサレハ他ノ監獄官吏ノ立會ナクシテ監房ヲ開扉シ又ハ在監者ヲ出房セシムルコトヲ得ス但シ病監ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　監獄ノ構內ニ於テハ常ニ視察ノ便ヲ計リ觀望ヲ妨ケ其ノ他戒護ノ障礙ト爲ルヘキ物ヲ置クヘカラス

已ムコトヲ得サル場合ニ於テ梯子其ノ他攀越ノ用ニ供シ得ヘキ物ヲ構內ニ置クトキハ之ニ鎖鑰ヲ施スヘシ

第四十二條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ少クモ每日一回監房ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第四十三條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ工場又ハ監外ヨリ還房スル在監者ノ身體及衣類ノ檢査ヲ爲サシムヘシ

第四十四條　戒護ノ爲離隔ノ必要アル在監者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付スヘシ

第四十五條　戒具ハ左ノ六種トス

一　窄衣
二　鈦
三　手錠
四　足鎖
五　聯鎖
六　捕繩

鈦ヲ使用スルニハ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ之ニ貫キ腰間ニ線帶セシメ線帶ノ所ニ下鍵ス

聯鎖ヲ使用スルニハ之ヲ腰間ニ線帶セシメ線帶ノ所ニ下鍵シ二人每ニ連絆ス

第四十六條　戒具ハ典獄ノ命令アルニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十七條　窄衣ハ危險ナル暴行ヲ爲ス懲役囚、鈦及足鎖ハ逃走又ハ暴行ノ虞アル懲役囚、手錠及捕繩ハ暴行、逃走若ハ自殺ノ虞アル在監者又ハ護送中ノ在監者、聯鎖ハ監房外ノ作業ニ就ク懲役囚ニシテ必要アリト認ムル者ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

窄衣ハ六時間以上、兩脚施鈦ハ六月以上、一脚施鈦ハ一年以上繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得ス

護送中ノ者ニハ窄衣、足鎖及鈦ヲ使用スルコトヲ得ス

第四十八條　監獄官吏在監者ニ對シテ劍又ハ銃ヲ使用シタルトキハ典獄ハ直ニ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

第四十九條　典獄ハ刑期一年以上ノ懲役囚ニシテ刑期ノ半ヲ經過シタル者ノ中ニ就キ豫メ消防ノ用務ニ就カシムヘキモノヲ指定スルコトヲ得

第五十條　監獄法第二十二條ニ依リ在監者ヲ解放スルトキハ出頭スヘキ期間及場所ヲ告知スヘシ

第五十一條　在監者ヲ他所ニ護送スヘキ場合ニ於テハ監獄醫員ヲシテ之ヲ診斷セシメ健康ニ害アリト認ムルトキハ其ノ護送ヲ停止スヘシ

護送ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ關係官廳ニ通報スヘシ

第五十二條　護送中ハ男女ヲ同行セシムヘカラス刑事被告人ニシテ被告事件ノ相關連スルモノ亦同シ

刑事被告人及十八歲未滿ノ者ハ護送ノ際他ノ在監者ト區分スヘシ

第五十三條　在監者逃走シタルトキハ典獄ハ速ニ監獄所在地及其ノ附近竝逃走者ノ立寄ルヘキ見込アル地方ノ廳郡、支廳又ハ警察官署ニ逃走者ノ人相書ヲ添ヘ逃走ノ事實ヲ通報スヘシ

第五十四條　前條ノ場合ニ於テハ典獄ハ其ノ事實ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ逃走者ヲ逮捕シタルトキ亦同シ

逃走者刑事被告人ナルトキハ前項ノ報告ヲ爲ス外逃走及逮捕ノ事實ヲ檢察官ニ通報スヘシ

第五章　作業

第五十五條　在監者ノ作業時間ハ臺灣總督之ヲ定ム

典獄ハ地方ノ狀況、監獄ノ構造又ハ作業ノ種類ニ因リ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ作業時間ヲ伸縮スルコトヲ得

請求ニ因リ作業ニ就ク者ノ作業時間ハ二時間以內短縮スルコトヲ得

敎育、敎誨及運動ニ要スル時間ハ之ヲ作業時間ニ通算スルコトヲ得

第五十六條　作業ノ種類ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第五十七條　在監者ニ課スル作業ハ其ノ種類及一日ノ科程ヲ指定シ之ヲ本人ニ告知スヘシ

第五十八條　作業科程ハ普通一人ノ仕上高及第五十五條第一項ノ作業時間ヲ標準トシテ等一ニ之ヲ定ムヘシ

仕上高ヲ標準トスルコト能ハサル作業ニ付テハ第五十五條第一項ノ作業時間ヲ以テ作[illegible]科程トス

十八歲未滿ノ受刑者、老者、病弱者及不具者ハ前二項ニ依ラス各就業者ニ付相當ノ作業科程ヲ定ムルコトヲ得

第五十九條　作業時間ノ全部ヲ通シテ就業セシムルコト能ハサル作業ハ之ヲ他ノ作業ト併課スルコトヲ得

第六十條　一日ノ作業科程ヲ終了シタル者ト雖作業時間內ハ繼續シテ作業ニ就カシムヘシ

第六十一條　請求ニ因ル就業者ニハ正當ノ事由アルニアラサレハ其ノ作業ノ中止、廢止若ハ變更ヲ許サス

第六十二條　刑事被告人ハ之ヲ監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス

刑期六月ニ滿タス又ハ受刑後三月ヲ經過セサル受刑者ハ特別ノ事由アル場合ノ外監外ノ作業ニ就カシムルコトヲ得ス但シ十八歲未滿ノ受刑者ヲ監外ノ農業ニ就カシムルハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條　典獄ハ監獄官吏ヲシテ每日一回各就業者ニ就キ作業ノ成績ヲ檢査セシムヘシ

第六十四條　仕上高ハ每月末日ニ其ノ月分ヲ積算シ一日ノ平均高ト一日ノ科程トヲ對照シ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第五十八條第二項ノ作業ニ付テハ一月每ニ其ノ就業時間ヲ積算シ前項ノ例ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定ムヘシ

第六十五條　前條ニ依リ作業科程ノ了否ヲ定メタルトキハ作業賞與金ノ計算ヲ爲スヘシ

第六十六條　左ニ揭クル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲サス

一　入監シタル翌月ヨリ二月ヲ經過セサルモノ
二　釋放ノ月ニ該ルモノ
三　行狀不良ニシテ作業成績劣等ナルモノ

就業日數十五日ニ滿タサル者ニハ作業賞與金ノ計算ヲ爲ササルコトヲ得

第六十七條　作業賞與金ハ行狀、性向、作業ノ種類、成績、科程ノ了否ヲ斟酌シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ計算スヘシ

第六十八條　監獄法第二十五條第四項ニ依リ作業ニ就キタル者ニハ前條ニ依リ計算シタル額ヲ增加スルコトヲ得

第六十九條　就業者ニハ每月十五日迄ニ前月分ノ作業賞與金計算高ヲ告知スヘシ

第七十條　作業賞與金ハ釋放ノ際之ヲ給與ス

作業賞與金ヲ給與スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ條件ヲ指定スルコトヲ得

作業賞與金ハ其ノ計算高ヲ有スル者生計上必要ナキトキハ全部又ハ一部ヲ給與セサルコトヲ得

第七十一條　十圓以上ノ作業賞與金計算高ヲ有スル受刑者其ノ父、母、妻若ハ子ノ扶助、

犯罪被害者ニ對スル賠償又ハ書籍ノ購求其ノ他必要アル場合及作業ノ成績特ニ優良ナル者ニ對シテハ情狀ニ因リ在監中ト雖作業賞與金計算高ノ三分ノ一ヲ超過セサル金額ヲ給スルコトヲ得

受刑者ノ爲特ニ必要アリト認ムヘキ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依ラス之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十二條　作業賞與金計算高ヲ有スル刑事被告人其ノ父、母、妻又ハ子ノ扶助其ノ他正當ノ費用ヲ要スル場合ニ於テハ情狀ニ因リ在監中ト雖之ニ作業賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七十三條　作業賞與金計算高ヲ有スル在監者逃走若ハ死亡シタルトキハ其ノ計算高ヲ抹消スヘシ但シ死亡ノ場合ハ情狀ニ因リ其ノ父、母、妻又ハ子ノ扶助ノ爲其ノ計算高ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得

第七十四條　監獄法第二十一條及第二十八條ニ依リ手當金ヲ給スヘキ情狀アリト認ムルトキハ典獄ハ調査書類ヲ添ヘ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ具申スヘシ

第六章　教誨及教育

第七十五條　教誨ハ休業日又ハ日曜日ニ於テ之ヲ爲スヘシ

必要アリト認ムルトキハ前項以外ノ日ニ於テモ教誨ヲ爲スコトヲ得

第七十六條　病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及刑事被告人ニハ其ノ居所ニ就キ教誨ヲ爲スヘシ

第七十七條　受刑者父母ノ訃ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ教誨ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其ノ亡父母ノ爲讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十八條　恩赦、假出獄若ハ假出場ノ申渡ヲ爲ストキハ其ノ式場ニ成ルヘク他ノ受刑者ヲ集メテ教誨ヲ爲スヘシ

第七十九條　受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲スヘシ

第八十條　監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施スヘキ受刑者ニハ毎日四時間以内其ノ教育ノ程度ニ應シ修身、讀書、算術、習字其ノ他必要ノ學科ヲ教授スヘシ

第八十一條　文書圖畫ノ閲讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限リ之ヲ許ス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記載シタルモノハ其ノ閲讀ヲ許サス

第八十二條　獨居拘禁ノ在監者ニハ同時ニ三種以上ノ文書圖畫ヲ閲讀セシムルコトヲ得ス但シ字書ハ此ノ限ニ在ラス

第八十三條　獨居拘禁ノ在監者ニハ情狀ニ因リ其ノ監房内ニ於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章　給養

第八十四條　在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類
一　單衣
二　給
三　襦衣
四　帶
五　褌（内地人ニ限ル）
六　袴（内地人婦女作業ニ就ク場合ハ前垂トス）

臥具
一　毛布
二　茣蓙
三　敷布（病者ニ限ル）
四　枕
五　蚊幮

雜具
一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物
五　櫛
六　髮尾（辮髮用）
七　足布（纏足用）

前項ノ外必要アリト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ其ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

用紙ハ別ニ之ヲ給與シ作業ニ就ク者ニハ別ニ作業衣一組ヲ貸與ス

第八十五條　在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及雜具ノ數ハ一人ニ付一箇トス但シ茣蓙、蚊幮及敷布ハ數人ニ一箇ヲ毛布ハ一人ニ五枚以内ヲ使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ病者ニ對シテハ必要ニ因リ之ヲ增減スルコトヲ得

用紙ノ數量ハ適宜之ヲ定ム

第八十六條　受刑者ニ著用セシムル衣類ハ赭色トス

左ニ揭クル衣類ハ淺葱色トス
一　刑事被告人及勞役場留置者ニ貸與スル衣類
二　十八歲未滿ノ受刑者ニ著用セシムル衣類
三　處遇上必要ト認メタル受刑者ニ著用セシムル衣類

第八十七條　在監者ノ使用ニ供スル衣類ハ通常服ト就業服トニ別チ總テ筒袖トス

本島人及【淸國人】ノ衣類ハ本島ノ製ニ準シ外國人ノ衣類ハ洋服ノ製ニ準ス

第八十八條　自辨ノ衣類、臥具ハ紀律及衛生ニ害ナキ物ニ限ル其ノ品目及箇數ハ典獄之ヲ定ム

第八十九條　自辨ノ衣類、臥具ヲ監獄ニ於テ補綴又ハ滌濯シタル費用ハ本人ノ負擔トス

第九十條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及分量ハ左ノ如シ
一　飯（下白米七合甘藷三百匁）　一人一回三合以下
二　菜　一人一日三錢以下

地方ノ狀況若ハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲必要アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ爲必要アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ糧食ヲ增給スルコトヲ得

第九十一條　在監者ニ給與スル飲料ハ白湯トス但シ特ニ必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十二條　在監者ニハ酒類、煙草又ハ阿片ヲ用フルコトヲ許サス

第九十三條　病者ノ糧食及飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十四條　自辨糧食ノ種類及分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十五條　自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其ノ者ノ出入ヲ禁止スヘシ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第九十六條　自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫員之ヲ檢査スヘシ

第八章　衛生及醫療

第九十七條　衣類、臥具及雜具ハ期限ヲ定メ蒸氣其ノ他適當ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ淸淨ナラシムヘシ

第九十八條　受刑者ノ頭髮ハ少クモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クモ十日毎ニ一回之ヲ翦剃セシムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ翦剃セシムルコトヲ得ス

婦女ノ頭髮ハ特ニ必要アルトキハ膏油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第九十九條　在監者ノ入浴度數ハ作業ノ種類及其ノ他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但シ五月ヨリ十月マテハ三日毎ニ一回、十一月ヨリ四月マテハ五日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第百條　在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシムヘシ但シ作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ムヘキ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付シタル者ニ限リ一時間迄ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第百一條　獨居拘禁ニ付シタル在監者ニシテ十八歲未滿ノ者ハ少クモ三十日毎ニ一回、其ノ他ノ者ハ少クモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付シタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノ者ハ少クモ六月毎ニ一回監獄醫員ヲシテ其ノ健康ヲ診斷セシメ之ヲ健康診斷簿ニ記入スヘシ

第百二條　十八歲未滿ノ者ハ其ノ他ノ者ト治

療ノ時間及病監ニ於ケル居室ヲ異ニスヘシ

第百三條　獨居拘禁ニ付シタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其ノ監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ成ルヘク病監内ノ獨居監房ニ拘禁スヘシ

第百四條　傳染病流行ノ兆アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又ハ其ノ地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其ノ携帶物ニハ消毒ヲ爲スヘシ

第百五條　傳染病豫防ノ爲必要アリト認ムルトキハ在監者ニ種痘又ハ血精注射ヲ施スコトヲ得

第百六條　傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得

第百七條　在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒ヲ爲シ其ノ狀況ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ廳、郡、支廳、市、街、庄又ハ警察官署ニ其ノ事實ヲ通報スヘシ

第百八條　監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送スヘキトキハ典獄ハ監獄醫員ノ診斷書及移送スヘキ病院トノ協議書ヲ添ヘ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第百九條　在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其ノ狀況ヲ視察セシムヘシ

第百十條　病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ臺灣總督ニ其ノ旨ヲ申報スヘシ

第百十一條　治療ノ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫員ニアラサル醫師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ付スルコトヲ得

第百十二條　在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其ノ旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍檢察官ニ通報スヘシ

第九章　接見及信書

第百十三條　十四歲未滿ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第百十四條　接見ノ時間ハ三十分以内トス但シ辯護人トノ接見ハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條　接見ハ執務時間内ニアラサレハ之ヲ許サス

第百十六條　接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第百十七條　典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百十八條　在監者ニ接見セムコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業、住所、年齡、在監者トノ續柄及面談ノ要旨ヲ聞取ルヘシ

接見ノ許可ヲ與ヘタル者ニハ接見心得事項ヲ告知スヘシ

接見者辯護人ナルトキハ其ノ氏名、職業及住所ノミヲ聞取リ法院ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍其ノ旨ヲ證明セシムヘシ

第百十九條　接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

在監者疾病ノ爲接見室ニ行クコト能ハサルトキハ其ノ居所ニ於テ接見セシムルコトヲ得

第百二十條　接見ニハ監獄官吏之ニ立會フヘシ

第百二十一條　外國語ハ典獄ノ許可アルニアラサレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第百二十二條　接見者面談要旨ニ違ヒタル談話ヲ爲シ又ハ姿態其ノ他ノ形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

第百二十三條　受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十四條　在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閲スヘシ

發信ハ封緘ヲ爲サスシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開披シ檢印ヲ押捺スヘシ

第百二十五條　外國文ヲ用ヒタル信書ハ檢閲ノ爲在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其ノ負擔ヲ肯セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第百二十六條　受刑者ノ發送スル信書ハ日曜日、休業日又ハ休憩時ニ於テ之ヲ作成セシムヘシ但シ急速ヲ要スルモノト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十七條　在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書スヘシ

第百二十八條　在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス

法院其ノ他ノ公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

書信用紙及封筒ハ監獄ニ於テ之ヲ給與スルコトヲ得

第百二十九條　在監者ニ交付シタル信書及其ノ他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第百三十條　信書ノ發送、交付及廢棄ノ年月日並其ノ要旨ハ之ヲ一定ノ帳簿ニ記載スヘシ

第百三十一條　第百二十三條ニ定メタル度數ニ超エタル信書ニシテ發信ニ係ルモノハ直ニ本人ニ還付シ受信ニ係ルモノハ別ニ保管シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付スヘシ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳ニ添附シ置キ廢棄スヘキモノヲ除ク外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付スヘシ

第百三十二條　接見ノ立會及信書ノ檢閲ノ際行刑上參考ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ其ノ要旨ヲ本人ノ身分帳ニ記載スヘシ

第十章　領置

第百三十三條　領置物ハ其ノ品目及數量ヲ領置金品ノ基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印スヘシ

第百三十四條　金錢ニアラサル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第百三十五條　在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及監獄ノ紀律ヲ害スヘキ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得ス

第百三十六條　受刑者ニハ法令其ノ他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便端書、金錢及臺灣總督ニ於テ認可シタル物ヲ除ク外差入ヲ爲スコトヲ得ス但シ自辨ヲ許シタル物ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十七條　刑事被告人ニハ前條ニ揭ケタル物ノ外衣類、臥具、飲食物、手巾及履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第百三十八條　差入ノ衣類、臥具ニ付テハ第八十八條差入ノ飲食物ニ付テハ第九十四條ノ規定ヲ準用ス

第百三十九條　在監者ニ差入ヲ爲サムコトヲ請フ者アルトキハ其ノ氏名、身分、職業及住所ヲ調査スヘシ

第百四十條　在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及差入ヲ爲シタル物ハ監獄監吏立會ノ上看守之ヲ檢査スヘシ

飲食物ノ檢査ニハ仍監獄醫員ヲシテ立會ハシムヘシ

第百四十一條　自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セサルトキト雖携有物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ飲食物ニ付テハ之ヲ適用セス

第百四十二條　沒入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ沒入廢棄簿ニ品目、數量並處分ヲ爲シタル理由及年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印スヘシ

第百四十三條　死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受クヘキ者遠地ニ在ルトキハ請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ其ノ代金ヲ送付スルコトヲ得但シ送致費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章　賞罰

第百四十四條　賞遇ヲ爲スヘキ者ニハ賞表ヲ付與スヘシ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得ス

第百四十五條　賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用ヒ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著セシムヘシ

第百四十六條　賞遇ハ左ノ如シ
一　第百十六條ニ定メタル接見ノ度數及第百二十三條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛增加スルコト
二　第六十七條ニ定メタル作業賞與金計算高ヲ賞表一箇毎ニ十分ノ一宛增加スルコト
三　特別ノ糧食及飲料ヲ給與スルコト

第百四十七條　賞遇ヲ廢止シタル者ニハ賞表ヲ褫奪シ賞遇ヲ停止シタル者ニハ其ノ期間賞表ヲ除去スヘシ

第百四十八條　在監者左ノ各號ニ該當スル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞金ヲ給スルコ

トヲ得

一　在監者ノ逃走セムトスルヲ密告シタルトキ

二　人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セムトスル者ヲ捕拿シタルトキ

三　天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第百四十九條　減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

第百五十條　懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スヘシ

第百五十一條　懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行スヘシ

減食又ハ屏禁ニ處シタル者ニ付テハ監獄醫員ヲシテ診斷セシメ其ノ健康ニ害ナシト認メタルトキニアラサレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得ス

第百五十二條　減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫員ヲシテ時時其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第百五十三條　減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ヲ法院ノ呼出ニ因リ出頭セシムルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、當日及護送中懲罰ノ執行ヲ停止スヘシ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第百五十四條　減食又ハ屏禁ニ處シタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫員ヲシテ其ノ健康ヲ診斷セシムヘシ

第百五十五條　懲罰ニ處シ其ノ執行ヲ終ラサル者ノ移送ヲ受ケタルトキハ收監後三日以内ニ其ノ懲罰ノ執行ヲ開始スヘシ

第百五十六條　在監者護送ノ途中ニ於テ紀律ニ違ヒタルトキハ受領シタル監獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第百五十七條　在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳及懲罰簿ニ之ヲ記載スヘシ

第十二章　釋放

第百五十八條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付諭告ヲ爲スヘシ

第百五十九條　刑期ノ終了ニ因リ釋放セラルヘキ受刑者ニ付テハ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査スヘシ

第百六十條　釋放セラルヘキ者ニ付典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ其ノ性格、行狀及保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ廳、部、支廳、市、街、庄又ハ警察官署又ハ本人ノ保護ヲ引受クヘキ者ニ通報スヘシ

第百六十一條　釋放セラルヘキ者疾病其ノ他ノ事故ニ因リ歩行ニ差支アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ之ヲ監獄所在地ノ廳、支廳又ハ市、街、庄ニ引渡スヘシ

第百六十二條　釋放セラルヘキ者著衣ヲ有セサルトキハ豫メ本人ノ領置金若ハ作業賞與金又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與スヘシ

第百六十三條　假出獄ヲ許スヘキ者アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書ノ謄本又ハ抄本及執行指揮書ノ謄本竝行狀錄及身上調査書類ヲ添ヘ臺灣總督ニ具申スヘシ

第百六十四條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ典獄ハ一定ノ式ニ依リ釋放ノ申渡ヲ爲シ且證票ヲ交付スヘシ

第百六十五條　假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該當スルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

第百六十六條　第百六十三條及第百六十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出場ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章　死亡

第百六十七條　在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其ノ死體ヲ檢視スヘシ

病死ノ場合ニ於テハ監獄醫員ハ其ノ病名、病歷、死因及死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名スヘシ

自殺其ノ他變死ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ廳ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及立會者ノ官氏名竝檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百六十八條　死亡者ノ病名、死因及死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報スヘシ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍檢察官ニ通報スヘシ

第百六十九條　受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲官公立ノ病院、學校又ハ其ノ他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖其ノ後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料スヘキトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第百七十條　死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲送付シタルトキハ其ノ旨ヲ死亡帳ニ記載スヘシ

第百七十一條　死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第百六十九條ノ場合ヲ除ク外之ヲ監獄ノ墓地ニ假葬スヘシ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ遺骨ニ付亦同シ

假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツヘシ

第百七十二條　死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニ墓標ヲ立ツヘシ

墓標ニハ石ヲ用フヘシ

附　則

本令ハ臺灣監獄令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣監獄則施行細則及明治三十二年二月府令第十號ハ之ヲ廢止ス但シ懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

●臺灣假出獄取締細則

（明治四十一年九月十六日臺灣總督府令第五十四號）
改正　大正九年第六五號、一二年第八七號

臺灣假出獄取締細則左ノ通相定ム

臺灣假出獄取締細則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル廳、郡、支廳又ハ警察官署ノ監督ヲ受ク

第二條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ刑務所ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載スヘシ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受クヘシ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ廳、郡、支廳又ハ警察官署ニ申出テ證明ヲ受クヘシ

第四條　假出獄ヲ許サレタル者アルトキハ刑務所長ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル法院ノ檢察官及監督官署ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル檢察官、監督官署ハ假出獄者名簿ヲ調製シ其ノ者ノ假出獄中ニ於ケル一切ノ關係事項ヲ記入スヘシ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督官署ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ届出ヘシ

第六條　假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ監督官署ノ許可ヲ請フヘシ

旅行ヲ許可シタルトキハ監督官署ハ旅券ヲ交付スヘシ此ノ場合ニハ第二條及第三條ノ規定ヲ準用ス

第七條　住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督官署ハ其ノ旨ヲ第四條ノ刑務所長、檢察官竝轉移地ヲ管轄スル廳、郡、支廳又ハ警察官署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新監督官署ニ送致スヘシ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督官署及證票ヲ交付シタル刑務所ヲ經由シテ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

監督官署及刑務所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付スヘシ

第六條ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタル者アルトキハ監督官署ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官ニ通報スヘシ

第十條　旅行ヲ許サレタル者住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督官署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク監督官署ニ職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ヘシ若シ保護引受人アルトキハ之ニ連署スヘシ

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其ノ結果ヲ申述スヘシ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル廳、郡、支廳又ハ警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ官署ハ監督官署ニ申述ノ要旨ヲ通報スヘシ

第十三條　監督官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第十四條　監督官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ證票ヲ交付シタル刑務所ニ通報スヘシ

第十五條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル刑務所長ノ意見ヲ聽キ街庄長、出獄人保護事業ニ從事スル者其ノ他適當ナル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ毎月末日第十四條ニ掲ケタル事項ヲ監督官署ニ通報スヘシ

第十六條　檢察官廳、郡、支廳又ハ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ臺灣總督ニ申報スヘシ

廳、郡、支廳又ハ警察官署ノ爲ス申報ハ住居ノ地ヲ管轄スル法院ノ檢察官ヲ經由スヘシ

第十七條　臺灣總督ニ於テ假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在地又ハ住居ノ地ヲ管轄スル法院ノ檢察官又ハ其ノ在監スル刑務所ニ通報シテ其ノ執行ヲ爲サシム

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシム

第十八條　假出獄ノ處分ヲ取消サレタル者在監者ニアラサルトキハ檢察官ハ刑事訴訟法第三百十九條第三項ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十九條　第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢察官又ハ刑務所ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官、監督官署及證票ヲ交付シタル刑務所ニ通報スヘシ

第二十條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督官署ハ之ヲ第四條ノ檢察官及證票ヲ交付シタル刑務所ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル刑務所ハ其ノ旨ヲ臺灣總督ニ申報スヘシ

第二十一條　帝國内ト雖本島外ノ住居轉移及旅行ニ關シテハ當分ノ内第八條乃至第十條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ假出獄中ノ者ニモ仍本令ヲ適用ス

●體刑囚人處遇規則

（明治三十七年六月二十二日臺灣總督府令第五十五號）

體刑囚人處遇規則左ノ通相定ム

體刑囚人處遇規則

第一條　體刑囚人ニ關スル處遇ハ此ノ規則ニ定ムルモノヲ除クノ外臺灣監獄則及同施行細則ノ規程ヲ準用ス

第二條　體刑囚人刑ノ執行ヲ終リタルトキハ直ニ之ヲ釋放スヘシ

第三條　體刑囚人ハ自由刑囚人ト其ノ監房ヲ區別スヘシ

第四條　刑ノ執行ヲ猶豫シタル體刑囚人ニシテ作業ヲ爲サント請フ者アルトキハ監房内ニ於テ坐作ノ業ヲ許スコトヲ得但シ工錢ヲ給スルノ限ニ在ラス

第五條　體刑囚人ノ衣類臥具ハ總テ自辨トシ其ノ種類品數等ハ監獄長之ヲ指定ス但シ汚損其ノ他衞生上ニ害アリト認ムルトキ又ハ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與スヘシ

前項ニ依リ貸與スル衣類ハ赭色トス

第六條　體刑囚人ニシテ糧食ノ自辨ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許スヘシ

第七條　體刑囚人ニ其ノ親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其ノ他必要ノ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許スヘシ新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノ其ノ他檢束上差支アリト認ムルモノハ前項ノ限ニ在ラス

第八條　刑ノ執行ヲ猶豫シタル體刑囚人獄則ヲ犯シタルトキハ其ノ輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處斷スルコトヲ得但シ刑ノ執行ニ著手スルトキハ其ノ一日前ニ於テ之ヲ停止スヘシ

減食　一週日以内
一回ノ糧食ヲ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ス

●關東州監獄令

（大正十二年十月二十七日勅令第四百六十一號）

朕關東州監獄令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理大臣副署）

關東州監獄令

第一條　關東州ニ於テ監獄ニ關スル事項ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外監獄法ニ依ル但シ同法中主務大臣トアルハ關東長官、裁判所トアルハ關東廳法院、判事トアルハ關東廳法院判官、檢事トアルハ關東廳法院檢察官トス

第二條　拘置監ニハ笞刑ノ執行ヲ受クヘキ者ヲ留置スルコトヲ得

第三條　新ニ入監スル者關東長官ノ指定スル傳染病ニ罹リタル者ナルトキハ之ヲ入監セシメサルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州監獄令施行規則

（大正十二年十月二十七日關東廳令第五十五號）
改正　昭和三年第四八號

關東州監獄令施行規則左ノ通定ム

關東州監獄令施行規則

第一條　關東州ニ於ケル監獄ノ事務ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外明治四十一年司法省令第十八號監獄法施行規則（第五十二條、第五十八條第一項第二項、第八十九條、第九十四條及第百六十九條ヲ除ク）ニ依ル但シ同規則中司法大臣トアルハ關東長官、裁判所トアルハ關東廳法院、檢事トアルハ關東廳法院檢察官トス

第二條　新ニ入監スル婦女ニ子ノ携帶ヲ許ササル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキハ其ノ子ヲ監獄所在地ノ民政署ニ引渡スヘシ携帶ヲ許シタル子カ滿一歲ニ達シタルトキ又ハ在監ヲ許スヘカラサル事情アル場合ニ於テ相當ノ引取人ナキトキ亦同シ

第三條　關東州監獄令第三條ノ傳染病トハ傳染病豫防規則第一條ノ定ムル傳染病ヲ謂フ

第四條　監獄外ノ作業ニ從事セシムルトキハ戒具トシテ足鎖ヲ用ウルコトヲ得

第五條　在監者ノ作業時間左ノ如シ但シ典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ監外作業ニ限リ一時間以内之ヲ短縮スルコトヲ得

一月 十二月	六時三十分間
二月 十一月	七時三十分間
三月 十月	八時三十分間
四月 九月	九時三十分間
五月 八月	十時間
六月 七月	十時三十分間
九月	九時間

第六條　在監者ノ使用ニ供スル衣類、臥具及雜具ノ品目ハ左ノ如シ

衣類
一　單衣
二　袷
三　綿入
四　襦衣
五　胴著
六　帶
七　褌
八　股引
九　前垂
十　外套
十一　足袋
十二　手袋

臥具
一　蒲團又ハ毛布
二　敷布
三　枕
四　蚊帳

雜具
一　手巾
二　雨具
三　冠物
四　履物
五　肩當
六　前掛
七　脇當
八　胸當
九　齒磨楊枝
十　櫛
十一　靴（纏足用）

股引又ハ前垂ハ作業外ニ於テモ著用セシムルコトヲ得

用紙及齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ハ之ヲ給與

ス

典獄ハ必要アリト認ムルトキハ關東長官ノ認可ヲ受ケ糧具ノ品目ヲ增加スルコトヲ得

第七條　在監者ニ給與スル糧食ノ種類及分量ハ左ノ如シ

一　飯　下白米十分ノ二　粟十分ノ八　一人一回三合以下

一　菜　一人一回五錢以下

經濟上其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ關東長官ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類又ハ分量ヲ變更スルコトヲ得

第八條　典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラルヘキ者ノ性格及行狀竝保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場、民政署、民政支署又ハ本人ノ保護ヲ引受クヘキ者ニ通報スヘシ

附　則

本令ハ關東州監獄令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄取締規則

（大正十三年三月十六日　關東廳令第十四號）

假出獄取締規則左ノ通定ム

假出獄取締規則

第一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受ク

第二條　假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ典獄ハ住居ノ地ニ到著スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載スヘシ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日迄ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ認印ヲ受クヘシ若シ旅行日數ニ涉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其ノ警察官署ニ出頭シ認印ヲ受クヘシ

第三條　假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受クヘシ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受クヘシ

第四條　典獄證票ヲ交付シタルトキハ其ノ旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢察官又ハ地方裁判所ノ檢事及刑ノ言渡ヲ爲シタル法院ノ檢察官又ハ裁判所ノ檢事竝監督警察官署ニ通報スヘシ

第五條　假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未滿ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ監督警察官署ニ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ届出ツヘシ

第六條　假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

住居ノ轉移又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付スヘシ

但シ監督警察官署ノ管轄區域內ニ住居ヲ轉移スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條　住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官又ハ檢事、監獄竝新ナル住居地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及警察官署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致スヘシ

第八條　假出獄ヲ許サレタル者關東州及南滿洲鐵道附屬地外ノ地ニ轉住又ハ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、轉住地又ハ行先地及旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ

監督警察官署及監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第六條第二項及第三項ノ規定ハ第一項ノ轉住又ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　假出獄ヲ許サレタル者前條ニ依リ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官又ハ檢事ニ通報スヘシ

第十條　假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滯ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納スヘシ轉住又ハ旅行ヲ止メタルトキ亦同シ

關東州及南滿洲鐵道附屬地外ノ地ニ轉住シタル者再ヒ關東州及南滿洲鐵道附屬地內ニ轉住シタルトキハ遲滯ナク住居ヲ定メ監督警察官署ニ届出ツヘシ

第一項ノ場合ニ於テ其ノ轉住又ハ旅行カ第八條ニ依リ關東長官ノ許可ヲ受ケタルモノナルトキ及第二項ノ場合ハ監督警察官署ハ其ノ旨ヲ關東長官ニ報告シ且第四條ノ檢察官又ハ檢事及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第十一條　假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滯ナク監督警察官署ニ職業其ノ他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツヘシ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受ケタル者アルトキハ前項ノ届書ニハ連署ヲ要ス

第十二條　假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其ノ結果ヲ申述スヘシ

旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滯在スルトキハ滯在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報スヘシ

第十三條　監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ、善行ヲ保タシムル爲、必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ヲ發シタルトキハ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院檢察官及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第十四條　監督警察官署ハ六月每ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ良否、職業ノ種別及勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其ノ他ノ事項ニ付調査書ヲ作リ之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢察官及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第十五條　假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル典獄ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、敎師又ハ德望アル者ニ委任スルコトヲ得

前項ニ依リ委任ヲ受ケタル者ハ每月末日第十四條ニ揭ケタル事項ヲ監督警察官署ニ通報スヘシ

第十六條　檢察官及警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ關東長官ニ申報スヘシ

警察官署ノ爲ス申報ハ地方法院ノ檢察官ヲ經由スヘシ

第十七條　關東長官假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方法院ノ檢察官、地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ其ノ在監スル監獄ニ通報ス

前項ノ場合ニ於テハ證票ヲ還納セシムヘシ

第十八條　假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢察官ハ刑事訴訟法第五百四十七條ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十九條　第十七條ノ通報ニ因リ執行ヲ爲シタル檢察官又ハ典獄ハ其ノ旨ヲ第四條ノ檢察官又ハ檢事、監督警察官署及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

第二十條　假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ第四條ノ檢察官又ハ檢事及證票ヲ交付シタル監獄ニ通報スヘシ

前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其ノ旨ヲ關東長官ニ申報スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　囚人及刑事被告人押送

●囚人及刑事被告人押送規則

（明治三十年十一月二十六日　勅令第四百十五號）

朕囚人及刑事被告人押送規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（內務大臣副署）

囚人及刑事被告人押送規則

第一條　囚人及刑事被告人ノ押送ハ警察署又ハ警察分署ノ遞傳ニ付スルモノトス但シ十里以內ノ押送汽車汽船ノ便アル地方間ノ押送又ハ一時多數ノ囚人若ハ刑事被告人ノ押送其ノ他特別ノ事情アル場合ハ本項ニ依ラサルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ看守長看守又ハ憲兵下士卒ヲシテ押送セシムルコトヲ得

第二條　同一廳府縣內ニ在ル監獄間囚人ノ押送ハ看守長看守ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ但シ十里以外ノ押送ハ前條ニ依リ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一、物品ハ押送者ニ託シテ之ヲ押送ス但シ危險ノ虞アル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此ノ限ニ在ラス

二、貨幣ハ押送者ニ託セス保管金寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亙ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アル場合ハ押送者ニ託スルコトヲ得

第四條　前條ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第五條　押送者ノ旅費竝ニ囚人及刑事被告人ノ押送費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其ノ經費ヲ以テ支辨ス但シ他廳府縣ヨリ囚人ノ送還ヲ求メタル場合ニ於テハ其ノ押送費用ハ送還ヲ求メタル廳府縣ノ經費ヨリ支辨ス

集治監ニ於テ執行スヘキ刑ノ確定判決ヲ受ケタル囚人ニ係ル押送費用ハ【在府縣獄囚徒費】ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　被押送者ノ宿泊費額ハ警察署又ハ警察分署ニ於テハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシムル場合ニ於テハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條　刑事被告人遞傳押送ノ場合ニ於テ警察署長若ハ警察分署長ハ監獄ノ規程ニ從ヒ押送途中ニ必要ナル物品又ハ飮食物ニ限リ自費ヲ以テ之ヲ購求スルコトヲ許シ又親屬故舊ニ之カ差入ヲ許スコトヲ得

第八條　押送途中被押送者死亡シ二十四時間內ニ遺骸ノ引取人ナキトキハ警察署長若ハ警察分署長ニ於テ假埋葬ヲ爲スヘシ

假埋葬ノ費用ハ第五條ノ區別ニ從ヒ支辨スヘシ

第九條　本則ハ軍衙間ニ於ケル囚人及刑事被告人ノ押送ニ適用セス

附　則

第十條　本則ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

前項ノ細則ニ規定シタルモノノ外押送ニ關シ必要ナル指揮ハ廳府縣長官（東京府ニ於テハ警視總監）之ヲ爲スヘシ

第十一條　本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

第十二條　明治十五年太政官達第十號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●囚人及刑事被告人押送細則

（明治三十年十二月二十七日　內務省令第三十七號）
（改正　昭和二年第一號）

囚人及刑事被告人押送細則左ノ通リ相定ム

囚人及刑事被告人押送細則

第一條　囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ發送官署ニ於テ別記樣形ノ樣式ニ從ヒ押送狀ヲ作リ被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

前項押送ノ場合ニ於テハ押送前若クハ押送ト同時ニ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

第二條　疾病者姙娠者又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ニ於テ差支ナシト認ムルニ非レハ押送スルコトヲ得ス

刑事被告人ニシテ醫師ニ於テ押送ニ堪ヘサル者ト認ムルトキハ當該裁判官ニ通知スヘシ

第三條　押送ハ汽車汽船ニ依ルモノ若クハ特別ノ事由アルトキノ外日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　押送ヲ爲ス警察署又ハ警察分署ニ於テハ別記樣形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條　被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察署又ハ警察分署ニ宿泊セシムヘシ

囚人及勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ハ監獄署所在地ニ於テハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察官又ハ市町村長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第六條　被押送者ヲ警察署又ハ警察分署以外ニ宿泊セシメ又ハ飮食セシムル場合ニ於テハ其ノ費用ハ總テ實費額ニ依ル但臥具點燈料等宿泊ノ費用ハ一夜金五拾錢食費ハ一回金參拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　刑事被告人押送途中ニ於テ自費ヲ以テ物品又ハ飮食物ノ購求ヲ請フトキハ警察署長警察分署長ハ必要ノ有無及其ノ他ノ關係ヲ取糺シ之ヲ許否スヘシ

勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第八條　前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飮食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徵スヘシ

第九條　押送中ノ刑事被告人ニ對シ物品又ハ飮食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ第七條ニ準シ之ヲ許否スヘシ

第十條　押送中被押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ最寄警察官憲兵又ハ市町村吏員ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

又已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スルコトヲ得

第十一條　押送中被押送者死亡シタルトキハ最寄警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニ在テ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察署又ハ警察分署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警察署警察分署ニ交付スルコトヲ得

交付ヲ受ケタル警察署又ハ警察分署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徵シ死亡ノ年月日時場所及病名ヲ本籍市町村長（外國人ナラハ領事）發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知シ倘遺骸ノ下附又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十二條　押送中逃走者アルトキハ直ニ其ノ旨ヲ其ノ地ノ警察官憲兵及附近ノ各警察署又ハ警察分署ニ通報シ押送官署ハ倘發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第一條記載ノ書類ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條　被押送者ニシテ傳染病流行地ヲ經由シタルトキハ離隔消毒法ヲ行フヘシ

附　則

第十四條　本則ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

（別記）

押送狀樣形

番號	組番號

押送狀

人相						
丈	體格	髮眉	目	鼻	口	齒
耳	鬚髯	額	顏色	語訛	異徵	

原籍、族籍

寄留地

身分及職業（藝名綽名アルトキハ記入）

罪質、刑名刑期（刑事被告人ナルトキハ被告事件）

氏名

年齡

本人ハ、、、、、、（事由ヲ記ス）ニ依リ、、、、、、、、（地名、官署名）ニ交付スルカ爲押送セシメ候條可然御取計相成度候也

年　月　日

發送官署

發送押送官署名及主任官吏認印	發送到著日時	押送ノ方法及注意ス可キ事項	被押送者ノ身體ノ狀況	押送中ノ行狀	備考

發、、、	到、、、 發、、、
本欄ニハ當該裁判官ノ物品購求ニ關スル允許其他逃走死亡等アルニ際シ其旨ヲ記載ス可シ	

番號

組番號　送致金品目錄

貨幣	物品 携有物品	物品 保管スル物品	各發送押送官署ノ印
一金額、、、 一出、、、 一、、、何々購求 一、、、何々ニ使用 計金、、、	一何々何箇 一何々何箇 計何點	一何々何箇 一何々何箇 計何點	

記載例

一　數人同時ニ押送ヲ爲ストキハ被押送者ノ員數ト等シキ組番號ヲ付シ其ノ內順次ニ數ヲ付スルモノトス例ヘハ八人ノ被押送者ニ對シテハ八號ノ一八號ノ二トナスカ如シ押送帳簿ニ於ケル組番號モ亦此例ニ依ル

一　發送押送官署名及主任官吏認印ノ欄ニ於テハ典獄支署長警察署長分署長及憲兵隊長屯所長之カ認印ヲ押捺スルモノトス

押送帳簿雛形（被押送者一人ニ付半葉トス）

番號	
押送狀番號	
組番號	
押送狀作製ノ年月日	【明治】年月日
發送官署名	
押送シ來リタル官署名	
送付官署名	
最後ニ送付ヲ受クヘキ官署名	
押送シ來リタル首席官吏氏名及押送官吏員數	
發送及到著日時	到著【明治】年月日午前午後時分 發送【明治】年月日午前午後時分

罪質、刑名刑期（刑事被告人ナルトキハ被告事件）　族籍　氏名　年齡		
送致金品	金額	本欄ニハ金額欄ニ會計ニ關スル帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ記入スヘシ
	點數	本欄ニハ點數欄ニ物品帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ記入スヘシ
押送方法	到著前	
	到著後	
食糧給與ノ度數及其代價		

備考　一　本欄ニハ被押送者ニシテ發病死亡逃走其他ノ事故アルニ際シ詳細ニ其旨ヲ明記シ且所持金品ノ處分方等ヲ揭クルモノトス

●囚人、被告人及被疑者護送規則

（明治四十二年十月二十八日統監府令第五十一號　改正　大正八年朝鮮總督府令第一一二號、九年第八四號、一二年第一三四號）

囚人及被告人護送規則左ノ通定ム

囚人、被告人及被疑者護送規則

第一條　囚人、被告人及被疑者ノ護送ハ警察官吏ヲシテ之ヲ行ハシム但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ憲兵下士卒ヲシテ行ハシムルコトヲ得

監獄間ニ於ケル囚人ノ護送ハ看守長、看守ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條　護送ハ總テ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署又ハ出頭若ハ留置スヘキ場所ニ直送スヘキモノトス但シ時宜ニ依リ沿道警察官署ノ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條　護送ヲ爲ストキハ發送官署ハ別紙樣式ノ護送狀ヲ作リ必要ノ書類ヲ添ヘ被護送者ト共ニ護送官吏ニ交付スヘシ但シ直送ノ方法ニ依リ囚人ノ監獄間ノ護送ヲ爲ス場合ニ於テハ身分帳其ノ他ノ書類ヲ以テ護送狀ニ代フルコトヲ得

第四條　官署間ニ於テ護送ヲ爲ストキハ發送官署ハ豫メ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ氏名、發送ノ日時、護送ノ事由及方法ヲ通報スヘシ

第五條　被護送者ノ所持スル金品ハ左ノ例ニ依リ之ヲ取扱フ

一　金錢ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ直送ス但シ金額五圓ニ滿タサルトキ、卽日ニ護送ヲ終了スヘキトキ又ハ被告人ニ屬スル金錢ニシテ本人ノ請求アルトキハ護送官吏ニ依リ託送スルコトヲ得

二　物品ハ護送官吏ニ依リ之ヲ託送ス但シ危險ノ虞アル物品又ハ護送官吏ノ携帶ニ適セサル物品ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ直送スルコトヲ得

送致中ノ金品ハ護送官吏ニ依リ託送スル場合ニ於テハ護送官署ノ保管ニ屬シ其ノ他ノ場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第六條　護送ハ日出前日沒後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ汽車、汽船ニ依ル場合若ハ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　被護送者ハ汽車、汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシム但シ時宜ニ依リ監獄ニ宿泊セシムルコトヲ得

警察官署又ハ監獄ニ宿泊セシメ難キトキハ他ニ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第八條　被告人及被疑者護送ノ場合ニ於テハ監獄ノ規程ニ從ヒ護送中ニ必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求若ハ差入ヲ許スコトヲ得

前項ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徵スヘシ

第九條　護送中逃走者アルトキハ護送官吏ハ直ニ其ノ地ノ警察官吏、憲兵及附近ノ警察官署竝護送官署ニ通報シ護送官署ハ之ヲ所轄地方法院檢事正、事件所管廳ノ檢事、護送ヲ命シタル官署、發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ書類及金品ハ之ヲ發送官署ニ返付ス

第十條　護送中被護送者疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ手當ヲ加ヘ若シ護送ヲ繼續スヘカラサルモノト認メタルトキハ被護送者ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ時宜ニ依リ之ヲ附近ノ監獄ニ交付スルコトヲ得

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル官署ハ直ニ疾病ノ狀況ヲ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ疾病治癒シテ更ニ護送ニ付シタルトキ亦同シ

第十一條　護送中被護送者死亡シタルトキハ其ノ死體ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ

汽車、汽船中ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ死體ハ最初ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

死體ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署竝本人ノ住所地ヲ管轄スル警察官署ニ死亡ノ日時、原因等ヲ通報シ護送ニ關スル書類ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

死亡後二十四時間內ニ交付ヲ受クル者ナキトキハ死體ハ假ニ之ヲ埋葬シ遺留ノ金品ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十二條　護送官吏ノ旅費及被護送者ニ要スル護送ノ費用ハ護送官署ノ負擔トス但シ被護送者ヲ監獄又ハ警察官署ニ宿泊セシメタル場合ニ於ケル費用ハ其ノ監獄又ハ警察官署ノ負擔トス

第十條及第十一條ノ場合ニ於ケル費用ハ各其ノ交付ヲ受ケタル官署ノ負擔トス

第十三條　被護送者ヲ監獄又ハ警察官署以外ニ宿泊若ハ飲食セシメタル場合ニ於テハ其ノ費用ハ實費額ニ依ル但シ宿泊ノ費用ハ一夜金八十錢、飲食ノ費用ハ一回金五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

附　則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

護送狀

罪名		本籍地	
刑名刑期		住所	
被告事件		身分	
共犯者氏名		職業	
氏名及年齡			

相貌									
丈		體格		髮眉		鬚髯		額	
聰		耳		目		口		齒	
鼻		容貌		顏色		文身		特徵	

本人ハ何何ノ事由ニ依リ（何官署ニ交付スルカ爲／某所ニ出頭セシムルカ爲／某所ニ留置スルカ爲）左記ノ書類、金錢及物品ト共ニ及引渡候條護送方御取計相成度候也

年　月　日　　發送官署

書類	本欄ニハ本書ニ添附ノ書類ノ名稱、通數（若ハ括數）ヲ記載ス
金錢	本欄ニハ護送官吏ニ託送ノ金錢ノ保管高仕拂高現殘高仕拂ノ月日及事由ヲ記載ス
物品	本欄ニハ護送官吏ニ託送ノ物品ノ名稱、員數、護送中ニ生シタル物品ノ增減ニ關スル事由等ヲ記載ス

護送官署名及主任官吏ノ認印	發送又ハ到著日時	護送ノ方法及注意スヘキ事項	被護送者ノ身體ノ狀況	備考
				本欄ニハ物品購入ノ許可、逃走、疾病死亡其ノ他ノ事故ヲ記載ス

●臺灣押送規則

（明治三十四年二月二十三日臺灣總督府令第五號　改正　明治三四年第五五號、第九二號、三五年第三號　大正一二年第八七號　昭和二年第五二號）

臺灣囚人及刑事被告人押送規則左ノ通相定ム

臺灣押送規則

第一條　受刑者、留置者、被告人及被疑者ノ押送ハ沿道警察官署ノ遞傳ニ付スルモノトス但發送官署又ハ押送官署ノ都合ニ依リ直送ヲ爲スハ妨ケナシ

第二條　汽車又ハ汽船ノ便アル地方間ノ押送ハ其汽車又ハ汽船ニ依リ難キ特別ノ事由アル場合ヲ除ク外總テ直送スヘキモノトス

第三條　刑務所本支所間ノ押送ハ司獄官吏ヲシテ直送セシムヘシ但十里以上ニシテ汽車汽船ノ便ナキ地方ニアリテハ第一條ニ依ルコトヲ得

第四條　直送ヲ爲ス場合ニ於テ途中特ニ危險ノ虞アリト認メタルトキハ沿道警察官署又ハ憲兵屯所ニ助力ヲ求ムルコトヲ得

第五條　押送ノ場合ニ於テハ發送官署ハ其發送前豫メ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ押送人員及發送日時ヲ通知スヘシ

遞傳押送ニ係ル場合ニ於テハ發送官署及各押送官署ハ豫メ前項ノ事項ヲ次ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知スルヲ要ス

第六條　押送ノ場合ニ於テハ發送官署ハ別記雛形ノ樣式ニ從ヒ押送狀ヲ作リ被押送者ノ身上ニ關スル書類其他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

第七條　押送官署ニ於テハ別記雛形ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第八條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ送致スルモノハ別記雛形ノ樣式ニ從ヒ送致金品目錄ヲ調製シ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一　物品ハ押送官吏ニ託シテ之ヲ送致ス但危險ノ虞アル物品若ハ押送官吏ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此限ニアラス

二　貨幣ハ郵便爲替又ハ銀行爲替ヲ以テ之ヲ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若クハ押送期間一日以上ニ亙ラサル場合ハ之ヲ押送官吏ニ託スルコトヲ得

第九條　送致中ニ係ル貨幣物品ハ前條ニ依リ押送官吏ニ託スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送官吏ニ託セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第十條　押送ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但第二條ノ場合ハ此限ニアラス

第十一條　疾病者及姙娠者若ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル者ハ押送前醫師ヲシテ診察セシメ其押送ニ堪ヘスト認メラレタル者ハ押送ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テハ押送ヲ求メタル官署ニ其旨ヲ通知スヘシ

第十二條　押送中逃走者アルトキハ押送官吏ハ直ニ之ヲ附近ノ各警察官署憲兵屯所及押送官署ニ通報シ押送官署ハ仍發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通知シ第六條第八條ノ書類及金品ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十三條　押送官吏ノ旅費其他押送ニ要スル費用ハ押送ヲ爲ス各官署ノ支辨トス但第四條ニ依リ助力ニ應シタル官吏ノ費用ハ其官署ノ支辨トス

第十四條　被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシムヘシ但シ時宜ニ依リ刑務所ニ宿泊セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其地ノ警察官吏又ハ街庄社長ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第十五條　被押送者ヲ警察官署ニ宿泊セシムルトキハ其費用ハ留置人ノ例ニ依リ其他ニ

宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ニ於テハ凡テ實費額ニ依ル但臥具點燈料其他宿泊ノ費用ハ一泊金八十錢食費ハ一回金五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　被押送者ノ貨幣物品ハ押送途中之ヲ下付スルコトヲ得ス但被告人又ハ被疑者豫メ自費ヲ以テ押送途中必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察官署ハ必要ノ有無其他ノ關係ヲ取糺シテ之ヲ許否スヘシ

判官又ハ檢察官ノ命ニ依ル被押送者ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該判官又ハ檢察官ノ允許ヲ受ケ其旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第十七條　前條ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ承認書ヲ徴スヘシ

第十八條　押送中被押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ押送官吏ハ警察官吏又ハ街庄社長ノ助力ヲ求ムルコトヲ得但已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察官署ニ交付スルコトヲ得此場合ニ於テハ交付ヲ受タル官署ニ於テ更ニ押送ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條　押送中被押送者死亡シタルトキハ最寄警察官署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニアリテ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スヘシ但已ムヲ得サル場合ニ於テハ其他ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

第二十條　被押送者ノ遺骸ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡ノ年月日時、場所、病名、及死因ヲ本籍廳長（內地人ハ市町村長外國人ハ領事）發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通知シ仍第六條第八條記載ノ書類及其金品ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第二十一條　被押送者ノ遺骸ハ引取人アルトキハ直ニ之ヲ下付スヘシ但二十四時間內ニ其引取人ナキトキハ假埋葬ノ手續ヲ爲スヘシ假埋葬ノ費用ハ假埋葬ヲ爲シタル官署ノ支辨トス

附則

（別記雛形）

番號

組番號　押送狀

人相						
丈	體格	髮眉	目	鼻	口	齒
耳	髭鬚	額	顏色	語訛	異徵	

原籍、族籍
寄留地
身分及職業（藝名綽名アルトキハ記入）
罪質、刑名刑期（被告人又ハ被疑者ナルトキハ事件名）
氏名　年齡

本人ハ…………（事由ヲ記ス）ニ依リ…………（地名、官署名）ニ交付スルカ爲押送セシメ候條可然御取計相成度候也

年　月　日

發送官署

發送押送官署名及主任官吏認印		
發送到著日時	發………	到……… 發………
押送ノ方法及注意スヘキ事項		
被押送者ノ身體ノ狀況		
押送中ノ行狀		
本欄ニハ物品購求ニ關スル允許其他逃走死亡等アルニ際シ其旨ヲ記載スヘシ		

番號

組番號　送致金品目錄

貨幣	物品 携有物品	物品 保管スル物品
一金額……… 一………何々購求 一………何々ニ使用	一何々　何箇 一何々　何箇	一何々　何箇 一何々　何箇
計金………	計何點	計何點

各發送押送官署ノ印

記載例

一　數人同時ニ押送ヲ爲ストキハ被押送者ノ員數ト等シキ組番號ヲ付シ其內順次ニ數ヲ付スルモノトス例ヘハ八人ノ被押送者ニ對シテハ八號ノ一、八號ノ二トナスカ如シ押送帳簿ニ於ケル組番號モ亦此例ニ依ル

二　發送押送官署名及主任官吏認印ノ欄ニ於テハ刑務所又ハ警察官署ノ長之カ認印ヲ押捺スルモノトス

押送帳簿（被押送者一人ニ付半葉トス）

番號	押送狀番號	組番號	押送狀作製ノ年月日	發送官署名	押送シ來リタル官署名	送付官署名	最後ニ送付ヲ受クヘキ官署名	押送シ來リタル首席官吏氏名及押送官吏員數
			【明治】　年　月　日					

族籍　氏名　年齡 罪質、刑名刑期（被告人又ハ被疑者ナルトキハ事件名）	送致金品 金額	送致金品 點數	押送方法 到著前	押送方法 到著後
	本欄ニハ金額竝ニ合計ニ關スル帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ	本欄ニハ點數竝ニ物品帳簿ノ頁數又ハ番號ヲ掲記スヘシ		

發送及到着日時	食糧給與ノ度數及其代價
到着【明治】年月日午前午後時 發送【明治】年月日午前午後時	

備考　一　本欄ニハ被押送者ニシテ發病死亡逃走其他ノ事故アルニ際シ詳細ニ其旨ヲ明記シ且所持金品ノ處分方等ヲ掲クルモノトス

●受刑者及刑事被告人押送規則

（明治四十年十一月十七日　關東都督府令第六十七號　改正　明治四五年第二號　大正一一年關東廳令第六九號、一三年第二五號、一四年第一七號、第六五號）

受刑者及刑事被告人押送規則左ノ通相定ム

受刑者及刑事被告人押送規則

第一條　受刑者及刑事被告人ノ押送ハ汽車汽船ノ便アル地方ニ於テハ直送トシ其ノ他ノ地方ニ於テハ警察官署ノ遞傳ニ付スルモノトス

第二條　受刑者又ハ刑事被告人ヲ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ押送セムトスルトキハ之ヲ大連水上警察署ニ、朝鮮ニ押送セムトスルトキハ之ヲ安東警察署ニ先ツ押送スヘシ

前項ノ規定ニ依リ受刑者又ハ刑事被告人ノ押送ヲ受ケタル警察官署ハ之ヲ各目的地ノ最近ノ警察官署ニ押送スヘシ

第三條　受刑者及刑事被告人ヲ押送セムトスルトキハ發送官署ハ別記樣式ノ押送狀ヲ作リ被押送者ノ身上ニ關スル書類其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ被押送者ト共ニ押送官吏ニ交付スヘシ

第四條　押送官署ニ於テハ別記樣式ノ押送帳簿ヲ備ヘ押送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第五條　被押送者ノ所持スル貨幣物品ニシテ本人ト同時ニ送致スルモノハ左ノ例ニ依リ取扱フヘシ

一　物品ハ押送官吏ニ托シテ之ヲ送致ス但シ危險ノ虞アル物品若ハ押送官吏ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ便宜ノ方法ヲ以テ送付スルコトヲ得

二　貨幣ハ郵便爲替又ハ銀行爲替ヲ以テ之ヲ送致ス但シ五圓未滿ノ金額若ハ押送期間一日以上ニ亙ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アルトキハ之ヲ押送官吏ニ托スルコトヲ得

第六條　送致中ニ係ル貨幣物品ハ押送官吏ニ托スル場合ニ於テハ押送ヲ爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送官吏ニ托セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第七條　受刑者及刑事被告人ヲ押送セムトスルトキハ發送官署ハ發送前豫メ最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ被押送者ノ氏名竝發送ノ日時ヲ通報スヘシ

第八條　押送ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ汽車汽船ニ依ル場合若ハ特別ノ理由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條　多數押送ノ場合ニ於テハ被押送者二人ニ付押送官吏一人ノ割合トス但シ重罪犯又ハ逃走暴行ノ虞アル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

押送ハ押送官吏ノ外繩取夫ヲ付スルコトヲ得

第十條　被押送者ニハ手鎖ヲ施シ仍必要アルトキハ捕繩ヲ施スヘシ

共犯者ニシテ途中通謀ノ虞アル者ハ各別ニ押送スヘシ

第十一條　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者及妊娠中又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ノ診斷ニ依リ差支ナシト認ムルニアラサレハ押送ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ依リ押送ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ押送ヲ求メタル官署ニ其ノ旨ヲ通報スヘシ

第十二條　被押送者ハ汽車又ハ汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシムヘシ

受刑者及勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ハ監獄所在地ニ在リテハ監獄署ニ宿泊セシムルコトヲ得

前二項ノ場所ニ宿泊セシメ難キ事由アルトキハ其ノ地ノ警察官署ニ協議シ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第十三條　被押送者ヲ警察官署ニ宿泊セシムルトキハ其ノ費用ハ留置人ノ例ニヨリ其ノ他ニ宿泊セシメ又ハ飲食セシムル場合ハ凡テ實費額ニ依ル但シ臥具點燈料其ノ他宿泊ノ費用ハ一泊金五十錢食費ハ一回金二十錢ヲ超過スルコトヲ得ス

第十四條　被押送者ノ貨幣物品ハ押送途中之ヲ下付スルコトヲ得ス但シ刑事被告人豫メ自費ヲ以テ押送途中必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ警察官署ハ必要ノ有無ヲ取糺シテ之ヲ許否スヘシ

勾留狀ニ依リ勾留スヘキ刑事被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該法院ノ允許ヲ受ケ其旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ

第十五條　前條ニ依リ購入シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ其ノ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ承認書ヲ徴スヘシ

第十六條　押送中被押送者逃走ヲ謀リ或ハ暴行ヲ爲シ其ノ他押送ヲ全フスルコト能ハスト認メタルトキハ押送官吏ハ沿道警察官吏又ハ憲兵ノ助力ヲ求ムルコトヲ得

第十七條　被送者逃走シタルトキハ押送官吏ハ直ニ之ヲ附近ノ警察官吏憲兵及押送官署ニ通報シ押送官署ハ仍發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ通報シ第三條及第五條ノ書類及金品ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十八條　押送中被押送者發病シタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ押送官吏ハ附近警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ被押送者ヲ最寄警察官署ニ交付スルコトヲ得

第十九條　押送中被押送者死亡シタルトキハ最寄警察官署ニ交付スヘシ

汽車汽船中ニ於テ死亡シタルトキハ最初ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地又ハ停車地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

第二十條　被押送者ノ遺骸ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徴シ死亡年月日時、場所、病名及死因ヲ本籍地警察官署（內地人ハ市町村長外國人ハ領事）發送官署及最後ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通報シ仍遺骸ノ下付又ハ假埋葬ノ手續ヲ爲シ第三條及第五條ノ書類及金品ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第二十一條　本令ハ軍衙間ニ於ケル受刑者及刑事被告人ノ押送ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

押送狀

罪名	刑名	刑期	刑事被告人ナルトキハ被告事件
原籍	住所	身分	職業

藝名綽名

氏名　年齡

人					
丈	目	齒	髮眉	著	

相	貌		
體格		耳	
身長		口	
顏		顏色	
髭髮		特徵	
衣			

携帶物品		
貨幣	携帶物品	保管物品

送致金品

本人ハ（事由ヲ記ス）ニ依リ地名官署名ニ交附スルカ爲押送セシメ候條可然御取計相成度候也

年　月　日

發送官署名

	備考
發送押送官署名及主任官吏印	
發送到達日時	
押送ノ方法及注意スヘキ事項	
被押送者ノ身體狀況	
本欄ニハ當該官ノ物品購入ニ關スル允許其ノ他逃走死亡等ノ時其旨記入ス	

押送帳簿

番號	押送狀番號	組番號	押送狀作成ノ年月日	發送官署名	押送シ來リタル官署名	送付官署名	最後ニ送附ヲ受クヘキ官署名	押送シ來リタル主席官吏氏名及押送官吏員數	發送及到著日時
			【明治】年　月　日						到著　年　月　日　前後　時 發送　年　月　日　前後　時

族籍　罪質刑名刑期　氏名　年齡（刑事被告人ナルトキハ被告事件）	送致金額		押送方法	食料給與ノ度數代價
	金額	點數		

備考　本欄ニハ被押送者ニシテ發病死亡逃走其ノ他ノ事故アルニ際シ詳細ニ其ノ旨ヲ明記シ且所持金品ノ處分方法ヲ揭クルモノトス

●南洋群島受刑者、被告人及被疑者護送規則

（大正十四年二月二十八日南洋廳令第四號）

南洋群島受刑者、被告人及被疑者護送規則左ノ通定ム

南洋群島受刑者、被告人及被疑者護送規則

第一條　受刑者、被告人及被疑者ノ護送ハ警察官吏又ハ巡警ヲシテ之ヲ行ハシム但シ逃走其ノ他危險ノ虞ナシト認ムルトキニ限リ船長其ノ他適當ト認ムル者ニ囑託シテ之ヲ行フコトヲ得

第二條　護送ハ被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ直送スヘキモノトス但シ時宜ニ依リ警察官署ノ逓傳ニ付スルコトヲ得

第三條　護送ヲ爲ストキハ發送官署ハ別紙樣式ノ護送狀ヲ作リ被護送者ノ身上ニ關スル書類其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ被護送者ト共ニ護送者ニ交付スヘシ

第四條　發送官署ハ豫メ被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ氏名、護送ノ日時、護送ノ事由及方法ヲ通報スヘシ

逓傳護送ノ場合ニ於テハ護送ヲ爲ス各官署ハ豫メ前項ノ事項ヲ次ニ送付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ

第五條　護送ヲ爲ス官署ニ於テハ別記樣式ノ護送簿ヲ備ヘ護送ニ關スル要項ヲ記載スヘシ

第六條　被護送者ニハ必要アルトキハ手錠又ハ捕繩ヲ施スコトヲ得

第七條　被護送者ノ所持スル金品ニシテ本人ト同時ニ送致スルモノハ左ノ例ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

一　金錢ハ發送官署ヨリ最後ニ被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ直送ス但シ金額五圓ニ滿タサルトキ、即日ニ護送ヲ終了スヘキトキ又ハ被告人、被疑者ニ屬スル金錢ニシテ本人ノ請求アルトキハ護送者ニ依リ託送スルコトヲ得

二　物品ハ護送者ニ依リ之ヲ託送ス但シ危險ノ虞アル物品又ハ護送者ノ携帶ニ適セサル物品ハ便宜ノ方法ヲ以テ發送官署ヨリ最後ニ被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ直送スルコトヲ得

送致中ノ金品ハ護送者ニ依リ託送スル場合ニ於テハ護送ヲ爲ス官署ノ保管ニ屬シ其ノ他ノ場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第八條　護送ハ日出前日沒後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ船舶ニ依ル場合若ハ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　疾病者及姙娠中又ハ分娩後一箇月ヲ經過セサル婦女ハ醫師ノ診斷ニ依リ差支ナシト認ムルニ非サレハ護送ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ依リ護送ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ護送ヲ求メタル官署ニ其ノ旨ヲ通報スヘシ

第十條　被護送者ハ船舶中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシム但シ受刑者及拘留狀ニ依リ拘留スヘキ被告人ハ監獄所在地ニ於テハ監獄ニ宿泊セシムルコトヲ得警察官署又ハ監獄ニ宿泊セシメ難キトキハ他ノ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第十一條　被護送者ノ金品ハ護送途中之ヲ本人ニ交付スルコトヲ得ス但シ被告人、被疑者自費ヲ以テ護送途中必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求ヲ請フトキハ護送者ハ必要ノ有無其ノ他ノ關係ヲ取糺シテ之ヲ許否スヘシ

拘留狀ニ依リ拘留スヘキ被告人ニ對シ前項ノ購求ヲ必要ト認ムルトキハ發送官署ハ豫メ領置金支出方ニ付當該判事又ハ檢事ノ允許ヲ受ケ其ノ旨ヲ護送狀ニ記入スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ承認書ヲ徵スヘシ

第十二條　護送中ノ被告人、被疑者ニ對シ物品又ハ飲食物ノ差入ヲ請フ者アルトキハ前條第一項ニ準シ之ヲ許否スヘシ

第十三條　護送中逃走者アルトキハ護送者ハ直ニ附近ノ警察官吏竝護送ヲ爲ス官署ニ通報シ其ノ官署ハ之ヲ發送官署及被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ護送ヲ爲ス官署ハ書類及金品ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十四條　護送中被護送者疾病ニ罹リタルトキハ速ニ相當ノ手當ヲ加フヘシ

前項ノ場合ニ於テ護送者ハ附近警察官吏ノ助力ヲ求ムルコトヲ得若護送繼續スヘカラサルモノト認メタルトキハ被護送者ヲ書類及金品ト共ニ附近警察官署ニ交付スヘシ但シ第十條第一項但書ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ附近ノ監獄ニ交付スルコトヲ得

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル官署ハ直ニ疾病ノ狀況ヲ發送官署及被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ疾病治癒シテ更ニ護送ニ付シタルトキ亦同シ

第十五條　護送中被護送者暴行ヲ爲シ又ハ逃走ヲ謀リ其ノ他護送ニ付危險ノ虞アリト認メタルトキハ前條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第十六條　護送中被護送者死亡シタルトキハ其ノ死體ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ

船舶中ニ於テ死亡シタルトキハ其死體ハ最初ノ著船地ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ著船地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

死體ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ醫師ノ死亡證書ヲ徵シ發送官署及被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署竝本人ノ住所地ヲ管轄スル警察官署（外國人ナルトキハ領事）ニ死亡ノ年月日時、場所、病名及死因ヲ通報シ護送ニ關スル書類ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

死亡後二十四時間內ニ死體ノ引取ヲ爲ス者ナキトキハ假ニ之ヲ埋葬シ遺留ノ金品ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘシ

第十七條　船舶ニヨリ護送シタル場合ニハ被護送者ノ送付ヲ受クヘキ官署ハ船中ニ於テ之ヲ受取ルヘシ

第十八條　被護送者ヲ監獄又ハ警察官署ニ宿泊セシムルトキハ其ノ費用ハ留置人ノ例ニ依リ其ノ他ニ宿泊セシメ若ハ飲食セシムルトキハ其ノ費用ハ實費額ニ依ル但シ宿泊ノ費用ハ一泊八十錢飲食ノ費用ハ一回三十五錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　本令ニ於テ官署トアルハ警部補派出所ヲ含ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式略ス）

第五章　少年審判

第一款　少年法

●少年法

（大正十一年四月十七日法律第四十二號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル少年法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、文部、司法大臣副署）

少年法

第一章　通則

第一條　本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歲ニ滿タサル者ヲ謂フ

第二條　少年ノ刑事處分ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第三條　本法ハ第七條、第八條、第十條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外陸軍刑法第八條、第九條及海軍刑法第八條、第九條ニ揭ケタル者ニ之ヲ適用セス

第二章　保護處分

第四條　刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　訓誡ヲ加フルコト

二　學校長ノ訓誡ニ委スルコト

三　書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト

四　條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト

五　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

六　少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

七　感化院ニ送致スルコト

八　矯正院ニ送致スルコト

九　病院ニ送致又ハ委託スルコト

前項各號ノ處分ハ適宜併セテ之ヲ爲スコトヲ得

第五條　前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歲ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其ノ執行ヲ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得

第六條　少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間內少年保護司ノ觀察ニ付ス

前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ第四條第一項第四號、第五號、第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ヲ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス

第三章　刑事處分

第七條　罪ヲ犯ス時十六歲ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス

刑法第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

第八條　少年ニ對シ長期三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ以テ處斷スヘキトキハ其ノ刑ノ範圍內ニ於テ短期ト長期トヲ定メ之ヲ言渡ス但シ短期五年ヲ超ユル刑ヲ以テ處斷スヘキトキハ短期ヲ五年ニ短縮ス

前項ノ規定ニ依リ言渡スヘキ刑ノ短期ハ五年長期ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第九條　懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル少年ニ對シテハ特ニ設ケタル監獄又ハ監獄內ノ特ニ分界ヲ設ケタル場所ニ於テ其ノ刑ヲ執行ス

本人十八歲ニ達シタル後ト雖二十三歲ニ至ル迄ハ前項ノ規定ニ依リ執行ヲ繼續スルコトヲ得

第十條　少年ニシテ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ニハ左ノ期間ヲ經過シタル後假出獄ヲ許スコトヲ得

一　無期刑ニ付テハ七年

二　第七條第一項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ三年

三　第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ言渡シタル刑ニ付テハ其ノ刑ノ短期ノ三分ノ一

第十一條　少年ニシテ無期刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ假出獄ヲ取消サルルコトナクシテ十年ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行ヲ終リタルモノトス

少年ニシテ第七條第一項又ハ第八條第一項及第二項ノ規定ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者假出獄ヲ許サレタル後其ノ假出獄ヲ取消サルルコトナクシテ假出獄前ニ刑ノ執行ヲ爲シタルト同一ノ期間ヲ經過シタルトキ亦前項ニ同シ

第十二條　少年ノ假出獄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　少年ニ對シテハ勞役場留置ノ言渡ヲ爲サス

第十四條　少年ノ時犯シタル罪ニ因リ死刑又ハ無期刑ニ非サル刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ執行ヲ終ヘ又ハ執行ノ免除ヲ受ケタルモノハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ將來ニ向テ刑ノ言渡ヲ受ケサリシモノト看做ス

少年ノ時犯シタル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其ノ猶豫期間中刑ノ執行ヲ終ヘタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ人ノ資格ニ關スル法令ノ適用ニ付テハ其ノ取消サレタル時刑ノ言渡アリタルモノト看做ス

第四章　少年審判所ノ組織

第十五條　少年ニ對シ保護處分ヲ爲ス爲少年審判所ヲ置ク

第十六條　少年審判所ノ設立、廢止及管轄ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　少年審判所ハ司法大臣ノ監督ニ屬ス

司法大臣ハ控訴院長及地方裁判所長ニ少年審判所ノ監督ヲ命スルコトヲ得

第十八條　少年審判所ニ少年審判官、少年保護司及書記ヲ置ク

第十九條　少年審判官ハ單獨ニテ審判ヲ爲ス

第二十條　少年審判官ハ少年審判所ノ事務ヲ管理シ所部ノ職員ヲ監督ス

二人以上ノ少年審判官ヲ置キタル少年審判所ニ於テハ上席者前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行フ

第二十一條　少年審判官ハ判事ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

判事タル資格ヲ有スル少年審判官ハ判事ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十二條　少年審判官審判ノ公平ニ付嫌疑ヲ生スヘキ事由アリト思料スルトキハ職務ノ執行ヲ避クヘシ

第二十三條　少年保護司ハ少年審判官ヲ補佐シテ審判ノ資料ヲ供シ觀察事務ヲ掌ル

少年保護司ハ少年ノ保護又ハ教育ニ經驗ヲ有スル者其ノ他適當ナル者ニ對シ司法大臣之ヲ囑託スルコトヲ得

第二十四條　書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ審判ニ關スル書類ノ調製ヲ掌リ庶務ニ從事ス

第二十五條　少年審判所及少年保護司ハ其ノ職務ヲ行フニ付公務所又ハ公務員ニ對シ囑託ヲ爲シ其ノ他必要ナル補助ヲ求ムルコトヲ得

第五章　少年審判所ノ手續

第二十六條　大審院ノ特別權限ニ屬スル罪ヲ犯シタル者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十七條　左ニ記載シタル者ハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

一　死刑、無期又ハ短期三年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者

二　十六歳以上ニシテ罪ヲ犯シタル者

第二十八條　刑事手續ニ依リ審理中ノ者ハ少年審判所ノ審判ニ付セス

十四歳ニ滿タサル者ハ地方長官ヨリ送致ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外少年審判所ノ審判ニ付セス

第二十九條　少年審判所ニ於テ保護處分ヲ爲スヘキ少年アルコトヲ認知シタル者ハ之ヲ少年審判所又ハ其ノ職員ニ通告スヘシ

第三十條　通告ヲ爲スニハ其ノ事由ヲ開示シ成ルヘク本人及其ノ保護者ノ氏名、住所、年齡、職業、性行等ヲ申立テ且參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スヘシ

通告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ノ通告アリタル場合ニ於テハ少年審判所ノ職員其ノ申立ヲ錄取スヘシ

第三十一條　少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ

心身ノ狀況ニ付テハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ

第三十二條　少年審判所ハ少年保護司ニ命シテ必要ナル調査ヲ爲サシムヘシ

第三十三條　少年審判所ハ事實ノ取調ヲ保護者ニ命シ又ハ之ヲ保護團體ニ委託スルコトヲ得

保護者及保護團體ハ參考ト爲ルヘキ資料ヲ差出スコトヲ得

第三十四條　少年審判所ハ參考人ニ出頭ヲ命シ調査ノ爲必要ナル事實ノ供述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ供述又ハ鑑定ノ要領ヲ錄取スヘシ

第三十五條　參考人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　少年審判所ハ必要ニ依リ何時ニテモ少年保護司ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第三十七條　少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　條件ヲ附シ又ハ附セスシテ保護者ニ預クルコト

二　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト

三　病院ニ委託スルコト

四　少年保護司ノ觀察ニ付スルコト

已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ本人ヲ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得

第一項第一號乃至第三號ノ處分アリタルトキハ本人ヲ少年保護司ノ觀察ニ付ス

第三十八條　前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第三十九條　前三條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ

第四十條　少年審判所調査ノ結果ニ因リ審判ヲ開始スヘキモノト思料シタルトキハ審判期日ヲ定ムヘシ

第四十一條　審判ヲ開始セサル場合ニ於テハ第三十七條ノ處分ハ之ヲ取消スヘシ

第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十二條　少年審判所審判ヲ開始スル場合ニ於テ必要アルトキハ本人ノ爲附添人ヲ附スルコトヲ得

本人、保護者又ハ保護團體ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ附添人ヲ選任スルコトヲ得

附添人ハ辯護士、保護事業ニ從事スル者又ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケタル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四十三條　審判期日ニハ少年審判官及書記出席スヘシ

少年保護司ハ審判期日ニ出席スルコトヲ得

審判期日ニハ本人、保護者及附添人ヲ呼出スヘシ但シ實益ナシト認ムルトキハ保護者ハ之ヲ呼出サヽルコトヲ得

第四十四條　少年保護司、保護者及附添人ハ審判ノ席ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人ヲ退席セシムヘシ但シ相當ノ事由アルトキハ本人ヲ在席セシムルコトヲ得

第四十五條　審判ハ之ヲ公行セス但シ少年審判所ハ本人ノ親族、保護事業ニ從事スル者其ノ他相當ト認ムル者ニ在席ヲ許スコトヲ得

第四十六條　少年審判所審理ヲ終ヘタルトキハ第四十七條乃至第五十四條ノ規定ニ依リ終結處分ヲ爲スヘシ

第四十七條　刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致スヘシ

裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル事件ニ付新ナル事實ノ發見ニ因リ刑事訴追ノ必要アリト認メタルトキハ管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ本人及保護者ニ通知スヘシ

檢事ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル事件ニ付爲シタル處分ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第四十八條　訓誡ヲ加フヘキモノト認メタルトキハ本人ニ對シ其ノ非行ヲ指摘シ將來遵守スヘキ事項ヲ諭告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者及附添人ヲシテ立會ハシムヘシ

第四十九條　學校長ノ訓誡ニ委スヘキモノト認メタルトキハ學校長ニ對シ必要ナル事項ヲ指示シ本人ニ訓誡ヲ加フヘキ旨ヲ告知スヘシ

第五十條　改心ノ誓約ヲ爲サシムヘキモノト認メタルトキハ本人ヲシテ誓約書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ成ルヘク保護者ヲシテ立會ハシメ且誓約書ニ連署セシムヘシ

第五十一條　條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スヘキモノト認メタルトキハ保護者ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル條件ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十二條　寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スヘキモノト認メタルトキハ委託ヲ受クヘキ者ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ保護監督ノ任務ヲ委囑スヘシ

第五十三條　少年保護司ノ觀察ニ付スヘキモノト認メタルトキハ少年保護司ニ對シ本人ノ保護監督ニ付必要ナル事項ヲ指示シ觀察ニ付スヘシ

第五十四條　感化院、矯正院又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ

第五十五條　刑罰法令ニ觸ルル行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シ前三條ノ處分ヲ爲ス場合ニ於テ適當ナル親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者アルトキハ其ノ承諾ヲ經ヘシ

第五十六條　少年審判所ノ審判ニ付テハ始末書ヲ作リ審判ヲ經タル事件及終結處分ヲ明確ニシ其ノ他必要ト認メタル事項ヲ記載スヘシ

第五十七條　少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者、學校長、受託者又ハ感化院、矯正院若ハ病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條　少年審判所第五十一條及第五十二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ少年保護司ヲシテ其ノ成績ヲ視察シ適當ナル指示ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十九條　少年審判所第四十八條乃至第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタル後審判ヲ經タル事件第二十六條又ハ第二十七條第一號ニ記載シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ裁判所又ハ檢事ヨリ送致ヲ受ケタル場合ト雖管轄裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ處分ヲ取消シ事件ヲ檢事ニ送致スヘシ

禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル者ニ付第四條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ繼續スルニ適セサル事情アリト認メタルトキ亦前項ニ同シ

第六十條　少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スルコトヲ得

第六十一條　第三十五條及前條ノ費用竝矯正院ニ於テ生シタル費用ハ少年審判所ノ命令ニ依リ本人又ハ本人ヲ扶養スル義務アル者ヨリ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六章　裁判所ノ刑事手續

第六十二條　檢事少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年審判所ニ送致スヘシ

第六十三條　第四條ノ處分ヲ受ケタル少年ニ對シテハ審判ヲ經タル事件又ハ之ヨリ輕キ刑ニ該ルヘキ事件ニシテ處分前ニ犯シタルモノニ付刑事訴追ヲ爲スコトヲ得ス但シ第五十九條ノ規定ニ依リ處分ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條　少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ

少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十五條　裁判所ハ公判期日前前條ノ調査ヲ爲シ又ハ受命判事ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第六十六條　裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十七條　勾留狀ハ已ムコトヲ得サル場合ニ非サレハ少年ニ對シテ之ヲ發スルコトヲ得ス

拘置監ニ於テハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外少年ヲ獨居セシムヘシ

第六十八條　少年ノ被告人ハ他ノ被告人ト分離シ其ノ接觸ヲ避ケシムヘシ

第六十九條　少年ニ對スル被告事件ハ他ノ被告事件ト牽連スル場合ト雖審理ニ妨ナキ限リ其ノ手續ヲ分離スヘシ

第七十條　裁判所ハ事情ニ依リ公判中一時少年ノ被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得

第七十一條　第一審裁判所又ハ控訴裁判所審理ノ結果ニ因リ被告人ニ對シ第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト認メタルトキハ少年審判所ニ送致スル旨ノ決定ヲ爲スヘシ

檢事ハ前項ノ決定ニ對シ三日內ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第七十二條　第六十六條ノ處分ハ事件ヲ終局セシムル裁判ノ確定ニ因リ其ノ效力ヲ失フ

第七十三條　第四十二條、第四十三條第二項第三項及第四十四條ノ規定ハ公判ノ手續ニ第六十條及第六十一條ノ規定ハ豫審又ハ公判ノ手續ニ之ヲ準用ス

第七章　罰則

第七十四條　少年審判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對スル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ揭載スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

少年法ハ大正十二年一月一日ヨリ施行（大正十一年勅令第四百八十七號）

●少年審判所設置（大正十一年十一月十日勅令第四百八十八號）

朕少年審判所設置ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、司法大臣副署）

第一條　東京市及大阪市ニ少年審判所ヲ設置ス

東京少年審判所ハ東京府及神奈川縣ヲ、大阪少年審判所ハ大阪府京都府及兵庫縣ヲ管轄ス

第二條　少年審判所ニハ通シテ左ノ職員ヲ置ク

少年審判官　專任八人　奏任
少年保護司　專任十六人　判任（內八人ヲ奏任ト爲スコトヲ得）
書記　專任十四人　判任

第三條　少年法第二十三條ノ規定ニ依リ少年保護司ヲ囑託セラレタル者ハ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●假出獄少年取締規則（大正十一年十二月十八日司法省令第三十二號）

假出獄少年取締規則左ノ通相定ム

第一條　少年ノ假出獄ニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外一般ノ例ニ依ル

第二條　假出獄ノ許可アリタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第三條　假出獄少年ヲ釋放スル場合ニ於テハ其ノ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司又ハ保護ヲ引受ケタル者ニ本人ヲ引渡スヘシ

第四條　假出獄少年ハ證票ニ記載セラレタル住居ノ地ニ到著ノ日ニ於テ證票ヲ少年保護司ニ呈示シテ認印ヲ受クヘシ

天災疾病其ノ他ノ事故ニ因リ前項ノ規定ニ從フコト能ハサリシトキハ其ノ事由ヲ開示スヘシ

少年保護司前項ノ開示ヲ正當ナリト認メタルトキハ之ヲ證票ニ記載シテ認印ヲ爲スヘシ

第五條　少年保護司假出獄少年ニ付少年法第六條第二項ノ規定ニ依リ保護處分ヲ爲ス必要アリト思料スルトキハ其ノ事由ヲ少年審判所ニ申述スヘシ

第六條　假出獄少年住居ヲ變更シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行ノ日數ヲ明ニシ少年保護司ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　假出獄少年外國ニ旅行ヲ爲サムトスルトキハ其ノ事由、行先地及旅行日數ヲ記載シ少年審判所ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ受クヘシ

少年審判所ハ事實ヲ調査シ意見ヲ附スヘシ

第八條　假出獄少年旅行地ヨリ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ速ニ少年保護司ニ屆出ツヘシ

第九條　假出獄ノ取消アリタルトキハ其ノ執行ヲ爲シタル刑務所ノ長ハ其ノ旨ヲ少年審判所ニ通知スヘシ

第十條　假出獄少年死亡シタルトキハ少年審判所ハ其ノ旨ヲ司法大臣ニ申報シ且證票ヲ交付シタル刑務所ニ通知スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

少年審判所ノ管轄區域外ニ於テハ本令ニ定ムル少年審判所又ハ少年保護司ノ事務ハ刑務所又ハ司法大臣ノ指定シタル保護團體ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

●少年審判費用規則

（大正十一年十二月十八日司法省令第三十三號）

少年審判費用規則左ノ通相定ム

少年審判費用規則

第一條　少年審判所ノ命ニ依リ出頭シタル參考人ニハ日當、旅費及止宿料ヲ支給ス

第二條　日當ハ出頭一度ニ付二圓以內ニ於テ少年審判所之ヲ定ム但シ鑑定ヲ爲シタル參考人ノ日當ハ二圓以上十圓以內ニ於テ少年審判所之ヲ定ム

第三條　鑑定ニ付特別ノ技能若ハ費用又ハ長時間ヲ要シタルトキハ日當ノ外別ニ少年審判所ノ相當ト認ムル金額ヲ支給スルコトヲ得

第四條　旅費ハ鐵道又ハ汽船ヲ通スル水路ニ在リテハ二等以下ノ汽車賃又ハ船賃ニシテ少年審判所ノ相當ト認ムルモノニ依リ汽船ヲ通セサル水路ニ在リテハ一海里每ニ五錢其ノ他ニ在リテハ一里每ニ三十錢トス但シ一海里未滿又ハ一里未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第五條　止宿料ハ一日五圓以內ニ於テ少年審判所之ヲ定ム

第六條　前四條ニ規定シタル費用ハ終結處分前ニ請求スルニ非サレハ之ヲ支給セス

第七條　少年審判所ノ附シタル附添人ニハ少年審判所相當ト認ムルトキハ參考人ニ準シ日當、旅費及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　矯正院

●矯正院法

（大正十一年四月十七日法律第四十三號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル矯正院法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、文部、司法大臣副署）

矯正院法

第一條　矯正院ハ少年審判所ヨリ送致シタル者及民法第八百八十二條ノ規定ニ依リ入院ノ許可アリタル者ヲ收容スル所トス

第二條　矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ二十三歲ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　矯正院ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ヲ置ク

第四條　矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク

第五條　十六歲ニ滿タサル者ト十六歲以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス

第六條　矯正院ハ之ヲ國立トス

第七條　矯正院ハ司法大臣ノ管理ニ屬ス

第八條　司法大臣ハ少クトモ六月每ニ一回官吏ヲシテ矯正院ヲ巡察セシムヘシ

少年審判官ハ隨時矯正院ヲ巡視スヘシ

第九條　在院者ニハ其ノ性格ヲ矯正スル爲嚴格ナル紀律ノ下ニ教養ヲ施シ其ノ生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

第十條　矯正院ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ在院者ヲ懲戒スルコトヲ得

第十一條　矯正院ノ長ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ未成年ノ在院者及假退院者ノ爲親權者又ハ後見人ノ職務ニ屬スル行爲ヲ爲スコトヲ得

第十二條　矯正院ノ長少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニ對シ執行ノ目的ヲ達シタリト認ムルトキハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ之ヲシテ退院セシムヘシ

第十三條　矯正院ノ長ハ少年審判所ヨリ送致シタル在院者ニシテ收容後六月ヲ經過シタルモノニ對シ少年審判所ノ許可ヲ受ケ條件ヲ指定シテ假ニ退院ヲ許スコトヲ得

假退院ヲ許サレタル者ハ假退院ノ期間內少年保護司ノ觀察ニ付ス

第十四條　假退院者指定ノ條件ニ違背シタルトキハ矯正院ノ長ハ少年審判所ノ許可ヲ受ケ假退院ヲ取消スコトヲ得

第十五條　在院者又ハ假退院者逃走シタルトキハ少年審判所及矯正院ノ職員ハ之ヲ逮捕スルコトヲ得

少年法第二十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條　本法ニ規定スルモノヲ除クノ外在院者ノ處遇ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

矯正院ノ長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ在院者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

第十七條　前二條ノ規定ハ少年審判所、裁判所又ハ豫審判事ヨリ假ニ委託シタル者ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十一年勅令第四百八十七號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

●矯正院處遇規程

（大正十一年十二月十八日司法省令第三十四號）
（改正　昭和四年第二一號）

矯正院處遇規程左ノ通相定ム

矯正院處遇規程

第一章　收容

第一條　少年ノ收容ハ當該官廳ノ送致書、委託書又ハ入院許可ノ裁判書ニ依ル

第二條　少年ヲ收容シタルトキハ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ

第三條　入院者ニ付テハ各別ニ少年簿ヲ作リ之ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條　院長ハ入院者ニ對シ遵守事項及心得事項ヲ說示スヘシ

第五條　入院者ニ付テハ其ノ性行、境遇、經歷、學術技藝ノ程度、心身ノ狀況等身上ニ關スル事情ヲ精査シ其ノ結果ニ基キ居室及修習スヘキ學科、實科ノ種類、程度ヲ定ムヘシ

第六條　在院者ノ處遇ニ關シ必要ナル取調ヲ爲スニ付テハ少年審判所ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第二章　教導

第七條　院長ハ中學校及實業學校程度以下ノ學校ニ準シ課程及教科目ヲ定メ且教科用圖書ヲ選定シ司法大臣ニ申報スヘシ

第八條　院長ハ在院者ノ矯正ニ有益ナリト認ムルモノニ限リ教科外ノ圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得

第九條　休日ニハ在院者ヲ休養セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ其ノ心身ノ修養、鍛錬ニ力ムヘシ

第十條　祖父母又ハ父母病篤キトキハ在院者ヲシテ往訪セシムルコトヲ得

第十一條　祖父母又ハ父母死亡シタルトキハ三日間謹愼セシメ適當ト認ムル方法ニ依リ祭祀ヲ行ハシムルコトヲ得父母ノ祭日亦同シ

第十二條　一月一日、紀元節及天長節祝日ニハ在院者ヲ參集セシメ左ノ順序ニ從ヒ式ヲ擧クヘシ

一　職員及在院者「君カ代」ヲ合唱ス
一　院長教育ニ關スル勅語ヲ奉讀シ其ノ義ヲ衍フ
一　職員及在院者祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

第十三條　院長ハ學科及實科ノ成績證明書ヲ授與スルコトヲ得

第三章　賞罰

第十四條　院長ハ在院者ノ成績ニ鑑ミ左ニ掲クル等級ノ褒賞ヲ與フルコトヲ得

一　褒狀
二　賞與
三　賞票

院長ハ賞票ニ付更ニ種別ヲ設クルコトヲ得

第十五條　院長ハ成績特ニ優良ナル在院者ニ對シ左ニ掲クル殊遇ヲ與フルコトヲ得

一　特ニ設ケタル居室、器具其ノ他ノ設備ノ使用
一　組長其ノ他名譽トスル地位ノ授與
一　定時又ハ臨時ノ外出

第十六條　在院者紀律ニ違背シタルトキハ院長ハ情狀ニ依リ左ニ掲クル懲戒ヲ行フコトヲ得

一　譴責
一　褒賞ノ剝奪
一　端座
一　直立
一　屛居

前項ノ懲戒ニ依リテハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ體罰ヲ行フコトヲ得

第十七條　懲戒ハ在院者ノ心身ノ狀況ニ注意シテ之ヲ行フヘシ

第四章　給養

第十八條　在院者ニハ衣類、寢具、學用品及雜品ヲ交付ス

第十九條　院長ハ在院者一人ニ對シ貸與又ハ給與スヘキ物品ノ種目、員數及使用期間ヲ定メ司法大臣ニ申報スヘシ

第二十條　貸與品又ハ給與品ニ付テハ其ノ區別ニ從ヒ貸與品簿又ハ給與品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第二十一條　在院者ノ食物ハ之ヲ給與ス

院長ハ主食物ノ種類及分量ヲ定メ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

副食物ハ每週獻立表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第二十二條　大祭日、祝日其ノ他院長適當ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス特別ノ食物ヲ給與スルコトヲ得

第二十三條　自辨品ハ在院者ノ紀律、衞生ニ害ナキ限リ其ノ使用ヲ許可スルコトヲ得

第五章　衞生及診療

第二十四條　疾病其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外入院者ヲ入浴セシメ健康診斷ヲ行フヘシ

第二十五條　居室、衣類、寢具等ハ在院者ヲシテ之ヲ整頓セシムヘシ

第二十六條　在院者ニハ院長ノ定ムル所ニ依リ理髮及入浴ヲ爲サシムヘシ

第二十七條　春秋二回在院者ノ體格檢査ヲ行ヒ必要アルトキハ臨時健康診斷ヲ行フヘシ

第二十八條　傳染病發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ豫防ヲ嚴ニシ應急適切ナル處置ヲ爲スヘシ

第二十九條　傳染病發生シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ司法大臣ニ申報スヘシ

第三十條　在院者ニハ疾病豫防ノ爲必要ナル醫術ヲ行フヘシ

第三十一條　在院者重病ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨委託ヲ爲シタル官廳、親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者ニ通知スヘシ

第六章　面會及通信

第三十二條　在院者ハ院長ノ許可ヲ受ケ面會又ハ通信ヲ爲スコトヲ得

第三十三條　面會ハ應接室ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第七章　領置

第三十四條　院長ハ在院者ノ所有品ヲ領置シ適當ト認ムルトキハ之ヲ其ノ親權者若ハ後見人ニ交付シ又ハ本人ヲシテ賣却其ノ他ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

領置スヘキ物品ハ本人立會ノ上其ノ種目及員數ヲ點檢シ領置品簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三十五條　在院者所有ノ金錢ハ本人立會ノ上其ノ金額ヲ計算シ本人ノ名ニ於テ郵便貯金ノ手續ヲ爲シ其ノ通帳ハ院長之ヲ保管シ領置金簿ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第三十六條　在院者ニ寄贈ノ申出ヲ爲ス者アルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第三十七條　領置ノ金品ハ退院又ハ假退院其ノ他領置ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ還付スヘシ但シ在院中ト雖必要アリト認ムルトキハ之ヲ在院者ニ交付スルコトヲ得

第八章　退院及假退院

第三十八條　院長在院者ノ退院ノ許可ヲ求ムルニハ在院中ニ於ケル行狀及學科實科ノ成績ヲ表示シテ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　在院者ノ假退院ノ許可ヲ求ムルニハ前條ニ定ムル事項ノ外假退院後遵守スヘキ條件及保護ヲ引受クヘキ適當ノ者アルトキハ其ノ氏名住居職業假退院者トノ關係、保護ヲ引受クヘキ適當ノ者ナキトキハ其ノ事由ヲ表示スヘシ

第四十條　假退院ノ許可アリタルトキハ直ニ假退院ノ日時ヲ定メ保護ヲ引受クヘキ者及住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ニ通知スヘシ

第四十一條　住居ノ地ヲ管轄スル少年審判所ハ觀察ヲ爲スヘキ少年保護司ヲ定メテ矯正院ニ通知スヘシ

第四十二條　院長ハ假退院ヲ許ス者ニ假退院證ヲ授與シ遵守スヘキ條件ニ付說示シ保護ヲ引受クヘキ者又ハ少年保護司ニ引渡スヘシ

第四十三條　前條ノ引渡ヲ爲シタルトキハ院長ハ之ヲ司法大臣ニ申報シ假退院ヲ許可シタル少年審判所ニ通知スヘシ

第四十四條　假退院者住居ニ到達シタルトキハ其ノ引渡ヲ受ケタル保護者ハ少年保護司ニ屆出テ少年保護司ハ矯正院ニ通知スヘシ

第四十五條　少年審判所少年保護司ノ申出ニ依リ假退院者ノ行狀其ノ他ノ事由ニ因リ指定ノ條件ヲ變更スヘキ必要アリト認ムルトキハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四十六條　少年審判所假退院者ニ指定シタル條件ヲ變更シタルトキハ之ヲ矯正院ニ通知シ且新ナル條件ヲ文書ニ記載シ少年保護司ヲシテ假退院者ニ交付セシムヘシ

少年保護司ハ條件ノ變更ニ付必要ナル說示ヲ爲スヘシ

第四十七條　院長假退院ヲ取消シタルトキハ之ヲ少年保護司ニ通知スヘシ

少年保護司前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ入院ノ手續ヲ爲シ假退院證及前條ノ文書ヲ還納セシムヘシ

第四十八條　假退院者逃走又ハ死亡シタルトキハ保護ヲ引受ケタル者ハ直ニ少年保護司ニ屆出ツヘシ其ノ軍人軍屬ト爲リタルトキ亦同シ

第四十九條　少年保護司假退院者ノ逃走若ハ死亡シタルコト又ハ軍人軍屬ト爲リタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク矯正院ニ通知スヘシ

第五十條　退院又ハ假退院ヲ爲ス者ニハ事情ニ依リ貸與品ノ全部又ハ一部ヲ給與シ且歸住旅費又ハ相當ノ衣類ヲ給與スルコトヲ得

第五十一條　在院者ニ付處分ノ取消又ハ變更アリタルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ取扱ヲ爲スヘシ處分ノ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第九章　逃走及死亡

第五十二條　在院者逃走又ハ死亡シタルトキハ院長ハ直ニ之ヲ司法大臣ニ申報シ送致又ハ委託ヲ爲シタル官廳ニ通知スヘシ逃走者再ヒ入院シタルトキ亦同シ

第五十三條　在院者死亡シタルトキハ院長ハ死體ノ檢視其ノ他必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第五十四條　院長ハ病名、死因及死亡ノ日時ヲ速ニ親權者、後見人、戶主其ノ他ノ保護者ニ通知シ死體ヲ引取ラシムヘシ

第五十五條　死體ノ引取人ナキトキハ院長ハ成規ノ手續ニ依リ之ヲ假葬シ死者ノ氏名及死亡ノ年月日ヲ記シタル墓標ヲ立ツヘシ

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六章　軍律

第一款　陸軍刑法

●陸軍刑法

（明治四十一年四月十日法律第四十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍刑法

第一編　總則

第二編　罪

第一章　叛亂ノ罪

第二章　擅權ノ罪
第三章　辱職ノ罪
第四章　抗命ノ罪
第五章　暴行脅迫ノ罪
第六章　侮辱ノ罪
第七章　逃亡ノ罪
第八章　軍用物損壞ノ罪
第九章　掠奪ノ罪
第十章　俘虜ニ關スル罪
第十一章　違令ノ罪

陸軍刑法

第一編　總則

第一條　本法ハ陸軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條　本法ハ陸軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
一　第六十四條乃至第六十七條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
二　第七十四條ノ罪
三　第七十九條乃至第八十五條ノ罪
四　第八十六條乃至第八十九條ノ罪
五　第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪
六　第九十五條第一項、第九十六條、第九十七條第二項及第九十九條ノ罪

第三條　本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條　帝國軍ノ占領地ニ於テ陸軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノト看做ス

陸軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條　帝國外ニ在ル部隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ部隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條　陸軍ト共同作戰ニ從フ海軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條　陸軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル陸軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ
一　陸軍ノ現役ニ在ル者但シ未タ入營セサル者及歸休兵ヲ除ク
二　召集中ノ在鄕軍人
三　召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在鄕軍人
四　前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服著用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在鄕軍人
五　志願ニ依リ國民軍隊ニ編入セラレ服務中ノ者

第九條　左ニ記載シタル者ハ陸軍軍人ニ準ス
一　陸軍所屬ノ學生、生徒
二　陸軍軍屬
三　陸軍ノ勤務ニ服スル海軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　陸軍將校相當官、陸軍准士官、海軍將校、同相當官、海軍候補生及海軍准士官ハ陸軍將校ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者亦同シ

第十一條　陸軍士官ノ候補者ニシテ下士ノ階級ニ在リ士官ノ勤務ニ服セサル者ハ陸軍下士ニ準ス

第十二條　陸軍ノ兵役ニ在リテ官等、等級ヲ有セサル者ハ兵卒ニ準ス陸軍士官ノ候補者ニシテ兵卒ノ階級ニ在ル者亦同シ

第十三條　在鄕軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者、陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者、陸軍ノ歸休兵及退役陸軍將校、同相當官、准士官ヲ謂フ

第十四條　陸軍軍屬ト稱スルハ陸軍文官、同待遇者及宣誓シテ陸軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ但シ豫備又ハ退職ノ文官ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法ニ於テ海軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十六條　上官ト稱スルハ命令關係アル陸軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ兵卒ハ下士勤務上等兵ヲ除クノ外總テ同等トス

第十七條　司令官ト稱スルハ軍隊ノ司令ニ任スル陸軍軍人ヲ謂フ

第十八條　哨兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守地ニ在ル陸軍軍人ヲ謂フ

第十九條　部隊ト稱スルハ陸軍ノ軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル陸軍ノ特設機關ヲ謂フ

第二十條　軍中ト稱スルハ左ニ記載シタル部隊ニ在ル場合ヲ謂フ
一　戰時ノ體勢ヲ執リタル部隊但シ留守部隊、衞戍勤務ニ服スル後備又ハ國民諸隊、戰地以外ノ地ニ在ル輸送又ハ補給諸機關ニシテ對敵狀態ニ在ラサルモノヲ除ク
二　戰時ノ體勢ヲ執ラサルモ對敵狀態ニ在ル部隊
三　事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎭定ニ從事スル部隊

第二十一條　陸軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ陸軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第二十二條　多衆共同ノ暴行ヲ鎭壓スル爲又ハ敵前ニ在ル部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十三條　前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條　本法及海軍刑法ニ於テ倶ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ陸軍軍人ニ準スル者ト雖海軍軍人ニ對シテハ海軍刑法ヲ適用ス

第二編　罪

第一章　叛亂ノ罪

第二十五條　黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　首魁ハ死刑ニ處ス
二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三　附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條　反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十七條　左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
一　軍隊又ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト
二　敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助スルコト
三　軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト
四　敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト
五　敵國ニ降ラシムル爲司令官ヲ強要スルコト
六　敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十八條　敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス
一　要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト
二　水陸ノ通路、橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ軍隊、艦船ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト
三　司令官軍隊ヲ率ヰテ守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離ルルコト
四　隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ其ノ連絡集合ヲ妨害スルコト
五　兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
六　命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛僞ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト
七　造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十九條　前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第三十條　反亂者又ハ内亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十一條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十二條　第二十五條乃至第三十條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三十三條　第二十五條又ハ第二十六條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第三十四條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章　擅權ノ罪

第三十五條　司令官外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條　司令官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬪ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條　司令官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條　命令ヲ待タス故ナク戰鬪ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十九條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章　辱職ノ罪

第四十條　司令官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ要塞ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十一條　司令官野戰ノ時ニ在リテ隊兵ヲ率ヰ敵ニ降リタルトキハ其ノ盡スヘキ所ヲ盡シタル場合ト雖六月以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條　司令官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ隊兵ヲ率ヰ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第四十三條　司令官軍隊ヲ率ヰ故ナク守地若ハ配置ノ地ニ就カス又ハ其ノ地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス
二　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條　司令官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條　將校部隊若ハ一部ノ兵員ヲ率ヰ又ハ之ニ屬シ輸送船舶ニ在リテ敵ノ艦船ニ遭遇シタル際其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ其ノ船舶ヲ退去シタルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四十六條　部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎭定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條　哨兵故ナク守地ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス
二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條　哨兵睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條　衞兵、控兵、巡察、斥候其ノ他警戒又ハ傳令ノ勤務ニ服スル者故ナク勤務ノ場所若ハ隊伍ヲ離レタルトキ又ハ到ルヘキ場所ニ到ラサルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十條　故ナク規則ニ依ラスシテ哨兵ヲ交代セシメ其ノ他哨令ニ違反シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ斥候、巡察又ハ偵察ノ勤務ニ服スル者虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十二條　軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十三條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運搬又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條　健康ヲ害スヘキ飮食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十五條　從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十六條　第四十條、第四十二條、第四十三條、第四十五條、第四十七條、第四十九條、第五十一條及第五十三條乃至第五十五條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章　抗命ノ罪

第五十七條　上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス
二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十八條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
三　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十九條　暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章　暴行脅迫ノ罪

第六十條　上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條　上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條　哨兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條　哨兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條　上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條　上官又ハ哨兵以外ノ陸軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十一條　職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條　第六十條乃至第七十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章　侮辱ノ罪

第七十三條　上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條　哨兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章　逃亡ノ罪

第七十五條　故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十六條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十七條　敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十八條　第七十五條第一號、第七十六條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章　軍用物損壞ノ罪

第七十九條　陸軍ノ工場、船舶、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條　露積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十一條　火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十二條　第七十九條ニ記載シタル物又ハ陸軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條　兵器、彈藥、糧食、被服、馬匹其ノ他陸軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條　第七十九條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條　本章ノ規定ハ陸軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章　掠奪ノ罪

第八十六條　戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條　戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條　前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章　俘虜ニ關スル罪

第九十條　俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條　俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條　俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條　逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條　第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章　違令ノ罪

第九十五條　哨兵ヲ欺キテ哨所ヲ通過シ又ハ哨兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　軍中又ハ戒嚴地境ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ外哨兵ニ對シ哨令ヲ犯シタル者亦前項ニ同シ

第九十六條　在鄕軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條　兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

在鄕軍人召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ軍事ニ關スル虛僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條　戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百條　禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝塡シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百一條　哨兵又ハ衞兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百二條　戰時、軍中又ハ戒嚴地境ニ在リテ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三條　政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四條　服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ハ之ヲ廢止ス

●陸軍刑法施行法

（明治四十一年勅令第百六十四號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

明治四十一年四月十日
法律第四十七號
改正　大正一〇年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（御名御璽、陸軍大臣副署）

陸軍刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊陸軍刑法ト稱スルハ明治十四年第六十九號布告陸軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ陸軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　陸軍刑法施行前ニ舊陸軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ陸軍刑法ニ定メタル主刑ト舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其ノ輕重ヲ定ム

陸軍刑法ニ定メタル刑	舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

第三條　刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條　刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、剝官、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス

前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス

第五條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖陸軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ陸軍刑法ヲ適用シタルトキト雖舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第六條　左ニ記載シタル者陸軍刑法施行前更ニ陸軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ陸軍刑法施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ陸軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二　舊陸軍刑法ニ依リ陸軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其ノ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ陸軍刑法施行前ノ罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ陸軍刑法ヲ適用スヘキトキハ其ノ數罪ト陸軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條　陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後陸軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　陸軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付陸軍刑法施行後確定裁判アリタル後陸軍刑法施行後ニ犯シタル陸軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　陸軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ陸軍刑法ノ罪ト看做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條　第六條第一項各號ニ記載シタル者陸軍刑法施行後有期懲役ニ該ル陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　陸軍刑法施行後ハ舊陸軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ陸軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限リ陸軍刑法ノ規定ヲ準用ス

他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ陸軍刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　陸軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ理事其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條　陸軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊陸軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ

準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第十六條　陸軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條　剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條　人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ舊陸軍刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ陸軍刑法施行ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ陸軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊陸軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條　陸軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊陸軍刑法ノ剝官ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條　他ノ法律中舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊陸軍刑法第二十八條、第三十條及第三十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ陸軍刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條　舊陸軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊陸軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條、第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條　陸軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第五號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ海軍軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條　刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條　陸軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所屬部隊ノ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條　前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ陸軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條　軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費其ノ他ノ給與ニ關シ刑事訴訟費用法ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ理事之ヲ行フ

附　則

本法ハ陸軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件（明治四十一年九月二十四日勅令第二百十八號）

朕陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ陸軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍刑法ヲ適用セサル陸軍所屬ノ學生生徒ニ關スル件（明治四十一年十月九日勅令第二百五十五號）

朕陸軍刑法ヲ適用セサル陸軍所屬ノ學生、生徒ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍刑法第九條第二項ニ依リ除外スヘキ者ハ陸軍各部依託學生、生徒トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸海軍處刑上換刑方（明治十六年十一月十日太政官布告第三十七號）

陸海軍法衙ニ於テ罰金科料ニ處スル時ハ直ニ【輕禁錮】拘留ニ換フルコトヲ得

右奉　勅旨布告候事（陸軍卿、海軍卿連署）

●軍機保護法（明治三十二年七月十五日法律第百四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍機保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍、司法大臣副署）

軍機保護法

第一條　軍事上祕密ノ事項又ハ圖書物件タルコトヲ知テ之ヲ探知收集シタル者ハ【重懲役】ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二條　職務ニ因リ軍事上祕密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ祕密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ漏泄交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ【有期徒刑】ニ處ス

第三條　偶然ノ原由ニ因リ軍事上祕密ノ事項又ハ圖書物件ヲ知得領有シタル者其ノ祕密タルコトヲ知テ之ヲ他人ニ傳說交付シ若ハ之ヲ公示シタルトキハ【輕懲役】ニ處ス

第四條　許可ヲ得スシテ軍港要港防禦港又ハ堡壘砲臺水雷衞所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ヲ測量摸寫撮影シ又ハ其ノ狀況ヲ錄取シタル者ハ一月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ二圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

因テ第一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重キニ從テ處斷ス

第五條　許可ヲ得スシテ又ハ詐僞ノ所爲ニ因リ許可ヲ得テ堡壘砲臺水雷衞所其ノ他國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物內ニ入リタル者亦前條ノ例ニ同シ

第六條　本法ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ【未遂犯罪】ノ例ニ照シテ處斷ス

第二條ノ罪ヲ犯サントシテ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ同條ノ刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第七條　本法ノ罪ヲ犯シ因テ財物ヲ得タル者ハ其ノ財物ヲ沒收シ既ニ費消シタルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第八條　本法ハ刑法第二編【第二章第二節】外患ニ關スル罪陸軍刑法第二編第一章反亂ノ罪海軍刑法第二編第一章反亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

●徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件（明治四十一年七月二十九日勅令第百八十六號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ徵集ノ期ニ後レタル陸海軍現役兵決定者處罰ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

陸海軍ノ現役兵ニ決定シタル者正當ノ事由ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過キタルトキハ六月以下ノ禁錮ニ處シ戰時ニ在リテ五日ヲ過キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ規定ハ志願ニ依リ陸海軍ノ現役ニ服スル者ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸海軍監獄在監中一時解放者ノ處罰ニ關スル件（明治四十一年十一月五日勅令第二百八十一號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ陸軍監獄又ハ海軍監獄在監中一時解放シタル者ノ處罰ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍、海軍大臣副署）

陸軍監獄令第二十條第二項又ハ海軍監獄令第二十一條第二項ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二款　陸軍軍法會議法

●陸軍軍法會議法（大正十年四月二十六日法律第八十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル陸軍軍法會議法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍法會議法

第一編　軍法會議

第一章　軍法會議ノ裁判權

第一條　軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一　陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第四號後段、第五號及第九條ニ記載シタル者

二　陸軍用船ノ船員

三　前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者

四　俘虜

前項第二號及第三號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付亦裁判權ヲ有ス

軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續中搜查ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ勾留セラレタルトキハ其ノ者ニ對シ亦裁判權ヲ有ス

第三條　軍法會議ハ陸軍刑法第八條第四號前段ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯シタル陸軍刑法ノ罪ニ付裁判權ヲ有ス

前條第二項ノ規定ハ前項ニ規定スル犯罪ニ付之ヲ準用ス

第四條　軍法會議ハ合圍地境ニ在ル第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ左ノ各號ニ規定スル犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一　第十五條第一號又ハ第二號ニ記載シタル者ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪

二　陸軍刑法、海軍刑法、軍機保護法其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ハ之ヲ其ノ本犯ト共ニ犯シタルモノト看做ス

第五條　軍法會議ハ戒嚴令ニ定メタル特別裁判權ヲ行フ

第六條　軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アルトキハ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第七條　第四條及前條ノ規定ハ海軍軍法會議法第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ海軍軍法會議ノ裁判權ヲ有スル犯罪ニ付テハ之ヲ適用セス但シ被告人ノ所在地海軍軍法會議ノ所在地ト交通斷絕シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二章　軍法會議ノ管轄權

第八條　軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

一　高等軍法會議

二　師團軍法會議

三　軍軍法會議

四　獨立師團軍法會議

五　獨立混成旅團軍法會議

六　兵站軍法會議

七　合圍地軍法會議

八　臨時軍法會議

第九條　高等軍法會議及師團軍法會議ハ之ヲ常設ス

軍軍法會議、獨立師團軍法會議、獨立混成旅團軍法會議及兵站軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ特設又ハ分駐シタル陸軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十條　高等軍法會議ハ陸軍大臣ヲ以テ長官トス

師團軍法會議ハ師團長ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ司令官ヲ以テ長官トス

第十一條　高等軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　陸軍ノ將官、將官相當官、勅任文官及勅任文官待遇者竝海軍ノ將官、勅任文官及勅任文官待遇者ニ對スル被告事件

二　上告

三　非常上告

第十二條　師團軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　師團長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二　師管內ニ在ル陸軍ノ部隊ニ屬スル者及其ノ部隊ノ長ノ監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件但シ其ノ部隊ニ軍法會議ヲ設ケサル場合ニ限ル

三　師管內ニ在リ又ハ師管內ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議師管內ニ在ラサル場合ニ限ル

第十三條　軍軍法會議、獨立師團軍法會議又ハ獨立混成旅團軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　軍、獨立師團又ハ獨立混成旅團ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二　作戰地域ニ在ル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議其ノ地域ニ在ラサル場合ニ限ル

三　作戰地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十四條　兵站軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　兵站ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二　兵站地域若ハ兵站ノ屬スル軍隊ノ作戰地域ニ在リ又ハ此等ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議此等ノ地域ニ在ラサルトキニ限ル

三　兵站地域又ハ兵站ノ屬スル軍隊ノ作戰地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十五條　合圍地軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　合圍地司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二　合圍地境ニ在リ又ハ合圍地境ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件

三　第四條及第五條ニ定メタル裁判權ニ屬スル被告事件

第十六條　臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件

二　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ管轄地域若ハ守備地域ニ在リ又ハ此等ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件但シ被告人ノ所屬部隊ノ軍法會議此等ノ地域ニ在ラサルトキニ限ル

三　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ管轄地域又ハ守備地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十七條　第一條乃至第三條ニ記載シタル者ニ對スル被告事件ニ付管轄軍法會議ナキトキハ被告人ノ現在地又ハ犯罪地ノ附近ニ在ル軍法會議之ヲ管轄ス

第十八條　管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル軍法會議併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得

但シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件及第四條乃至第六條ニ記載シタル事件ハ牽連ノ事由ニ因リ併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得ス

第十九條　軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十條　數個ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ軍法會議ニ併合スルコトヲ得

第二十一條　高等軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコト

ヲ必要トセサルモノアルトキハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十二條　高等軍法會議及他ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第二十三條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ
二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二十四條　數個ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ第二十五條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外最初ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十五條　高等軍法會議及他ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十六條　管轄ハ公訴提起後ニ於テハ被告人ノ轉屬、失官其ノ他管轄ヲ定ムル事由ノ變更ニ因リ變更セラルルコトナシ但シ被告人第十一條第一號ニ記載シタル身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　第十一條第一號ニ記載シタル者被告人ナル場合ニ於テ其ノ現在地高等軍法會議ノ所在地ト交通斷絶シタルトキ又ハ其ノ所在地ト著シク隔離シ且審判急速ヲ要スルトキハ被告人ノ現在地又ハ其ノ附近ニ在ル軍法會議被告事件ヲ管轄スルコトヲ得

第二十八條　管轄軍法會議ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ管轄移轉ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十九條　軍法會議ヲ廢シタルトキハ陸軍大臣ハ後繼軍法會議ヲ指定スヘシ

第三十條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第三章　軍法會議ノ職員

第三十一條　軍法會議ニ判士、陸軍法務官、陸軍錄事及陸軍警査ヲ置ク

第三十二條　判士ハ陸軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條　將官ヲ以テ判士ト爲ストキハ陸軍大臣ノ奏請ニ因リ之ヲ命ス

特設軍法會議ニ於テハ長官又ハ其ノ直系上官ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ部下ノ將官中ヨリ判士ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　佐官以下ノ將校ヲ以テ判士ト爲ストキハ長官之ヲ命ス

長官ノ部下ニ非サル將校ヲ以テ判士ト爲スコトヲ要スルトキハ陸軍大臣之ヲ命ス特設軍法會議ニ於テハ急速ヲ要スル場合ニ限リ長官ノ直系上官ハ部下ノ將校中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

第三十五條　法務官ハ終身官トシ勅任又ハ奏任トス

第三十六條　法務官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト
二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト
三　帝國議會ノ議員又ハ道、府、縣、郡、市、區、町、村會ノ議員ト爲ルコト
四　報酬アル公務ニ就クコト
五　商業ヲ營ムコト

第三十七條　法務官ハ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ免官又ハ轉官セラルルコトナシ

第三十八條　法務官身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ陸軍大臣ハ高等軍法會議總會ノ決議ニ因リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第三十九條　陸軍大臣ハ左ノ場合ニ於テハ法務官ニ現俸ノ半額ヲ給シテ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
二　刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ
三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
四　戰時又ハ事變ニ際シ臨時增員シタル場合ニ於テ其ノ必要止ミ過員ヲ生シタルトキ
五　病氣ノ爲執務セサルコト六月ニ至リタルトキ

休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事件ノ繫屬中トシ第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ三年トス

第四十條　法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第四十一條　法務官ノ任用及懲戒ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條　錄事ハ判任トス

第四十三條　警査ハ長官之ヲ命ス

第四十四條　特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ准士官又ハ下士ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシメ陸軍ノ下士又ハ兵卒ヲシテ警査ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十五條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル判任文官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四章　審判機關

第四十六條　軍法會議ハ審判ヲ爲スニ付他ノ干涉ヲ受クルコトナシ

第四十七條　審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之ヲ爲ス

裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ之ニ充テ上席判士ヲ裁判長トス

特設軍法會議ニ於テハ上席判士及法務官ヲ除クノ外裁判官二人ヲ減スルコトヲ得

第四十八條　裁判官ハ長官之ヲ定ム

第四十九條　師團軍法會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一　被告人下士又ハ兵卒ナルトキハ中佐又ハ少佐一人大尉一人大尉、中尉又ハ少尉二人
二　被告人中尉、少尉又ハ准士官ナルトキハ中佐又ハ少佐一人大尉二人大尉又ハ中尉一人
三　被告人大尉ナルトキハ大佐又ハ中佐一人少佐二人大尉一人
四　被告人少佐ナルトキハ大佐一人中佐二人少佐一人
五　被告人中佐ナルトキハ少將一人大佐二人中佐一人
六　被告人大佐ナルトキハ中將一人少將二人大佐一人
七　被告人將官ナルトキハ被告人ト同等以上ノ將官四人

交通斷絶シタル地ニ在ル軍法會議ニ於テハ被告人ト同等以上ノ判士ヲ以テ裁判官ト爲スコトヲ得

第五十條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校又ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十一條　高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一　被告人下士又ハ兵卒ナルトキハ佐官一人大尉二人
二　被告人中尉、少尉又ハ准士官ナルトキハ大佐又ハ中佐一人少佐一人大尉一人
三　被告人大尉ナルトキハ大佐一人中佐一人少佐一人
四　被告人少佐ナルトキハ大佐一人中佐二人
五　被告人中佐ナルトキハ少將一人大佐二人
六　被告人大佐ナルトキハ中將一人少將二人
七　被告人少將ナルトキハ大將又ハ中將一人中將又ハ少將一人少將一人
八　被告人中將ナルトキハ大將一人大將又ハ中將一人中將一人
九　被告人大將ナルトキハ大將三人

第五十二條　被告人官等又ハ等級ヲ有セサル士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ナルトキハ少尉ニ準シ士官ノ勤務ニ服セサル者ナルトキハ下士ニ準シ判士ヲ區別ス

被告人准士官又ハ下士タル士官ノ候補者ニシテ士官ノ勤務ニ服スル者ナルトキハ少尉ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十三條　被告人將校相當官、軍屬、海軍軍人又ハ海軍軍屬ナルトキハ其ノ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ將校、准士官、下士又ハ兵卒ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十四條　被告人第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ニ記載シタル者ニ非サルトキハ下士又ハ兵卒ニ準シ判士ヲ區別ス

前項ノ場合ニ於テ長官ハ事情ニ因リ判士ノ區別ヲ變更スルコトヲ得

第五十五條　被告人俘虜ナルトキハ第四十九條及第五十一條乃至前條ノ規定ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十六條　二個以上ノ異ル官等、等級又ハ階級ヲ有スル被告人ニ付テハ其ノ最高キ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十七條　官等、等級又ハ階級ヲ異ニスル共同被告人ニ付テハ其ノ官等、等級又ハ階級ノ最高キ者ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十八條　判士ノ區別ハ被告人ノ身分ニ異動アルモ官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ヲ除クノ外變更セラルルコトナシ

第五十九條　上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ハ原軍法會議ノ裁判官ヲ定メタル當時ノ被告人ノ身分ニ從フ但シ被告人官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第百七十三條第三項、第四百十五條、第四百十六條、第四百三十六條又ハ第五百三十條ノ決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ之ヲ準用ス

第六十條　上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判長ノ官等ハ原軍法會議ノ裁判長ヨリ下ルコトヲ得ス

第五章　豫審機關

第六十一條　豫審ハ豫審官之ヲ行フ

第六十二條　豫審官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十三條　特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十四條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六章　檢察機關

第六十五條　陸軍大臣ハ公訴及搜査ヲ指揮監督ス

第六十六條　長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ト牽連スル事件及所管部隊內ノ犯罪事件ニ付搜査ヲ指揮ス

第六十七條　檢察官ハ長官ニ隸屬シ搜査ヲ爲シ公訴ヲ行フ

第六十八條　檢察官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十九條　長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條　特設軍法會議ニ於テハ長官ハ陸軍ノ將校ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十一條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條　檢察官ハ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ搜査ノ補佐ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十三條　憲兵ノ將校、准士官又ハ下士ハ陸軍司法警察官トシテ搜査ヲ爲ス

陸軍大臣ハ所管ノ大臣ト協議シテ警察官中ヨリ陸軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十四條　左ニ記載シタル部隊ノ長ハ其ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ノ犯罪ニ付陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

一　中隊以上ノ軍隊及之ニ準スヘキ軍隊
二　官衙、學校、特務機關及戰時ニ於ケル特設機關

臨時集成部隊ノ長ハ其ノ部隊本屬部隊ノ所在地ト遠隔ノ地ニ在ル場合ニ限リ前項ノ規定ニ準シ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

第七十五條　前條ニ記載シタル部隊ノ長ハ部下ノ將校ニ委任シテ特定ノ事件ニ付陸軍司法警察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十六條　陸軍司法警察官又ハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ搜査ヲ爲スニ付上官ノ命令ニ從フ

第七十七條　警査又ハ憲兵卒ハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ陸軍司法警察吏トシテ搜査ノ補助ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡査亦前項ニ同シ

第七十八條　檢察官ハ司法警察吏ヲシテ搜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十九條　陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ部下ヲシテ搜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二編　訴訟手續

第一章　總則

第一節　裁判官ノ除斥及回避

第八十條　長官ハ除斥ノ原由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルトキハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條　裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合左ノ如シ

一　裁判官被害者ナルトキ
二　裁判官被告人又ハ被害者ノ配偶者、四親等內ノ血族、三親等內ノ姻族又ハ同居ノ戶主若ハ家族ナルトキ
三　裁判官被告人又ハ被害者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ
四　裁判官事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ
五　裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ補佐人ト爲リタルトキ
六　裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ
七　裁判官事件ニ付搜査、豫審又ハ前審ニ干與シタルトキ

第八十二條　檢察官又ハ被告人ハ除斥ノ原由其ノ他裁判官ヲ變更スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スルコトヲ得

第八十三條　長官前條ノ具申ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ軍法會議ニ通知スヘシ

軍法會議前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ裁判官ノ變更アル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條　裁判官自ラ除斥ノ原由其ノ他回避スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スヘシ

第八十五條　前五條ノ規定ハ豫審官及錄事ニ之ヲ準用ス

第八十六條　特設軍法會議ニ於テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二節　辯護及補佐

第八十七條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第八十八條　辯護人ハ左ニ記載シタル者ヨリ之ヲ選任スヘシ

一　陸軍ノ將校又ハ將校相當官
二　陸軍高等文官又ハ同試補
三　陸軍大臣ノ指定シタル辯護士

第八十九條　辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲

スヘシ

辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九十條　辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十一條　辯護人ハ軍法會議ニ於テ被告事件ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

第九十二條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第九十三條　前六條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第九十四條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ補佐人ト爲ルコトヲ得

補佐人タラムトスルトキハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

補佐人ハ獨立シテ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　裁判

第九十五條　裁判ハ定數ノ裁判官評議シテ之ヲ爲ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條　裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ法務官試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末及各裁判官ノ意見ハ秘密トス

第九十七條　裁判官意見ヲ述フルノ順序ハ法務官ヲ始トス法務官二人ナルトキハ席次ノ低キ者ヲ始トス其ノ他ノ裁判官ニ在リテハ席次ノ最低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス

第九十八條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

裁判官ノ意見三説以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第九十九條　裁判官ハ裁判スヘキ事項ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第百條　判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽キ之ヲ爲スヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百一條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル理由竝法令ノ適用ヲ示スヘシ

第百二條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第百四條　檢察官ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第百五條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ被告人其ノ他訴訟關係人ノ請求ニ因リ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニハ其ノ費用ヲ徵スルコトヲ得

第四節　書類

第百六條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外錄事之ヲ調製スヘシ

第百七條　裁判官、豫審官又ハ檢察官ハ錄事ノ作リタル書類ニ付意見アルトキハ錄事ニ命シ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ錄事ハ自己ノ意見ヲ書類ニ附記スルコトヲ得

第百八條　被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ錄事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第百九條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第百十條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者錄事ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ軍法會議取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判官タル法務官錄事ト共ニ署名捺印スルヲ以テ足ル

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第百十一條　錄事ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ錄事ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第百十二條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他重要ナル訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル軍法會議及年月日

二　裁判官、檢察官及錄事ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、補佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　辯論ノ公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述其ノ他辯論ノ要旨

六　第百八條第二項ニ記載シタル事項

七　朗讀シタル書類及要旨ヲ告ケタル書類

八　被告人ニ示シタル證據物

九　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十　裁判長ヨリ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十一　辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタルコト

十二　判決其ノ他ノ裁判ヲ爲シタルコト

第百十三條　公判調書ニ付テハ第百八條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

第百十四條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日內ニ之ヲ整理スヘシ

第百十五條　公判調書ニハ裁判官タル法務官錄事ト共ニ署名捺印スヘシ

法務官二人ナルトキハ上席者署名捺印シ上席者差支アルトキハ他ノ法務官署名捺印スヘシ

法務官差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

錄事差支アルトキハ前三項ノ規定ニ依リ署名捺印スル者其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第百十六條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第百十七條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第百十八條　裁判書ハ裁判官之ヲ作ルヘシ

第百十九條　裁判書ニハ裁判官署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ裁判官其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ裁判官署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第百二十條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ干與シタル檢察官ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第百二十一條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ原本又ハ謄本ニ依リ

之ヲ作ルヘシ

第百二十二條　前四條ノ規定ハ豫審官裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ毎葉ニ契印スヘシ

第百二十四條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ削除シタル部分ハ讀ミ得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第百二十五條　官吏及公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第百二十六條　官吏及公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代署セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代署セシメタル場合ニ於テハ代署シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第百二十七條　特設軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ノ書類ニ付テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五節　送達

第百二十八條　送達ハ錄事送達吏ヲシテ之ヲ爲サシム但シ陸軍司法警察官ノ發スル書類ノ送達ハ其ノ書類ヲ作リタル者之ヲ爲サシム

送達吏ハ陸軍司法警察吏ヲ以テ之ニ充ツ

第百二十九條　送達ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以テ送達吏ト爲ス

第百三十條　送達ハ之ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記又ハ之ニ相當スル官署ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條　兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對スル送達ハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第一條又ハ海軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者ニシテ前項ニ記載シタル以外ノ場所ニ在ル者ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長若ハ監督者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル送達ハ書類ヲ本人ニ交付シタル旨ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第百三十二條　第一條及海軍軍法會議法第一條ニ記載シタル以外ノ者被告人、代理人、辯護人又ハ補佐人ト爲リタルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ軍法會議ニ屆出ツヘシ軍法會議所在地ニ住居及事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ旨及送達受取人ノ住居又ハ事務所ヲ其ノ者ト共ニ書面ヲ以テ屆出ツヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ付之ヲ適用セス

送達受取人ハ送達ヲ受クヘキ本人ト看做シ送達受取人ノ住居又ハ事務所ハ本人ノ住居又ハ事務所ト看做ス

第百三十三條　前條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘキ者其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ交付スヘキ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百三十四條　檢察官ニ對スル送達ハ書類ヲ其ノ所屬官廳ニ送付シテ之ヲ爲ス

第百三十五條　被告人ノ現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル爲他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第百三十六條　公示送達ハ軍法會議ノ指揮アリタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ交付スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シテ之ヲ爲ス

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ召喚狀ヲ軍法會議ノ揭示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ揭載シテ之ヲ爲ス

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ揭載シタル時ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達ハ揭示場ニ公示シタル時ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第百三十七條　送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第六節　期間

第百三十八條　期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ卽時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ暦ニ從ヒテ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日、一般ノ休日トシテ指定セラレタル大祭日若ハ祝日又ハ陸軍一般ノ休日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百三十九條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居地ト軍法會議所在地トノ距離ニ從ヒ海陸路二十里每ニ一日ヲ加フ二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキ亦同シ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第七節　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第百四十條　軍法會議公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第百四十一條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル被告人ノ召喚ハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ軍法會議ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ヲ召喚スル場合ニ之ヲ準用ス

第百四十二條　召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百四十三條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二　被告人逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキ

三　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

四　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

第百四十四條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第百四十五條　勾引シタル被告人ハ軍法會議ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第百四十六條　第百四十三條ニ記載シタル事由アルトキハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得但シ被告人監獄ニ在ルトキハ其ノ事由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

前項ノ規定ハ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第百四十三條第四號ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス

第百四十七條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人ノ勾留ハ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第百四十三條第一號ノ場合及被告人逃走シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十八條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第百四十條乃至前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十九條　裁判長ハ被告人現在地ノ豫審官、檢察官、陸軍司法警察官、豫審判事、區裁判所判事、檢事、司法警察官又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ更ニ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ陸軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ陸軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第百五十條　被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長又ハ之ニ相當スル官署ニ被告人ノ人相書ヲ送付シ其ノ搜査及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域內ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜査及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第百五十一條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル軍法會議ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第百四十五條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百五十二條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件竝被告人ノ氏名及住所ヲ記載シ裁判長又ハ受命裁判官之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住所分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時及場所竝召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

第百四十八條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第百五十三條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第百四十九條第四項ノ規定ニ依リ豫審官、檢察官又ハ陸軍司法警察官ノ發スル勾引狀ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及其ノ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第百五十四條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百五十五條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢察官ノ指揮ニ依リ陸軍司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命裁判官又ハ豫審官其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ監獄官吏之ヲ執行ス

勾引狀又ハ勾留狀ハ必要アルトキハ司法警察官吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

特設軍法會議ニ於テハ陸軍下士卒ヲシテ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行セシムルコトヲ得

第百五十六條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ陸軍司法警察官吏、陸軍下士卒又ハ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百五十七條　陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄地外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百五十八條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル軍法會議ニ引致スヘシ

第百四十九條第四項及第百五十條第二項ノ場合ニ於テハ勾引狀ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シテ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百五十九條　兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍及艦船ノ外ニ在リテ現ニ陸海軍ノ勤務ニ從事スル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六十條　軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得

第百六十一條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百六十三條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢察官又ハ執行ヲ指揮シタル官署ニ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百六十四條　檢察官ハ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百六十五條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百六十六條　軍法會議ハ罪證ヲ湮滅シ、逃走シ又ハ軍事上ノ機密ヲ漏泄スル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類若ハ物ヲ查閱シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

軍法會議書類又ハ物ノ查閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコトヲ得

第百六十七條　勾留ノ原由消滅シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百六十八條　勾留セラレタル被告人第一條第一項第一號、第四號及海軍軍法會議法第一條第一項第一號、第四號ニ記載シタル以外ノ者ナルトキハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百六十九條　保釋ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百七十條　保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ差出シタル後之ヲ執行スヘシ

檢察官ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得

檢察官ハ有價證券又ハ軍法會議ノ所在地ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資產ヲ有スル者ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

前項ノ保證書ニハ保證金額及何時ニテモ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百七十一條　軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ責付スルコトヲ得

責付ハ被告人營內居住者ナルトキハ其ノ所屬部隊ノ長ニ之ヲ爲シ營內居住者ニ非サルトキハ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ爲スヘシ

營內居住者ニ非サル者ヲ責付スルニハ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百七十二條　被告人營內居住者ニ非サルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百七十三條　軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋中被告人召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス、住居ノ制限ニ違反シ又ハ逃走シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金

ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃走シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百七十四條　勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢察官ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百七十五條　上告提起期間內又ハ上告中ノ事件ニ付勾留ヲ取消シ保釋、責付若ハ勾留ノ執行停止ヲ爲シ又ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ原軍法會議其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百七十六條　豫審官ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百七十七條　左ノ場合ニ於テ被告事件急速ノ處分ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

一　軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ
二　現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ラサルトキ
三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ
四　死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ被告人ヲ發見シタルトキ
五　既決ノ囚人又ハ法令ニ依リ拘禁セラレタル被告人逃走シタルトキ
六　被告人强盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ
七　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

前項ノ規定ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル場合ニ於テハ檢察官ハ之ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ニ囑託シ陸軍司法警察官ハ之ヲ他ノ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

第百七十八條　檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ被告人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第百四十三條各號ニ記載シタル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ直ニ被告人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ陸軍司法警察吏又ハ司法警察吏ニ命スヘシ
二　陸軍司法警察吏又ハ司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ被告人ヲ逮捕スヘシ

第百七十九條　現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百八十條　陸軍司法警察吏又ハ司法警察吏被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

陸軍司法警察吏又ハ司法警察吏被告人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百八十一條　司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送致スヘシ

第百八十二條　陸軍司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ三日內ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百八十三條　檢察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ被告事件急速ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾留狀ヲ求ムル能ハサル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ勾留狀ヲ發スヘシ但シ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第百七十七條第一項第七號ノ場合ヲ除クノ外勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

檢察官勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ長官ニ搜査ノ報告ヲ爲シ又ハ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢察官他ノ檢察官ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第百八十四條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百八十五條　第百七十七條以下ノ場合ニ於ケル勾引又ハ勾留ニ付テハ第百五十一條乃至第百五十三條及第百五十五條乃至第百六十四條ノ規定ヲ準用ス

第八節　被告人訊問

第百八十六條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百八十七條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問ヒ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百八十八條　被告人ニ對シテ訊問ヲ爲ストキハ錄事ヲシテ立會ハシムヘシ但シ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百八十九條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百九十條　被告人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第九節　押收及搜索

第百九十一條　軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノハ之ヲ差押フヘシ

軍法會議ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百九十二條　軍法會議ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電報及其ノ類信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ニ記載シタル以外ノ郵便物又ハ電報及其ノ類信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限リ之ヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十三條　軍法會議ハ被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ヲ領置スルコトヲ得

第百九十四條　軍法會議ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百九十五條　押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百九十六條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十七條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル者ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アル

二非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十八條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付押收ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十九條　軍法會議ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シ命令狀ヲ發シ陸軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第二百條　陸軍司法警察官又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ其ノ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第二百一條　陸軍司法警察官又ハ司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢察官ヲ經テ之ニ關スル書類及押收物ヲ軍法會議ニ差出スヘシ

第二百二條　軍法會議押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢察官ニ送付スルコトヲ得

檢察官前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第二百三條　押收又ハ搜索ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ處分ヲ爲スヘキ地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ押收又ハ搜索ヲ爲スニ付軍法會議ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十二條第三項ノ通知ハ軍法會議之ヲ爲スヘシ

第二百四條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第二百五條　左ノ場所ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二　旅店、飮食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第二百六條　官署、公署又ハ兵營其ノ他軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百七條　檢察官、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ノ處分ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ノ處分ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムルコトヲ得

第二百八條　押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十條　押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分ヲ終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第二百十一條　押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第二百十二條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テハ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ之ニ交付スヘシ

第二百十三條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危害ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二百十四條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第二百十五條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第二百十六條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百十七條　押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ錄事ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十八條　豫審官ハ押收及搜索ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十九條　檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第百七十八條又ハ第百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官又ハ司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢察官ニ送付スヘシ但シ第二百十三條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第二百二十條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルニ付急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ之ヲ搜索スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百六條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

檢察官、陸軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏現行犯ノ被告人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ被告人、人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ逃入リタルトキ亦前項ニ同シ

第二百二十二條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ入リ搜索ヲ爲スコトヲ得但シ第百七十七條第一項第一號又ハ第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依ル

第二百二十三條　檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス押收及搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第百九十一條乃至第百九十八條、第二百二條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條乃至第二百十六條ノ規定ヲ準用ス

陸軍司法警察吏、下士卒又ハ司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第百九十五條、第百九十六條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第十節　檢證

第二百二十四條　軍法會議ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第二百二十五條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十六條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合又ハ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第二百五條ニ記載シタル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第二百二十七條　檢證ニ付テハ第百九十六條、第二百三條、第二百六條乃至第二百十一條及第二百十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十八條　豫審官ハ檢證ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百二十九條　檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第百七十八條又ハ第百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百三十條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條　變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル者ナルトキハ部隊內ニ於テハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ部隊ノ長、其ノ他ノ場所ニ於テハ檢察官又ハ陸軍司法警察官檢視ヲ爲スヘシ

變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル以外ノ者ナルトキト雖部隊內ニ於テ死體ヲ發見シタル場合ニ於テハ陸軍司法警察官ノ職務ヲ行フ部隊ノ長檢視ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ部隊ノ長ハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ檢視ヲ囑託スルコトヲ得

檢視ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第一項乃至第三項ノ規定ハ他ノ法令ニ依ル檢視ヲ妨ケス

第二百三十二條　檢察官又ハ陸軍司法警察官ハ前條ノ處分ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第二百三十三條　檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス檢證ニ付テハ第百九十六條、第二百六條、第二百十條、第二百十一條、第二百二十五條及第二百二十六條ノ規定ヲ準用ス

第十一節　證人訊問

第二百三十四條　軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百三十五條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ知得タル事實ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得ス

第二百三十六條　左ニ記載シタル者ハ證言ヲ拒ムコトヲ得

一　被告人ノ配偶者、四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族又ハ被告人ト此等ノ親族關係アリタル者

二　被告人ノ後見人、後見監督人又ハ保佐人

三　被告人ヲ後見人、後見監督人又ハ保佐人ト爲ス者

共同被告人ノ一人又ハ數人ニ對シ前項ノ關係アル者ト雖他ノ共同被告人ノミニ關スル事項ニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

第二百三十七條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗教若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲知得タル事實ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付證言ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百三十八條　證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第二百三十六條第一項ニ規定スル關係アル者刑事上ノ訴追ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

第二百三十九條　證言ヲ拒ム者ハ之ヲ拒ム事由ヲ疏明スヘシ但シ前條ノ場合ニ於テハ其ノ事由ノ相違ナキ旨ノ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

證言ヲ拒ム者之ヲ拒ム事由ヲ疏明スルコト能ハサルトキ又ハ宣誓ヲ爲ササルトキハ決定ヲ以テ其ノ申立ヲ却下スヘシ

第二百四十條　第百四十一條及第百五十四條ノ規定ハ證人ノ召喚ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條　召喚ヲ受ケタル證人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處シ且不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償ヲ命スルコトヲ得

第二百四十二條　前條ノ言渡ヲ受ケタル者裁判書ノ送達アリタル日ヨリ三日內ニ正當ノ事由アリテ出頭スルコト能ハサリシコトヲ證明シタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ言渡ヲ取消スヘシ

天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲期間內ニ前項ノ證明ヲ爲スコト能ハサリシ者事故ノ止ミタル日ヨリ三日內ニ其ノ證明ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第二百四十三條　召喚ニ應セサル證人ニ對シテハ更ニ召喚狀ヲ發シ又ハ勾引狀ヲ發スル

コトヲ得

第二百四十四條　證人ノ召喚狀又ハ勾引狀ニハ證人ノ氏名及住居、被告人ノ氏名竝被告事件ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

召喚狀ニハ出頭スヘキ年月日時及場所竝召喚ニ應セサルトキハ過料ニ處シ且勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

召喚狀ノ送達ト出頭トノ間ニハ少クトモ二十四時間ノ猶豫ヲ存スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

證人第一條ニ記載シタル者ナルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二百四十五條　證人ノ勾引ニ付テハ第百五十五條乃至第百五十九條及第百六十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百四十六條　證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘシ

第二百四十七條　證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百四十八條　宣誓ハ訊問前之ヲ爲サシムヘシ但シ宣誓ヲ爲サシムヘキ者ナリヤ否ニ付疑アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四十九條　宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

訊問後宣誓ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默祕セス又何事ヲモ附加セサリシコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

裁判長ハ宣誓書ヲ朗讀シ證人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第二百五十條　宣誓ヲ爲サシムヘキ證人ニハ宣誓前僞證ノ罰ヲ告クヘシ

第二百五十一條　同一ノ被告事件ニ付數名ノ證人出頭シタル場合ニ於テハ其ノ宣誓ハ同時ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百五十二條　左ニ記載シタル者ニハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一　十五歳未滿ノ者
二　宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
三　現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
四　第二百三十六條第一項ニ記載シタル者ニシテ證言ヲ拒マサル者
五　第二百三十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
六　被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及賍物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ記載シタル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百五十三條　證人ノ供述カ其ノ證人若ハ之ト第二百三十六條第一項ニ規定スル關係アル者ノ恥辱ニ歸シ又ハ其ノ財產上ニ重大ナル損害ヲ生スル虞アルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルコトヲ得

第二百五十四條　證人ノ訊問ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル場所ニ於テ各別ニ之ヲ爲スヘシ

第二百五十五條　事實發見ノ爲必要アルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

第二百五十六條　證人ニハ訊問事項ニ付連絡シタル供述ヲ爲サシムヘシ

必要アル場合ニ於テハ證人ノ供述ヲ明白ナラシメ又ハ其ノ眞否ヲ判斷スル爲適當ナル訊問ヲ爲スヘシ

第二百五十七條　證人ニハ其ノ實驗シタル事實ニ因リ推測シタル事項ヲ供述セシムルコトヲ得

前項ノ供述ハ鑑定ニ屬スル故ヲ以テ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第二百五十八條　第百八十八條及第百九十條ノ規定ハ證人ノ訊問ニ付之ヲ準用ス

第二百五十九條　證人軍法會議構內ニ在ルトキハ召喚ヲ爲サスシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百六十條　證人ハ必要アル場合ニ於テハ軍法會議外ノ指定ノ場所ニ之ヲ召喚シ又ハ其ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二百六十一條　親任官又ハ親任官ノ待遇ヲ受クル者ハ其ノ現在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

帝國議會ノ議員議會ノ開期中開會地ニ滯在スルトキハ其ノ滯在地ニ於テ之ヲ訊問スヘシ

第二百六十二條　證人正當ノ理由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ百圓以下ノ過料ニ處スヘシ第二百三十九條第一項但書ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣誓ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百六十三條　軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ證人ノ同行ヲ命スルコトヲ得證人正當ノ事由ナクシテ同行ヲ肯セサルトキハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第二百六十四條　軍法會議外ニ於テ證人ノ訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ證人現在地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ證人訊問ニ付軍法會議又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第二百四十一條及第二百六十二條ノ決定ハ軍法會議亦之ヲ爲スコトヲ得

第二百六十五條　豫審官ハ證人訊問ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第二百六十六條　檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢察官、陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

陸軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第百七十八條又ハ第百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ第二百三十四條乃至第二百六十四條ノ規定ニ準シ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百六十七條　檢察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第二百六十八條　檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ證人ニ對シ過料又ハ賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス

第二百六十九條　證人ハ旅費、日當及止宿料ヲ請求スルコトヲ得但シ正當ノ事由ナクシテ宣誓又ハ證言ヲ拒ミタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十二節　鑑定

第二百七十條　軍法會議ハ學識經驗アル者ニ鑑定ヲ命スルコトヲ得

第二百七十一條　鑑定人ニハ鑑定ヲ爲ス前宣誓ヲ爲サシムヘシ

宣誓ハ宣誓書ニ依リ之ヲ爲スヘシ

宣誓書ニハ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スヘシ

第二百七十二條　鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ

鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

書面ヲ以テ報告ヲ爲サシメタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ說明ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十三條　軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ鑑定人ヲシテ軍法會議外ニ於テ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鑑定ニ關スル物ヲ鑑定人ニ交付スルコトヲ得

被告人ノ心神又ハ身體ニ關スル鑑定ヲ爲サシムルニ付必要アルトキハ軍法會議ハ期間ヲ定メ病院其ノ他相當ノ場所ニ被告人ヲ留置スルコトヲ得

第二百七十四條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ身體ヲ檢査シ、死體ヲ解剖シ又ハ物ヲ毀壞スルコトヲ得

第二百七十五條　鑑定人ハ鑑定ニ付必要アル場合ニ於テハ軍法會議ノ許可ヲ得テ書類若ハ證據物ヲ閱覽シ若ハ謄寫シ又ハ被告人若ハ證人ノ訊問ニ立會フコトヲ得

鑑定人ハ被告人若ハ證人ノ訊問ヲ求メ又ハ許可ヲ得テ此等ノ者ニ對シ直接ニ問ヲ發スルコトヲ得

第二百七十六條　軍法會議ハ受命裁判官ヲシテ鑑定ニ付必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得但シ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ハ此ノ限ニ在ラス

第二百七十七條　軍法會議ハ鑑定ヲ十分ナラスト思料スルトキハ鑑定人ヲ增加シ又ハ他ノ鑑定人ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百七十八條　檢察官及辯護人ハ鑑定ニ立會フコトヲ得

第二百八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百七十九條　鑑定ニ付テハ勾引ニ關スル規定ヲ除クノ外第十一節ノ規定ヲ準用ス

檢察官、陸軍司法警察官又ハ司法警察官ハ第二百七十三條第三項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十條　鑑定人ハ旅費、日當及止宿料ノ外鑑定料及立替金ノ辨償ヲ請求スルコトヲ得

第二百八十一條　軍法會議ハ官署公署ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

前九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ第二百七十二條第三項ノ規定ニ依ル說明ハ官署公署ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

第二百八十二條　特別ノ智識ニ因リ知得タル過去ノ事實ニ付其ノ事實ヲ知リタル者ヲ訊問スル場合ニハ本節ノ規定ニ依ラス第十一節ノ規定ヲ適用ス

第十三節　通譯

第二百八十三條　國語ニ通セサル者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムヘシ

第二百八十四條　聾者又ハ啞者ヲシテ陳述ヲ爲サシムル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十五條　國語ニ非サル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二百八十六條　軍法會議ハ官署公署ニ翻譯ヲ囑託スルコトヲ得

第二百八十七條　通譯及翻譯ニ付テハ第十二節ノ規定ヲ準用ス

第二章　始審

第一節　搜査

第二百八十八條　犯罪ニ因リ害ヲ被リタル者ハ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者ノ法定代理人又ハ夫ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

被害者死亡シタルトキハ其ノ家督相續人又ハ親族告訴ヲ爲スコトヲ得但シ被害者ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ刑法第百八十三條ノ罪ニ之ヲ適用セス

第二百八十九條　前條第二項ノ場合ニ於テ被害者ノ法定代理人被告人ナルトキ、被告人ノ配偶者ナルトキ又ハ被告人ノ四親等內ノ血族若ハ三親等內ノ姻族ナルトキハ被害者ノ親族ハ獨立シテ告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十條　刑法第二百三十條第二項ノ罪ニ付テハ死者ノ親族、遺族又ハ後裔告訴ヲ爲スコトヲ得

第二百九十一條　前三條ノ規定ニ依リテ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ナキ場合ニ於テハ管轄軍法會議ノ檢察官ハ利害關係人ノ申立ニ因リ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ヲ指定スルコトヲ得但シ刑法第百八十三條ノ罪ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二百九十二條　親告罪ノ告訴ハ犯人ヲ知リタル時ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

刑法第二百二十九條但書ノ場合ニ於ケル告訴ハ婚姻ノ無效又ハ取消ノ裁判確定シタル時ヨリ六月內ニ之ヲ爲スニ非サレハ其ノ效ナシ

第二百九十三條　告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ者數人アル場合ニ於テ一人ノ期間ノ懈怠ハ他ノ者ニ其ノ效ヲ及ホサス

第二百九十四條　告訴ハ始審ノ判決ノ告知アル迄之ヲ取消スコトヲ得

告訴ノ取消ヲ爲シタル者ハ更ニ告訴ヲ爲スコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テノ請求ニ之ヲ準用ス

第二百九十五條　親告罪ニ付共犯ノ一人又ハ數人ニ對シテ爲シタル告訴又ハ其ノ取消ハ他ノ共犯ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

前項ノ規定ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テノ請求又ハ其ノ取消ニ之ヲ準用ス

刑法第百八十三條ノ罪ニ付相姦者ノ一人ニ對シ告訴又ハ其ノ取消アリタルトキハ他ノ一人ニ對シ亦其ノ效ヲ生ス

第二百九十六條　何人ニ限ラス犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スコトヲ得

官吏又ハ公吏其ノ職務ヲ行フニ因リ犯罪アリト思料シタルトキハ告發ヲ爲スヘシ

第二百九十七條　告訴又ハ告發ハ代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百九十八條　告訴又ハ告發ハ書面又ハ口頭ヲ以テ檢察官、陸軍司法警察官、檢事若ハ司法警察官又ハ之ニ相當スル官署ニ之ヲ爲スヘシ

第二百九十九條　檢察官、陸軍司法警察官、檢事若ハ司法警察官又ハ相當官署口頭ノ告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ調書ヲ作ルヘシ

第百八條第三項乃至第五項及第百十一條ノ規定ハ檢察官又ハ陸軍司法警察官ノ作ルヘキ前項ノ調書ニ之ヲ準用ス

第三百條　檢事若ハ司法警察官又ハ相當官署告訴又ハ告發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送付スヘシ

第三百一條　告訴又ハ告發ノ取消又ハ變更ニ付テハ前四條ノ規定ヲ準用ス

第三百二條　自首ニ付テハ告發ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百三條　檢察官又ハ陸軍司法警察官搜査ヲ爲スニ付テハ其ノ目的ヲ達スルニ必要ナル取調ヲ爲スコトヲ得但シ強制ノ處分ハ別段ノ規定アル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

搜査ニ付テハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百四條　檢察官搜査ヲ爲スニ付強制ノ處分ヲ必要トスルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ト雖長官ノ認可ヲ受ケ押收、搜索、檢證、被告人ノ勾留、被告人若ハ證人ノ訊問又ハ鑑定ノ處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ得

請求ヲ受ケタル豫審官ノ處分ニ付テハ豫審ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百五條　豫審官前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百六條　陸軍司法警察官搜査ヲ爲シタルトキハ長官ニ搜査ノ報告ヲ爲シ又ハ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

搜査ノ報告ヲ爲スニハ書類及證據物ト共ニ報告書ヲ檢察官ニ送付スヘシ

檢察官前項ノ規定ニ依リ報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ書類及證據物ト共ニ之ヲ長官ニ提出スヘシ

第三百七條　檢察官搜査ヲ爲シタルトキハ書類及證據物ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ搜査ノ報告ヲ爲シ又ハ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ事件ヲ送致スヘシ

第三百八條　長官搜査ノ報告ヲ受ケタル場合

ニ於テハ檢察官ニ對シ左ノ命令ヲ爲スヘシ

一　公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二　豫審ニ付スルノ必要アリト思料スルトキハ豫審請求ノ命令

第三百九條　長官ハ前條ノ命令ヲ爲ササル場合ニ於テ被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ又ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ檢察官ニ對シ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘキ旨ノ命令ヲ爲スヘシ

檢察官被告事件ノ送致ヲ爲ス場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百十條　長官前二條ノ命令ヲ爲ササルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ告知スヘシ

第三百十一條　檢察官前條ノ規定ニ依ル告知ヲ受ケタルトキハ勾留シタル被告人ハ速ニ之ヲ釋放シ押收シタル物ハ速ニ之ヲ還付スヘシ但シ必要ナル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ保管スルコトヲ得

第二節　豫審

第三百十二條　豫審ノ請求ハ檢察官ノ屬スル軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ爲スヘシ

第三百十三條　同一事件ニ付數個ノ軍法會議ノ豫審官ニ豫審ノ請求アリタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ其ノ豫審官中ヨリ豫審ヲ爲スヘキ者ヲ指定スヘシ

前項ノ決定アリタルトキハ豫審官ハ書類及證據物ヲ指定セラレタル豫審官ニ送付スヘシ

第三百十四條　豫審ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

豫審ノ請求ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ口頭又ハ豫定ノ符號ヲ用ヰタル電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭又ハ電報ヲ以テ豫審ノ請求ヲ爲シタルトキハ之ヲ調書ニ記載シ豫審官錄事ト共ニ署名捺印スヘシ

第三百十五條　豫審ノ請求ヲ爲スニハ犯罪ノ事實ヲ示スヘシ

被告人分明ナルトキハ之ヲ指定スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徴表ヲ以テスヘシ

第三百十六條　豫審官ハ豫審中檢察官ノ指定セサル被告人ヲ發見シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ指定ヲ待タス之ヲ被告人ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百十七條　豫審官ハ豫審中被告人ニ他ノ犯罪アルコトヲ認知シタル場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ檢察官ノ請求ヲ待タス豫審處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

檢察官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ速ニ長官ニ報告スヘシ

第三百十八條　長官前條ノ報告ヲ受ケ豫審ノ必要アリト思料スルトキハ豫審ノ請求ヲ命スヘシ

豫審官檢察官ヨリ豫審ヲ請求セサル旨ノ通知ヲ受ケタルトキ又ハ前條ノ通知ヲ爲シタル時ヨリ四十八時間内ニ豫審ノ請求ナキトキハ其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得ス若シ被告人ヲ勾留シタルトキハ之ヲ釋放シ押收シタル物アルトキハ之ヲ還付スヘシ

第三百十九條　公訴ヲ受ケタル被告人ニ對シテハ同一事件ニ付豫審ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十條　豫審官ハ豫審請求ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無效ナルトキ又ハ第三百三十二條、第三百三十七條若ハ第四百條ノ規定ニ違反シテ豫審ヲ請求シタルトキハ豫審ノ請求ヲ却下スヘシ

第三百二十一條　豫審ハ事件カ公訴ヲ提起スヘキモノナリヤ否ヲ決スルニ必要ナル事項ヲ取調フルヲ以テ限度トス

公判ニ於テ取調ヘ難シト思料スル事項ニ付亦其ノ取調ヲ爲スヘシ

第三百二十二條　豫審官ハ公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十三條　豫審官ハ被告人ヲ訊問スヘシ

豫審官ハ被告人ノ所在ニ就キ之ヲ訊問スルコトヲ得

第三百二十四條　豫審官ハ豫審終了前被告人ニ對シ嫌疑ヲ受ケタル原由ヲ告知シ辯解ヲ爲サシムヘシ但シ被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十五條　豫審官ハ豫審處分ノ一部ニ付其ノ軍法會議ノ豫審官ニ補助ヲ求ムルコトヲ得

第三百二十六條　檢察官及被告人ハ豫審中何時ニテモ必要ナル豫審處分ヲ豫審官ニ請求スルコトヲ得

檢察官ハ豫審中何時ニテモ書類及證據物ヲ閲覽スルコトヲ得

第三百二十七條　豫審官ハ左ニ記載シタル場合ニ於テハ檢察官ノ意見ヲ聽キ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一　被告人分明ナラサルトキ

二　被告人ノ所在分明ナラサルトキ

三　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

第三百二十八條　豫審中ノ事件ニ付高等軍法會議ノ管轄ニ屬スルモノトシテ高等軍法會議ノ檢察官ヨリ豫審ノ請求アリタルトキハ豫審官ハ豫審手續ヲ止ムヘシ

第三百二十九條　豫審官被告事件ニ付取調ヲ終了シタリト思料シタルトキハ書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ檢察官事項ヲ指示シテ取調ヲ請求シタルトキハ豫審官ハ更ニ其ノ取調ヲ爲シ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第三百三十條　檢察官前條ノ規定ニ依リ書類及證據物ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ意見書ヲ添ヘ長官ニ豫審終了ノ報告ヲ爲スヘシ

第三百三十一條　長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ檢察官ニ對シ左ノ命令ヲ爲スヘシ

一　公訴ヲ提起スヘキモノト思料スルトキハ公訴提起ノ命令

二　不起訴ノ處分ヲ爲スヘキモノト思料スルトキハ不起訴處分ノ命令

三　被告事件其ノ軍法會議ノ管轄ニ屬セサルモノナルトキ又ハ軍法會議ノ裁判權ニ屬セサルモノナルトキハ事件送致ノ命令

檢察官前項第一號又ハ第二號ノ命令ニ依リ公訴提起又ハ不起訴處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ豫審官及被告人ニ通知スヘシ

第三百三十二條　被告人ニ對シ不起訴處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ非サレハ同一事件ニ付之ヲ豫審ノ被告人ト爲シ又ハ之ニ對シ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第三百三十三條　檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ

第三百三十四條　檢察官不起訴處分ヲ爲シタルトキハ直ニ押收物ヲ還付スヘシ但シ必要アル場合ニ於テハ公訴ノ時效完成スルニ至ル迄之ヲ還付セサルコトヲ得

押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルモノハ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第三百三十五條　檢察官事件送致ノ命令ヲ受ケタルトキハ事件ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スヘシ

前項ノ場合ニ於テ勾留セラレタル被告人ニ對シ勾留ヲ繼續スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ釋放スヘシ

第三百三十六條　檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ豫審ノ請求ヲ取消スコトヲ得豫審ノ請求ヲ取消シタル場合ニ於テ被告人トシテ訊問ヲ受ケタル者アルトキハ其ノ旨ヲ之ニ通知スヘシ

豫審請求取消前ニ爲シタル處分ハ其ノ效力ヲ有ス

豫審請求ノ取消ニ付テハ第三百十四條ノ規定ヲ準用ス

第三百三十七條　第三百三十二條乃至第三百三十四條ノ規定ハ豫審ノ請求ヲ取消シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十八條　第三百七十九條及第三百八

十一條ノ規定ハ豫審ニ之ヲ準用ス但シ同條中裁判長又ハ軍法會議トアルハ豫審官トス

第三節　公訴

第三百三十九條　公訴ハ檢察官ノ指定シタル以外ノ者ニ其ノ效力ヲ及ホサス

第三百四十條　檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ公訴ヲ取消スコトヲ得

公訴ノ取消ハ書面ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百四十一條　時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス

一　死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三　長期十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四　長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ五年

五　長期五年未滿ノ懲役若ハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

六　刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ六月

七　拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三百四十二條　二以上ノ主刑ヲ併科シ又ハ二以上ノ主刑中其ノ一ヲ科スヘキ罪ノ時效ハ其ノ重キ刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十三條　刑法ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スヘキ場合ニ於テハ時效ハ加重又ハ減輕セサル刑ニ該ル罪ニ付定メタル期間ニ從フ

第三百四十四條　時效ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス

數人共犯ノ場合ニ於テハ最終ノ行爲アリタル時ヨリ總テノ共犯ニ對シテ時效ノ期間ヲ起算ス

第三百四十五條　時效ハ公訴ノ提起、豫審ノ請求、公判若ハ豫審ノ處分又ハ第三百四條ニ定メタル豫審官ノ處分ニ因リ中斷ス

共犯ノ一人ニ對シテ爲シタル手續ニ因ル時效ノ中斷ハ他ノ共犯ニ對シ效力ヲ有ス

第三百四十六條　時效ハ中斷ノ事由ノ終了シタル時ヨリ更ニ進行ス

第三百四十七條　時效ハ第三百二十七條第三號ノ規定ニ依リ豫審手續ヲ中止シ又ハ第三百九十六條ノ規定ニ依リ公判手續ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三百四十八條　公訴提起ノ命令ハ書面ニ依リ之ヲ爲ス

公訴提起ノ命令ヲ爲スニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實ヲ示スヘシ

第三百四十九條　公訴ノ提起ハ公訴狀ニ依リ之ヲ爲ス

第三百五十條　公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪ノ事實及罪名ヲ示スヘシ

第三百五十一條　告訴ニ係ル事件ニ付公訴ヲ提起シ若ハ之ヲ提起セス又ハ其ノ事件ヲ他ノ軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致シタルトキハ檢察官ハ速ニ其ノ旨ヲ告訴人ニ通知スヘシ

第四節　公判

第三百五十二條　裁判長ハ公判期日ヲ定ムヘシ

期日ニハ被告人、辯護人及補佐人ヲ召喚スヘシ

第百四十一條及第百五十四條ノ規定ハ辯護人及補佐人ノ召喚ニ之ヲ準用ス

期日ハ之ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第三百五十三條　第一回ノ期日ト被告人ニ對スル召喚狀ノ送達トノ間ニハ少クトモ三日ノ猶豫期間ヲ存スヘシ但シ特設軍法會議ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

被告人異議ナキトキハ前項ノ猶豫期間ヲ存セサルコトヲ得

第三百五十四條　裁判長ハ期日ヲ變更スルコトヲ得

期日ノ變更ニ關スル請求ヲ却下スル命令ハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第三百五十五條　軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調準備ノ爲期日前被告人ノ訊問ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百五十六條　軍法會議ハ第一回ノ期日ニ於ケル取調ノ爲期日前證據物若ハ證據書類ノ提出ヲ命シ又ハ證人、鑑定人、通事若ハ翻譯人ニ對シ期日ニ出頭スヘキ旨ノ召喚狀ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ召喚スル證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ氏名ハ直ニ之ヲ訴訟關係人ニ通知スヘシ

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ第一項ノ處分ヲ軍法會議ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前四項ノ規定ハ第二回以後ノ期日ニ於ケル取調ニ關シ之ヲ準用ス

第三百五十七條　檢察官、被告人又ハ辯護人ハ期日前證據物又ハ證據書類ヲ軍法會議ニ提出スルコトヲ得

第三百五十八條　軍法會議ハ證人疾病其ノ他ノ事由ニ因リ期日ニ出頭スルコト能ハスト思料スルトキハ期日前之ヲ訊問シ又ハ受命裁判官ヲシテ訊問セシムルコトヲ得

檢察官及辯護人ハ前項ノ訊問ニ立會フコトヲ得

第二百八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百五十九條　軍法會議ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ期日前鑑定若ハ翻譯ヲ爲サシメ又ハ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲スコトヲ得

第三百六十條　軍法會議ハ期日前公務所ニ照會シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第三百六十一條　期日ニ於ケル取調ハ公判廷ニ於テ之ヲ爲ス

公判廷ハ裁判官、檢察官及錄事列席シテ之ヲ開ク

第三百六十二條　公判數日引續クヘキ見込アル事件ニ付テハ長官ハ判士一人又ハ二人ニ補充裁判官ヲ命シ公判ニ立會ハシムルコトヲ得

補充裁判官ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

裁判長以外ノ判士疾病其ノ他ノ事故ニ因リ引續キ干與スルコトヲ得サル場合ニ於テハ裁判長ハ第四十九條又ハ第五十一條乃至第五十五條ニ規定スル區別ニ拘ラス補充裁判官ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

第三百六十三條　被告人期日ニ出頭セサルトキハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外開廷スルコトヲ得ス

第三百六十四條　罰金以下ノ刑ニ該ル事件ノ被告人ハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得但シ軍法會議ハ本人ノ出廷ヲ命スルコトヲ得

第三百六十五條　被告人ハ公判廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ但シ之ニ看守者ヲ附スルコトヲ得

第三百六十六條　被告人ハ裁判長ノ許可アルニ非サレハ退廷スルコトヲ得ス

裁判長ハ被告人ヲシテ在廷セシムル爲相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百六十七條　死刑又ハ無期若ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル事件ニ付テハ辯護人ナクシテ開廷スルコトヲ得ス但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

第三百六十八條　左ノ場合ニ於テ辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一　被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ

二　被告人聾者又ハ啞者ナルトキ

三　其ノ他必要ト認メタルトキ

第三百六十九條　前二條ノ規定ニ依リ附スヘキ辯護人ハ第八十八條ニ記載シタル者ヨリ裁判長之ヲ選任スヘシ

被告人ノ利害相反セサルトキハ同一ノ辯護人ヲシテ數人ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百七十條　前三條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第三百七十一條　辯論ハ之ヲ公開ス

第三百七十二條　安寧秩序若ハ風俗ヲ害シ又ハ軍事上ノ利益ヲ害スル虞アルトキハ辯論ノ公開ヲ停ムル決定ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條　辯論ノ公開ヲ停ムル決定アリタルトキハ公衆ヲ退廷セシムル前裁判長ハ其ノ決定ヲ理由ト共ニ宣告スヘシ

第三百七十四條　裁判長ハ公開ヲ停メタルトキト雖入廷セシムルヲ至當ト認ムル者ノ入廷ヲ許スコトヲ得

第三百七十五條　裁判長ハ被告人ノ部下ニ屬スル者又ハ被告人ヨリ官等、等級若ハ階級ノ下ナル第一條第一項第一號ニ記載シタル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十六條　裁判長ハ婦女、兒童又ハ相當ナル衣服ヲ著セサル者ノ入廷ヲ禁シ又ハ其ノ退廷ヲ命スルコトヲ得

第三百七十七條　前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第三百七十八條　開廷中ノ秩序ノ維持ハ裁判長之ヲ行フ

第三百七十九條　裁判長ハ辯論ヲ妨クル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ退カシムルコトヲ得

裁判長ハ前項ニ記載シタル者ノ行狀ニ依リ閉廷ニ至ル迄之ヲ留置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ軍法會議ハ決定ヲ以テ五十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第三百八十條　裁判長ハ不當ノ言語ヲ用ヰル辯護人ニ對シ同一事件ニ付引續キ陳述スルコトヲ禁スルコトヲ得

第三百八十一條　前二條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ處分及理由ヲ公判調書ニ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ懲戒處分ニ付スヘキモノト思料スルトキハ裁判長ハ公判調書ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨ヲ相當官署ニ通知スヘシ

第三百八十二條　辯論ノ指揮ハ裁判長之ヲ行フ

第三百八十三條　事實ノ認定ハ證據ニ依ル

第三百八十四條　證據ノ證明力ハ裁判官ノ自由ナル判斷ニ任ス

第三百八十五條　被告人ノ訊問及證據調ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

裁判長以外ノ裁判官ハ裁判長ニ告ケ被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

檢察官、被告人又ハ辯護人ハ必要トスル事項ニ付被告人、證人又ハ鑑定人ヲ訊問スヘキコトヲ裁判長ニ請求スルコトヲ得

第三百八十六條　裁判長ハ共同被告人、證人其ノ他ノ者被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サルヘシト思料スルトキハ其ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得供述終リタルトキハ被告人ヲ入廷セシメ供述ノ要旨ヲ告クヘシ

第三百八十七條　證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ錄事ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三百八十八條　證據物ハ裁判長之ヲ被告人ニ示スヘシ

期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物又ハ證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百五十八條又ハ第三百五十九條ノ規定ニ依リ集取シタルモノ亦同シ但シ訴訟關係人異議ナキモノハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

第三百八十九條　證據調ノ請求ヲ却下スルトキハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

新期日ノ指定其ノ他別段ノ手續ヲ必要トスル證據調ハ決定ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第三百九十條　裁判長被告人ニ對シ第百八十六條ノ訊問ヲ爲シタル後檢察官ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシ

前項ノ陳述終リタルトキハ裁判長ハ被告人ノ訊問及證據調ヲ爲スヘシ

第三百九十一條　裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ差出スコトヲ得ヘキ旨ヲ告クヘシ

第三百九十二條　證據調終リタル後檢察官ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述セシムヘシ

第三百九十三條　軍法會議ハ必要アル場合ニ於テハ辯論ヲ再開スルコトヲ得

第三百九十四條　軍法會議ハ計算其ノ他繁雜ナル事項ニ付公判廷ニ於テ取調フルコトヲ不便トスルトキハ受命裁判官ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ取調ヲ爲ス場合ニ於テハ受命裁判官ハ豫審官ト同一ノ權ヲ有ス

受命裁判官ハ取調ノ結果ニ付報告ヲ爲スヘシ

第三百九十五條　裁判長ハ裁判官ノ一人ヲシテ被告人ノ訊問、證據調又ハ辯論ノ指揮ニ關スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第三百九十六條　被告人心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ

被告人疾病ニ因リ出廷スルコト能ハサルトキハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出廷スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百六十四條ノ規定ニ依リ代人ヲ出廷セシメタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三百九十七條　開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セサリシ場合ニ於テハ辯論ヲ更新スヘシ

第三百九十八條　開廷後裁判官ノ更迭アリタルトキハ辯論ヲ更新スヘシ但シ判決ノ宣告ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三百九十九條　左ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

一　公訴ノ取消アリタルトキ

二　被告人死亡シタルトキ

三　第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲スヘカラサルトキ

第四百條　公訴ノ取消ニ因リ公訴棄却ノ決定アリタルトキハ再ヒ公訴ヲ提起シ又ハ豫審ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百一條　被告事件軍法會議ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百二條　被告事件ニ付犯罪ノ證明アリタルトキハ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ爲スヘシ

刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百三條　被告事件罪ト爲ラス又ハ犯罪ノ證明ナキトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲スヘシ

第四百四條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　確定判決ヲ經タルトキ

二　犯罪後ノ法令ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキ

三　刑ヲ免除スヘキトキ

四　大赦アリタルトキ

五　時效完成シタルトキ

第四百五條　左ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ公訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘシ

一　長官ノ命令ナクシテ公訴ヲ提起シタルトキ

二　公訴提起ノ手續其ノ規定ニ違ヒタル爲無效ナルトキ

三　第三百三十二條、第三百三十七條又ハ第四百條ノ規定ニ違反シテ公訴ヲ提起シタルトキ

四　告訴又ハ請求ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付告訴又ハ請求ノ取消アリタルトキ

五　公訴ノ提起アリタル事件ニ付更ニ同一軍法會議ニ公訴ヲ提起シタルトキ

六　被告人ニ對シテ裁判權ヲ有セサルトキ

第四百六條　被告人陳述ヲ肯セス若ハ許可ヲ受ケスシテ退廷シ又ハ秩序維持ノ爲裁判長ヨリ退廷ヲ命セラレタルトキハ其ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百七條　罰金以下ノ刑ニ該ルモノ又ハ罰金以下ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル事件ニ付被告人出廷セサルトキハ其ノ後ノ取調ニ因リ禁錮以上ノ刑ニ處スヘキモノト認ムル場合ヲ除クノ外被告人ノ陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ爲スコトヲ得

第四百八條　辯論終結ノ後ハ被告人出廷セスト雖宣告ニ依リ判決ヲ告知ス

第四百九條　判決ノ宣告ハ公開シテ之ヲ爲ス但シ辯論ノ公開ヲ停メタル事件ニ付テハ決定ヲ以テ理由ノ告知ニ限リ公開セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百七十三條ノ規定ハ前項ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百十條　無罪、免訴、刑ノ執行猶豫、公訴棄却、管轄違又ハ罰金若ハ科料ノ言渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事件ニ付勾留セラレタル被告人ニ對シ放免ノ言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ前ニ發シタル勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發スルコトヲ得

勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ直ニ被告人ヲ釋放スヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十一條　押收シタル物ニ付沒收ノ言渡ナキトキハ押收ヲ解ク言渡アリタルモノトス

公訴棄却又ハ管轄違ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ軍法會議ハ押收ヲ存續スルコトヲ得

押收ヲ存續シタル事件ニ付三日内ニ公訴ヲ提起セス又ハ管轄軍法會議ノ檢察官ニ事件ヲ送致セサルトキハ檢察官ハ其ノ押收ヲ解クヘシ被告事件ノ送致ヲ受ケタル檢察官五日内ニ公訴ヲ提起セサルトキ亦同シ

第四百十二條　押收シタル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキハ之ヲ被害者ニ還付スル言渡ヲ爲スヘシ

贓物ノ對價トシテ得タル物ニ付被害者ヨリ交付ヲ請求シタルトキハ前項ノ例ニ依ル

假ニ還付シタル物ニ付別段ノ言渡ナキトキハ還付ノ言渡アリタルモノトス

第四百十三條　犯罪ニ因リ生シタル損害ニ付被害者ヨリ被告人ニ對シ其ノ回復ヲ請求シタル場合ニ於テ被告事件ノ取調ニ因リ其ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ被告人異議ナキトキニ限リ其ノ請求ニ應スヘキ旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條　前二條ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第四百十五條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地若ハ所屬部隊ノ軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ但シ高等軍法會議ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ノ檢察官高等軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

第二十七條ノ規定ニ依リ審判ヲ爲シタル事件ニ付テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ高等軍法會議ニ前項ノ請求ヲ爲スヘシ

前二項ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十六條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官其ノ軍法會議ニ請求ヲ爲スヘシ

軍法會議前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ被告人又ハ其ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第四百十七條　本節中審判ノ公開ニ關スル規定ハ之ヲ特設軍法會議ノ訴訟手續ニ適用セス

第三章　上告及非常上告

第四百十八條　上告ハ師團軍法會議ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

第四百十九條　上告ハ判決ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ部分ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス

第四百二十條　上告ハ檢察官又ハ被告人之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十一條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ被告人ノ爲獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得

第四百二十二條　原審ノ辯護人又ハ代人ハ被告人ノ爲上告ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ノ明示シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

第四百二十三條　上告ハ法令違反ヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條　左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

一　法律ニ從ヒ軍法會議ヲ構成セサリシトキ

二　法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ裁判官審判ニ干與シタルトキ

三　審理ニ干與セサリシ裁判官判決ニ干與シタルトキ

四　軍法會議不當ニ管轄又ハ管轄違ヲ認メタルトキ

五　軍法會議不當ニ公訴ヲ受理シ又ハ之ヲ棄却シタルトキ

六　審判ノ公開ニ關スル規定ニ違ヒタルトキ

七　法律ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被告人ノ出廷ナクシテ審判ヲ爲シタルトキ

八　公判廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルトキ

九　法律ニ依リ辯護人ヲ要スル事件又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル事件ニ付其ノ出廷ナクシテ審理ヲ爲シタルトキ

十　檢察官ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタルトキ

十一　法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ

十二　公判ニ於テ爲シタル證據調ノ請求ニ付決定ヲ爲スヘキ場合ニ於テ之ヲ爲ササリシトキ

十三　法律ニ依リ公判手續ヲ停止又ハ更新スヘキ事由アル場合ニ於テ之ヲ停止又ハ更新セサリシトキ

十四　辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメサリシトキ

十五　請求ヲ受ケタル事項ニ付判決ヲ爲サス又ハ請求ヲ受ケサル事項ニ付判決ヲ爲シタルトキ

十六　判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

十七　判決書ニ裁判官ノ署名若ハ捺印又ハ契印ヲ缺キタルトキ

第四百二十五條　前條ノ場合ヲ除クノ外法令ニ違反シタルコトアリト雖判決ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第四百二十六條　判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十七條　上告ノ提起期間ハ三日トス

前項ノ期間ハ判決告知ノ時ヨリ始ル

第四百二十八條　檢察官又ハ被告人ハ上告ノ抛棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得但シ被告人ハ第四百二十一條ニ記載シタル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ抛棄又ハ取下ヲ爲スコトヲ得ス

第四百二十九條　第四百二十一條ニ記載シタル者ハ被告人ノ同意ヲ得テ上告ノ取下ヲ爲スコトヲ得

第四百三十條　上告ハ對手人ノ同意アルニ非サレハ之ヲ取下クルコトヲ得ス

第四百三十一條　上告抛棄ノ申立ハ原軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ

上告取下ノ申立ハ高等軍法會議ニ之ヲ爲スヘシ但シ書類ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スル前上告ノ取下ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スコトヲ得

第四百三十二條　上告ノ抛棄又ハ取下ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ公判廷ニ於テハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ申立ヲ公判調書ニ記載スヘシ

第四百三十三條　上告ノ抛棄又ハ取下ヲ爲シタル者ハ上告權ヲ喪失ス

第四百三十四條　第四百二十條乃至第四百二十二條ニ記載シタル者自己又ハ代人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ上告ノ提起期間内ニ上告ヲ爲スコト能ハサリシトキハ原軍法會議ニ上告權回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百三十五條　上告權回復ノ請求ハ事由ノ止ミタル時ヨリ三日内ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

上告權回復ノ原因タル事實ハ之ヲ疏明スヘシ

上告權回復ノ請求ヲ爲ス者ハ其ノ請求ト同時ニ原軍法會議ニ上告ノ申立書ヲ差出スヘシ

第四百三十六條　原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ上告權回復ノ請求ヲ許スヘキカ否ヲ決定スヘシ

第四百三十七條　上告權回復ノ請求アリタルトキハ前條ノ決定ヲ爲ス迄裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ裁判ノ執行ヲ停止スル決定ヲ爲ストキハ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

第四百三十八條　上告ヲ爲スニハ申立書ヲ原軍法會議ニ差出スヘシ

第四百三十九條　監獄ニ在ル者上告ヲ爲スニハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ヲ經由シテ其ノ申立書ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ上告ノ提起期間内ニ申立書ヲ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ニ差出シタルトキハ上告申立ノ效力ヲ生ス

監獄ニ在ル者自ラ申立書ヲ作ルコト能ハサルトキハ監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ之ヲ代書シ又ハ所屬官吏ヲシテ之ヲ代書セシムヘシ

監獄ノ長又ハ其ノ代理者ハ原軍法會議ニ申立書ヲ送付シ且之ヲ受取リタル年月日時ヲ通知スヘシ

第四百四十條　前條ノ規定ハ上告ノ抛棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四百四十一條　上告ノ申立、抛棄若ハ取下又ハ上告權回復ノ請求アリタルトキハ錄事ハ速ニ之ヲ對手人ニ通知スヘシ

第四百四十二條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ原軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百四十三條　前條ノ場合ヲ除クノ外原軍法會議ハ書類ヲ其ノ軍法會議ノ檢察官ニ送付シ檢察官ハ之ヲ高等軍法會議ノ檢察官ニ送付スヘシ

高等軍法會議ノ檢察官ハ書類ヲ其ノ軍法會議ニ送付スヘシ

第四百四十四條　高等軍法會議ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十日前ニ其ノ期日ヲ上告人及對手人ニ通知スヘシ

最初ニ公判期日ヲ定ムル前辯護人ノ選任アリタルトキハ被告人ニ對スル前項ノ通知ハ辯護人ニ對シ之ヲ爲スヘシ

第四百四十五條　上告人ハ遲クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前ニ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ

第四百四十六條　上告ノ對手人ハ最初ニ定メタル公判期日ノ十四日前迄上告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ上告ハ上告趣意書ヲ高等軍法會議ニ差出スニ依リテ之ヲ爲ス

第四百四十七條　上告趣意書ニハ法令違反ノ理由ヲ明示スヘシ

訴訟手續ニ違反スルコトヲ理由トスル場合ニ於テハ尙違反ニ關スル事實ヲ表示スヘシ

第四百四十八條　高等軍法會議上告趣意書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ對手人ニ送達スヘシ

第四百四十九條　上告人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百五十條　上告ノ對手人ハ上告趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ答辯書ヲ高等軍法會議ニ差出スコトヲ得

檢察官對手人ナルトキハ重要ト認ムル上告ノ理由ニ付答辯書ヲ差出スヘシ

高等軍法會議答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其ノ謄本ヲ上告人ニ送達スヘシ

第四百五十一條　裁判長ハ受命裁判官ヲシテ上告申立書、上告趣意書及答辯書ヲ閲シテ報告書ヲ作ラシムルコトヲ得

第四百五十二條　上告ノ審判ニ於テハ被告人ノ爲ニスル辯論ハ辯護人ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百五十三條　期日ニハ受命裁判官ハ辯論前報告書ヲ朗讀スヘシ

檢察官及辯護人ハ上告趣意書ニ基キ辯論ヲ爲スヘシ

第四百五十四條　辯護人出廷セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ法律ニ依リ辯護人ヲ要スル場合又ハ決定ニ依リ辯護人ヲ附シタル場合ヲ除クノ外檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ

第四百五十五條　高等軍法會議ハ上告趣意書ニ包含セラレタル事項ニ限リ調査ヲ爲スヘシ

軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及原判決ニ依リ定リタル事實ニ對スル法令ノ適用ノ當否ニ付テハ職權ヲ以テ調査ヲ爲スコトヲ得原判決アリタル後ニ於ケル刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦ニ付亦同シ

第四百五十六條　高等軍法會議ハ軍法會議ノ管轄、公訴ノ受理及訴訟手續ノ當否ニ關シテハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ他ノ軍法會議ノ豫審官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第四百五十七條　上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ上告權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ高等軍法會議ハ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

第四百五十八條　高等軍法會議上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百五十九條　高等軍法會議上告ヲ理由アリトスルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻シ又ハ原軍法會議以外ノ師團軍法會議ニ移送スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四百六十條　法令ヲ適用セサルコト、法令ノ適用ヲ誤リタルコト、判決アリタル後刑ノ廢止若ハ變更又ハ大赦アリタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ被告事件ノ事實原判決ニ依リ定リタルトキハ高等軍法會議ハ其ノ事件ニ付判決ヲ爲スヘシ不當ニ公訴ヲ受理シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキ亦同シ

第四百六十一條　不當ニ管轄違ヲ認メ又ハ公訴ヲ棄却シタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ原軍法會議ニ差戻スヘシ

第四百六十二條　不當ニ管轄ヲ認メタルコトヲ理由トシテ原判決ヲ破毀スルトキハ判決ヲ以テ其ノ事件ヲ管轄軍法會議ニ移送スヘシ

第四百六十三條　上告ノ趣意及重要ナル答辯ノ要旨ハ之ヲ判決書ニ記載スヘシ

第四百六十四條　被告人上告ヲ爲シ又ハ被告人ノ利益ノ爲上告ヲ爲シタル事件ニ付テハ高等軍法會議ハ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百六十五條　師團軍法會議不當ニ公訴棄却ノ決定ヲ爲ササリシトキハ高等軍法會議ハ決定ヲ以テ公訴ヲ棄却スヘシ

第四百六十六條　事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル軍法會議ハ其ノ事件ニ付高等軍法會議ノ表示シタル法律上ノ意見ニ羈束セラル

第四百六十七條　上告ノ審判ニ付テハ本章ニ規定シタルモノヲ除クノ外第二編第二章第四節ノ規定ヲ準用ス

第四百六十八條　軍法會議ノ判決確定後其ノ判決法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノナルコトヲ發見シタルトキハ高等軍法會議ノ長官ハ檢察官ヲシテ高等軍法會議ニ非常上告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四百六十九條　非常上告ヲ爲スニハ其ノ理由ヲ記載シタル申立書ヲ高等軍法會議ニ差出スヘシ

第四百七十條　期日ニハ檢察官ハ申立書ニ基キ陳述ヲ爲スヘシ

第四百七十一條　高等軍法會議非常上告ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第四百七十二條　高等軍法會議非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ爲スヘシ但シ原判決ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四章　再審

第四百七十三條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一　原判決ノ證據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ僞造又ハ變造ナリシコト證明セラレタルトキ

二　原判決ノ證據ト爲リタル證言、鑑定、通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ僞證又ハ虛僞ノ鑑定、通譯若ハ翻譯ナリシコト證明セラレタルトキ

三　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ誣告ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四　原判決ノ證據ト爲リタル裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪又ハ免訴ヲ言渡スヘキ明確ナル證據又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

六　原判決ニ干與シタル裁判官、原判決ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官若ハ豫審官、豫審ニ干與シタル豫審官、搜查若ハ公訴ノ提起ニ干與シタル檢察官又ハ第三百四條ノ規定ニ依リ檢察官ノ請求ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前裁判官、豫審官又ハ檢察官ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル軍法會議其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

第四百七十四條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ刑ノ言渡又ハ無罪、免訴若ハ公訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル確定判決ニ對シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲之ヲ爲スコトヲ得

一　前條第一號、第二號、第四號又ハ第六號ニ記載シタル原由アルトキ

二　無罪又ハ相當ノ罪ヨリ輕キ罪ニ付刑ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ自白シタルトキ

三　免訴又ハ公訴棄却ノ言渡ヲ受ケタル者軍法會議又ハ軍法會議外ニ於テ其ノ原由ナカリシコトヲ陳述シタルトキ

第四百七十五條　再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ上告ヲ棄却シタル判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　第四百五十六條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アルトキ

二　原判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十三條第六號ニ記載シタル原由アルトキ

始審ノ確定判決ニ對シテ再審ヲ請求シタル事件ニ付再審ノ判決アリタル後ハ上告棄却ノ判決ニ對シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十六條　前三條ノ規定ニ從ヒ確定判決ニ因リ犯罪ノ證明セラレタルコトヲ再審ノ原由ト爲スヘキ場合ニ於テ其ノ犯罪ニ付公訴ヲ實行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由及犯罪事實ヲ證明シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第四百七十七條　再審ノ請求ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外原判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

第四百七十八條　第四百六十條ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對スル再審ノ請求ハ左ノ場合ヲ除クノ外始審ノ判決ヲ爲シタル軍法會議之ヲ管轄ス

一　第四百五十六條ノ規定ニ依リ取調ヘタル事實ニ付第四百七十三條第一號、第二號又ハ第四號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

二　高等軍法會議ノ判決又ハ其ノ基礎ト爲ルヘキ取調ニ干與シタル裁判官又ハ豫審官ニ第四百七十三條第六號ニ記載シタル原由アリトスルトキ

第四百七十九條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ記載シタル者之ヲ爲スコトヲ得

一　管轄軍法會議ノ檢察官

二　刑ノ言渡ヲ受ケタル者

三　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人又ハ夫

四　刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ狀態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系親族又ハ兄弟姉妹

第四百七十三條第六號又ハ第四百七十五條第一項第二號ノ場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲ニ因リ罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢察官ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十條　檢察官ニ非サル者再審ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ辯護人ヲ選任スルコトヲ得但シ特設軍法會議ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル辯護人ノ選任ハ再審ノ判決アル迄其ノ效力ヲ有ス

第四百八十一條　再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ終ヘタルトキ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタルトキト雖之ヲ爲スコトヲ得

第四百八十二條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ判決確定後公訴ノ時效ニ付定メタル期間ヲ經過シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十三條　再審ノ請求ハ刑ノ執行ヲ停止スル效力ヲ有セス但シ管轄軍法會議ノ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ再審ノ請求ニ付テノ決定アル迄刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百八十四條　再審ノ請求ヲ爲スニハ其ノ趣意書ニ原判決ノ謄本及證據ヲ添ヘ之ヲ管轄軍法會議ニ差出スヘシ

第四百八十五條　再審ノ請求ハ之ヲ取下クルコトヲ得

第四百八十六條　第四百三十條、第四百三十二條、第四百三十九條及第四百四十一條ノ規定ハ再審ノ請求及其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第四百八十七條　[illegible]

第四百八十八條　[illegible]

第四百八十九條　[illegible]

第四百九十條　[illegible]

第四百九十一條　[illegible]

第四百九十二條　[illegible]

第四百九十三條　[illegible]

第四百九十四條　死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ[illegible]檢察官及[illegible]シ此ノ場合ニ於テ[illegible]辯護人ヲ選任[illegible]六十九條ノ規定ニ準シ[illegible]附スヘシ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付[illegible]刑ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失

ノ狀態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定中辯護人ニ關スルモノハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百九十五條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者ノ不利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前刑ノ言渡ヲ受ケタル者又ハ被告人タリシ者死亡シタルトキハ再審ノ請求及其ノ請求ニ付爲シタル決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百九十六條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲爲シタル再審ニ於テハ原判決ニ於テ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百九十七條　再審ニ於テ無罪ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ官報ヲ以テ其ノ判決ヲ公示スヘシ

第五章　裁判ノ執行

第四百九十八條　裁判ハ確定シタル後之ヲ執行ス

第四百九十九條　裁判ノ執行ハ其ノ裁判ヲ爲シタル軍法會議ノ檢察官又ハ其ノ裁判ヲ爲シタル豫審官ノ屬スル軍法會議ノ檢察官之ヲ指揮ス但シ其ノ性質上軍法會議、裁判長、受命裁判官又ハ豫審官ノ爲スヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

上告ノ裁判又ハ上告ノ取下ニ因リ原軍法會議ノ裁判ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ高等軍法會議ノ檢察官其ノ執行ヲ指揮ス

前二項ノ場合ニ於テ訴訟書類原軍法會議ニ在ルトキハ其ノ軍法會議ノ檢察官裁判ノ執行ヲ指揮ス

第五百條　裁判執行ノ指揮ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ添附スヘシ但シ刑ノ執行ヲ指揮スル場合ヲ除クノ外裁判書ノ原本、謄本若ハ抄本又ハ調書ノ謄本若ハ抄本ニ認印シテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百一條　二以上ノ主刑ノ執行ハ罰金及科料ヲ除クノ外其ノ重キモノヲ先ニス但シ檢察官ハ長官ノ命令ニ依リ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第五百二條　死刑ノ執行ハ陸軍大臣ノ命令ニ依ル

第五百三條　死刑ヲ言渡シタル判決確定シタルトキハ檢察官ハ速ニ訴訟記錄ヲ長官ヲ經由シテ陸軍大臣ニ差出スヘシ

第五百四條　陸軍大臣死刑ノ執行ヲ命シタルトキハ五日內ニ其ノ執行ヲ爲スヘシ

第五百五條　死刑ノ執行ハ檢察官及錄事ノ立會ニテ監獄ノ長之ヲ爲スヘシ

長官ハ監獄ノ長ノ申請ニ因リ兵員ノ出場ヲ命スヘシ

檢察官又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス

第五百六條　死刑ノ執行ニ立會ヒタル錄事ハ執行始末書ヲ作リ檢察官及監獄ノ長ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ

第五百七條　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ陸軍大臣ノ命令ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ陸軍大臣ノ命令ニ依リ分娩ニ至ル迄執行ヲ停止ス

前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル者ニ付テハ痊癒又ハ分娩ノ後陸軍大臣ノ命令アルニ非サレハ其ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第五百八條　特設軍法會議死刑ヲ言渡シタル場合ニ於テハ其ノ執行又ハ執行ノ停止ニ關スル陸軍大臣ノ職務ハ長官之ヲ行フコトヲ得

第五百九條　懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ其ノ痊癒ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第五百十條　前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者第一條ニ記載シタル身分ヲ有セサルトキハ檢察官ハ之ヲ監護義務者又ハ市區町村長ニ交付シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得

刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ留置シ其ノ期間ヲ刑期ニ算入ス

第五百十一條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ軍法會議ノ檢察官ノ指揮ニ依リ事故ノ止ム迄懲役、禁錮又ハ拘留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
二　受胎後七月以上ナルトキ
三　分娩後一月ヲ經過セサルトキ
四　刑ノ執行ニ因リ回復スヘカラサル不利益ヲ生スル虞アルトキ
五　其ノ他重大ナル事由アルトキ

第五百十二條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者拘禁中ニ非サルトキハ檢察官ハ執行ノ爲之ヲ召喚スヘシ召喚ニ應セサルトキハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五百十三條　死刑、懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキハ檢察官ハ直ニ逮捕狀ヲ發シ又ハ陸軍司法警察官若ハ司法警察官ニ請求シ若ハ囑託シテ之ヲ發セシムルコトヲ得

第五百十四條　逮捕狀ニハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ氏名、住居、年齡、刑名、刑期其ノ他逮捕ニ必要ナル事項ヲ記載シ檢察官又ハ陸軍司法警察官若ハ司法警察官之ニ記名捺印スヘシ

逮捕狀ヲ發スル場合ニ於テ必要アルトキハ人相書ヲ添附スヘシ

第五百十五條　逮捕狀ハ勾引狀ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百十六條　逮捕狀ノ執行ニ付テハ勾引狀ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

第五百十七條　檢察官刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ檢事長又ハ之ニ相當スル官署ニ人相書ヲ送付シ其ノ搜査及逮捕ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域內ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ逮捕狀ヲ發シ搜査及逮捕ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五百十八條　罰金、科料、過料、沒收、沒取、追徵又ハ費用賠償ノ裁判ハ檢察官ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス其ノ執行ヲ受クヘキ者ニ付相續開始アリタルトキハ相續財產ニ就キ執行スルコトヲ得

第五百十九條　前條ノ執行ニ付強制執行ヲ要スルトキハ兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ於テ之ヲ爲ス場合ヲ除クノ外檢察官ノ囑託ニ因リ區裁判所其ノ他民事裁判ニ付強制執行ヲ爲ス權アル官署ニ於テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢察官ノ命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

囑託ニ因リ爲ス官署ノ執行手續ニ付テハ民事裁判ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス但シ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五百二十條　前條第二項ノ規定ニ依ル執行ノ費用ハ執行ヲ受クル者ノ負擔トシ民事訴訟法ノ規定ニ準シ執行ト同時ニ之ヲ取立ツヘシ

第五百二十一條　第四百十三條ノ規定ニ依リ爲シタル賠償ノ言渡ニ付被害者ヨリ强制執行ノ請求アリタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第五百二十二條　沒收物ハ檢察官之ヲ處分スヘシ

第五百二十三條　沒收ノ執行後三月內ニ權利ヲ有スル者ヨリ沒收物ノ交付ヲ請求シタルトキハ檢察官ハ破壞又ハ廢棄スヘキ物ヲ除クノ外之ヲ交付スヘシ

沒收物ヲ處分シタル後前項ノ請求アリタル場合ニ於テハ檢察官ハ公賣ニ因リテ得タル代價ヲ交付スヘシ

第五百二十四條　僞造又ハ變造ニ係ル物ヲ返還スル場合ニ於テハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ其ノ物ニ表示スヘシ

僞造又ハ變造ニ係ル物押收セラレサルトキハ之ヲ提出セシメテ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但シ其ノ物公務所ニ屬スルトキハ僞造又ハ變造ノ部分ヲ公務所ニ通知シテ相當ノ處分ヲ爲サシムヘシ

第五百二十五條　押收物ノ返還ヲ受クヘキ者ノ所在不明ナル爲又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ物ヲ還付スルコト能ハサル場合ニ於テハ檢察官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

公告ヲ爲シタル時ヨリ六月內ニ還付ノ請求ナキトキハ其ノ物ハ國庫ニ歸屬ス

前項ノ期間內ト雖價値ナキ物ハ之ヲ廢棄シ保管ニ不便ナル物ハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第五百二十六條　檢察官ハ必要ナル場合ニ於テハ他ノ軍法會議ノ檢察官、地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ裁判ノ執行ニ關スル處分ヲ囑託スルコトヲ得

第五百二十七條　刑ヲ言渡シタル裁判ノ解釋ニ付疑アルトキハ其ノ言渡ヲ受ケタル者ハ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百二十八條　刑ノ執行ヲ受クル者又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫執行ニ關シ檢察官ノ爲シタル處分ヲ不當トスルトキハ裁判ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第五百二十九條　疑義又ハ異議ノ申立ハ其ノ裁判アル迄之ヲ取下クルコトヲ得

疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四百三十九條ノ規定ハ疑義若ハ異議ノ申立又ハ其ノ取下ニ之ヲ準用ス

第五百三十條　疑義又ハ異議ノ申立ヲ受ケタル軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

第五百三十一條　罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル爲爲シタル勞役場留置ノ執行ニ付テハ刑ノ執行ニ關スル規定ヲ準用ス

附　則

第五百三十二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム本法第二編第二章中親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關スル規定ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ施行期日ヲ定ム

親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リ定ムル施行期日ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

第五百三十三條　陸軍治罪法、臺灣陸軍軍法會議法、關東都督府及韓國駐箚軍陸軍軍法會議法及明治二十八年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス

第五百三十四條　本法ハ本法施行前ニ生シタル事件ニ亦之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ノ效力ヲ妨ケス

本法施行前舊法ニ依リ爲シタル訴訟手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第五百三十五條　本法施行前裁判權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有セサルトキト雖軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十六條　本法施行前軍法會議裁判權ヲ有セサル事件ニ付通常裁判所其ノ他ノ官署ニ公訴ノ提起アリタルトキハ本法ニ依リ軍法會議裁判權ヲ有スルトキト雖公訴ヲ受ケタル官署之ヲ審判ス

第五百三十七條　從來ノ軍法會議ハ本法ニ於テ之ニ相當スル軍法會議トス

第五百三十八條　本法施行前管轄權ヲ有スル事件ニ付審問、審判又ハ判決ノ命令アリタルトキハ本法ニ依リ管轄權ヲ有セサルトキト雖其ノ命令ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

第五百三十九條　本法施行ノ際在職ノ判士長及判士ハ本法ニ依ル判士トス

第五百四十條　本法施行ノ際在官ノ理事ハ別ニ辭令ヲ用井ス陸軍法務官ニ任セラレタルモノトス

本法施行ノ際退職又ハ豫備ノ理事ハ本法ニ依リ退職ヲ命セラレタル陸軍法務官トス

本法施行ノ際非職ノ理事ハ本法ニ依リ休職ヲ命セラレタル陸軍法務官トス

本法施行ノ際ニ限リ第三十九條ノ事由ナキトキト雖陸軍大臣ハ陸軍法務官ニ休職ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ休職ト爲リタル陸軍法務官ノ休職ノ期間ハ三年トシ第三項ノ者ニ在リテハ非職トナリタル時ヨリ之ヲ起算ス

前項ノ休職ノ期間滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第五百四十一條　本法施行前發シタル收禁狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾留狀ト看做ス

第五百四十二條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテハ舊法ニ依リ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得

第五百四十三條　本法施行前闕席判決ヲ受ケタル者ニ對シテ發シタル逮捕狀及前條ノ規定ニ依リ發シタル逮捕狀ハ之ヲ本法ニ依リ發シタル勾留狀ト看做ス

第五百四十四條　本法施行前ニ爲シタル檢察ノ處分ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル搜査ノ處分ト看做ス

第五百四十五條　本法施行前檢察ノ處分ニ着手シタル官署本法ニ依リ搜査權ヲ有セサルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ檢察官又ハ陸軍司法警察官ニ送付スヘシ本法施行前告訴又ハ告發ヲ受ケタル官署亦同シ

第五百四十六條　第二百九十二條ノ期間ハ同條施行前犯人ヲ知リ又ハ婚姻ノ無效若ハ取消ノ裁判確定シタル場合ニ於テハ同條施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第五百四十七條　本法施行前檢察具申アリタル事件ニシテ陸軍治罪法第四十六條ノ手續ヲ爲ササルモノハ之ヲ第三百六條又ハ第三百七條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百四十八條　本法施行前ニ爲シタル審問ハ之ヲ本法ニ依リ爲シタル豫審ト看做ス

本法施行前審問ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ豫審ノ請求アリタルモノト看做ス

第五百四十九條　本法施行前陸軍治罪法第七十三條第二號ノ規定ニ依リ具申アリタル事件ニシテ陸軍大臣又ハ長官ノ命令又ハ認可ナキモノハ之ヲ第三百三十條ノ規定ニ依リ報告アリタルモノト看做ス

第五百五十條　本法施行前審問ニ於テ免訴ノ言渡アリタル事件ニ付テハ新ナル事實又ハ證據ヲ發見シタルトキニ限リ更ニ豫審ヲ請求シ又ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得

第五百五十一條　本法施行前判決ニ著手シタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴ノ提起アリタルモノト看做ス

第五百五十二條　本法施行前判決ヲ終ヘ裁判宣告ヲ爲ササル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

第五百五十三條　本法施行前言渡シタル闕席判決ニ對シテハ舊法ニ依リ再審ノ申訴ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申訴アリタルトキハ長官ハ公訴ノ提起ヲ命スヘシ

第五百五十四條　本法施行前陸軍治罪法第九十五條ノ規定ニ依リ又ハ同法第九十六條各號ニ記載シタル事由ニ因リ再審ノ命令アリタル事件ハ舊法ニ依リ之ヲ終結スヘシ

本法施行前陸軍治罪法第九十八條ノ規定ニ依ル再審ノ申訴ニ因リ再審ノ命令アリタル事件ハ之ヲ本法ニ依リ公訴ノ提起アリタルモノト看做ス

第五百五十五條　本法施行前陸軍治罪法第九十六條又ハ同法第九十七條ノ規定ニ依リ再審ノ申訴又ハ具申アリテ命令ナキ事件ハ之ヲ本法ニ依リ管轄軍法會議ニ再審ノ請求アリタルモノト看做ス

本法施行前陸軍治罪法第九十八條ノ規定ニ依リ再審ノ申訴アリテ命令ナキ事件ニ付テハ長官ハ公訴ノ提起ヲ命スヘシ

第五百五十六條　本法施行前提起シタル私訴ハ之ヲ第四百十三條ノ規定ニ依ル損害回復ノ請求ト看做ス

第五百五十七條　本法施行前言渡シタル私訴裁判ノ强制執行ニ付テハ第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十八條　本法施行前進行ヲ始メタル私訴ノ時效ハ從前ノ規定ニ從フ

第五百五十九條　本法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地竝朝鮮、臺灣、樺太及關東州ニ在リテハ勅令ヲ以テ指定スル官吏吏員之ヲ行フ

第五百六十條　本法ニ記載シタル刑法ノ規

定ハ朝鮮、臺灣及關東州ニ在リテハ各之ニ相當スル法令ノ規定トス

第五百六十一條　內地ニ非サル地ニ在ル師團ニハ師團軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

內地ニ非サル地ニ在ル師團ニ軍法會議ヲ設クル場合ニ於テ其ノ師團ニ師管ノ設ケナキトキハ命令ヲ以テ師管ト看做スヘキ地域ヲ定ムルコトヲ得

第五百六十二條　別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外他ノ法律中陸軍ノ理事トアルハ陸軍法務官トス

（陸軍軍法會議法ハ大正十一年四月一日ヨリ施行（大正十一年勅令第七十八號）同法第二編第二章中親告罪ノ告訴、請求ヲ待チテ受理スヘキ事件ニ付テノ請求及時效ニ關スル規定ハ大正十三年一月一日ヨリ施行（大正十二年勅令第三百號））

●朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律

（大正十年四月二十六日法律第八十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル朝鮮軍軍法會議ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

第一條　朝鮮ニ朝鮮軍軍法會議ヲ設ク

第二條　陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ朝鮮軍軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ朝鮮軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條　朝鮮軍軍法會議ハ朝鮮軍司令官ヲ以テ長官トス

附　則

本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣軍軍法會議ニ關スル法律

（大正十年四月二十六日法律第八十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル臺灣軍軍法會議ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

第一條　臺灣ニ臺灣軍軍法會議ヲ設ク

第二條　陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ臺灣軍軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ臺灣軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條　臺灣軍軍法會議ハ臺灣軍司令官ヲ以テ長官トス

附　則

本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東軍軍法會議ニ關スル法律

（大正十年四月二十六日法律第八十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル關東軍軍法會議ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

第一條　關東軍司令官ノ守備地域ニ關東軍軍法會議ヲ設ク

第二條　陸軍軍法會議法ノ適用ニ付テハ關東軍軍法會議ヲ師團軍法會議ト看做シ關東軍司令官ノ守備地域ヲ師管ト看做ス

第三條　關東軍軍法會議ハ關東軍司令官ヲ以テ長官トス

附　則

本法ハ陸軍軍法會議法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第百一號）

朕陸軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍法會議法第一條第二項ノ規定ニ依リ除外スヘキ者ハ陸軍各部隊所屬ノ職工トス

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件

（大正十一年三月三十一日勅令第百三號）

朕陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍法會議法ニ依リ市町村吏員ノ行フヘキ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ市町村吏員ニ準スル吏員、朝鮮ニ於テハ府又ハ面ノ官吏吏員、臺灣ニ於テハ市街庄又ハ區ニ在リテハ其ノ官吏吏員其ノ他ノ地域ニ在リテハ廳又ハ郡ノ官吏、樺太ニ於テハ大正十年法律第四十七號ヲ適用スル地域ニ在リテハ其ノ町村吏員其ノ他ノ地域ニ在リテハ樺太廳支廳ノ官吏、關東州ニ於テハ民政署又ハ民政支署ノ官吏之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●犯罪捜査ノ爲陸軍軍法會議檢察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニ日當、旅費及止宿料等支給ノ件

（大正十二年十月十五日陸軍省令第二十九號）

犯罪捜査ノ爲陸軍軍法會議檢察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニ日當、旅費及止宿料等支給ノ件左ノ通定ム

第一條　犯罪捜査ノ爲陸軍軍法會議檢察官ノ呼出ニ應シテ出頭シタル者ニハ日當、旅費及止宿料ヲ支給スルコトヲ得

刑事訴訟費用法第二條、第三條第一項、第四條乃至第六條ノ規定ハ前項ノ日當、旅費及止宿料ニ付之ヲ準用ス

第二條　鑑定又ハ通譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍人軍屬違警罪處分例

（明治十九年五月二十四日勅令第四十四號）

朕陸軍軍人軍屬違警罪處分例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、陸軍大臣副署）

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條　陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪卽決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス可シ

第二條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條　卽決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條　正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪卽決例第五條ニ記載シタル期限內ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ卽決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條　憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時內ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條　軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條　卽決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條　軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三款　海軍刑法

●海軍刑法

（明治四十一年四月十日法律第四十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海軍刑法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

（總理、海軍大臣副署）

海軍刑法

第一編　總則
第二編　罪
第一章　叛亂ノ罪
第二章　擅權ノ罪
第三章　辱職ノ罪
第四章　抗命ノ罪
第五章　暴行脅迫ノ罪
第六章　侮辱ノ罪
第七章　逃亡ノ罪
第八章　軍用物損壞ノ罪
第九章　掠奪ノ罪
第十章　俘虜ニ關スル罪
第十一章　違令ノ罪

海軍刑法

第一編　總則

第一條　本法ハ海軍軍人ニシテ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第二條　本法ハ海軍軍人ニ非スト雖左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第六十二條乃至第六十五條ノ罪及此等ノ罪ノ未遂罪
二　第七十二條ノ罪
三　第七十八條乃至第八十五條ノ罪
四　第八十六條乃至第八十九條ノ罪
五　第九十一條乃至第九十三條ノ罪及第九十一條、第九十二條ノ未遂罪
六　第九十五條、第九十六條、第九十七條第二項、第九十八條及第百條ノ罪

第三條　本法ハ前二條ニ記載シタル者帝國外ニ於テ罪ヲ犯シタルトキト雖之ヲ適用ス

第四條　帝國軍ノ占領地ニ於テ海軍軍人刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ帝國內ニ於テ犯シタルモノト看做ス

海軍軍人ニ非スト雖帝國臣民、從軍外國人及俘虜ノ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條　帝國外ニ在ル海軍官衙團隊ニ屬シ若ハ從フ者又ハ之ニ俘虜タル者其ノ官衙團隊ノ所在地ニ於テ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前條ニ同シ

第六條　海軍ト共同作戰ニ從フ陸軍軍人ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス

第七條　海軍ト共同作戰ニ從フ外國ノ陸海軍ニ屬スル者ニ對スル行爲ハ其ノ職務、官等、等級又ハ階級ニ相當スル海軍軍人ニ對スル行爲ト看做ス但シ其ノ外國ニ於テ同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ保セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　海軍軍人ト稱スルハ海軍ノ高等武官、候補生、准士官及下士卒ニシテ左ニ記載シタル者ヲ謂フ

一　現役ニ在ル者但シ召集中ニ非サル歸休兵ヲ除ク
二　豫備役、後備役ニ在リ召集中ノ者
三　前二號ニ記載シタル者ノ外海軍制服著用中ノ者

第九條　左ニ記載シタル者ハ海軍軍人ニ準ス

一　海軍所屬ノ學生、生徒
二　海軍軍屬
三　海軍ノ勤務ニ服スル陸軍軍人

前項第一號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　海軍軍屬ト稱スルハ海軍文官、同待遇者及宣誓シテ海軍ノ勤務ニ服スル者ヲ謂フ

第十一條　陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法ニ於テ陸軍軍人ト爲ス者ヲ謂フ

第十二條　上官ト稱スルハ命令關係アル海軍軍人間ニ於テ命令權ヲ有スル者ヲ謂フ

命令關係ナキ者ノ間ニ於テハ官等、等級又ハ階級ノ上ナル者ハ之ヲ上官ニ準ス但シ卒ハ總テ同等トス

第十三條　指揮官ト稱スルハ艦船、軍隊ヲ指揮スル海軍軍人ヲ謂フ

陸海軍用船又ハ拿捕船舶ニ乘組ミ之ヲ監督スル海軍軍人ハ指揮官ニ準ス

第十四條　守兵ト稱スルハ儀仗又ハ警戒ノ爲守所ニ在ル海軍軍人ヲ謂フ

第十五條　事變又ハ一地方ノ騷擾ニ際シ其ノ鎭定ニ從事スル艦船、軍隊ニハ戰時ノ規定ヲ適用ス

第十六條　海軍ニ於テ死刑ヲ執行スルトキハ海軍法衙ヲ管轄スル長官ノ定ムル場所ニ於テ銃殺ス

第十七條　多衆共同ノ暴行ヲ鎭壓スル爲又ハ敵前若ハ艦船危急ノ際ニ於テ軍紀ヲ保持スル爲已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

必要ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第十八條　前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪ト爲ルヘキ行爲ニ亦之ヲ適用ス

第十九條　本法及陸軍刑法ニ於テ倶ニ罰スヘキ正條アリ且其ノ刑ニ輕重ナキトキハ海軍軍人ニ準スル者ト雖陸軍軍人ニ對シテハ陸軍刑法ヲ適用ス

第二編　罪

第一章　叛亂ノ罪

第二十條　黨ヲ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ死刑ニ處ス
二　謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三　附和隨行シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十一條　反亂ヲ爲ス目的ヲ以テ黨ヲ結ヒ兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル物ヲ劫掠シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二十二條　左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一　軍隊又ハ艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ敵國ニ交付スルコト
二　敵國ノ爲ニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助スルコト
三　軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄スルコト
四　敵國ノ爲ニ嚮導ヲ爲シ又ハ地理ヲ指示スルコト
五　敵國ニ降ラシムル爲指揮官ヲ强要スルコト
六　敵國ノ爲ニ俘虜ヲ奪取シ又ハ之ヲ逃走セシムルコト

第二十三條　敵國ヲ利スル爲左ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑ニ處ス

一　艦船、兵器、彈藥其ノ他軍用ニ供スル場所、建造物其ノ他ノ物ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシムルコト
二　水陸ノ通路、橋梁、燈臺、浮標ヲ損壞又ハ壅塞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ艦船、軍隊ノ往來ノ妨害ヲ生セシムルコト
三　指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率キテ守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離ルルコト
四　艦隊、隊兵ヲ解散シ又ハ其ノ潰走混亂ヲ誘起シ又ハ艦船、隊兵ノ連絡集合ヲ妨害スルコト
五　兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ヲ缺乏セシムルコト
六　命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ虛僞ノ命令、通報若ハ報告ヲ爲スコト
七　造言飛語シ又ハ敵前ニ於テ叫呼喧噪スルコト

第二十四條　前二條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二十五條　反亂者又ハ內亂者ヲ利スル爲前三條ニ記載シタル行爲ヲ爲シタル者ハ死刑、無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十六條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條　第二十條乃至第二十五條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二十八條　第二十條又ハ第二十一條ノ罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者未タ事ヲ行ハサル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免除ス

第二十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第二章　擅權ノ罪

第三十條　指揮官外國ニ對シ故ナク戰鬪ヲ開始シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十一條　指揮官休戰又ハ媾和ノ告知ヲ受ケタル後故ナク戰鬪ヲ爲シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十二條　指揮官權外ノ事ニ於テ已ムコトヲ得サル理由ナクシテ擅ニ艦船、軍隊ヲ進退シタルトキハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十三條　命令ヲ待タス故ナク戰鬪ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十四條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三章　辱職ノ罪

第三十五條　指揮官其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ敵ニ降リ又ハ其ノ艦船若ハ守所ヲ敵ニ委シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十六條　指揮官敵前ニ於テ其ノ盡スヘキ所ヲ盡サスシテ艦船、軍隊ヲ率ヰ逃避シタルトキハ死刑ニ處ス

第三十七條　指揮官其ノ艦船危急ノ時ニ當リ故ナク救護ノ方法ヲ盡サス又ハ衆ニ先チテ其ノ艦船ヲ退去シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

第三十八條　指揮官敵ノ船舶ヲ拿捕スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ拿捕セサルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第三十九條　指揮官敵前ニ於テ帝國又ハ帝國ト共同作戰ニ從フ外國ノ艦船ヲ救護スヘキ場合ニ於テ故ナク之ヲ救護セサルトキハ一年以上ノ有期禁錮ニ處ス

第四十條　指揮官護衛ノ命ヲ受ケタル艦船ヲ故ナク委棄シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十一條　指揮官其ノ艦船、軍隊ヲ率ヰ故ナク守所若ハ配置ノ場所ニ就カス又ハ其ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑ニ處ス

二　戰時ナルトキハ五年以上ノ有期禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十二條　指揮官又ハ乘員故ナク其ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタルトキハ死刑ニ處シ之ヲ損壞シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四十三條　指揮官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十四條　指揮官衝突、坐礁其ノ他ノ危難ニ罹リタル艦船アルニ當リ救護ノ請求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十五條　部下多衆共同シテ罪ヲ犯スニ當リ鎭定ノ方法ヲ盡ササル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十六條　艦船當直將校、守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者故ナク其ノ勤務ノ場所ヲ離レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期ノ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ擱岸、坐礁其ノ他艦船危險ノ場合ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十七條　艦船當直將校睡眠又ハ酩酊シテ其ノ職務ヲ怠リタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ航海中ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十八條　守兵其ノ他緊要ナル勤務ニ服スル者前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第四十九條　戰時又ハ事變ニ際シ偵察ノ勤務ニ服スル者虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル命令、通報又ハ報告ノ傳達ヲ掌ル者其ノ命令、通報若ハ報告ヲ詐リ傳ヘ又ハ故ナク之ヲ傳達セサルトキ亦前項ニ同シ

第五十條　軍事機密ノ圖書、物件ヲ保管スル者危急ノ時ニ當リ之ヲ敵ニ委セサル方法ヲ盡ササルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十一條　戰時又ハ事變ニ際シ兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他軍用ニ供スル物ノ運輸又ハ支給ヲ掌ル者故ナク之ヲ缺乏セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第五十二條　健康ヲ害スヘキ飮食物ヲ配給シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第五十三條　從軍ヲ免レ又ハ危險ナル勤務ヲ避クル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十四條　第三十五條乃至第三十七條、第四十條乃至第四十二條、第四十六條、第四十九條及第五十一條乃至第五十三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四章　抗命ノ罪

第五十五條　上官ノ命令ニ反抗シ又ハ之ニ服從セサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十六條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二　戰時又ハ艦船救護ノ爲緊要ノ方略ヲ爲ス際ナルトキハ首魁ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ三年以上十年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第五十七條　暴行ヲ爲スニ當リ上官ノ制止ニ從ハサル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五章　暴行脅迫ノ罪

第五十八條　上官ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五十九條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十條　上官ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十一條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十二條　守兵ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十三條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十四條　守兵ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十五條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ首魁ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ無期若ハ二年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十六條　上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十七條　上官又ハ守兵以外ノ海軍軍人其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ兵器又ハ兇器ヲ用ヰテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

黨與シテ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ首魁ハ無期若ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ一年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十八條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ三年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六十九條　職權ヲ濫用シテ陵虐ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十條　第五十八條乃至第六十八條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六章　侮辱ノ罪

第七十一條　上官ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

文書、圖畫若ハ偶像ヲ公示シ又ハ演說ヲ爲シ其ノ他公然ノ方法ヲ以テ上官ヲ侮辱シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十二條　守兵ヲ其ノ面前ニ於テ侮辱シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七章　逃亡ノ罪

第七十三條　故ナク職役ヲ離レ又ハ職役ニ就カサル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ死刑、無期若ハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十四條　黨與シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ首魁ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ死刑、無期若ハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二　戰時ニ在リテ三日ヲ過キタルトキハ首魁ハ五年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ニ於テ六日ヲ過キタルトキハ首魁ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第七十五條　艦船ノ乘員故ナク其ノ艦船發航ノ期ニ後レタルトキハ其ノ經過日數ヲ問ハス前二條ノ規定ヲ適用ス

第七十六條　敵ニ奔リタル者ハ死刑又ハ無期ノ懲役若ハ禁錮ニ處ス

第七十七條　第七十三條第一號、第七十四條第一號及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八章　軍用物損壞ノ罪

第七十八條　海軍ノ艦船、工場、戰鬪ノ用ニ供スル建造物、汽車、電車若ハ橋梁又ハ海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ貯藏スル倉庫ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ十年以上ノ懲役ニ處ス

第七十九條　屯積シタル兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ燒燬シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　戰時ナルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十條　火藥、汽罐其ノ他激發スヘキ物ヲ破裂セシメテ前二條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ燒燬ノ例ニ同シ

第八十一條　海軍ノ艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十二條　第七十八條ニ記載シタル物又ハ海軍戰鬪ノ用ニ供スル鐵道、電線若ハ水陸ノ通路ヲ損壞シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ無期又ハ二年以上ノ懲役ニ處ス

第八十三條　兵器、彈藥、糧食、被服其ノ他海軍ノ軍用ニ供スル物ヲ毀棄又ハ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八十四條　第七十八條乃至第八十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十五條　本章ノ規定ハ海軍ト共同作戰ニ從フ外國陸海軍ノ軍用物ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第九章　掠奪ノ罪

第八十六條　戰地又ハ帝國軍ノ占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯スニ當リ婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第八十七條　戰場ニ於テ戰死者又ハ戰傷病者ノ衣服其ノ他ノ財物ヲ褫奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十八條　前二條ノ罪ヲ犯ス者人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十九條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十章　俘虜ニ關スル罪

第九十條　俘虜ヲ看守又ハ護送スル者其ノ俘虜ヲ逃走セシメタルトキハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十一條　俘虜ヲ逃走セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

俘虜ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其ノ他逃走ヲ容易ナラシムヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第九十二條　俘虜ヲ奪取シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第九十三條　逃走シタル俘虜ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十四條　第九十條乃至第九十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十一章　違令ノ罪

第九十五條　守兵ヲ欺キテ守所ヲ通過シ又ハ守兵ノ制止ニ背キタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ一年以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

二　戰時ナルトキハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

三　其ノ他ノ場合ナルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十六條　歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ニ於テ十日ヲ過キタル者

ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十七條　兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ、身體ヲ毀傷シ其ノ他詐僞ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

歸休兵及豫備役、後備役ニ在ル者召集ヲ免ルル目的ヲ以テ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第九十八條　艦船ノ危急ニ際シ指揮官ノ指揮ヲ待タス其ノ艦船ヲ退去シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　敵前ナルトキハ三年以上ノ有期禁錮ニ處ス

二　其ノ他ノ場合ナルトキハ五年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十九條　戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關スル虛僞ノ命令、通報又ハ報告ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　戰時又ハ事變ニ際シ軍事ニ關シ造言飛語ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百一條　禮砲、號砲其ノ他空包ヲ發スヘキ場合ニ於テ彈丸、瓦石其ノ他ノ物ヲ裝塡シテ發シタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百二條　守兵故ナク銃砲ヲ發シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百三條　戰時又ハ事變ニ際シ急呼ノ號報アリタル場合ニ故ナク來會セサル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

第百四條　政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若ハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第百五條　服從ノ義務ニ違フヘキ事ヲ目的トシテ黨ヲ結ヒタルトキハ首魁ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十四年第七十號布告海軍刑法ハ之ヲ廢止ス

（明治四十一年勅令第百六十五號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●海軍刑法施行法

明治四十一年四月十日
法律第四十九號
改正　大正一〇年第六八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍刑法施行法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍刑法施行法

第一條　本法ニ於テ舊海軍刑法ト稱スルハ明治十四年第七十號布告海軍刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ海軍刑法施行前ニ施行シタル法律及勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條　海軍刑法施行前ニ舊海軍刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ海軍刑法ニ定メタル主刑ト舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其ノ輕重ヲ定ム

海軍刑法ニ定メタル刑	舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期流刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮
有期禁錮	有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

第三條　刑法施行法第三條ノ規定ハ前條ニ定メタル刑ノ對照ニ之ヲ準用ス

第四條　刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加スヘキトキト雖之ヲ附加セス

前項ノ場合ニ於テハ將校ニ非スシテ官職ヲ有スル者將校ニ在リテ剝官ヲ附加スル刑ニ該ルトキト雖其ノ官職ヲ失ハス

第五條　海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行前又ハ後ニ確定裁判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

一　確定裁判アリタル罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖海軍刑法ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二　確定裁判アリタル罪ニ海軍刑法ヲ適用シタルトキト雖舊海軍刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其ノ罪ト餘罪トニ付數罪倶發ニ關スル規定ニ依ル

第六條　左ニ記載シタル者海軍刑法施行前更ニ海軍刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ海軍刑法施行後其ノ罪ニ付裁判ヲ爲ストキハ海軍刑法ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一　舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

二　舊海軍刑法ニ依リ海軍刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ依リ死刑ニ處セラレ其ノ執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ依リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪倶發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第七條　海軍刑法施行前ニ犯シタル一罪ト海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖其ノ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第八條　海軍刑法施行前ニ犯シタル數罪ト海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ一罪又ハ數罪トニ付同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキハ數罪倶發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ海軍刑法施行前ノ罪ニ海軍刑法ヲ適用スヘキトキハ其ノ數罪ト海軍刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條　海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪ニ付確定裁判アリタル後海軍刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ餘罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スヘキトキト雖確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　海軍刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付海軍刑法施行後確定裁判アリタル後海軍刑法施行後ニ犯シタル海軍刑法ノ罪タル餘罪ニ付裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖其ノ罪ト餘罪トニ付併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條　海軍刑法ノ罪ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ト併合罪タルヘキ場合ニ於テハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ノ罪ヲ海軍刑法ノ罪ト看做シ第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ヲ適用ス

第十二條　第六條第一項各號ニ記載シタル者海軍刑法施行後有期懲役ニ該ル海軍刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　海軍刑法施行後ハ舊海軍刑法又ハ海陸軍刑律ノ刑ニ處セラレタル者ト雖刑ノ執行、假出獄及時效ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但シ死刑ニ付テハ海軍ニ於テ之ヲ執行スル場合ニ限リ海軍刑法ノ規定ヲ準用ス

他ノ法律ニ依リ處セラレタル死刑ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及明治十五年第四號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ海軍刑法施行前ニ於ケル時效期間ノ起算及時效ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條　海軍刑法施行後ハ他ノ法律ニ依リ處セラレタル罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニハ軍法會議ニ於テハ主理其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第十五條　海軍刑法施行後ハ刑法第六條ニ依リ舊海軍刑法又ハ他ノ法律ノ刑ニ處スヘキ者ト雖刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲スヘシ

第十六條　海軍刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ海軍刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

第十七條　剝奪公權、停止公權及監視ノ言渡ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十八條　人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ舊海軍刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ揭ケタル他ノ法律ノ規定ハ海軍刑法ノ施行ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條　刑法施行法第二十九條及第三十條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ノ罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　刑法施行法第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ海軍刑法ニ定メタル刑又ハ舊海軍刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條　海軍刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役又ハ一年以上六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加セラレ又ハ之ニ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ト看做ス舊海軍刑法ノ剝官ヲ附加スヘキ刑ニ處セラレタル者ニ付亦同シ

第二十二條　他ノ法律中舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定アル爲人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊海軍刑法第十七條、第十八條及第二十一條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ海軍刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十三條　舊海軍刑法ト刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トノ關係ニ付テハ舊海軍刑法ヲ舊刑法ト看做シ刑法施行法第二條、第三條、第五條、第六條及第八條乃至第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ剝官ニ關シテハ本法第四條ノ例ニ依ル

第二十四條　海軍治罪法ニ於テ軍人ト稱スルハ海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂ヒ陸軍軍人ト稱スルハ陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第五號及第九條第一項第一號、第二號ニ記載シタル者ヲ謂フ

第二十五條　刑事訴訟法第八條ノ規定ハ軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ニ之ヲ準用ス

第二十六條　海軍治罪法中復權及特赦ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第二十七條　刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ犯罪事實ニ付最終ノ判決ヲ爲シタル軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　軍法會議ニ於テハ刑ノ執行猶豫ハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ刑ノ言渡ト同時ニ之ヲ言渡スヘシ

第二十九條　刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ爲シタル軍法會議又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ニ最モ近キ軍法會議ニ於テ判決ヲ以テ之ヲ取消シ其ノ言渡ヲ爲スヘシ

第三十條　前三條ノ判決及其ノ言渡ニ付テハ海軍治罪法中判決ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十一條　軍法會議ニ於テハ證人、鑑定人及通事ノ日當、旅費其ノ他ノ給與ニ關シ刑事訴訟費用法ヲ準用ス但シ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ノ行フヘキ職務ハ主理之ヲ行フ

附　則

本法ハ海軍刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件

明治四十一年九月二十四日
勅令第二百十九號

朕海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ海軍刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ學生生徒ニ關スル件

明治四十一年九月二十四日
勅令第二百二十二號
改正　大正八年第一九五號

朕海軍刑法ヲ適用セサル海軍所屬ノ學生、生徒ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍刑法第九條第二項ニ依リ除外スヘキ者左ノ如シ但シ現ニ海軍ニ在リテ修業中ノ者ヲ除ク

一　海軍軍醫學生、藥劑學生、造船學生、造機學生、造兵學生、主計學生

二　海軍造船生徒、造機生徒、造兵生徒

三　海軍豫備生徒、豫備機關生徒、豫備練習生

附　則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四款　海軍軍法會議法

●海軍軍法會議法

大正十年四月二十六日
法律第九十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍軍法會議法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、海軍大臣副署）

海軍軍法會議法

第一編　軍法會議

第一章　軍法會議ノ裁判權

第一條　軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一　海軍刑法第八條第一號、第二號及第九條ニ記載シタル者

二　海軍用船ノ船員

三　前二號ニ記載シタル者ヲ除クノ外海軍ノ部隊ニ屬シ又ハ從フ者

四　俘虜

前項第二號及第三號ニ記載シタル者ノ中特ニ除外スヘキ者アルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付亦裁判權ヲ有ス

軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續中搜査ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ勾留セラレタルトキハ其ノ者ニ對シ亦裁判權ヲ有ス

第三條　軍法會議ハ海軍刑法第八條第三號ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯シタル海軍刑法ノ罪ニ付裁判權ヲ有ス

前條第二項ノ規定ハ前項ニ規定スル犯罪ニ付之ヲ準用ス

第四條　軍法會議ハ合圍地境ニ在ル第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ左ノ各號ニ規定スル犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

一　第十六條第一號又ハ第二號ニ記載シタル者ト共ニ犯シタル同一又ハ別個ノ罪

二　海軍刑法、陸軍刑法、軍機保護法其ノ他軍事ノ必要ニ因リ特ニ設ケタル法令ノ罪

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ハ之ヲ其ノ本犯ト共ニ犯シタルモノト看做ス

第五條　軍法會議ハ戒嚴令ニ定メタル特別裁判權ヲ行フ

第六條　軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アルトキハ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得

第七條　第四條及前條ノ規定ハ陸軍軍法會議法第一條乃至第三條ノ規定ニ依リ陸軍軍法會議ノ裁判權ヲ有スル犯罪ニ付テハ之ヲ適用セス但シ被告人ノ所在地ト陸軍軍法會議ノ所在地ト交通斷絕シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二章　軍法會議ノ管轄權

第八條　軍法會議ヲ設クルコト左ノ如シ

一　高等軍法會議

二　東京軍法會議

三　鎭守府軍法會議

四　要港部軍法會議

五　艦隊軍法會議

六　合圍地軍法會議

七　臨時軍法會議

第九條　高等軍法會議、東京軍法會議、鎭守府軍法會議及要港部軍法會議ハ之ヲ常設ス但シ要港部ニハ軍法會議ヲ設ケサルコトヲ得

艦隊軍法會議ハ必要ニ因リ艦隊司令長官、獨立艦隊司令官若ハ分遣艦隊司令官ノ率ヰ

ル艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ニ之ヲ特設ス

合圍地軍法會議ハ戒嚴ノ宣告アリタルトキ合圍地境ニ之ヲ特設ス

臨時軍法會議ハ戰時事變ニ際シ必要ニ因リ海軍ノ部隊ニ之ヲ特設ス

第十條　高等軍法會議又ハ東京軍法會議ハ海軍大臣ヲ以テ長官トス

鎭守府軍法會議ハ鎭守府司令長官ヲ以テ長官トス

要港部軍法會議ハ要港部司令官ヲ以テ長官トス

特設軍法會議ハ軍法會議ヲ設置シタル部隊又ハ地域ノ指揮官ヲ以テ長官トス

第十一條　高等軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　海軍ノ將官、勅任文官及勅任文官待遇者竝陸軍ノ將官、將官相當官、勅任文官及勅任文官待遇者ニ對スル被告事件
二　上告
三　非常上告

第十二條　東京軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　第十三條第一號、第十四條第一號、第十五條第一號、第十六條第一號及第十七條第一號ノ規定ニ依リ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル以外ノ第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
二　第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十三條　鎭守府軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　鎭守府司令長官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件
二　海軍區內ニ在リ又ハ海軍區內ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
三　第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十四條　要港部軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　要港部司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件
二　警備區內ニ在リ又ハ警備區內ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
三　第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十五條　艦隊軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　艦隊又ハ外國派遣ノ軍艦ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件
二　占領地警備區內ニ在リ又ハ占領地警備區內ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
三　占領地警備區內ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件

第十六條　合圍地軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　合圍地司令官ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件
二　合圍地境ニ在リ又ハ合圍地境ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
三　第四條及第五條ニ定メタル裁判權ニ屬スル被告事件

第十七條　臨時軍法會議ハ左ノ事件ニ付管轄權ヲ有ス

一　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ長ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ニ對スル被告事件
二　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ在リ又ハ其ノ地域ニ於テ罪ヲ犯シタル第一條乃至第三條記載ノ者ニ對スル被告事件
三　臨時軍法會議ノ設置セラレタル部隊ノ守備地域ニ在ル第六條記載ノ者ニ對スル被告事件
四　第三百十二條又ハ第三百三十三條ノ規定ニ依リ移送アリタル被告事件

第十八條　管轄ヲ異ニスル數個ノ事件牽連スルトキハ一個ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル軍法會議ハ併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得但シ高等軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件及第四條乃至第六條ニ記載シタル事件ハ牽連ノ事由ニ因リ併セテ之ヲ管轄スルコトヲ得ス

第十九條　軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十條　數個ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ一ノ軍法會議ニ併合スルコトヲ得

第二十一條　高等軍法會議牽連事件ニ付公訴ヲ受ケタル場合ニ於テ併セテ審判スルコトヲ必要トセサルモノアルトキハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ニ之ヲ移送スルコトヲ得

第二十二條　高等軍法會議及他ノ軍法會議牽連事件ニ付各別ニ公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ他ノ軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ヲ併セテ審判スルコトヲ得

第二十三條　數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス

一　一人數罪ヲ犯シタルトキ
二　數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
三　數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
四　數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、僞證ノ罪、虛僞ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ト其ノ本犯ノ罪トハ共ニ犯シタルモノト看做ス

第二十四條　數個ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ第二十五條ニ規定シタル場合ヲ除クノ外最初ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ後ニ公訴ヲ受ケタル軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十五條　高等軍法會議及他ノ軍法會議同一事件ニ付公訴ヲ受ケタルトキハ高等軍法會議之ヲ審判ス

前項ノ場合ニ於テ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ管轄權ヲ有スル他ノ軍法會議ヲシテ其ノ事件ヲ審判セシムルコトヲ得

第二十六條　管轄ハ公訴提起後ニ於テハ被告人ノ轉屬、失官其ノ他管轄ヲ定ムル事由ノ變更ニ因リ變更セラルルコトナシ但シ被告人第十一條第一號ニ記載シタル身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　第十一條第一號ニ記載シタル者被告人ナル場合ニ於テ其ノ現在地高等軍法會議ノ所在地ト交通斷絕シタルトキ又ハ其ノ所在地ト著シク離隔シ且審判急速ヲ要スルトキハ被告人ノ現在地又ハ其ノ附近ニ在ル軍法會議被告事件ヲ管轄スルコトヲ得

第二十八條　管轄軍法會議ニ於テ法律上ノ理由又ハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコト能ハサルトキハ高等軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ管轄移轉ノ決定ヲ爲スヘシ

第二十九條　軍法會議ヲ廢シタルトキハ海軍大臣ハ後繼軍法會議ヲ指定スヘシ

第三十條　訴訟手續ハ管轄違ノ理由ニ因リ其ノ效力ヲ失ハス

第三章　軍法會議ノ職員

第三十一條　軍法會議ニ判士、海軍法務官、海軍錄事及海軍警査ヲ置ク

第三十二條　判士ハ海軍ノ將校ヲ以テ之ニ充ツ

第三十三條　將官ヲ以テ判士ト爲ストキハ海軍大臣ノ奏請ニ因リ之ヲ命ス

特設軍法會議ニ於テハ長官又ハ其ノ直系上官ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ部下ノ將官中ヨリ判士ヲ命スルコトヲ得

第三十四條　佐官以下ノ將校ヲ以テ判士ト爲ストキハ長官之ヲ命ス

長官ノ部下ニ非サル將校ヲ以テ判士ト爲スコトヲ要スルトキハ海軍大臣之ヲ命ス特設軍法會議ニ於テハ急速ヲ要スル場合ニ限リ長官ノ直系上官ハ部下ノ將校中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得

第三十五條　法務官ハ終身官トシ勅任又ハ奏任トス

第三十六條　法務官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲ス

コトヲ得ス

一　公然政事ニ關係スルコト
二　政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員ト爲ルコト
三　帝國議會ノ議員又ハ道、府、縣、郡、市、區、町、村會ノ議員ト爲ルコト
四　報酬アル公務ニ就クコト
五　商業ヲ營ムコト

第三十七條　法務官ハ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ因ルニ非サレハ其ノ意ニ反シテ免官又ハ轉官セラルルコトナシ

第三十八條　法務官身體又ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ海軍大臣ハ高等軍法會議總會ノ決議ニ因リ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

第三十九條　海軍大臣ハ左ノ場合ニ於テハ法務官ニ現俸ノ半額ヲ給シテ休職ヲ命スルコトヲ得

一　懲戒令ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ
二　刑事事件ニ關シ起訴セラレタルトキ
三　官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ
四　戰時又ハ事變ニ際シ臨時增員シタル場合ニ於テ其ノ必要止ミ過員ヲ生シタルトキ
五　病氣ノ爲執務セサルコト六月ニ至リタルトキ

休職ノ期間ハ前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事件ノ繫屬中トシ第三號乃至第五號ノ場合ニ於テハ三年トス

第四十條　法務官前條第一項第三號乃至第五號ノ規定ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ト爲リタルトキハ退職トス

第四十一條　法務官ノ任用及懲戒ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條　錄事ハ判任トス

第四十三條　警査ハ長官之ヲ命ス

第四十四條　特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ准士官又ハ下士官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシメ海軍ノ下士官又ハ兵ヲシテ警査ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十五條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル判任文官ヲシテ錄事ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第四章　審判機關

第四十六條　軍法會議ハ審判ヲ爲スニ付他ノ干涉ヲ受クルコトナシ

第四十七條　審判ハ裁判官五人ヲ以テ構成シタル會議ニ於テ之ヲ爲ス

裁判官ハ判士及法務官ヲ以テ之ニ充テ上席判士ヲ裁判長トス

特設軍法會議ニ於テハ上席判士及法務官ヲ除クノ外裁判官二人ヲ減スルコトヲ得

第四十八條　裁判官ハ長官之ヲ定ム

第四十九條　東京軍法會議、鎭守府軍法會議、要港部軍法會議及特設軍法會議ニ於テハ判士四人及法務官一人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一　被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官一人尉官三人又ハ佐官二人尉官二人
二　被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ佐官二人尉官二人
三　被告人佐官ナルトキハ將官一人佐官三人又ハ將官二人佐官二人
四　被告人將官ナルトキハ將官四人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十條　特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十一條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ法務官ニ代リ裁判官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十二條　高等軍法會議ニ於テハ判士三人及法務官二人ヲ以テ裁判官トス

前項ノ判士ハ左ノ區別ニ從フ

一　被告人下士官又ハ兵ナルトキハ佐官二人尉官一人
二　被告人尉官、特務士官、候補生又ハ准士官ナルトキハ將官一人佐官二人
三　被告人佐官ナルトキハ將官二人佐官一人又ハ將官三人
四　被告人將官ナルトキハ將官三人

前項ノ判士ハ其ノ官等被告人ヨリ下ルコトヲ得ス

第五十三條　被告人軍屬、陸軍軍人又ハ陸軍軍屬ナルトキハ其ノ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ第四十九條又ハ前條ノ例ニ依リ判士ヲ區別ス

第五十四條　被告人第四十九條、第五十二條及前條ニ記載シタル者ニ非サルトキハ下士官又ハ兵ニ準シ判士ヲ區別ス

前項ノ場合ニ於テ長官ハ事情ニ因リ判士ノ區別ヲ變更スルコトヲ得

第五十五條　被告人俘虜ナルトキハ第四十九條及第五十二條乃至前條ノ規定ニ準シ判士ヲ區別ス

第五十六條　二個以上ノ異ル官等、等級又ハ階級ヲ有スル被告人ニ付テハ其ノ最高キ官等、等級又ハ階級ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十七條　官等、等級又ハ階級ヲ異ニスル共同被告人ニ付テハ其ノ官等、等級又ハ階級ノ最高キ者ニ從ヒ判士ヲ區別ス

第五十八條　判士ノ區別ハ被告人ノ身分ニ異動アルモ官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ヲ除クノ外變更セラルルコトナシ

第五十九條　上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ハ原軍法會議ノ裁判官ヲ定メタル當時ノ被告人ノ身分ニ從フ但シ被告人官等、等級又ハ階級ノ高キ身分ヲ取得シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第百七十三條第三項、第四百十七條、第四百十八條、第四百三十八條又ハ第五百三十二條ノ決定ヲ爲ス場合ノ判士ノ區別ニ之ヲ準用ス

第六十條　上告、非常上告又ハ再審ノ審判ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判長ノ官等ハ原軍法會議ノ裁判長ヨリ下ルコトヲ得ス

第五章　豫審機關

第六十一條　豫審ハ豫審官之ヲ行フ

第六十二條　豫審官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十三條　特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六十四條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ豫審官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六章　檢察機關

第六十五條　海軍大臣ハ公訴及搜査ヲ指揮監督ス

第六十六條　長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件ニ付公訴ヲ指揮ス

長官ハ所管軍法會議ノ管轄ニ屬スル事件、之ト牽連スル事件及所管部隊內ノ犯罪事件ニ付搜査ヲ指揮ス

第六十七條　檢察官ハ長官ニ隷屬シ搜査ヲ爲シ公訴ヲ行フ

第六十八條　檢察官ハ法務官中ヨリ長官之ヲ命ス

第六十九條　長官ハ法務官試補ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十條　特設軍法會議及要港部軍法會議ニ於テハ長官ハ海軍ノ將校又ハ將校相當官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十一條　合圍地軍法會議ニ於テハ長官ハ合圍地境ニ在ル高等文官ヲシテ檢察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十二條　檢察官ハ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ搜査ノ補佐ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十三條　憲兵ノ將校、准士官又ハ下士ハ海軍司法警察官トシテ搜査ヲ爲ス

海軍大臣ハ所管ノ大臣ト協議シテ警察官中ヨリ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ヲ指定スルコトヲ得

第七十四條　部隊ノ長又ハ分隊長ハ其ノ部下ニ屬スル者及監督ヲ受クル者ノ犯罪ニ付海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ

第七十五條　部隊ノ長ハ部下ノ將校ニ委任シテ特定ノ事件ニ付海軍司法警察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十六條　海軍司法警察官又ハ海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ搜査ヲ爲スニ付上官ノ命令ニ從フ

第七十七條　警査又ハ憲兵卒ハ檢察官又ハ海

軍司法警察官ノ命令ヲ受ケ海軍司法警察吏トシテ搜査ノ補助ヲ爲ス

第七十三條第二項ノ規定ニ依リ指定セラレタル警察官ノ部下ニ屬スル巡査亦前項ニ同シ

第七十八條　檢察官ハ司法警察吏ヲシテ搜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第七十九條　海軍司法警察官ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ部下ヲシテ搜査ノ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二編　訴訟手續

第一章　總則

第一節　裁判官ノ除斥及回避

第八十條　長官ハ除斥ノ原由其ノ他正當ノ事由アリト認ムルトキハ裁判官ヲ變更スヘシ

第八十一條　裁判官職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合左ノ如シ

一　裁判官被害者ナルトキ

二　裁判官被告人又ハ被害者ノ配偶者、四親等内ノ血族、三親等内ノ姻族又ハ同居ノ戸主若ハ家族ナルトキ

三　裁判官被告人又ハ被害者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四　裁判官事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

五　裁判官事件ニ付被告人ノ代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキ

六　裁判官事件ニ付長官又ハ檢察官ノ職務ヲ行ヒタルトキ

七　裁判官事件ニ付搜査、豫審又ハ前審ニ干與シタルトキ

第八十二條　檢察官又ハ被告人ハ除斥ノ原由其ノ他裁判官ヲ變更スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スルコトヲ得

第八十三條　長官前條ノ具申ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ軍法會議ニ通知スヘシ

軍法會議前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ裁判官ノ變更ニ關シ通知ヲ受ケタル迄訴訟手續ヲ停止スヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十四條　裁判官自ラ除斥ノ原由其ノ他回避スヘキ正當ノ事由アリト思料スルトキハ其ノ旨ヲ長官ニ具申スヘシ

第八十五條　前五條ノ規定ハ豫審官及錄事ニ之ヲ準用ス

第八十六條　特設軍法會議ニ於テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二節　辯護及輔佐

第八十七條　被告人ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ獨立シテ辯護人ヲ選任スルコトヲ得

第八十八條　辯護人ハ左ニ記載シタル者ヨリ之ヲ選任スヘシ

一　海軍ノ將校又ハ將校相當官

二　海軍高等文官又ハ同試補

三　海軍大臣ノ指定シタル辯護士

第八十九條　辯護人ノ選任ハ審級毎ニ之ヲ爲スヘシ

辯護人ノ選任ハ辯護人ト連署シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第九十條　辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第九十一條　辯護人ハ軍法會議ニ於テ被告事件ニ關スル書類及證據物ヲ閲覽シ且其ノ書類ヲ謄寫スルコトヲ得

第九十二條　辯護人ハ別段ノ規定アル場合ニ限リ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得

第九十三條　前六條ノ規定ハ特設軍法會議ニ付テハ之ヲ適用セス

第九十四條　被告人ノ法定代理人、保佐人又ハ夫ハ公訴ノ提起アリタル後何時ニテモ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人タラムトスルトキハ審級毎ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

輔佐人ハ獨立シテ被告人ノ爲スコトヲ得ヘキ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　裁判

第九十五條　裁判ハ定數ノ裁判官評議シテ之ヲ爲ス但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條　裁判官ノ評議ハ之ヲ公行セス但シ法務官試補ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

裁判官ノ評議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顚末及各裁判官ノ意見ハ祕密トス

第九十七條　裁判官意見ヲ述フルノ順序ハ法務官ヲ始トス法務官二人ナルトキハ席次ノ低キ者ヲ始トス其ノ他ノ裁判官ニ在リテハ席次ノ最低キ者ヲ始トシ裁判長ヲ終トス

第九十八條　裁判ハ過半數ノ意見ニ依ル

裁判官ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被告人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第九十九條　裁判官ハ裁判スヘキ事項ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第百條　判決ハ口頭辯論ニ基キ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

決定ハ公判廷ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽キ之ヲ爲スヘシ其ノ他ノ場合ニ於テハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

命令ハ訴訟關係人ノ陳述ヲ聽カスシテ之ヲ爲スコトヲ得

決定又ハ命令ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ事實ノ取調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ取調ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百一條　裁判ニハ理由ヲ附スヘシ但シ決定又ハ命令ニハ理由ヲ附セサルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及其ノ事實ヲ認メタル理由竝法令ノ適用ヲ示スヘシ

第百二條　裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ノ送達ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三條　裁判ノ宣告ハ裁判長之ヲ爲スヘシ

判決ノ宣告ヲ爲スニハ主文及理由ヲ朗讀シ又ハ主文ノ朗讀ト同時ニ理由ノ要旨ヲ告クヘシ

第百四條　檢察官ノ執行指揮ヲ要スル裁判ヲ爲シタルトキハ速ニ裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ヲ檢察官ニ送付スヘシ

第百五條　裁判書又ハ裁判ヲ記載シタル調書ノ謄本又ハ抄本ハ被告人其ノ他訴訟關係人ノ請求ニ因リ之ヲ交付ス

前項ノ場合ニハ其ノ費用ヲ徴スルコトヲ得

第四節　書類

第百六條　訴訟ニ關スル書類ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外錄事之ヲ調製スヘシ

第百七條　裁判官、豫審官又ハ檢察官ハ錄事ノ作リタル書類ニ付意見アルトキハ錄事ニ命シ之ヲ變更セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ錄事ハ自己ノ意見ヲ書類ニ附記スルコトヲ得

第百八條　被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ取調ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　被告人、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ニ對スル訊問及其ノ供述

二　證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ錄事ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閲覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者增減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第百九條　檢證、押收又ハ搜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作リ之ヲ調書ニ添附スヘシ

第百十條　前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者錄事ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ軍法會議取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判官タル法務官錄事ト共ニ署名捺印スルヲ以テ足ル

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

第百十一條　錄事ノ立會ナクシテ取調又ハ處分ヲ爲ス場合ニ於テハ錄事ノ行フヘキ職務ハ其ノ取調又ハ處分ヲ爲ス者自ラ之ヲ行フヘシ

第百十二條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ニ付テハ公判調書ヲ作ルヘシ

公判調書ニハ左ノ事項其ノ他重要ナル訴訟手續ヲ記載スヘシ

一　公判ヲ爲シタル軍法會議及年月日

二　裁判官、檢察官及錄事ノ官氏名竝被告人、代理人、辯護人、輔佐人及通事ノ氏名

三　被告人出頭セサリシトキハ其ノ旨

四　辯論ノ公開ヲ禁シタルトキハ其ノ旨及理由

五　被告事件ノ陳述其ノ他辯論ノ要旨

六　第百八條第二項ニ記載シタル事項

七　朗讀シタル書類及要旨ヲ告ケタル書類

八　被告人ニ示シタル證據物

九　公判廷ニ於テ爲シタル檢證及押收

十　裁判長ヨリ記載ヲ命シタル事項及訴訟關係人ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項

十一　辯論ノ最終ニ被告人又ハ辯護人ヲシテ陳述ヲ爲サシメタルコト

十二　判決其ノ他ノ裁判ヲ爲シタルコト

第百十三條　公判調書ニ付テハ第百八條第三項乃至第五項ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スコトヲ要セス

第百十四條　公判調書ハ公判開廷ノ日ヨリ五日内ニ之ヲ整理スヘシ

第百十五條　公判調書ニハ裁判官タル法務官錄事ト共ニ署名捺印スヘシ

法務官二人ナルトキハ上席者署名捺印シ上席者差支アルトキハ他ノ法務官署名捺印スヘシ

法務官差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

錄事差支アルトキハ前三項ノ規定ニ依リ署名捺印スル者其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第百十六條　公判期日ニ於ケル訴訟手續ハ公判調書ノミニ依リ之ヲ證明スルコトヲ得

第百十七條　裁判ヲ爲ストキハ裁判書ヲ作ルヘシ但シ決定又ハ命令ヲ宣告スル場合ニ於テハ裁判書ヲ作ラスシテ之ヲ調書ニ記載セシムルコトヲ得

第百十八條　裁判書ハ裁判官之ヲ作ルヘシ

第百十九條　裁判書ニハ裁判官署名捺印スヘシ裁判長署名捺印スルコト能ハサルトキハ上席ノ裁判官其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印シ他ノ裁判官署名捺印スルコト能ハサルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺印スヘシ

第百二十條　裁判書ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判ヲ受クル者ノ氏名、年齡、職業及住居ヲ記載スヘシ

判決書ニハ前項ニ記載シタル事項ノ外公判ニ干與シタル檢察官ノ官氏名ヲ記載スヘシ

第百二十一條　裁判書ノ謄本又ハ抄本ハ原本ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第百二十二條　前四條ノ規定ハ豫審官裁判ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百二十三條　官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ

書類ニハ毎葉ニ契印スヘシ

第百二十四條　官吏又ハ公吏書類ヲ作ルニハ文字ヲ改竄スヘカラス挿入、削除又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印シ其ノ字數ヲ記載スヘシ削除シタル部分ハ讀ミ得ヘキ爲字體ヲ存スヘシ

第百二十五條　官吏及公吏ニ非サル者ノ作ルヘキ書類ニハ年月日ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第百二十六條　官吏及公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名スルコト能ハサルトキハ他人ヲシテ代署セシメ捺印スルコト能ハサルトキハ花押又ハ拇印スヘシ

他人ヲシテ代署セシメタル場合ニ於テハ代署シタル者其ノ事由ヲ記載シテ署名捺印スヘシ

第百二十七條　特設軍法會議ニ於テ審判スヘキ事件ノ書類ニ付テハ本節ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第五節　送達

第百二十八條　送達ハ錄事送達吏ヲシテ之ヲ爲サシム但シ海軍司法警察官ノ發スル書類ノ送達ハ其ノ書類ヲ作リタル者之ヲ爲サシム

第百二十九條　送達吏ハ海軍司法警察吏ヲ以テ之ニ充ツ

送達ハ郵便ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以テ送達吏ト爲ス

第百三十條　送達ハ之ヲ施行スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記又ハ之ニ相當スル官署ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條　軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對スル送達ハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第一條又ハ陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル者ニシテ前項ニ記載シタル以外ノ場所ニ在ル者ニ對スル送達ハ其ノ所屬ノ長若ハ監督者又ハ之ニ代ルヘキ者ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル送達ハ書類ヲ本人ニ交付シタル旨ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

第百三十二條　第一條及陸軍軍法會議法第一條ニ記載シタル以外ノ者被告人、代理人、辯護人又ハ輔佐人ト爲リタルトキハ書類ノ送達ヲ受クル爲書面ヲ以テ其ノ住居又ハ事務所ヲ軍法會議ニ屆出ツヘシ軍法會議所在地ニ住居及事務所ヲ有セサルトキハ其ノ所在地ニ住居又ハ事務所ヲ有スル者ヲ送達受取人ニ選任シ其ノ旨及送達受取人ノ住居又ハ事務所ヲ其ノ者ト共ニ書面ヲ以テ屆出ツヘシ

前項ノ規定ハ在監者ニ付之ヲ適用セス

送達受取人ハ送達ヲ受クヘキ本人ト看做シ送達受取人ノ住居又ハ事務所ハ本人ノ住居又ハ事務所ト看做ス

第百三十三條　前條第一項ノ規定ニ依ル屆出ヲ爲スヘキ者其ノ屆出ヲ爲ササルトキハ交付スヘキ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得

前項ノ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第百三十四條　檢察官ニ對スル送達ハ書類ヲ其ノ所屬官廳ニ送付シテ之ヲ爲ス

第百三十五條　被告人ノ現在地知レサルトキハ公示送達ヲ爲スコトヲ得

被告人裁判權ノ及ハサル場所ニ在ル爲他ノ方法ヲ以テ送達ヲ爲スコト能ハサルトキ亦前項ニ同シ

第百三十六條　公示送達ハ軍法會議ノ指揮アリタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

公示送達ハ交付スヘキ書類又ハ其ノ抄本ヲ軍法會議ノ掲示場ニ公示シテ之ヲ爲ス

公判ニ於ケル第一回ノ召喚狀ノ公示送達ハ召喚狀ヲ軍法會議ノ掲示場ニ公示シ且其ノ謄本ヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載シテ之ヲ爲ス

前項ノ公示送達ハ最後ニ官報又ハ新聞紙ニ掲載シタル時ヨリ三十日其ノ他ノ公示送達ハ掲示場ニ公示シタル時ヨリ七日ノ期間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第百三十七條　送達ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外民事訴訟法ヲ準用ス

第六節　期間

第百三十八條　期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ之ヲ起算シ日、月又ハ年ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス但シ時效期間ノ初日ハ時間ヲ論セス一日トシテ之ヲ計算ス

月及年ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

期間ノ末日日曜日、一月一日二日四日、十二月二十九日三十日三十一日、一般ノ休日トシテ指定セラレタル大祭日若ハ祝日又ハ海軍一般ノ休日ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入セス但シ時效期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第百三十九條　法定ノ期間ハ訴訟行爲ヲ爲スヘキ者ノ住居地ト軍法會議所在地トノ距離

ニ從ヒ海陸路二十里每ニ一日ヲ加フ二十里ニ滿タサルモ五里以上ナルトキ亦同シ但シ海路ハ二海里ヲ一里トシテ之ヲ計算ス

外國又ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲ニハ特ニ期間ヲ定ムルコトヲ得

第七節　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第百四十條　軍法會議公訴ヲ受ケタルトキハ被告人ヲ召喚スヘシ

第百四十一條　被告人ノ召喚ハ召喚狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

被告人期日ニ出頭スヘキ旨ヲ記載シタル書面ヲ差出シ又ハ出廷シタル被告人ニ對シ口頭ヲ以テ次回ノ出頭ヲ命シタルトキハ召喚狀ヲ送達シタルト同一ノ效力ヲ有ス口頭ヲ以テ出頭ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル被告人ノ召喚ハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ被告人廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ヨリ通知ヲ受ケタル時ヲ以テ召喚狀ノ送達アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ軍法會議ニ近接スル監獄ニ在ル被告人ヲ召喚スル場合ニ之ヲ準用ス

第百四十二條　召喚ヲ受ケタル被告人期日ニ出頭セサルトキハ更ニ之ヲ召喚シ又ハ之ヲ勾引スルコトヲ得

第百四十三條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一　軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二　被告人逃走シタルトキ又ハ逃走スル虞アルトキ

三　被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

四　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

第百四十四條　被告人ノ勾引ハ勾引狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第百四十五條　勾引シタル被告人ハ軍法會議ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ之ヲ訊問スヘシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セサルトキハ被告人ヲ釋放スヘシ

第百四十六條　第百四十三條ニ記載シタル事由アルトキハ被告人ヲ勾留スルコトヲ得但シ被告人監獄ニ在ルトキハ其ノ事由ナシト雖之ヲ勾留スルコトヲ得

前項ノ規定ハ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第百四十三條第四號ノ場合ヲ除クノ外之ヲ適用セス

被告人ノ勾留ハ訊問シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ第百四十三條第一號ノ場合及被告人逃走シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百四十七條　被告人ノ勾留ハ勾留狀ヲ發シテ之ヲ爲スヘシ

第百四十八條　裁判長ハ急速ヲ要スル場合ニ於テハ第百四十條乃至前條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第百四十九條　裁判長ハ被告人現在地ノ豫審官、檢察官、海軍司法警察官、豫審判事、區裁判所判事、檢事、司法警察官又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ被告人ノ勾引ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ更ニ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得但シ海軍司法警察官及司法警察官ハ此ノ限ニ在ラス

囑託又ハ移送ヲ受ケタル官署ハ勾引狀ヲ發スヘシ

第百五十條　被告人ノ現在地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ裁判長ハ檢事長又ハ之ニ相當スル官署ニ被告人ノ人相書ヲ送付シ其ノ搜查及勾引ヲ囑託スルコトヲ得

囑託ヲ受ケタル官署ハ其ノ管轄區域內ノ檢事又ハ相當官署ヲシテ勾引狀ヲ發シ搜查及勾引ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第百五十一條　前二條ノ場合ニ於テ囑託ニ因リ勾引狀ヲ發シタル官署ハ被告人ヲ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ其ノ人違ナキカ否ヲ取調フヘシ

被告人人違ニ非サルトキハ速ニ之ヲ指定セラレタル軍法會議ニ送致スヘシ此ノ場合ニ於テハ第百四十五條ノ期間ハ被告人ノ送致ヲ受ケタル時ヨリ之ヲ起算ス

第百五十二條　召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ニハ被告事件竝被告人ノ氏名及住居ヲ記載シ裁判長又ハ受命裁判官之ニ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テ被告人ノ住居分明ナラサルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス其ノ氏名分明ナラサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テ被告人ヲ指示スヘシ

召喚狀ニハ被告人ノ出頭スヘキ年月日時及場所竝召喚ニ應セサルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルヘキ旨ヲ記載スヘシ

勾留狀ニハ被告人ヲ勾留スヘキ監獄ヲ指定スヘシ

第百四十八條ノ規定ニ依リ召喚狀、勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第百五十三條　前條第一項及第二項ノ規定ハ第百四十九條第四項ノ規定ニ依リ豫審官、檢察官又ハ海軍司法警察官ノ發スル勾引狀ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ勾引狀ニ囑託ヲ爲シタル裁判長ノ氏名及其ノ囑託ニ因リ之ヲ發スル旨ヲ記載スヘシ

第百五十四條　召喚狀ハ之ヲ送達ス

第百五十五條　勾引狀又ハ勾留狀ハ檢察官ノ指揮ニ依リ海軍司法警察官吏之ヲ執行ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ裁判長、受命裁判官又ハ豫審官其ノ執行ヲ指揮スルコトヲ得

監獄ニ在ル被告人ニ對シテ發シタル勾留狀ハ監獄官吏之ヲ執行ス

勾引狀又ハ勾留狀ハ必要アルトキハ海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第百五十六條　勾引狀ハ數通ヲ作リ之ヲ海軍司法警察官吏、海軍ノ下士官若ハ兵又ハ司法警察官吏數人ニ交付スルコトヲ得

第百五十七條　海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄地外ニ於テ勾引狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムルコトヲ得

第百五十八條　勾引狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シ指定セラレタル軍法會議ニ引致スヘシ

第百四十九條第四項及第百五十條第二項ノ場合ニ於テハ勾引狀ヲ發シタル官署ニ引致スヘシ

勾留狀ヲ執行スルニハ之ヲ被告人ニ示シ指定セラレタル監獄ニ引致スヘシ

第百五十九條　軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舍又ハ艦船ノ內ニ在ル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ廳舍若ハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

軍事用ノ廳舍及艦船ノ外ニ在リテ現ニ陸海軍ノ勤務ニ從事スル者ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スヘキ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ勾引狀又ハ勾留狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムヘシ

第百六十條　軍法會議ハ必要アルトキハ決定ヲ以テ指定ノ場所ニ被告人ノ出頭又ハ同行ヲ命スルコトヲ得被告人正當ノ事由ナクシテ之ヲ肯セサルトキハ其ノ場所ニ勾引スルコトヲ得

第百六十一條　勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ護送スル場合ニ於テ必要アルトキハ假ニ最寄ノ監獄ニ之ヲ留置スルコトヲ得

第百六十二條　勾引狀ノ執行ヲ受ケタル被告人ヲ引致シタル場合ニ於テ必要アルトキハ之ヲ監獄ニ留置スルコトヲ得

第百六十三條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シ記名捺印スヘシ

勾引狀又ハ勾留狀ノ執行ニ關スル書類ハ之ヲ檢察官又ハ執行ヲ指揮シタル官署ニ差出スヘシ

勾引狀ノ執行ニ關スル書類ヲ受取リタル檢察官其ノ他ノ官署ハ被告人ノ引致セラレタル年月日時ヲ勾引狀ニ記載スヘシ

第百六十四條　檢察官ハ勾留セラレタル被告人ヲ他ノ監獄ニ移スコトヲ得

第百六十五條　勾留セラレタル被告人ハ法令ノ範圍內ニ於テ他人ト接見シ又ハ書類若ハ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得勾引狀ニ因リ監獄ニ留置セラレタル被告人亦同シ

第百六十六條　軍法會議ハ罪證ヲ湮滅シ、逃走シ又ハ軍事上ノ機密ヲ漏泄スル虞アルトキハ勾留セラレタル被告人ト他人トノ接見ヲ禁シ又ハ他人ト授受スヘキ書類若ハ物ヲ查閱シ又ハ其ノ授受ヲ禁シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

軍法會議書類又ハ物ノ查閱ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢察官之ヲ爲スコトヲ得

第百六十七條　勾留ノ原由消滅シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留ヲ取消スヘシ

第百六十八條　勾留セラレタル被告人第一條第一項第一號、第四號及陸軍軍法會議法第一條第一項第一號、第四號ニ記載シタル以外ノ者ナルトキハ被告人又ハ其ノ法定代理人、保佐人若ハ夫ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第百六十九條　保釋ノ請求アリタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ保證金額ヲ定ムヘシ

保釋ヲ許ス場合ニ於テハ被告人ノ住居ヲ制限スルコトヲ得

第百七十條　保釋ヲ許ス決定ハ保證金ヲ差出シタル後之ヲ執行スヘシ

檢察官ハ保釋請求者ニ非サル者ヲシテ保證金ヲ差出サシムルコトヲ得

檢察官ハ有價證券又ハ軍法會議ノ所在地ニ住居シ保證金ヲ納ムルニ十分ナル資產ヲ有スル者ノ保證書ヲ以テ保證金ニ代フルコトヲ許スコトヲ得

前項ノ保證書ニハ保證金額及何時ニテモ保證金ヲ納ムヘキ旨ヲ記載スヘシ

第百七十一條　軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ勾留セラレタル被告人ヲ責付スルコトヲ得

責付ハ被告人部隊內居住者ナルトキハ其ノ所屬部隊ノ長ニ之ヲ爲シ部隊內居住者ニ非サルトキハ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ爲スヘシ

部隊內居住者ニ非サル者ヲ責付スルニハ親族其ノ他ノ者ヨリ何時ニテモ召喚ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ旨ノ書面ヲ差出サシムヘシ

第百七十二條　被告人部隊內居住者ニ非サルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百七十三條　軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ決定ヲ以テ保釋、責付又ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

保釋中被告人召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス、住居ノ制限ニ違反シ又ハ逃走シタル爲保釋ヲ取消ス場合ニ於テハ軍法會議ハ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

保釋セラレタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ判決確定シタル後執行ノ爲召喚ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セス又ハ逃走シタルトキハ軍法會議ハ檢察官ノ請求ニ因リ決定ヲ以テ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒取スヘシ

第百七十四條　勾留若ハ保釋ヲ取消シ又ハ勾留狀ノ效力消滅シタルトキハ檢察官ハ沒取ニ係ラサル保證金ヲ還付スヘシ

第百七十五條　上告提起期間內又ハ上告中ノ事件ニ付勾留ヲ取消シ保釋、責付若ハ勾留ノ執行停止ヲ爲シ又ハ之ヲ取消スヘキ場合ニ於テハ原軍法會議其ノ決定ヲ爲スヘシ

第百七十六條　豫審官ハ被告人ノ召喚、勾引及勾留ニ關シ軍法會議又ハ裁判長ト同一ノ權ヲ有ス

第百七十七條　左ノ場合ニ於テ被告事件急速ノ處分ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハサルトキハ檢察官又ハ海軍司法警察官ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

一　軍紀ヲ保持スル爲必要アルトキ

二　現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ラサルトキ

三　現行犯ノ取調ニ因リ其ノ事件ノ共犯ヲ發見シタルトキ

四　死體ノ檢證ニ因リ其ノ事件ノ被告人ヲ發見シタルトキ

五　既決ノ囚人又ハ法令ニ依リ拘禁セラレタル被告人逃走シタルトキ

六　被告人強盜又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノナルトキ

七　被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

前項ノ規定ニ依リ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ル場合ニ於テハ檢察官ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ囑託シ海軍司法警察官ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ命令シ又ハ囑託スルコトヲ得

第百七十八條　檢察官、海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏其ノ職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ被告人其ノ場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第百四十三條各號ニ記載シタル事由アルトキハ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一　檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ直ニ被告人ヲ逮捕シ又ハ其ノ逮捕ヲ海軍司法警察吏又ハ司法警察吏ニ命スヘシ

二　海軍司法警察吏又ハ司法警察吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ被告人ヲ逮捕スヘシ

第百七十九條　現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ

第百八十條　海軍司法警察吏又ハ司法警察吏被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ニ引致スヘシ

海軍司法警察吏又ハ司法警察吏被告人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ到ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百八十一條　司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百八十二條　海軍司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ留置ノ必要アリト思料スルトキハ遲クトモ三日內ニ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官又ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

第百八十三條　檢察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ遲クトモ二十四時間內ニ訊問シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ直ニ釋放スヘシ被告事件急速ヲ要シ軍法會議又ハ豫審官ノ勾留狀ヲ求ムル能ハサル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ勾留狀ヲ發スヘシ但シ五百圓ヲ超過セサル罰金、拘留又ハ科料ニ該ルヘキ事件ニ付テハ第百七十七條第一項第七號ノ場合ヲ除クノ外勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

檢察官勾留狀ヲ發シタルトキハ速ニ長官ニ搜查ノ報告ヲ爲シ又ハ書類及證據物ト共ニ被告人ヲ管轄軍法會議ノ檢察官若ハ相當官署ニ送致スル手續ヲ爲スヘシ

檢察官他ノ檢察官ヨリ被告人ヲ受取リタルトキハ前二項ノ規定ニ準シ處分スヘシ但シ留置ノ必要ナシト思料スルトキハ勾留ヲ取消スヘシ

第百八十四條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ノ物ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ、犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯ノ被告人其ノ場所ニ在リタルモノト看做ス

第百八十五條　第百七十七條以下ノ場合ニ於

ケル勾引又ハ勾留ニ付テハ第百五十一條乃至第百五十三條及第百五十五條乃至第百六十四條ノ規定ヲ準用ス

第八節　被告人訊問

第百八十六條　被告人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキコトヲ確ムルニ足ルヘキ事項ヲ訊問スヘシ

第百八十七條　被告人ニ對シテハ被告事件ヲ告ケ其ノ事件ニ付陳述スヘキコトアリヤ否ヲ問ヒ其ノ利益ト爲ルヘキ事實ヲ陳述スル機會ヲ與フヘシ

第百八十八條　被告人ニ對シテ訊問ヲ爲ストキハ錄事ヲシテ立會ハシムヘシ但シ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官訊問ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百八十九條　事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

第百九十條　被告人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルコトヲ得

第九節　押收及搜索

第百九十一條　軍法會議ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外證據物又ハ沒收スヘキ物ト思料スルモノハ之ヲ差押フヘシ

軍法會議ハ差押フヘキ物ヲ指定シ所有者、所持者又ハ保管者ニ其ノ物ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第百九十二條　軍法會議ハ被告人ヨリ發シ又ハ被告人ニ對シテ發シタル郵便物又ハ電報及其ノ類信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ニ記載シタル以外ノ郵便物又ハ電報及其ノ類信紙ニシテ通信事務ヲ取扱フ官署其ノ他ノ者ノ保管又ハ所持スルモノハ被告事件ニ關係アリト思料スルニ足ルヘキ狀況アルモノニ限リ之ヲ差押ヘ又ハ之ヲ提出セシムルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ發信人又ハ受信人ニ通知スヘシ但シ通知ニ因リ審理ヲ妨クル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百九十三條　軍法會議ハ被告人其ノ他ノ者ノ遺留シタル物又ハ所有者、所持者若ハ保管者ニ於テ任意ニ提出シタル物ヲ領置スルコトヲ得

第百九十四條　軍法會議ハ必要アルトキハ被告人ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ就キ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體、物又ハ住居其ノ他ノ場所ニ付テハ押收スヘキ物ノ存在ヲ認知スルニ足ルヘキ狀況アル場合ニ限リ搜索ヲ爲スコトヲ得

第百九十五條　押收又ハ搜索ニ付テハ鎖鑰又ハ封緘ノ開披其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得押收物ニ付亦同シ

第百九十六條　軍事上祕密ヲ要スル場所ニ於テハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十七條　公務員又ハ公務員タリシ者ノ保管又ハ所持スル物ニ付本人又ハ當該公務所ヨリ職務上ノ祕密ニ關スルモノナルコトヲ申立ツルトキハ當該監督官廳ノ承諾アルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス但シ當該監督官廳ハ帝國ノ安寧ヲ害スル場合ヲ除クノ外承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

國務大臣、宮內大臣、內大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計檢査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、敎育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リシ者其ノ保管又ハ所持スル物ニ付前項ノ申立ヲ爲ストキハ勅許ヲ得ルニ非サレハ押收ヲ爲スコトヲ得ス

第百九十八條　醫師、齒科醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人、宗敎若ハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者ハ業務上委託ヲ受ケタル爲所持スル物ニシテ他人ノ祕密ニ關スルモノニ付押收ヲ拒ムコトヲ得但シ本人承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百九十九條　軍法會議ハ押收スヘキ物又ハ搜索スヘキ場所、身體若ハ物ヲ指定シタル命令狀ヲ發シ海軍司法警察官又ハ司法警察官ヲシテ押收又ハ搜索ヲ爲サシムルコトヲ得

命令狀ニハ押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シ裁判長之ニ記名捺印スヘシ

命令狀ハ處分ヲ受クル者ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第二百條　海軍司法警察官又ハ司法警察官前條第一項ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ其ノ被告事件ニ關スル他ノ證據物ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得

第二百一條　海軍司法警察官又ハ司法警察官前二條ノ規定ニ依リ押收又ハ搜索ヲ爲シタルトキハ檢察官ヲ經テ之ニ關スル書類及押收物ヲ軍法會議ニ差出スヘシ

第二百二條　軍法會議押收又ハ搜索ヲ爲スニ當リ他ノ犯罪ニ關スル顯著ナル證據物ヲ發見シタルトキハ假ニ之ヲ押收シテ檢察官ニ送付スルコトヲ得

檢察官前項ノ規定ニ依リ押收シタル物ヲ留置スル必要ナシト思料スルトキハ之ヲ還付スヘシ

第二百三條　押收又ハ搜索ハ受命裁判官ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ處分ヲ爲スヘキ地ノ豫審官、豫審判事、區裁判所判事又ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得

受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セサルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送スルコトヲ得

受命裁判官又ハ受託豫審官ハ押收又ハ搜索ヲ爲スニ付軍法會議ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第百九十二條第三項ノ通知ハ軍法會議之ヲ爲スヘシ

第二百四條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ押收又ハ搜索ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前押收又ハ搜索ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第二百五條　左ノ場所ニ付テハ前條第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

一　賭博、富籤又ハ風俗ヲ害スル行爲ニ常用セラルルモノト認ムヘキ場所

二　旅店、飲食店其ノ他夜間ト雖公衆ノ出入スルコトヲ得ヘキ場所但シ公開シタル時間內ニ限ル

第二百六條　官署、公署又ハ軍艦、兵營其ノ他軍事用ノ廳舍若ハ艦船ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ其ノ長又ハ之ニ代ルヘキ者ニ通知シテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ

前項ノ場合ヲ除クノ外人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ノ內ニ於テ押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムヘシ此等ノ者ヲシテ立會ハシムルコト能ハサルトキハ隣人又ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百七條　檢察官、被告人又ハ辯護人ハ押收又ハ搜索ノ處分ニ立會フコトヲ得但シ拘禁セラレタル被告人ハ此ノ限ニ在ラス

押收又ハ搜索ノ處分ヲ爲スニ付必要アルトキハ被告人ヲシテ其ノ處分ニ立會ハシムルコトヲ得

第二百八條　押收又ハ搜索ヲ爲スヘキ日時及場所ハ豫メ前條ノ規定ニ依リ其ノ處分ニ立會フコトヲ得ヘキ者ニ之ヲ通知スヘシ但シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二百九條　押收又ハ搜索ヲ爲スニ付必要アルトキハ海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ヲシテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百十條　押收又ハ搜索ノ處分中ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルコトヲ禁止スルコトヲ得

前項ノ禁止ニ從ハサル者ハ之ヲ退去セシメ又ハ處分ヲ終ル迄之ヲ留置スルコトヲ得

第二百十一條　押收又ハ搜索ノ處分ヲ中止スル場合ニ於テ必要アルトキハ其ノ場所ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ

第二百十二條　押收ヲ爲シタル場合ニ於テ所有者、所持者若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求アリタルトキハ品目ヲ記載シタル調書又ハ目錄ノ謄本又ハ抄本ヲ之ニ交付スヘシ

第二百十三條　押收物ニ付テハ喪失又ハ毀損ヲ防ク爲相當ノ處置ヲ爲スヘシ

運搬又ハ保管ニ不便ナル押收物ニ付テハ看守者ヲ置キ又ハ所有者其ノ他ノ者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

危害ヲ生スル虞アル押收物ハ之ヲ廢棄スルコトヲ得

第二百十四條　沒收スルコトヲ得ヘキ押收物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ保管ニ不便ナルモノハ之ヲ公賣シテ其ノ代價ヲ保管スルコトヲ得

第二百十五條　押收物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ還付スヘシ

押收物ハ所有者、所持者、保管者又ハ差出人ノ請求ニ因リ檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ假ニ之ヲ還付スルコトヲ得

第二百十六條　押收シタル贓物ニシテ留置ノ必要ナキモノハ被害者ニ還付スヘキ理由明瞭ナルトキニ限リ被告事件ノ終結ヲ待タス檢察官ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ之ヲ被害者ニ還付スヘシ

前項ノ規定ハ民事訴訟ノ手續ニ從ヒ利害關係人ヨリ其ノ權利ヲ主張スルコトヲ妨ケス

第二百十七條　押收又ハ搜索ヲ爲ストキハ錄事ヲシテ立會ハシムヘシ

第二百十八條　豫審官ハ押收及搜索ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百十九條　檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第百七十八條又ハ第百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ押收若ハ搜索ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官又ハ司法警察官押收ヲ爲シタル場合ニ於テ留置ノ必要アリト思料スルトキハ速ニ押收物ヲ檢察官ニ送付スヘシ但シ第二百十三條第二項又ハ第三項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ檢察官ニ通知スヘシ

第二百二十條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ押收又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百二十一條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルニ付急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ之ヲ搜索スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百六條第二項ノ規定ニ依ルコトヲ要セス

檢察官、海軍司法警察官吏又ハ司法警察官吏現行犯ノ被告人ヲ逮捕スル爲追行シタル場合ニ於テ被告人人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ進入リタルトキ亦前項ニ同シ

第二百二十二條　勾引狀又ハ勾留狀ヲ執行スル場合ニ於テ必要アルトキハ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ入リ搜索ヲ爲スコトヲ得但シ第百七十七條第一項第一號又ハ第三號乃至第六號ノ規定ニ依リ發シタル勾引狀ヲ執行スル場合ニ於テハ前條ノ例ニ依ル

第二百二十三條　檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ノ爲ス押收及搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第百九十一條乃至第百九十八條、第二百二條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條乃至第二百十六條ノ規定ヲ準用ス

海軍司法警察吏、下士官若ハ兵又ハ司法警察吏ノ爲ス搜索ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第百九十五條、第百九十六條、第二百四條乃至第二百六條及第二百十條ノ規定ヲ準用ス

第十節　檢證

第二百二十四條　軍法會議ハ事實發見ノ爲必要アルトキハ檢證ヲ爲スヘシ

第二百二十五條　檢證ニ付テハ身體ノ檢査、死體ノ解剖、墳墓ノ發掘其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

被告人ニ非サル者ノ身體ノ檢査ハ一定ノ證跡ノ存否ヲ確認スルニ必要ナル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二百二十六條　日出前、日沒後ニハ住居主若ハ保管者又ハ之ニ代ルヘキ者ノ承諾アルニ非サレハ檢證ノ爲人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ニ入ルコトヲ得ス但シ猶豫スヘカラサル場合又ハ日出後ニ於テハ檢證ノ目的ヲ達スルコト能ハサル虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日沒前檢證ニ著手シタルトキハ日沒後ト雖其ノ處分ヲ繼續スルコトヲ得

第二百五條ニ記載シタル場所ニ付テハ第一項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

第二百二十七條　檢證ニ付テハ第百九十六條、第二百三條、第二百六條乃至第二百十一條及第二百十七條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十八條　豫審官ハ檢證ニ關シ軍法會議ト同一ノ權ヲ有ス

第二百二十九條　檢察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十三條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ檢察官、海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

海軍司法警察官ハ第百七十七條、第百七十八條又ハ第百八十二條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ海軍司法警察官若ハ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

司法警察官ハ第百七十八條又ハ第百八十一條ノ場合ニ於テ急速ヲ要スルトキハ豫審請求前又ハ公訴提起前ニ限リ檢證ヲ爲シ又ハ之ヲ他ノ司法警察官ニ命令シ若ハ囑託スルコトヲ得

第二百三十條　人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ艦船ノ內ニ現行犯アル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ檢察官、海軍司法警察官又ハ司法警察官ハ何時ニテモ其ノ場所ニ入リ檢證ヲ爲スコトヲ得

第二百三十一條　變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル者ナルトキハ部隊內ニ於テハ部隊ノ長、其ノ他ノ場所ニ於テハ檢察官又ハ海軍司法警察官檢視ヲ爲スヘシ

變死人又ハ變死人ト思料スヘキ者第一條ニ記載シタル以外ノ者ナルトキト雖部隊內ニ於テ死體ヲ發見シタル場合ニ於テハ部隊ノ長又ハ分隊長檢視ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ部隊ノ長ハ檢察官又ハ海軍司法警察官ニ檢視ヲ囑託スルコトヲ得

檢視ニ因リ犯罪アルコトヲ發見シタル場合ニ於テ急速ノ處分ヲ要スルトキハ引續キ檢證ヲ爲スコトヲ得

第一項乃至第三項ノ規定ハ他ノ法令ニ依ル檢視ヲ妨ケス